

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅴ

境 塚 遺 跡

2 0 1 2

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅴ

さかい づか
境 塚 遺 跡

2 0 1 2

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団



中世の居館跡（A区 西から 奥は五頭山地）



SE1007出土 井戸側部材と曲物

序

一般国道 49 号は、新潟市と福島県いわき市の間の 249km、日本海側と太平洋側を結ぶ主要幹線路としての役割を担っています。また、日常生活や地域経済を支える重要な基盤施設でもあるため、近年、著しく交通量が増えてきました。それに伴い、交通渋滞や交通事故の増加など生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市下黒瀬から六野瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設は、これらの問題を解消し、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと期待されています。

本書は、この阿賀野バイパスの建設に先立ち、平成 21 年度に実施した境塚遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、中世の大規模な遺跡であることが明らかになりました。A 区では、方形に巡ると見られる堀で囲まれた居館から大型戸戸や掘立柱建物が検出されました。また、輸入陶磁器では県内で 3 例目となる中国天目や青磁瓜形合子など貴重な遺物も出土しており、有力者の存在もうかがわれます。D 区では、水原市街と旧百津潟とを結ぶ幅約 6m の大きな道が見つかりました。潟湖河川交通の要衝に位置する境塚遺跡は、幹線道路を備えた中世百津潟の拠点的な町場であったと考えられます。

今回の調査結果が地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御支援を賜った阿賀野市教育委員会、ならびに地域住民の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長 武藤克己

例 言

- 1 本書は、新潟県阿賀野市大字百字字境塚 16 番地 1 ほかにある「境塚遺跡」の発掘調査記録である。
- 2 本調査は一般国道 49 号阿賀野バイパスの建設に伴い、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、発掘調査は調査主体である県教委が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、2009 年に実施したものである。埋文事業団は発掘調査作業、整理作業、および関連諸工事について株式会社帆苺組の支援を受けて調査を行った。調査面積は、18,176㎡である。
- 3 出土遺物及び調査に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。
- 4 遺物の注記は調査年度の下二桁を頭に付し「09 サカイ」とし、出土地点・遺構名・層位名を続けて記入した。
- 5 本書の図中で示す方位は、全て真北である。
- 6 遺構番号は種別に係わり無く通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 7 引用文献は、著者及び発行（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 8 調査成果の一部は、現地説明会、広報誌『埋文にいがた』No.69、新潟県埋蔵文化財調査事業団年報（2010 年度）で公開しているが、本書の記述をもって正式な報告とする。
- 9 次に示す項目は、機関・個人に分析を委託した。
 - 第Ⅶ章 1 境塚遺跡出土木材の樹種同定 株式会社パレオ・ラボ（小林克也・藤根 久）
 - 第Ⅶ章 2 境塚遺跡出土骨の同定 株式会社パレオ・ラボ（中村賢太郎）
 - 第Ⅶ章 3 境塚遺跡出土木材の放射性炭素年代測定 株式会社パレオ・ラボ（伊藤 茂・尾崎大真・丹生越子・廣田正史・小林絃一・ZaurLomtadize・InezaJorjoliani・藤根 久）
 - 第Ⅶ章 4 境塚遺跡出土の曲物 6 点の年輪年代 総合地球環境学研究所 奈良文化財研究所（光谷拓実）
 - 第Ⅶ章 5 境塚遺跡出土の井戸材の年輪解析 福島大学共生システム理工学類（木村勝彦・荒木里菜）
- 10 遺構断面図のトレース及び各種図版作成・編集は株式会社セブアスに委託した。
- 11 本書の執筆は、荒川隆史（埋文事業団 班長）、村上章久、安西雅希、高橋 均（株式会社帆苺組）があたり、編集は荒川が担当した。執筆分担は以下のとおりである。
 - 荒川：第Ⅰ章 1、2B・2D、3、第Ⅱ章 1・2B、第Ⅲ章 3、第Ⅳ章 1・2A・2B・2C・2D、3A、4B1）、
第Ⅴ章 1・2A・2B、3A、4B1）、第Ⅵ章、第Ⅷ章 1・2C・3
 - 村上：第Ⅰ章 2C1）・2）、第Ⅲ章 1・2、第Ⅳ章 2E・2F、3B・3C、4A・4B2）、
第Ⅴ章 2C・2D・2E・2F・2G、3B・3C、4A・4B2）、第Ⅷ章 2A・2B
 - 安西：第Ⅰ章 2A・2C3）、第Ⅱ章 2A
 - 荒川・高橋：第Ⅳ章 3D
- 12 発掘調査から本書に至るまで、下記の方々から多くの御教示・御協力を得た。厚くお礼申し上げます。
阿賀野市土地改良区 阿賀野市教育委員会 阿賀野市建設課 国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所
新潟県立図書館 新潟県立歴史博物館 吉田東伍記念博物館
卜部 厚志 遠藤慎之介 品田 高志 齋藤 一樹 中山 俊道 古澤 要史 前嶋 敏
水澤 幸一 向井 裕知 山田 昌久 横山 勝栄 渡部 浩二 渡辺 文男

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過	1
A 試掘確認調査	1
B 本発掘調査	3
C 下層の試掘調査	4
1) A 区	4
2) D 区	5
3) B 区	6
D 整理作業の経過	7
3 調査・整理体制	7
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	8
1 地理的環境	8
2 歴史的環境	11
A 略 史	11
B 白河荘の中世遺跡	13
第Ⅲ章 調査の概要	16
1 グリッドと調査区の設定	16
2 層 序	17
3 本書の記述方針	19
A 遺 構	19
B 遺 物	20
第Ⅳ章 A 区の調査	21
1 遺構・遺物の検出状況	21
2 古代～中世の遺構	21
A 分 類	21
B 掘立柱建物	23
1) 概 要	23
2) 各 説	24
C 井 戸	26
1) 概 要	26
2) 大型井戸	26
3) 井 戸	27
D 竪穴状遺構	29
E 土 坑	30
1) 概 要	30
2) 分 類	30
3) 各 説	31
4) 小 結	33
F 溝	34
1) 概 要	34
2) 堀・区画溝	34
3) 堀・区画溝以外の溝	35
4) 小 結	38

3 古墳時代～中世の遺物	38
A 土器	38
1) 出土状況	38
2) 記述の方法	38
3) 古墳時代	39
4) 古代	41
5) 中世	42
B 石器・石製品	45
C 金属製品・鍛冶関連遺物	47
D 木製品	47
1) 記述の方法	47
2) 概要	50
3) 各説	50
4 縄文時代の遺構と遺物	54
A 遺構	54
B 遺物	54
1) 土器	54
2) 石器	54
第V章 D区の調査	55
1 遺構・遺物の検出状況	55
2 中世の遺構	55
A 分類	55
B 掘立柱建物	55
C 井戸	56
D 土坑	56
E 溝	59
F 道	61
1) 概要	61
2) 道1	61
3) 道2	64
G 性格不明遺構	65
3 古代～中世の遺物	66
A 土器	66
1) 出土状況・記述の方法・分類	66
2) 古代	66
3) 中世	66
B 石器・石製品	69
C 金属・鍛冶関連遺物	69
4 縄文時代の遺構と遺物	69
A 遺構	69
1) 検出状況	69
2) 各説	71
B 遺物	71
1) 土器	71
2) 石器	72
第VI章 B・C区の調査	73
1 遺構	73
A 検出状況	73
B 溝について	73
2 遺物	74

第Ⅶ章 自然科学分析	75
1 境塚遺跡出土木材の樹種同定	75
A はじめに	75
B 試料と方法	75
C 結 果	75
D 考 察	76
2 境塚遺跡出土骨の同定	82
A はじめに	82
B 試料と方法	82
C 結果と考察	82
3 境塚遺跡出土木材の放射性炭素年代測定	84
A はじめに	84
B 試料と方法	84
C 結 果	85
D 考 察	85
4 境塚遺跡出土の曲物 6 点の年輪年代	89
A 試料と方法	89
B 結 果	89
5 境塚遺跡出土井戸材の年輪解析	90
A はじめに	90
B 試料と方法	90
1) 年輪幅の計測	90
2) 年輪解析	91
C 結果と考察	91
1) 試料年輪の概要	91
2) 曲物側板の年代関係	93
3) 井戸枠を構成する板材・角材間の年代関係	93
4) 全資料による編年	94
5) 井戸の構築年と部材の転用の可能性	95
D ま と め	96
第Ⅷ章 調査のまとめ	97
1 A 区について	97
A 遺構の変遷	97
B 遺構の年代	99
C 井戸側部材から見た製板・製材技術	102
1) 井戸側部材の概要	102
2) 資料の分析	102
3) 製板・製材工程の復元	104
4) 角材の流通と井戸側部材の現地製材	108
2 D 区について	109
A 遺構の変遷	109
B 道について	111
1) 幅 員	111
2) 路 面	113
3) 側溝と路面幅の関係	114
C 遺構の年代	114
3 遺跡の評価	115
《要 約》	116

A区 掘立柱建物観察表	121	A区 掘立柱建物の柱穴(1)	121
A区 掘立柱建物の柱穴(2)	122	A区 掘立柱建物の柱穴(3)	123
A区 井戸観察表(1)	123	A区 井戸観察表(2)	124
A区 竪穴状遺構観察表	124	A区 土坑観察表(1)	124
A区 土坑観察表(2)	125	A区 溝観察表	126
A区 性格不明遺構観察表	127	A区 自然流路観察表	127
A区 集石観察表	127	A区 ビット観察表(1)	127
A区 ビット観察表(2)	128	A区 ビット観察表(3)	129
A区 ビット観察表(4)	130	A区 ビット観察表(5)	131
A区 ビット観察表(6)	132	A区 ビット観察表(7)	133
A区 ビット観察表(8)	134	A区 土器観察表(1)	134
A区 土器観察表(2)	135	A区 土器観察表(3)	136
A区 土器観察表(4)	137	A区 石器・石製品観察表	137
A区 金属製品観察表	138	A区 製鉄・鍛冶関連遺物観察表	138
A区 木製品観察表(1)	138	A区 木製品観察表(2)	139
A区 木製品観察表(3)	140	A区 木製品観察表(4)	141
A区 木製品観察表(5)	142	A区 木製品観察表(6)	143
D区 掘立柱建物観察表	143	D区 掘立柱建物の柱穴(1)	143
D区 掘立柱建物の柱穴(2)	144	D区 井戸観察表	144
D区 土坑観察表	144	D区 溝観察表	145
D区 道観察表	146	D区 性格不明遺構観察表	146
D区 炭化物集中範囲観察表	146	D区 ビット観察表(1)	146
D区 ビット観察表(2)	147	D区 ビット観察表(3)	148
D区 土器観察表(1)	148	D区 土器観察表(2)	149
D区 土器観察表(3)	150	D区 石器・石製品観察表	150
D区 金属製品観察表	150	D区 製鉄・鍛冶関連遺物観察表	151
B・C区 土器観察表	151		

挿図目次

第1図 遺跡の位置	2	第18図 A区溝の主軸方向	34
第2図 水原パイパスと遺跡の位置	2	第19図 A区 土器分布図(1)	39
第3図 試掘トレンチ位置図	3	第20図 A区 土器分布図(2)	40
第4図 B区下層トレンチ位置図	3	第21図 土質土器の分類	42
第5図 遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川	6	第22図 A区 石器・石製品、 製鉄・鍛冶関連遺物出土分布図	46
第6図 墳塚遺跡周辺の土地更正図	10	第23図 木取り及び木材一般の部分名称	48
第7図 周辺の中世遺跡分布	12	第24図 木取りの分類	48
第8図 白河荘の区分	14	第25図 容器などの木取り	48
第9図 グリッド設定と調査区	16	第26図 井戸側の構造	48
第10図 土層柱状図	18	第27図 器種別部位名称・図版表示	48
第11図 遺構の平面・断面形態の分類	22	第28図 加工痕の分類と図の表現	49
第12図 遺構覆土の堆積形状の分類	22	第29図 D区土坑の主軸方向	57
第13図 梁間一間型建物	22	第30図 D区溝の主軸方向	59
第14図 掘立柱建物の計測位置	23	第31図 D区 土器分布図(点数)	67
第15図 B IV類 縦板組隣柱横棧留	23	第32図 D区 金属製品、製鉄・鍛冶関連遺物 出土分布図	70
第16図 A区土坑分類	30		
第17図 A区土坑の主軸方向	31		

第33図	境塚遺跡出土木材の光学顕微鏡写真(1) …79
第34図	境塚遺跡出土木材の光学顕微鏡写真(2) …80
第35図	境塚遺跡出土木材の光学顕微鏡写真(3) …81
第36図	境塚遺跡から出土した骨 ……83
第37図	年代測定を行った試料 ……87
第38図	試料No.647のウィグルマッチング結果 ……88
第39図	試料No.13のウィグルマッチング結果 ……88
第40図	単体試料の暦年較正結果 ……88
第41図	同一曲物内の側板間の年代関係 ……93
第42図	井戸枠材の部材間で高い同調性を示した 組み合わせのt値および年輪幅変動パターン …94
第43図	境塚遺跡出土木材の年輪クロノロジー ……95
第44図	A区の中世遺構の変遷 ……98

第45図	A区の遺構と遺物変遷図 ……100
第46図	井戸側の縦板・横木・隅柱の接合資料 ……103
第47図	井戸側部材の製板・製材工程 ……105
第48図	中世の製材関係工具 ……107
第49図	絵画に見える打ち割製板の様子 ……107
第50図	塩木流しのキパン ……108
第51図	D区遺構変遷模式図(1) ……109
第52図	D区遺構変遷模式図(2) ……110
第53図	道の規模 ……112
第54図	側溝の幅と深さ ……112
第55図	路面と側溝の最大幅 ……112
第56図	礎の出土状況 ……113
第57図	廃棄後の土層断面模式図 ……113
第58図	道1の層位別礎出土点数 ……113

表 目 次

第1表	調査・整理体制 ……7
第2表	周辺の中世遺跡一覧 ……11
第3表	覆土の分類 ……21
第4表	A区の古代・中世の土器出土点数 ……38
第5表	須恵器の胎土分類 ……41
第6表	井戸別木製品出土点数 ……50
第7表	D区の古代・中世の土器出土点数 ……66
第8表	境塚遺跡出土木材の樹種同定結果 ……75
第9表	SE895とSE1007の井戸枠構架材と 木取り ……77
第10表	境塚遺跡出土木材の樹種同定結果一覧 ……78
第11表	境塚遺跡出土の骨 ……83
第12表	ウィグルマッチング測定試料および処理 ……84
第13表	単体測定試料および処理 ……84

第14表	試料No.647の放射性炭素年代測定、 暦年較正、ウィグルマッチングの結果 ……86
第15表	試料No.13の放射性炭素年代測定、 暦年較正、ウィグルマッチングの結果 ……86
第16表	単体試料の放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 ……86
第17表	井筒6点の側板の年輪年代 ……89
第18表	井戸側材の年輪解析結果概要 ……92
第19表	曲物の年輪計測結果 ……92
第20表	A区の遺構及び覆土の変遷 ……97
第21表	年輪年代及び放射性炭素年代測定結果の 対応関係と推定年代 ……101
第22表	道の検出例と所属時期 ……112
第23表	路面幅と検出数 ……114

図 版 目 次

【巻頭図版】

中世の居館跡・SE1007出土 井戸側部材と曲物

【図版図録】

図版 1	調査範囲図
図版 2	A区 遺構全体図(1)
図版 3	A区 遺構全体図(2)
図版 4	A区 遺構分割図(1)
図版 5	A区 遺構分割図(2)
図版 6	A区 遺構分割図(3)
図版 7	A区 遺構分割図(4)
図版 8	A区 遺構個別図(1) SB1・2
図版 9	A区 遺構個別図(2) SB3・4
図版 10	A区 遺構個別図(3) SB5～8・10・11
図版 11	A区 遺構個別図(4) SB9・12・13
図版 12	A区 遺構個別図(5) SB14～17

図版 13	A区 遺構個別図(6) SB18～21
図版 14	A区 遺構個別図(7) SB22～25
図版 15	A区 遺構個別図(8) SE895
図版 16	A区 遺構個別図(9) SE895
図版 17	A区 遺構個別図(10) SE1007
図版 18	A区 遺構個別図(11) SE1007
図版 19	A区 遺構個別図(12) SE1007
図版 20	A区 遺構個別図(13) SE102・164～ 166・169
図版 21	A区 遺構個別図(14) SE232・233・ 317・367
図版 22	A区 遺構個別図(15) SE401・402・ 1212
図版 23	A区 遺構個別図(16) SE416・1157・ 1329・SK1328

- 図版 24 A区 遺構個別図 (17) SK167・168・170・172・208・209・225・229・237・240・270・271・298・312
- 図版 25 A区 遺構個別図 (18) SK314・338・340・358・359・363～365・403・409・414・417・485・858・871・896
- 図版 26 A区 遺構個別図 (19) SK934・937・968・973・984・985・1008・1009・1012・1018・1020・1021・1024・1035・1038・1040
- 図版 27 A区 遺構個別図 (20) SK1062・1080・1095・1222・1226・1239・1245・1249・1256・1321・1618・1680・1685・1686・1805・1872
- 図版 28 A区 遺構個別図 (21) SK1873～1888・P475・1254・SD1665・1687
- 図版 29 A区 遺構個別図 (22) SD101・371・366・406・408・415・446・713・721・1168・1207・1210・1613・1616・1662・1663
- 図版 30 A区 遺構個別図 (23) SD101・239・362・773・780・815・899・917・928・943・977・978・983・1013・1017・1019・1037・1042・1043・1096・1106・1110・1121
- 図版 31 A区 古墳時代・古代・中世の土器 (1)
- 図版 32 A区 中世の土器 (2)
- 図版 33 A区 中世の土器 (3)
- 図版 34 A区 中世の土器 (4)
- 図版 35 A区 中世の土器 (5)
- 図版 36 A区 中世の土器 (6)・石製品
- 図版 37 A区 中世の金属製品・木製品 (1)
- 図版 38 A区 中世の木製品 (2)
- 図版 39 A区 中世の木製品 (3)
- 図版 40 A区 中世の木製品 (4)
- 図版 41 A区 中世の木製品 (5)
- 図版 42 A区 中世の木製品 (6)
- 図版 43 A区 中世の木製品 (7)
- 図版 44 A区 中世の木製品 (8)
- 図版 45 A区 下層の確認調査平・断面図
- 図版 46 A区 縄文時代の遺構・遺物
- 図版 47 D区 遺構全体図
- 図版 48 D区 遺構分割図 (1)
- 図版 49 D区 遺構分割図 (2)
- 図版 50 D区 遺構個別図 (1) SB26～29
- 図版 51 D区 遺構個別図 (2) SB30～34
- 図版 52 D区 遺構個別図 (3) SE2005・2238・SK2038・2040～2043・2045・2046・2087・2093・2113・2136・2248・2254・2312
- 図版 53 D区 遺構個別図 (4) SK2317・2336・2346・2359・2420・2425・2432～2439・SX2115・SD2002・2008・2009
- 図版 54 D区 遺構個別図 (5) SD2010～2012・2014・2017・2020～2022・2030・2031・2080・2088・2089・2110・2111・2114・2122・2132・2135・2171・2249・2253・2255・2295・P2019・2071・2074
- 図版 55 D区 遺構個別図 (6) 道1・道2・SK2376・2378・SD2296・2311・2314・2319・2333・2354・P2337・SX2352
- 図版 56 D区 遺構個別図 (7) 道1・道2
- 図版 57 D区 古代・中世の土器 (1)
- 図版 58 D区 中世の土器 (2)
- 図版 59 D区 中世の土器 (3)・土製品
- 図版 60 D区 中世の石製品・金属製品・銭貨
- 図版 61 D区 下層の確認調査平・断面図
- 図版 62 D区 下層遺構個別図・縄文時代の石器
- 図版 63 D区 縄文時代の土器
- 図版 64 B・C区 遺構全体図
- 図版 65 B区 遺構分割図・個別 SD2・3・6・8・32A
- 図版 66 B・C区 土器
- 【写真図版】**
- 図版 67 A区 遠景
- 図版 68 A区 掘立柱建物
- 図版 69 D区 遠景・全景
- 図版 70 井戸 A区 大型井戸 SE1007
- 図版 71 A・D区 青磁・白磁・瀬戸・瀬戸天目・中国天目
- 図版 72 A区 木製品
- 図版 73 A区 遺構 1 遠景・全景・SB1～5・14～20
- 図版 74 A区 遺構 2 SB6～12・16～22・24・25
- 図版 75 A区 遺構 3 SB9～13・24・25
- 図版 76 A区 遺構 4 SB16～21・23
- 図版 77 A区 遺構 5 大型井戸 SE895
- 図版 78 A区 遺構 6 大型井戸 SE895・1007
- 図版 79 A区 遺構 7 大型井戸 SE1007
- 図版 80 A区 遺構 8 SE102・164～166・P337
- 図版 81 A区 遺構 9 SE169・232・233
- 図版 82 A区 遺構 10 SE317・367・401・402
- 図版 83 A区 遺構 11 SE1157・1212・1329・SK1328

- 図版 84 A区 遺構 12 SK167・168・172・208・
209・229・237・P453・1823
- 図版 85 A区 遺構 13 SK240・270・298・314・
338・358・SD371
- 図版 86 A区 遺構 14 SK359・363・403・409・
417
- 図版 87 A区 遺構 15 SK896・973・1222・
1245・1321・1685・1872・1888
- 図版 88 A区 遺構 16 SD101・239・371・1613
- 図版 89 A区 遺構 17 SD101・239・362・366・
371・773
- 図版 90 A区 遺構 18 SD780・978・1037・
1042・1110・1207・1613・1665
- 図版 91 A区 遺構 19 下層調査 SX129・
SS1864・SD1320・SR1327
- 図版 92 A区 古墳時代・古代・中世の土器 (1)
- 図版 93 A区 中世の土器 (2)
- 図版 94 A区 中世の土器 (3)・石製品
- 図版 95 A区 中世の金属製品・縄文時代の遺物
- 図版 96 A区 中世の木製品 (1)
- 図版 97 A区 中世の木製品 (2)
- 図版 98 A区 中世の木製品 (3)
- 図版 99 A区 中世の木製品 (4)
- 図版 100 A区 中世の木製品 (5)
- 図版 101 D区 全景
- 図版 102 D区 遺構 1 SB26～29・SD2132
- 図版 103 D区 遺構 2 SB30～34・SD2020
- 図版 104 D区 遺構 3 SE2005・2238・
SK2038・2042・2043・2046・2093・
2136
- 図版 105 D区 遺構 4 SK2113・2312・2336・
SD2114・2295
- 図版 106 D区 遺構 5 SK2359・2420・2425・
2432・2434～2438・SD2012・2030
- 図版 107 D区 遺構 6 SD2002・2010・2012・
2031・2295
- 図版 108 D区 遺構 7 SD2110・2111・2295・
2319・道1・2・SX2115
- 図版 109 D区 遺構 8 道1・2
- 図版 110 D区 下層調査 SC2371
- 図版 111 D区 古代・中世の土器 (1)
- 図版 112 D区 中世の土器 (2)・土製品・石製品・
金属製品 (1)
- 図版 113 D区 中世の金属製品 (2)・鉄貨・縄文時
代の土器・石器
- 図版 114 B区 全景・SD2・3・6・7・32
- 図版 115 B区 下層・C区 確認調査・B区の土器

第 I 章 序 章

1 調査に至る経緯

一般国道 49 号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。新潟県内では、泊津市町村と新潟市を結ぶ地域幹線道路として重要な役割を果たしている。現道は阿賀野市街地を通過しているが、幅員が狭小なため交通混雑と交通騒音、交通事故など生活環境に与える影響が問題となってきた。これらの問題を解消し安全で円滑な交通を実現するため、「安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社間 5.6km）と「水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬間 8.1km）（第 2 図）が計画された。2004 年に市町村合併により阿賀野市が誕生してからは両者を合わせて「阿賀野バイパス」と呼称される。

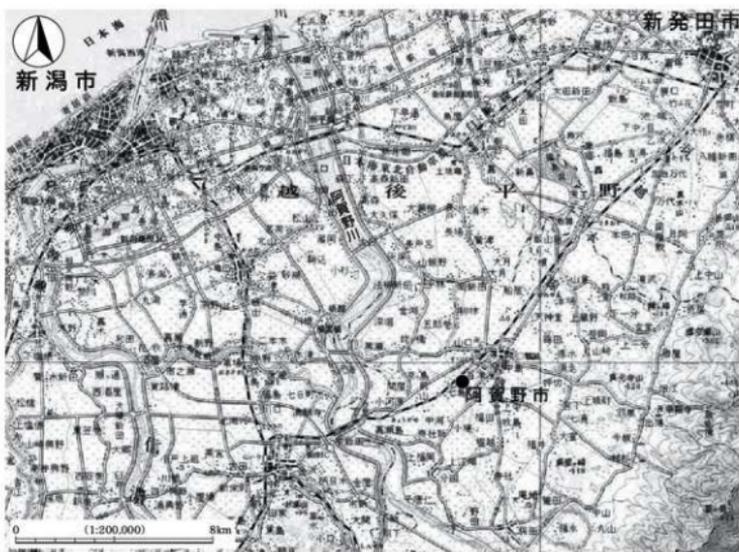
阿賀野バイパスのうち水原バイパス部分は、1999 年 3 月に都市計画が決定、翌年 4 月に事業化された。これを受けて、国土交通省北陸地方整備局新潟国道工事事務所（以下、国交省）と新潟県教育委員会（以下、県教委）との間で法線内の遺跡の分布調査・試掘調査に関する協議が本格化した。県教委は国交省から委託を受け、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に水原バイパスの踏査を依頼した。埋文事業団は 2003 年 12 月 3・11・12 日に水原バイパスの踏査を行い、周辺の遺跡 1 か所を含む 23 か所で古代・中世の遺物を採取し、阿賀野市飯森杉～寺社の区間約 470,000m² について試掘調査が必要なことを報告した。また、阿賀野市教育委員会は 2008 年 5 月 7 日～5 月 12 日に県営湛水防除事業に係る試掘調査を阿賀野バイパス用地内の一部についても行い、阿賀野市百津字境塚で古代～中世の遺物・遺構が検出したことから「境塚遺跡」（第 1 図）として新遺跡登録した。埋文事業団は 2008 年 5 月 23 日～7 月 2 日に境塚遺跡周辺のバイパス用地内の試掘調査を行った。その結果、長さ約 670m の範囲で遺構・遺物を検出し、本発掘調査必要面積は 38,461m² となることを県教委に報告した。そして、国交省から委託を受けた県教委は、埋文事業団に境塚遺跡の本発掘調査必要範囲のうち 10,000m² について本発掘調査を行うよう依頼し、2009 年 4 月～11 月に埋文事業団が本発掘調査を行った。

2 調査経過

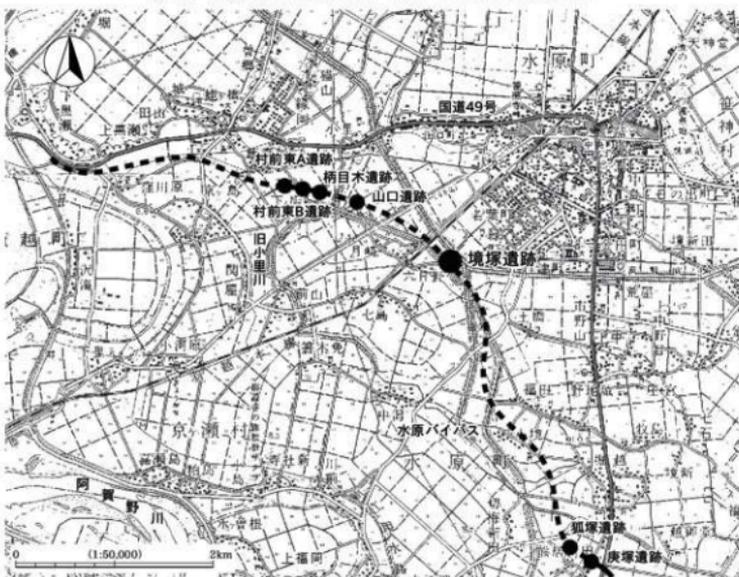
A 試掘確認調査

境塚遺跡に関わる試掘確認調査は、埋文事業団が 2008 年 5 月 23～7 月 2 日に行った。調査地点は、一般国道 49 号阿賀野バイパス用地である JR 羽越本線～小里川間と小里川右岸堤下～県道新関水原停車場線間である（第 3 図）。調査対象面積は 79,261m²、実質調査面積は 1,325.7m²、試掘確認率は 1.7% である。試掘確認調査は、調査対象地に調査坑（試掘トレンチ：略号 T）を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録する方法で行った。遺物はトレンチ西端及び北端から 4m ごとに区切り、層別に取り上げた。試掘トレンチは、JR 羽越本線～小里川間（34T～62T）、小里川右岸堤下～県道新関水原停車場線間（63T～105T）で合計 72 か所を設定した。

調査の結果、西側の 42T～53T と東側の 40T～60T の大きく 2 つの範囲で遺構・遺物を検出した。



第1図 遺跡の位置 (国土地理院発行 平成17年「新潟」1:200,000原図)



第2図 水原バイパスと遺跡の位置

(国土地理院発行 平成17年「新潟」平成15年「新発田」平成9年「新津」平成11年「津川」1:50,000原図)



第3図 試掘トレンチ位置図（国土交通省新潟国道事務所水原バイパス平面図に加筆）

西側では土坑・溝が見つかり、古代・中世の遺物のほか、49Tからは縄文時代晩期の土器が出土したが、これに伴う明確な遺構は検出できなかった。東側では、59T～62Tで土坑・溝などの遺構が濃く分布する傾向が認められ、検出状況から古代と中世の遺構が重複するものと推測した。一方、小里川右岸の63T～73Tで溝を主体とする遺構を検出し、古代・中世に所属する遺物が出土した。このことから、小里川左岸から遺跡が続くものと想定した。なお、これらの区間は昭和初期の耕地整理により遺物包含層の大半が削平されており、水田耕作土直下で遺構が検出されることが分かった。

以上から、境塚遺跡は63T～73Tまでの範囲と判断し、本発掘調査必要面積は38,461m²と報告した。

B 本発掘調査

本発掘調査は、2009年4月13日～11月18日に行った。調査面積は当初、A区5,000m²、B区5,000m²の合計10,000m²であったが、調査の進捗が早まったことによりC区5,876m²、D区2,300m²を追加し、合計18,176m²を調査した（第9回・図版1）。

調査はB区から開始した。4月16日～4月28日にバックホーによる表土掘削を行った。遺物包含層の多くは昭和初期の耕地整理の際に削平されて残っておらず、掘削は地山上面に達した。このため、表土掘削の時点で溝などの遺構が検出された。4月30日から作業員による調査を開始した。遺構検出の結果、幅3m、深さ1.2mの溝をはじめとする大小の溝を多数検出した。重複関係から溝の形成時期を1～3期に分けて調査に当たった。5月11日から遺構掘削を開始した。5月21日には溝同士が交差する付近に橋状の高まりが設けられていることが分かり、水量を調節するための施設ではないかと考えられた。しかし、調査が進んでも溝から出土した遺物量は少なく、時期の特定が難しい状況が続いた。6月9日、44RRグリッドにある溝の下端から近代の珧瑤鍋が出土した。覆土から最も古い1期に所属することが確実であったため、すべての溝が近代以降に所属することが明らかになった。このため、B区南側の溝にサブトレンチを開けて土層を観察した結果、ほかの溝もすべて近代以降のものであることを確認し、土坑やピットも覆土の特徴から近代以降のもつと判断した。6月9日、県教委と今後の取り扱いについて協議を行った結果、B区では近世以前の遺構が認められないことから、調査を終了することとした。6月16日、B区の測量を終え、調査を終了した。

これを受け、B区の南側に隣接するC区の手配についても県教委と協議を行い、確認調査を行っ

た上で本発掘調査の有無を判断することとした。6月25日～6月29日に重機で2条の長いトレンチを掘削した(図版64)。その結果、B区と同様の近代以降と見られる溝やピットが検出されたことから、県教委はC区も本発掘調査を行わないことと判断した。

A区では、6月15日から東側に残る工事用道路以外についてバックホーによる表土掘削を開始した。6月22日から作業員による調査を開始したが、B区と同様に遺物包含層が削平されていたため、南側から遺構検出及び遺構掘削に着手した。東西に伸びる大型溝SD101とこれに直行する溝SD239を検出し、珠洲焼や土師質土器などが出土したことから中世のものと考えられた。これらの区画溝に伴い、掘立柱建物や井戸・土坑を多数検出し、中世の屋敷跡であることが分かった。また、7月16日からSD101と重複するSE895の掘削を開始したところ、深さが3m以上ある井戸側を持つ大型井戸であることが明らかになった。さらに、7月8日～7月21日に東側工事用道路の撤去を行い、この部分の遺構検出を行ったところ、直径約6mの大型井戸SE1007を検出した。これも深さが3m以上あったため、SE895とともに掘削を途中で中断し、土留めを施工した上で改めて調査することとした。8月26日にラジコンヘリと高所作業車を用いて完掘写真を撮影した。9月30日から大型井戸の掘削を再開した。井戸の掘り形に合わせてライナープレートと呼ばれる土留め材を設置しながら深さ約5mまで掘り下げ、井戸側及び水溜めの調査を行った。10月30日にすべての調査を終了した。なお、隣接して行われた阿賀野市教育委員会による調査範囲でSD101と直行する溝が見つかり、両者が同一のものかを確認するため、10月28日にA区東側の調査対象地外において国交省の了解のもと重機による遺構検出を行い、溝が直角に曲がってつながることを確認した。

D区は、8月5日～8月20日に重機による表土掘削を行った。8月27日から遺構検出及び掘削を開始した。その結果、幅約6mの間隔をあけて平行に伸びる溝SD2000・2001を検出し、出土遺物から中世の道と判断した。この道より南東側から掘立柱建物や溝を多数検出したが、北西側では遺構が極めて少なかった。9月28日に高所作業車を用いて完掘写真を撮影した。9月30日にすべての調査を終了した。なお、10月29・30日にD区の南西側における道の位置を確認するため、調査対象地外の水田において地権者の了解のもと検土杖による調査を行った結果、道が六日野集落まで伸びることを確認した。

C 下層の確認調査

1) A 区

2008年度の試掘確認調査では縄文時代晩期の遺物が出土し、本発掘調査においても少量ながら遺物が出土したが、明確な遺物包含層は認められなかった。このため、上層(古代・中世面)の調査終了後、下層における遺構・遺物の確認を目的とした確認調査を実施した。調査期間は2009年10月21日～10月30日である。調査は、試掘確認調査(第1章2節A)と同様の方法で行った。調査対象面積は5,000m²、実質調査面積は817m²、試掘確認率16%である。

調査区東側では、上層の井戸12基を調査していたため、遺構検出面より約1～5.5m下までの土層堆積状況を遺構壁面などから把握することができた。この結果、調査区東側では下層において遺物包含層を確認できなかった。このため、調査区西側を主体にトレンチを設定した(図版45)。調査区の地形は中央から西側に向って緩やかに傾斜しており、最も低い部分に自然流路SR1327が存在する。この東側ではIVb層中から縄文時代晩期後葉の土器片が出土したほか、井戸の土層断面の観察などからSR1327の下には古い自然流路が存在し、周辺に遺構や遺物包含層が埋没している可能性が考えられた。したがって、

確認調査ではSR1327周辺の遺構検出に重点を置き、推定される流路に対し直交する方向にトレンチを設定した。結果は以下のとおりである。

1～7T 1～5・7Tでは黄橙色・灰白色・青灰色を基調とした砂・砂質シルトが互層をなし、平行あるいは斜位に堆積する。この間には有機物層と考えられる黒褐色シルト層も認められた。こうした土層の堆積状況は河川の埋積状況を示しており、河川であると判断される。その前後関係から3条の河川が存在したものと推定し、SR1327B・1327C・1327Dと附番した。最も古い河川であるSR1327Dは、南北方向から北東方向へ流れていたものと推定される。西側の立ち上がりは確認できなかった。掘削深度は中世の遺構検出面から約3m下まで及んだが、自然流路の底面は確認できなかった。覆土及び川底付近では流木を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。SR1327Cは位置を東側に変えたものと推定される。川幅は約20m、深さは約3mを測る。川底付近で流木を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。SR1327Bは規模が縮小し、SR1327と平面的にほぼ重なる。幅は約4mで、深さは中世の遺構検出面より約1mである。3Tでは、覆土上層の1・2a層から古代の土師器・須恵器が出土した。これらの河川は、複数時期にわたり移動と埋積を繰り返したものと考えられる。中世の遺構検出面で検出したSR1327はこの最終段階の流路と考えられる。

8～10T 8TでIVb層中から集石遺構SS1864を検出し、43m×0.21mの範囲から礫3点が出土した(図版46・91)。礫はいずれも凝灰岩で、径12～25cmを測る。詳細な時期は不明であるが、IVb層中から縄文時代晩期後葉の土器が出土していることから、縄文時代の集石遺構の可能性はある。これ以外の遺構・遺物は出土しなかった。

以上の調査結果から、下層に所属する明確な遺構・遺物の出土は認められなかった。したがって、A区下層の本発掘調査は不要であると判断した。

2) D 区

本発掘調査では、古代・中世の遺構検出面から縄文時代に所属する遺物の出土が認められた。また、2008年度の確認調査で49Tから縄文時代晩期の土器が出土した(第3図)。このため、上層(古代・中世面)の調査終了後、下層における遺構・遺物の確認を目的とした調査を実施した。調査期間は平成21年9月28日～10月20日である。調査はA区と同様の方法で行った。調査対象面積は2,000m²、実質調査面積は603m²、試掘確認率30%である。

トレンチは、上記した下層に属する遺物の出土地点を考慮して、北東-南西方向に30.8m×2.0mの範囲に設定した。また、A区と同様に調査区壁面の土層堆積状況から、下層における旧河川の存在が予想された。このため、推定される流路に対し直交する方向のトレンチを設定し、調査を行った(図版61・62)。結果は以下のとおりである。

9T 中世の遺構調査時に縄文時代の遺物を多く検出した地点を中心に設定し、人力で深さ約20cm掘り下げた。その結果、縄文時代晩期後葉の遺物が出土した。遺構は検出できなかったが、試掘坑東側でSC2371が検出されており、これ以外にも遺構がある可能性がある。これらの遺構・遺物は、埋没した河川の岸辺に構築されたもので、31層(図版61のa-a')に含まれるものと考えられる。

1～5・7・8T 1～5・7・8Tでは黄橙色・灰白色・青灰色を基調とした砂・砂質シルトが互層をなし、平行あるいは斜位に堆積する(図版61のa-a'、b-b')。この間には有機物層と考えられる黒褐色シルト層が幾層にも認められた。こうした土層の堆積状況は河川の埋積状況を示しており、河川であると判断した。

遺構・遺物は認められなかったが、1Tでは深さ3.3mの川底から径8～40cmの流木(ブナ属、第Ⅶ章1)が出土した(図版61a-a'のW-1)。この流木は、放射性炭素年代測定により紀元前7世紀中頃～6世紀中頃の年代が得られ(第Ⅶ章3)、縄文時代晩期後葉のものと判断される。土層堆積状況から、河川は北西側から南東側へ位置を変えながら埋積したものと考えられる。

6T 6Tでは遺構・遺物を検出した。7T・8Tで検出した河川も岸辺に当たり、ぶい黄褐色砂質シルト層を基調とする土層が多層に分かれて安定的に堆積する。6Tでは8b ③層で炭化物集中範囲2か所、8h層で焼土1か所、8j層で炭化物集中範囲2か所を検出し、8h層では縄文時代晩期後葉の土器が出土した(図版61のc-c')。最も深い炭化物集中範囲SC2442は地表面下2.2mである。

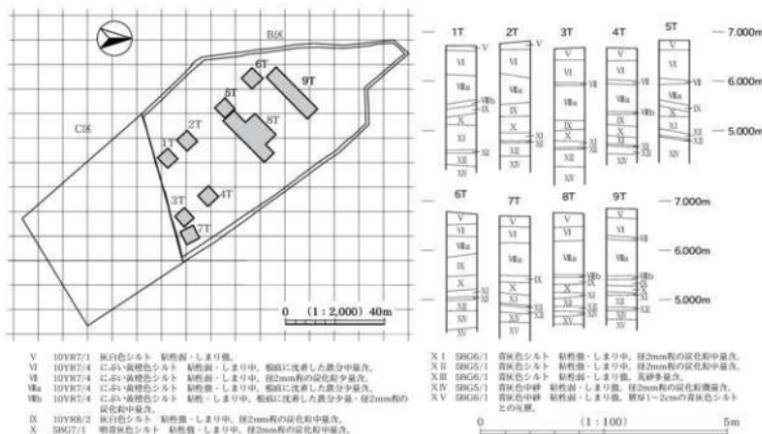
出土状況及び土層堆積状況から、河川の岸辺に複数時期にわたり遺構が構築された可能性が高く、遺物包含層及び遺構検出面は少なくとも31層・8b ③層・8h層・8j層の4面になるものと考えられる。また、これらはD区北西側の未調査範囲に続いており、範囲は更に広がるものと推定される。遺構・遺物の検出量は多くはないが、河川の自然堤防がD区北西側の未調査範囲にあると考えられることから、遺跡の中心は北西側にあるものと推定される。

以上から、河川の岸辺と推定される北西側700m²については、本発掘調査が必要であると判断した。河川については、遺構・遺物の出土が認められなかったため、調査範囲から除外した。

なお、8h層で検出した縄文土器の一部と8j層で検出した炭化物集中範囲SC2442は、壁面崩落の危険があったため現状のまま残した。また、本発掘調査必要範囲については、全面をブルーシートで覆った後に厚さ約40cmの盛土で養生した。

3) B 区

下層における遺構・遺物の有無の確認を目的とした調査を行った。調査期間は平成21年6月16日～6月24日である。調査は、試掘確認調査(第Ⅰ章2節A)及びA・D区と同様の方法で行った。調査対象



第4図 B区下層トレンチ位置図

面積は5,000m²、実質調査面積は204m²、試掘確認率4.1%である。試掘トレンチは、調査区内ほぼ全域に9か所設定した(第4図)。

調査結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物の出土は認められなかった。土層はV～XV層の11層に識別され、VII b～X II層には径2mmの炭化物粒が含まれている。VII b層・X I層では、部分的に径3～5mmの炭化物が集中するかが認められたため、半截して調査を行ったが遺構と判断できなかった。

以上の調査結果から、下層に所属する明確な遺構・遺物の出土は認められなかった。したがって、B区下層の本発掘調査は不要と判断した。

D 整理作業の経過

整理作業は2009～2011年度に行った。2009年度は、本発掘調査と並行して記録類(図面・写真)の整理及び遺物の洗浄・註記を現場事務所で行った。本発掘調査終了後は、記録類・遺物を帆荷組本社に搬入し、遺構図面整理と遺物の接合・実測・トレースを行った。遺構・遺物の図面・写真図版の作成は株式会社セブアスに遺構測量データ・遺構原因図・遺物トレース図・レイアウト図案を支給して委託した。併せて、本文の執筆を進めた。平成22年度は、本文・挿図作成と編集作業を株式会社セブアスにテキストデータ・挿図原因図・レイアウト図案を支給して委託し、印刷用データで納品を受けた。平成23年度は、新高速印刷株式会社に印刷用データを支給して印刷製本し、報告書を刊行した。

3 調査・整理体制

第1表のとおりである。

試掘確認調査

調査期間	2008年5月23～7月2日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 武藤 克己)
調査	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団(理事長 武藤 克己)
管理	木村 正昭(事務局長) 斎藤 栄(総務課長) 藤巻 正信(調査課長)
庶務	長谷川 靖(総務課所長)
調査総括	藤巻 正信(調査課長)
調査担当	田海 義正(調査課試掘担当課長代理)
調査職員	富野 義昭(調査課主任調査員)

本発掘調査・整理作業

調査期間	2009年4月13日～2009年11月18日
整理期間	2009年11月19日～2010年3月31日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 武藤 克己)
調査	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
管理	木村 正昭(事務局長) 斎藤 栄(総務課長) 藤巻 正信(調査課長)
調査指導	鈴木 俊成(調査課本発掘調査1担当課長代理)
調査担当	荒川 隆史(調査課所長)
支援組織	株式会社 帆荷組
現場代理人	伊藤 聡(埋蔵文化財調査課 主任)
	村上 章久(埋蔵文化財調査課 主任)
調査職員	安西 雅希(埋蔵文化財調査課 調査員)
	高橋 均(埋蔵文化財調査課 調査員)
補助員	佐藤直美 山本幸恵 大瀧明美 今井奈奈子 佐藤由紀 田中加代子

第1表 調査・整理体制

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

境塚遺跡は、阿賀野市百津字境塚16番地1ほかに所在する(第1・2図)。阿賀野市は、新潟県の北東部に位置し、2004年4月に安田町・水原町・笹神村・京ヶ瀬村の4町村が合併した人口約48,000人の新市である。周囲は新潟市(旧豊栄市、旧新津市、旧横越町)・新発田市・五泉市・東蒲原郡阿賀町(旧三川村)と接する。

阿賀野市の地勢は、東に標高912.5mの五頭山や標高973.5mの菱ヶ岳を主峰とする五頭山地とこれに並行する標高約100mの笹神丘陵、西に越後平野から成り、南は阿賀野川北岸に接する。五頭山地は南北約20km、東西約5kmの規模で連なり、山体の大部分は風化した花崗岩からなる。ここを源とする松岡川・荒川・折居川・大荒川・中ノ川・安野川・大目川などの水系は、笹神丘陵を深く切り込みながら越後平野に流れ出し、筋状の自然堤防を形成する。これらはすべて福島潟に流入し、唯一の排水路である新井郷川を經由して阿賀野川と合流する。

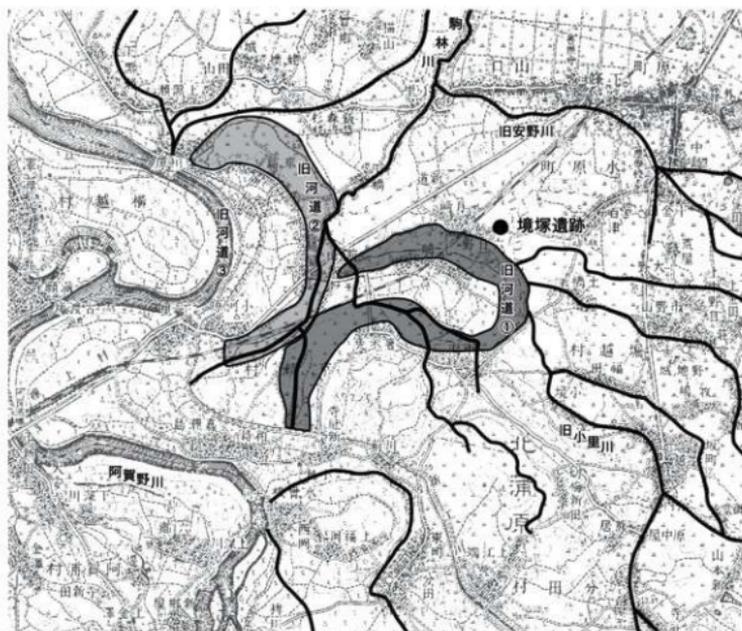
阿賀野川は福島県会津盆地から県境の峡谷を蛇行しながら流下し、谷口の五泉市馬下及び阿賀野市草水から越後平野に入る。阿賀野市域で大きく蛇行した後に、新潟市笹山付近から直線的な流路となり、新潟砂丘を突き抜けて日本海に流れ込む。1730(享保15)年の新発田藩による松ヶ崎掘削以前までは、阿賀野川は新潟砂丘の手前で南に折れ、信濃川と合流して河口を形成した。この地が現在の新潟港であり、927(延長5)年に延喜式に記載された「蒲原津」とされる。

阿賀野川は1915(大正4)年～1933(昭和8)年を始めとする4回の改修工事が行われ、現在は河道が直線化されている。かつては発達した新潟砂丘によって日本海への流出口を狭められ、河道の変更を伴う大規模な氾濫が起り、数多くの旧河道や自然堤防が残された。境塚遺跡の西側でも、旧河道①六日野一七島間、旧河道②前山一関屋間、旧河道③下里一沢海間の3か所に幅300m前後の大きな旧河道が認められる(第5図)。[大矢・加藤1984]はこれらの年代について、旧河道①が1713(正徳3)年ころ、旧河道②が1762(宝暦12)年ころ、旧河道③が1911(明治44)年ころまで流れていたと推測している。しかし、1647(正保4)年「新発田領絵図」では阿賀野川が旧河道③を流れていたことを確認できたため、旧河道①・②が阿賀野川の本流であった時期は正保年間以前であったものと推測される。また、1645(正保2)年「正保越後国絵図」には六日野の近くに「百津潟」が描かれ、1816(文化13)年「越後輿地全図」にも旧河道①に該当する部分に「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されており、旧河道①が阿賀野川の本流からそれて三日月湖になったものが百津潟と考えられる。

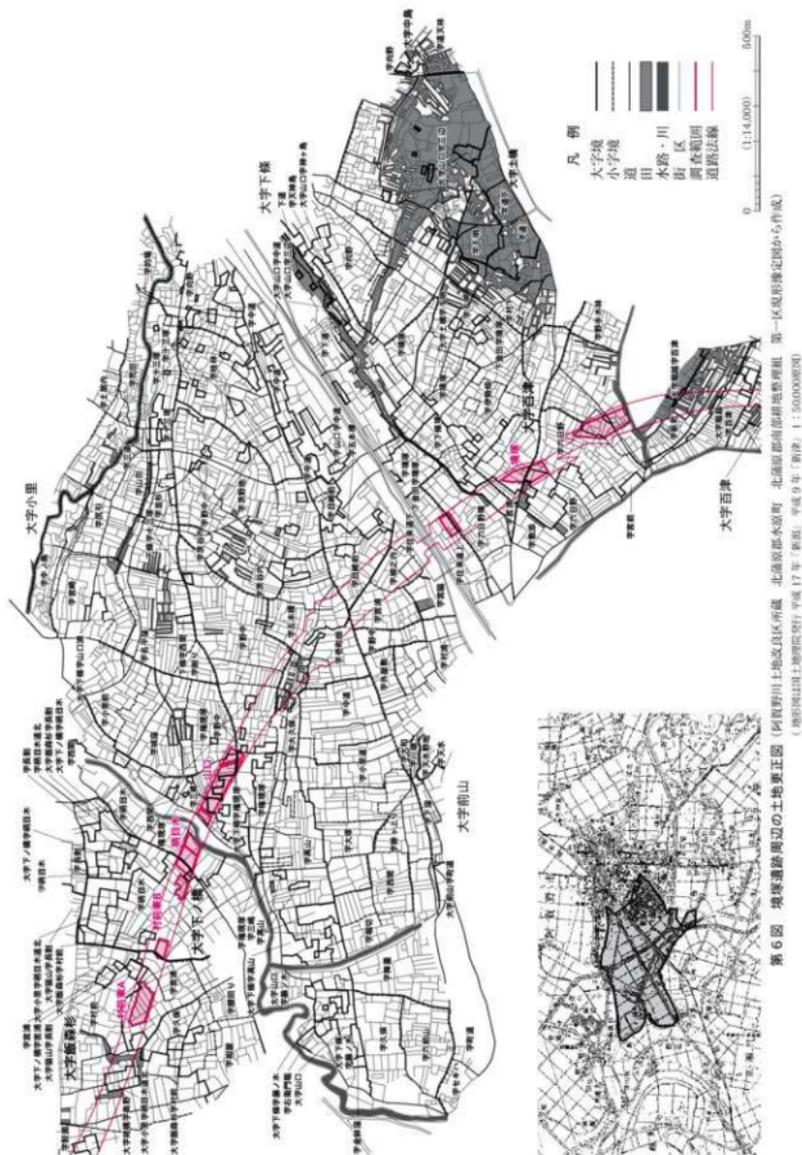
境塚遺跡のすぐ東側を流れる安野川と小里川は、1941(昭和16)年～1973(昭和48)年に行われた国営阿賀野川農業水利事業により新規に掘削された人工の河川である。明治44年測量図によれば、旧安野川(七浦川)は五頭山麓を源とし、村杉、上山田、大野地、中島を經由して水原市街南端を通り、駒林川に接続していた。また、旧小里川は菱ヶ岳麓を源とし、ツベタ、羽田屋、堀越、前山を經由し、旧安野川とともに駒林川に合流していた(第5図)。百津潟は小里川のほかに保田方面や分田方面からの河川も通じており、福島潟と同様に水原以南における河川の中継地であったと考えられる。

現在の境塚遺跡周辺は、1927～1931（昭和2～6）年ころに行われた耕地整理により水田地帯となっているが、これ以前は桑畑を中心とする畑地であり、比較的立地の高い場所であった。当時の土地更生図には、遺跡の北東に幅20m程度の二股に伸びる旧河道と、その東側に低地が広がっていたことが読み取れる（第6図）。この旧河道は、境塚遺跡D区の調査から縄文時代晩期に形成された河川が埋積したものである（第1章C(2)）。A区でもD区で見つかった河川の対岸と見られる落ち込みが確認されている（第1章C(1)）。河川の規模は不明だが、安野川堤防断面で深さ4m以上、幅約250mにわたる河道の埋積が認められ、大規模な河川であったことがうかがえる。旧河道の北東延長線上には旧安野川があることから、この河川は縄文時代晩期以降に流れていた古安野川と推測される。境塚遺跡の中心時期である古代～中世にもA区とD区の間を古安野川が流れ、百津潟に接続していたものと考えられる。

以上から、境塚遺跡は阿賀野川の旧河道①の自然堤防上に立地し、百津潟の北岸に位置していたものと考えられる。遺跡の北側から古安野川が流入し、その両岸に集落が形成された。河川と高に囲まれた境塚遺跡は、旧安野川・旧小里川を通じて水原・堀越・安田の各地と結ばれ、さらに阿賀野川や福島潟を經由して蒲原津に通じた河川交通の要衝に営まれていたのである。



第5図 遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川
 (大日本帝國陸地測量部発行 大正8年「新図」「新津」1:50,000 原図)



2 歴史的環境

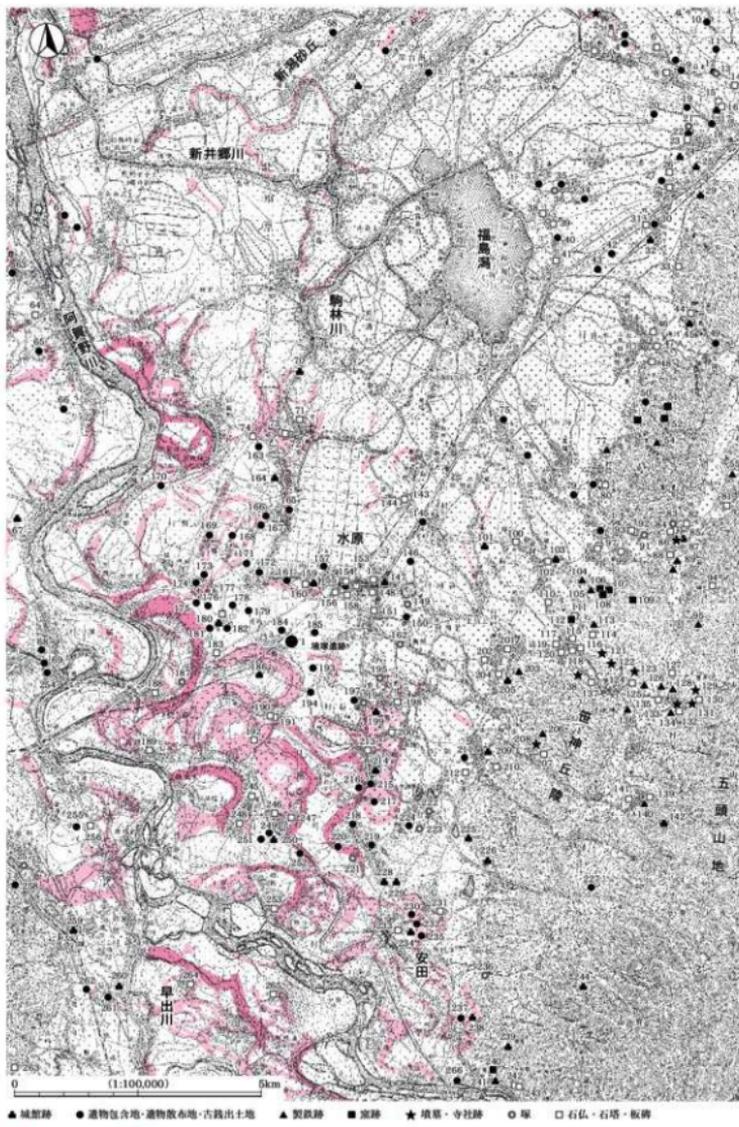
A 略 史

塚塚遺跡は1134(長承3)年に皇嘉門院領として立荘された白河荘に位置する。皇嘉門院は藤原忠通の娘であったことから、白河荘は九条家が領家職を持つ九条家領として代々伝領されていった。この白河荘の立荘には阿賀北に大きな勢力をもつ城氏に関わっていたと推測され、「白河御館」と呼ばれた城助職は白河荘に本拠を持ち荘園の在地管理にも関わっていたとされる〔樋口2004〕。阿賀野市寺社には城氏の拠点と推定される大坪遺跡〔荒川ほか2006〕や平安時代末期から鎌倉時代初期の経塚である横峰経塚〔川上1979〕が存在した。城氏は治承・寿永の内乱期(1180～1185年)に勢力を衰退させ、1201(建仁元)年の鳥坂山の戦いで滅亡する。

13世紀になると越後の荘園には地頭職を得た関東御家人が入部する。白河荘は伊豆の御家人である大見家秀が地頭職を得たと推測される〔樋口2004〕。白河荘の地頭職は家秀の息子である大見実景に譲られた。白河荘は上条と下条に大きく二区分されており、大見実景は白河荘の下条に含まれる山浦四箇条・水原条・舟江条の地頭職を嫡子である行定に、上条に含まれる安田条の地頭職を庶子の時実譲り渡す。1283(弘安6)年、大見行定は白河荘の地頭職を七郎家綱と次男家政に譲り渡す。嫡子である大見家政は山浦四箇条の地頭職、庶子の家綱は水原条地頭職を得た。このように山浦四箇条の地頭職は惣領である家政の系統に伝領され、安田条地頭職は庶子である時実とその嫡子頼資の系統、水原条地頭職は家綱の系統が伝領していく。大見氏は鎌倉末期に安達時頼に白河荘地頭職を奪われる。この地頭職は鎌倉幕府滅

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	塚塚	39	三ツ瀬石石仏	77	熊野野原	115	高野寺石造遺跡	153	吉田野原	191	中野の観音様石仏	229	物部山遺跡
2	成石寺	40	御前	78	鹿角寺	116	静安寺御石石仏	154	静安寺	192	玉津の石仏	230	宮ノ上
3	常盤寺石造遺跡	41	天王石	79	香木社	117	山崎家石仏	155	七宝寺	193	新宮	231	津野原石仏
4	大石塚	42	源方代弁天塚	80	鹿角寺石仏	118	熊鷹寺石仏	156	西原寺石仏	194	八幡戸	232	門前
5	大石塚	43	地蔵	81	寺子石仏	119	熊鷹寺石仏	157	地蔵	195	三ヶ所池の御尊像	233	寺子石石仏
6	西原内海原寺石仏	44	熊鷹寺石仏	82	熊鷹寺石仏	120	熊鷹寺石仏	158	熊鷹寺石仏	196	七ヶ所	234	常盤寺
7	塚塚	45	阿賀野城跡	83	上野の城跡	121	法華山御尊像	159	手塚跡	197	鳥	235	鳥
8	西原石石仏	46	西原寺石仏	84	熊鷹寺石仏	122	熊鷹寺石仏	160	熊鷹寺石造遺跡	198	熊鷹寺石石仏	236	熊鷹寺
9	成神家	47	熊鷹寺石石仏	85	熊鷹寺石石仏	123	熊鷹寺石石仏	161	本野内	199	熊鷹寺	237	鳥
10	成神家	48	熊鷹寺石石仏	86	上ノ山御尊像	124	熊鷹寺石石仏	162	山	200	行定寺石石仏	238	八幡野原
11	熊鷹寺	49	月岡寺オンパター	87	仏堂跡	125	多岐山御尊像	163	山崎家	201	大塚寺石石仏	239	ハナマツ山崎跡
12	上野	50	熊鷹寺	88	仏堂石石仏	126	遺子	164	熊鷹寺跡	202	熊鷹寺石石仏	240	赤田中野原
13	熊鷹寺	51	北	89	熊鷹寺	127	熊鷹寺石石仏	165	北内野	203	山	241	山崎跡
14	二ツ野熊鷹寺石仏	52	熊鷹寺	90	西	128	成	166	森	204	熊鷹寺石石仏	242	一ツ瀬石石仏
15	成神家	53	熊鷹寺	91	上野	129	熊鷹寺御尊像	167	熊鷹寺内野	205	熊鷹寺	243	香木社
16	成神家	54	オウノ	92	上野石石仏	130	熊鷹寺石造遺跡跡石	168	大	206	金ノ沢	244	赤田山崎跡
17	熊鷹寺	55	赤	93	熊鷹寺石石仏	131	日武野中野原	169	熊鷹寺	207	山	245	村ノ石石仏
18	熊鷹寺	56	熊鷹寺	94	熊鷹寺石石仏	132	赤田山崎跡跡石	170	山	208	アノハン	246	赤田寺石石仏
19	九尾	57	熊鷹寺	95	赤	133	熊鷹寺御尊像跡	171	大赤川	209	大塚跡	247	上野の石石仏
20	熊鷹寺	58	内海原	96	赤	134	大赤川跡	172	野原	210	熊鷹寺石石仏	248	赤田寺石石仏
21	熊鷹寺	59	熊鷹寺	97	赤川石石仏	135	赤田山崎跡跡石	173	本	211	赤	249	赤田寺
22	上野山崎跡	60	寺ノ	98	熊鷹寺	136	赤	174	野原	212	上野	250	中野原
23	上野山崎跡	61	下野	99	上ノ	137	赤田山崎跡跡石	175	村	213	赤田山崎跡跡石	251	内野
24	山崎跡	62	赤ノ	100	赤田山崎跡	138	赤田山崎跡跡石	176	村	214	熊鷹寺	252	成神家
25	成神家	63	大	101	赤田山崎跡	139	赤田山崎跡跡石	177	赤田山崎跡	215	熊鷹寺	253	赤田山崎跡
26	熊鷹寺石石仏	64	熊鷹寺	102	熊鷹寺石石仏	140	村	178	熊鷹寺	216	赤	254	熊鷹寺
27	熊鷹寺	65	熊鷹寺	103	熊鷹寺	141	村	179	山	217	熊鷹寺	255	熊鷹寺
28	赤田山崎跡	66	熊鷹寺	104	中ノ	142	村	180	ノ	218	熊鷹寺	256	熊鷹寺
29	上野山崎跡	67	熊鷹寺	105	赤川石石仏	143	熊鷹寺御尊像跡石	181	村	219	赤	257	赤田山崎跡
30	赤田山崎跡	68	熊鷹寺	106	熊鷹寺	144	熊鷹寺御尊像跡石	182	赤	220	赤	258	赤田山崎跡
31	赤田山崎跡	69	赤	107	上野	145	赤	183	熊鷹寺	221	赤	259	大塚跡
32	赤田山崎跡	70	赤川石石仏	108	赤川石石仏	146	ノ	184	山崎跡	222	赤田山崎跡	260	大塚跡
33	赤田山崎跡	71	赤田山崎跡	109	赤田山崎跡	147	赤田山崎跡	185	熊鷹寺	223	赤田山崎跡	261	赤田山崎跡
34	山崎跡	72	上野山崎跡	110	赤田山崎跡	148	赤田山崎跡	186	熊鷹寺	224	赤田山崎跡	262	赤田山崎跡
35	赤田山崎跡	73	上野山崎跡	111	熊鷹寺	149	赤田山崎跡	187	赤田山崎跡	225	赤田山崎跡	263	赤田山崎跡
36	赤田山崎跡	74	赤田山崎跡	112	熊鷹寺	150	赤田山崎跡	188	赤田山崎跡	226	赤田山崎跡	264	赤田山崎跡
37	上野	75	熊鷹寺	113	熊鷹寺	151	赤田山崎跡	189	赤田山崎跡	227	赤田山崎跡	265	赤田山崎跡
38	上野山崎跡	76	上野	114	赤田山崎跡	152	赤田山崎跡	190	赤田山崎跡	228	赤田山崎跡	266	赤田山崎跡

第2表 周辺の中世遺跡一覧



第7図 周辺の中世遺跡分布

(大日本帝國陸地測量部発行 大正3年「津川」 大正8年「新高」「新党田」「新津」 1:50,000原図,旧河道は[大矢・加藤1984]を参照.)

亡後、建武新政権の成立と南北朝の対立、観応の擾乱といった中央政治の変動によって保持者が佐々木貞氏、細川頼和などに変わり、大見氏に戻った史料は確認されていない。大見氏は白河荘地頭職を失ったものの、白河荘に一分地頭職ともいうべき下級の地頭職を保持していた可能性があり、これを根拠として国人領主として成長していった[樋口2004]。

山浦四箇条や安田条、水原条などの地頭職を得た大見氏一族は、領域支配を強め1394～1427(応永年間)年には山浦氏、安田氏、水原氏を名乗り国人領主へと転化する。なお、大見氏嫡流は大見家経に子がなく、1398(応永5)年に水原氏から初犬丸を養子として迎えた後に水原氏に統合されたとされている[樋口2004]。白河荘には安田氏、水原氏以外にも1504～1521(永正年間)年に作製された『蒲原郡段銭帳』に現れる堀越氏や原氏の他に下条氏が存在しており、大見氏一族を含め「白河之面々」と呼ばれる集団をなしていた。白河荘を含む阿賀北地方は府中の守護・守護代の勢力に対して強い独立性を保持していた。これに対し14世紀末、上杉房定が越後守護になると守護勢力の地方扶植が図られ、下条山浦には上杉憲重が入部し、山浦上杉氏となった。越後守護上杉頼方と守護代長尾邦景の争いで生じた応永の大乱は阿賀北でも国人層を二分した争乱となった。1423(応永30)年には大見氏一族を含む白河荘の国人領主「白河之面々」や加地氏、新発田氏が守護代側に寝返り山浦の守護勢力や中条氏と敵対している。この際、堀越氏の拠点である堀越館と思われる「堀越之要害」が陥落している。応永の大乱は守護上杉房方の敗北によって終結するが、その後も大見氏一族は阿賀北地方に勢力をのばす守護・守護代勢力からの強い影響を受けつつ戦国期をむかえる。

B 白河荘の中世遺跡

阿賀野川右岸における中世遺跡は、福島潟以南の平野部と笹神丘陵、福島潟以東の平野部、新潟砂丘に分布する(第7図)。その多くが近代の集落近くに位置し、当地域においても中世から近世にかけての集村化の動き[坂井1997]があったものと考えられる。大坪遺跡(219)では、12世紀の水路が明治期まで維持・利用されており[荒川¹⁾2006]、当地域には中世の景観が色濃く残されている。当地域における中世遺跡の概要については、大坪遺跡[荒川¹⁾2006]や山口遺跡[荒谷²⁾2010]などで詳細が記されていることから、ここでは白河荘の区分と遺跡分布について述べることにする。

白河荘の区分を検討した中野崑任は、山浦四箇条を阿賀野市折居から大室にかけての地域とし、折井川流域をA地域(山間部をAⅠ区、平野部をAⅡ区)、白川(大荒川)流域をB区、安野川流域をC区とした。また、安田条は旧安田町周辺とされた。水原条・舟江条については、北限を飯野一舟居-飯塚-榎舟渡を結ぶ線、東限を榎舟渡-千原-天神堂を結ぶ線、西限を阿賀野川と推定した。そして、安田条との境界に当たる南限は「境塚が一直線上に点在して南境を形成している」として、六日野の南側を通るラインを推定した(第8図)[中野1976]。同論文にその根拠として写真に示された「下条の境塚」は、境塚遺跡の北東約300mにある三辺稲荷神社のことであり¹⁾。この神社は明治ころに水原の豪農の旧佐藤家(本泉屋)が私邸内の祠をこの地に移したのが始まりで、それ以前は畑だけの土地であった²⁾。したがって、中野の言う塚はなかったと判断される。しかし、昭和初期の土地更生図を見ると、この周囲には1955(昭和30)年の町村合併以前の水原町大字下条・堀越村大字百津・京ヶ瀬村大字前山の3か所に「境塚」の小字があり、

1) 新潟県立歴史博物館に寄贈された中野崑任の写真に同一のものがあり、この前後の写真を含めて現況と照合し、確認した。

2) 阿賀野市教育委員会の遠藤慎之介による神社を管理していた宮尾氏からの聞き取りに基づく。三辺稲荷神社周辺はかつて旧佐藤家の所有地であり、宮尾氏は祠の移設にあたりその管理を任せられたという。



第8図 白河荘の区分 (中野 1976 に加筆)

しかも3町村が接する境界に位置する(第6図)。したがって、「境塚」の字名これら町村の境界を指し示し、さらに中世白河荘の水原条と安田条の境界に由来する可能性はあろう。

中野によって推定されたこれらの区域には、いくつかの遺跡集中域を見いだすことができる(第6図)。

水原条・舟江条の範囲では、阿賀野川旧河道右岸、駒林川流域、そして水原市街に集中域が認められる。阿賀野川旧河道②右岸には下ノ橋館跡(180)を中心として、町道上遺跡(174)・柄目木遺跡(178)・村前東A遺跡(176)などの集落遺跡が集中する。町道上遺跡は13～15世紀の方形竪穴状遺構や井戸などがあり〔古澤2002〕、村前東A遺跡では13世紀中葉～14世紀前半の掘立柱建物を中心とする集落である〔加藤^{ほか}2010〕。駒林川流域には、駒林要害跡(164)を中心に土居内西遺跡(165)や石仏(71～74)がある。土居内西遺跡は14世紀を中心とし、縦板組の井戸が検出されている〔古沢2005〕。旧水原町の中心である水原市街には水原氏の居館と推定される水原館跡(147)と下条氏の居城とされる下条館跡(159)を核とし、遺物散布地や石仏が数多く残る。水原館跡は壕、溝、柵列、掘立柱建物、ピットが検出され、13～15世紀の珠洲焼、瓷器系陶器、常滑系陶器、瀬戸美濃焼、茶臼などが出土した〔川上1977〕。

水原条・舟江条と安田条との境界に位置する境塚遺跡の周辺には、ほぼ同時期の山口野中遺跡(184)や三辺稻荷遺跡(185)のほか、百津潟を挟んだ西側に七島館跡(186)がある。山口野中遺跡では境塚遺跡D区で見つかった道の続きが確認されており〔古澤^{ほか}2011〕、境塚遺跡を中心に少なくとも500m四方に及ぶ遺跡群が存在していた可能性が高い。

安田条の範囲では、野地城跡(199)・堀越館跡(214)・大坪遺跡(219)を南北に結ぶに範囲に遺跡が

集中する。現代の国道 49 号線に沿うが、その西側に蛇行する旧河道で結ばれていたことが読み取れる。堀越館跡は 1423 (応永 30) 年に陥落した「堀越之要害」に比定され、堀跡・区画溝・廃棄土坑・土坑墓とともに、白磁・青磁・中国天目茶碗などの舶載品や茶入れ・茶壺・香炉・水注・茶臼などの茶道具が見つかった〔小田^{ほか} 2002〕。近接する鴨深甲遺跡も堀越館跡と同時期の集落である〔高橋保雄^{ほか} 2006〕。大坪遺跡は 11 世紀後半～ 12 世紀を中心とし、四面廂付総柱建物や屋敷堂と見られる木棺墓など多数の遺構が検出された〔荒川^{ほか} 2006〕。遺跡と城氏の盛衰と一致することや、同時期の横峰経塚 (223) との位置関係などから城氏に関係した遺跡と推定される〔荒川 2007〕。遺跡の南地区では 13 世紀後半～ 14 世紀の竪穴状遺構も見つかっている。西側の阿賀野川右岸には分田館跡 (250) を中心とする集中域があり、玉泉寺の石仏 (248) など多くの石仏もある。江戸期には三国街道が通り、新津方面から阿賀野川を渡る分田の渡しがあった場所である〔小松^{ほか} 1995〕。旧安田町の中心街には安田氏の居城とされる安田城跡 (234) を中心とする集中域が認められる。更に南側には、六野瀬館跡 (238) や赤坂山砦跡 (241) を中心とする集中域があり、笹神古窯の一つで 13 世紀中ころ～後半に操業した瓷器系窯の赤坂山中世窯跡 (240) 〔小田 2002〕とその製品の積み出し場と推定される六野瀬遺跡 (266) 〔石川^{ほか} 1992〕を含む。

山浦四箇条の範囲のうち折井川流域の A I 区には、女堂館跡 (87) や上の山塚群 (83) を中心に石仏や製鉄跡が分布する。一方、A II 区には北側の北沢窯 (51) に代表される一群と南側の狼沢中世窯跡 (106) をはじめとする一群の窯跡があり、笹神古窯の大半が集中すると言ってよい。これらのうち、北沢窯・背中炙窯跡は須恵器系窯、狼沢 1 号窯・兎沢中世窯跡 (108)・堤上窯跡 (107) は瓷器系窯である。また、これらの周囲には製鉄跡も多数分布しており、この地区が大規模な生産域であったことが分かる。山浦四箇条の中心とされる B 区は、寺社・墓・石仏といった宗教関連遺跡が多数集中する。華報寺はその中心的な寺院であり、境内には多数の石仏や 1299 (永仁 7) 年銘時宗板碑、鎌倉期の大見定行の塔と推定される法鏡印塔などの石造物 (130) がある。華報寺背後の急斜面には目洗沢中世墓域 (131) や経沢中世墓域 (129)、前面には蓮台野中世墓域 (133) が営まれた。1283 (弘安 6) 年の大見行定諱状では笹神丘陵での殺生禁断が記されているが、この背景にはこの地が霊場であることが考えられる。蓮台野では戦後の開墾の際に多数の石仏が出土しており、石仏の生産地と推定されている〔中川 1959〕。また、阿賀野市内にある 207 基のうち 203 基が出湯華報寺周辺にある 120 基と同一型式であり、華報寺周辺で作られた石仏が白河荘や周辺に広がっていた可能性がある〔水澤 2002〕。本地域には製鉄跡も数多くあるが、窯跡は瓷器系窯である権兵衛窯跡 (112) のみが確認できる。C 区では平野部側の大家城跡 (209) 及び五頭山麓の村杉城跡 (142) の周辺に製鉄跡や石仏が分布するが、窯跡は確認できない。

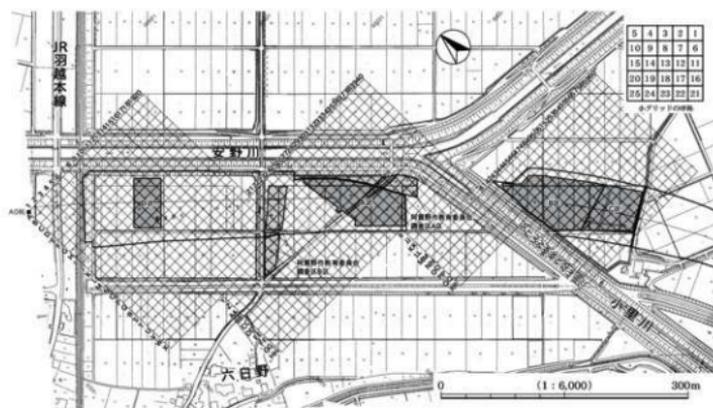
以上のように各地域で認められた多数の遺跡集中域は、中世白河荘の代表的な村落を表しているものと考えられ、城館・集落遺跡・石仏等で構成され、地域によって窯跡・製鉄跡・石仏・塚が集中するなどの特徴がある。こうした遺跡集中域は、河川や潟を利用した内水面交通で有機的に結びついていたものと推測される。

第三章 調査の概要

1 グリッドと調査区の設定

壕跡の道路建設予定地内における総面積は約 38,461m²である。このうち 2009 年度は 18,176m²の調査を行った。また、調査区に隣接して阿賀野市教育委員会が県営湛水防除事業（安野川拡幅工事）に伴い、2,000m²を調査した。調査区は便宜的に A・B・C・D 区の 4 か所に分けた。A 区は新六日野安野川橋から小里川間の 5,000m²、B・C 区は小里川右岸堤下から土橋川排水機場間の 10,876m²、D 区は新六日野安野川橋から JR 羽越本線間の 2,300m²である。

グリッドの設定は、各調査区の遺構・遺物の出土状況などの対比を考慮して、遺跡全体を網羅するように配置した（第 9 図）。グリッドの方向は真北を基準に設定した。国家座標の X 座標 = 203340.000（北緯 37 度 49 分 38.53400 秒）、Y 座標 = 62300.000（東経 139 度 12 分 39.61399 秒）を基点（A0 杭）とし、南北・東西それぞれ 10m の方眼を組み、大グリッドとした。大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東へ向けて算用数字（1・2・3…）、北から南へ向けてアルファベット（A・B・C…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「10K」「30AA」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を 2m 四方に 25 分割した。小グリッドには 1～25 の番号を付し、北東隅を 1、南西隅を 25 となるように配列した。グリッドは、大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「10K2」「32AA15」のように表記した。なお、本調査区と阿賀野市教育委員会の調査区とは、グリッドの設定・呼称を統一した。



第 9 図 グリッド設定と調査区

2 層 序

遺跡は阿賀野川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約7～7.5mを測る。現況は水田である。調査区は昭和初期の耕地整理・開田により、遺物包含層の大部分が削平されている。このため、基本的には表土直下が遺構検出面となる範囲が大半を占める。基本層序は、Ⅰ～Ⅴ層に分層し、調査区ごとの様相に応じて細分した(第10図)。また、下層確認調査によりA区では旧河川であるSR1327B～D、D区ではSR2444を検出し、これらの堆積層からも遺物が出土した。

Ⅰ a 層 表土・耕作土。

Ⅰ b 層 水田床土。鉄分を多量に含む。古代・中世・近世以降の遺物が混在して出土する。

Ⅰ c 層 盛土。A区西側からD区東側にかけては、旧地形の落ち込みが認められる。昭和初期の耕地整理に伴い、この低地部分に盛土が施されたものと考えられる。

Ⅱ 層 灰黄褐色シルト層。A～C区に堆積が認められる。Ⅲ層に類似するが、色調はⅢ層に比べ明るい。粘性は弱く、しまりが強い。遺物の出土状況はⅠ層と同様であり、近世以降～昭和以前の耕作土と考えられる。

Ⅲ 層 調査区により層厚・色調が異なる。A区では灰色を基調とし、色調の違いからⅢ a 層(灰白色シルト)・Ⅲ b 層(灰黄褐色シルト)・Ⅲ c 層(褐灰色シルト)の3層に細分した。これらは調査区北西側に堆積が認められる。Ⅲ c 層で近世の遺物が出土している。B区では暗褐色シルト層が6～10cmの厚さで堆積し、近世陶磁器が出土している。A・B区に堆積するⅢ層は、出土遺物から近世以降の遺物包含層と考えられる。

D区では、層厚20～30cmの灰黄褐色シルト層が東側に堆積する。遺物は中世の土師質土器が1点出土した。試掘確認調査でもA・D区の中間部分で褐色～暗褐色を呈する中世の遺物包含層が確認されており、D区のⅢ層は確認調査で検出した中世の遺物包含層に相当するものと考えられる。ただし、当区のⅢ層はD区とA区との間にあったSR2444(図版61)の上部に位置することから、地点によっては近世以降の遺物包含層も含まれるものと考えられる。

Ⅳ 層 土質・色調の違いからⅣ a 層(灰白色シルト～灰黄褐色シルト)、Ⅳ b 層(黄褐色砂質シルト)に細分した。古代・中世の遺構検出面である。A区ではSX129(図版46)などの縄文時代晩期の土器が出土しており、この時期の包含層である可能性が高い。

Ⅴ 層 黄褐色～灰白色シルト層で、無遺物層である。

河川堆積層 A区では調査区の西端で南北に流れるSR1327を、その下層から古い流路であるSR1327B～Dを検出した(図版45)。SR1327Dは深さが3m以上に及び、川底付近では青黒色・黒褐色砂質シルトの植物泥炭層と青灰色シルトが互層をなす。SR1327Cは15層から直径約20cm、長さ3m以上の流木が出土した。また、覆土上～中層には、灰白色・黄褐色砂質シルトが厚く堆積する。SR1327Bも同様の堆積状況である。SR1327B～DはⅣ層に覆われていることから古代以前のものと考えられ、SR1327はⅣ層を侵食することから古代～中世に機能していたものと推定される。

D区のSR2444は、土層断面から西側から東側に向かって流路の堆積と移動が進んだことが分かる。西側最下層の10層から出土した直径36cmの流木の較正暦年代は、縄文時代晩期後葉の値を示す(第Ⅶ章3)。3a・3i・8h・8j 層から縄文時代晩期後葉に所属する遺構・遺物を検出しており、これと同時期に

機能していたものと考えられる。柱状図①の3a・3l・3m層は褐色シルトであり、この下層に6a層が厚く堆積する。8層は灰白色砂と浅黄褐色砂質シルトが互層となる。柱状図②では、8b②～③・④層は灰黄褐色砂質シルト・灰白色砂・黄褐色砂質シルトが堆積し、8h・8j層は褐色砂質シルトで8h層を挟んで堆積する。この間に流路は4度ほど東へ小さく移動し、遺物の出土状況から比較的短期間に堆積したものと推定される。1～3層の段階では、更に東側へ移動する状況がうかがわれる。覆土は1層下位までは灰白色砂と浅黄褐色砂質シルトが認められ、上位の1a～c層は灰白色シルトが堆積する。この時期には流路が3T付近を流れていたものと考えられる。また、1層上面にはIV層の堆積が認められることから、縄文時代晩期以降、古代以前の時期に所属するものと推定される。

3 本書の記述方針

本書では、A区、D区、B・C区に分けて遺構・遺物の記述を行う。遺構・遺物の説明は、本文・観察表・図版・写真図版を用いて行う。遺構は種別ごとに記述し、掲載するものとする。詳細については観察表に委ねることとし、特徴的な点やほかの遺構との関係を中心に述べることにする。遺物は土器・土製品・石製品・金属製品・木製品の順に種別ごとに記述し、代表的なものを掲載する。

A 遺 構

遺 構 番 号

遺構個々の名称は、遺構種類・番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構種類は第IV章1Aのとおり略称を用いた。遺構番号は各区共通で1番から通しナンバーを付したが、調査中に遺構でないと判断したものは欠番とした。なお、掘立柱建物の番号はSB1～34を付し、これを構成する個々のピット番号は検出時に付した遺構番号をそのまま用いた。

図 版

遺構の図版は、全体図・分割図・個別図で構成される。全体図は1/400で表し、A区は近世以降の遺構を除いた1/500もある。分割図は調査範囲を分割して1/200で表した。個別図は平面図・セクション図・エレベーション図で構成される。掘立柱建物は平面図・エレベーション図を1/80、セクション図を1/40で表した。井戸・土坑・ピットは1/40ないし1/50の平面図・セクション図で表した。溝はセクション図のみを個別図版に表し、セクションポイントは分割図に示した。セクション図の土層の色調は『新版標準土色帖』[小山・竹原1998]に基づいた。写真図版は個別図にある遺構について掲載するよう努めたが、すべてを網羅していない。冒頭に全体写真と分割写真を掲載した後に、地区ごとに遺構個別図を掲載した。

観 察 表

観察表の項目は、位置・検出層位・所属時期・形態・規模・底面標高・覆土の堆積形状・出土遺物・切り合い関係などである。検出層位とは遺構を確認した際の遺構上面の層位である。深度は上端標高の最高値から底面標高を引いた数値である。切り合いは「<」「>」「=」「≒」の記号を用いて示した。記号の内容は、「< P100」とはP100に切られ、「> P110」とはP100を切っていることを示す。また、「= P100」はP100と同時期であり、「≒ P100」はP100と切り合い関係があるものの、新旧が不明なことを示す。

B 遺 物

遺物の説明は、観察表ですべてについて記載し、代表的なものについて本文で解説する。土器・木製品は遺構出土のものについて述べた後に包含層出土のものについて記述し、その他は器種別に記述し、図面図版の縮尺率は、土器が基本的に1/3であり、一部について1/4で表した。木製品は大きさに応じて1/4・1/8・1/10で表した。そのほかも大きさに応じて2/3・1/2・1/3・1/4・1/5で表した。写真図版は図面図版とほぼ同じ縮尺ですべてを掲載した。観察表は図版に掲載したすべての遺物について観察項目を設定し、その内容を記した。なお、不明なものは空白とした。出土地点及び層位はすべて記した。

第四章 A 区 の 調 査

1 遺構・遺物の検出状況

遺構はほぼ全域で検出し、その内訳は掘立柱建物 25 棟、井戸 19 基、土坑 83 基、ピット 1,417 基（うち掘立柱建物の柱穴 264 基）、溝 91 条、集石 1 基、自然流路 1 条、性格不明遺構 23 基である。遺構分布は調査区中央に多く、北東側及び南西側で少ない（図版 2）。遺構の重複は複数回認められる。出土遺物から古代・中世・近世以降の遺構が存在する。古代の遺構は SB23 のほかは明確ではない。大半の遺構は中世のもので、堀（SD101）で囲まれた居館から多数の掘立柱建物や大型井戸を検出した。近世以降の遺構には、SE164 のほか、27BB～34CC グリッドにかけて東西方向に伸びる現代の市道と、これと直行する水田の畔がある。市道と水田は昭和初期の土地更生図に認められるため、近代以降のものと考えられる。また、27・28CC～DD グリッドには近世以降の自然流路がある。なお、近世以降と判断した遺構については図版 1 にのみ掲載する。

遺物は、縄文時代の土器 4 点・石器 3 点、古代の土器 661 点、中世の土器と陶磁器 513 点・木製品 662 点、金属製品 27 点・製鉄・鍛冶関連遺物 35 点、石器・石製品 12 点、土製品 6 点、焼骨 5 点が出土した。縄文時代の遺物は 27～30DD～GG グリッドに集中しており、SR1327C・D などの自然流路近くで人間活動が行われていたことを示している（図版 45）。古代の遺物は SR1327 より東側で出土した。中世の遺物は遺構覆土からの出土が多い。

2 古代～中世の遺構

A 分 類

遺構の機能を検討するため、遺構の平面・断面形態（第 11 図）[荒川・加藤 1999]・堆積形状（第 12 図）[荒川 ほか 2004] について分類した。また、覆土は土質から A～E に分類した（第 3 表）。遺構種別はこうしたデータを考慮して以下のように分類した。

掘立柱建物（SB）

柱穴が方形ないし長方形で一定の間隔で並ぶものを掘立柱建物とし、25 棟認定した。認定した掘立柱建物に含まれる柱穴はピット 1417 基中 264 基で、全体の約 19% に過ぎない。こうしたことから、更に多数の掘立柱建物が存在していたものと考えられる。建物型式は [宮本 1999] に従い、梁間一間型建物（第 13 図）と総柱建物に分類する。各掘立柱建物の計測値について観察表に示した。規模及び面積は、柱穴下端の中心及び柱根下端の中心を基点として計測した（第 14 図）。梁行柱間長及び桁行柱間長は最も長いものを示したが、柱間長の差が大きい場合は複数の長さを記した。廂がある建物の場合は、廂長のほか、主屋の面積を計測した。主軸方位は、主軸長の方向について真北を基準として東西に傾く角度を計測した。

井 戸（SE）

深さは 1m 以上で、粘性の高いシルトが堆積する特徴などから井戸を認定した。深さ 4m 以上のもの

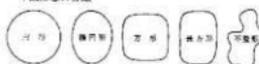
A	褐色シルトが主体
B	黒褐色シルトが主体
C	黄褐色シルトが主体
D	灰黄褐色シルトが主体
E	褐色シルトが主体

第 3 表 覆土の分類

2 古代～中世の遺構

円形	長径が短径の1.2倍以上のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

平面形態の分類



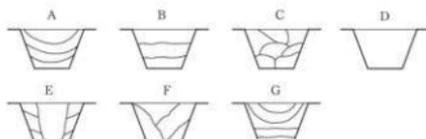
断面形態の分類



台形状	底部に平面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
船状	底部に平面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
平円状	底部に平面を持たない物状で、急斜度で立ち上がるもの。
U字状	検出面の長径よりも深さの感が入さく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
筒状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内側した後に垂直ないし外側に立ち上がるもの。
V字状	点的な底面を持ち、急斜度で立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。

第11図 遺構の平面・断面形態の分類

A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B 水平	複数層が水平に堆積する。
C ブロック状	ブロック状に堆積する。
D 単層	覆土が単一層のもの。
E 柱状	柱状と思われる土層が堆積するもの。
F 斜位	斜めに堆積するもの。
G 水平-レンズ	覆土下部は水平に、上部はレンズ状に堆積するもの。

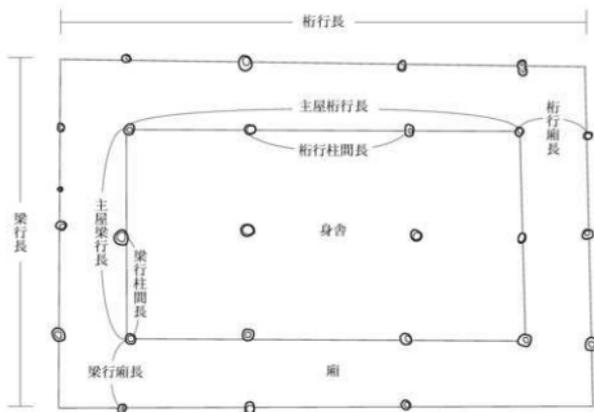


第12図 遺構覆土の堆積形状の分類



梁間一間型住居下層類型

第13図 梁間一間型建物 [宮本1999]



第14図 掘立柱建物の計測位置 [荒川ほか2006]

を大型井戸とした。井戸側の分類は [宇野 1982] を参考にした (第15図)。

土 坑 (SK)

深さが1m以下で、平面・断面形や覆土の特徴から土坑とした。

炭化物集中範囲 (SC)

浅い掘り込みを持ち、内部に炭化物が濃密に堆積するもので、地床炉の可能性ある。

溝 (SD)

大小の溝があり、合計193条検出された。上端幅は0.63～9.76m、深度は0.02～0.74mに取まる。

ピ ッ ト (P)

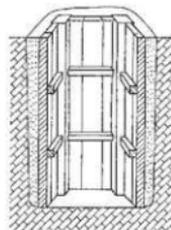
平面形や堆積形状の特徴から、柱穴の可能性が高いものや小型の遺構をピットとした。

自然流路 (SR)

大小の河川が埋没したもの。

性格不明遺構 (SX)

平面形が不整形で、底面が一定しないなど定形的な上記以外の遺構を性格不明遺構とした。



第15図 BM類 縦板組隅柱横横留 [宇野 1982]

B 掘立柱建物 (図版8～14・68・73～76)

1) 概 要

掘立柱建物は25棟を検出した。すべてSD101より北側にあり、30～33DD～FFグリッドと27～32Z～CCグリッドで東西方向に連なるように分布する。建物型式の内訳は梁間一間型建物14棟、二面廂付梁間一間型建物10棟、総柱建物1棟であり、梁間一間型建物が多数を占める。主軸方向は13～35度東偏するものと、57～86度西偏するものがある。面積はSB8の3.26m²が最も小さく、SB9の76.08m²が最も大きい。所属時期はSB23が古代であり、これ以外は中世のものと考えられる。

2) 各 説

SB1 (図版7・8・68・73)

31・32EE～FFグリッドに位置する。梁間3間、桁行3間の二面廂付梁間一間型建物I a型である。桁行柱間長は3～3.2mあり、当遺跡のものでは広い部類である。P125の底面とP152覆土から礫が出土し、礎板や根固めに用いたものと見られる。SB14と重複するが、新旧関係は不明である。

SB2 (図版6・8・68・73)

30・31DD～EEグリッドに位置する。梁間4間、桁行5間で、両側に妻柱P277・889を持つ。二面廂付梁間一間型建物II a型と見られるが、両妻柱と主屋側柱のP276・279・309・1213は他の側柱より規模が小さく廂柱と類似するため、これらも廂に含めてI a型で四面廂付の可能性もある。棟通りにSK858が位置するが、建物との関係は不明である。また、SE317より古い。

SB3 (図版6・9・68・73)

29・30DD～EEグリッドに位置する。梁間3間、桁行4間の二面廂付梁間一間型建物I a型である。長軸が南側に隣接するSD378とほぼ並行する。柱痕幅は15～24cmである。SB4・5と重複するが、新旧関係は不明である。

SB4 (図版6・9・68・73)

29・30DD～EEグリッドに位置する。梁間3間、桁行3間の二面廂付梁間一間型建物I a型である。長軸が南側に隣接するSD378とほぼ並行する。柱痕幅は14～20cmである。SB3・5と重複するが、新旧関係は不明である。

SB5 (図版6・10・68・73)

29・30DDグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の梁間一間型建物I a型である。長軸が南側に隣接するSD378とほぼ並行する。柱痕幅は14～20cmである。SB3・4と重複するが、新旧関係は不明である。

SB6・7 (図版5・10・74)

30・31Z・30AAグリッドに位置する。SB6・7はいずれも梁間1間、桁行2間の梁間一間型建物I a型であり、規模・柱間長がほぼ同じである。SB6がSB7より3度西偏する。両者の新旧関係は不明である。

SB8 (図版5・10・74)

30Z～AAグリッドに位置する。梁間1間、桁行1間の梁間一間型建物I a型である。桁行長が2.14mで小型のものである。

SB9 (図版5・11・74・75)

28・29AA～BBグリッドにあり、SD366とSD1613の間に位置する。梁間3間、桁行4間の二面廂付梁間一間型建物I b型であり、一方の妻側面に妻柱P1184を持つ。桁行柱間長は2.5～2.76mである。SB10・11との新旧関係は不明である。

SB10 (図版5・10・74・75)

28・29AA～BBグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の梁間一間型建物I a型である。桁行柱間長は1.96～3.12mで不揃いである。SB9・11との新旧関係は不明である。

SB11 (図版5・10・74・75)

28・29AA～BBグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の梁間一間型建物I a型である。桁行柱

間長は1.57～2.32mで、中央が広い。SB9・10との新旧関係は不明であり、SK403より古い。

SB12 (図版5・11・74・75)

28Zグリッドに位置する。SB13の東側に隣接する。梁間2間、桁行2間の総柱建物である。桁行柱間長は2.48～3.54と差がある。SR1327が埋積した後に構築している。

SB13 (図版5・11・75)

27・28Y～AAグリッドに位置する。梁間4間、桁行5間の二面廂付梁間一間型建物Ⅱb型と考えられる。両方の妻側面に妻柱P1653・P1339を持ち、主屋の北側は総柱となる。桁行柱間長は1.97～2.18mである。重複するSD1663より古い。

SB14 (図版7・12・68・73)

32EE～FFグリッドに位置する。梁間1間、桁行2間の梁間一間型建物Ⅰa型である。柱穴の規模は小さい。SB1との新旧関係は不明である。

SB15 (図版6・12・68・73)

30・31DDグリッドに位置し、SB2の西側に平行に並ぶ。梁間1間、桁行2間の梁間一間型建物Ⅰa型である。桁行長が4.08mの小型のものである。SK270との新旧関係は不明である。

SB16 (図版6・12・73・74・76)

31・32BB～CCグリッドに位置する。梁間3間、桁行4間の二面廂付梁間一間型建物Ⅰb型であり、北側の妻側面に妻柱を持つ。柱穴から土師質土器皿(図版31-23)と青磁椀(図版31-24)が出土した。SD983より新しいが、SB17・18、SE1007との新旧関係は不明である。

SB17 (図版6・12・73・74・76)

31BB～CCグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の梁間一間型建物Ⅰa型と考えられるが、2基の柱穴を検出できなかった。SK973より新しいが、SB16・18との新旧関係は不明である。

SB18 (図版6・13・73・74・76)

31CC～DDグリッドに位置する。梁間1間、桁行4間の梁間一間型建物Ⅰa型と考えられるが、3基の柱穴を検出できなかった。SK973より新しいが、SB16・18との新旧関係は不明である。

SB19 (図版6・13・73・74・76)

30・31BB～CCグリッドに位置する。梁間3間、桁行4間の二面廂付梁間一間型建物Ⅰa型である。SD773より古く、これと重複する側柱2基を検出できなかった。P772はSB21と重複するが、新旧関係は不明である。また、SB18・22との新旧関係も不明である。

SB20 (図版6・13・73・74・76)

31AA～BBグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の梁間一間型建物Ⅰa型である。SK1882より古く、北側で重複するSK1881よりも古い可能性がある。

SB21 (図版6・13・74・76)

30・31BBグリッドに位置する。梁間3間、桁行3間の二面廂付梁間一間型建物Ⅰa型である。梁行廂長は0.86～1.04mであり狭い。P772はSB19と重複するが、新旧関係は不明である。また、SB22との新旧関係も不明である。

SB22 (図版6・14・74)

29・30BBグリッドに位置する。梁間1間、桁行3間の梁間一間型建物Ⅰa型である。桁行柱間長は2.7～3.12mで比較的広い。SB19・22との新旧関係は不明である。

SB23 (図版 6・14・76)

27・28DD グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物 I a 型である。P1099 から須恵器 (図版 31-2・3) が出土したことから、古代に位置付けられる。また、SD1110 より新しいことから、この溝も古代に位置付けられる可能性が高い。

SB24 (図版 5・14・74・75)

28AA～BB グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物 I a 型である。SD415 より古い。SB9～11 との新旧関係は不明である。

SB25 (図版 5・14・74・75)

27・28AA グリッドに位置する。梁間 3 間、桁行 3 間の二面廂付梁間一間型建物 I a 型である。SR1327 の埋積後に構築されている。SD1207 より古いと考えられる。

C 井 戸 (図版 15・23・70・77～83)

1) 概 要

大型井戸 2 基、井戸 15 基を検出した。大型井戸 SE1007 は SD101 より北側の 31・32BB～CC グリッドにあり、SE895 は SD101 と重なる 31FF グリッドにある。上端長径は 5m 以上、深さは 4m 以上あり、井戸側が良好に遺存する。そのほかの井戸は、掘立柱建物の周辺と SD101 より南側にも分布する。上端長径は 1～2.5m である。いずれも素掘りで、水溜を持つもの (SE1329)、底面から円形板が出土したもの (SE401・402)、底面から鎌が出土したもの (SE232)、網代が出土したもの (SE1212) がある。

2) 大 型 井 戸

SE895 (図版 15・16・77・78)

31FF グリッドに位置する。掘形の平面形は中央部が楕円形で、東西端が SD101 内に伸びるように影らむ不整形を呈する。規模は上端長径 8.4m、深さ 4.94m を測る。SD101 の埋積後にこれと重複して構築されたものだが、東西端は SD101-2d 層上部及び 6f 層上部から SD101 の掘形に沿って掘り直し、中央に長径 4m の穴を掘削したため、このような不整形になったものと考えられる。断面形は SD101 掘形底面から急斜度に落ち込む階段状であるが、底面は漏斗状にすぼむ。

覆土は 1～33 層に分層した。1～4 層は埋積の最終段階のくぼみに溜まった自然堆積層である。5～7・11～14・16 層は井戸側の盛朽により井戸側の周囲に詰めた土が崩落したものである。17～22 層は井戸側の内部に溜まった堆積土であり、井戸側上部から崩落した大量の木材が出土した。8～10・15・25～28 層は構築時に井戸側の周囲に詰めた埋め土であり、東西端では掘り直した SD101 を埋め戻した様子を観察できる。32・33 層は水溜めの外側に詰めた埋め土である。32 層には湧水の浄水を目的として拳大の礫を敷き詰めている。30・31 層は水溜め内部に詰めた埋め土であり、30 層にも湧水の浄水を目的として拳大の礫を敷き詰めている。

井戸側は、板材を縦方向に組み、横棧で保持した縦板組隅柱横棧留 (第 15 図) [宇野 1982] で、標高 5.5m 以下の下部のみ残存するが、南東側は崩落が著しい。横棧は目違ひ柄で組み、横棧の間に端部を L 字形に加工した隅柱を入れて補強している。水溜として底を外した曲物 2 個 (図版 40-217・218) を重ねて用いている。井戸側の北東面は北から約 22 度東偏する。最下部の 1 段目の縦板は幅 6～10cm、長さ約 20～80cm の板材を均等に並べている。2 段目の縦板は約 1.6～2m の長い板材が中心であり、幅は

不ぞろいである。3段目は長さ約80cm、幅10cm前後の短い板材を用いている。井戸側底面は横棧を入れた外寸で0.78～0.8mである。井戸側底面と水溜上端はほぼ同一レベルであり、両者の間と水溜底面に礫を敷きつめている。

出土遺物は、大量の井戸側部材（図版38～40-175～213）のほか、8層から土師質土器小皿（図版31-25）、1層から青磁碗（図版31-26）・瀬戸折縁深皿（図版31-27）、土師質土器柱状高台（図版31-28）のほか、漆塗板（図版40-214）や箸（図版40-215）などが出土した。

SE1007（図版17～19・70・78・79）

31・32BB～CCグリッドに位置する。掘形の平面形は円形で、規模は上端長径5.96m、深さ5.46mを測る。断面形は漏斗状で、中段に平坦面1か所を検出した。

覆土は1～28層に分層した。1層は埋積の最終段階のくぼみに溜まった自然堆積層である。2～8層は井戸側の腐朽により井戸側の周囲に詰めた土が崩落したものである。9～12層は井戸側の内部に溜まった堆積土であり、11層以下から井戸側上部から崩落した大量の木材が出土した。13～24層は構築時に井戸側の周囲に詰めた埋め土であり、25・26層は水溜の外側に詰めた埋め土である。25層には湧水の浄水を目的として拳大の礫を敷き詰めている。27・28層は水溜め内部に詰めた埋め土であり、27層も湧水の浄水を目的として拳大の礫を敷き詰めている。

井戸側は、標高5.7m以下の下部のみ遺存するが、長さ3.5mにわたりほぼ完全な形で検出した。板材を縦方向に組み、横棧で保持した縦板組隅柱横棧留（第15図）〔宇野1982〕である。横棧は目違いの柄で組み、横棧の間に端部をL字形に加工した隅柱を入れて補強している。水溜として底を外した曲物1個を用いている。井戸側の北東面は北から約30度東偏する。縦板は1段目から3段目まで遺存する。幅15～28cm、長さ175～199cmの薄板を前後に2～4枚ずつ重ね、隙間なく並べている。井戸側底面は横棧を入れた外寸で0.97～1mである。井戸側底面と水溜上端はほぼ同一レベルであり、両者の間と水溜底面に礫を敷きつめている。また、水溜底面から曲物（図版44-265）が出土したことから、井戸使用時に利用されていたものが落下したものと推定される。

出土遺物は、大量の井戸側部材（図版41～44-219～227・241～252・255・261・262）のほか、土師質土器皿・小皿（図版31-29～32）・釘（図版37-144）・曲物（図版44-263・264）・箸（図版42-230～235）・棒状木製品（図版42-238）・木匙（図版42-239）・下駄歯（図版43-254）などが出土した。箸（230・232）と木匙（239）は前後に重なる縦板の間や縦板と横棧の間から出土したことから、井戸側構築時に意図的に差し込んだものと推測される。

3) 井 戸

SE102（図版20・80）

32FFグリッドに位置する。上端は長径182cmの円形で、深度は157cmを測る。覆土は、1～3層が自然堆積による黒褐色土層、4～9層が地山に由来するにぶい黄褐色シルト層、10～13層が灰黄色シルト層に大別される。9～11層を切る噴砂脈があるが、32GGグリッド周辺で多数確認した噴砂脈と同一のものであり、これに伴う地震が中世以降に起こったものであることを示している。遺物は出土していないが、ほかの中世の井戸と覆土や掘形の特徴が類似することから、中世のものと考えられる。

SE164（図版20・80）

30GGグリッドに位置する。上端は長径150cmの円形で、深度は104cmを測る。覆土は、1～3層

が自然堆積による黒褐色土層、4～9層が地山に由来するにぶい黄褐色シルト層に黒褐色土がブロック状に混入する層、10～13層が灰黄色シルト層に大別される。9～11層を切る噴砂脈があるが、32GGグリッド周辺で多数確認した噴砂脈と同一のものであり、これに伴う地震が中世以降に起こったことを示している。遺物は土師質土器皿・小皿（図版31-33～35）のほか、4層から近世以降の陶磁器が出土したことから、近世以降のものである可能性が高い。

SE165（図版20・80）

30GGグリッドに位置する。上端は長径172cmの円形で、深度は106cmを測る。覆土は、1層が自然堆積による黒褐色土層、2～8層が地山に由来するにぶい黄褐色シルト層に黒褐色土がブロック状に混入する層、9層が灰黄色シルト層に大別される。遺物は縄文土器・須恵器・土師器が出土した。SE164と同様の覆土であることや、形態・規模が類似することから近世以降のものである可能性が高い。

SE166（図版20・80）

30GGグリッドに位置する。上端は長径184cmの楕円形で、深度は106cmを測る。底部に水溜りが見られる円柱状の掘り込みがある。覆土は、1～3層が自然堆積による黒褐色土層、4～10層が地山に由来するにぶい黄褐色シルト層に黒褐色土や灰黄色土がブロック状に混入する層、11～14層が灰黄色シルト層に大別される。遺物は土師質土器皿のほか、椀形滓・ガラス質滓・羽口などの鍛冶関連遺物が出土した。覆土の特徴から、中世のものと考えられる。

SE169（図版20・81）

30FFグリッドに位置する。上端は長径230cmの円形で、深度は100cmを測る。覆土は、1～4層が地山に由来するにぶい黄褐色シルト層に黒褐色土がブロック状に混入する層、5層が灰黄色シルト層に大別される。遺物は1層から珠洲焼片口鉢（図版32-38）が出土したが、SE164と同様の覆土であることや、形態・規模が類似することから近世以降のものである可能性が高い。

SE232（図版21・81）

30EEグリッドに位置する。上端は長径169cmの円形で、深度は184cmを測る。覆土は、1・2層が自然堆積による褐色土・黒褐色土層、3～10層が黒色土と地山に由来するにぶい黄色シルトの互層、11～13層がにぶい黄色シルト層を基調とする層に大別される。遺物は13層から鎌（図版37-157）と砥石（図版36-135）が出土したほか、7層から珠洲焼片口鉢（図版32-39）・不明木製品（図版37-165）も出土した。鎌は江戸の祭祀に関する出土品として注目される。所属時期は中世である。

SE233（図版21・81）

30EEグリッドに位置する。上端は長径212cmの円形で、深度は129cmを測る。覆土は1・2層が自然堆積による褐色土・黒褐色土層、3～5層が褐色土と地山に由来するにぶい黄色シルトを含む層、6～9層が灰黄色シルトを基調とする層に大別される。遺物は6～8層から白磁椀（図版32-42）が出土したほか、1・2層から青磁椀（図版32-41）や珠洲焼片口鉢（図版32-40）・壺（図版32-43）なども出土した。所属時期は中世である。

SE317（図版21・82）

31DDグリッドに位置する。上端は長径152cmの円形で、深度は150cmを測る。調査中の湧水により覆土の大半が崩れたため、下層の覆土のみ図示した。写真から覆土上層は自然堆積による褐色土、中層は褐色土と地山に由来するにぶい黄色シルトを含む層、下層の1～5層は灰色シルトを基調とする層に大別される。遺物は土師器や羽口が出土した。覆土や形態の特徴から所属時期は中世と考えられる。

SE367 (図版 21・82)

30CC グリッドに位置する。上端は長径 260cm の円形で、深度は 172cm を測る。覆土は、1・2 層が自然堆積による黒褐色土層、3～6 層が黒色土と褐灰色土との互層、7～14 層が黒褐色土と黄灰色シルトがブロック状に混在する層、15・16 層が青灰色シルト層に大別される。遺物は 3 層から土師質土器皿・小皿 (図版 31-36・37)・釘 (図版 37-143) が出土した。所属時期は中世である。

SE401 (図版 22・82)

29Z～AA グリッドに位置する。上端は長径 232cm の円形で、深度は 250cm を測る。覆土は、1～4 層が自然堆積による黄灰色シルト層、4～15 層が地山に由来する黄褐色シルト層、16 層が青灰色粘土に大別される。遺物は 16 層から折敷底板 (図版 37-166) と曲物底板 (図版 37-167) が出土した。また、7 層から中国天目茶碗 (図版 32-44)、6 層から珠洲焼片口鉢 (図版 32-45) が出土した。所属時期は中世である。

SE402 (図版 22・82)

28・29AA グリッドに位置する。上端は長径 214cm の円形で、深度は 165cm を測る。覆土は、1～5 層が自然堆積による黄灰色シルト層、6～14 層が地山に由来する黄褐色シルト層、15・16 層が灰色シルト層に大別される。遺物は 16 層から円形板 (図版 37-168) が出土した。所属時期は中世である。

SE416 (図版 23)

30BB グリッドに位置する。上端は長径 220cm の円形で、深度は 109cm を測る。調査中の湧水により覆土がすべて崩落したため、土層を記録できなかった。所属時期は中世と考えられる。

SE1157 (図版 23・83)

27DD グリッドに位置する。上端は長径 181cm の円形で、深度は 105cm を測る。覆土は、1～8 層が地山に由来するにぶい黄褐色シルトと黒褐色シルトの混在層、9 層が灰黄褐色シルト層に大別される。SD1110 より古い。所属時期は中世である。

SE1212 (図版 22・83)

27・28BB グリッドに位置する。上端は長径 290cm の円形で、深度は 208cm を測る。覆土は、1～5 層が自然堆積による緑灰色シルト層、4～10 層が黒褐色シルトと地山に由来する灰色シルト層の互層、11・12 層が灰色シルト層に大別される。遺物は 3 層から珠洲焼片口鉢 (図版 32-46)、9 層から網代 (図版 37-169) が出土した。所属時期は中世である。

SE1329 (図版 23・83)

27AA グリッドに位置する。上端は長径 260cm の楕円形で、深度は 209cm を測る。覆土は、1 層が自然堆積による褐灰色シルト層、6 層が炭化物層、7～14 層が暗灰色シルトと地山に由来する緑灰色シルト層の互層に大別される。底面中央に水溜の曲物 (図版 37-173) を設置している。遺物は 1・4・9 層から土師質土器皿・小皿 (図版 32-47～49)、9 層から青磁碗 (図版 32-50)、1 層から珠洲焼片口鉢 (図版 32-51)、8・9 層から箸 (図版 37-170～172)、9 層から漆塗皿 (図版 37-174)、4・6・7 層から砥石 (図版 36-136・137) が出土した。SK1328 より古い。所属時期は中世である。

D 竪穴状遺構 (図版 23・83)**SK1328**

27AA～BB グリッドに位置する。上端は長径 414cm の長方形で、深度は 75cm を測る。北側の中段

に平坦面を検出した。覆土は、1層が暗褐色土層、2～8層が暗緑灰色シルトに大別される。1層の中央部で集石を検出した。大小の礫のほか、白磁碗（図版33-59）・青磁碗（図版33-60）・瀬戸（図版33-61・62）・珠洲焼片口鉢（図版33-63・64・67・68）・瓷器系陶器甕（図版33-65・66）・椀型滓（図版37-162）など多数の遺物が出土した。所属時期は中世である。

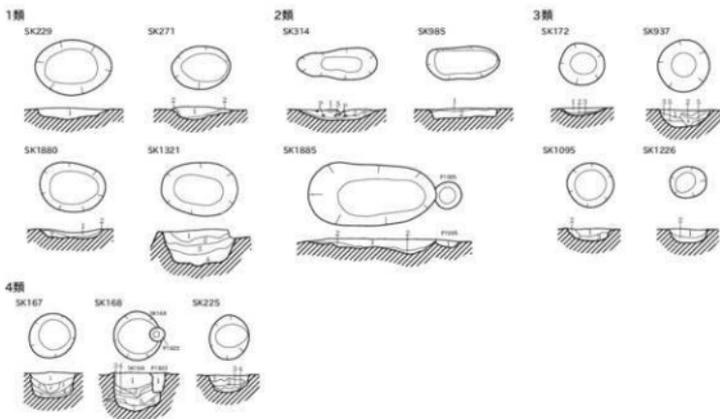
E 土 坑（図版24～28・84～87）

1) 概 要

土坑は79基検出され、うち1基は近代以降に所属する。78基のうち、68基が堀（SD101）の内側にあり、10基は堀の外側に存在する。堀の内側では、内部を区画する溝（SD366・1613）の東・西に存在する。したがって、土坑は堀の内側で2か所、外側で1か所の分布域を持つといえる。これらは検出状況・覆土堆積状況・出土遺物などから13～14世紀に所属するものと推定される。

2) 分 類

検出した土坑の平面形には、楕円形・円形・方形・長方形がある。このうち、楕円形28基、長方形22基、円形20基、方形5基となり、全体の約9割が楕円形・長方形・円形を呈する。断面形態は、台形状・箱状・階段状・U字状・弧状・不整形がある。このうち、台形状60基、箱状7基、階段状7基、弧状2基、不整形2基、U字状1基となる。平面・断面形態を組み合わせると、楕円形-台形状22基、長方形-台形状20基、円形-台形状13基、円形-箱状4基となる。この3つの類型は全体の7割を占めることから、本調査区において、主要な土坑の形態といえることができる。以下では、土坑の形態を、1類：楕円形-台形状、2類：長方形-台形状、3類：円形-台形状、4類：円形-箱状に分類し（第16図）、個別に記載する。



第16図 A区 土坑分類

3) 各 説

a 1 類

堀 (SD101) の内側に 22 基存在する。このうち、区画溝 (SD366・1613) の東側に 16 基、西側に 6 基がある。したがって、この形態は、堀の内側に認められ、特に区画溝の東側に偏る傾向が認められる。上端主軸長 (長軸を主軸とする) は最小 0.65m、最大 2.03m を測り、0.65 ~ 1.5m のものが 14 基 (61%) と多い。深度は最小 4cm、最大 60cm で、30cm 以下の浅いものが 16 基 (70%) と主体である。東偏するもの 7 基、西偏するもの 16 基ある。東偏するものは $N4^{\circ} \sim 85^{\circ} E$ の範囲にあり、西偏するものは $N7^{\circ} \sim 85^{\circ} W$ の範囲にある (第 17 図)。このうち、建物に近接し、主軸が建物の主軸と平行、あるいは直交するものに SK270・271・298・414・934・973・1038・1256・1321 の 9 基がある。

SK271 (図版 24)

SB2・4・15 に近接し、主軸は SB2・15 と平行、SB4 とは直交する。覆土は 2 層に識別され、1 層は色調の暗い褐色シルトが堆積する。層厚は 19cm とやや厚く、炭化物粒を微量に含む、炭化物は集中せず、疎らである。底面はやや南西に偏り、側壁は南側では急角度、北側は凹凸を持ちながら緩やかに立ち上がる。

SK1256 (図版 27)

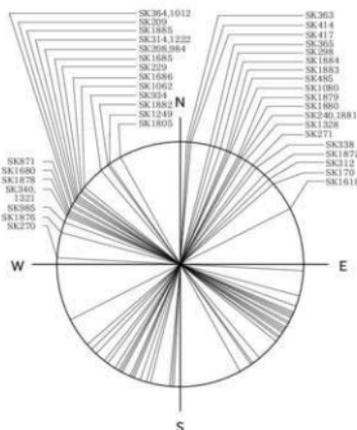
SB20 に近接し、主軸はこれと平行する。土坑の北側を欠失するが、残存状況から楕円形と推定される。覆土は 2 層に識別され、褐色シルトが主体である。各層には黄褐色シルトが多量に含まれるが、1 層は細かなブロック状、2 層は細粒で含まれている。

SK1321 (図版 27・87)

SB11・24・25 に近接する。主軸は SB24・25 と平行、SB11 と直交する。覆土は 4 層に識別され、上層はシルト質だが、下層は粘土質である。1・3・4 層は灰白色・にぶい黄色シルトブロックを多量に含むため、埋め戻しの可能性も考慮される。遺物は 1 層から珠洲焼壺 (図版 32-57) が出土した。

b 2 類

堀 (SD101) の内側に 20 基存在する。このうち、区画溝 (SD366・1613) の東側に 17 基、西側に 2 基、区画溝と重複するもの 1 基がある。したがって、1 類の土坑と類似した分布傾向を示す。上端主軸長は最小 0.85m、最大 4.14m を測り、1.0 ~ 1.5m のものが 7 基 (35%)、2.0m 以上が 6 基 (30%) と、この 2 つの規模が多くなる。深度は最小 3cm、最大 75cm で、30cm 以下の浅いものが 18 基 (90%) と主体である。東偏するもの 7 基、西偏するもの 16 基ある。東偏するものは $N5^{\circ} \sim 46^{\circ} E$ の範囲にあり、西偏するものは $N58^{\circ} \sim 70^{\circ} W$ の範囲にある。このうち、建物に近接し、主軸が建物の主軸と平行、あるいは直交するものに SK314・417・985・1872・1878・1885 の 6 基がある。



第 17 図 A 区 土坑の主軸方向

SK314 (図版 25・85)

SB2 に近接し、主軸はこれと直交する。覆土は 3 層に識別され、2 層は焼土・焼土ブロック・炭化物を多量に含む。遺物は、珠洲焼壺の同一個体の破片 (図版 33-58) が 2 層からまとまって出土した。このほか、焼骨・釘 (図版 37-145)・鉄滓が出土している。焼骨は微細で、第 VII 章 2 では種別を特定できなかった。また、側壁・底面の赤化など被熱の痕跡は認められないが、覆土の堆積状況から、土坑内で火を焚いた可能性が推定される。遺物の出土状況・覆土堆積状況が SK417 に類似することから、焼骨はヒトの可能性が考えられ、墓坑と推定される。

SK417 (図版 25・86)

SB9 に近接し、主軸はこれと直交する。覆土は 3 層に識別され、1・3 層は焼土・炭化物を多量に含む。底面・側壁に被熱の痕跡が認められるため、土坑内で火を焚いたものと考えられる。また、覆土からは焼骨の細片が出土した。焼骨は 3 層からの出土が多く、第 VII 章 2 ではヒトの可能性が示唆され、出土状況・覆土の堆積状況から墓坑と推定される。遺物は 3 層から青磁椀 (図版 32-53) が出土した。

SK985 (図版 26)

SB16・18 に近接し、主軸はこれらと直交する。覆土は 2 層に識別され、1 層の明褐色シルトは 4cm 程度だが、2 層のにぶい黄褐色シルトは 14cm と厚く堆積する。覆土は 2 層が充填されたような堆積形状を示すことから、埋め戻された可能性が考えられる。

SK1878 (図版 28)

SB16・19・20 に近接する。主軸は SB16 と直交、SB19・20 とはおおむね平行する。覆土は 2 層に識別され、1 層は炭化物を極微量に含む。炭化物は集中せず、疎らである。底面は平坦で、中央部付近がやや狭くなる。

SK1885 (図版 28)

SB2・3 に近接する。主軸は SB2 と直交、SB3 とは平行する。覆土は 2 層に識別され、灰色シルトが主体である。1 層には径 1～4cm の小礫を少量含む。底面は凹凸が著しく、西側は深度を浅くして緩やかに立ち上がるが、このほかは急角度である。

c 3 類

堀の内側に 11 基、外側に 2 基存在する。このうち、区画溝の東側に 8 基、西側に 3 基分布する。上端長軸長は最小 0.64m、最大 1.07m を測り、0.64～1.0m のものが 10 基 (77%) と多い。深度は最小 13cm、最大 54cm で、30cm 以下の浅いものが 11 基 (85%) と主体である。したがって、規模は 1・2 類で類似し、長軸は 0.6～1.5m の範囲にあり、深さも 30cm 以下の浅いものが主体といえる。また、2 類の土坑は建物に近接するものが認められ、SK172・409・937・968・1009・1095・1226 の 7 基がある。

SK172 (図版 24・84)

SB1 に近接する。覆土は 3 層に識別され、褐灰色シルトが主体である。この褐灰色シルトは、SB1 の柱穴の覆土に類似する。また、覆土は炭化物を微量に含む。底面はやや凹凸があり、わずかに南側へ傾斜する。

SK409 (図版 25・86)

SB8 に近接する。覆土は 3 層に識別され、にぶい黄褐色シルトが主体である。3 層は壁面の崩落土と考えられ、4～8cm 堆積する。底面はやや西側へ傾斜し、この付近には砂粒が多量に含まれる。遺物は

1層から土師質土器皿が出土した。

SK937 (図版26)

SBBに近接する。覆土はにぶい黄褐色シルトが主体で、1層には炭化物が少量含まれる。また、北側では、覆土2・4・5層がブロック状に堆積することから、埋め戻された可能性が考えられる。遺物は1層から瀬戸梅瓶(図版32-56)が出土した。

SK1095 (図版27)

SB23に近接する。覆土は3層に識別され、いずれも径3mmの炭化物粒を比較的多く含み、炭化物は1か所に集中せず、均等に含まれる。底面は西側の側壁付近でやや凹凸が認められる。遺物は2層から青磁碗(図版32-54)が出土した。

d 4 類

いずれも堀(SD101)の外側に存在し、29・30FF、30GGグリッドに集中する。付近には井戸(SE164～166・169・895)が近接する。したがって、3類の土坑は、堀の外側に分布域を持つといえる。土堀長軸長は最小0.72m、最大0.80mを測り、規模が類似する。深度は最小29cm、最大83cmで、幅がある。

SK167 (図版24・84)

覆土は5層に識別され、1・4層は黒褐色、2・3層は暗灰黄褐色シルトが堆積する。堀の内側で検出した土坑の覆土に比べて、黒味が強い。底面はやや凹凸がある。

SK168 (図版24・84)

覆土は7層に識別され、にぶい黄褐色シルトが主体である。このにぶい黄褐色シルトは、1・2層で黒褐色シルトを含み、ブロック状に堆積する。覆土の堆積状況から埋め戻されたものと考えられる。底面は凹凸があり、中央部がくぼむ。遺物は1層から土師質土器皿・磁石が出土した。

SK225 (図版24)

覆土は4層に識別され、浅黄褐色シルトが主体である。浅黄褐色シルト・黒褐色・にぶい黄色シルトをブロック状に含み、水平に堆積する。覆土の堆積状況から埋め戻された可能性が考えられる。底面は、東側の側壁へ向かって徐々に深度を浅くする。

SK896 (図版25・87)

覆土は8層に識別され、1層は黒褐色シルトが約50cm堆積する。このほかは、浅黄色・黄灰色シルトがブロック状に堆積する。1・4層は、炭化物粒を中～多量に含む。覆土の堆積状況から埋め戻されたものと考えられる。底面は平坦である。側壁は南側では、底面から上位までは外傾し、開口部付近で内側に鋭く屈曲して立ち上がる。このほかは、やや内傾しながら立ち上がる。

4) 小 結

以上、1～4類の土坑について述べた。1～3類の土坑は建物に近接し、特に1・2類は主軸方向を建物に合わせることから、同時期に機能していた可能性が考えられる。また、2類の土坑は焼骨が出土したSK314・417を含み、この形態と墓坑との関連が推定される。また、4類の土坑は1～3類と覆土の色調が異なる。1～3類は、褐灰色・灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトが主体であるが、4類は黒褐色・浅黄色シルトが主体である。4類に堆積する黒褐色シルトは、SE895の覆土に類似する。SE895はSD101(堀)を切って構築されていることから、4類の土坑は堀より新しい時期に構築された可能性が考えられる。

F 溝 (図版4・7・28・30・88・90)

1) 概要

溝は82条検出された。このうちの37条は、覆土にIb～III層土の堆積が認められるため、近世以降の所産であるものと考えられる。これ以外の45条は、掘立柱建物・井戸・土坑と同様に褐色・黒褐色シルトなどの堆積が認められることから13～14世紀に所属するものと推定される。いずれもSD101の内側に存在し、外側では検出されていない。検出した溝は、形態・主軸方位・分布から、堀・区画溝－SD101、区画溝－SD366、堀・区画溝以外の溝に分類できる。溝の主軸方位は土坑と同様に東偏するものと西偏するものとにまよる(第18図)。

2) 堀・区画溝

SD101 (図版7・29・30・88・89)

検出状況 SD101は西北西－東南東へ伸びており、東南東端の34GGグリッド付近で約90°北北東へ屈曲する。また、西北西側は調査区外へ伸びることが推定され、東南東側の隅と同様に北北東へ屈曲することが想定される。こうした検出状況から、SD101は方形に巡るものと考えられる。この内側には掘立柱建物・井戸・土坑が存在することから、SD101は屋敷の堀であると推定される。

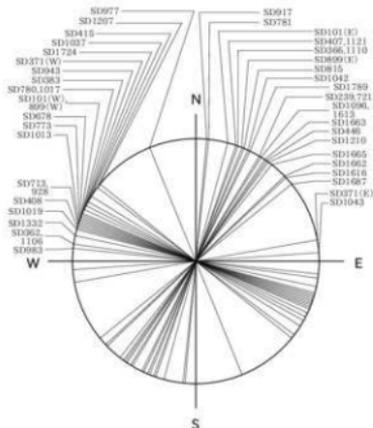
形態・規模 平面形は30・31EEグリッドの2か所で、途切れながら直線状に伸びる。この途切れた部分は土橋と考えられる。土橋は30EEグリッドで約0.4m、31EEグリッドでは約3mの幅である。底面は起伏があり、33FFグリッドから東へ向って緩やかに傾斜する。深度は浅い所で0.15m、深い所では0.92mを測る。また、30～32FFグリッドでは、底面が1段高いテラス状となる。断面形態はテラス部分では階段状となるが、そのほかは台形状である。

覆土堆積状況 32FFグリッド(図版30のa-a')では、6・9層が10・11層を切るような堆積状況を示し、30FFグリッド(図版30のb-b')では、6層が7層をレンズ状に切り込む。したがって、6・9層の時期に掘り直しが行われたものと考えられる。29EEグリッド(図版29のv-v')では、6f層付近で側壁がやや段を持ち、30EE・FFグリッドでは、7・8層付近で階段状となる。こうした側壁の形状は掘り直しに伴って形成されたものと考えられる。

出土遺物 遺物は覆土上層～底面で土師質土器皿・小皿(図版33-70～73)・珠洲焼片口鉢(図版33-75・76)・珠洲系陶器片口鉢(図版33-77)・瓷器系陶器甕(図版33-78)・青磁瓜形合子(図版33-74)・瀬戸・鍛冶澤(図版37-160)・羽口・砥石が出土した。また、31FFグリッドでは約1.1cmの焼骨が出土した。第Ⅶ章2では、鳥類との結果を得ている。

SD366 (図版5・6・29・89)

形態・規模 SD101と約3.4m、SD1613とは約11m間隔を開けて北北西－南南東に伸びる。底面は



第18図 A区 溝の主軸方向

おおむね平坦に構築されている。

覆土堆積状況 覆土は28・29CC、28DDグリッドでは、灰黄褐色・にぶい黄橙・黄褐色シルトが堆積するが、溝の北側先端部の29BBグリッドでは、粘性の強い灰黄褐色シルト・黒褐色シルトなどが堆積する。場所により覆土の色調が異なるが、レンズ状に堆積することから自然堆積と推定される。

出土遺物 覆土上～中位の1～3層で出土し、土師質土器皿(図版34・83・84)・珠洲焼片口鉢(図版34・85・86)・青磁・瓷器系陶器甕が出土した。

3) 堀・区画溝以外の溝

a 建物に近接する溝

長さ5m以下が10条、5～10mが1条あり、5m以下の小溝が特徴である。これらは、主軸を建物に合わせ、平面形は直線状となるものが9条で主体を占める。SD406～408・446・713・721・815・899・917・1013・1019の11条がある。

SD406 (図版5・29)

SB10・11・25に近接し、主軸はSB10・25と直交、SB11とは平行する。平面形は直線状であるが、南東側がやや膨らむ。覆土は3層に識別され、灰黄褐色シルトが主体である。底面はおおむね平坦に構築されている。

SD408 (図版5・29)

SB9・22に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状である。覆土は3層に識別され、底面付近は砂粒が多量に含まれる。遺物は土師質土器皿が出土した。

SD446 (図版5・29)

SB12に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状であるが、南西側がやや膨らむ。覆土はにぶい黄褐色シルトが主体である。底面はおおむね平坦に構築されている。

SD815 (図版6・30)

SB2に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状で、中央部の底面は土坑状の落ち込みが認められる。遺物は1層から珠洲焼甕が出土した。

SD899 (図版6・30)

北東-南西方向に4.5m伸び、西北西へ約90°屈曲してL字状となる。覆土は褐色シルトが主体であるが、部分的に炭化物を多量に含む黒色シルトが堆積する。こうした堆積状況から、一部は埋め戻された可能性が考えられる。

SD917 (図版6・30)

SB17に近接し、主軸はこれと平行する。平面形はおおむね直線状だが、南側の先端部がやや西側へ湾曲する。覆土は2層に識別され、上層は灰黄褐色シルト、下層は黄褐色シルトが堆積する。また、上層には炭化物粒が少量含まれる。

SD1019 (図版7・30)

SB1に近接し、主軸はこれと直交する。平面形は直線状である。覆土は単層で褐色シルトが堆積する。検出面からの深さは2cmと非常に浅く構築されている。

b 堀・区画溝に軸を合わせる溝

長さ5～10m以下が3条、10m以上が2条と、建物に近接する溝に比べて長くなる。平面形は直線状で、軸は堀に平行、区画溝に直交する。SD773・780・928・943・1017・1037の6条がある。

SD773 (図版6・30・89)

平面形は直線状で、SB19の柱穴の一部が、重複部分で検出されないことから、SB19より新しく構築されたものと考えられる。覆土は2層に識別され、灰黄褐色シルトが主体である。覆土上～中位の1・2層は、炭化物をブロック状に含む。

SD780 (図版6・30・90)

位置関係からSB18・19と重複する。これらの柱穴の一部が、重複部分で検出されないことから、本遺構が新しいと推定される。平面形は直線状である。覆土は4層に識別され、にぶい黄褐色シルトが主体である。また、1層は部分的に炭化物を多量に含む。遺物は瓷器系陶器が出土した。

SD928 (図版6・30)

西北西延長には、SD943が存在し、これらは直線状に並ぶことから同一の溝と推定される。覆土は2層に識別され、灰黄褐色シルトが主体である。

SD943 (図版6・30)

位置関係からSD928と同一の溝と推定されるが、幅は10cm程細くなる。覆土・断面形態・底面の状況は、SD928とおおむね同様である。遺物は1層から土師質土器皿が出土した。

SD1017 (図版6・30)

平面形は直線状で、東南東は調査区外へ伸びる。覆土は2層に識別され、褐灰色シルトが主体である。遺物は1層から青磁が出土した。

SD1037 (図版6・30・90)

平面形は直線状で、北西側がやや膨らむ。覆土は5層に識別される。上位の1・2層は、褐灰色・黄褐色シルトが混じり合うことから、埋め戻された可能性が考えられる。遺物は覆土上～下層から土師質土器皿・釘(図版37-148・149)が出土した。

c 30m 前後の溝が直交するもの

長さが堀・区画溝と類似し、一部は堀と重複する。SD239・371・1613の3条がある。

SD239 (図版7・30・88・89)

北北東-南南西に伸び、北北東側が調査区外へ続く。南南西端では、約4mの間隔を開け、SD371と直交する。また、この間にはSE895が存在する。覆土は7層に識別され、上位の1～3層は褐灰色・黄褐色シルトが混じり合うことから、埋め戻されたものと考えられる。遺物は1～7層から出土しており、1～3層に集中する。出土状況から埋め戻し土に伴って混入したものと考えられる。遺物は土師質土器皿(図版34-81)・珠洲焼片口鉢(図版34-79・80)・壺・甕・甕(図版36-138)・釘が出土した。

SD371 (図版6・29・88・89)

西北西-東南東へ伸び、西北西側が調査区外へ続く。東南東側でSD239と直交する。規模はSD239と類似する。平面形は、直線状に伸びるが、28Eグリッドで南側へ湾曲し、堀と重複する。土層断面から、堀より新しく構築されている。覆土は4層に識別され、上位、下位には炭化物粒を含む。また、覆

土はレンズ状に堆積し、SD239のような埋め戻しの痕跡は認められなかった。断面形は、2SEEグリッドでは階段状、このほかはおおむねU字状となり、場所によって異なる。底面は、東南東へ向って深度を浅くし、堀とは逆方向の傾斜となる。遺物は、1～3層から出土したが、上位の1層に集中し、土師質土器小皿（図版34-87）・珠洲焼片口鉢・甕（図版32-39・図版34-88・89・91・92）・瓷器系陶器甕・青磁・白磁碗（図版32-42）・瀬戸壺（図版34-90）が出土した。

これらは、覆土の堆積状況は異なるが、遺構の配置・規模から同時期に機能していたものと推定される。また、堀を切って構築されていることを考慮すると、SD239・371は、SD101より新しい時期の堀の可能性も考えられる。しかし、両溝は調査区外へ伸び、全容が明らかでないため、その性格については検討の余地がある。

SD1613（図版5・29・88・90）

形態・規模 北北東側が調査区外へ続くため全長は不明である。平面形は30Zグリッドで、やや北東側に湾曲して伸びる。底面は起伏が著しく、30Zグリッドでは2か所がテラス状となる。

覆土堆積状況 覆土は褐灰色シルトが主体で、色調は堀の覆土に類似する。また、覆土中に炭化物を多量に含むことも堀の覆土に類似する。図版29i-i'では7層が8・9層を切り込んで堆積することから、掘り直しが行われたものと考えられる。

出土遺物 覆土上層～底面で出土し、土師質土器小皿（図版35-108）・珠洲焼片口鉢・甕（図版33-68・図版35-114～117）・瓷器系陶器甕・壺（図版33-66・図版35-118～120）・青磁碗（図版35-109～113）・砥石（図版36-140・141）・釘（図版37-147）・鉄製品（図版37-153・154）・椀形滓（図版37-164）が出土した。

d 自然流路に沿って構築された溝

長さ8～25mで、自然流路（SR1327）に近接するものが3条存在し、平面形は緩やかに湾曲する。SD1210・1662・1663がある。

SD1210（図版5・29）

平面形は、緩やかに湾曲しながら北東－南西方向へ伸び、北東側は調査区外へ続く。南西端がSD1662と近接し、自然流路とは2.5～3mに近接する。覆土は2層に識別され、褐灰色シルトが主体である。底面は平坦で、北東から南西へ傾斜する。

SD1662（図版5・29）

平面形は、自然流路に沿った形で湾曲し、南西端が流路と重なる。北東側は調査区外へ続く。SD1210に隣接し、SD1663と重複する。土層断面からSD1663より新しく構築されているが、覆土はSD1663と同一の灰黄褐灰色シルトが堆積する。したがって、時期差は少ないものと考えられる。また、自然流路とは、約1～3mに近接する。底面は平坦で、北東から南西へ傾斜する。

SD1663（図版5・29）

平面形は、途切れながら北東－南西方向へ伸びる。検出状況から、本来はつながっていたものが割平の影響で途切れたものと推定される。27Z・AAグリッドでは、自然流路の底面を掘り込んで構築されている。底面は平坦で、北東から南西へ傾斜する。

4) 小 結

以上、堀・区画溝以外の溝について述べた。建物に近接する溝は建物の主軸と平行・直交し、検出状況から建物に伴って構築されたものと推定され、位置関係から雨落溝の可能性が考えられる。堀・区画溝に主軸をあわせるものは、堀・区画溝との関連が推定される。また、堀から約 20～35m 離れた場所に位置する傾向が認められ、堀とこれらの溝の間には建物が存在する。このことから、堀・区画溝の内部を区画する地割の機能を持つ可能性が考えられる。自然流路に沿って構築された溝は、流路と同様の傾斜に構築され、一部は流路と重なることから、用排水などの機能を持つものと推定される。

3 古墳時代～中世の遺物

A 土 器

1) 出 土 状 況

土器は、縄文時代・古墳時代・古代・中世・近世のものが出土した。

古墳時代の遺物は、土器 1 点のみである。

古代の土器（須恵器・土師器・黒色土器）の出土点数は 661 点で（第 4 表）、30～32BB～EE グリッドで比較的多い（第 19 図）。しかし、遺構に伴うものはわずかであり、復元可能な個体は少ない。

中世の土器は総数 513 点で、土師質土器・珠洲焼・瓷器系陶器が主体を占めるものの、青磁・中国天目といった貿易陶磁器も出土した（第 4 表）。これらの出土地点は 27～32Z～GG グリッドにほぼ限定され、堀（SD101）の内側に集中する（第 20 図）。遺物包含層の削平により溝などの遺構から出土したものが多く、一括廃棄を示す状況は認められない。

2) 記 述 の 方 法

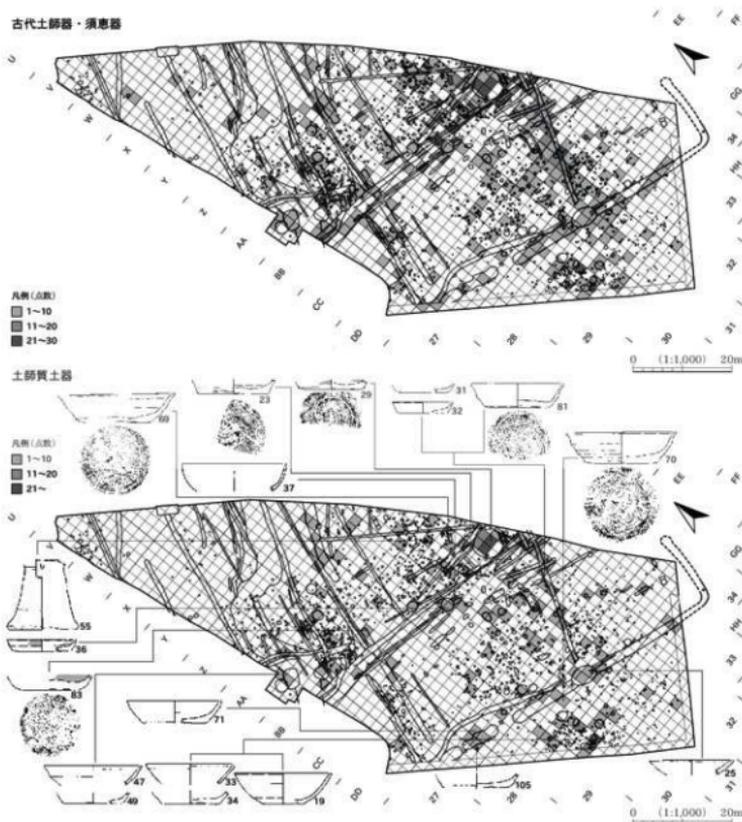
土器の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。観察表ですべてについて記載を行い、代表的なものについて本文で解説することとする。はじめに、古墳時代・古代の土器について述べる。次に、中心となる中世の土器について器種分類を行い、主な遺構出土のものについて述べ、その他の遺構出土土器および包含層出土土器を合わせたものをその他の土器として記述する。その後には縄文時代の土器の順に記述する。

図面図版の縮尺率は基本的に 1/3 であり、一部大型品について 1/4 で表した。口径が推測可能な資料はできるだけ復元した。断面図における欠損部は波形で表した。また、実測図及び断面図の実存部分は細線でくり、推定部分と実存部分の境界は間隔を空けた。写真図版も図面図版と同じ縮尺になるように掲載した。

観察表は、図版に掲載したすべての土器について観察項目を設定してその内容を記し、不明なものは空白とした。出土地点及び層位はすべて記した。器種・器形・分類は各分類の項を参照していただきたい。口径は器形の外寸を計測し、器高・口縁口径・底部径などを cm 単位で記した。色調は内外面の色調を標準土色帖〔小山・竹原 1998〕に基づき記した。胎土は金雲母・雲母・長石・石英・角閃石・海綿骨針な

種類	破片数
須恵器	319
土師器	340
黒色土器	2
土師質土器	209
珠洲焼・珠洲系陶器	169
瓷器系陶器	58
古瀬戸	18
常滑	2
白磁	10
青磁	46
中国天目	1
合計	1174

第 4 表 A 区の古代・中世の土器出土点数



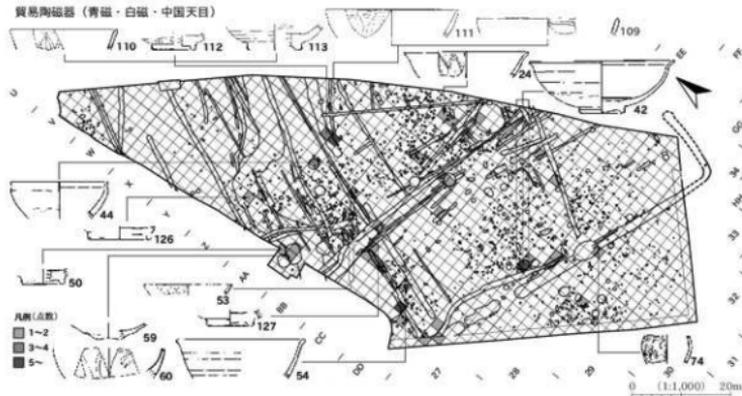
第19図 A区 土器分布図(1)(点数)

どの方位を中心に記した。なお、種類不明の不透明な白色の粒子は白色粒子として表した。回転方向は主に底部切り離し痕から判断した。底部調整は切り離し技法や再調整を記した。外面及び内面の調整・施文等は部位別に記した。使用痕跡は主に二次的に付着した炭化物について記した。備考は上記以外の特徴について記した。

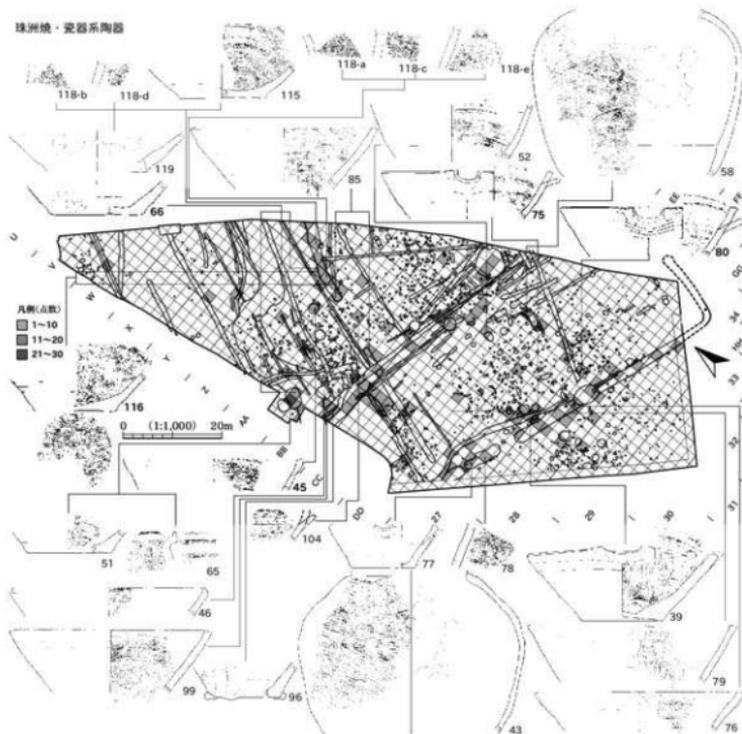
3) 古墳時代(図版31・92)

1は器台である。古墳時代前期のものと考えられる。阿賀野市教委の調査B区で同時期の遺構が検出されており、これに関係するものであろう。

貿易陶磁器（青磁・白磁・中国天目）



珠洲焼・変器系陶器



第20図 A区 土器分布図(2)(点数)

4) 古 代 (図版 31・92)

a 分 類

古代の土器は、須恵器有台杯・無台杯・折縁杯・杯蓋・長頸瓶・甕、土師器無台椀・小甕・長甕などがある。器種分類は新潟市沖ノ羽遺跡の分類〔春日 2003〕を参考にした。

食 前 具

須恵器無台杯：口径 12～13cm 前後のものをⅠ、口径 14cm 前後のものをⅡとする。

須恵器有台杯：口径 10～11cm のものをⅠ、口径 11～14cm のものをⅡ、口径 15～17cm のものをⅢとする。

須恵器杯蓋：口径 12～14cm 前後のものをⅠ、口径 15～17cm のものをⅡとする。

須恵器折縁杯：有台杯のうち、杯蓋のように屈曲する口縁部を持つもの。

土師器無台椀：底部・体部・口縁部のいずれかにケズリ・ミガキなどの再調整を行うものをⅡ類、行わないものをⅠ類とする。また、口径が 12～14cm 前後のものをⅠ、14～16cm 前後のものをⅡ、17～20cm 前後のものをⅢとする。

貯 蔵 具

須恵器長頸瓶：肩部に稜を持つものをⅠ類、なで肩のものをⅡ類とする。また、最大径 10cm 前後のものをⅠ、最大径 15cm 前後のものをⅡ、最大径 20cm 前後のものをⅢとする。

須恵器壺類：短胴で肩部が張り、比較的広い口縁部を持つものを球胴壺、やや長胴でなで肩となり広い口縁部を持つものを広口壺、長胴・なで肩で狭い口縁部を持つものを狭口壺とする。

須恵器甕：器高・最大径とも 40cm 前後かそれ以下のものを小甕、器高・最大径とも 50～60cm 前後のものを中甕とする。

煮 炊 具

甕：器高より口径が小さいものを甕とし、小型で平底のものを小甕、大型で丸底のものを長甕とする。

鍋：器高より口径が大きいものを鍋とする。

須恵器の胎土

須恵器の胎土は、山三賀Ⅱ遺跡の分類〔坂井 1989〕を一部改変した〔春日 2004〕に従う（第 5 表）。

b 遺構出土土器（2～6）

SB23（2・3）

P1099 から須恵器無台杯Ⅰ（2）、須恵器有台杯Ⅰ（3）が一括出土した。2 は胎土 A 群で、器高が 3.7cm

分類	特 徴
A 群	胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、含まれる鉱物の粒子は金雲母を除くと比較的大きい。新発田市・阿賀野市五頭山麓窯跡群のほか、村上市元山窯跡群、胎内市松山窯跡群、新発田市下小中山・貝屋窯跡群・ホーロク沢窯跡群で生産された須恵器に一般的に見られる。
B 群	胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しが見られるものが多い。器種によって胎土が異なり、無台杯と小型の有台杯は胎土が特に精良で器面は滑らかであるが、その他の器種は砂っぽいややざらついた胎土である。佐渡小泊窯跡群（やや離れた地点の大木戸窯跡も含む）で生産された須恵器と考えられる。
C 群	胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。海緑骨針を含むものもある。新潟市秋葉区・五泉市にまたがって存在する新津丘陵窯跡群で生産された須恵器に一般的に見られる胎土であるが、村上市元山窯跡群、胎内市松山窯跡群で生産された須恵器の中にも一部確認できる。
D 群	A～C 以外のもを一括する。

第 5 表 須恵器の胎土分類〔春日 2004〕

と低く、IV 2 期か。3 は胎土 B 群である。

SR1327B (4～6)

下層確認調査で見つかった SR1327B から出土したものである。無台杯 I (4)・無台杯 II (5) がある。いずれも IV 2 期と考えられる。

c その他の土器 (7～22)

食前具 須恵器杯蓋 I (7)・無台杯 I (8・9)・折縁杯 (10)・有台杯 I (13)・有台杯 II (11・12・14～16)、土師器無台椀 A I (19) がある。

貯蔵具 須恵器小甕 (18)・中甕 (17) がある。

煮炊具 土師器小甕 (20・21)・長甕 (22) がある。

5) 中 世 (図版 31～36・92～94)

a 分 類

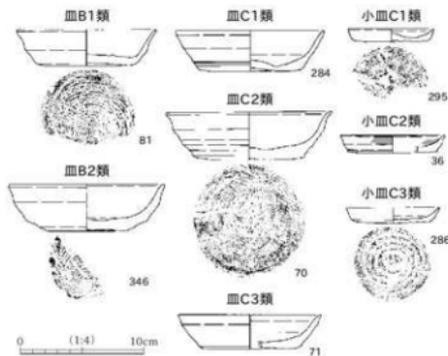
土師質土器・珠洲焼(系陶器)・瓷器系陶器・瀬戸・貿易陶磁器(白磁・青磁・天目)があり、器形により大別した。分類・年代観については、珠洲焼は吉岡康暢氏の分類〔吉岡 1994・2003〕に従い、能登産の珠洲焼胎土と明らかに異なるものは珠洲系陶器とした。瓷器系陶器は小田由美子氏〔小田 1999〕・鶴巻康志氏〔鶴巻 2005〕に依った。瀬戸は藤沢良祐氏の分類〔藤沢 1982・1991・1995〕に依った。白磁は森田勉氏の分類〔森田 1982〕に依った。青磁は 13 世紀以降のものを上田秀夫氏の分類〔1982〕、13 世紀以前のものは山本信夫氏の分類〔山本 2000〕を用いた。中国天目は森本朝子氏の分類〔森本 1994〕に依った。土師質土器は口径 10cm 以上のものを皿、口径 10cm 以下のものを小皿とし、ほかに有台皿・柱状高台がある。また、坂井秀弥氏による成形技法を基準とした分類〔坂井 1988〕を踏襲し、手づくねのものを A 類、ロクロ成形で底部糸切りのものを B 類、ロクロ成形で底部ヘラ切りのものを C 類とする。B・C 類について、以下のように細分する(第 21 図)。

皿 B1 類：底部から体部は鋭角に立ち上がり、体部に凹凸を持つ。口縁部は外反する。

皿 B2 類：底部から体部は丸く立ち上がり、体部は凹凸を持つ。口縁部は直立するものと外反するものがある。

皿 C1 類：器高が高いものである。底部はやや厚く、内面は大きく盛り上がる。底部から体部は鋭角に立ち上がり、底部外面に数条の浅い凹線を持つ。体部はロクロナデによる凹凸が著しいものが多い。口縁部は直線的に外傾する。「の」字状の切り離し痕を観察できるものがある。

皿 C2 類：器高が高いものである。底



第 21 図 土師質土器の分類

部は厚く、内面はやや盛り上がる。底部は粘土の盛り上がりによる凹凸がある。体部は開くように立ち上がり、口縁部は外反する。焼成が良好で硬質のものが多い。

皿 C3 類：器高が低いものである。底部は薄く、内面は盛り上がらない。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は強いヨコナデにより外反する。

小皿 C1 類：底部から口縁部は短く、断面が三角形を呈す。底部内面は盛り上がる。

小皿 C2 類：底部下端はシャープで、外面に浅い凹線を持つ。口縁部は短く外反する。

小皿 C3 類：底部から口縁部は直線的に立ち上がる。螺旋状の切り離し痕を観察できるものがある。

b 遺構出土土器 (23 ~ 120)

SB16 (23・24)

P1433 から土師質土器皿 C1 類 (23)、P1601 から青磁椀 B- I 類 (24) が出土した。23 は底部外面の凹線が明瞭で、底面の回転ヘラ切り痕は「の」字状を呈す。

SE895 (25 ~ 28)

土師質土器小皿 (25)・柱状高台 (28)、青磁椀 D- I 類 (26)、瀬戸折縁深皿 (27) がある。28 は底部内外面にくぼみがあり、高台と身の境に明瞭な凹線が施される。また、内外面に炭化物が付着する。

SE1007 (29 ~ 32)

土師質土器皿 C1 類 (29)・小皿 C1 類 (30・31)・小皿 C3 類 (32) がある。29 の底面の回転ヘラ切り痕は「の」字状を呈す。

SE164 (33 ~ 35)

土師質土器皿 (33・34)・小皿 C3 類 (35) がある。

SE169 (38)

38 は珠洲焼片口鉢である。曲線的な卸し目があり、II ~ III 期と考えられる。

SE232 (39)

39 は珠洲焼片口鉢であり、IV 期と考えられる。7 層からまとまって出土したが、SD371 出土破片とも接合した。

SE233 (40 ~ 43)

珠洲焼は片口鉢 (40)・壺 T 種 (43)、青磁椀 B- II a (41)、白磁椀 C 群 (42) がある。42 は覆土下部からまとまって出土したが、SD371 出土土器とも接合した。白磁椀 C 群の時期から 14 世紀後半の良好な資料と考えられる。

SE367 (36・37)

土師質土器皿 (37)・小皿 C2 類 (36) がある。36 の底面は回転ヘラ切りの後にナデが施される。

SE401 (44・45)

中国天目茶碗 (44)、珠洲焼片口鉢 (45) がある。44 は体部から口縁部にかけて丸みを持ち、胎土は灰色を呈することから、[森本 1994] における V - ① 類の中に包括された一群と見られる。

SE1212 (46)

珠洲焼片口鉢 (46) があり、II 期のものと考えられる。

SE1329 (47 ~ 51)

土師質土器皿 (47)・皿 C2 類 (48)・小皿 C2 類 (49)、青磁椀 B- I 類 (50)、珠洲焼片口鉢 (51) がある。

47の底面は中央が盛り上がる。

SK298 (52)

珠洲焼片口鉢 (52) があり、Ⅲ期のものと考えられる。

SK314 (58)

珠洲焼壺 T 種 (58) があり、Ⅱ～Ⅲ期のものと考えられる。

SK417 (53)

青磁椀 B-Ⅰ類 (53) がある。

SK937 (56)

瀬戸 (56) は梅瓶と見られる。体部に平行沈線文が施され、内面に指頭圧痕が認められる。

SK1095 (54)

青磁椀 D-Ⅰ類 (54) がある。

SK1222 (55)

土師質土器柱状高台 (55) は、底部の切り離しが回転糸で、内面に炭化物が付着する。

SK1321 (57)

珠洲焼壺 R 種 (57) がある。

SK1328 (59～68)

白磁皿 D 群 (59)、青磁椀 B-Ⅱ類 (60) のほか、古瀬戸後ⅠないしⅡ期の平椀 (61)・直縁大皿 (62) がある。珠洲焼片口鉢 (63・64) はⅡ～Ⅲ期、(67・68) はⅣ～Ⅴ期と考えられる。瓷器系陶器甕 (65・66) があり、65 は受け口状口縁で常滑 5 型式と見られる。

SK1872 (69)

土師質土器皿 C2 類 (69) は、口縁部が外反する。

SD101 (70～78)

土師質土器は皿 C2 類 (70)・C3 類 (71)・皿 B 類 (72)・小皿 C1 類 (73) がある。70 は底部が厚く、切り離し時に胎土が外面にはみ出している。青磁瓜型合子 (74) は希少品である。珠洲焼片口鉢 (75・76) はⅣ期のものと考えられる。瓷器系陶器片口鉢 (77) は内面に鉗目がなく、胎土に大粒の長石を含み焼成が良い。瓷器系陶器甕 (78) には権兵衛沢窯の押印が施される。

SD239 (79～81)

珠洲焼片口鉢 (79・80) があり、2 層から出土した 79 はⅤ期、6 層から出土した 80 はⅣ期と考えられる。土師質土器皿 B1 類 (81) は 7 層から出土した。

SD362 (82)

82 は瀬戸の入り子と考えられる。

SD366 (83～86)

土師質土器皿 B2 類 (83)・C3 類 (84)、珠洲焼片口鉢 (85・86) がある。85 はⅣ期と考えられる。

SD371 (87～92)

土師質土器小皿 (87)、珠洲焼片口鉢 (88・89・91)・甕 T 種 (92) があり、88 はⅤ期と考えられる。瀬戸壺 (90) は中期のものと考えられる。

SD405 (93)

土師質土器は小皿 C3 類 (93) がある。

SD778 (94)

瀬戸瓶(94)があり、把手の剝離痕が2か所認められる。

SD1168 (95～99)

本道構は27・28BBグリッドに位置する近世以降の溝であるが、出土資料が豊富なことから掲載する。土師質土器小皿C2類(95)、甕器系陶器甕(96)、珠洲焼片口鉢(97～99)がある。98はⅡ期、97・99はⅣ期と考えられる。

SD1320 (100～102)

土師質土器皿C2類(100)・小皿C2類(101)、甕器系陶器甕(102)がある。

SD1334 (103・107)

瀬戸壺(103)は後期のもと考えられる。甕器系陶器甕(107)の頸部には帯状の褐色軸が認められる。

SD1613 (108～120)

土師質土器小皿C1類(108)は切り離し痕がナデ消されている。青磁椀(109)は内面に片形文を観察でき、1-4類の可能性もある。また、椀(113)は内面に片形文があり、底面が厚いことから1-3類の可能性もある。青磁椀B-I類(110～112)もある。珠洲焼片口鉢(114～116)はⅢ～Ⅳ期のもと考えられ、甕T種(117)もある。甕器系陶器甕(118a～e)には権兵衛沢窓の押印が施される。甕器系陶器はほかに甕(119)・壺(120)があり、120には押印が認められる。

P910 (104)

珠洲焼片口鉢(104)はⅣ期のもと考えられる。

P1030 (105)

土師質土器皿C1類(105)がある。

P1142 (106)

瀬戸天目茶碗(106)がある。内外に鉄軸が施され、輪高台の周辺は露胎である。後Ⅰ期のもと考えられる。

c その他の土器 (121～134)

土師質土器有台皿(121)・皿B類(122)・皿B1類(124)・皿C2類(123)がある。

青磁杯(125)は内面が花弁形になるもので、Ⅲ-3b類と考えられる。椀B-I類(127)・皿D-II類(126)がある。

珠洲焼片口鉢(128～130)があり、Ⅲ～Ⅳ期と考えられる。中甕T種(134)には円形のスタンプ紋が施され、Ⅲ期のもと考えられる。

甕器系陶器甕(131～133)があり、132・133には権兵衛沢窓の押印が施される。

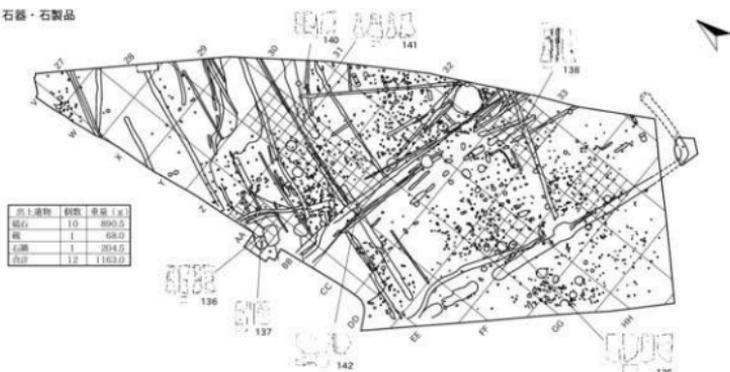
B 石器・石製品 (図版36・46・94・95)

石器・石製品には、砥石・硯・石鍋がある。砥石の出土分布を見ると(第22図)、井戸・溝からの出土が多い。特に井戸から出土したものは、二次的な被熱の痕跡が認められることから、井戸の廃棄行為に伴い熱を受けた可能性もある。

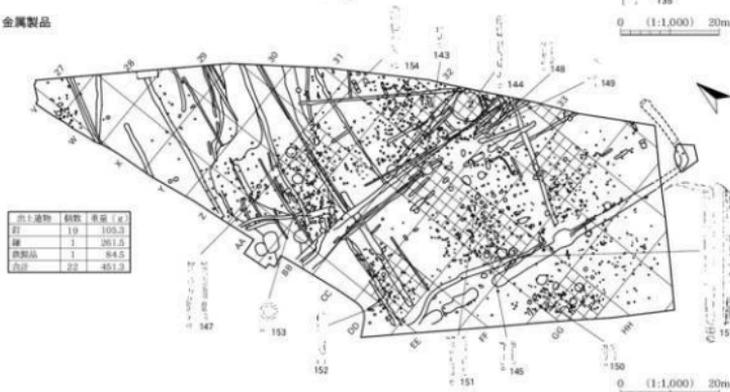
砥石(135～137・139～141) 135・136・141は、正裏面と両側縁の4面が使用されており、いずれも線状痕が認められる。135は両端を欠損する。右側面は器面が剝離し割れているが、この割れ

3 古墳時代～中世の遺物

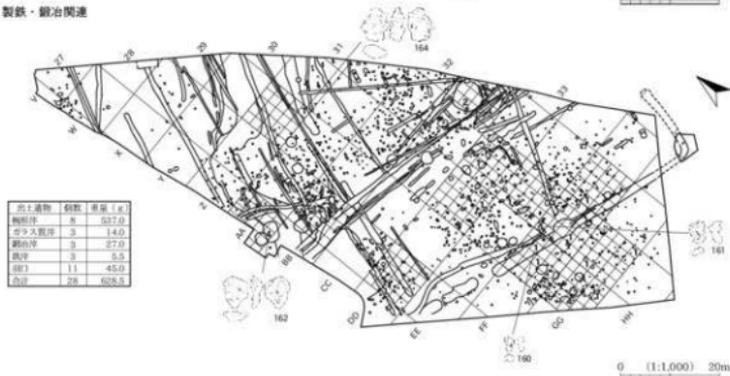
石器・石製品



金属製品



製鉄・鍛冶関連



第 22 図 A 区 石器・石製品、金属製品、製鉄・鍛冶関連遺物出土分布図

た部分にも多数の線状痕が観察される。器面は被熱し、黒変している。136は3点接合するもので、被熱により焼けはじけたものと考えられる。いずれも基軸に対し、斜め方向の線状痕が認められる。141は正面が特に使い込まれており、砥面上半部には、やや深めの線状痕が観察される。137は完形で、正裏面に深い溝が認められる。139は厚さ0.6cmと薄いもので、正面には筋状に線状痕が認められる。137・139の小口は長軸に対して直交、両側面は長軸に対して平行する擦痕が観察される。裁断時の成形痕と考えられる。

硯 (138) 138は硯で、両側縁・下端を欠損する。右側面には漆の付着が認められ、破損部を漆で糊いたものと考えられる。また、擦痕が観察されることから、研磨具として転用されたものと考えられる。

石 鍋 (142) 142は石鍋の口縁～胴部片で、鈎部分が剥落している。器面は平滑に研磨されているが、鈎の欠落部分には、幅約1cmのケズリが施され、成形時の調整痕が認められる。また、割れ口には磨痕が2か所観察される。研磨具として転用されたものと考えられる。磨面は使用の結果、数条の稜を形成している。

C 金属製品・鍛冶関連遺物 (図版 37・95)

金属製品には釘・鎌、鍛冶関連遺物には椀形滓・鍛冶滓・ガラス質滓・埴塼・羽口がある。出土分布を見ると(第22図)、金属製品は区画溝(SD101)の内側に存在する遺構から多く出土する傾向が認められる。鍛冶関連遺物も同様の傾向がうかがえるが、区画溝外側からの出土が金属製品に比べて多い。

金属製品 (143～157) 143～151は和釘で、144の断面はやや丸みを帯びるが、ほかは方形である。149は折れ曲がったものと考えられる。152～156は不明鉄製品である。152・154は形状から刀子の可能性が考えられる。153は環状の鉄製品で、断面は方形である。156の平面形態は楕状で、厚みも上部から下部へと厚くなる。断面形は方形である。157は鎌で、柄部と刃部は直角となる。

鍛冶関連遺物 (158～164) 158は埴塼である。器形は砲弾型で、先端部は乳頭状となる。159は羽口で、推定内径は4.4cmである。160は鍛冶滓、161はガラス質滓である。162～164は椀形滓である。162の断面形は不整な弧状であるが、163・164は緩やかな弧状となる。

D 木 製 品 (図版 37～44・96～100)

1) 記述の方法

木製品の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。観察表ですべてについて記載を行い、代表的なものについて本文で解説する。図面図版の縮尺率は基本的に1/10であり、一部について1/4・1/8で表した。写真図版も図面図版と同じ縮尺になるように掲載した。

観察表は、次の観察項目を設定してその内容を記し、不明なものは空白とした。

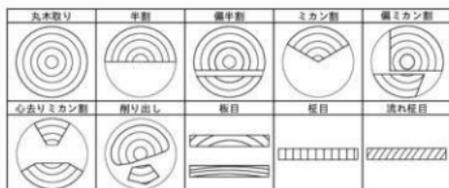
- ①報告No. 図面図版及び写真図版に付した番号を記載した。井戸側の部材のうち接合できた個体については、樹皮側から接合順に枝番を付してすべてを記載した。
- ②出土地点 出土したグリッド・遺構種別・遺構番号・遺構覆土層位を記載した。大型井戸の井戸側の位置は井戸側の各面に方位名を付して表し、設置段数は図版16・18に従い記載した(第26図)。
- ③分類 [奈良国立文化財研究所1985]を参考に下記のとおり用途による分類及び器種分類を行った。
農具-鎌がある。
服飾具-下駄がある。



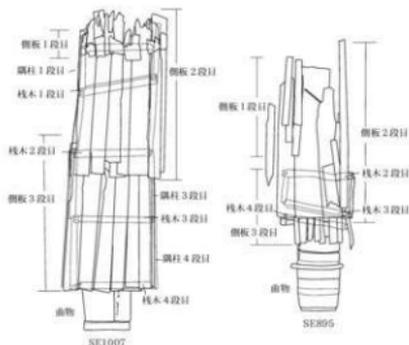
第23図 木取り及び木材一般の部分名称
（『機本 2003』より転載）



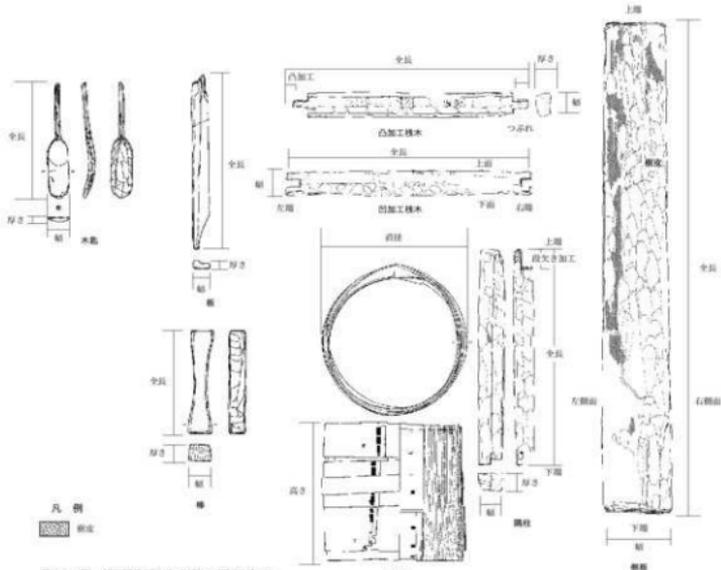
第25図 容器などの木取り
（『若林ほか 1993』より転載）



第24図 木取りの分類（『猪狩 2004』から転載）

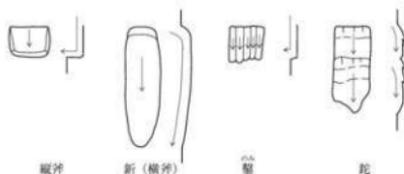


第26図 井戸側の構造



第27図 器種別部位名称・図版表示

容器—桶(曲物)・皿(刳物)があり、桶の底板と思われるものを含む。
調理加工具—箆類の可能性ある編み物1点があり、調理加工具に含める。
食事具—箸・匙・折敷がある。
施設材—井戸の構造材である井戸側(縦板・柵木・隅柱)・水溜がある。
加工材—用途不明のものをまとめる。



第28図 加工痕の分類と図の表現

- ④木取り 木材の部位名称は[橋本 2003] (第23図)、木取りは[猪狩 2004] (第24図)に従った。
- ⑤樹種 樹種同定の結果(第七章1)を記載した。
- ⑥計測値 全長・幅(直径)・厚さ(高さ)について木製品の各部位の最大値を計測した(第27図)。
- ⑦加工 井戸側部材の加工痕は、平面形・深さ・断面形などに特徴が認められ、工具の器種差を反映しているものと考えられる。こうした加工痕の特徴から下記のとおり工具を推定した(第28図)。ただし、加工痕から工具を特定するためには、出土工具の形状・形態と加工痕との照合が必要であるが、ここでは行っていない。なお、これらの加工は原木から最終加工品に至るまでに重複して施されるが、加工の前後関係は最終形状を基準として観察表に記すこととする。
- 縦斧—加工幅が約5～8cmで、側縁に直線的で垂直な階段状の段差を形成することが特徴である。長さは約5～7cmのものが多い。加工底面は平坦である。刃部は緩やかな丸みを持つ。主に縦板接合部材の木口に観察できる。
- 斬(横斧)—加工幅は小さいもので約4cm、大きいもので約7cmあり、加工長は20cmに及ぶなど長いことが特徴である。工具の入りは急斜度で短く、工具の出は段差を形成しない。加工横断面は皿状にくぼむ。主に表皮を除去する際に用いられる。
- 鋸—加工幅が約1.5cmで、加工面が平らで直線的であることが特徴である。加工深度は浅いが、側縁に浅い垂直の段差を有する場合がある。主に木口面を平滑に加工する場合や仕口の加工に用いられる。
- 鉋—加工幅は10cm以上あり、刃部の長い工具と考えられる。加工面は平坦である。工具の入りの際に刃部が木部に突き刺さった痕跡を確認できる。主に柵木の表面加工に用いられる。
- 鋸—幅1.5～3mmの溝状の引き痕があるものや、加工面に引き痕が認められるものがある。主に柵木や隅柱の端部加工に用いられる。
- 打ち割り—打ち割り技法により割り裂いて分割するものである。打ち割りのために挿入する工具には包丁や鉋のような刃部の長い工具と楔がある。楔は大型部材には主に直径1～3cm前後の鉄製工具が用いられるが、ほかに幅4～8cm程度の板を挿入した可能性がある。
- ⑧樹皮 樹皮を残すものに○印を付けた。なお、樹皮は内側の生きていた組織である内樹皮と外側の死滅した組織である外樹皮[原田^{ほか}1985]に分かれるが、内樹皮が残っている場合とする。スギの場合、表面の縦に割れた部分は外樹皮に相当する。
- ⑨接合番号 SE895及びSE1007で接合した個体のうち、縦板は樹皮側から接合順に1・2・3のように数字を付し、柵木と隅柱はA・Bのアルファベットを付して識別した。
- ⑩備考 使用時において材木に残された刻印やキズ・つぶれなどの痕跡、その他の特徴を記載した。

2) 概 要

木製品はすべて井戸から出土したものである。井戸の構造は、大型井戸 SE895・1007 が打ち割り技法によって作り出した薄板を側板として縦方向に組み、横棧・隅柱で保持した縦板組隅柱横棧留〔宇野 1982〕、SE232・401・402・1212 が素掘り井戸、SE1329 が曲物の水溜を持つ素掘り井戸である。出土木製品は、大型井戸 SE895・1007 が側板・棧木・隅柱・曲物・加工品で、そのほかの井戸は曲物・箸状木製品・曲物底板・漆器皿・板材などの加工品である(第6表)。また、接合が認められた個体は、SE895 で縦板 2 個体・棧木 1 個体、SE1007 で縦板 11 個体・棧木 2 個体・隅柱 4 個体、合計 20 個体であり、このうち 19 個体を図化した。

	SE232	SE401	SE402	SE1212	SE1329	SE895	SE1007
縦板 (120cm以上)						10	93
縦板 (60～120cm)						44	10
縦板 (30～60cm)						47	39
縦板 (30cm以下)						74	169
棧木 (凸加工)						6	9
棧木 (凹加工)						6	8
隅柱?						6	5
隅柱?						4	16
隅柱?						8	1
曲物 (製品)					1	2	3
曲物 (部材)			1	6	3	1	14
加工材	2	1		4	8	10	12
食器皿 (箸・木匙)		1			1	2	6
板材 (下駄)							1
削片				1			
漆器皿					1		
漆器皿板						1	
合計	2	3	1	11	14	212	385

第6表 井戸別木製品出土点数

3) 各 説

a 井 戸 (図版 37・95・96)

SE232 (157・165)

157 は鎌で、下端部に切り込みが認められる。165 は中央部に 5.5 × 3.0cm の穿孔のある板材で、穴の周囲は面取り加工が施される。全体に腐蝕が著しい。

SE401 (166・167)

166 は折敷の底板と考えられ、側板の痕跡と板を留めるための木釘の穴が認められる。167 は曲物の底板と考えられ、表面下部に加工痕が認められる。

SE402 (168)

168 は曲物の底板と考えられ、全体に腐蝕している。

SE1212 (169)

169 は網代で、横材幅 1.5cm、縦材幅 1cm、厚さ 0.1cm の割り裂いたスギ板をござ目編みで編み込んだものである。ほかにも同一個体の破片が出土しており、本来は更に大きなものであったと考えられる。

SE1329 (170～174)

170～172 は箸状木製品で、面取り加工が施される。173 は曲物側板上で上半部は割れている。側板は内面と外面の 2 重の板で構成され、外面は上下 2 枚、内面は 1 枚の桎目板が用いられる。ケビキは表板の内面に木目に対して斜め方向、内側の板の内面には木目に対して垂直方向に、切り込みを入れて折り曲げている。側板の綴じ方は外側の板が 1 列内 3 段綴じ。内側の板が 1 列内 4 段綴じで綴じられている。下部には底板を留めていた木釘の穴が 8 か所認められる。174 は漆器皿で内外黒漆塗り、推定口径 14cm で、側面の立ち上がり部分約 5 分の 1 を残す。

b 大型井戸

SE895 (図版38～40・96・97)

縦板 (175～192・206～213) 縦板は大型の薄板 (175・176・189・190・206) と短い薄板 (177～188・191・192・207～213) を組み合わせる点の特徴である。側板3段目には短い薄板を規則正しく並べ、側板2・3段目には幅の広い大型の薄板が用いられる。いずれも打ち割り技法による製板であり、接合資料は176・189である。

175は芯に近く、打ち割り後の表裏面は凹凸が著しい。この凸部を平滑にするために新加工が加えられる。左右側面の新加工は打ち割り前のもので、上下端部も打ち割り前の斧による切断である。176は薄板3点が接合した。表面の1枚目全面及び2枚目上部には打ち割り前に新加工が施され、左右側面にも打ち割り前の新加工が認められる。下端は同一幅で縦方向の直線的な加工痕があり、鑿で斧による切断面を平滑に加工したものと考えられる。189は薄板3枚が接合した。側面には打ち割り前の新加工があり、下端は鑿で斜めに加工している。190は心去りミカン割材を打ち割りして柁目板材としたものである。図正面・裏面の加工痕は分割前の加工痕と見られる。左右側面は分割後に新加工を加えて平坦にしている。206は表面に新加工が施される。207は下部に刻みがあるほか、表面に井戸側とは異なる部材と接した跡があることから、再利用の可能性がある。209は表面の新加工はわずかで、樹皮が多く残る。210は打ち割りによる柁目取りで、左側面に樹皮が残る。211は図正面にある刻印は、「×」印のものを縦分に分割した結果と考えられる。

横木 (195～205) SE895の横木は3枚組接ぎ加工で組まれており、組接ぎ部の加工形態で、凹加工と凹加工、材木別で角材と板材に区別して、凹加工の角材 (195・196) と凹加工の板材 (200～202)、凸加工の角材 (197～199) と凸加工の板材 (203・204) の4種類に分けられる。板材と角材の横木の使い分けは4段目が板材、3段目は角材と、段ごとに使い分けており、仕口の組み合わせも、北西面1段目が凹加工なら2段目は凸加工と、縦ぎ手の方向を段ごとに変えて強度を保っている。

195は2個体が接合したものである。表面及び裏面の加工痕は直線的で長い刃部を持つ工具と考えられることから、鉋によるものと推測される。接合面にも同様の工具痕があり、分割後に平滑するために調整したものであろう。接合面には楔痕を確認できないため、鉋を用いて分割した可能性がある。196は表面に分割時の楔痕を観察できる。楔痕は幅4cmで、細かな条線を残すことから、板を差し込んだ可能性がある。また、左右端以外は打ち割り後に新加工が施される。198は表面に斧と見られる工具で加工が施され、直線的な刃部が表面に突き刺さった部分も認められる。上下面は打ち割り後に平滑にするための新加工が施される。200の表面にある刻印は、円の縁に短い直線を加えたものである。

隅柱 (193・194) 193は表面に新加工が認められる。全体に腐蝕が著しい。194は上端部にわずかな段欠き加工が施される。

曲物 (217・218) 217は上下に重ねられていた上側の曲物で、内側の側板は1枚の板目の厚板、外側の側板は、上中下3枚の柁目板を曲げて作られている。ケビキは内側の側板には内面やや斜めに、木目を分断する方向に切り込みを入れ、内側の側板の外面には、斜めに切り込みを入れている。内側と外側の側板の間には、部分的に補強ないし隙間埋めの板を上下方向から差し込んでいる。縦じ合わせは、側板が二重になった部分で行われていて、縦じ合わせ部分の側板を薄くして、段差ができないように板厚の調整が図られている。また縦じ合わせ部分をずらして、同じ部分に力がかからないように強度を持たせて

いる。縦じ方は1列内5段縦じで、留め終わりの部分だけ2段になって裏側で終わっている。下端部は箍で縦じて補強している。下端部内面は、底板を入れるためにテーパ状に削っている。底板を留めていた木釘の穴が8か所認められる。218は上下に重ねられていた下側の曲物で、構造は217と同様で内側の側板を1枚の板目の厚板、外側の側板は、上中下3枚の柁目板を曲げて作られている。ケビキは内側の側板には、内面にやや斜めに木目を分断する方向に切り込みを入れ、内側の側板の外表面には斜めにX字状に切り込みを入れている。内側と外側の側板の間には、部分的に補強の板を上下方向から差し込んでいる。縦じ合わせは側板が2重になった部分で行われていて、縦じ合わせ部分の側板を薄くして、段差が出来ないように板厚の調整が行われている。また縦じ合わせ部分をずらして、同じ部分に力がかからないように強度を持たせている。縦じ方は1列内5段縦じで、留め終わりの部分は、重ね合わせて内側で終わっている。下端部内面は、底板を入れるためにテーパ状に削っているが、木釘の穴はない。中央部の箍は補強部分からずれた可能性が考えられる。曲物を取り上げる時点では、218との合わせ部分に箍がはめてあったが外れている。

その他(214～216) 214は漆塗り板で、上下の漆の切れている部分には穿孔があり、杵に扶んで留めていたものと推察される。215は箸状木製品で、両端に向かってやや細くなる。面取り加工が認められる。216は先端が尖る棒で器種、用途不明である。小型の削り出し木製品か、木匙などの原型ではないか。

SE1007 (図版41～44・98～100)

縦板(219～227・255・261・262) SE1007の側板は全長141～199cm・幅12.3～27.8cm・厚さ0.5～3.2cmの幅の広い薄板で構成されていて、ほぼ同じサイズの原材料から打ち割って規格性のとれた板を作り出している。接合個体は11点であり、このうち10点を図示した。他の1点は板目材が2点接合したものである。いずれも上下端の幅の違いから木の根元側を知ることができるため、根元側を下にして図示した。その結果、221・223～227の腐食した側はすべて上端であることから、木の上方を上にして設置していたものと考えられる。

219は10点が接合した。表面は打ち割り前に新加工が施され、樹皮の多くが取り除かれる。下端は打ち割り前に斧加工後、鑿で平滑に加工が加えられる。裏面の中心には「*」印状の刻印が施されている。下端の接合面に隙間はなく、上端の接合面に隙間が認められることから、上端側から打ち割りがなされたものと推定される。220は14点が接合した。表面には打ち割り前に新加工が施され、半円に対し斜線が加えられたような刻印が認められる。221は8点が接合した。表面には220と同様の刻印が施される。下端左側は斧加工により階段状となる。側面は打ち割り前の新加工が認められる。222は6点が接合した。表面には新加工の後に「×」印の両側に直線を引いたような刻印が施される。上下端は斧により平滑に加工される。上端は接合面の間に隙間が認められることから、上方向からの打ち割りが行われたものと推定される。223は8点が接合した。表面には山形状に直線を加えた刻印が認められる。左側面は新で平滑に加工が施される。224は8点が接合した。表面の新加工がわずかだが、樹皮は一部しか残っていない。225は表面に「*」印状に斜線を加えた刻印が施されており、木裏側にも刻印があったことを知りうる資料である。226は木取りが柁目で、左側面に打ち割り前の新加工と樹皮が認められる。227も柁目である。255は16点が接合した。木取りは柁目で、木表側である右側面に打ち割り前の新加工が施される。また、右側面と左側面のほぼ同じ高さに「*」印状に直線を加えた刻印が認められ、225と合わせ表裏に刻印が施されていた可能性を示す資料である。上端の接合面は下端に比べ明らかに隙間が大きく、上端

側から打ち割りが行われた可能性がある。柱目取りである 226・227・255 は板目取りと比べ幅は狭いものの、均等の幅の薄板を多数得ていたことが分かる。

棧木 (241～249) SE1007の棧木は3枚組接ぎ加工で組まれており、組接ぎ部の加工形態で凹加工(241～244)と凸加工(245～249)の2種類に分けられる。SE895と異なり板状のものは少ない。また、端部や凸部には鋸の使用しており、3枚組接ぎ加工の仕口や棧木の全長を決める精度を必要とする加工には鋸を使用していたと思われる。仕口の組み合わせも継ぎ手の方向を段ごとに覚えて強度を保っている。また、棧木組接ぎ部分にはつづれ、折れなどが多数確認できる。

241は2点が接合したものである。上下面及び接合面に釘によると見られる楔痕が明瞭である。この楔痕と表面の新加工痕から、打ち割りによって少なくとも4分割であったことが分かる。242も241と同様に上下面及び接合面に楔痕を観察できる。243は上面に打ち割り後の新加工が認められる。244は表面に分割時の楔痕と分割後に平滑に加工した新痕が認められる。楔は幅2.5cmの広いものと条線を残すものがある。245～249の楔痕は釘と条線を残す2種が認められる。

隅柱 (250～252・256～260) SE1007の隅柱は段欠き加工の角材で、段欠き部分が棧木に当たって井戸の内側に落ちてこないように組み込まれている。接合資料は250・251・256・257である。

250は表裏面及び右側面の3面に打ち割り前の新加工が認められることから、打ち割り前の元の角材の大きさを示す資料である。接合面には細い釘による楔痕を観察できる。251は表面及び右側面に打ち割り前の新加工、左側面が打ち割りであることから、打ち割り前の角材は更に大きいものであったことが分かる。256は表面及び左側面に打ち割り前の新加工がある。257は表面に打ち割り前の新加工が認められる。

曲物 (263～265) 263は曲物で底板を残す。1枚の板を2重に巻いて、3重になった部分で綴じ合わせている。合わせ部分は板厚を薄くして厚みの調整が図られている。底板は8か所の木釘によって留められている。側板内面には部分的に斜め、縦にケビキで切り込みを入れている。264は曲物で底板がずれて残っていた。1枚の板を2重に巻いて、3重になった部分で綴じ合わせている。合わせ部分は板厚を薄くして厚みの調整を行っている。板厚約4mmに対して半分約2mmの切り込みを入れて曲げている。底板には5か所の木釘の痕を残すが側板には見受けられない。側板下部は摩滅していると思われる。265は曲物で内側の側板は1枚の板目の厚板、外側の側板は上中下3枚の柱目板を曲げて作られている。内側の厚板は板厚に対して3分の1から半分の切り込みを入れて曲げている。綴じ合わせは板が2重になった部分で行われていて、綴じ合わせ部分の板を薄くして段差が出来ないように板厚の調整が図られている。また、綴じ合わせ部分をずらして同じ部分に力がからないように強度を持たせている。綴じ方は1列内多段綴じ、2列内多段綴じで綴じている。留め終わりの部分は重ね合わせて内側で終わっている。下端部は縦で2重に綴じて補強している。内側と外側の側板の間には部分的に補強の板を上下方向に差し込んでいる。下端内面は底板を入れるためにテーパ状に削っているが木釘の穴はない。

その他 (228～240・253・254) 228・229は籠状で面取り加工を施している。238は棒で、楔状に中央部が細くなって面取り加工が施されている。239は木匙。236・237は板である。230～235は箸状木製品である。240は曲物底板で木釘の穴が認められる。2か所の穿孔は底板が割れたための補修用と推察する。253は板で左半部欠損、面取り加工が施されている。254は差菌の下駄菌で、上部に接合加工が施されている。下端面には使用によって多数の小礫が埋まっている。

4 縄文時代の遺構と遺物

A 遺 構 (図版 46・91)

縄文時代の遺構・遺物は 27～30DD～GG グリッドに集中しており、SR1327C・D などの自然流路近くで人間活動が行われていたことを示している (図版 45)。検出した遺構は、集石 1 か所、性格不明遺構 1 基である。遺構・遺物の分布にまともりは認められず、縄文時代の遺跡中心部の外縁に位置するものと考えられる。

SS1864

下層の確認調査中に IV a 層中で検出した。43m × 0.21m の範囲から楕円形の礫 3 点が出土した。礫はいずれも凝灰岩で、長径 12～25cm を測る。IV 層は礫を含まないことから、人為的に置かれたものと考えられる。

SX129

深鉢が横倒しの状態で出土した。周囲に明確な掘り込みは認められず、埋設土器とは認定できない。SS1864 の出土状況を考慮すると、土器下端が当時の地表面であった可能性が考えられる。

SR1327C・D

古代～中世の SR1327 及び SR1327B より古い河川で、下層の確認調査で検出した。SR1327D は、南北方向から北東方向へ流れていたものと推定される。深度は中世の遺構検出面から約 3m 下まで及んだが、自然流路の底面は確認できなかった。覆土及び川底付近で流木を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。SR1327C は位置を東側に変えたものと推定され、川幅は約 20m、深さは約 3m を測る。川底付近で流木が出土したが、遺構・遺物は検出されなかった。D 地区の下層確認調査でも同様の自然流路が検出され、縄文時代晩期後葉の遺構・遺物が検出されており、この自然流路も同じ時期に形成された可能性がある。

B 遺 物 (図版 46・95)

1) 土 器 (266・267)

27～28DD～GG グリッドで 4 点出土した (図版 45)。266 は深鉢で、体部に縄文 LR が施され、底面に網代痕が認められる。267 も深鉢で、口縁部に縄文 R が施される。いずれも晩期後葉のものと考えられる。

2) 石 器 (268～270)

下層の確認調査で出土したもので、集石遺構 SS1864 からの出土である。いずれも楕円形礫で、269 は正面中央に 1 か所、270 は 3 か所、凹状のくぼみをもつ。明確な使用痕が認められないため自然礫と判断したが、凹石の可能性もある。出土層位から、いずれも縄文時代晩期に所属するものと推定される。

第V章 D 区 の 調 査

1 遺構・遺物の検出状況

遺構は、掘立柱建物 9 棟、井戸 2 基、土坑 34 基、ピット 334 基（うち掘立柱建物の柱穴 82 基）、溝 46 条、炭化物集中範囲 6 か所、自然流路 1 条、性格不明遺構 6 基である。北東-南西に伸びる中世の道 1 (SD2000・2001) が見つかり、遺構分布はこれより南東側に集中する（図版 27）。遺構の重複は複数回認められる。出土遺物からはほぼすべての遺構が中世に所属するものと考えられる。

遺物は、縄文時代の土器 3 点・石器 3 点、古代の土器 38 点、中世の土器と陶磁器 404 点・金属製品 44 点・製鉄・鍛冶関連遺物 15 点、石器・石製品 6 点が出土した。縄文時代の遺物は SR2444 より北西側の IV 層中及び下層確認調査で出土した。古代の遺物は A 区に比べかなり少ない。中世の遺物は道 1 の側溝 (SD2000・2001) をはじめとする遺構覆土から出土した。

2 中世の遺構

A 分 類

遺構分類は第IV章 1A のとおりであるが、当区でのみ検出した以下の遺構をこれに追加する。

道

同規模の 2 条の溝が等間隔で平行に伸びるものを道の側溝と考え、2 条の溝とこれに挟まれた平面を道と認定する。D 区では 2 条の道を検出した。

B 掘 立 柱 建 物 (図版 50・51・102・103)

掘立柱建物は 9 棟を検出した。すべて道 1 より東側にあり、調査区北東側に集中する。建物型式の内訳は梁間一間型建物 6 棟、一面廂付梁間一間型建物 1 棟、総柱建物 2 棟であり、梁間一間型建物が多数を占める。主軸方向は 35～42 度東偏するものと、47～57 度西偏するものがある。面積は SB29 の 14.85m² が最も小さく、SB31 の 43.88m² が最も大きい。所属時期はすべて中世のものと考えられる。

SB26 (図版 50・102)

12・13J～K グリッドに位置する。梁間 2 間、桁行 3 間の一面廂付梁間一間型建物 I a 型である。桁行柱間長は 1.82～3.01m で、桁行中央が広い。SD2008・2132 より新しく、SK2438 より古い。SB27～29 との新旧関係は不明である。

SB27 (図版 50・102)

12・13J～K グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物 I a 型である。梁行長は 3.95m で比較的広い。SB29・SD2008 より新しいが、SB26・28 との新旧関係は不明である。

SB28 (図版 50・102)

12・13J～K グリッドに位置する。梁間 2 間、桁行 4 間の梁間一間型建物 II b 型である。両方の妻側面に妻柱 P2007・P2125 を持ち、北側は総柱となる。棟通り中央の桁行柱間長が長い。SD2114・

2122 より古いのが、SB26・27・29 との新旧関係は不明である。

SB29 (図版 50・102)

12・13J～K グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物 I a 型である。SB27 より古いのが、SB28 との新旧関係は不明である。

SB30 (図版 51・103)

13・14I グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物 I a 型である。梁行長が 4m で広めである。SB31・SD2020・2031 より古い。

SB31 (図版 51・103)

13・14I～J グリッドに位置する。梁間 3 間、桁行 3 間の総柱建物である。桁行柱間長は 1.62～3.02m で東側が狭い構造となる。SB30・SK2043・SD2009・2017 より新しく、SD2012・2020・2031 より古い。

SB32 (図版 51・103)

14I～J グリッドに位置する。梁間 2 間、桁行 3 間の総柱建物である。桁行柱間長は 1.26～2.3m で中央が広い構造となる。SD2012・2017・2021 より古い。

SB33 (図版 51・103)

14H～I グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物 I a 型である。P2023 から銭貨 (図版 60-373) が出土した。SD2009 より新しく、SB34・SD2010・2014 より古い。

SB34 (図版 51・103)

14H～I グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 4 間の梁間一間型建物 I a 型である。SB33・SD2009 より新しい。

C 井 戸 (図版 52・104)

井戸は 2 基が検出された。これらは 12・13K グリッドに所在し、掘立柱建物に近接する。規模・形状は共に類似し、A 区の井戸に比べ規模が小さく、浅く構築されている。

SE2005 (図版 52・104)

SB26～29 に近接する。井戸側などの施設を持たないことから、素掘りの井戸と考えられる。覆土はにぶい黄褐色シルトがブロック状に混じることから、埋め戻されたものと考えられる。また、1～3 層には炭化物粒が認められ、特に 1 層に多く含まれる。井戸は、河川堆積層である粘質シルト層 (1a～1d 層) を掘り抜き、砂質層 (1e 層) を底面としている。遺物は 1 層から砥石 (図版 60-354) が出土した。

SE2238 (図版 52・104)

SE2005 と同様に SB26～29 に近接する。井戸側などの施設を持たないことから、素掘りの井戸と考えられる。覆土は 4 層に識別され、2・4 層は灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトがブロック状に混じることから、埋め戻されたものと考えられる。また、2 層からは径 20cm 程度の礫が 2 点出土した。SE2005 と同様に、粘質シルト層を掘り抜き、砂質層を底面としている。したがって、砂質層 (1e 層) が透水層であったものと推定される。

D 土 坑 (図版 52・53・104～106)

土坑は 30 基検出した。このうち、道 (SD2000・2001) の南東側に 20 基、北西側に 6 基、道と重複

するもの3基、道の側溝の間にあるもの1基がある。これらは、検出状況・覆土堆積状況・出土物などから13～14世紀に所属するものと推定される。

道の南東側では、13・14I、12～14J、11～13Kグリッドに19基分布し、建物・溝の分布域と重なる。また、北西側では12Hグリッドに3基、10J、9Kグリッドに4基存在するが、南東側に比べて極端に数が少なくなる。

平面形は、楕円形・円形・方形がある。このうち、楕円形17基、円形8基、方形・長方形5基となり、全体の約8割が楕円形・円形を呈する。断面形態は、台形状24基、階段状2基、箱状3基、弧状1基となる。

したがって、平面形が楕円形、断面形が台形状となるものが主体を占める。また、平面・断面形態の組み合わせでは、楕円形-台形状14基、円形-台形状6基、方形-階段状2基などがある。

上端長軸長は最小0.68m、最大2.04mを測る。このうち、1m未満が10基、1m以上が14基で、2つの規模に分かれる。深度は、30cm以下が20基あり、浅いものが多い。また、規模が1m未満では、SK2040～2042・2045・2087・2434・2435・2437・2438の9基、1m以上では、SK2038・2043・2046・2113・2420・2436の6基が建物に近接して存在する。

覆土の堆積状況は自然堆積のほか、埋め戻しなどの人為的な堆積が認められる。覆土が埋め戻されたものと考えられるものには、SK2093・2136・2336・2425がある。

検出された土坑のうち、建物に近接する土坑は、主軸をこれに合わせることで建物との関連が推定される(第29図)。また、12Hグリッドに存在する土坑は、出土状況などから墓坑の可能性がある。平面形はいずれも方形で、断面形は階段状・箱状が認められる。これらは、道の西側にまともり、南東側の建物に近接する土坑とは分布域を異にする。こうした分布状況から、道の北西側は墓域の可能性が考えられる。

SK2038 (図版52・104)

SB32に近接し、主軸はこれと直交する。平面形は楕円形だが、北西側へ向って幅が狭くなる。覆土には焼土を多量に含む。底面・側壁に被熱の痕跡が認められないことから、埋め戻されたものと推定される。底面は凹凸があり、南東端がやや落ち込む。

SK2043 (図版52・104)

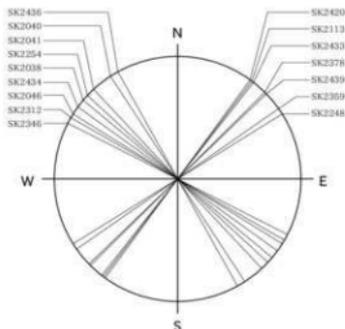
SB32に近接し、SB31の柱穴P2044に切られることから、これより古い。覆土は2層に識別され、1層には炭化物粒が微量含まれる。底面は東側が平坦であるが、西側はやや凹凸がある。

SK2045 (図版52)

SB32に近接し、位置関係からSB31と重複する。重複部分でSB31の柱穴が検出できないことから、本遺構が新しいものと推定される。覆土は4層に識別され、東側の1・3層には炭化物粒が含まれる。底面は平坦である。遺物は3層から土師質土器皿が出土した。

SK2046 (図版52・104)

SB32に近接し、主軸はこれと直交する。覆土は2層に識別され、灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトがブロック状に混じり合うことから、埋め戻された可能性がある。底面は平坦である。遺物は1層から土師



第29図 D区 土坑の主軸方向

質土器皿が出土した。

SK2093 (図版 52・104)

覆土は4層に識別され、1～3層は箱状に堆積する。土層断面の観察から、堀形を掘り埋設物を設置したのち、4層の土を埋め戻していた可能性がある。埋設物は残存していないため不明であるが、底面では41×38cmの落ち込みが認められる。また、3層からは焼骨が出土した。出土した焼骨は、自然科学分析では哺乳類という結果が出たが、種別などの情報は得られなかった。このほか、覆土1～4層で小礫が出土しており、特に1～3層に多く含まれる。

SK2113 (図版 52・105)

SB26・27に近接し、主軸はこれらと平行する。覆土は4層に識別され、黒褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、南西側がやや狭くなる。遺物は1・2層から土師質土器皿(図版 57-276・277)が出土した。

SK2136 (図版 52・104)

SK2093に隣接する。覆土は4層に識別され、1～3層は箱状に堆積する。土層断面の観察から、堀形を掘り埋設物を設置した後、4層の土を埋め戻していた可能性が考慮される。埋設物は残存していないため不明であるが、底面では40×39cmの落ち込みが認められる。したがって、土坑の構造は、SK2093と類似する。4層から礫が1点出土した。

SK2336 (図版 53・105)

覆土は9層に識別され、1・3層は炭化物層で、22cm程度の厚さで堆積する。いずれも焼土粒を微量に含む。底面・側壁に被熱の痕跡が認められなかったが、覆土の堆積状況から、土坑内に炭材と燃料になる小枝・枯葉を入れて焼いた後、土を被せて炭を作る伏窯と推定される。遺物は3層から土師質土器皿(図版 57-275)が出土した。

SK2420 (図版 53・106)

SB26に近接し、主軸はこれと平行する。覆土は3層に識別され、北東側へ向って斜位に堆積する。底面はやや凹凸があり、東端がやや落ち込む。

SK2425 (図版 53・106)

SK2093・2136に近接する。底面・側壁には、明黄褐色シルトが約8cmの厚さで貼られている。この内側には、にぶい黄褐色・灰黄褐色シルトがブロック状に堆積する。3層は炭化物を多量に含む。この直上の2層からは焼骨が出土した。自然科学分析では、SK2093と同様に哺乳類という結果が出たが、種別などの情報は得られなかった。このほか、底面から礫が1点出土した。

SK2434 (図版 53・106)

SB27に近接し、主軸はこれと直交する。平面形は楕円形だが、南側が直線状となる。覆土は2層に識別され、黒褐色シルトが主体である。1層には炭化物粒を少量含むが、炭化物は集中せず、疎らである。底面は北西側へ向かって傾斜する。

SK2435 (図版 53・106)

SB33・34に近接する。覆土は単層で、黒褐色・にぶい黄褐色シルトがブロック状に混在する。底面はやや凹凸がある。

SK2436 (図版 53・106)

SB33に近接し、主軸はこれとおおむね平行する。覆土2層に識別され、上層は灰黄褐色シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。底面は北側へ向かって傾斜する。

SK2437 (図版 53・106)

SB30に近接する。覆土はしまりが強く、灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトがブロック状に混在する。底面は平坦である。

SK2438 (図版 53・106)

SB27に近接する。覆土には炭化物粒を比較的多く含むが、炭化物は集中せず、疎らである。底面は平坦である。

E 溝 (図版 53・55・107・108)

溝は39条検出された。このうちの3条は覆土に1層起源の土が堆積するため、近代以降の所産であると考えられる。これ以外は、掘立柱建物の柱穴・土坑に堆積する覆土に類似することから13～14世紀に所属するものと推定される。

平面形は、直線状となるもの33条、直角に屈曲するもの2条、クランク状に屈曲するものが1条で、直線状に伸びるものが主体である。断面形態は、いずれも台形状である。長さは、最小0.96m、最大14.96mで、5m以下(15条)、5～10m(14条)、10m以上(7条)となる。幅は、最小0.22m、最大1.56mで、0.4m以下(5条)、0.4～0.8m以下(19条)、0.8m以上(12条)の規模に分かれる。深度は、最小4cm、最大42cmで、30cm以下のものが29条と、浅いものが主体である。

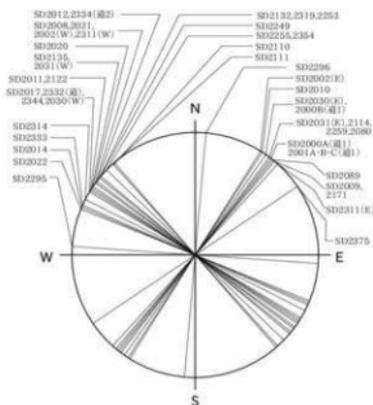
東偏するもの10条、西偏するもの22条がある(第30図)。東偏するものは、北東が9条、西偏するものは、北西が21条で、北東、北西が主体である。したがって、建物・道の主軸と平行、あるいは直交する傾向が認められる。

溝は、調査区の北東側に存在するものと、北西・南西側に存在するものが認められる。北東側では、14H、13・14I、12～14J、12・13Kグリッドに分布し、掘立柱建物・土坑の分布域と重なる。位置関係から、SD2009・2012・2088・2098・2111・2114・2122・2132・2135は、建物との関連が推定される。このほか、居住域から離れて存在するものに、SD2002・2295・2296・2311・2314・2319・2333・2344・2354・2375の10条がある。

検出した溝のうち、建物の主軸をと平行、あるいは直交するものは、位置関係から建物との関連が推定される。建物の片側に構築され、全長が桁行とおおむね一致するSD2088・2114は雨落ち溝などの機能が考慮される。また、建物の両側に平行して構築され、全長が桁行より長いSD2009・2089・2012などは、建物をつんで平行して伸びることから、区画の目的があった可能性が考えられる。居住域から離れて存在するものは、柵などの施設が想定されるSD2295のほかは、調査区外へ伸びるものが多いため、今後の調査で明らかになるものとする。

SD2002 (図版 53・107)

南東-北西方向へ4.7m直線状に伸び、約90°



第30図 D区 溝の主軸方向

直角に屈曲して、3.3m 北東-南西方向に伸びる。覆土は3層に識別され、水平に堆積する。底面は起伏があり、溝が屈曲する部分がテラス状となる。遺物は2層から土師質土器皿が出土した。

SD2009 (図版 53)

SB31の南東側に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状である。建物の北西側にはSD2088が存在する。両溝は建物を挟んで平行する形となる。覆土は単層で、にぶい黄褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。遺物は1層から土師質土器皿が出土した。

SD2012 (図版 54・107)

SB33の南西側に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状である。SB31・32の柱穴と重複し、これらより新しい。覆土は2層に識別され、上層には炭化物を含む灰黄褐色シルトが堆積する。底面は、やや凹凸があり、側壁は急角度で立ち上がる。遺物は1層から土師質土器皿・小皿(図版 58-325～327)・珠洲焼片口鉢が出土した。

SD2088 (図版 54)

SB30の北西側に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状である。覆土はにぶい黄褐色シルトが堆積し、建物を挟んで平行するSD2009の覆土に類似する。主軸方向・建物との位置関係・覆土の堆積状況から、SD2009と同時に機能していたものと推定される。底面は平坦で、側壁は急角度で立ち上がる。

SD2111 (図版 54・108)

SB29の北東側に近接し、主軸はこれと直交する。北西-南東方向へ直線状に伸びるが、北西端がやや湾曲する。覆土は2層に識別され、灰黄褐色シルトが堆積する。底面は凹凸があり、側壁は急角度で立ち上がる。

SD2114 (図版 54)

SB26の南東側に近接し、主軸はこれと平行する。平面形は直線状である。覆土は3層に識別され、1層は炭化物粒を含む。底面は平坦で、側壁は急角度で立ち上がる。遺物は、1層から土師質土器皿・青磁椀(図版 59-336)・釘(図版 60-367)が出土した。

SD2122 (図版 54)

SB27・29の北東側に近接する。SB28と重複し、柱穴のP2116・2125・2244を切るため、これより新しい。主軸は建物に直交する。平面形は直線状で、南東延長にはSD2111が存在する。覆土は単層で、灰黄褐色シルトが堆積し、SD2111に類似する。位置関係・覆土の堆積状況から、SD2111と同時に機能していたものと推定される。底面は平坦で、側壁は垂直に立ち上がる。

SD2132 (図版 54)

SB27～29の南西側に近接する。SB26と重複し、柱穴のP2239に切られるため、これより古い。SB27・29を挟んだ北東側にはSD2122・2135が存在し、これらとは、建物を挟んで平行するかたちとなる。また、南東側は調査区外へ続く。覆土は3層に識別され、にぶい黄褐色シルトが主体である。底面は、やや凹凸があり、側壁は急角度で立ち上がる。遺物は1層から珠洲焼片口鉢、1・2層から土師質土器皿が出土した。

SD2135 (図版 54)

SB27・29の北東側に近接し、主軸はこれらと直交する。平面形は直線状で、南東側が調査区外へ伸びる。覆土は単層で、にぶい黄褐色シルトが主体である。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度で立ち上がる。

遺物は1層から土師質土器皿が出土した。

SD2295 (図版 54・107・108)

東西方向に伸び、東側は調査区外へと続く。平面形は直線状である。覆土は3層に識別され、灰黄褐色シルトが主体である。底面の両端及び中央では径10～17cm、深さ2～12cmのビット13基を検出した。これらは、不規則ながらも列状に並ぶことから、杭列あるいは柵などの施設も想定される。遺物は1層から土師質土器皿・珠洲焼壺が出土した。

SD2296 (図版 55)

直線状に南北方向へ伸びる。北側では緩やかに西へ湾曲し、この延長上にはSD2354が存在する。両溝は、幅・深度・覆土の堆積状況が類似することから、同時期に機能していた可能性が考えられる。遺物は、SD2354の1層から土師質土器皿が出土した。

SD2319 (図版 55・108)

道1の両側溝(SD2000A・SD2001A)間に存在する。側溝(SD2000A・SD2001A)と重複し、これらより古い。主軸は道に直交する。溝の幅は1.48mを測り、検出した規模の中では、幅広の部類に属する。覆土は3層に識別され、レンズ状に堆積する。底面はやや凹凸があり、側壁は急角度で立ち上がる。遺物は、1層から土師質土器皿・珠洲焼片口鉢(図版 59-337)が出土した。

SD2333 (図版 55)

西北西-東南東に伸びる。平面形は直線状で、東南東延長にはSD2314が存在する。覆土は単層で、褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は急角度で立ち上がる。SD2314とは、位置関係・幅などの類似から、同時期に機能していた可能性が考えられる。

F 道 (図版 55・56・108・109)

1) 概要

調査区の中央では平行する2条の溝(SD2000・2001)を検出した。これらは一定の間隔を保ちながら北東-南西方向に伸び、両端は調査区外へと続く。こうした検出状況から、2条の溝は道の側溝と推測され、両溝の間は路面部分と考えられる。これを「道1」と呼ぶ。路面は耕作などにより削平されているため、その痕跡を確認できなかった。また、9J・9・10Kグリッドでは、これに直交するかたちで2条の溝(SD2332・2334)を検出した。これらも一定の間隔を保ちながら北西-南東方向に伸び、北西側は調査区外へと続く。したがって、この2条の溝を「道2」とする。SD2332・2334は、SD2000Bと交差する。交差部分の土層断面では、新旧を示す明瞭な土層の立ち上がり認められなかった。また、SD2000Aはこれら2条の溝を切っている。したがって、2条の溝は、SD2000Aより古く、SD2000Bと同時期の可能性が考えられる。

2) 道 1

a 側 溝

SD2000 (図版 55・56・108・109)

検出状況 土層断面から、SD2000は2回掘り直されているものと推定され、新しいものをSD2000A、古いものを2000Bとした。

SD2000A

形態・規模 調査区内の全長は61.20mを測る。底面標高は、南西端6.518m、北東端6.248mを測り、南西から北東へ向って傾斜する。また、底面には起伏があり、111・Jグリッドでは底面が高まる。断面形態は、10Jグリッド以北は台形状、10Kグリッド以南は階段状となる。この断面形状と溝の幅は相関し、台形状となる区間は約1.6m前後、階段状となる区間は約2.1～2.2mと後者が広がる。深度は最小0.42m、最大0.76mを測る。また、10Kグリッドの底面では、SK2378(図版55)が検出された。主軸は側溝と平行し、側溝幅に構築されていることから、側溝に伴う施設の可能性が考えられる。土坑からは青磁杯(図版57-278)が出土した。

覆土堆積状況 覆土の堆積形状は、レンズ状であることから自然堆積と考える。

出土遺物 遺物は1～6a層から土師質土器皿・小皿(図版57-280～287)・青磁碗・杯(図版57-289～291)・白磁皿(図版57-288)・珠洲焼片口鉢(図版57・59-292・293・348・349)・瓷器系陶器壺(図版57-294)・砥石(図版60-356)・鉄製品(図版60-371)・釘・椀形滓などが出土した。このほか、1・2a・3b・4a・6a層からは、焼骨が出土した。焼骨は細片で、哺乳類・ヒトの可能性が示唆されている(第Ⅶ章2)。また、覆土からは礫が768点出土した。礫は1～3層で615点(80%)あり、上・中層からの出土が多い。石材は、凝灰岩(60%)、砂岩(14%)、チャート(12%)が主体である。礫は被熱したものが15点あるが、これ以外は自然礫である。径は10cm未満が74%(570点)と、握り拳大より小さいものが多い。

SD2000B

形態・規模 10Kグリッドに13.0m残存するが、このほかはSD2000Aの構築により欠失する。底面は起伏があり、断面形態は台形状である。幅は1.52m、深度は0.623mを測る。

覆土堆積状況 側溝の切り直し(SD2000Aの構築)に伴い、埋め戻された可能性が考えられる。覆土は上～下層では灰黄褐色シルトがおおむね水平に堆積し、底面付近はしまりの強い黄褐色シルトが堆積する。

出土遺物 遺物は土師質土器小皿(図版57-295)のほか、礫が34点出土した。いずれも1層からの出土で、石材は凝灰岩(32%)、砂岩(29%)、チャート(20%)が主体を占める。径は10cm未満が76%(26点)の自然礫が多く、SD2000Aと同様の傾向を示す。

SD2001(図版56・108・109)

検出状況 土層断面からSD2001はSD2000と同様に掘り直されているものと推定される。土層断面の観察から、3回の掘り直しが認められ、新しいものからSD2001A・2001B・2001Cとした。

SD2001A

形態・規模 調査区内の全長は61.40mを測る。底面は起伏があり、南西から北西へ向って傾斜する。底面は北西側の13Hグリッドで立ち上がり、深度を浅くして調査区外へと続く。底面標高は、南西端6.179m、13Hグリッドで6.079m、北東端6.187m、深度は0.835～1.06mを測る。断面形態は、10Kグリッド以南は台形状、これ以北は階段状となる。幅は、断面が台形状となる区間は1.22m、階段状となる区間は2.04mを測り、後者の形態が幅広となる。

覆土堆積状況 覆土の堆積形状はレンズ状であることから自然堆積と考えられるが、13Hグリッドでは、焼土・炭化物・釘のほか焼骨が集中しており、部分的に掘り返し、あるいは埋め戻された可能性が考えられる。

出土遺物 遺物は土師質土器皿・小皿(図版57-296～308)・瀬戸入子(図版57-309)・青磁碗(図版57-310・312)・白磁皿(図版57-311)・珠洲焼片口鉢・甕(図版57～59-313～322・350・351)・瓷器系陶器壺(図版58-323)・五輪塔(図版60-353)・砥石(図版60-355)・釘(図版60-357～366)・椀形滓(図

版60-374・375)が出土した。このほか、1・2b・6a層からは、焼骨が出土した。焼骨は細片で、哺乳類・ヒトの可能性が示唆されている(第七章2)。2b層の上位では0.82×0.68mの範囲に焼骨が集中して出土し、この集中範囲をSX2115として調査した。

SX2115 (図版53・108)

焼骨は楕円形に集中し、側溝の中央部に存在する。主軸は側溝と平行することから、側溝を意識して構築されたことが考慮される。焼骨は多量の焼土・炭化物と共に出土した。焼土面・被熱の痕跡が認められないため、他の場所で焼かれた後に埋葬された可能性が考えられる。遺物は釘(図版60-369)が2点出土した。本遺構に隣接して、側溝内から釘が9点出土している。出土状況から、木棺の存在も考慮される。また、南西側に近接して、側溝からは五輪塔の水輪が出土した。本遺構は、検出状況及び側溝内の遺物出土状況から、墓の可能性が推定される。

このほか、側溝内からは礫が2,144点出土した。1～4層から1,926点(90%)出土することから、SD2000Aと同様に上・中層からの出土が多い。石材は凝灰岩(51%)、砂岩(17%)、チャート(17%)が主体である。礫は被熱するものが2点あるが、これ以外は自然礫である。径は10cm未満が75%(1563点)と多いこともSD2000Aに類似する。

SD2001B

形態・規模 12I・J、11J・K、10L・Mグリッドに47.4m残存する。12Iグリッド以北は、SD2001Aの構築により欠失する。底面は南西から北西へ向って傾斜し、11Kグリッドではテラス状となる。底面標高は6.056～6.179m、深度は0.64mを測る。断面形態は、西側の立ち上がりは欠失するため不明な部分も多いが、残存状況から階段状と推定される。

覆土堆積状況 側溝の切り直し(SD2001Aの構築)に伴い、埋め戻された可能性が考慮される。覆土は上～中層にかけて、灰黄褐色シルトが厚く堆積し、約39cmを測る。

出土遺物 土師質土器皿・青磁杯(図版58-324)・鎌(図版60-370)・椀形滓(図版60-376)が出土した。このほか礫が44点出土し、石材は凝灰岩(36%)、砂岩(23%)、チャート(16%)が主体である。被熱するものは認められず、すべて自然礫である。

SD2001C

形態・規模 調査区内の全長は61.60mを測る。遺構の西側はSD2001A・Bの構築により欠失する。このため、底面の状況など不明な部分も多い。残存状況から、断面形態は階段状と推定され、深度は0.23～0.47mを測る。

覆土堆積状況 覆土についても、残存状況が良くないことから、土層の把握が困難である。基本的には、にぶい黄褐色シルトが主体となるが、11K、13Iグリッドでは、部分的に褐灰色・灰黄褐色シルトなどの堆積が認められる。

出土遺物 1a層から土師質土器皿・瓷器系陶器片口鉢・甕・瀬戸が出土した。また、1・2層から凝灰岩・砂岩・チャートなどの礫が9点出土し、いずれも自然礫である。

b 構 造

側溝はSD2000で1回、SD2001で2回掘り直されており、左右で掘り直しの回数が異なる。覆土の色調・堆積形状から、SD2000A・2001Aは同時期に存在した可能性が考慮される。SD2000B・2001Bは、覆土に灰黄褐色シルトを多量に含むことから、時期的に近いものと推定する。また、SD2001Cは重

複関係から、SD2000Bの時期に掘り直されているものと考えられる。したがって、道は、①SD2000A-SD2001Aの時期、②SD2000B-SD2001Bの時期、③SD2000B-SD2001Cの3時期が想定される。

路面の最大幅は、③の時期では約5.5m、②の時期は約6m、①の時期は7mと時期が新しくなるにつれて規模が縮小する。また、③の時期は、道の南側でSD2001Cが東側へわずかにずれていく様子がうかがえる。道幅は北端で約6.5m、南端で7mを測り、南側が広くなる傾向がある。これに対して、①の時期の道幅は、北側で5.3m、南側で4.3mを測り、北側が広くなる。このことは、③の時期では、道の南側が東側へ緩やかに曲がりながら伸び、①の時期には直進して伸びていた可能性も考えられる。したがって、道幅の増減は、道筋の変化と関連した可能性も考慮される。

路面部分は削平されているため、その構造は不明である。しかし、側溝から出土した多量の礫が目ざれる。特にSD2001Aでは約2,000点の礫が出土している。両側溝から出土した礫は、握り拳大以下のものが7割以上を占めることから、ある程度の規格を持った礫が選択され、遺跡内に搬入されたものと想定される。また、被熱などの二次的な痕跡を残すものはごくわずかで、ほとんどが自然の円礫である。したがって、二次加工を施す目的で礫が搬入されたとは考えにくい。礫は道路の路盤材として使用される例があることから〔近江2008〕、本遺跡で出土した礫も路面構築に関連した可能性が考えられる。

側溝は、SD2000・2001で深度が異なる。底面標高はSD2000で6.2～6.5m、SD2001は6.07～6.2mとなり、SD2001の方が深く掘り込まれている。また、SD2000は深度を変えることなく掘り直されているのに対し、SD2001は掘り直される度に深度を深くする。これについては、地形的な要因が考えられる。第1章2Cでも触れているが、本調査区は、古代以前に自然流路が複数存在したことが確認されている。中世の遺構は、これらが完全に埋没した後、構築されている。流路に埋積した土は、SD2000付近は砂質シルト、SD2001付近では粘質の強いシルトである。したがって、SD2000は砂質で比較的水の浸透しやすい場所、SD2001は粘土質の水はけの悪い場所に立地しているものと考えられる。このことは、側溝が雨水など、水の影響を受ける度合いに差が生じたことが推定される。水が滞留しやすいと考えられるSD2001は、SD2000よりも深く掘る必要性があり、側溝の耐久度も低いことが想定されることから、掘り直しの回数が多かったものと考えられる。ただし、道の両側溝で深度が異なる例は、阿賀野市大坪遺跡〔荒川ほか2006〕のSD2・3など他の遺跡においても認められることから、地理的要因以外の可能性も考慮しておきたい。また、両側溝の底面は、凹凸面を持ちながら、南西から北東へ向って緩やかに傾斜する。胎内市西川内南遺跡〔野水ほか2005〕のSD151では、側溝の底面に連続する円形の土坑列が設けられ、「溝に流れ込んだ雨水を帯水させ、急流が生じるのを防ぐため」〔飯田1994・本田2008〕とされ、本遺跡についても、溝底面の状況から同様の目的があったものと推定する。このほか、両側溝を連結するようにSD2319が存在する。重複関係から、②・③の時期に所属するものとする。底面標高は、SD2000Bとおおむね同じ、SD2001Bよりは浅く、約40cmの差異が認められる。溝の両端は、①の時期の側溝により切られているため、側溝との接続状況は分からないが、側溝がオーバーフローしないよう相互に水が行き来するため、あるいは、路面の排水などの施設の可能性も想定される。

3) 道 2

a 側 溝

SD2332 (図版55・108・109)

北西側が調査区外へ伸び、調査区内の全長は12.10m、幅は0.48～1.02mを測る。底面標高は、道

1との交差部分で6.464m、中央部で6.691m、北西端で6.754mを測る。したがって、底面は道1との交差部分で落ち込んで連結し、この部分の底面は、道1の側溝より深くなる。覆土は3層に識別され、暗褐色・灰黄褐色シルトがレンズ～水平状に堆積する。遺物は珠洲焼片口鉢(図版59-339)・瓷器系陶器片口鉢のほか、礫が14点出土した。石材は凝灰岩(36%)、砂岩(36%)などがある。径はいずれも10cm未満である。これらには、加工痕や被熱が認められず、すべて自然礫である。

SD2334 (図版55・56・108・109)

SD2332と同様に、北西側が調査区外へ伸び、調査区内の全長は12.02m、幅0.94～1.14mを測る。底面標高は、道1との交差部分で6.606m、中央部で6.531m、北西端で6.557mを測り、中央付近でややくぼむが、おおむね平坦である。また、道1との交差部分は橋梁状となる。覆土はSD2332に類似し、暗褐色・灰黄褐色シルトがレンズ～水平状に堆積する。遺物は土師質土器小皿(図版59-338)・珠洲焼壺(図版59-352)などのほか、礫が62点出土した。石材は凝灰岩(48%)、砂岩(21%)、花崗岩(15%)、チャート(11%)などがある。径は10cm未満が46点(74%)と主体を占め、道1と類似する。これらには、加工痕や被熱が認められず、すべて自然礫である。

b 構造

道の最大幅は3.2mで、道1(②の時期)の約1/2である。検出状況から、道1の枝道ととらえることができる。路面部分は削平されているため、その構造は不明である。しかし、道1と同様に側溝から自然礫が出土している。礫は径10cm未満のものが主体で、規格性を持った礫が選択されていたことが推定される。こうした出土状況は、道1との共通性が認められ、これらの自然礫は道1と同様に路盤材として使用された可能性が考えられる。

両側溝は、北西側が調査区外へ伸びるため、その全容は不明であるが、おおむね同じ深さに構築されている。また、底面は若干の凹凸があるが、道1ほどの起伏は持たない。幅はSD2334がSD2332のおおむね1.5倍に構築されており、土層断面からは掘り直しの痕跡が認められない。したがって、この規模の差は構築当初からのものとする。以上のことから、道1とは構造が異なる可能性も考慮される。また、道1と交差する部分の形状は、それぞれ異なる。SD2332の底面は、道1の側溝へ向い緩やかに傾斜し、交差部分で道1の側溝より深くなる。これに対して、SD2334の底面は、おおむね平坦で、道1との交差部分では凸状に盛り上がる。この形状の相違は、側溝内の水の処理に起因することが考慮され、道2の側溝から道1の側溝へ、雨水などが急激に流れないようにする目的があった可能性が想定される。

G 性格不明遺構 (図版55)

性格不明遺構は5基検出され、SX2115・2352・2411・2412・2413がある。このうち、SX2411・2412・2413は調査区壁面でのみ確認されているため、詳細は不明である。

SX2352 (図版55)

道1の南西側に位置し、主軸は道1に直交する。北西側は調査区外へ伸び、確認した部分の平面形は6.62×3.54mの長方形である。底面は凹凸があり、深度は16cmを測る。断面形は台形状・階段状で場所により異なる。覆土はしまりの強い灰黄褐色シルトが堆積する。覆土が硬化し、遺構が道1に直交することから道に関連したものと推定されるが、遺構全体を調査していないため判断できない。

3 古代～中世の遺物

A 土 器

1) 出土状況・記述の方法・分類

古代の土器は38点が出土したが、A区に比べるとかなり少ない。中世の土器は389点で、土師質土器、珠洲焼が主体を占めるものの、青磁も定量ある(第7表)。これらの多くが道1の側溝(SD2000・2001)と、これより東側の遺構から出土した(第31図)。しかし、一括廃棄を示す様子は認められない。

記述の方法及び古代・中世の土器分類は、第IV章2に準じる。

種 別	総戸数
須恵器	31
土師器	7
土師質土器	287
珠洲焼	66
淡路系陶器	17
瀬戸	2
白磁	3
青磁	16
合 計	427

第7表 D区の古代・中世の土器出土点数

2) 古 代 (図版 57・111)

食 前 具 須恵器無台杯Ⅰ(272・273)がある。いずれも胎土はA群である。

貯 蔵 具 須恵器中甕(271)があり、胎土はA群である。

煮 炊 具 土師器鍋(274)は内外面ともナゲ調整である。

3) 中 世 (図版 57～59・111・112)

a 遺構出土土器(275～343・345)

SK2113(276・277)

土師質土器皿C1類(276)・皿(277)がある。276は内面に炭化物が付着する。

SK2336(275)

土師質土器皿B2類(275)がある。底面の切り離しは右回転の糸切りである。

SK2378(278)

青磁杯(278)があり、[山本2000]の内面が無文のⅢ-3a類と考えられる。

SD2000A(279～294)

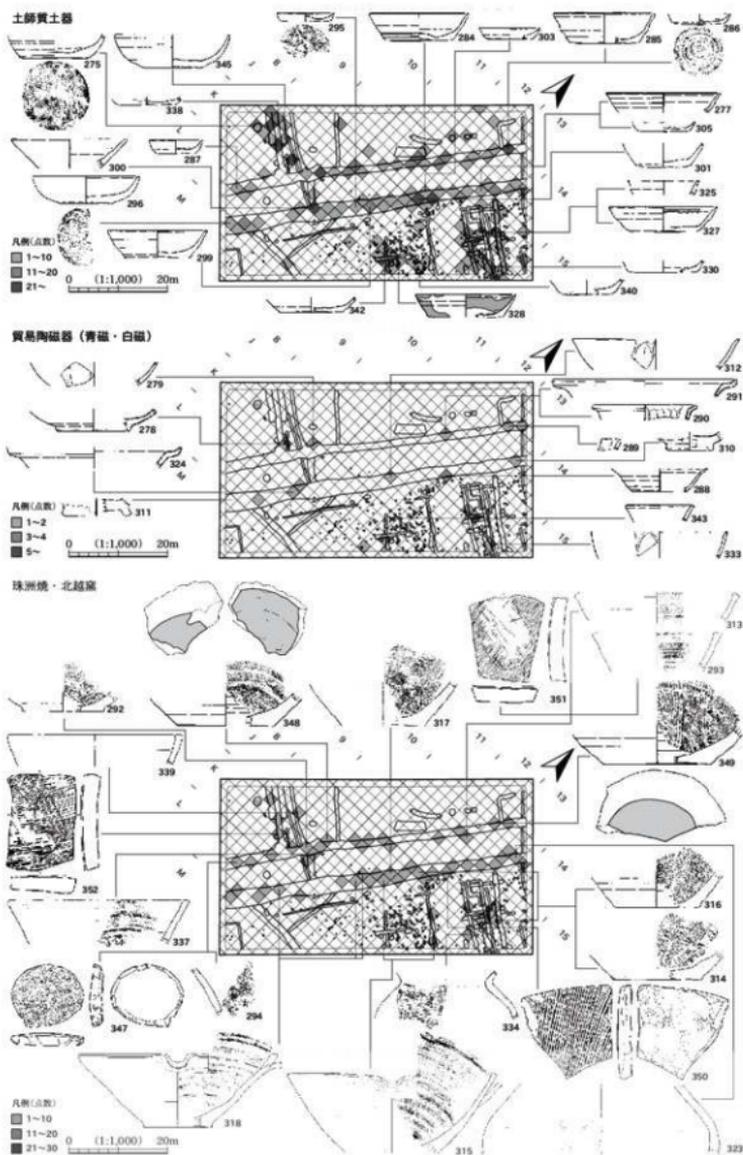
青磁椀B-II類(279)がある。蓮弁部の盛り上がりがない。土師質土器は皿B2類(283)・皿C1類(281・282・284・285)・皿C2類(280)・小皿B類(287)・小皿C3類(286)がある。284・285は底部外面の沈線が明瞭である。286の底面切り離し痕は回転ヘラにより螺旋状を呈す。白磁は口壳の皿A群(288)がある。青磁は椀B-II類(289)のほか、[山本2000]の内面を花卉形とする盤Ⅲ-3a類(291)と内面無文の杯Ⅲ-3b類(290)がある。珠洲焼は片口鉢(292・293)があり、Ⅲ～Ⅳ期と考えられる。瓷器系陶器は壺(294)があり、外面に押印が認められる。

SD2000B(295)

土師質土器小皿C1類(295)があり、底部内面が大きく盛り上がる。

SD2001A(296～314)

土師質土器は皿B2類(296)・皿C1類(297～299)・皿(300・301)・小皿A類(302)・小皿B類(303・304)・小皿C1類(307・308)・小皿C3類(305・306)がある。297・298は底部外面に沈線が認められる。302は数少ない手づくねの小皿である。286の底面切り離し痕は回転ヘラにより螺旋状を呈す。瀬戸は入子(309)がある。青磁は縮蓮弁文を施す椀B-I類(310・312)がある。白磁は口壳椀



第31図 D区 土器分布図(点数)

A 類 (311) と考えられ、外面の体部下端～底部に軸は施されない。珠洲焼は片口鉢 (313～322) がある。313・315・317 はⅡ～Ⅲ期、ほかはⅣ期と考えられる。瓷器系陶器は甕 (323) があり、外面にボタン状の突起が貼付される。

SD2001B (324)

青磁杯 (324) は〔山本 2000〕のⅢ-3a 類である。

SD2012 (325～327)

土師質土器の小皿 (325)・皿 C1 類 (326・327) がある。327 は内面に炭化物が付着する。

SD2014 (328)

土師質土器の皿 C3 類 (328) があり、内外面に炭化物が付着する。

SD2017 (334)

珠洲焼壺 T 種 (334) があり、Ⅲ期のもと考えられる。

SD2022 (329・330)

土師質土器小皿 A 類 (329)・皿 C2 類 (330) がある。

SD2030 (332・333)

土師質土器小皿 A 類 (332)、青磁椀 B-Ⅰ 類 (333) がある。

SD2080 (331)

土師質土器皿 C1 類 (331) があり、底面が盛り上がる。

SD2110 (335)

珠洲焼鉢 (335) がある。Ⅱ期と考えられ、内面に卸し目はない。

SD2114 (336)

青磁椀 B-Ⅰ 類 (336) がある。

SD2319 (337)

珠洲焼片口鉢 (337) があり、Ⅲ～Ⅳ期と考えられる。

SD2332 (339)

珠洲焼片口鉢 (339) があり、Ⅲ～Ⅳ期と考えられる。

SD2334 (338)

土師質土器小皿 A 類 (338) がある。

P2162 (340・341)

土師質土器小皿 A 類 (340) と皿 A 類 (341) があり、ともに底部切り離しが回転糸である。

P2193 (342)

土師質土器皿 C2 類 (342) がある。

P2232 (343)

白磁は口禿皿 A 類 (343) がある。

SX2352 (345)

土師質土器皿 B2 類 (345) があり、口縁部は直立する。

c その他の土器 (344・346)

土師質土器皿 A 類 (344)・皿 B2 類 (346) がある。346 は 345 と同類としたが、口縁部は外反する。

B 石器・石製品 (図版 60・112)

石器・石製品には、砥石のほか、五輪塔など(水輪)が出土した。

五輪塔 (353) 353は水輪である。種子は、大日如来を表す「バン」が彫られている。

砥石 (354～356) 354は正面を使用しており、細かな線状痕が多数認められる。両側面には基軸に対して平行する擦痕が観察される。裁断時の成形痕と考えられるが、擦痕が側面の全面に及ばないこと、擦痕の認められない部分には細かな凹凸が観察されることから、工具を用いてある程度裁断し、最後は折りつったものと考えられる。355は正面が使い込まれており、中央部にはやや深い線状痕が基軸に対して直交、斜め方向に認められる。356は扁平な楕円形礫を素材としたものである。形態的には縄文時代の磨石に似ているが、使用痕が142(A区出土、石錐を研磨具として転用したもの)に類似することから、ここに含めた。

C 金属製品・鍛冶関連遺物 (図版 60・112・113)

金属製品には釘・鎌・鉄斧・銭貨、鍛冶関連遺物には椀形滓・鉄滓がある。出土分布を見ると(第32図)、金属製品は道1・道2のほか、掘立柱建物付近からも出土が認められる。これに対して、鍛冶関連遺物は、道1の側溝SD2001からの出土がほとんどで、両者の分布には差異が認められる。

金属製品 (357～373) 357～369は和釘で、断面は方形である。366は折れ曲がったものと考えられる。370は鎌、371は不明鉄製品である。371は、下部は棒状、上部は長方体となる。断面形は、いずれも方形である。372は鉄斧である。平面形態は撻状で、側面観は「くの字」状となる。373は銭貨で、紹聖元宝(北宋初年1094年)である。

鍛冶関連遺物 (374～376) いずれも椀形滓で、374・375の断面は不整な弧状、376は緩やかに湾曲する。

4 縄文時代の遺構と遺物

A 遺 構

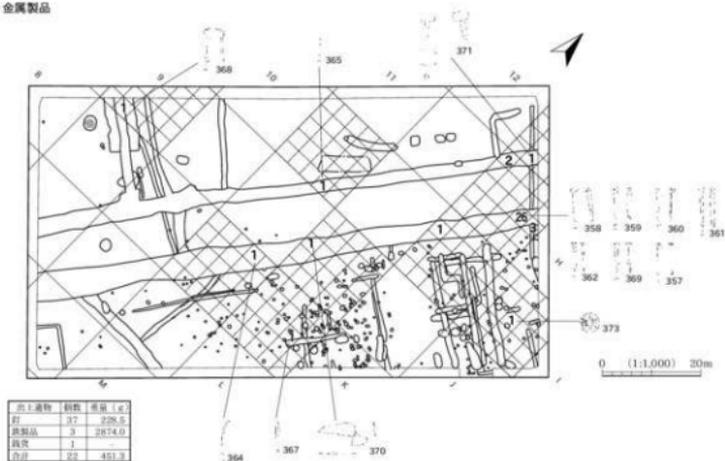
1) 検 出 状 況 (図版 61・62・110)

縄文時代晩期に所属する遺構・遺物は、調査区北西の12G～I、11Iグリッドで出土した。検出層位は3a・3i層で、下層の確認調査で検出した旧河川SR2444の左岸に位置する。3a・3i層は、12Hグリッド付近までは水平に堆積し、これより南東へ向かって緩やかな勾配で堆積して斜面部を形成する。遺構・遺物はこの斜面付近の平坦面から検出された。遺物は散在して出土しており、周辺には炭化物のまとまりが認められた。また、土層の堆積状況から、この時期の流路は調査区の東側へ寄り、2T付近に位置するものと推定される。斜面部では3a層と3i層の間に3f層が堆積する。層厚は50～60cmであるが、出土遺物に時期差がないことから、短期間で堆積したものと推定される。

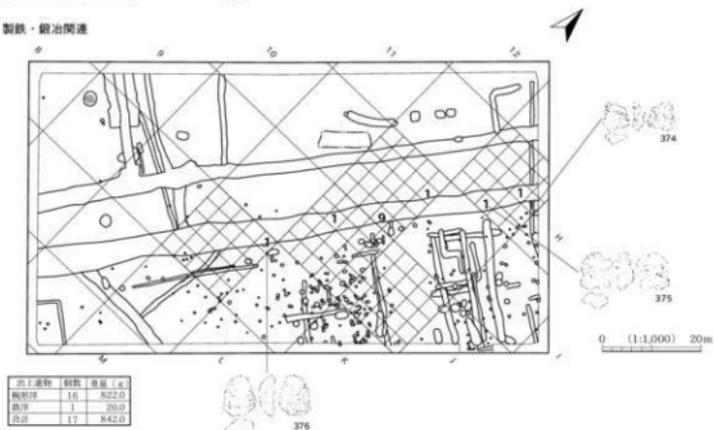
3i層の下層には6a層が堆積し、平坦面では層厚約10cmであるが、斜面部では80cm前後と厚く堆積する。試掘調査では、この6a層に相当する6a'層より約30cm下位の8b^③層では炭化物集中範囲が2か所(SC2429・2430)、50～70cm下位の8h・8j層から縄文時代晩期の遺構・遺物が出土している。層厚は8h層で約10cm、8j層は約5cm堆積し、この間には2～10cmの間層を挟む。遺物が出土した

4 縄文時代の遺構と遺物

金属製品



製鉄・鍛冶関連



第32図 D区 金属製品、製鉄・鍛冶関連遺物出土分布図

6Tの土層は、No.101・103 (掲載番号388) の間に幅約4m、深さ約80cmのレンズ状の落ち込みが認められる。土層の堆積状況から自然地形と推定される。No.101・103は同一個体で、落ち込みの北・南の縁辺から離れて出土した。いずれも内面を上にして縦に分割したように出土したことから、意図的に離して設置された可能性も想定される。遺構は、No.103付近で焼土を含む炭化物集中範囲 (SC2441) が検出された。また、8j層では、上記した落ち込みの底面で炭化物集中範囲 (SC2442・2443) が検出されている。10g層ではブナ属の流木 (図版61a-a' 断面図のW-1) を検出し、年代測定により紀元前7世紀末～

6世紀中ごろの年代範囲が示された(第VII章3)。

本調査と試掘調査で出土した遺物の出土レベル値には、約1mの差が認められ、その所属時期を考慮すると、短期間で河川の埋積が経過していったものと推定される。

2) 各 説

本調査では炭化物がまとまる範囲を6か所検出したが、このうちの5か所は炭化物が疎らに散布する状況にあったことから遺構とは認識できなかった。したがって、遺構と判断できたものは、SC2371の1基である。また、下層の確認掘調査では炭化物集中範囲が5か所検出された。このうち、調査を行なったものはSC2429・2430で、このほかは検出状況の写真・平面測量を記録した後、ブルーシートなどで養生して、埋め戻した。

SC2371 (図版62・110)

炭化物は不整形な広がりで集中する。炭化物層の厚さは、西側では2cm、東側では6cmを測り、旧河川へ向って厚くなる。遺物は剥片1点、被熱礫1点、集中域の北側で剥片1点が出土しており、焼土の堆積が認められないが、被熱礫の存在から火の利用も考慮される。こうした出土状況から、川辺で何らかの作業が行われていた可能性も想定される。

SC2429 (図版62)

炭化物は6cm程の厚さで堆積し、集中範囲は北西側で不明瞭となるが、残存形状から不整形であったものと推定される。炭化物のまとまりには疎密があり、中心部に集中する傾向が認められ、集中域の外縁部は疎らとなる。

SC2430 (図版62)

炭化物は10cm程の厚さで堆積し、覆土は2層に識別される。1層からは炭化物粒と共に微細な骨片が出土した。

SC2441・2442・2443 (図版62)

いずれも比較的炭化物を多く含むが、8h層で検出されたSC2441は焼土を多量に含むが、8J層で検出されたSC2442・2443は焼土を含まない。検出状況から、SC2441は火を焚いていた可能性が考えられ、両者は異なる性格を持っていたことが推定される。

B 遺 物

1) 土 器 (図版63・113)

縄文土器は中世の遺構覆土及び遺構検出面であるIV層から出土したもの(379～387)と、下層確認調査のSR2444-8h層から出土したもの(388)がある。いずれも縄文時代晩期後葉のものである。

深 鉢 (379～383・386) 379は体部に撫糸文Rが施される。380は体部に条痕文が施され、381は条痕文に結節縄文Lが加えられる。382は底部外面に平行沈線文が施される。383は口縁部に近い破片で、平行沈線文が施される。386は体部に条痕文が施された後に縄文LRが斜位に加えられる。

台付深鉢 (384) 384は短い台部が付くものと考えられ、体部に縄文LRが施される。

浅 鉢 (385) 385は無文の体部で、内外面にミガキが施される。

甕 (387・388) 387は甕としたが、広口の壺の可能性もある。体部は縄文LRが施され、内面にケズリ痕を残すことが特徴的である。388は肩部が強く張り出すもので、複合口縁である。体部は条痕文、

頸部は交互綾杉文〔荒川ほか2004〕が施される。また、肩部と口縁部には擬縄文が施される（図版113拡大写真参照）。

2) 石 器（図版62・113）

割 片（377・378）下層確認調査で出土したものである。いずれも縦長割片である。377の打面は平坦である。378は正面に自然面を残す。

第VI章 B・C区の調査

1 遺 構 (図版 64 ~ 66・114・115)

A 検出状況

B区では、溝40条、土坑24基、ピット13基、性格不明遺構4基を検出した。このうち、調査区北側の43～47NN～RRグリッドの範囲(図版65)にある溝34条、土坑12基、ピット3基、性格不明遺構4基を調査した。溝は直線的で、溝同士が直角に交わることにより長方形の区画が形成されている。土坑・ピットは疎である。多くの溝はほぼ同時期に存在したことが分かった。しかし、SD18東端の最下部から鉄鋸跡が出土し、他の溝からも近代の遺物が出土したことから、ほぼすべての遺構が近代のものであることが明らかになった。このため、調査区南側の範囲で検出した遺構も近代のもものと判断し、調査を終了した。

B区に隣接するC区について遺構の時期を確認するトレンチ調査を行った結果、B区と同様の遺構が主体を占めることが明らかになったため、本発掘調査を行わないことと判断した。

B 溝について

溝はSD3・6のような幅3m、深さ1mほどのものと、SD2A～CやSD32B・Cのような幅40cmほどのものに大きく二分される。

SD3は幅3m、深さ1.02mで、断面が台形状を呈す。覆土の特徴から、1～2層、3～4層、5～7層の3つの堆積単位に分かれることから、3回の掘り直しがあったものと考えられる。各層はほぼ水平に堆積するが、1・2層はレンズ状となる。SD6は幅3m、深さ1.08mで、断面が台形状を呈す。SD3と同様に、1～2a層、3～4層、5～9層の堆積単位に分かれ、3回の掘り直しが認められる。7層からはカラスガイの殻が出土した。SD3-3層とSD6-3層は共通する特徴的な黄灰色シルトであり、同時期に機能していたことを示す。また、ほかの同規模の溝においても3回の掘り直しが認められることから、これらの溝は一連のものであったと考えられる。SD6とSD8の交点(図版65のc-c')では、5層を掘り残すことで橋状の盛り上がりを作り出している。こうした橋状の盛り上がりは、SD7にも認められる。また、SD8底面とSD6底面には段差があるように、各溝の底面標高には明確な差が認められる。SD18の底面には厚さ数cmの床土と見られる均一な土層が水平に堆積する。以上の特徴から、これらの溝は排水を目的とした施設であったものと考えられる。底面に高低差を設けることで水の流れを強制したのであろう。また、橋状の高まりは水位や流量を調節するためのものと考えられる。

一方、SD2A～Cは同規模の溝が3回掘り直したことによるもので、SD32A～Cも同様である。おそらく、導水を目的とした施設であったと考えられる。

この地区は昭和初期の耕地整理以後は水田となったが、それ以前は桑畑であったという。しかし、桑畑の痕跡は確認できなかった。また、周辺住民への聞き取り調査でも、この溝についての証言を得ることはできなかった。溝の区画は耕地整理以前の土地更生図にある土地区画(第6図)に一致しており、大規模な施設であったと考えられる。その機能としては、新潟市細池・寺道上遺跡[小池^{ほか}1994]で見つつか

た「掘田」が有力な候補として挙げられる。導水・堰水施設を有することや、一部の遺構に床土が認められる点は、「掘田」と共通する。しかし、地盤が比較的高い当遺跡は、「掘田」が多く見つかる旧氾濫原と立地が異なる。また、溝の底面に大きな高低差が設けられているため、すべてが「掘田」であったとは考えにくく、これ以外の機能も有していた可能性が高い。

2 遺 物 (図版 66・115)

出土遺物は古代・中世・近世・近代の土器・陶磁器のみである。溝の覆土から出土したものが大半を占める。

古代では、食膳具として須恵器無台杯Ⅰ(389～395・397～400)・有台杯Ⅰ(402)・有台杯Ⅱ(403～405)・有台杯Ⅲ(406)・折縁杯(396)・杯蓋Ⅰ(401)がある。390～392は胎土B群である。396は器壁が薄い。貯蔵具は、須恵器長頸瓶(407・408)・甕(409・410)がある。煮炊具は、土師器長甕(411・412)がある。須恵器はA区のものよりやや新しい時期のものが多く。

中世では、珠洲焼壺Ⅰ種(413)、青磁椀D-I類(414)・椀B-II類(415・417)、白磁椀D群(416)・壺(418)がある。416はA区で出土したNo.42と同タイプである。418は12世紀代のものの可能性がある。器種構成はA区と共通する。

近世以降では、伊万里焼皿(419)がSD7-3層から出土した。

第七章 自然科学分析

1 境塚遺跡出土木材の樹種同定

小林克也・藤根 久 (株式会社パレオ・ラボ)

A はじめに

境塚遺跡は新潟県阿賀野市に所在し、旧阿賀野川右岸に形成された自然堤防上に立地する、鎌倉時代～室町時代を中心とする遺跡である。境塚遺跡では井戸跡が検出され、遺構内から木製品や自然木が出土した。ここではそれら出土した木材の樹種同定を行った。なお、切片採取は小林・藤根、同定および本文作成は小林が行った。また同定にあたり、森林総合研究所の能城修一氏のご教示を得た。試料の一部については、放射性炭素年代測定が行われている(第Ⅶ章3参照)。

B 試料と方法

試料は、SE232 で2点、SE401 で2点、SE402 で1点、SE895 で61点、SE1007 で74点、SE1212 で1点、SE1329 で7点、D区下層トレンチで1点出土した木材と、出土地不明が1点の、計150点の木材である。各試料について、試料採取前に木取りの確認を行った。

樹種同定は、木口、板目、柀目の3断面について、カミソリなどで切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡及び写真撮影を行った。なお、作製したプレパラートは埋文事業団に保管されている。

C 結果

同定の結果、針葉樹のヒノキ、アスナロ、スギの3分類群、広葉樹のブナ属とケヤキ?の2分類群、単子葉のタケ亜科1分類群の、計7分類群が産出した。また、整理No.224では、2年輪にまたぐ木口面の切片が採取できなかったため、環孔材か散孔材の区別が出来ず、広葉樹までの同定に留めた。スギが最も多く144点産出し、その他の樹種は各1点産出した。同定結果を第8表に、一覧を第10表に記す。

次に同定された材の特徴を記載し、1分類群1点の光学顕微鏡写真を示す。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 (第33図 1a~1c (整理No.187))

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急で

樹種/分類	漆器用	虫物				割代	刃版	木北	箸	筆?	繭箱	井戸類				板材	角材	自然木	合計	
		割版	割版?	底版	底版?							板版	板版?	枕木	隅柱					棒状木製品
ヒノキ										1									1	
アスナロ			1																1	
スギ		9		3	1	1	2	1	7	3	1	58	15	26	10	1	5	1	144	
ブナ属																			1	
ケヤキ?	1																		1	
広葉樹																			1	
タケ亜科																			1	
合計	1	9	1	3	1	1	2	1	7	4	1	58	15	26	10	1	5	1	3	150

第8表 境塚遺跡出土木材の樹種同定結果

ある。放射組織は2～15細胞高となる。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型となり、1分野に2個みられる。ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

アスナロ *Thuja japonica* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 (第33図 2a～2c (整理 No.211))

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は3～14細胞高となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、1分野に3～4個みられる。アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。

スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科

(第33図 3a～3c (整理 No.54)・第34図 4a～4c (整理 No.326)・5a～5c (整理 No.453))

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は2～14細胞高となる。分野壁孔は大型のスギ型となり、1分野に普通2個みられる。スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

ブナ属 *Fagus* ブナ科 (第34図 6a～6c (整理 No.692))

小型の道管が単独ないし2～3個複合して均一に散在する散孔材である。晩材部では道管は径を減じる傾向がみられる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、大きなものは10列以上になる。ブナ属にはブナイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は重硬で強度があるが、切削加工は困難でない。

ケヤキ? *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino? ニレ科 (第35図 7b～7c (整理 No.683))

漆の塗膜が付着しており、木口面を採取できなかったが、道管は単穿孔を有し、内腔にはらせん壁厚がみられる。また放射組織は上下端1列が方形となる異性で、確認できるもので6列程度である。放射組織の上下端には結晶が見られる。以上の特徴により、ケヤキが最も近い種であると考え、ケヤキ?とした。ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育している落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難でない。

広葉樹 Broadleaf-wood (第35図 8a～8c (整理 No.224))

小型の道管が単独ないし2～3個複合して散在するが、年輪界が確認できず、散孔材か環孔材かは確認できなかった。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、1～4列となる。放射組織には鞘細胞がみられる。

タケ亜科 Subfam. Bambusoideae イネ科 (第35図 9a (整理 No.670))

向軸側に原生木部、その左右に2個の後生木部と背軸側に篩部で構成される維管束が散在する単子葉植物の程である。維管束の配列は不整中心柱となる。繊維鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に囲わりなく厚くなる。タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間であり、日本には12属ある。

D 考 察

試料の大半は、スギ属であった。スギは比較的軽軟な材で、加工性がとても良い材である。また最も試料数の多い井戸枠縦板では、縦板?も含めると73点すべてがスギである。

著では、箸?も含めて11点の同定中、スギが10点とヒノキが1点産出した。ヒノキはやや軽軟で加

工しやすく、強度が高い材である。また曲物側板では、スギ以外にアスナロが1点産出した。アスナロも比較的軟軟で、加工性が良い。スギ同様に加工性に重点を置いた材材選択であったと考えられる。

漆器皿では、ケヤキがみられた。ケヤキはやや重くて硬いが、加工性は悪くなく、漆器などの木地として多く用いられている樹種である。

自然木では、ブナ属と広葉樹、タケ亜科が各1点産出した。放射性炭素年代測定の結果、広葉樹は2σ暦年代範囲では13世紀末～14世紀末、ブナ属は2σ暦年代範囲の高い確率では紀元前7世紀中頃～6世紀中頃、タケ亜科は2σ暦年代範囲の高い確率では13世紀後半～14世紀初頭の年代値を示した(第Ⅶ章3参照)。各時代にそれらの樹種が境塚遺跡周辺に生育していたと考えられる。

次に、試料数の多いSE895とSE1007について、井戸跡構築材の器種と木取りの関係をもてみる(第9表)。縦板および縦板?では両道構共に板目が多く見られた。また横木は、SE895では板目と柱目は同数であるが、

木取り 器種	SE895					SE1007					合計
	縦板	縦板?	横木	隅柱	曲物側板	縦板	縦板?	横木	隅柱	曲物側板	
板目	20	6	6	1	2	22	4	1	5	1	68
柱目	8	3	6	1	2	8	1	13	3	3	48
合計	28	9	12	2	4	30	5	14	8	4	116

第9表 SE895とSE1007の井戸跡構築材と木取り

SE1007では柱目が多かった。隅柱は、試料数が少ないがどちらかに偏った傾向はみられなかった。井戸跡の水溜である曲物の側板も試料数が少なく、特に傾向はみられなかった。

柱目材は年輪と直交して材を切り出すため、歩留まりは悪いが取縮や変形の少ない木取りである。また板目材は、年輪に沿って材を切り出すため、歩留まりは良いが長い年月を経ると取縮・変形し易い性質があり、木材には反りが生じやすい。井戸跡の構築材は、角に隅柱を設け、横木で固定し、この外側に縦板を3段に継ぎ合わせて作られている。そのため縦板と縦板?では、1本のスギからより多くの板材を得るために、歩留まりが良く加工性に優れた板目材を利用したと考えられる。

またSE895の井戸側横木(整理No.647)とSE1007の井戸側縦板(整理No.13)では、ウィグルマツチング法による年代測定が行われ、SE895では14世紀後半、SE1007では13世紀後半～末の年代値を示し、1世紀近くの時期差が認められた(第Ⅶ章3)。時期は異なるが、両井戸跡では使用している部材の樹種構成や木取りは、同様の傾向を示していた。

新潟県下の中世の遺跡では、三島郡和島村(現長岡市)の奈良崎遺跡で、中世の井戸跡構築材の樹種同定が行なわれている[植田2002]。その結果、井戸構築材にはスギ、ネズコ、ヒノキ、サワラなどが用いられているが、スギが大半を占めていた。

また同じく和島村の大武遺跡では、中世の木製品の樹種同定が行なわれている[松葉2000]。ここでは挽物や曲物、箸、柄などの樹種同定が行なわれ、挽物ではブナやトチノキ、ケヤキなどが多くみられた。曲物や箸、柄などは大半がスギであった。

境塚遺跡では新潟県内の中世の遺跡と同様の材材選択傾向を示し、ほぼ同樹種の井戸跡構築材の中でも部位によって木取りを変えて、強度や加工性の調整を行っていたと考えられる。

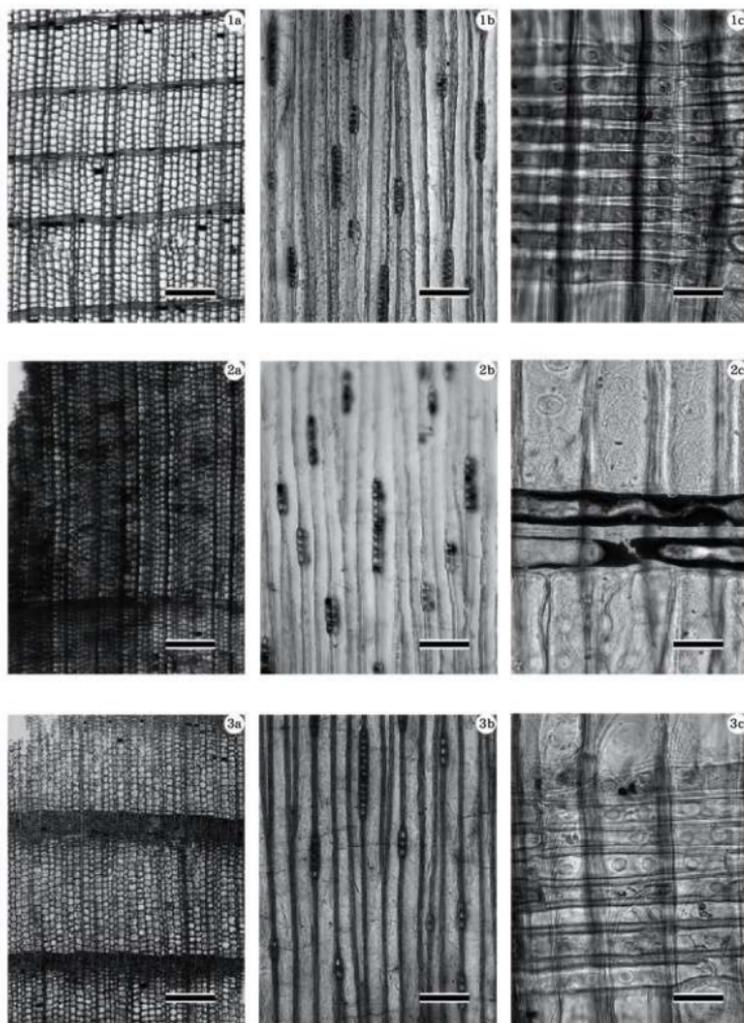
引用文献

- 植田弥生 2002 「木器及び炭化材の樹種同定」(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団編「奈良崎遺跡(本文編)」: 116-135。(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 松葉礼子 2000 「大武遺跡出土木製品の樹種同定」(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団編「大武遺跡1(中世編)」: 42-47。(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 墳塚遺跡出土木材の樹種同定

発出 No.	整理 No.	遺構 棟別	部位	部類	前様	未取付	備考	年代測定 番号	発出 No.	整理 No.	遺構 棟別	部位	部類	前様	未取付	備考	年代測定 番号	
	1	SR1007	井戸脚張板	大	板目				197	453	SR3995	20	井戸脚張木	大	板目			
	4	SR1007	井戸脚張板	大	板目				192	454	SR3995	20	井戸脚張木	大	板目			
	225	5	SR1007	井戸脚張板	大	板目			195	458	SR3995	21	井戸脚張木	大	板目			
	221	6	SR1007	井戸脚張板	大	板目			199	459	SR3995	21	井戸脚張木	大	板目			
	13	SR1007	井戸脚張板	大	板目		横成材 124 年輪残存	PDJ-15312 ~15314	184	463	SR3995	20	井戸脚張板?	大	板目			
	16	SR1007	井戸脚張板	大	板目				195	464	SR3995	21	井戸脚張木	大	板目			
	224	24	SR1007	井戸脚張板	大	板目			237	486	SR1007	12	板状木製品	大	板目			
	221	27	SR1007	井戸脚張板	大	板目			215	490	SR3995	21	榑	大	志無節出	504 と同一		
	221	30	SR1007	井戸脚張板	大	板目			215	504	SR3995	20	榑	大	志無節出	490 と同一		
	221	33	SR1007	井戸脚張板	大	板目				506	SR1007	12	井戸脚張板?	大	板目			
	223	37	SR1007	井戸脚張板	大	板目			236	515	SR1007		板状木製品	大	板目			
	226	47	SR1007	井戸脚張板	大	板目			228	526	SR1007	12	板状木製品	大	板目			
	30	SR1007	井戸脚張板	大	板目		横成材		250	570	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	33	SR1007	井戸脚張木	大	板目		横成材		246	571	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	242	54	SR1007	井戸脚張木	大	板目			267	572	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	259	61	SR1007	井戸脚張板	大	板目			573	SR1007		井戸脚張板	大	板目				
	260	64	SR1007	井戸脚張板	大	板目			231	575	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	258	65	SR1007	井戸脚張板	大	板目			247	576	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	257	66	SR1007	井戸脚張板	大	板目			241	578	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	68	SR1007	井戸脚張板	大	板目					579	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	252	73	SR3995	井戸脚張板	大	板目			245	580	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	208	75	SR3995	井戸脚張板	大	板目			251	581	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	66	SR1007	井戸脚張板	大	板目				250	582	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	101	SR1007	井戸脚張板	大	板目				220	587	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	231	168-1	SR1007	榑	大	志無節出			255	588	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	234	168-2	SR1007	榑	大	志無節出			255	594	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	230	187	SR1007	榑	ヒノキ	志無節出			222	601	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	232	188	SR1007	11	榑	大	志無節出		255	603	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	235	190	SR1007	12	榑?	大	志無節出		241	606	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	183	206	SR3995	井戸脚張板	大	板目			607	SR1007		井戸脚張木	大	板目				
	166	211	SR401	16	榑	大	子ノ木		266	610	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	167	214	SR401	16	榑	大	子ノ木		243	612	SR1007		井戸脚張木	大	板目			
	172	217	SR1329	8	榑	大	志無節出		255	614	SR1007		井戸脚張板?	大	板目			
	171	220	SR1329	9	榑	大	志無節出		204	623	SR3995	22	井戸脚張木	大	板目			
	224	SR1329	11	自然木	広葉樹	志持丸木	直径 1.1cm	PDJ-15315	213	627	SR3995	22	井戸脚張板?	大	板目			
	190	230	SR1329	9	榑	大	志無節出		180	633	SR3995	22	井戸脚張板?	大	板目			
	261	244	SR1007	井戸脚張板	大	板目			177	638	SR3995	22	井戸脚張板?	大	板目			
	245	SR1007	井戸脚張板	大	板目				187	640	SR3995	21	井戸脚張板?	大	板目			
	246	SR1007	井戸脚張板?	大	板目				178	644	SR3995	22	井戸脚張板?	大	板目			
	262	247	SR1007	井戸脚張板	大	板目			201	647	SR3995	22	井戸脚張木	大	板目			
	248	SR1007	井戸脚張板	大	板目				179	651	SR3995	22	井戸脚張板?	大	板目			
	272	SR3995	16	井戸脚張板	大	板目			186	652	SR3995	21	井戸脚張板?	大	板目			
	182	273	SR3995	16	井戸脚張板?	大	板目		653	SR3995	21	井戸脚張板?	大	板目				
	284	SR3995	16	井戸脚張板?	大	板目			203	656	SR3995	22	井戸脚張木	大	板目			
	214	288	SR3995	7	榑	大	榑		200	657	SR3995	22	井戸脚張木	大	板目			
	214	289	SR3995	3	榑	大	榑		185	661	SR3995	21	井戸脚張板?	大	板目			
	105	300	SR232	10	不明木製品	大	板目		202	664	SR3995	21	井戸脚張木	大	板目			
	240	302	SR1007	榑	大	板目	出土状態不明		188	665	SR3995	22	井戸脚張板?	大	板目			
	303	SR3995	16	井戸脚張板	大	板目			253	668	SR1007		板状木製品	大	板目			
	326	SR3995	井戸脚張板?	大	板目				470	SR3995	22	自然木	多ク虫 食				PDJ-15317	
	327	SR3995	井戸脚張板	大	板目					676	SR1007	12	榑	大	志無節出			
	175	339	SR3995	井戸脚張板	大	板目			229	677	SR1007		板状木製品	大	板目			
	176	330	SR3995	井戸脚張板	大	板目			239	678	SR1007		木造	大	板目			
	332	SR1007	井戸脚張板	大	板目				168	680	SR402	16	榑	大	板目			
	176	333	SR3995	井戸脚張板	大	板目			681	SR3995	16	榑	大	板目		288 と同一?		
	220	334	SR1007	井戸脚張板	大	板目			264	682-1	SR1007	12	的板	大	板目			
	343	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目			682-2	SR1007	12	的板	大	板目				
	219	352	SR1007	井戸脚張板	大	板目			174	683	SR1329	9	漆喰	大	榑	木取付		
	189	355	SR3995	井戸脚張板	大	板目			263	684-1	SR1007	11	榑	大	板目	水部		
	200	356	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目		684-2	SR1007	11	榑	大	板目	水部			
	190	358	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目		173	685-1	SR1329		榑	大	板目	水部		
	220	360	SR1007	井戸脚張板	大	板目			685-2	SR1329		榑	大	板目	水部			
	232	362	SR1007	井戸脚張板	大	板目			265	686-1	SR1007		榑	大	板目	水部		
	238	404	SR1007	12	榑	大	板目		686-2	SR1007		榑	大	板目	水部			
	205	409	SR3995	21	井戸脚張木	大	板目		218	687-1	SR3995		榑	大	板目	水部		
	412	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目			687-2	SR3995		榑	大	板目	水部			
	206	413	SR3995	20	井戸脚張板?	大	板目		217	688-1	SR3995		榑	大	板目	水部		
	415	SR3995	21	井戸脚張板?	大	板目			688-2	SR3995		榑	大	板目	水部			
	423	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目			169	689	SR1212		榑	大	榑			
	194	426	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目		212	690	SR3995	21	井戸脚張板?	大	板目			
	430	SR3995	20	井戸脚張板?	大	板目			692			10g	自然木	ブナ属	志持丸木			135 下層トナ キ内出土 榑材 直径 36.5cm
	435	SR3995	20	井戸脚張板	大	板目			693	SR222		榑	大	志無節出				PDJ-15316
	254	440	SR1007	榑	大	板目												
	181	445	SR3995	18	井戸脚張板	大	板目											
	447	SR3995	井戸脚張板	大	板目													
	198	448	SR3995	21	井戸脚張木	大	板目											
	196	453	SR3995	20	井戸脚張木	大	板目											

第 10 表 墳塚遺跡出土木材の樹種同定結果一覧



1a ~ 1c: ヒノキ (整理 No.187)
a: 横断面 (スケール= 250 μm)

2a ~ 2c: アスナロ (整理 No.211)
b: 接線断面 (スケール= 100 μm)

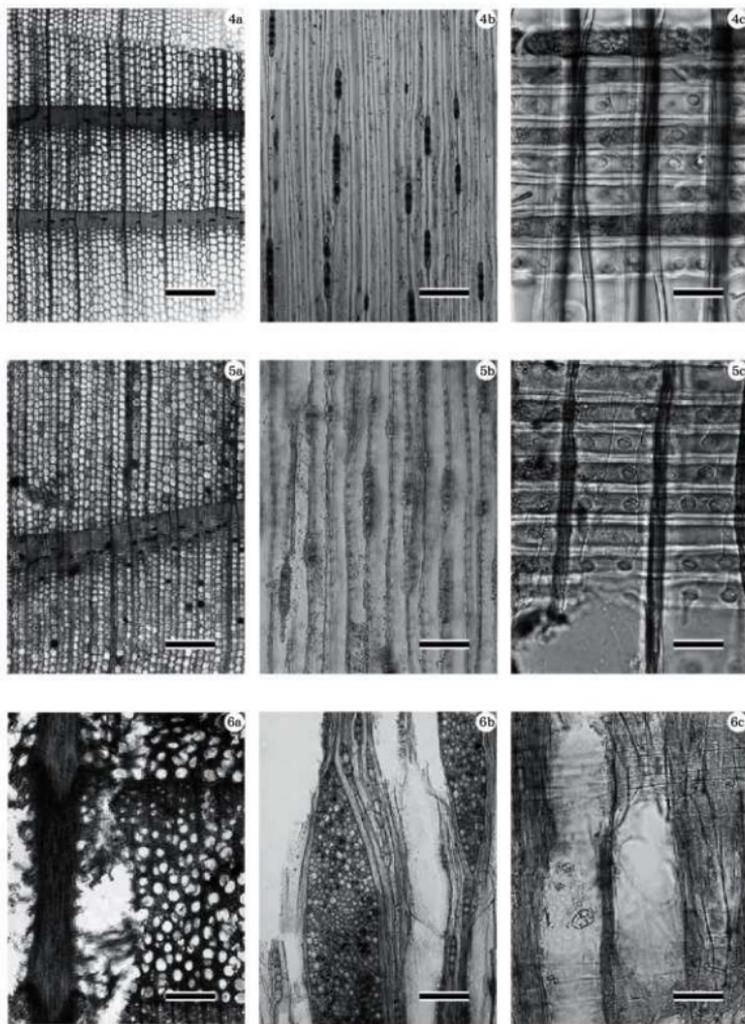
c: 放射断面 (スケール= 25 μm)

3a ~ 3c: スギ (整理 No.54)
a: 横断面 (スケール= 200 μm)

b: 接線断面 (スケール= 100 μm)

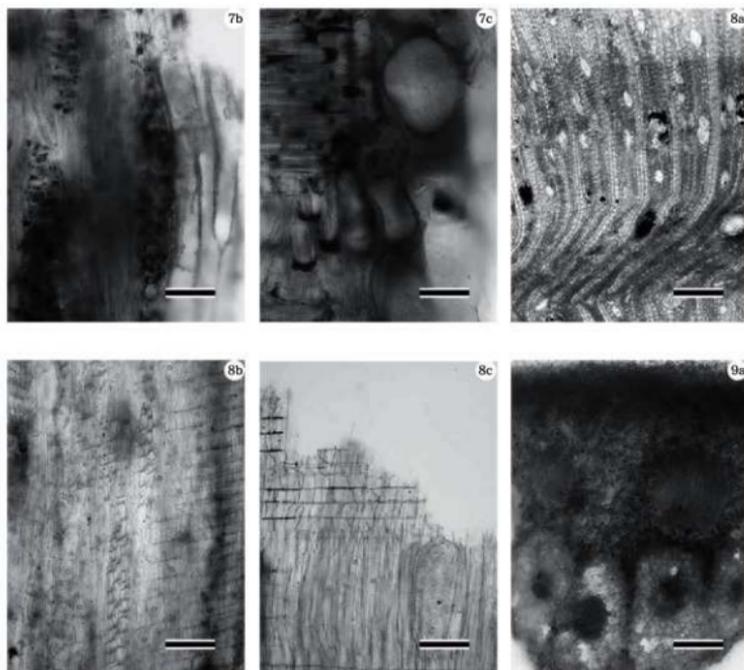
c: 放射断面 (スケール= 50 μm)

第 33 図 墳塚遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (1)



4a ~ 4c : スギ (整理 No.326) 5a ~ 5c : スギ (整理 No.453) 6a ~ 6c : ブナ属 (整理 No.692)
 a : 横断面 (スケール= 200 μ m) b : 接線断面 (スケール= 100 μ m) c : 放射断面 (スケール= 50 μ m)

第 34 図 墳塚遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (2)



7b・7c: ケヤキ? (整理 No.683)
a: 横断面 (スケール= 200 μm)

8a ~ 8c: 広葉樹 (整理 No.224)
b: 接線断面 (スケール= 100 μm)

9a: タケ亜科 (整理 No.670)
c: 放射断面 (スケール= 50 μm)

第 35 図 境塚遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (3)

2 境塚遺跡出土骨の同定

中村賢太郎 (株式会社パレオ・ラボ)

A はじめに

境塚遺跡は新潟県阿賀野市に所在し、旧阿賀野川右岸に形成された自然堤防上に立地する、鎌倉時代～室町時代(13世紀後半～14世紀)を中心とする遺跡である。ここでは、土坑や道脇の溝などから出土した骨片の同定結果を報告する。

B 試料と方法

試料は、13世紀後半～14世紀とされるSD101・SK314・SK417・SD2000A・SD2001A・SK2093・SX2115・SK2425の8遺構から現場で採集された骨片である。骨片のうち、土がわずかに付着するのは刷毛で土を取り除いた。土ごとと上げられたものについては、1mm目の篩の上で水洗し骨片を回収した。これらの骨片のうち5mm以上のものを同定と計数の対象とした。

C 結果と考察

いずれの骨片も焼けていた。また、多くの骨片は小片であり、最も大きい破片で5cm程度であった。

検出された骨片の同定結果を第11表に示した。緻密質が薄く表面が平滑で光沢のある四肢骨を鳥類と同定した。末節骨は、近位が大きく膨らみ中央がくびれさらに遠位が膨らむ形状からヒトと同定した。骨幹の中央付近と見られる四肢骨で表面が多孔質で内面に海面質が認められるものはヒトの可能性があると判断し、ヒト?とした。また、歯は、歯冠の形状とサイズからヒトの可能性があると判断し、ヒト?とした。

鳥類は、SD101で四肢骨が見られた。1点のみ出土であるが、焼けていることから人間により利用された可能性がある。

ヒトは、末節骨がSK417とSX2115と見られた。SK417では、ヒトの可能性のある四肢骨(腓骨の可能性あり1点含む)も見られた。SX2115では、ヒトの可能性のある歯も見られた。他にSD2000Aでは、ヒトの可能性のある四肢骨、SD2001Aではヒトの可能性のある白歯と四肢骨が見られた。

また、種不明の哺乳類はSK417・SD2000A・SD2001A・SK2093・SX2115・SK2425で見られた。

その他、種別不明の小骨片がSK314で見られた。

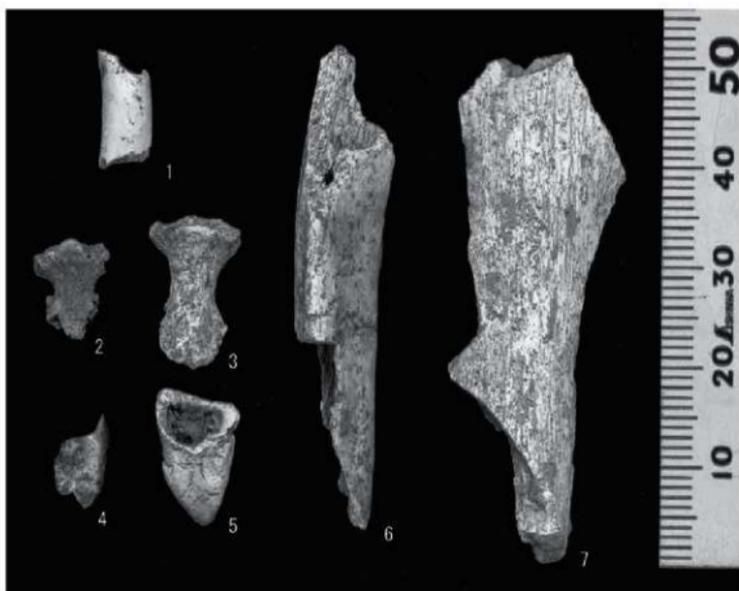
いずれの骨片も焼けていたが、発掘調査所見ではいずれの遺構でも焼土などその場で火が焚かれた跡は確認されていない。また、小さな破片ばかりであることから、他の場所で焼かれた骨が遺構内に持ち込まれた可能性がある。

No.	調査区	遺構	層位	日付	分類群	部位	左心	数量	備考	
1	31F9.5	SK101	—	—	鳥類	四肢骨	腕片	？	1 塊	
2	31D15	SK314	2	90720	不明	不明	小腕片	？	4 塊	
3	28H10	SK417	1	90805	ヒト?	腓骨?	骨幹	？	1 塊	
4	28H10		1	90805	哺乳類	不明	腕片	？	2 塊	
5	28H10	SK417	3	90806	ヒト	末節骨	—	？	1 塊	
6	12H5		1	90908	ヒト?	四肢骨	骨幹腕片	？	2 塊	
7	13H1	SD2000A	1	90907	哺乳類	不明	腕片	？	3 塊	
8	12H14		2	90907	哺乳類	不明	腕片	？	1 塊	
9	12H14		2	90908	哺乳類	不明	腕片	？	1 塊	
10	12H14		5	90908	哺乳類	不明	腕片	？	1 塊	
11	13H1		6	90907	ヒト?	四肢骨	骨幹腕片	？	1 塊	
12	12H14		7	90908	哺乳類	四肢骨	腕片	？	1 塊	
13	12H19		SD2001A	1	90908	哺乳類	不明	腕片	？	1 塊

5mm 以上の骨片は数量記載。5mm 未満の小骨片は+で有を示すのみ。

No.	調査区	遺構	層位	日付	分類群	部位	左心	数量	備考
14	12H14	SD2001A	2	90907	哺乳類	不明	腕片	？	1 塊
15	13H14		2	90908	ヒト?	臼歯	腕片	？	？ 塊
16	12H14	SK2093	6	90910	哺乳類	四肢骨	腕片	？	11 塊
17	12H8		—	90917	哺乳類	不明	腕片	？	60 塊
18	12H14	SK2115	1	90909	ヒト	末節骨	腕片	？	1 塊
19	12H8		1	90919	ヒト?	臼歯	歯冠腕片	？	1 塊
20	12H16	SK2425	2	90917	哺乳類	四肢骨	腕片	？	4 塊
					哺乳類	四肢骨	腕片	？	20 塊
					哺乳類	不明	腕片	？	176 塊
					哺乳類	四肢骨	腕片	？	1 塊
					哺乳類	不明	腕片	？	13 塊
					哺乳類	不明	腕片	？	3 塊

第 11 表 境塚遺跡出土の骨



1. 鳥類四肢骨 (SD101) 2. ヒト末節骨 (SX2115) 3. ヒト末節骨 (SK417)
4. ヒト?臼歯 (SX2115) 5. ヒト?臼歯 (SD2001A) 6. ヒト?腓骨? (SK417) 7. ヒト?四肢骨 (SD2000A)

第 36 図 境塚遺跡から出土した骨

3 境塚遺跡出土木材の放射性炭素年代測定

株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・尾崎大真・丹生越子・廣田正史・小林敏一
Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

A はじめに

境塚遺跡は新潟県阿賀野市に所在し、旧阿賀野川右岸に形成された自然堤防上に立地する鎌倉時代～室町時代を中心とする遺跡である。ここでは、井戸材等の木材試料について、加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を行った。井戸側材木と縦板については最外年輪が確認でき、ウィグルマッチング法による年代測定を行った。なお、これらの木材試料は、樹種同定を行っている (第Ⅶ章 1 参照)。

B 試料と方法

SE895 から出土した整理 No.647 の井戸側材木 (PLD-15309～15311) は、樹皮の剥がれた平滑面が確認され、最外年輪を残す木材試料であった。また、SE1007 から出土した整理 No.13 の井戸側縦板 (PLD-15312～15314) は、樹皮が残っている板材であった。これらの木材試料は、年輪を計測した後 5 年輪ごとに鋼線で印を付け測定試料を採取した (第 37 図-1・2)。

SE1329 から出土した整理 No.224 の自然木 (PLD-15315) は、直径 1.1cm 程度の 3 年輪からなる杖状材であり、測定試料は 3 年輪である。D 区下層トレンチから出土した整理 No.692 の自然木 (PLD-15316) は、直径 36.5cm の大型丸木材であり、測定試料は最外-5 年輪を採取した。SE895 から出土した整理 No.670 のタケ程 (PLD-15317) は、程を採取した (第 37 図-3・4・5)。

測定試料の情報、調製データは第 12 表および第 13 表に示す。試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の

測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理データ
PLD-15309	遺種: SE895 部材: 井戸側材木	採取位置: 最外-5 年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15310	整理 No.647 (報告 No.201) 試料の種類: 生材	採取位置: 11-15 年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15311	樹種: スギ	採取位置: 21-24 年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15312	遺種: SE1007 部材: 井戸側縦板 (樹皮付き)	採取位置: 最外-5 年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15313	整理 No.13 (報告 No.226 と同一) 試料の種類: 生材	採取位置: 51-55 年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15314	樹種: スギ	採取位置: 101-105 年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)

第 12 表 ウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-15315	遺種: SE1329-11 層 整理 No.224 種類: 自然木 (志持丸木)	試料の種類: 生材 (広葉樹, 最外-3 年輪) 試料の性状: 最外年輪 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15316	出土地点: D 区下層 1 トレンチ-10q 期 整理 No.692 種類: 自然木 (志持丸木)	試料の種類: 生材 (ブナ属, 最外-5 年輪) 試料の性状: 最外年輪 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-15317	遺種: SE895-21 層 整理 No.670 種類: タケ程	試料の種類: 生材 (タケ巻科程) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)

第 13 表 単体測定試料および処理

補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

C 結 果

第14表と第15表に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を示し、ウィグルマッピング結果を示し、第16表に単体試料の測定結果を示した。第38図と第39図にウィグルマッピング結果を示し、第40図に単体試料の暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代(yrBP)の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。なお、暦年較正、ウィグルマッピング法の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal4.1(較正曲線データ: Intcal09)を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

ウィグルマッピング法とは、試料の年代を得る上での問題は ^{14}C 年代値から暦年較正を行う際に較正曲線に凹凸があるため単一の測定値から高精度の年代を決定するのが難しいという点である。ウィグルマッピング法では複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと、較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって高精度で信頼性のある年代値を求めることができる。

測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の ^{14}C 年代値から暦年較正を行い、得られた確率分布を年輪幅だけずらしてすべてを足し合わせるにより最外年輪の確率分布を算出する。この確率分布より年代範囲を求める。

D 考 察

各試料は、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行い、PLD-15309~15311とPLD-15312~15314はウィグルマッピング法により最外部の暦年代を求めた。

SE895から出土した整理No.647の井戸側残木(PLD-15309~15311)は、樹皮が剥がれた平滑面が確認され、最外年輪を残す木材試料であり26年輪計測できた。測定は、最外-5年輪、11-15年輪、21-24年輪の3試料である。ウィグルマッピングを行った結果、 1σ 暦年代範囲において1372-1385 calAD (68.2%)、 2σ 暦年代範囲において1309-1315 calAD (1.5%) および1365-1390 calAD (93.9%)

3 埋戻土跡出土木材の放射性炭素年代測定

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
				PLD-15309 整理 No.647 (201)	-25.17 \pm 0.11
PLD-15310 整理 No.647 (201)	-26.46 \pm 0.12	645 \pm 20	645 \pm 20	1293AD (25.7%) 1309AD 1361AD (42.5%) 1386AD	1286AD (40.3%) 1320AD 1350AD (55.1%) 1392AD
PLD-15311 整理 No.647 (201)	-24.92 \pm 0.12	632 \pm 19	630 \pm 20	1297AD (25.6%) 1316AD 1355AD (42.6%) 1388AD	1290AD (38.3%) 1325AD 1345AD (57.1%) 1394AD
最外試料年代				1372AD (68.2%) 1385AD	1309AD (1.5%) 1315AD 1365AD (93.9%) 1390AD

第 14 表 試料 No.647 の放射性炭素年代測定、暦年校正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
				PLD-15312 整理 No.13	-34.64 \pm 0.12
PLD-15313 整理 No.13	-26.45 \pm 0.14	801 \pm 22	800 \pm 20	1222AD (68.2%) 1268AD	1209AD (95.4%) 1273AD
PLD-15314 整理 No.13	-24.74 \pm 0.26	899 \pm 23	900 \pm 25	1048AD (34.4%) 1087AD 1123AD (11.3%) 1138AD 1150AD (22.5%) 1179AD	1042AD (43.1%) 1107AD 1117AD (52.3%) 1211AD
最外試料年代				1276AD (68.2%) 1291AD	1270AD (95.4%) 1299AD

第 15 表 試料 No.13 の放射性炭素年代測定、暦年校正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
				PLD-15315 整理 No.224	-31.60 \pm 0.21
PLD-15316 整理 No.692	-29.05 \pm 0.12	2517 \pm 21	2515 \pm 20	771BC (16.3%) 749BC 687BC (15.9%) 666BC 642BC (32.7%) 592BC 577BC (3.3%) 570BC	787BC (24.2%) 732BC 691BC (18.0%) 661BC 651BC (53.1%) 544BC
PLD-15317 整理 No.670	-32.41 \pm 0.17	682 \pm 22	680 \pm 20	1279AD (53.8%) 1299AD 1371AD (14.4%) 1379AD	1275AD (67.0%) 1307AD 1362AD (28.4%) 1386AD

第 16 表 単体試料の放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

であった。2 σ 暦年代範囲では、14 世紀後半の年代範囲を示す。

SE1007 から出土した整理 No.13 の井戸側縦板 (PLD-15312 ~ 15314) は、樹皮が残っている板材で 124 年輪計測できた。測定は、最外 -5 年輪、51-55 年輪、101-105 年輪の 3 試料である。ウィグルマッチングを行った結果、1 σ 暦年代範囲において 1276-1291 calAD (68.2%)、2 σ 暦年代範囲において 1270-1299 calAD (95.4%) であった。2 σ 暦年代範囲では 13 世紀後半 ~ 末の年代範囲を示す。

ウィグルマッチングによる両木材の伐採年代は 1 世紀近い年代の開きが示され、2 基の井戸の構築時期は異なることが判明した。

SE1329 から出土した整理 No.224 の自然木 (PLD-15315) は、直径 1.1cm 程度の 3 年輪からなる枝状材であり、測定試料は 3 年輪である。校正した結果、1 σ 暦年代範囲において 1301-1325 calAD (28.2%)、1345-1368 calAD (27.2%)、1382-1393 calAD (12.8%)、2 σ 暦年代範囲において 1296-1400 calAD (95.4%) であった。2 σ 暦年代範囲では 13 世紀末 ~ 14 世紀末の年代範囲を示す。

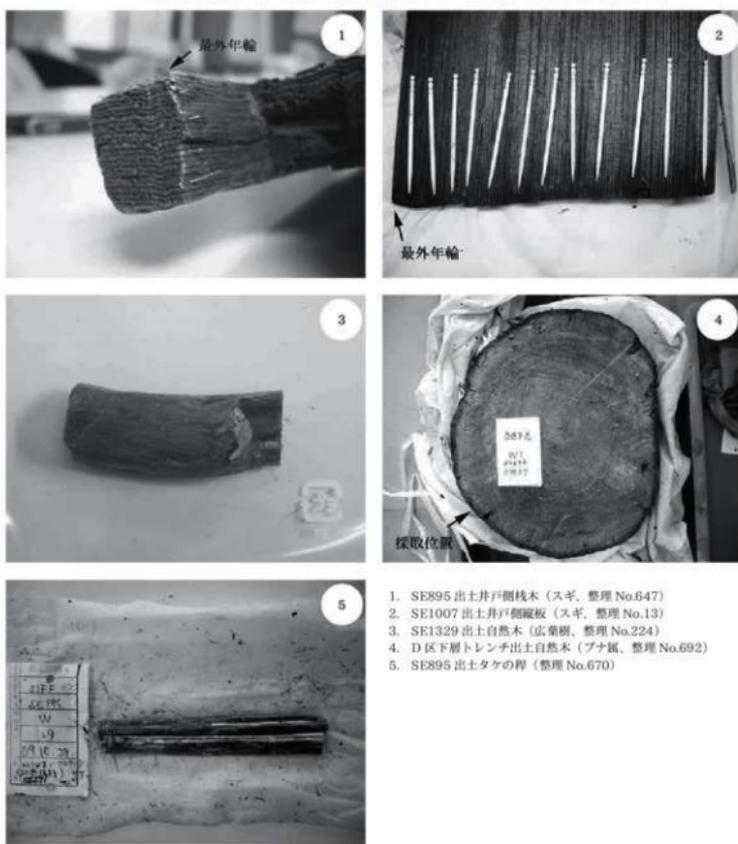
D 区下層トレンチから出土した整理 No.692 の自然木 (PLD-15316) は、直径 36.5cm の大型丸木材であり、測定は最外 -5 年輪である。校正した結果、1 σ 暦年代範囲において 771-749 calBC (16.3%)、687-666 calBC (15.9%)、642-592 calBC (32.7%)、577-570 calBC (3.3%)、2 σ 暦年代範囲において 787-732 calBC (24.2%)、691-661 calBC (18.0%)、651-544 calBC (53.1%) であった。2 σ 暦年代範囲の高い確率では紀元前 7 世紀中頃 ~ 6 世紀中頃の年代範囲を示す。

SE895 から出土した整理 No.670 のタケ程 (PLD-15317) は、程を測定した。校正した結果、1 σ 暦年代範囲において 1279-1299 calAD (53.8%)、1371-1379 calAD (14.4%)、2 σ 暦年代範囲において 1275-1307 calAD (67.0%)、1362-1386 calAD (28.4%) であった。2 σ 暦年代範囲の高い確率では

13世紀後半～14世紀初頭の年代範囲を示す。

参考文献

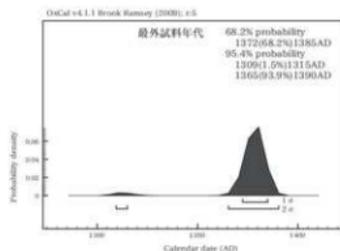
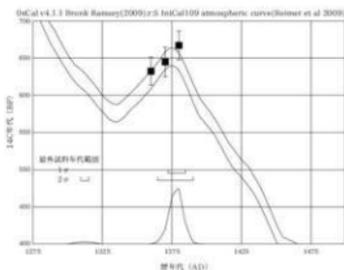
- Bronk Ramsey, C. 1995 Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の ^{14}C 年代』3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. 2009 IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



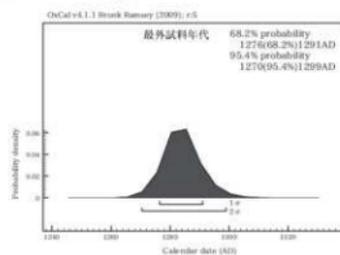
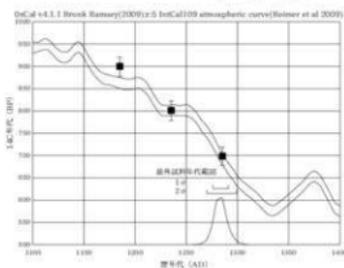
1. SE895 出土井戸側枝木 (スギ, 整理 No.647)
2. SE1007 出土井戸側縦板 (スギ, 整理 No.13)
3. SE1329 出土自然木 (広葉樹, 整理 No.224)
4. D区下層トレンチ出土自然木 (ブナ属, 整理 No.692)
5. SE895 出土タケの稈 (整理 No.670)

第37図 年代測定を行った試料 (1と2はウィグムマッチング試料)

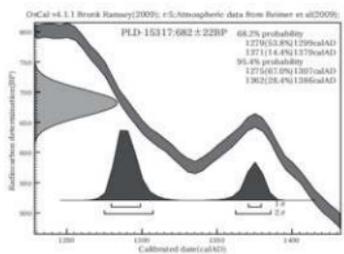
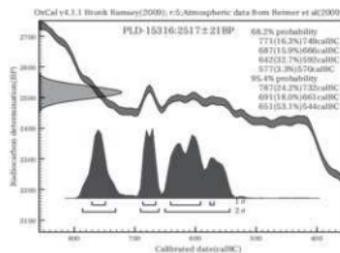
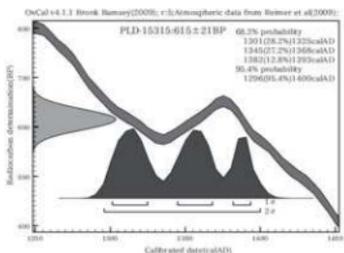
3 墳塚遺跡出土木材の放射性炭素年代測定



第 38 図 整理 No.647 のウィグルマッチング結果



第 39 図 整理 No.13 のウィグルマッチング結果



第 40 図 単体試料の暦年較正結果

4 境塚遺跡出土の曲物 6 点の年輪年代

総合地球環境学研究所

奈良文化財研究所 光谷拓実

A 試料と方法

曲物 6 点の出土遺構は、いずれも井戸内で発見されたもので SE895: 2 点、SE1007: 3 点、SE1329: 1 点であった。曲物 6 点の作られ方には、大きく 3 つのタイプがある。SE895 から出土した 2 点の外周には 3 枚の側板 (上、中、下)、SE1007 の曲物 3 点は 1 枚の側板、SE1329 の 1 点は 2 枚の側板 (上、下) がそれぞれ使われていた。側板には、年輪密度の高い良質なスギの柾目板が使われており、年輪年代法の調査対象材としては、好個の素材である。

年輪幅の計測は、デジタルカメラを用いて撮影された年輪画像 (スケールの写し込まれた写真) の提供を受け、これから年輪読取器をつかって読み取ることとした (最小計測値単位は 10 ミクロン)。

読み取った計測値データは実寸に換算され、スギの暦年標準パターンとの照合に備えた。コンピュータによる年輪パターンの照合は、相互相関分析手法によった [光谷・田中・佐藤 1990]。年輪年代を割り出すにあたっては、山形県下の遺跡出土木材の年輪データで作成したスギの暦年標準パターン (813 年～1285 年) を用いることとした。

B 結 果

曲物側板の計測年輪数や暦年標準パターンとの照合によって得られた年輪年代は、第 17 表に示したとおりである。なお、表中の t 値は、照合確定位置での t 検定によって得られた t 値を示す。

まず、SE895 出土の整理 No.687 の側板 3 枚の年輪年代はいずれも

井戸 No.	報告 No.	整理 No.	側板	年輪数	t 値	年輪年代	辺材 (cm)
SE895	218	687	(3枚) 上側板	138	5.6	1249	—
			中側板	104	11.7(下側板)	1330	—
			下側板	227	5.8	1327	—
	217	688	(3枚) 上側板	122	—	—	—
			中側板	178+2 層	—	—	—
			下側板	171+1 層	—	—	—
SE1007	264	682	(1枚) 側板	110	5.0	1208	—
	263	684	(1枚) 側板	74	—	—	—
	265	686	(1枚) 側板	342	6.1	1195	—
SE1329	173	685	(2枚) 上側板	177+2 層	—	—	2.1
			下側板	203	—	—	2.3

第 17 表 曲物 6 点の側板の年輪年代

確定し、上側板からは $1249 \text{ 年} + \alpha$ 層、中側板からは $1330 \text{ 年} + \alpha$ 層、下側板からは $1327 \text{ 年} + \alpha$ 層と判明した。計測用の写真からは、3 枚とも心材部の外側につづく辺材部はすべて失われているものと判断された (実物を見て確認する必要がある)。したがって、原本の伐採年代は中側板の 1330 年がその上限年代となり、曲物が製作された年代も 1330 年以降であることが確定した。したがって、SE895 の築造年代はこの年輪年代以降のものであるといえる。ここで、曲物の造られた年代を考えたとき、製作時に削除された辺材部の年輪数を加算しなければならない。秋田スギの場合、辺材部に占める平均的な年輪数は約 40 層前後であるから、 $1330+40 \text{ 層} = 1370 \text{ 年}$ となり、少なくとも曲物の制作年代はこの年代あたりまで下ることになる。したがって、井戸の築造年代も 14 世紀の末頃まで下ることが想定される。

SE895 出土の整理 No.688 の側板 3 枚の年輪パターンは、暦年標準パターンとの照合においていずれも成立しなかったため側板 3 枚の年輪年代は不明である。

SE1007 出土の3点の曲物は、いずれも側板1枚で作られている。3点の年輪パターンと暦年標準パターンとの照合は、整理 No.682 と整理 No.686 の2点が成立し、No.682 が 1208 年 + α 層、No.686 が 1195 年 + α 層と判明した。年代確定の曲物は、いずれも辺材が失われており、伐採年代の推定は難しい。したがって、SE1007 の築造は 1208 年以降のものであるとしかいえないが、スギの辺材部に占める平均年輪数（40 層前後）を加算した場合を考えると、その築造は 1200 年代の中頃まで下る可能性が高い。

SE1329 出土の曲物整理 No.685 の側板2枚の年輪パターンは、暦年標準パターンとの照合において不成立であったので、No.688 の曲物の年輪年代は確定できなかった。

境塚遺跡の年代は、出土土器の所見から 13 世紀中頃～14 世紀頃の拠点集落と考えられているが、出土遺物が少ないためにこれ以上詳細な年代はわかっていなかった。

今回の年輪年代調査は、2 基の井戸 SE895 と SE1007 の曲物からそれぞれ 1330 年 + α 層（推定 14 世紀末頃）と 1208 年 + α 層（推定 13 世紀中頃）の推定伐採年代が得られた。これら 2 点の年輪年代は、本遺跡の年代を考えるうえで、有効な年代情報となり得るものと思われる。

引用文献

光谷拓実、田中琢、佐藤忠信 1990 「年輪に歴史を読む—日本における古年輪学の成立—」『奈良国立文化財研究所学報』第 48 冊 同朋舎出版

5 境塚遺跡出土井戸材の年輪解析

木村勝彦・荒木里菜（福岡大学共生システム理工学類）

A はじめに

境塚遺跡では室町～鎌倉の中世の屋敷跡から 2 基の井戸とそれを構成する井戸材が出土した。井戸材は地上部の木造構造物に比べて残りやすいため、年輪年代学を適用した年代決定に利用されている（例えば、光谷 1995；高橋ほか 2000）。一方で、井戸材には転用も多いとされ、年代の異なるものが含まれる可能性が高い。本報告では、2 基の井戸を構成する個々の部材に年輪年代を適用し、相対的な構築年だけでなく、転用を含めた木材利用の検討を行った。

B 試料と方法

調査対象としたのは 2 基の井戸 SE895 および SE1007 の井戸側を構成する木材で、埋文事業団において水漬けて保管されていたものを現場で撮影し、年輪計測を実施した。

撮影を行なったのは表 1 に示す板材および角柱であり、SE895 の材が 15 点、SE1007 の材が 36 点である。これらの井戸側材に加えて、埋文事業団で撮影し提供された井戸底部から出土した曲物 6 点の側面写真（柾目割の薄板側板）を解析対象に加えた。

1) 年輪幅の計測

年輪幅の計測はデジタルカメラで試料を撮影し、撮影画像をもとに計測する方法を用いた。非破壊的な調査のため、計測部位は試料に応じて最も年輪の明瞭に見える部位を選んだ。木口が見えるものは原則

として木口面で計測し、柾目面での計測も併用した。不明瞭な年輪を判別し、不連続年輪・偽年輪等の存在を把握するために出来る限り同一試料上の2カ所以上の部位で測線を設定した。

撮影には中望遠系のマクロレンズを装着したデジタル一眼レフカメラ (Olympus E-3 + ZUIKO DIGITAL ED 50mm F2.0 Macro) を使用し、測線に沿って一コマに幅 4cm ~ 15cm 程度の範囲が入るようにして撮影をおこなった (約 600dpi ~ 2400dpi 相当)。連続するコマは繋がりが確実にわかるように各コマの幅の半分程度の重なりを持つように撮影した。また、スケール/ラベルとして 1cm 角の方眼紙に個体番号を記したものを試料表面にはり付けて写真に写し込んだ。

年輪幅はコンピュータ上で自作のソフトを用いて画像上の 1 ピクセルの精度 (1000dpi の場合 0.025mm 精度) で計測した。各測線を撮影した画像には前後のコマと半分程度の重なりがあるため、同じ部位を 2 度測定することになる。重なり部分を用いることで計測ミスのチェックをすると同時に隣接するコマのデータを接続して各測線に沿った年輪幅データを作成した。さらに、同一個体の複数の測線のデータをクロスチェックすることで計測ミスをチェックし、問題の無い場合は複数の測線データを平均して個体 (部材) の年輪データとした。

2) 年輪解析

個体間、部材間の年代関係を得るためのクロスデーティングは年輪ボタンを 5 年移動平均法により標準化したのちに、移動相関法で相関の高いずれを抽出した。年輪ボタンの同調の判断には Baillie の t 値 (Baillie and pilcher, 1973) が原則として 5 を超えることを目安とし、これに目視による年輪ボタン比較に問題がないこと、複数個体間で矛盾のないことを判断基準に加えた。

個体間、部材間のクロスデーティングで十分な相関が得られ、3 個体以上の間で矛盾のない相対的な年代関係が得られた場合、これらの年輪パターンを平均化して暫定的な標準ボタンを作成した。さらにこの標準ボタンと他の個体/部材とのクロスデーティングをおこない、新たに標準ボタンに組み込む作業を繰り返して、フローティング・クロノロジーを作成した。

C 結果と考察

1) 試料年輪の概要

井戸側材の年輪計測結果の概要を第 18 表に示した。試料番号として年輪解析試料の通番 (1 ~ 52) と整理 No. がつけられているが、本報告中では通番を用いる。個別の井戸材材に含まれる年輪数は 6 ~ 119 年、平均約 50 年で、年輪数の少ないものはおもに板目割りの板材である。接合個体の 2 番は板目割り年輪数が少なく、隣接する板どうしの年輪をつなげることができなかったため、後の解析からは外した。板目割りでも接合個体 4 番は年輪が詰まっていた年数が多く、断面が板目面に対して斜めになっていたため、隣接する板の年輪をある程度接続することができ、個体の年数としては連続した 119 年分が得られた。柾目割りの接合個体では個々の板材はほぼ同じ年輪を持つことになり、個体の年数は個々の板よりも数年多いだけである。

遺構別の井戸材材を比較すると SE1007 の方が全体的に大きく、年輪数も 100 年前後のものが多くある。一方で、SE895 は比較的小型で年輪数も 60 年程度のものが多い。平均年輪幅は遺構や木材の形状とは関係なく、ほとんどが 1mm ~ 2mm で 2mm を超えるものは少なく、成長の良い個体を含んでいない。

年輪計測をおこなった曲物の外面は何枚かの柾目の側板でできているが、個々の側板だけでも井戸側材

遺構	遺構 No.	報告 No.	整理 No.	取上 No.	接合番号	形状	樹皮	接合順	年輪数		平均年輪幅 (mm)	マスタとのずれ												
									部材	個体		部材毎	個体毎	備考										
SE1007					2	板口側板			1	14	2.0													
									2	12														
									3	10														
									4	9														
									5	—														
									6	—														
									7	—														
									8	—														
									13	621		152	4	板口側板		1	33	0.7						
									14	601		140				2	44							
									15	584		154				3	52		119°					
									16	585		153				4	50							
									17	362		145				5	43							
									18	222		28	109			6	45							
									9	255		594	139	5	板口側板		1		71	81	1.9	271	267	↑
									10	255		586	155				4		67			279		同材
									11	255		12	59				12		79			269		↓
									12	255		597	127				15		79			267		↓
									19	236		34	100	7	板口側板		1		113	123	1.4	48	42	↑
									20	236		22	26				4		119			46		同材
		21	13	64			○	6	112				42		↓									
		52	50	97		板口側板	○	89					42		↓									
		23	242	58	6	9	枕木		1	92	97	0.9	44	41	↑									
		24	242	54	2	枕木		2	95				45		↓									
		25	241	578	35	10	枕木	○	2	97	97	1.0	41		↓									
		26	241	606	17	枕木		1	94				43		同材									
		30	259	61	9	13	角柱		1	96	97	0.9	45		↓									
		31	63	11	角柱			2	96				43		↓									
		22	247	576	20	枕木	○	71					41		↓									
		27	250	582	31	14	枕木		1	39		1.3												
		28	250	570	24	枕木		2	56			1.2												
		32	579	34	15	枕木		1	44	44	1.8				↑									
		33	607	36	枕木			2	41						同材									
		34	612	33	枕木			3	34						↓									
		35	256	610	23	11		2	25			—												
		36	256	609	21			1	26															
		29	251	581	29	12			30			2.3												
SE895						横枕			76	111	1.0	19	6	↑	同材									
									111										↓					
									40	199	459	103	横枕		62		1.2	260	260	↑				
									42	198	448	58	横枕		61		1.3	272			同材			
									49	189	340	37	20	板口側板		27		1.5	290			↓		
									43	462	136	板口側板						1.9				↑		
									45	204	523	143	板口側板		46		2.1					同材		
									47	212	590	136	板口側板		47		2.0					↓		
									38	201	547	140	横枕	○	26		0.8							
									39	203	556	141	横枕		17		1.0							
									44	76	15	板口側板			58		1.7							
									46	206	413	53	板口側板		71		0.6	33						
									48	70	11	板口側板			38		2.2							
									50	467	130	板口横枕			73		1.1	46						
									51	446	36	板口側板			59		1.4							

第18表 井戸側材の年輪解析結果概要

遺構	報告 No.	整理 No.	側板	年輪数		平均年輪幅 (mm)	マスタとのずれ (年)
				側板1	側板2		
SE1007	265	686	側板1	58	365	1.1	135
			側板2	363			
				89		1.8	—
				105		1.3	—
				91			
SE895	218	687	側板1	109	232	0.8	8
			側板2	30			
			側板3	91			
			側板4	107			
			側板5	224			
	217	688	側板1	177	181	1.0	0
			側板2	178			
			側板3	123			
SE1329	173	685	側板1	195	196	0.7	57
			側板2	190			

第19表 曲物の年輪計測結果

よりもかなり年数が多く、1枚の側板で350年を超えるものもある(第19表)。年輪幅も井戸側材よりも詰まっていた、1mm前後である。

井戸側材、曲物とも成長の良い個体を全く含んでおらず、天然林的な生育環境の林分から木材を調達していたものと考えられる。曲物は軽量なため産地は離れている可能性があるが、この時代に樹齢400年級のスギの供給源が存在したことを示している。

2) 曲物側板の年代関係

曲物を構成する側板の年輪パタンのクロスデーティングにより、側板間の年代差、同材関係などの検討を行った。

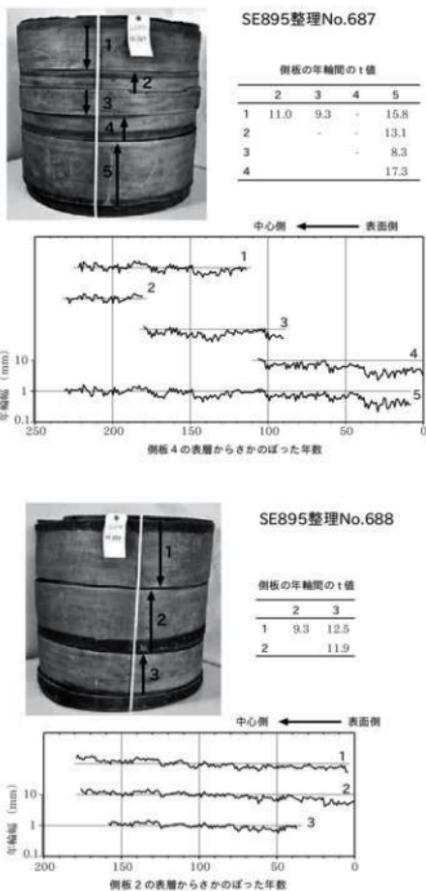
SE895の大型の曲物2点の側板の年代関係と相関を第41図に示した。SE895整理No.687は5枚の側板で構成されていて、年代のオーバーラップを持つ側板間では t 値で8.3～17.3の高い年輪パタンの相関を示すため、側板は全て同一個体から割り出されたものと考えられる。なお、2番目と4番目の側板は一枚の板で、中央部に3番目の板が巻かれている。整理No.688は年代のそろった3枚の側板で構成され、No.687同様に年輪パタンの類似度は極めて高い。

他の曲物についても複数の側板を持ち、年輪数が十分あるものは全て年輪パターンが高い相関を示し、これらの曲物がそれぞれ同一個体から割り出された薄板を使っているものと判断できた。この結果を受けて、各曲物の側板の年輪パターンを平均化して曲物個体データを作成した。

3) 井戸枠を構成する板材・角材間の年代関係

井戸枠の板材、角材について個体間の年輪パタンのクロスデーティングにより、年代関係を解析した。解析は接合関係にある木材間から始め、さらに全ての木材間の組み合わせでクロスデーティングにより相関が得られるかどうかを検討した。

第42図に十分に高い相関が得られた組み合わせについて個体間の t 値の表と年代関係の図を示した。相関の高い組み合わせには接合関係のものも多く含まれ、その場合は外見上の形態で判断した接合を年輪年代で確認していることになる。接合個体4番は板目割りで、板材間のオーバーラップがある程度確保できたため、6枚中4枚の板が年輪的に接合できた。柁目割りの



接合の組み合わせでは接合個体 5, 7, 9, 10, 13, 15, 21 番で t 値で 5 ~ 13 の高い相関が得られ、同一材を割ったものであることが年輪から確認できた。

接合関係以外にも相関の高い組み合わせが得られた(第42図)。No.52 は接合個体 7 番の 3 つの板材と非常に高い相関を示し、同材由来の板材であるものと考えられた。接合 15 番に対する No.34 も同様の関係となった。また、接合 9, 10, 13 番の朽木は相互に高い相関を示し、さらに No.22 の朽木も合わせて同材由来であると考えられた。この他に、No.40, 42, 49 および No.34, 45, 47 がそれぞれ同材関係であると考えられた。

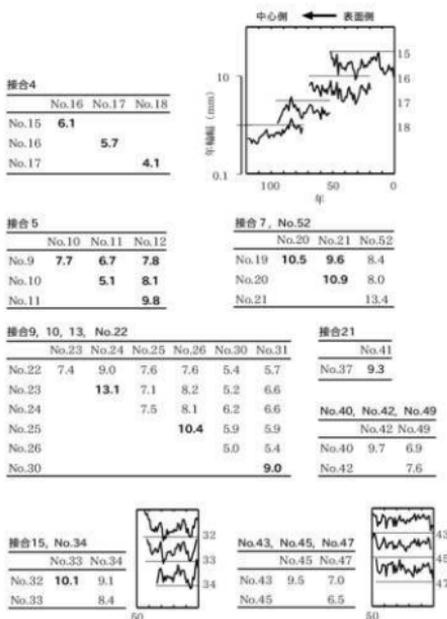
同材の判断に明確な基準は設けていないが、5年移動平均法による短周期成分のデータ間の t 値 (Baillie and Pilcher, 1973) の高さに加えて、長周期成分の同調の高さを判断に使った。後者は数値としては示さなかったが、年輪パタンのグラフで大まかな凹凸の

類似として表現されている。この基準をもとに、第42図に示した組み合わせは全て同材関係であると判断し、各組の年輪データを平均化して個体データを作成した。

4) 全資料による編年

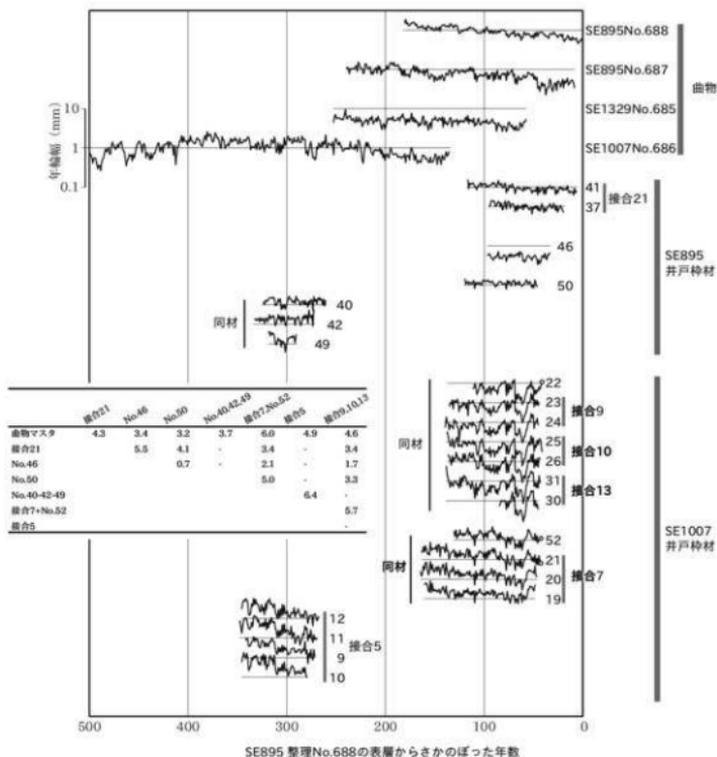
井戸側材、曲物の全てについて、個体平均データにしたものと単独の部材データを含めてクロスデーティングによる全体の相対的な編年を試みた。境塚遺跡で得られた試料の中では曲物の年輪数が多いため、曲物を軸としてクロノロジーの構築をおこなった。曲物間では、SE895 整理 No.687 と SE1007 整理 No.686 の間で高い相関 ($t=6.1$) が得られたため、この 2 個体を平均したパタンを作成し、さらにこれと他の曲物の年輪とのクロスデーティングにより比較的高い相関を示した SE895 整理 No.688 ($t=4.5$)、SE1329 整理 No.685 ($t=4.3$) の相対的な年代が決められた。これら 4 個体の曲物の年輪を平均化して暫定マスターとし、井戸側材の年代を検討した。

第43図に最終的に構築されたクロノロジーを示した。井戸側材どうして相関の得られた組み合わせ(図42)を中心に、SE895 では接合 21、同材関係の 40, 42, 49 および、井戸側材間ではつなぐりの得られなかった 46 と 50 がマスタの時間軸上に配置できた。SE1007 でも同様に、接合 9, 10, 13 のグルー



全体のクロノロジー (第43図) に位置づけられるものは年輪パタンの図を省略している。太字で示された値は接合関係とされた部材間の t 値

第42図 井戸材の部材間で高い同調性を示した組み合わせの t 値および年輪変動パターン



第43図 塚塚遺跡出土木材の年輪クロノロジー ○は樹皮の残存を示す

ブ、接合7および接合5の位置が決められた。なお、個体間の年輪パタンの相関は全体的に十分高いものとはいえないが、新潟県内の同年代の他の遺跡で得られた年輪データ（未発表）を加えた検討で矛盾の無いことが確認できている。

5) 井戸の構築年と部材の転用の可能性

第43図のクロノロジーに組み込まれた部材の中でSE1007の3点（接合9グループのNo.22、接合7グループのNo.52,21）には樹皮が残存していた。部材が転用されている場合は樹皮が残る可能性が低いこと、これらの3点の表層年代が1年差におさまること（No.22のみ1年新しい）、さらにSE1007を構成する材の中では曲物も含めて最も新しい年代になることから、これら3点の表層年代はSE1007の構築年に対応しているものと考えられる。

SE1007の他の部材は上記3点に比べて曲物整理No.686が約100年古く、接合5が約200年古い。今回の分析では辺材の状態についての検討が十分にできなかったため明確な議論はできないが、接合5

は転用材の可能性が高く、おそらく井戸構築の際に古い角材を削って板を得ていたものと考えられる。曲物整理 No.686 も転用の可能性はあるが、外見上辺材は残存せず、年輪も詰まっていることから井戸構築時に作られたことも考えられる。

SE895 は樹皮のついた部材が 1 点存在するが (No.38 : 第 18 表参照) 年輪数がわずかに 26 年しかなく、年輪年代では年代関係を定めることができなかった。SE895 では曲物 2 点 (整理 No.688 と 687) と接合 21 が新しく、構築年はこれよりもさらに新しくなる。また、SE1007 同様に 200 年古い井戸側材が含まれ、転用が示唆された。

D ま と め

境塚遺跡から出土した井戸側材 52 点、曲物 6 点、計 58 点の試料の年輪解析により、半数弱の 26 点の木材の相対的な年代関係が確定し、500 年分のフローティング・クロノロジーを構築することができた。SE1007 の井戸側材には樹皮の残存するものが含まれ、上記クロノロジー上に構築年を位置づけられた (クロノロジー表層から 41 年前)。井戸材には想定される構築年よりも 200 年程度古い材が含まれ、辺材が失われていて伐採年は明確でないものの転用材であることが示唆された。

年輪年代学を進めるためにはできるだけ多数の年輪データを集積することが重要である。今後、周辺地域の年輪データを増やすことにより、今回の解析ではクロノロジーに組み込まれなかった部材の年代決定や、相関が不十分だった組み合わせの検証を進め、さらに異なる遺跡間の年代関係の議論を進めることができる。

引用文献

- Baillie, M.G.L., and Pilcher, J.R. 1973 A simple crossdating program for tree-ring research. *Tree Ring Bull.* 33 : 7-14
- Kimura, K. 1995 A simple and visual cross-dating program for dendrochronology. *Tree Rings - from the past to the future- Proceedings of the International Workshop on Asian and Pacific Dendrochronology*, 255-257.
- 高橋 学ほか 2000 『洲崎遺跡 県営ほ場整備事業 (浜井川地区) に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』 秋田県埋蔵文化財センター
- 光谷拓実 1995 「二口かみあれた遺跡出土木製品の年輪年代」『二口かみあれた遺跡』石川県志雄町教育委員会 : 253-258.

第八章 調査のまとめ

1 A区について

A 遺構の変遷

A区で主体を占める中世遺構の最も特徴的な点は、1辺の長さが63m以上ある方形区画の堀SD101を持つ居館が存在することである。SD101は幅約2m・深さ約0.9mで、34GGグリッドで直角に折れ曲がり、阿賀野市教委A区まで約33m続いている。また、28EEグリッドでは長さ4.6mの楕円区画となり、これより西側は調査範囲外のため不明である。この楕円区画に対して北側に垂直に伸びるSD366があり、SD101より規模が小さいことから、SD101と同時期に機能した区画溝と考えられる。おそらく、SD101は楕円区画から更に西側に直線的に伸びるものと推定され、今後の調査で明らかになろうが、1辺の長さが1町(約109m)となる可能性があろう。

このSD101はP1033より新しく、SD366もSD1106・P1131・P1722より新しいことから、居館が形成される以前にも遺構がわずかに存在していたことが分かる。

一方、SD101の埋積後にSD371・SE895が構築されており、堀がなくなった後の遺構群が存在する。また、SD239はSD371に対しほぼ直行し、SD371と同様にSE895の手前で途切れており、これと同時期のものと考えられる。さらに、SD1613は隣接するSD366より明らかに規模が大きく、東側に湾曲してSD239と方向が同じであり、これも同時期と推定される。なお、SD371・239より新しい遺構もわずかに確認できる。

以上から、中世遺構はA区Ⅰ期-SD101形成以前、A区Ⅱ期-SD101形成期、A区Ⅲ期SD101廃絶後、の大きく3時期に区分することとする(第20表)。これらの時期変遷と遺構覆土(第四章1)との関係

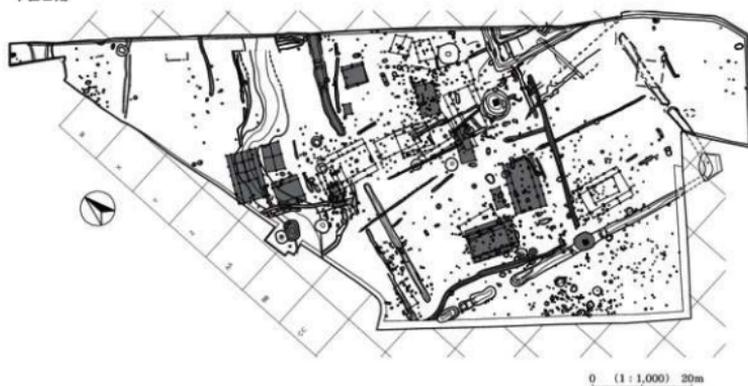
時期	Ⅰ期 (SD101以前)	Ⅱ期 (SD101)	Ⅲ期 (SD101以後)
遺物	13世紀前半	13世紀後半～14世紀前半	14世紀後半～15世紀前半
覆土		覆土A	覆土B
		覆土C	覆土D
			覆土E
遺構変遷関係と覆土分類	P1033 (A)	< SD101 (Aに類似)	< SD371 (Aに類似) SE895 (Bに類似) P106 (A) P131 (A) P183 (A) P241 (A) P548 (A) P898 (A) P1828 (A)
	SD1106 (D) P1131 (D) P1722 (D)	< SD366 (Dに類似)	< SK363 (D) SD1332 (D) P952 SD1613 (Dに類似) < SK1245 (Aに類似)
		SK1035 (Aに類似) SK1040 (Aに類似) SK1877 (Cに類似)	< SD371 < SK240 (Bに類似) P1827 (A)
		SD1017 (Aに類似) SD1037 (Aに類似) SK1618 (Cに類似) SK1874 (Cに類似) P231 (Aに類似)	< SD239 (Aに類似) < SD1043 (Aに類似) SK208 (Bに類似) P238 P1849 (A)

第20表 A区の遺構及び覆土の変遷

中世Ⅱ期



中世Ⅲ期



第44図 A区の中世遺構の変遷 [古澤²⁰¹¹と合成]

を検討したが、覆土Bがより新しい傾向にあること以外は明確にできない。

次に、各時期に伴う掘立柱建物について検討する。掘立柱建物の主軸方向は、東偏 $22^{\circ} \sim 24^{\circ}$ ・西偏 $67^{\circ} \sim 86^{\circ}$ の一群(SB1・5・9・11・16・19・22)と、東偏 $27^{\circ} \sim 35^{\circ}$ ・西偏 $57^{\circ} \sim 62^{\circ}$ の一群(SB2・3・4・6・7・8・12・13・15・18・20・21・24・25)に大別できる。前者はSD101(西偏 69°)、後者はSD239(東偏 31°)とほぼ平行ないし直交関係にあることから、前者がA区Ⅱ期、後者がA区Ⅲ期に位置付けられよう(第44図)。また、SD1017のようにSD101と平行する溝もA区Ⅱ期に位置付けられる可能性が高い。A区Ⅱ・Ⅲ期の中でも建物同士が重複しており、ある程度の時間幅を持つことが推察される。なお、A区Ⅰ期は重複関係で明らかになった遺構以外は不明である。

B 遺構の年代

1) 出土遺物

A区Ⅱ期及びⅢ期への所属が明確な遺構出土土器を年代順に並べ、その形成年代を推定する(第45図)。

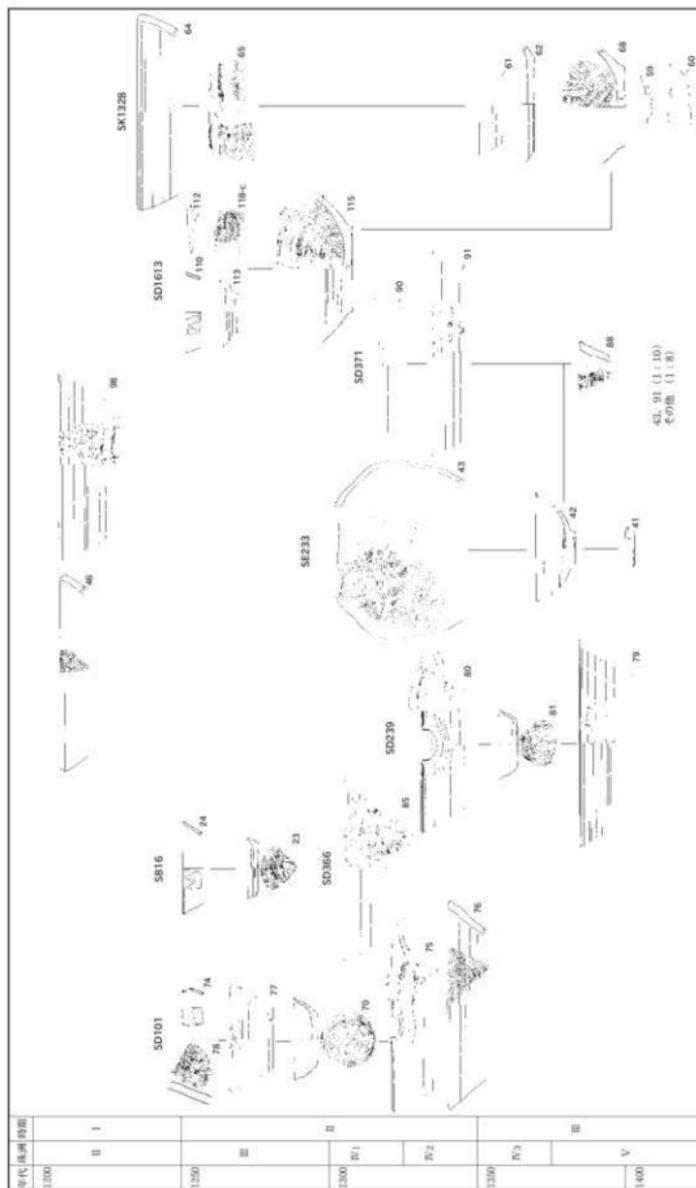
A区Ⅱ期の遺構としてはSD101・SD366・SB16が挙げられる。SD101では笹神古窯権兵衛窯跡産の78と、同窯か赤坂古窯跡産と見られる77があり、13世紀中葉～後葉[鶴巻2005]に位置付けられる。青磁瓜形合子74もほぼ同時期のものであろう。珠洲焼片口鉢75・76はⅣ1～Ⅳ2期[吉岡1994]に収まり、土師質土器皿70も同時期と考えられる。SD366では珠洲焼片口鉢85がⅣ1期と考えられる。SB16では13世紀代に多い青磁椀B-I類24と土師質土器皿C1類23が出土した。以上から、Ⅱ期は13世紀後半～14世紀前半が主体と考えられる。

A区Ⅲ期の遺構としてはSD239・SD371・SD1613・SE895・SE233・SK1328がある。SD239では珠洲焼片口鉢80がⅣ2期、79がⅤ期と考えられる。土師質土器皿B1類81もこの中に収まるであろう。SD371では瀬戸壺90が中期[藤沢1982]、珠洲焼片口鉢91がⅣ2期、88がⅤ期と考えられる。SD1613では青磁椀B-I類110・112・1-3a類113、権兵衛窯跡産118があるほか、珠洲焼片口鉢115はⅢ～Ⅳ期であり、13世紀代～14世紀前葉のものが主体を占める。しかし、SD1613-9層出土破片がSK1328の珠洲焼Ⅴ期片口鉢68と接合した。SK1328ではこのほかに珠洲焼片口鉢64がⅡ～Ⅲ期、瀬戸61・62は後Ⅰ～Ⅱ期[藤沢1991]、白磁皿D群59、青磁椀B-II類60があり、SD1613・SK1328は共に14世紀後半～15世紀前葉まで下るものと考えられる。SE233では白磁椀C群42は14世紀中葉～後葉に位置付けられ[貫井2000]、6～8層からまとまって出土したほか、SD371出土破片とも接合しており、両者の共時性が認められる。また、1層から青磁B-II類も出土した。以上から、A区Ⅱ期に位置付けられる遺構の下限は14世紀後半～15世紀前葉に求めることができる。

A区Ⅰ期については、年代を明確に示す遺構出土資料が少ない。A区Ⅱ期の上限が13世紀後半であるが、これ以前の遺物としてはわずかながら珠洲Ⅱ期の資料(46・98)を確認できる。隣接する阿賀野市教委A区でも規模の大きい区画溝A1-37から珠洲Ⅱ期の資料が出土している[古澤^{ほか}2011]。したがって、A区Ⅰ期は13世紀前半の可能性が高い。

2) 年輪年代及び放射性炭素年代

次に、SE1007・895・1329から出土した木製品の年輪年代及び放射性炭素年代をもとに検討する。光谷拓実氏によりSE1007及びSE895から出土した曲物の年輪年代が特定された(第Ⅳ章4)。最も新しい年代は、SE1007が1208年、SE895が1330年である。これらの資料は最外年輪を含んでいないため、この年代は遺構の上限年代を示している。一方、木村勝彦氏はSE1007・895・1329の曲物に加え井戸側部材の年輪解析を行った結果、26点の相対的な年代関係を明らかにし、500年分のフローティング・クロノロジーを構築した(第Ⅶ章5)。最も新しいものはSE895の整理No.688であり、他の資料についてはこれを0年としてさかのぼった年数を「マスタとのずれ」として示した。この中で注目されるのは、最外年輪が残るSE1007の整理No.13・578・576である。マスタとのずれは41年・42年で、縦板と椀木という異なる部材にもかかわらず伐採年が1年差に収まることから井戸の構築年を示す可能性が高い。そこで、光谷年輪年代に木村年輪年代を照らし合わせることで、これらの両者の年代関係を検討することとする。



第45図 A区の遺構と建物配置図

遺構	報告 No.	整理 No.	資料	最外年輪	光谷年輪年代		木村年輪年代		推定年代	放射性炭素年代測定 の暦年代範囲
					年輪数	年輪年代	年輪数	全体 マスタとのずれ		
SE1007	265	686	曲物側板 1			58	365	135	1207	
			曲物側板 2		342	1195	353			
	264	682	曲物側板		110	1208	105	-		
	226	13	井戸掘削板	あり			112	123	42	1300
	241	578	井戸掘削板	あり			97		41	1301
	247	576	井戸掘削板	あり			71		41	1301
SE895	218	687	曲物側板 1		138	1249	109	232	8	1334
			曲物側板 2				50			
			曲物側板 3				91			
			曲物側板 4		104	1330	107			
			曲物側板 5		227	1327	224			
	217	688	曲物側板 1		122		177	181	0	1342
		曲物側板 2		178+2 層		178				
		曲物側板 3		171+1 層		123				
	201	647	井戸掘削板	あり						1309AD-1315AD (1.5%) 1365AD-1390AD (93.9%)
		670	タケ材							1275AD-1307AD (67.0%) 1362AD-1386AD (28.4%)
SE1329	173	685	曲物側板 1		177+2 層		195	196	57	1285
			曲物側板 2		203		190			
		224	自然木	あり						1296AD-1400AD (95.4%)

第 21 表 年輪年代及び放射性炭素年代測定結果の対応関係と推定年代

SE1007-整理 No.686 について、光谷氏は 342 年分を計測し、木村氏は全体で 365 年分を計測した (第 21 表)。この差は、光谷氏が曲物側板 2 (曲物中央) を計測したのに対し、木村氏は曲物側板 1 (曲物上端) の 58 年分も計測して曲物側板 2 の表層側に 12 年分を追加したことと、曲物側板 2 の下端に更に 11 年分を計測して合計 365 年としたことによる。光谷氏の 342 年分の表層が 1195 年であるから、これに 12 年を追加した 1207 年が木村氏の 365 年分の表層年代となる。整理 No.686 はマスタとのずれが 135 年であるから、SE895-整理 No.688 の表層、すなわちマスタ 0 年は 1334 年となろう。SE1007-整理 No.13 は 1300 年、整理 No.578・576 は 1301 年に伐採されたと考えられる。したがって、SE1007 の構築年は 1301 年の可能性が高い。SE1007 からは 14 世紀後半以降の遺物は出土しておらず、整理 No.13 の最外年輪はウィグルマッチング法による年代測定により 1270AD-1299AD の暦年代範囲が示されており (第Ⅶ章 3)、年輪年代との矛盾はない。

SE895 については、整理 No.688 の年輪年代が 1342 年であり、これを上限とする。整理 No.647 は最外年輪が残っており、ウィグルマッチング法によって 1365AD-1390AD の暦年代範囲が示された。SE895 では古瀬戸中期 27 や青磁碗 D-I 類 26 など 14 世紀中葉~15 世紀初頭の遺物が出土しており、この暦年代範囲と調和的である。SE895 は 14 世紀後半に構築されたものと考えられる。

SE1329 については、整理 No.685 の年輪年代が 1285 年であり、これを上限とする。11 層から出土した整理 No.224 自然木の放射性炭素年代測定により 1296AD-1400AD の暦年代範囲が示された。出土遺物は珠洲Ⅲ期 (51) や青磁 B-I 類 (50) などであり、重複する A 区Ⅲ期の SK1328 より古いことから、SE1329 は 14 世紀前半に構築されたものと考えられる。

以上から、SE1007・1329 は A 区Ⅱ期に、SE895 は A 区Ⅲ期に属する可能性が高く、年代測定による年代と出土遺物による年代とが調和的であることが示された。

C 井戸側部材から見た製板・製材技術

1) 井戸側部材の概要

A区の代表的な遺構である大型井戸SE1007・895からは、おびただしい数の井戸側部材が出土した。SE1007は長径5.96m、深さ5.46mである。井戸側は縦板組支柱横棧留型で、長さ約2m、幅約25cmの縦板を3段継ぎ合わせ、井戸底には水溜として直径68cm、高さ62cmの曲物1点が据えられている。出土点数は縦板311点、枕木22点、隅柱17点である。SE895は長径8.4m、深さ4.94mである。SE1007と同様に井戸側は縦板組隅柱横棧留型だが、長さ20～200cmの不揃いな縦板が用いられ、水溜には曲物2個が重ねられている。出土点数は175点、枕木18点、隅柱12点である(第IV章1・4)。

特筆されるのは、これらの井戸側部材がそれぞれ接合して分割前の角材に復元できたことである。その個体数は、SE1007では縦板11個体(81点)・枕木2個体(4点)・隅柱4個体(8点)、SE895では縦板2個体(7点)・枕木1個体(2点)の合計20個体である。いずれにも分割時や整形時の工具痕が認められる。

2) 資料の分析

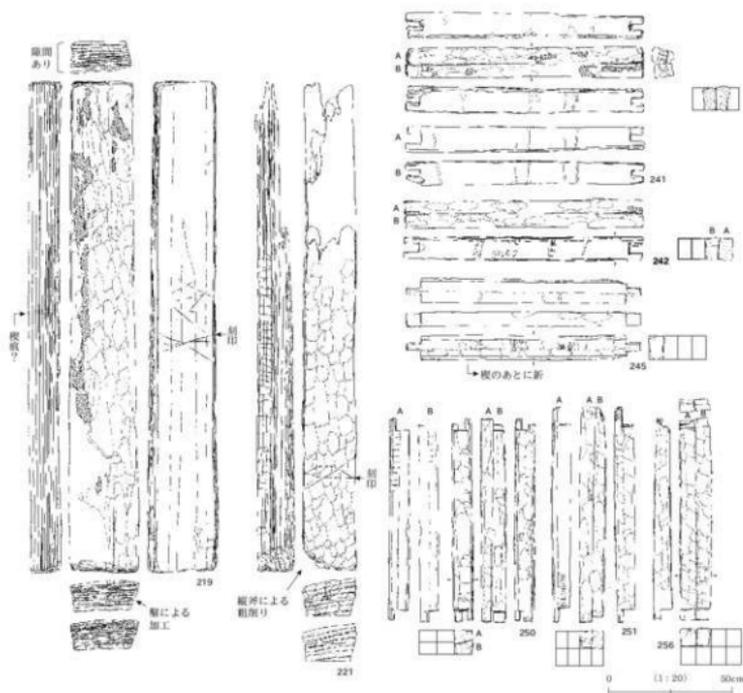
ここでは、資料が豊富なSE1007出土資料の分析を通じ、製品に至る加工を明らかにしたい。なお、資料は該当図版41～44を参照いただくこととし、代表的な接合資料のみ第46図にまとめた。

SE1007 縦板接合個体

接合個体のサイズは、長さ171～199cm、幅17～28cmに収まる。木取りは板目219～222・223～225(他に未掲載1点)、柾目が226・227・255であり、225・227を除く個体が樹皮や辺材を含む心去りミカン割材である。各個体の接合点数は2～16点で、最も多く接合したのは225である。樹皮側を基準とした厚さは、225を除く板目のものが11.5～16.8cm、柾目のものが17.4～18.5cmである。

縦板接合個体の大きな特徴として、「刻印」が6個体に認められたことが挙げられる。刻印は鋭利な刃物によって施された「×」「*」「|」「\」「/」「∩」「∪」などの線を組み合わせることで表現されている。219・225・255は「*」に「|」や「\」を加えるパターン、220・221は「∩」「|」「\」を組み合わせるパターンで、一定の規則性がうかがえる。また、219は裏面に刻印が施され、255は表裏面のほぼ同位置に認められることから、刻印が接合した角材段階に施されたことを示すとともに、これらの接合個体が製板前の状態であることを証明している。

次に、加工方法について見ることにする。上下端の木口は縦斧で平滑に加工するのが一般的であるが、221の木口下端には縦斧による左側面からの粗削りが残されている。木口の平滑加工はこの粗削りの後に行われており、同様の加工は219の下端や255の上端でも確認できる。したがって、粗削りは接合個体の長さに切断するための分断加工痕と考えられる。219の木口下端には縦斧の調整に加え、鑿による平滑加工が認められる。側面及び裏面は打ち削りによって分割されているが、痕は219左側面にその可能性があるだけで、明確に認められない。分割後は平滑に調整するための新加工が一部に施される。木表は新で樹皮の除去と平滑にする加工が施される。221の木表に施された新加工は、下端の粗削りとの重複関係からこの後に行われており、木口切断後に新加工が施されたことが分かる。221・225の新加工が木口手前で止まっていることもこれを裏付けるものである。さらに、新加工は219に代表されるよう



第46図 井戸側の縦板・枝木・隅柱の接合資料

に木表の範囲内に収まるように施されていることから、接合個体の形状に加工された後に行われた可能性が高い。おそらく、木表と側面の新加工は同時に行われたのであろう。薄板は厚さ0.7～3.9mmで、打ち割りによって製板される。楔痕は認められないもの、219・220・222・255の上端の木口には薄板の接合面に隙間が形成されることから、ここに長い刃部を持つ金属製工具を打ち込んだものと考えられる。

以上から、縦板接合個体の加工は、縦斧による木口の切斷・平滑加工→打ち割りによる側面の分割→新による木表・側面の平滑加工→刻印の施文→打ち割りによる製板、の順と考えられる。

SE1007 棧木

棧木は、長さ77.8～104.3cm、幅5～12.8cm、厚さ3.3～10.2cmである。木取りは心去りミカン割で、幅の広い面を柂目とするのが大半だが、249のように板目とするものもある。木口は基本的に鋸で切斷後に鋸・鑿で整形されており、分割以前の加工は確認できない。接合個体241は図上下の柂目面及びAB接合面に打ち割り時の楔痕を確認でき、3面とも楔の位置がほぼ同じであることから同時に分割された可能性が高い。木表にある新加工はAB接合面を横断し、更に図上下端を越えて外側に続く可能性が高い。したがって、ほかに接合する個体が存在し、分割以前は大きな角材であったと考えられる。接合個体242は図上下の柂目面に楔痕を観察できるが、AB接合面では確認できない。木表の新加工は

接合面を横断し、B図下端より外側に伸びるが、A図上端では木表の範囲内に取まっている。このことは、Aが分割前の大きな角材の角に位置していたことを示している。245も木表の新加工は図下端より内側に取まり、上端より外側に伸びており、図下端が大きな角材の角に位置していたものと考えられる。また、図下の柵目面は楔による打ち割り後に新加工が加えられており、大きな角材段階に平滑加工が行われたことを示している。同様の特徴は246・247にも認められる。なお、楔には幅0.5～3cmの棒状金属工具と幅3～6cmの木製板が用いられたと推定される。

以上から、柵木の加工は、楔を用いた打ち割りによる大きな角材加工→大きな角材の木表と柵目面の新加工→楔を用いた打ち割りによる小割→木口の仕口加工、の順と考えられる。

SE1007 隅柱

隅柱は、長さ67.2～91.6cm、幅5.1～13cm、厚さ4～10.2cmである。木取りと木口加工は柵木と同様である。接合個体250は木表、右側の柵目面、木裏の3面に新加工があり、木表裏の新加工は右側面との境界を越えていない。したがって、この接合個体は分割前の大きな角材の角に位置するものと考えられる。また、左側の柵目面は打ち割りのみで、木表裏の新加工は左側面との境界を越えて伸びており、さらに接合する個体が存在することを示している。他の接合個体251・256・257も同様である。なお、楔には幅数mmの細い棒状金属工具が用いられたと推定される。

以上から、隅柱の加工は、楔を用いた打ち割りによる大きな角材加工→大きな角材の木表裏及び柵目面の新加工→楔を用いた打ち割りによる小割→木口の仕口加工、の順と考えられる。柵木と異なる点は、大きな角材段階で木裏にも新加工を施すことである。

3) 製板・製材工程の復元

SE1007の縦板・柵木・隅柱について、製品に至る加工工程を追うことができた。これをもとに、原木から製品に至る製板・製材工程を、原木伐採→分断→大割→中割→小割→仕上げの大きく6工程に分類することができる(第47図)。

原木伐採

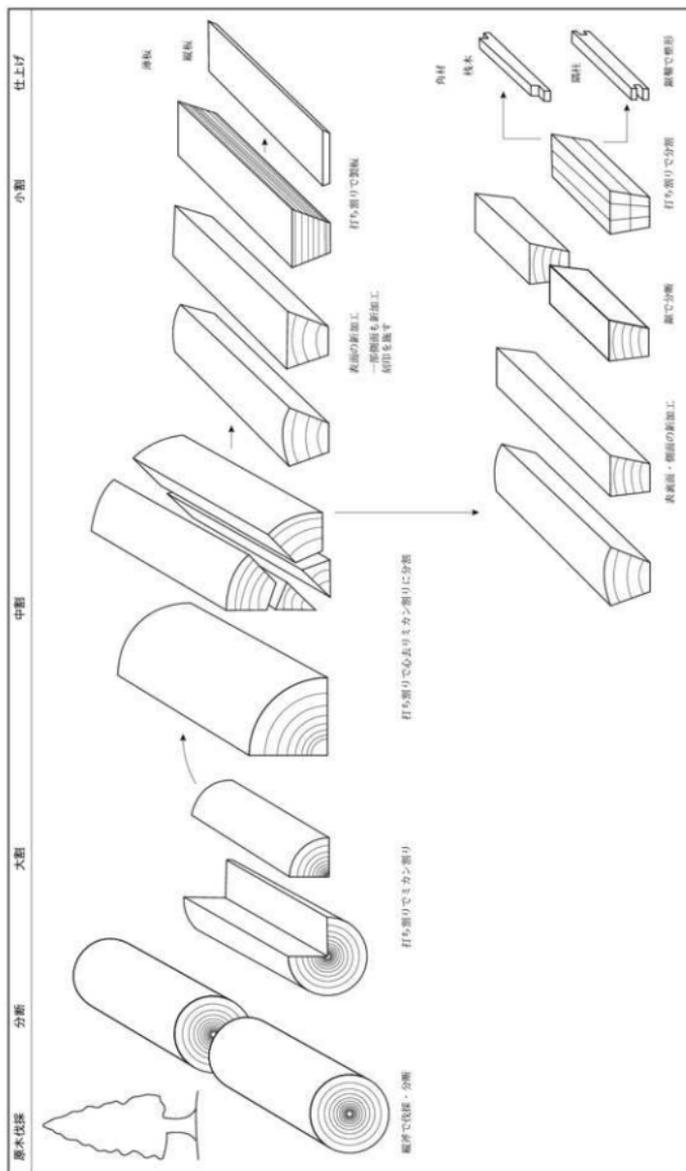
原木を周辺の山林などから切り出す工程である。出土資料には根元に近い個体を確認できず、伐採痕も見いだすことができないが、絵図等から縦斧により伐採されたものと考えられる。縦板の原木は、樹皮面の湾曲具合から直径約60～80cmと推定され、年輪計測により年輪数が300～400年程度、年輪幅が1mm前後との結果(第Ⅷ章5)からも妥当な数値と考えられる。また、曲物を含め成長の良い個体が全く含まれていないことから、天然林的な生育環境の林分から調達されたものと推定されている(第Ⅷ章5)。したがって、伐採地は人里から離れた山林であった可能性があろう。

分断

伐採した原木を一定の長さで切断する作業であり、玉切りとも呼ばれる。縦板接合個体221に残る縦斧による粗削りをこの段階の加工痕と推定した。分断した材の長さは、縦板の長さから約2mほどであったと推定される。

大割

分断した材を4分割などにミカン割りする工程である。縦板接合個体から大割を示す加工痕を見いだすことはできない。しかし、縦板接合個体は心を取り除く工程を経ており、大割の工程があったことは容易に推測できよう。大割の様子を記した中世の絵画資料は認められない[渡邊2004]。しかし、スギ材



第 47 図 井戸部材の製法・製材工程

の大割を示す実例¹⁾があることから、木製楔を利用した打ち割りであったものと推定される。

中 割

大割によるミカン割り材を打ち割りによって2～3分割し、さらに心を取り除く工程である。この工程によって、製品の幅や厚さ、仕上げ可能な製品の数が規制されることになる。縦板接合個体219側面にある楔痕から、打ち割りには幅1cmほどの棒状工具が用いられた可能性がある。一方、心去り加工も打ち割りと考えられるが、棒状工具痕は認められない。おそらく、大割と同様の木製楔か、後述する小割と同様の刀形刃物を利用したものと推定される。

さらに中割では、縦板となる板材用の割材と柁木・隅柱となる角材用の割材において異なる調整加工が加えられる。板材用の割材には、樹皮を新で割り、平滑な面を作り出す。また、側面の証目は、必要に応じて凹凸をならす程度の新加工を施す。ただし、木裏の板目は打ち割りのままである。こうして割材を整えてから木表や木裏に刻印を施す。

角材用の割材も、縦板用に作り出したものと同様のサイズであったと推定される。樹皮及び側面の証目を新で割り、木裏の板目にも新加工を施すものがある。こうした面加工は、次の小割でより垂直な面を持つ角材を取り出すために行われたのであろう。

中割に用いられた新は、塚塚遺跡D区で出土した鉄斧(第48図1)と同タイプと考えられる。刃長は5.6cmで、部材に残る加工痕とほぼ一致する。新発田市住吉遺跡(13～14世紀)や広島県草戸千軒町遺跡(13～16世紀)に同形態の新(第48図2・3)があり、中世に普遍的に分布するものである。

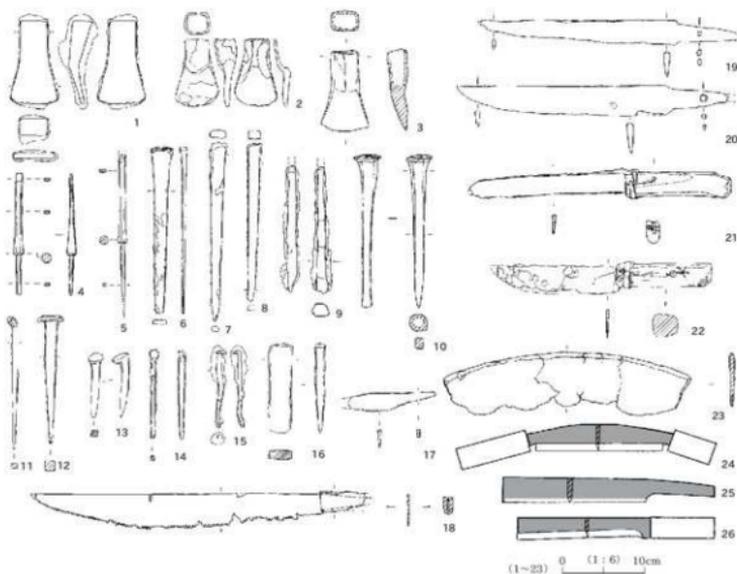
小 割

製品と同サイズの材を取り出す分割加工の最終段階である。縦板用の板材と柁木・隅柱用の角材で加工方法が異なる。

板材は、中割で整えた割材を板目ないし証目に沿って打ち割りにより薄く割り裂く。縦板接合個体の上端木口面に隙間が形成されることや、楔痕が認められないことから、打ち割りには長い刃部を持つ金属製工具を木口面に差し込んだものと推定される。

しかし、中世の製材技術を研究する渡邊晶氏は、打ち割り製板の様子と考えられる絵画資料(第49図)を提示しつつも、明確な資料が少ないことから打ち割りで長い板材を作ることに慎重な姿勢を示している[渡邊2004]。現代における打ち割り製材は、柿葺きに用いられる柿板の製材に認められる。その製板工程は本工程とほぼ同様であり、小割における打ち割りは刃部が長い庖丁を差し込むものである。明治時代以前の柿板製材工具には大割庖丁(第48図25)・柿板粉庖丁(第48図26)があり[明治前日本科学史刊行会1961]、工程に応じて刃長の異なる刃物が用いられていた。一方、中世の出土品には刀・刀子などの刀類が数多く認められるが、絵巻などの記録類から刀類は武器としての利用以外に鉈や庖丁などの工具や調理具としても使われていたことが分かっている[黒田1986]。改めて第49図を見ると、工人の左手側には刃長の長い刀子と木槌が置かれ、板材を割り裂いている様子が描かれている。出雲崎町寺前遺跡(12～15世紀)から出土した刀子2点の刃長は24cmと25.6cmであり、ほとんどの縦板接合個体の幅を上回る。また、草戸千軒町遺跡では鉈(第48図21)・庖丁(第48図22)・楔(第48図17)のほか、

1) 秋田県にかほ市郷土資料館の齋藤一樹氏から、紀元前466年に烏山山が噴火した際に埋もれた神代杉に木製楔が打ち込まれた例があると御教示いただいた。直径約1mだが、鉄斧で平坦に加工され木口の心に木製楔が打ち込まれたままになっている。いつ頃のものかは不明であるが、縦挽き鉈や木口切断用の大型横挽き鉈を利用していない点を重視すると中世かそれ以前の可能性がある。神代杉の利用および木材加工方法を知る上で大変貴重な資料である。

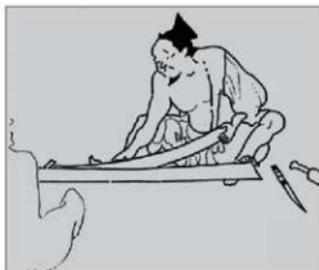


1・15：埴塚遺跡 2・7・8：住古遺跡【高橋ら2006】 6：下割遺跡【渡邊ら2011】 9・19・20：寺前遺跡【高橋保ら2008】
24～26：桧板製材工具【明海前日本科学史学会1961】 その他：草戸千軒町遺跡【岩本ら1993・1994・1995a・1996】

第48図 中世の製材関係工具

柿板製材で板を平らに削る「せん(鋸)」(第48図24)に類似した工具(第48図23)も出土している。さらに、埴塚遺跡 SE895 の桧木には鉈か刀子と見られる工具痕を数多く認めることができる。したがって、中世には打ち割り製材に必要な工具がそろっていたと見てよからう。以上から、小割における打ち割り工具は、刀類・鉈・庖丁などの刀形刀類であると考えられる。

次に、桧木・隅柱用の角材製材について述べる。まず、中割で面加工した角材を鋸で半分に切断する。鋸には刃長32cmのもの(第48図18)が出土しており、この程度の切断は可能であろう。次に、打ち割り



第49図 絵画に見える打ち割り製材の様子
【渡邊2004】から『春日権胤縁記』(1309年)の写真を転載

4～8分割する(第46図参照)。打ち割りの楔には棒状の金属工具と木製板があったと見られる。棒状工具は出土品や絵画資料の分析から、鑿と考えられている【渡邊2004】。桧木241の楔痕は幅0.5～1cmで、頭部が逆三角形を呈す工具と推察される。これに該当するのは、上越市下割遺跡(14～17世紀)の釘(第48図6)、住古遺跡の釘(第48図7・8)、寺前遺跡の鑿(第48図9)、草戸千軒町遺跡の鑿(第48図10)・釘(第48図11・12・13)など比較的大型の工具である可能性が高い。また、桧木245・246には幅2～3cmの幅広の楔痕があり、草戸千軒遺跡の楔(第48図16)のような工具が用いられた可能性がある。一方、

隅柱 250・251 には幅数 mm の短い楔痕があり、境塚遺跡 A 区の釘 (第 48 図 15) や草戸千軒町遺跡の盤 (第 48 図 4・5) ・釘 (第 48 図 14) といった小型の工具が想定される。

仕 上 げ

用途に応じて仕口などの加工を行い、最終製品に至る工程である。縦板となる板材は特に細かな加工は加えられず、小割の状態が最終的な製品となる。椀木・隅柱は鋸や盤で端部を加工し、製品とする。

4) 角材の流通と井戸側部材の現地製材

SE1007 から出土した井戸側縦板及び椀木・隅柱は、その多くが接合して中割工程で作られた角材に復元することができた。このことは、角材のほぼすべてが小割から仕上げを経て利用されたことを示している。そして、縦板及び椀木に 1300 年・1301 年というほぼ同時期に伐採されたものが含まれることは、井戸作りのために新たに用意された角材であることも示している。井戸作りを描いた 13 世紀中ごろの当麻受茶羅縁起 [角川書店 1958] には、地面を掘削する脇に長い角材が山積みされ、これを楔で打ち割りする作業が見える。この角材は中割工程で作られたものと見なされ、この状態で井戸を構築する場所に運ばれてきた可能性が高い。したがって、角材を小割・仕上げする工程は井戸構築現場で行われたが、角材への加工、すなわち中割までの工程は別所で行われたものと推定される。

ここで注目されるのは、縦板接合個体に施された刻印である。刻印の類例は京都府長岡京跡の井戸側縦板接合資料にあり [岡田 2002]、小割前の角材の木表・木裏・側面に刃物で刻まれている。両道跡の資料は、刻印を施した角材を調達して板材を大量に製板した点で共通する。一方、民俗例を見ると、村上市大栗田・門前では大正 7・8 年ころまで山で切り出した薪 (塩木と呼ぶ) を川に流して平場に運ぶ塩木流しが行われていたが、薪の所有者を明らかにするために「キバン」と呼ばれる刻印が施されていた [佐久間 1953、村上市 1989] (第 50 図)。キバンは 3 種類の記号を組み合わせるもので、所有者固有の呼び名が付けられていた。境塚遺跡の刻印も数種類の線を組み合わせた一定のパターンが認められ、キバンとよく似ている。こうした事例から、刻印は伐採地などで中割工程まで製材された角材の生産者ないし所有者 (購入者) を表し、角材の運搬後もこれを明示することが目的ではなかろうか。そして、中間段階の角材が運搬され、流通していた可能性もあろう。今後、井戸側部材の接合の読みと資料の増加が期待される。



	氏名	屋号	キバン	呼び名	刻印
上 道	河内 年 栄	マツノシタ	∨ ∨ ∨	フネナギレイチ	㊦
	* 河内 好	ヤジベエ	∣ ∣ ∣	イチイチイチ	㊧
	* 河内 圓一郎	ゴスケ	/ \ /	ハニナギレ	㊨
中もり	河内 昇	ヤスケ	∨ ∨ ∨	フネニソカバ	㊩
	* 渡辺 長太郎	カワウチ	∣ ∣ ∣	イチナギレイチ	㊪
	* 佐藤 寅四	ウニヤマ	∣ ∣ ∣	イチナギレフネ	㊫
下 道	* 佐藤 勇吉	下 巴	∣ ∣ ∣	イチフネナギレ	㊬
	* 佐藤 龍作	ドウゾウ	/ \ /	ハニ イ チ	㊭
	* 佐藤 吉一郎	イナバ	∣ ∣ ∣	ナギレイチイチ	㊮
下 道	* 佐藤 吉吉	スケロク	/ \ /	ナギレナギレナギレ	㊯
	河内 年 一	ヤスベエ	∣ ∣ ∣	イチイチナギレ	㊰
	* 佐藤 良一	タシチ	∣ ∣ ∣	ナギレイチナギレ	㊱
下 道	* 佐藤 一男	ケ	∨ ∨ ∨	フネイチナギレ	㊲
	* 佐藤 若吉	テンジゴダ	∣ ∣ ∣	イチフネイチ	㊳
	* 河内 与 作	サワグチ	∣ ∣ ∣	フネイチイチ	㊴
下 道	* 佐藤 久太郎	ヤブザワ	ハ	なし	㊵
	* 佐藤 平四郎	ダンザイム	∨ ∨ ∨	フネフネイチ	㊶

* 新しく分家になった家 (シンキ) はハンがない。
* 刻印は、道具などに残印で押した。

第 50 図 塩木流しのキバン (村上市 1989)

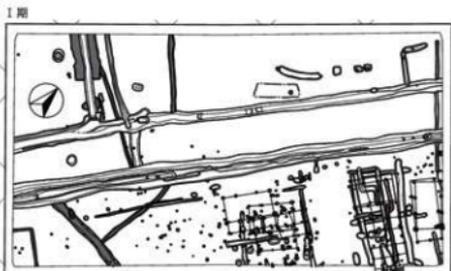
2 D区について

A 遺構の変遷

D区では、遺構の配置から道1を基軸として建物・溝などが構築されている状況がうかがえる。また、道1と新旧関係が認められる遺構も存在する。このことから、D区Ⅰ期～道構築以前の時期、D区Ⅱ期～道が機能していた時期、D区Ⅲ期～道が廃絶した以後の時期の3変遷が推定できる(第51・52図)。

D区Ⅰ期

遺構は少ないが、調査区南西側に認められる。溝が主体で、SD2295・2296・2314・2333・2354などがある。このうち、SD2314・2333、SD2296・2354は、同一の溝であった可能性が考えられる。また、溝はほとんどのものが調査区外へ伸びるため、その機能は不明である。いずれにしても、当期においては遺構数が僅少なことから積極的な土地利用が行われていなかったものと推定される。

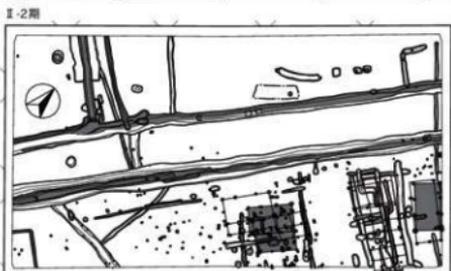
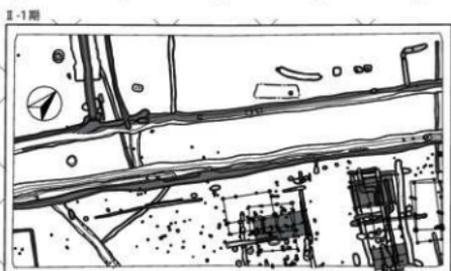


D区Ⅱ期

道1が構築され、これに合わせて建物・井戸・溝などが出現し集落形成が認められる時期である。これらは道の北東側に集中して分布するが、重複が著しく、最大で6回の切り合いが認められる。また、道1も掘り直されて継続的に機能していることから、本期の中でも更にいくつかの段階を経て集落が変遷していったことが推定される。連続する遺構の前後関係は次のとおりである。

- ① SD2009・2088< ② SD2017<
 ③ SD2030< ④ SD2021<
 ⑤ SD2020< ⑥ SD2022・2080・SK2038

これらの溝の方向は、①では北東～南西方向、②・④～⑥では北西～南東方向が多く、③はL字状に屈曲する。主軸は、①(N37・40°E)、



0 (1:700) 15m

第51図 D区遺構変遷模式図(1)

② (N57° W)、④・⑤ (N52・54° W)、⑥ (N66° W) であり、②から④・⑤への変遷ではわずかに北に振れ、最も新しい⑥には大きく南へ軸が振れる。

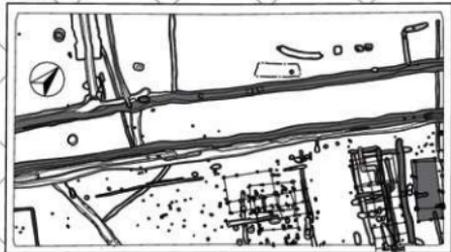
道1は3回の掘り直しがあり、1～3期の変遷を推定できる(第V章1)。道の1・2期の長軸はN35° Eを向き、3期はN38° Eとわずかに東に傾く。これと直交する①～⑤の溝も、道1が3期に東に傾くのに対応するように北に振れて方位を合わせる状況がうかがえる。したがって、①～⑤の溝は道1と同時に機能していた可能性が推定される。

一方、掘立柱建物は、東偏するもの6棟(SB26～30・32)、西偏するもの3棟(SB31・33・34)があり、東偏するものはN35°～42° E、西偏するものはN47°～57° Wの範囲にある。このうち、SB28・32は道1の1・2期と主軸が一致し、SB34は道1の3期と主軸を合わせている。

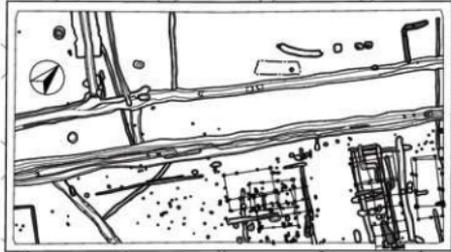
I-3a期



I-3b期



II期



第52図 D区道構変遷模式図(2)

以上から、道1と溝・掘立柱建物は相互に強く関連して機能していたことが推定され、遺構の重複関係・主軸方向から、集落II期は3細期にわたって推移していったものと考えられる。

II-1期

重複関係から古い段階に所属する建物には、SB28・30がある。これらの主軸はN35°・37° Eと東偏し、道1の1・2期とおおむね一致する。このほか、SB32も建物の主軸(N35° E)からこの時期に所属するものと推定されるが、SB30-P2057>SD2017、SB32-P2339<SD2017の重複関係を示すことからSB32がより古い様相を示している。また、道・建物と平行するSD2009・2088は約6.8mの間隔を開けて平行して伸びており、SD2009の延長から、区画的な要素をもっていたものと推定される。

II-2期

主軸がN41°・42° Eと東偏する建物SB27・29がある。これらは、SD2132とSD2122・2135の間に存在し、溝で区画された内部に建物が構築されている状況がうかがえる。このうち、SD2122・2135の

主軸が道1の1・2期の段階と直交する。また、SB27-P2210>SB29-P2219とSD2212>SD2135の重複関係から、建物・区画溝の作り替えがあったものと推定される。このほか、これらの建物と主軸が直交するSB33もこの時期に所属する可能性が考えられる。

(Ⅱ-3a期)

主軸がN36°Eと東偏するSB26、これと主軸が直交するSB31がある。この時期は、Ⅱ-1・2期の建物の面積が14～26m²であるのに対し、SB26は廂を含めた面積が34m²、SB31が43m²と大型化することに特徴がある。また、建物と溝の関係では、SD2114がSB26の南東側に構築され、全長が併行とおおむね一致することから、雨落ち溝として機能していたことが推定される。このSD2114が道1の新しい段階である3期のものと主軸をほぼ一致させている。

(Ⅱ-3b期)

重複関係から新しい段階に位置する建物にSB34があり、上記したように道1の3期と主軸を合わせる。建物の面積は30m²を測り、Ⅱ-3a期のものと同様の規模に構築されている。また、SB34の南西側にはSD2012・2020が存在し、約3mの間隔を開けて平行して伸びている。遺構の配置から、両者は道の側溝の可能性も考えられるが、SD2012が調査区内で終結すること、SD2020が調査区外へ続くことなどから、今後の調査を待って判断されるものとする。

D区Ⅲ期

道1より新しい時期の遺構として、SD2002・SK2433などのほか、道1と主軸が一致しないSD2022・2110なども存在するが、遺構数は少なくⅠ期の状況に類似する。但し、分布はⅠ期とは対象的に調査区北東側に点在する。

以上から、D区において主体をなすのはⅡ期で、遺構の配置、建物・溝の主軸方向から、道1と沿線の集落が緊密な関係を持っていたことが推定される。道1と建物の関係については、Ⅱ-1・2期の建物が道1の1・2期の段階に相当することが考えられ、重複関係からⅡ-1期・道1-1期、Ⅱ-2期・道1-2期の同時性が推定される。また、Ⅱ-3期は道1-3期と同時期に機能していたことが考えられ、建物の配置からⅡ-3b期には集落が調査区の北東寄りに移動していく様子がうかがえる。

D区では、Ⅰ～Ⅲ期の遺構変遷から道と集落の消長が一致することが推定される。このことは、集落が道と深く結びついて成立・機能したことが考えられ、道の路線から流通に関連した性格を持っていたことが想定される。

B 道について

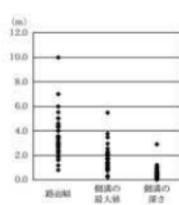
本遺跡では両側に側溝をもつ道が検出されている。ここでは県内の側溝を持つ道と比較してその特徴を明らかにしていきたい。したがって、今回は側溝をもつタイプの道に限定し、時期は12～16世紀に機能していたものを取上げている(第22表)。

1) 幅員

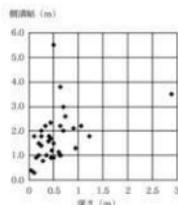
路面幅は路面の検出例が少ないことから、両側側溝内の長さを計測した。規模の分布には幾つかのまとまりが認められる(第53図)。4m以下のものが多く認められ、特に2m前後～4mは21例あり、分布が集中する様子がうかがえる。さらに、このなかでも2m前後と3m前後～4m前後に規模が分かれる。2m前後には田屋道遺跡(SD237-252・303)[石川・大島ら、2008]、下町・坊城遺跡E地点(SD3-6)[伊

遺跡名	時期 (PAC)	幅員 (m)	側溝の 最大幅 深さ (m)	遺跡名	時期 (PAC)	幅員 (m)	側溝の 最大幅 深さ (m)
田原道遺跡 SD286・289	12~14	3.5	2.0 0.25	山口遺跡・SD22・23	13~14	1.2	3.5 2.9
田原道遺跡・SD237・252・303	12~14	2.2	3.2 0.33	山口遺跡・SD794・795	13~14	2.4	1.3 0.94
下町・坊城遺跡・E地点・SD3・6	12	2.0	0.4 0.04	北小臨遺跡・SD9・10	13~14	3.0	2.6 0.74
下町・坊城遺跡・C地点・SD49・58	13?	3.6	1.8 0.1	東原町遺跡・SD213・593・595	13後~16	2.9	2.3 0.44
下町・坊城遺跡・A地点・SD370・480	14	4.6	1.0 0.35	馬場・天神腰遺跡・道1	13~16初	4.0	2.0 0.7
下町・坊城遺跡・A地点・SD157・365	14	1.6	1.5 0.2	馬場・天神腰遺跡・道2	13~16初	2.8	1.4 0.25
下町・坊城遺跡・A地点・SD356・387	15	3.4	1.7 0.45	馬場・天神腰遺跡・道3	13~16初	5.0	1.5 0.5
下町・坊城遺跡・A地点・SD836・837	15	0.8	0.9 0.45	下沖北遺跡・SR1 (SD301・302)	13~14	3.0	3.0 0.7
地塚遺跡・道1 (SD2000A・2001A)	13~14	5.5	2.2 1.06	子安遺跡・道状遺構2 (SD337・345)	14~16	6.0	1.8 0.4
地塚遺跡・道1 (SD2000B・2001B)	13~14	6.0	1.0 0.64	子安遺跡・道状遺構3 (SD324・335)	13~14	10.0	1.0 0.2
地塚遺跡・道1 (SD2000B・2001C)	13~14	7.0	1.0 0.62	下基遺跡・SR18 (SD16・17)	13後~14	1.8	1.8 0.25
地塚遺跡・道2 (SD2332・2334)	13~14	3.2	1.1 0.6	下基遺跡・SD20・52	13後~14	3.0	2.2 0.63
町道上遺跡・SD7・8・24	13~15	2.6	0.9 0.15	下基遺跡・SD52・151	13後~14	4.0	3.8 0.63
大坪遺跡・SD2・3	11~12	3.0	1.2 0.46	下基遺跡・SD251・252	13後~14	2.3	5.5 0.5
村前東A遺跡・SD4・16	13後~14初	4.3	2.1 0.9	用云寺遺跡・SD9・10	13~15	3.4	0.3 0.1
村前東A遺跡・SD3・205	13後~14初	2.7	0.9 0.5	鉄砲崎遺跡・SD7・8	中世	3.3	- -
新日本遺跡・SD113・114	13~14	5.0	1.8 1.23	祝表遺跡 30・40号溝	中世	2.3	1.6 0.4
新日本遺跡・SD118・119	13~14	4.4	0.8 0.28				

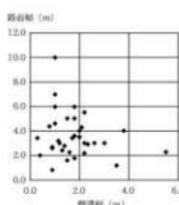
第22表 道の検出例と所属時期



第53図 道の規模



第54図 側溝の幅と深さ



第55図 路面と側溝の最大幅

藤・水澤^注2008]、下割遺跡 (SR18) [山崎^注2003] などがあり、3m 前後～4m 前後のものには田原道遺跡 (SD286-289)、下町・坊城遺跡 A 地点 (SD356-387) [水澤 1999]、本道跡道 2、下沖北遺跡 (SR1) [山本^注2003] などがある。これらの主体を占めるのは、集落を結ぶ道や屋敷地内の道である。また、4～5m の規模には馬場・天神腰遺跡がある。馬場・天神腰遺跡では道路 1 を基軸として屋敷地が整備され、河川や道路が交わる交通の要衝に位置することから幹線道路としての機能が推定されている [品田 2004]。

規模は 5m 以上になると分布が希薄となり、5.5m を超えると子安遺跡 [笹沢 2004] と本道跡の 5 例だけとなる。子安遺跡の道状遺構 3 の路面幅は 10m、道状遺構 2 は 6m を測り、前者は県内最大である。本道跡の道 1 は 3 時期の変遷が認められ、路面幅は 5.5～7m である。

子安遺跡は古代においては国府に関連する可能性が高く、検出された幅約 6m の道は国府若しくは官道に通じる重要な道と考えられている。中世においても同一地点に道路が造られていることから、交通の要衝であったといえる [笹沢 2004]。本道跡道 1 の路線は北東-南西方向に伸び、阿賀野川と水原を結んでいたことが推定される。遺構の配置は道 1 を基軸として形成されていることがうかがえ、また、道は集落の境界を示している。こうした状況から幹線道としてとらえることができ、河川の舟運と陸運に主要な役割を果たしていたことが想定される。

以上から、規模が 2m 前後～4m 以下のものは、集落間を結び屋敷地へ通じる道と関連が強いと考えられ、これより大きくなると主幹道との関連が強いものになっていくことが推定される。また、道路幅の

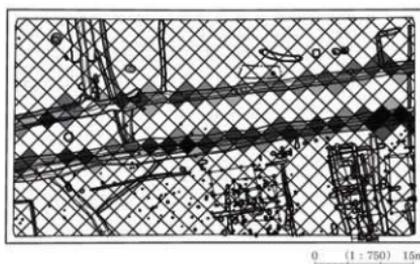
広さは機能的に見れば、物資の輸送・往來の頻度に相関するものと考えられ、このことは人の移動・物流が活発であったことが背景にあるものと推定される。

本遺跡の道1と道2の関係については、規模から道2は道1の枝道と考えられ、幹線道(道1)から分岐して集落間を結ぶことが想定される。

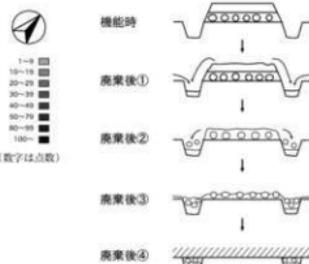
2) 路面

路面は道1・2ともに、その痕跡は認められなかった。しかし、道1の両側側溝から多量の礫が出土しており、出土状況から路面構築材との関連が推定される。側溝から出土した礫の平面分布は、全面にわたって平均的に出土している状況がうかがえる(第56図)。このことから、路面の補修など部分的に使用されたものではなく、路面全体に用いられたことが推定される。路面に石を用いる場合、砂利敷・石敷による構築法などがある。この場合、道の廃棄後は最初に路面上部の礫が側溝底面に堆積することが考えられる。道1は覆土上〜中層からの出土が多い(第58図)。したがって、石敷の可能性は低いものと推定される。これ以外に礫を用いて路面を構築する例には鉄砲町遺跡がある。道路状遺構(溝状遺構8・9)は、下部に拳大ほどの礫を敷き、この上に土を被せる構造をとるものと報告されている[山岸2003]。この構造をとる場合、廃棄後は最初に路面上部の土が側溝に堆積し、この後に下部の礫が側溝に落ち込むことが想定される。したがって、側溝覆土の中〜上位に礫が多く含まれることが予想され、こうした堆積状況は本遺跡の礫の出土状況に近いものと考えられる。これを踏まえて道1の機能時から廃棄後の経過を推定すると、以下ようになる(第57図)。

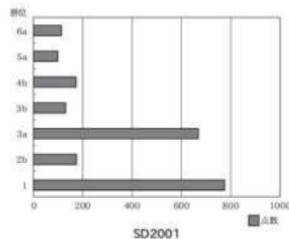
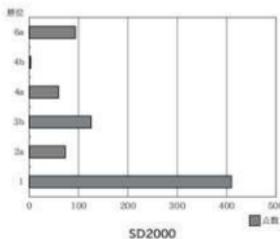
- ・機能時—路面下部に礫を敷き、その上に土を被せて路面とする。



第56図 礫の出土状況



第57図 廃棄後の土層断面模式図



第58図 道1の層位別礫出土点数

- ・廃棄後①路面の崩落が始まり、周辺の土とともに側溝へ堆積する。
- ・廃棄後②路面下部の崩落とともに、礫が側溝に落ち込む（覆土中に礫の堆積）。
- ・廃棄後③一礫が側溝の上部まで堆積する（覆土上位に礫の堆積）。
- ・廃棄後④一近世以降の耕地化により削平される。

以上から、礫は路面の構築材として用いられた可能性が推定され、下部に礫、上部に土を盛って路面が造られた可能性が考えられる。

3) 側溝と路面幅の関係

規模は第54図に示した。最大幅は1～2.5m前後が多く、このなかでも1～1.5m前後（15例）と、2m前後（12例）に分かれる。側溝の深さは80cm以下が大多数を占め、20～39cm（9例）、40～50cm（9例）、60～80cm（8例）がある。上記したグループのいずれにも幹線道や枝道、屋敷地内の道が所属する。また、路面幅と側溝幅の関係について見てみると、一定の傾向は認められず不規則に散在して分布する（第55図）。したがって、両者は相関しないということになる。このことは、側溝の幅が地理的環境、地割など別の要因と結びつく可能性が高いものと推定される。

本遺跡道1の側溝は3回掘り直されていることから、浚渫作業などの維持管理が行われていたことが推定される。この作業に伴い路面幅は7.0m→6.0m→5.5mと徐々に減少していく傾向がある。側溝の掘り直しが認められる例には、東原町遺跡（SD213・593・盛土）〔山崎忠彦2005〕、馬場・天神腰遺跡（道路1）がある。馬場・天神腰遺跡の道路1は5～6回の掘り直しが認められ、その都度路面が縮小する〔品田2008〕。道路1は13～16世紀初頭まで存続し、13世紀で4m、14世紀末～15世紀初頭段階で2.5～2.6m、15世紀後半～16世紀初頭で1.9mとなる。15世紀には館の成立とともに掘が側溝を掘削し直して造られ、道路が侵食されやや迂回する形となる。この背景には、個人所有の屋敷地の拡大が図られたものと考えられている〔品田2004〕。

本遺跡道1は路面幅の縮小が認められるものの、最も新しい時期においても5.5mの道幅を維持している。このことから、物流の活動に際して最低限の路面幅の確保、という状況も想定される。したがって、側溝の改修に伴う道幅の増減については社会的な背景と関連する可能性が想定される。いずれにしても、側溝の改修が実施され、継続的な維持管理がなされたことは重要な路線であったといえる。また、道を基軸とした道構配置から計画的な土地開発の状況がうかがえる。このことは、自然発生的に道が造られて維持されたのではなく、背景には権力的な力が作用していたものと推定される。

C 遺構の年代

遺物は、その大半が道1のSD2000A・2001Aから出土し、他の遺構はわずかに過ぎない。また、道1は1～3期の変遷が確認されているが、1・2期の溝が3期の溝と重複して原形を保っておらず、各々に伴う遺物は不明である。よって、ここではSD2000A・2001A出土土器から所属時期を検討したい。

SD2000Aでは、珠洲焼片口鉢292がⅢ期、293はⅣ1期、白磁皿288はA群、青磁杯290・盤291はともにF期〔山本2000〕と考えられることから、13世紀後半～14世紀前半に属すると見られる。また、土師質土器皿C1類284・285は口径12cm以上、器高も3cmを超えることから、14世紀前半に属する可能性が高い〔水澤2009〕。SD2001Aでは、珠洲焼片口鉢313・315・317がⅡ～Ⅲ期、

路面幅 (m)	遺構数
10	1
7	1
6.5～6	3
4.5～5	4
3m前後～4前後	16
2m前後	8
1m前後	2

第23表 路面幅と検出数

318 がⅣ 1 期と考えられ、青磁碗 310・312 は 13～14 世紀前半で幅広く出土する。SD2000A よりやや古手のものを含むものの、13 世紀後半～14 世紀前半が主体である。したがって、道 1 は 13 世紀後半～14 世紀前半に機能した可能性が高い。

このほか、本章 A で示された D 区Ⅱ-3b 期に属する SD2012 では、土師質土器皿 CⅠ 類 327 があるが、SD2000A とほぼ同時期と考えられる。変遷時期に属する他の遺構については、出土土器から時期を明確にすることはできない。ここで明らかなのは、珠洲焼Ⅳ期後半～Ⅴ期のものが認められず、この時期に伴う貿易陶磁器も確認できないことである。したがって、D 区は道 1 が 14 世紀前半で廃絶したのに伴い衰退した可能性が高い。

以上から、道 1 が機能した D 区Ⅱ期は 13 世紀後半～14 世紀前半に位置づけられる。D 区Ⅰ期及びⅢ期については、この前後と推測される。

3 遺跡の評価

境塚遺跡 A 区と D 区でそれぞれ時期の検討を行った。その結果、A 区Ⅰ期～Ⅲ期、D 区Ⅰ期～Ⅲ期の変遷が明らかになった。両区ともⅠ期の 13 世紀前半ころから開発が始まったものと考えられる。主体となる時期はⅡ期（13 世紀後半～14 世紀前半）であり、A 区の居館と D 区の道が同時に機能していたものと考えられる。居館では、県内の当該期には少ない方形区画の堀が巡らされ、内部に中世の井戸〔田辺 2001〕としては県内最大級となる大型井戸 SE1007 が構築される。出土品には上越市壺弘遺跡・羽羽村山ノ脇遺跡に次いで県内 3 例目となる中国天目〔水澤 2005a〕や、青磁瓜形合子といった貴重な舶載品があり、有力者が存在した可能性がある。一方、道は幅約 6m と県内でも大規模な部類に入り、北東側に隣接する山口野中遺跡まで直線的に続いていることが確認されている〔古澤 ほか 2011〕。その先は水原市街に向けられ、もう一方の南西側は百津潟に通じる。百津潟は旧小里川や駒林川などの河川と福島潟に接続して白河荘内の各地と結ばれており、まさに潟湖河川交通の要衝に位置する（第Ⅱ章）。境塚遺跡は、百津潟と水原市街とを結ぶ幹線道路を備えた中世百津潟の拠点的な町場であったと考えられる。

SE1007 が構築された 1301（正安 3）年ころは、白河荘山浦四箇条・水原条・船江条の地頭識であった大見行定、安田条の地頭識であった大見時実が活躍していた時期に符合する。広域に及ぶ幹線道路の整備とこれを基軸とした町場の形成には、地頭識であった大見氏が関与したものと考えるのが自然であろう。

Ⅲ期（14 世紀後半～15 世紀前葉）になると、A 区の堀はなくなるものの、掘立柱建物や大型井戸 SE895 が作られ、白磁碗 C 群といった希少品も出土する。しかし、D 区では道の廃絶とともに遺構がほとんどなくなる。淡明としての機能は残るものの、町域は縮小したものと推測される。境塚遺跡周辺で調査が行われた山口遺跡・柄目木遺跡・村前東 A・B 遺跡でも 13 世紀後半～14 世紀前半をピークとし、その後衰退したことが分かっている。今後の調査により、百津潟周辺の遺跡の盛衰と中世の町並みについて検討が深まることが期待される。

要 約

- 1 境塚遺跡は、新潟県阿賀野市大字百津字境塚 16 番地 1 ほかに所在し、阿賀野川右岸の標高約 7m の自然堤防上に位置する。
- 2 発掘調査は、国道 49 号阿賀野バイパスの建設に伴い、2009 年 4 月 13 日～11 月 18 日に実施した。調査面積は、A 区 5,000m²、B 区 5,000m²、C 区 5,876m²、D 区 2,300m² の合計 18,176m² である。
- 3 調査の結果、A 区では古代及び鎌倉～室町時代、D 区では縄文時代晩期及び鎌倉～室町時代の遺構・遺物を検出した。また、B・C 区では近世以降の遺構を検出した。
- 4 A 区では、掘立柱建物 25 棟、井戸 19 基、土坑 83 基、ピット 1417 基、溝 91 条、集石 1 基、自然流路 1 条、性格不明遺構 23 基を検出した。古代の明確な遺構は掘立柱建物 1 棟のみである。大半の遺構は中世のもので、方形の堀で囲まれた居館から深さ約 5m の畝内最大級の大型井戸を 2 基検出した。
- 5 出土遺物は、縄文時代の土器・石器、古代の土器、中世の土器・陶磁器・木製品、金属製品・製鉄・鍛冶関連遺物、石器・石製品、土製品、焼骨である。13 世紀後半～15 世紀前半を中心とし、畝内 3 例目となる中国天目や青磁瓜形合子・白磁椀 C 群などの貴重な舶載品を含み、有力者の存在がうかがわれる。
- 6 大型井戸からは井戸側の側板や曲物が多数出土した。縦板・椀木・隅柱の接合個体は 20 個体に上り、この分析をとうして中世の製板・製材技術を復元した。また、年輪年代学的分析によって、大型井戸 SE1007 が 1301（正安 3）年に構築されたことが分かった。
- 7 D 区では、掘立柱建物 9 棟、井戸 2 基、土坑 34 基、ピット 334 基、溝 46 条、炭化物集中範囲 13 か所、自然流路 1 条、性格不明遺構 6 基を検出した。縄文時代晩期の大規模な河道を確認し、岸辺から炭化物集中範囲 6 か所を検出した。他の遺構はすべて中世のものである。
- 8 長さ約 61m にわたり幅約 6m の大規模な道を検出した。百津潟から水原市街に伸びることが明らかになり、中世の幹線道路と考えられる。
- 9 出土遺物は、縄文時代の土器・石器、古代の土器、中世の土器・陶磁器・金属製品・製鉄・鍛冶関連遺物、石器・石製品である。特徴的な遺物としては五輪塔が挙げられる。中世は 13 世紀後半～14 世紀前半を主体とする。
- 10 境塚遺跡は、百津潟と水原市街とを結ぶ幹線道路を備えた中世百津潟の拠点的な町場であったと考えられる。広域に及ぶ幹線道路の整備とこれを基軸とした町場の形成に当たっては、白河荘の地頭職であった大見氏が関与したものと推測される。

引用・参考文献

- 荒川隆史 2007 「阿賀北・大坪遺跡—中世初頭の居館跡—」『御館の時代—十二世紀の越後・会津・奥羽—』高志書院
- 荒川隆史・加藤学 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史²⁰ 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史²⁰ 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集 大坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒谷伸郎²⁰ 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第215集 山口遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰・高橋保雄²⁰ 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第227集 狐宮遺跡Ⅱ・下割遺跡Ⅳ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯田充晴 1994 「埼玉県東の上遺跡の道路遺構」『季刊考古学』第46号 雄山閣
- 猪狩俊哉 2004 「第V章5 木製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀・大島秀俊²⁰ 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第181集 田屋遺跡Ⅰ 宮の越遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川日出志²⁰ 1992 『六野瀬遺跡 1990年調査報告書』新潟県安田町教育委員会
- 伊藤崇・水澤幸一 2008 『下町・坊衆遺跡Ⅶ(E地点)』新潟県胎内市教育委員会
- 岩井宏實 1994 『曲物』法政大学出版局
- 岩本正二²⁰ 1993 『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅰ—北部地域北半部の調査—』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 岩本正二²⁰ 1994 『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅱ—北部地域南半部の調査—』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 岩本正二²⁰ 1995a 『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅲ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 岩本正二²⁰ 1995b 『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅳ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 岩本正二²⁰ 1996 『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅴ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁樹の分類」『貿易陶磁研究』第2号
- 宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』第65巻第55号 史学研究会
- 近江俊秀 2006 『古代国家と道路』青木書院
- 近江俊秀 2008 『道路誕生』青木書院
- 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図説明書』建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所
- 岡田文男 2002 「長岡京跡の井戸の側板に用いられた古代の樽について」『田辺昭三先生古稀記念論文集』田辺昭三先生古稀記念会の会
- 小田由美子 1999 『第5章第3節五頭山麓古窯跡群』『新潟県の考古学』新潟県考古学会編
- 小田由美子 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 赤坂山中世窯跡・赤坂山B遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子²⁰ 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 堀越館跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第2号
- 小野正敏 2001 『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 春日真実 1999 「第4章古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院

- 春日真実 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第97集 大武遺跡Ⅰ(中世編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003 「第V章 遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2004 「岩船部の土器様相」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 加藤学²²⁾ 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第159集 用言寺遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤学²³⁾ 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第223集 村前東A遺跡 村前東B遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 角川書店 1958 『日本絵巻物全集』XI 西行物語絵巻 当麻曼荼羅縁起
- 鎌方正樹 2003 『井戸の考古学』同成社
- 川上貞雄 1977 『水原城址及水原代官所址発掘調査報告書』新潟県水原町教育委員会
- 川上貞雄 1979a 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 横峯塚塚群』新潟県安田町教育委員会
- 川上貞雄 1979b 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 行塚・小山崎遺跡』安田町教育委員会
- 川上貞雄 1979c 『免久遺跡 発掘調査報告書』新潟県笹神村教育委員会
- 川上貞雄 1980 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 中道遺跡』新潟県安田町教育委員会
- 川上貞雄 1996 『新潟市文化財調査報告書 金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新潟県新潟市教育委員会
- 川上貞雄 1999 『県営園地整備事業長起地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 前田遺跡 沓木杉遺跡』新潟県笹神村教育委員会
- 川上貞雄²⁴⁾ 1981 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 横峯A・B遺跡』新潟県安田町教育委員会
- 黒田日出男 1986 『姿としくさの中世史』平凡社
- 五頭山のおいたち編集委員会 1984 『五頭山のおいたち 地学ハイキング』新潟日報事業社
- 小池義人²⁵⁾ 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 細池遺跡・寺道上遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 樋口真己 2004 「中世第1章 白河荘の成立と城氏の展開」「中世第2章 鎌倉期の白河荘」『笹神村史 通史編 原始・古代・中世』笹神村
- 田村 裕 2004 「中世第3章 南北朝・室町前期の白河荘」『笹神村史 通史編 原始・古代・中世』新潟県笹神村
- 小松彰・土田孝雄・山田裕二 1995 『新潟県歴史の道調査報告書 第8集 三国街道中通り』新潟県教育委員会
- 小山正忠・竹原秀雄 1998 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 坂井秀弥 1988 「新潟県における中世考古学の現状と課題」『新潟考古学談話会会報』第1号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1997 「中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 佐久間惇一 1985 「大栗田の塩木仕事」『新発田郷土史』14号
- 笹沢正史 2003 「子安遺跡」『上越市史 資料編2 考古』新潟県上越市
- 笹沢正史 2004 「古代から中世へと続く道—新潟県上越市子安遺跡の道状遺構を中心に」藤原良章編『中世のちを探る』高志書院
- 笹沢正史・水澤幸一 2001 「伝至徳寺跡の遺物様相—中世前半を中心として—」『上越市史研究』第6号 上越市
- 佐藤友子²⁶⁾ 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第203集 庚塚遺跡 狐塚遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子²⁷⁾ 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第216集 柄目道遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 品田高志 1997 「越後国における土師器の変遷と諸相」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』北陸中世土器研究会

- 品田高志 2003 『馬場・天神腰遺跡』『中世城館から城下町へ』北陸中世考古学研究会
- 品田高志 2004 『越後国佐藤荘の中世古道と町並み—新潟県柏崎市馬場・天神腰遺跡の中世集落』藤原良章編『中世のみちを探る』高志書院
- 品田高志 2008 『馬場・天神腰遺跡』『北陸中世のみち』北陸中世考古学研究会
新発田古地図等刊行会 1976 『正保四年 新発田領給図』
- 鈴木郁夫 1993 『阿賀野川右岸の沖積面に残る旧流路』『続・新潟のすぐれた自然 地形・地質編』新潟県環境保健部 環境保全課
- 高橋保雄²²⁾ 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第157集 住吉遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄²²⁾ 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第189集 寺前遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄²²⁾ 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第172集 鴨深甲遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田辺早苗 2001 『越後の様相』第14回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の井戸』北陸中世考古学研究会
- 鶴巻康志 1997 『北越堂の年代と技術系譜』『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 鶴巻康志 2001 『越後・佐渡地方の中世竪穴状遺構』『掘立と竪穴』高志書院
- 鶴巻康志 2004 『土師器からみた中世の小城域—新潟県阿賀北地方を中心に—』『中近世土器の基礎研究』XVII 日本中世土器研究会
- 鶴巻康志 2005 『新潟県北部の中世陶器窯』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相—生産技術の展開と編年—資料集』
- 永井久美男 1998 『近世の出土銭Ⅱ—分類図版編—』兵庫県埋蔵財調査会
- 永井久美男 2002 『中世出土銭の分類研究』高志書院
- 中川成夫 1959 『笹神村権兵衛窯址の調査』『水原郷』新潟県教育委員会
- 中川成夫²³⁾ 1970 『越後華報寺中世墓址群の調査』『史苑』20—2
- 中野野任 1976 『白河荘について』『社会科研究第12集』新潟県高等学校教育研究会社会科部会
- 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代篇』奈良国立文化財研究所
- 成澤潔水 1975 『木材 その特性と巧用』パワー社
- 眞井美鈴 2000 『北東日本海域における貿易陶磁の年代観—瀬戸美濃との平行関係について—』『十三漆遺跡—第86次発掘調査報告書— 本文編』青森県市浦村教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室
- 橋本正博 2003 『第Ⅶ章 木製品』『八日市地方遺跡Ⅰ(第2分冊 遺物報告編)』石川県小松市教育委員会
- 原田浩²⁴⁾ 1985 『木材の構造』文英堂出版株式会社
- 藤田正義 1997 『安田町史 中世編』新潟県安田町教育委員会
- 藤沢良祐 1982 『古瀬戸中期様式の成立過程』『東洋陶磁』第8号 東洋陶磁学会
- 藤沢良祐 1991 『瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年—』『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤沢良祐 1995 『瀬戸古窯址群Ⅲ—古瀬戸前期様式の編年—』『瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要』第3輯 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤沢良祐 1997 『付編』『研究紀要』第5輯 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤原良章・村井章介編 1999 『中世のみちと物流』山川出版社
- 藤原良章²⁵⁾ 2005 『中世のみちと橋』高志書院
- 布施智也・中川潤次 2002 『北小脇遺跡・天神堂城跡・館屋敷遺跡・大橋遺跡』吉田町教育委員会・日本芸術文化財総合研究所
- 古澤愛史 2002 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 町道上遺跡』京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤愛史 2003 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集 大瀬遺跡 猫山遺跡 大曲川端遺跡』新潟県京ヶ瀬村教育委員会

- 古澤安史 2005 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 土居内西遺跡』新潟県阿賀野市教育委員会
- 古澤安史 2008 『京ヶ瀬の遺跡について(二)』『五頭郷土文化』五頭郷土文化研究会
- 古澤安史^{46a} 2011 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡発掘調査報告書』新潟県阿賀野市教育委員会
- 本田祐二 2008 『越後・佐渡(新潟県)の様相』『北陸中世のみち』北陸中世考古学研究会
- 北陸中世考古学研究会 1998 『北陸中世の金属器』第11回 北陸中世考古学研究会資料集
- 北陸中世考古学研究会 1999 『北陸中世の石文化』第12回 北陸中世考古学研究会資料集
- 北陸中世考古学研究会 2004 『掘立柱建物から礎石建物へ』第17回 北陸中世考古学研究会資料集
- 野水晃子^{46b} 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集 西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 水澤幸一 1999 『下町・坊桑遺跡Ⅲ A地点の調査』新潟県中条町教育委員会
- 水澤幸一 2001 『下町・坊桑遺跡Ⅴ C地点遺構編・総論編』新潟県中条町教育委員会
- 水澤幸一 2002 『阿賀北の中世石佛』『新潟考古』第13号
- 水澤幸一 2005a 『越後の様相』『中世北陸の茶道具』北陸中世考古学研究会
- 水澤幸一 2005b 『越後の中世土器』『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 水澤幸一 2008 『政所桑遺跡群』『北陸中世のみち』北陸中世考古学研究会
- 水澤幸一 2009 『日本海流通の考古学—中世武士団の消費生活—』高志書院
- 水澤幸一 2010 『北陸2008～2010』『都市を区切る 中世都市研究15号』山川出版社
- 水澤幸一・高橋敦 2007 『寺前東遺跡』新潟県胎内市教育委員会
- 宮本長二郎 1999 『日本中世住居の形成と発展』『建築史の空間』中央公論美術出版
- 宮本長二郎 2001 『中世集落遺跡 建築遺構のまとめ方』『掘立と竪穴』高志書院
- 村上市 1989 『村上市史 民俗編上巻』
- 明治前日本科学史刊行会 1961 『明治前日本建築技術史』日本学術振興会
- 森田 勉 1982 『14～16世紀の白磁の型式分類と編年』『貿易陶磁研究』第2号
- 森本朝子 1994 『博多遺跡群出土の天目』『唐物天目』MOA美術館・茶道資料館
- 山岸洋一 2003 『鉄砲町遺跡発掘調査報告書』新潟県糸魚川市教育委員会
- 山崎 天^{46c} 2005 『板表遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎忠良^{46d} 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第120集 下郷遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良^{46e} 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第140集 東原町遺跡・下沖北遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫 2000 『太宰府条坊跡ⅩⅤ—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会
- 山本肇^{46f} 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第125集 下沖北遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 『珠洲焼概論』『平成15年度埋蔵文化財専門職員実務研修「講義」・事例報告』資料集』新潟県教育庁文化行政課
- 吉川金次 1984 『斧・鑿・鋸』法政大学出版局
- 若林邦彦^{46g} 1993 『河内平野遺跡群の動態Ⅳ—南遺跡群—』(財)大阪文化財センター
- 渡辺明和 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡 E・A・C地点、大入遺跡 A地点』新津市教育委員会
- 渡邊 晶 2004 『日本建築技術史の研究—大工道具の発達史』中央公論美術出版

A区 掘立柱建物観察表

遺構 No.	形式	壁 厚 (m)	間 隔 (m)	埋 入 法	身舎奥行法 (m)	梁間柱間法	梁行間法	桁行間法	身舎桁行法	桁行柱間法	主軸方向	身舎 (af)	全体 (af)	想定 河原川向き
SB1	掘立柱架梁一帯形建物	3	3	7.40	4.42	4.42/4.16	1.32/1.18	9.53	9.50	3.30/3.06	N78°W	41.08	65.173	日
SB2	掘立柱架梁一帯形建物	4	5	6.43	4.62	4.04/3.90	1.90/0.94	1.38	1.30	2.30/1.82	N32°E	41.352	67.075	日
SB3	掘立柱架梁一帯形建物	3	4	6.78	4.52	4.32/4.40	1.14/1.04	9.90	9.88	2.58/2.36	N40°W	44.443	66.462	日
SB4	掘立柱架梁一帯形建物	3	3	6.13	4.03	4.02/3.90	1.12/1.03	7.73	7.73	3.02/3.53	N40°W	30.778	42.374	日
SB5	架梁一帯形建物	1	3	3.98	2.98	3.98/3.69		7.80	7.80	2.54/2.54	N75°W	30.255	30.255	日
SB6	架梁一帯形建物	1	2	3.70	3.70	3.70		4.44	4.44	2.36/2.03	N40°W	18.646	18.646	日
SB7	架梁一帯形建物	1	2	4.00	4.00	4.00/3.94		4.34	4.34	2.35/2.10	N57°W	17.760	17.760	日
SB8	架梁一帯形建物	1	1	1.60	1.60	1.60/1.48		2.14	2.14	2.10/2.12	N35°E	3.266	3.266	日
SB9	掘立柱架梁一帯形建物	3	4	(7.31)	4.70	2.40/	1.32/0.98	(11.48)	1.34	2.76/2.50	N70°W	49.183	76.084	日
SB10	架梁一帯形建物	1	3	2.42	2.42	2.42/2.30		8.30	8.30	3.12/1.96	N20°E	21.179	21.179	日
SB11	架梁一帯形建物	1	3	3.52	3.52	3.52/3.43		6.82	6.82	1.57/2.32	N22°E	21.086	21.086	日
SB12	柱状建物	2	2	3.88	3.88	2.96/1.84		6.00	4.0	3.54/2.48	N33°E	20.256	20.256	日
SB13	掘立柱架梁一帯形建物	4	5	6.24	4.13	2.16/1.87	1.24/1.00	9.96	9.98	2.18/1.97	N32°E	41.727	64.123	日
SB14	架梁一帯形建物	1	2	3.34	3.34	3.34/3.12		5.66	5.66	2.92/2.72	N47°W	19.167	19.167	日
SB15	架梁一帯形建物	1	2	1.96	1.96	1.96/1.96		4.08	4.08	2.10/1.96	N30°E	8.048	8.048	日
SB16	掘立柱架梁一帯形建物	3	4	6.38	4.04	2.04/2.01	1.34/1.24	9.68	9.83	2.88/2.34	N34°E	39.634	62.981	日
SB17	架梁一帯形建物	1	3	2.44	2.44	2.44		7.33	7.33	3.03/2.48	N21°E	17.603	17.603	日
SB18	架梁一帯形建物	1	4	2.88	2.88	2.88		7.36	7.36	1.90/1.76	N37°E	22.846	22.846	日
SB19	掘立柱架梁一帯形建物	3	4	6.40	3.98	3.98/3.66	1.55/1.14	16.02	7.82	2.38/1.78	N46°W	30.000	50.334	日
SB20	架梁一帯形建物	1	3	3.86	3.86	3.86		6.43	6.43	2.39/3.10	N33°E	24.813	24.813	日
SB21	掘立柱架梁一帯形建物	3	3	5.80	3.92	3.92/3.88	1.04/0.86	6.75	6.78	2.80/1.92	N59°W	26.256	38.964	日
SB22	架梁一帯形建物	1	3	4.68	4.68	4.68/3.80		8.68	8.68	3.12/2.70	N47°W	33.894	33.894	日
SB23	架梁一帯形建物	1	3	2.62	2.62	2.62		5.23	5.23	1.74/1.94	N13°E	12.001	12.001	片代
SB24	架梁一帯形建物	1	3	2.46	2.46	2.46/2.14		5.06	5.06	1.96/1.44	N27°E	11.598	11.598	日
SB25	掘立柱架梁一帯形建物	3	3	7.14	3.64	3.64/3.25	1.04/0.92	5.52	5.50	2.02/1.86	N37°W	18.921	30.006	日

A区 掘立柱建物の柱穴 (1)

遺構 No.	位置	規模 上端径/下端径/深さ	底面積 (㎡)	出土遺物	切り合い
114	22PF5	37 36 49	6.689		
116	32PF8	44 24 20	6.915		
117	32PF9-11	50 41 25	6.917		
119	32PF9-7	76 42 25	6.940	土器/土器片	
121	32PF13	29 26 24	6.926	漆器/漆器片	
124	32PF24	46 28 23	6.901	漆器/漆器片	
125	32PF24	34 31 20	6.905		
127	32PF22	46 43 36	6.823	土器/土器片/漆器/漆器片	
128	31PF30、 22PF16	63 43 39	6.714	土器/土器片/漆器/漆器片	
137	32PF17	29 28 26	6.896	漆器/漆器片	
152	31PF5	56 46 24	6.932	漆器/漆器片/土器/土器片	
174	32PF14	38 34 48	6.717		

SB2

遺構 No.	位置	規模 上端径/下端径/深さ	底面積 (㎡)	出土遺物	切り合い
210	31PF4	43 40 26	6.936	土器/土器片	
251	31D016	35 28 12	6.998		
274	30PF5	34 33 25	6.911		
276	30PF5	40 36 22	6.962		>P1792
277	31PF6	37 34 16	7.043	土器/土器片	
279	31PF7	39 29 15	7.019	土器/土器片	
280	31K12-13	23 20 12	7.043	土器/土器片	
285	30D025、 31D021	37 34 24	6.964	漆器/漆器片	
286	31D021	49 49 11	6.982		
303	31D011-12	34 33 20	6.943		
304	31D012-17	31 27 12	7.025		
305	31D016-17	32 30 15	7.053		
309	31D015	26 24 10	7.087		
310	31D019	60 48 16	7.026		
313	31D023、 31K23	45 31 10	7.338	土器/土器片	
315	31D020	25 17 6	7.168		
453	31D024	22 19 21	7.613		>SK209
829	31D019-24	45 41 7	7.119		
821	31D012-13 (41)	38 20 6.972	土器/土器片		<SK317
840	31K29	29 26 17	7.021		
889	31D09	31 31 34	6.863		>SK899
1213	31D28	27 26 24	6.988		
1215	31K23	60 44 8	7.082		

SB3

遺構 No.	位置	規模 上端径/下端径/深さ	底面積 (㎡)	出土遺物	切り合い
239	30K311-112	27 25 49	6.644	漆器/漆器片	
262	30K37	30 30 44	6.708	土器/土器片	
267	30D022	35 34 14	6.693		>P250
273	30D14	36 26 18	6.973		
292	30D023	30 16 14	6.593		<P292
323	30K36	36 30 36	6.825		>P214
333	29K35	30 31 37	6.814		
334	29K39	30 29 22	6.962		
370	29D020	35 24 35	6.860		
376	30D016	32 31 28	6.777		
398	29K23-4	33 25 49	6.727		
834	30D023、 30K33	38 32 46	6.651		
961	30D016	40 38 43	6.780		
1214	30K313	42 38 31	6.823		
1840	29K10	20 13 7	7.094		

SB4

遺構 No.	位置	規模 上端径/下端径/深さ	底面積 (㎡)	出土遺物	切り合い
245	29D020	36 33 36	6.780	柱石/土器/土器片/土器片	
252	29K35	46 36 36	6.827		
257	30K38	31 28 28	6.860		
261	30K312	36 30 41	6.731		
266	30D022	32 28 37	6.816		
397	29K34	40 31 48	6.730		
965	30D021	25 (20)	28	6.800	<P262-961
982	30D016	31 23 16	6.977		
992	29K10	25 20 20	6.980	土器/土器片	
1054	30K33	36 35 21	6.920		
1841	30K36-11	17 16 10	7.072		

SB5

遺構 No.	位置	規模 上端径/下端径/深さ	底面積 (㎡)	出土遺物	切り合い
250	30D022	51 43 56	6.619		<P267
288	30D014-19	39 33 36	6.822		>P1004
332	30D012-13	37 35 41	6.746		
356	30D011	47 46 47	6.765		
369	29D019	44 39 40	6.753		
377	29D019-20	41 41 54	6.660	漆器/漆器片	
835	30D023	34 25 13	7.011		
962	30D021	37 35 47	6.680		>P265

観 察 表

A区 掘立柱建物の柱穴 (2)

SB6

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
1266	30Z20	24	24	15	6.979		
1413	31Z16	36	27	17	6.950	土層質土層底	
1416	30Z14	30	28	16	6.942		
1417	30Z23	35	27	12	6.983		
1608	30Z24	32	32	32	6.904		

SB7

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
1264	31Z16	27	24	27	6.855		
1268	30Z14	32	30	30	6.954		
1414	30Z15	37	30	25	6.846		
1607	30A45	30	26	32	6.853		
1609	30Z24	28	25	28	6.899	土層質土層底/土層砂	
1634	30Z18	32	31	40	6.743	土層砂	>P1635

SB8

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
1263	30A41	26	24	25	6.892		
1419	30Z21	35	24	28	6.905		
1420	30A42	24	21	22	6.964		
1421	30A46	34	26	27	6.911		

SB9

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
434	28A24	30	22	23	6.779		
710	29A11	51	36	44	6.617		
716	29B05、 29B01	37	32	44	6.571		
719	29B05	40	36	34	6.708		
726	29B08	43	37	47	6.654		
728	29B03-8	38	32	36	6.743		
732	29A19	62	41	61	6.654		
737	29A19	21	19	15	6.939		
744	29A25	35	32	32	6.624		
759	29B09	29	25	23	6.830		
1174	29B04	34	28	32	6.671		
1184	29A20	38	27	24	6.833		
1363	29A11-12	27	26	29	6.721		
1343	29A17-18	30	29	21	6.626		
1344	29B06	20	17	8	6.762		
1796	29A13	24	22	13	6.669		
1800	29B02	35	30	48	6.539		

SB10

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
712	28A20	31	26	60	6.567	重石砂	
718	29B01	48	37	21	6.832	土層砂	
725	29B010	30	27	35	6.646		
1150	28A25	24	28	72	6.289		
1165	29B015	38	24	14	6.813		
1167	29B014	26	20	16	6.864		
1306	29A16- 17-21-22	60	26	18	6.836	礫石	
1322	29B09	25	19	31	6.780		<P2428

SB11

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
438	28A19	41	37	40	6.573		
711	29A16	41	41	42	6.946		
714	29A21	33	29	17	6.856		
717	29B05	43	40	57	6.777		
1156	29B05-10	65	49	64	6.443		
1181	28A23-24	40	35	36	6.805		
1187	28A14	45	36	38	6.563		
1311	29B04	27	20	35	6.582		<SR403

SB12

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
1363	28Z8	40	33	32	6.236		>SR1327
1364	28Z7	18	18	6	6.350		
1637	28Z18	27	26	34	6.525		
1638	28Z18	30	29	24	6.835		
1639	28Z22	30	28	37	6.340		
1691	28Z13	23	23	11	6.556		>SR1327
1692	28Z14	32	30	18	6.288		
1693	28Z23	29	23	30	6.473		

SB13

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
1335	27Z9	19	18	6	5.953		
1338	27Z13	27	25	27	6.292		
1339	27Z23	26	25	15	6.542		>SR1327
1340	27A4	46	44	56	6.070		>SR1327
1341	27Z25	25	23	33	6.488		
1368	27Z17	22	21	10	6.282		
1374	27Z18	36	24	31	6.469		
1516	27Z25	40	34	25	6.441		<SD1663, >SR1327
1641	28Z16	30	27	31	6.284		>SR1327
1642	28Z16	33	29	31	6.268		>SR1327
1643	28Z16	41	38	34	6.378		>SR1327
1644	28Z7-13	35	32	46	6.268		>SR1327
1645	27Z20	30	24	28	6.410		>SR1327
1646	27Z15	31	29	35	6.264		>SR1327
1652	28Z1	25	13	42	6.162		<P1654, >SR1327
1655	27Z10	25	21	13	6.447		<P1654, >SR1327
1657	28Z2-7	37	31	40	6.177		>SR1327
1658	28Z7	36	32	32	6.332		>SR1327
1678	27Z4-5	18	17	40	6.427		
1679	27Z25	22	20	44	6.284		
1690	27Z19	40	30	36	6.245		>SR1327
1694	27Z13	29	24	32	6.473		
1695	27Z8	28	27	17	6.467		
1696	27Z17	32	19	14	6.564		
1698	27A4	33	31	28	6.083		<SD1663, >SR1327
1703	27Z24+25	29	25	46	6.085		>SR1327
1712	27Z4	29	26	32	6.466		
1723	28Z8	32	31	45	6.222		>SR1327

SB14

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
122	33Z7	31	26	18	6.968	重石砂	
120	33Z9-9	22	18	27	6.881		
136	33Z23	24	22	19	6.994		
138	33Z17-22	30	29	24	6.930		
521	33Z7	30	19	14	6.993		
632	33Z4	24	20	7	7.039		

SB15

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
287	30D019	21	19	18	6.995		
297	30D014-15	26	25	12	7.086		>P296
300	30D010	31	28	32	6.802		
301	31D011	30	23	20	6.922		
632	30D010	20	17	10	7.081		

SB16

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
941	31CC7	30	26	32	6.923		
944	31B23	28	28	21	6.995		
948	31CC7-8	19	15	22	7.081		
958	31CC2	48	32	35	6.910		>SR093
964	31CC3	33	32	49	6.794	土層砂	
1060	31B23	30	26	35	6.718		
1277	32B01-16	41	33	47	6.707		
1337	31CC10	39	34	48	6.810		
1425	32B021	30	27	23	6.864	重石砂	
1427	32B017	31	29	16	6.960	重石砂	
1433	31CC5	21	20	47	6.889	土層質土層底	
1601	31B04-15	37	34	26	6.820	青磁碗24/土層砂	>P1437
1603	31B03-18	29	24	16	7.007		
1605	31B019	28	24	35	6.866	重石	
1619	31B015	28	28	12	7.107		
1818	31CC15	28	27	31	7.020		

SB17

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高 (m)	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
919	31B024	36	34	26	6.872		
924	31B017-18	23	21	16	7.074		
925	31CC3	38	37	19	7.095	土層砂	>SR073
931	31CC2	34	22	20	7.065		
940	31CC7	29	26	19	7.066		
1797	31CC12	24	23	15	6.997		

A区 土坑觀察表 (2)

通稱 No.	位置	堆出部位	定礎 時期	平面	断面	形状	埋深 (cm)				直径 或高 (m)	土質 或堆積 状況	主軸方向	出土遺物	切り欠	備考	
							上端 長径	上端 短径	下端 長径	下端 短径							
403	28B03-4	IVa	II	内形	断面状	急斜度	120	110	94	53	29	6.68T	A		>P1311		
409	30AA1-6, 29AA5-10	IVa	中野	内形	台形状	急斜度	87	55	48	28	17	6.990	A	土層質土層面			
414	29B012- 13-17	IVa	II	横切面	台形状	急斜度・ 緩中少	116	95	48	36	39	6.656	A	N-4' E			
417	28B05-10	IVa	中野	長方形	台形状	急斜度・ 緩中少	85	38	54	20	10	6.926	A	N-5' E	首層 53		
465	29PF24-25	IVb	中野	横切面	断面状	急斜度	(173)	66	72	38	46	6.708	A	N-23' E			
485	31E11-2	IVb	中野	方形	断面状	垂直	70	87	96	48	41	6.696	A		土層質土層面 / 緊急避難 倉 / 土層質土層面		
871	31D022	IVb	II	長方形	台形状	急斜度	86	42	46	18	30	6.571	A	N-64' W			
896	30GG12-17	IVb	中野	(内形)	断面状	垂直・内 傾	(87)	(30)	(42)	(36)	-83	6.401	C				
934	30CC25 31CC18-21	IVb	I ~ II	横切面	台形状	急斜度	(160)	74	89	40	54	6.649	A	N-40' W	土層質土層面	<P933	
937	30D04	IVb	中野	内形	断面状	急斜度	84	83	41	38	28	6.683	C		溝口 56		
968	31B021	IVb	II ~ III	内形	台形状	急斜度	71	60	(61)	40	14	7.080	A			>P974	
973	31CC2-3- 7-8	IVb	II	横切面	台形状	急斜度	200	163	181	121	23	6.714	A	N-40' W	土層質土層面 / 緊急避難 倉・溝	>P990, <P955- 963-969- 991	
985	31CC3-14	IVb	III	長方形	台形状	急斜度	120	52	102	38	17	7.029	B	N-70' W		>SD107	
1006	31PF19- 20-34-35	IVb	II	方形	台形状	急斜度	(124)	104	(92)	(76)	22	6.883	A			<P802, >P801	
1009	30E111	IVb	内形	台形状	急斜度	107	100	72	65	17	6.614	D					
1012	33PF15	IVb	II ~ III	長方形	台形状	急斜度	118	62	81	44	20	6.960	A	N-62' W		>SK1024	
1018	33PF2-3, 33D022	IVb	II ~ III	内形	台形状	緩中少	92	78	76	62	4	7.133	D	N-85' E	釘	>SD1071	
1020	31GG11	IVb	内形	台形状	急斜度	64	62	38	34	17	6.909	A		土層質土層面 / 緊急避難 倉			
1021	31GG1-6-7	IVb	内形	台形状	緩中少	78	75	40	39	11	7.038	D					
1024	33PF15-20	IVb	I ~ II	(方形)	断面状	緩中少	(110)	102	90	74	4	7.056	D			<SK1012	
1026	29E15-20	IVb	I	不規則 (台形状)	急斜度	(72)	(44)	(48)	(30)	12	7.010	D			>SD171		
1028	32CC16	IVb	横切面	台形状	急斜度	(140)	(88)	(80)	(40)	-40	6.911	A	N-48' W				
1040	28E4-5- 9-10	IVb	I	不規則 (台形状)	急斜度	(40)	(114)	(18)	(12)	65	6.498	A			<SD173		
1042	32CC3	IVb	断面	断面状	垂直	105	82	72	59	50	6.957	A	N-51' W		>SD1007		
1060	27D020	IVa	IVa	方形	台形状	緩中少	90	37	74	22	3	7.018	D	N-24' E			
1095	28D03	IVa	II ~ III	内形	台形状	急斜度	74	71	51	48	18	6.967	A		首層 54	>P1113	
1222	31B08	IVb	中野	横切面	台形状	急斜度	85	58	46	32	21	6.910	A	N-58' W	土層質土層面 55		
1226	31B012	IVb	中野	内形	台形状	急斜度	61	51	37	30	22	6.876	A				
1229	31AA21	IVb	III	内形	断面状	急斜度	48	43	28	27	27	6.827	A		土層質土層面	>SK1882	
1245	30Z0-7	IVa	II ~ III	方形	台形状	急斜度	90	85	53	51	35	6.669	A		緊急避難倉 / 土層質土層面	>SD1613	
1249	31AA2	IVb	横切面	台形状	緩中少	73	52	45	31	13	7.050	A	N-35' W				
1256	31AA16-17	IVb	中野	横切面	台形状	急斜度	(60)	(40)	(28)	(16)	15	6.943	A	N-16' E			
1321	28AA13-14	IVa	中野	横切面	台形状	急斜度	123	88	80	47	60	6.281	A	N-67' W	緊急避難倉 15 / 溝口 37		
1618	31E23-24	IVb	I	横切面	断面状	急斜度	112	84	38	32	56	6.080	A	N-62' E		<SD129	
1680	27Y12-17	IVa	IVa	横切面	台形状	急斜度	93	78	40	22	30	6.608	A	N-65' W			
1685	27Y16-21	IVa	IVa	横切面	台形状	急斜度	111	68	92	40	14	6.814	A	N-56' W			
1686	26V25	IVa	IVa	横切面	台形状	緩中少	101	84	75	54	13	6.824	D	N-63' W			
1805	26Z22, 28AA2	IVa	IVa	横切面	台形状	緩中少	91	67	50	42	9	6.679	D	N-29' E			
1872	31B013- 19-20	IVb	中野	長方形	台形状	急斜度	206	75	190	55	13	7.131	D	N-43' E	土層質土層面 21 / 土層質土層 面 19 / 土層質土層面 / 緊急避難 倉		
1873	31F08-9- 13	IVb	I ~ II	(長方形)	断面状	緩中少	(202)	(80)	(178)	(28)	12	7.024	D	N-43' E		<SK240, SD17	
1874	31E19	IVb	I ~ II	(不規則)	断面状	緩中少	(84)	(52)	(24)	(20)	33	6.782	A	N-34' W		<SD128	
1875	32CC17-22	IVb	横切面	台形状	急斜度	(70)	(65)	(50)	(47)	15	7.051	A	N-7' W				
1876	30E12-23, 30PF2-3	IVb	横切面	台形状	急斜度	120	72	67	41	18	6.914	A	N-75' W				
1877	30E16-17	IVb	I ~ II	横切面	台形状	緩中少	(114)	100	(76)	(59)	11	7.026	D	N-1' E		<SD171	
1878	31B02-7	IVb	中野	長方形	台形状	急斜度	146	83	132	32	12	7.020	A	N-66' W			
1879	31B04	IVb	IVa	長方形	断面状	急斜度	81	35	67	19	11	6.937	D	N-28' E	土層質土層面		
1880	31AA7	IVb	中野	横切面	台形状	急斜度	106	80	77	55	15	7.017	A	N-29' E	土層質土層面		
1881	31AA17- 18-22-23	IVb	II ~ III	長方形	台形状	緩中少	266	56	232	36	5	7.049	D	N-30' E		>P1298- 1299-1617	
1882	31AA22 31B03	IVb	II	横切面	台形状	急斜度	65	(45)	(34)	(18)	17	6.827	D	N-36' W	土層質土層面	>P1254, <SK129	
1883	31AA1-6	IVb	II ~ III	長方形	台形状	急斜度	281	84	234	56	20	6.948	A	N-22' E		>P1410- 1411-1412	
1884	33PF16, 34PF1-6	IVb	II ~ III	長方形	台形状	緩中少	211	68	180	49	5	6.991	A	N-19' W		>P1400- 1816- 1811-1812	
1885	31E11- 12-16-17	IVb	II ~ III	長方形	台形状	急斜度・ 緩中少	208	102	142	62	26	6.890	A	N-55' W	土層質土層面 / 緊急避難 倉	>P1405	
1886	27Y12	IVa	IVa	内形	台形状	急斜度	73	70	40	34	22	6.876	A				
1887	27Y18	IVa	IVa	内形	台形状	急斜度	65	62	47	44	19	6.753	A				
1888	30G01	IVb	IVa	内形	U字状	垂直	88	63	42	34	92	6.204	A-C				

A区 性格不明遺構観察表

通観 No.	位置	検出 部位	発見 年代	形態	規模 (cm)				底面 標高 (m)	土上遺物	埋入状況	土層方向	出土遺物	切り合い	備考
					平面	立ち上り	上端長径	上端短径							
129	30P11	N/b	N						24	23	—	—	8	7.128	N25 瓦 縄文295

A区 自然流路観察表

通観 No.	位置	検出 部位	発見 年代	形態	規模 (cm)				底面 標高 (m)	土上遺物	埋入状況	土層方向	出土遺物	切り合い	備考
					平面	立ち上り	上端長径	上端短径							
1327	27Z-AA-HB, 28Y-Z-AA, HB, 29X-Y-Z	N/a	N	(4890)	380~ 590	(4890)	120~ 440	17~52	4.385~ 6.743						CPI048・1049・1316-1317・1339-1362・1363- 1340・1516-1517・1518-1519・1641・1642・1643・ 1644・1645・1646・1648・1649・1653・1654・1655・ 1656・1657・1658・1698・1699・1691・1697・ 1701・1702・1703・1704・1705・1707・1723・1846, SK1326, SK1212, SK416-1207・1662・1663

A区 集石観察表

通観 No.	位置	検出 部位	形態	規模 (cm)				底面 標高 (m)	土上遺物	埋入状況	土層方向	出土遺物	切り合い	備考
				平面	立ち上り	上端長径	上端短径							
1864	30R86	N/a	—	—	—	42	22	—	—	18	6.540	—	—	遺288・270

A区 ビット観察表(1)

通観 No.	位置	検出 部位	発見 年代	規模 (cm)				底面 標高 (m)	土上遺物	埋入状況	土層方向	出土遺物	切り合い	備考
				平面	立ち上り	上端長径	上端短径							
103	32P124	N/b	N	25	34	29	6.796							
104	32P123	N/b	N	40	37	42	6.763							
105	32P122	N/b	N	37	31	36	6.828							
106	32P124, 32XG4	SD101 -1層	N	21	17	25	6.940		>SD101					
107	32P17-22	N/b	N	36	35	45	6.660		>SK102					
108	32P17	N/b	N	22	18	28	6.814							
109	32P17	N/b	N	23	22	30	6.940							
111	32P15	N/b	N	26	27	28	6.807							
112	32P15	N/b	N	18	17	38	7.119							
113	32P14	N/b	N	14	14	5	6.912							
115	32P10	N/b	N	32	27	28	7.068							
118	32XG2	N/b	N	25	21	6	6.932							
120	32P16	N/b	N	16	14	10	6.929							
123	32P12	N/b	N	30	19	15	6.787							
131	32P124 SD101 -1層	SD101 -1層	N	30	29	51	6.824		>SD101					
132	32P16	N/b	N	30	27	22	7.007							
133	31P110	N/b	N	50	33	25	6.825							
134	32E32	N/b	N	19	18	25	6.927							
135	32E18-23	N/b	N	31	27	24	6.848							
139	32E16	N/b	N	35	32	32	6.377		>P083					
140	32E17	N/a	N	24	23	34	6.887	風船群						
141	32E3-8	N/b	N	16	15	32	7.023							
142	32E4	N/b	N	23	18	31	6.770							
143	32P13	N/b	N	22	19	21	6.752							
144	31E30	N/b	N	18	17	10	6.728							
145	31E30	N/b	N	22	19	20	6.540							
146	31E30	N/b	N	29	26	36	6.969							
147	31E30	N/b	N	26	21	29	6.869							
148	31P16	N/b	N	21	18	17	6.919							
149	31P19	N/b	N	28	27	35	7.014							
150	31P14-9	N/b	N	28	25	20	7.026							
151	31P19	N/b	N	26	28	30	6.956							
152	32XG2	N/b	N	50	18	24	7.083							
154	32E12	N/b	N	22	20	39	6.958							
155	31H85	N/b	N	22	20	27	6.964							
156	31H88	N/b	N	40	39	79	7.075							
157	31G618	N/b	N	25	24	32	7.084							
158	30G20	N/b	N	27	26	15	7.070							
159	30G25	N/b	N	33	32	40	6.991	土層跡						
160	30G19	N/b	N	22	20	34	7.093							
161	30G19-24	N/b	N	28	27	18	6.985							
162	30G24	N/b	N	30	29	64	6.927							
163	30G23-24	N/b	N	22	18	22	6.930	土層跡						
171	32XG16	N/b	N	30	19	33	7.058							
175	32P14-9	N/b	N	36	30	23	7.030							
176	32E18	N/b	N	14	14	14	7.085							
177	32E16-7	N/b	N	22	20	14	7.108							
178	32P16	N/b	N	24	24	25	6.947							
180	31P14-6	N/b	N	28	27	23	6.946							
181	31P14	N/b	N	23	20	9	7.068							
182	31P19	N/b	N	13	12	27	7.027							
183	31P20	SD101 -1層	N	27	25	23	7.111		>SD101					
184	31P15	N/b	N	16	9	10	7.119							
185	31P19	N/b	N	14	6	7.021								
186	31P15-20	N/b	N	22	16	11	6.923							
187	32P16	N/b	N	23	22	19	6.999							
188	32P16	N/b	N	15	12	8	6.841							
189	32H16	N/b	N	25	24	14	7.047							土層跡 遺物
190	32H16	N/b	N	40	34	23	6.986							
191	32H13	N/b	N	22	21	19	6.962							
192	31H10	N/b	N	24	23	19	6.939							
199	31G28	N/b	N	28	21	11	6.778							
200	31G212	N/b	N	26	25	64	6.865							
194	31GG19-20	N/b	N	26	24	27	6.941							
195	31GG19	N/b	N	26	25	17	6.922							
196	31H88	N/b	N	21	19	14	6.722							
197	31GG23	N/b	N	21	16	11	6.925							
198	31GG8	N/b	N	27	25	25	6.957							
201	31GG12	N/b	N	26	25	25	6.884	土層跡						
301	31GG17	N/b	N	25	20	10	6.884	土層跡						
202	31GG6	N/b	N	25	22	14	6.620							
203	31GG21	N/b	N	19	18	7	6.720							
204	31GG16	N/b	N	18	17	6	6.803							
205	30G20	N/b	N	26	25	14	7.028							
206	30G14	N/b	N	17	16	25	7.078							
207	30G213	N/b	N	23	16	6.931								
311	31P16	N/b	N	55	50	31	7.043							
212	31P16-17	N/b	N	26	19	10	6.774	土層跡						
313	30G24	N/b	N	23	22	19	6.986							
214	30G19-24	N/b	N	18	17	20	6.908							
215	30G19	N/b	N	27	24	24	6.978							
216	30G14	N/b	N	40	33	24	6.951							
217	30G15	N/b	N	23	19	24	6.771							
218	30G28	N/b	N	23	22	27	6.917							
219	30G23	N/b	N	32	31	48	6.826							
220	30G2	N/b	N	33	32	13	6.927							
221	30G23	N/b	N	28	22	22	6.835							>P88
222	30G6	N/b	N	40	(29)	33	6.871							>P23
223	30G6	N/b	N	42	(37)	23	6.920	青磁						<P22
224	30G1-2- 6-7	N/b	N	38	25	24	7.028							
226	30G1-1	N/b	N	31	26	53	6.927	土層跡 /1150						
227	30P22	N/b	N	37	(35)	42	6.970							<P228
228	30G2	N/b	N	42	41	31	6.956							>P227
230	31P18	N/b	N	40	38	14	6.962							
231	31P17	N/b	N	21	(10)	7	6.854							<SD239
234	29E18-23	N/b	N	74	48	12	6.710							
238	32E36 -1層	SD239 -1層	N	43	42	25	6.763	土層跡 /遺物群						>SD239
241	32P121	N/b	N	25	22	10	6.980							>SD101
252	29E130	N/b	N	53	30	41	7.075							
254	29E10	N/b	N	20	16	20	7.066							
255	30E16	N/b	N	39	36	27	6.995							
256	29E10	N/b	N	19	18	19	6.846							
358	30E16-7	N/b	N	31	30	19	6.909							
360	30E17-8- 12-13	N/b	N	30	28	33	6.955							
263	30E11	N/b	N	30	28	26	7.006							
264	30E2	N/b	N	25	21	33	6.941							
265	30E2	N/b	N	30	29	24	7.123							
268	30E3-4	N/b	N	52	46	33	6.881							

観 察 表

A区 ビット観察表(2)

通称 No.	位置	検出部位	層幅 (cm) 上層 上層 知層 知層	底面 埋深 (m)	出土遺物	切り合い	備考
275	30E39	Nb	42 36 28	6.945			
278	31F36	Nb	28 25 33	6.979		>P1793	
281	31H39	Nb	24 20 24	6.845	磁土		
282	31H39	Nb	20 30 23	7.027	土層跡		
284	31H32	Nb	34 32 32	6.848			
289	30D020	Nb	30 19 25	6.945		>P1802	
290	30D014	Nb	27 22 13	6.980			
291	30D018	Nb	44 41 30	6.996			
292	30D023	Nb	30 29 45	6.910			
294	30D024	Nb	36 24 40	7.100			
295	30D024	Nb	22 21 18	7.096			
296	30D014	Nb	25 (12) 32	6.943		<P297	
302	31H011	Nb	20 19 4	6.898			
306	31H017	Nb	23 18 13	6.603			
307	31D013- 14-18-19	Nb	23 20 16	6.888	土層質土 層		
308	31D014	Nb	28 27 36	6.707	土層質土 層		
316	31E04	Nb	29 28 13	6.858			
319	31C19	Nb	21 20 4	6.792			
320	31D09	Nb	18 17 33	6.769			
321	31D010	Nb	32 26 24	6.719			
322	32D011	Nb	26 23 26	6.814			
324	30E36	Nb	20 13	6.533		<P1823	
325	31D023	Nb	27 25 25	6.523			
326	31H03	Nb	40 33 21	6.767			
327	30E30	Nb	44 35 29	6.771			
328	30E30	Nb	28 26 15	6.723			
329	30E14- 15-19-20	Nb	46 38 18	6.762			
330	32E16	Nb	17 12 6	7.006			
331	32E16	Nb	14 12 7	7.071			
333	30E12-13	Nb	41 37 11	7.101			
336	30E13-18	Nb	33 30 26	7.106			
337	30G10	Nb	32 30 42	7.089		>S145	
351	30C21	Nb	30 29 22	7.002			
352	30D01	Nb	36 32 19	7.065			
353	30D01	Nb	23 21 16	7.064			
354	29D05	Nb	19 18 12	7.022			
355	30D06	Nb	28 22 13	7.107			
372	30C21	Nb	23 18 10	7.059			
373	30D06-7	Nb	26 24 17	6.993			
374	29D015	Nb	33 29 20	7.082			
375	30D011	Nb	22 18 8	7.261			
378	29D019	Nb	17 14 15	7.075			
379	29D020	Nb	33 28 30	7.166			
380	29D014-15	Nb	29 29 20	7.149			
381	29D014-15	Nb	40 39 21	7.136			
384	29D014	Nb	13 12 9	7.001			
385	29D014	Nb	18 15 14	7.080			
386	29D09-14	Nb	29 29 15	7.139			
387	29D010	Nb	24 24 13	7.127			
388	29D025	Nb	20 19 17	7.095		>P1844	
389	29D025	Nb	26 21 36	7.089			
390	29D024-25	Nb	19 18 18	6.990			
391	29D024	Nb	19 17 6	7.131	土層質土 層		
392	29D024	Nb	29 27 10	7.105			
393	29D023	Nb	32 31 18	6.980			
394	29D024	Nb	24 30 34	6.922			
395	29D019-24	Nb	16 14 32	7.041			
396	29D024	Nb	23 20 22	7.049			
399	28C24	Nb	29 22 22	7.048			
400	28C19	Nb	35 34 18	7.090			
411	29AZ3	Nb	72 56 14	7.041			
420	28B88	Nb	53 50 18	6.806	鋼片		炭化物 含む
421	28B87	Nb	37 35 19	7.160			
422	28B813	Nb	31 22 10	7.088			
423	28B812	Nb	75 44 16	7.135			
425	28B88-9- 13-14	Nb	34 31 29	7.080			
427	28B814	Nb	38 28 22	7.100			
429	28B84	Nb	28 24 19	7.064			
430	28B84	Nb	31 30 20	7.036			
431	28B84	Nb	22 21 16	7.084			
432	28B84	Nb	50 36 23	7.137			
433	28AA24	Nb	36 34 23	7.007			
435	28AA24	Nb	39 31 24	7.146			
436	28AA24	Nb	25 24 16	7.083			
439	28AA19	Nb	31 26 17	7.116			
440	28AA13-18	Nb	61 45 25	7.007			
445	28AA4	Nb	30 28 37	7.025			
447	28AA5	Nb	24 15 11	7.025			
448	28AA5	Nb	26 15 16	7.040			
449	28AA10	Nb	56 50 20	7.075			
450	28AA8	Nb	22 18 21	6.979			<P1450
454	33P96	Nb	26 20 16	6.996			
455	33P96	Nb	20 17 9	7.072			
456	32E20	Nb	28 20 8	7.074			
457	32E20	Nb	22 17 12	7.136			
458	32E20	Nb	23 22 9	7.009			土層質土 層
459	32E20	Nb	19 18 10	7.122			
460	32E20	Nb	26 20 7	7.093			
461	32E20	Nb	16 14 8	7.099			
462	32E14	Nb	17 16 17	7.107			
463	32E38	Nb	15 15 8	6.605			
464	32E13	Nb	24 21 11	7.095			
465	32E13	Nb	22 22 16	7.100			
466	32E13	Nb	19 16 8	7.138			
467	32E16	Nb	22 20 9	7.057			
468	32E17	Nb	18 13 7	6.739			
469	32E17	Nb	12 11 5	6.980			
470	32E17	Nb	19 17 12	7.070			垂直層
471	32E22	Nb	24 22 30	7.042			
472	32E11	Nb	21 21 13	7.080			
473	32E11	Nb	18 12 4	7.128			
474	32P15-20	Nb	28 26 29	7.125			
475	30P21-22	Nb	42 38 16	7.121			
476	32E12	Nb	25 18 12	7.123			
477	32E12	Nb	16 14 4	7.079			
478	32E12	Nb	18 17 5	7.142			
479	32E14	Nb	16 14 5	7.153			
480	32E16	Nb	28 25 21	7.009			
481	32E16	Nb	26 24 10	7.075			
482	32E16	Nb	20 21 7	7.064			
483	32E16	Nb	14 14 5	7.088			<P139
484	32E16	Nb	17 15 6	7.084			
488	32E16	Nb	15 12 4	7.022			
487	31E25	Nb	26 24 13	7.087			
488	31E20	Nb	20 18 8	7.123			
490	31E20	Nb	22 20 9	7.112			
491	31E20	Nb	27 25 24	7.117			
492	31E20	Nb	18 17 16	7.003	土層質土		
493	31E20	Nb	20 16 7	7.097			
494	31E20	Nb	11 10 7	7.113			
495	31E20	Nb	9 9 6	7.132			<SD239
496	31E19	Nb	9 8 5	7.185			<SD239
497	31E20	Nb	14 13 5	7.143			
498	31E25	Nb	19 18 6	7.131			
499	31E35	Nb	20 19 9	7.005			
500	31E20	Nb	16 15 7	7.132			
501	31E24	Nb	29 24 26	6.994			
502	31P15	Nb	15 12 2	7.111			
503	31P10	Nb	13 12 11	7.100			
504	31P10	Nb	12 11 3	7.141			
505	31P10	Nb	22 18 6	6.968			
508	31P15	Nb	14 8 2	6.787			
507	31P4	Nb	11 10 3	7.178			
508	31P4	Nb	12 11 10	7.192			
509	31P4	Nb	18 17 10	7.145			
510	31P4-9	Nb	24 17 7	7.116			
511	31P4	Nb	17 17 3	7.041			
512	31P4	Nb	18 14 8	7.022			
513	31P9	Nb	15 12 6	6.989			
514	31P9	Nb	22 13 4	7.058			
515	31P9	Nb	17 15 6	6.996			
516	32P11	Nb	15 10 8	7.026			
517	32P6	Nb	19 18 9	7.048			
518	32P6	Nb	17 12 4	7.142			
519	32P7	Nb	26 18 13	7.084			
520	32P1	Nb	23 22 10	6.990			
522	32P2	Nb	12 11 8	7.139			
523	32P2	Nb	24 15 4	7.047			
524	32E21	Nb	24 15 4	6.914			
525	32E21	Nb	19 11 11	6.953			
526	32E21-22	Nb	16 14 6	6.829			
527	32E17-22	Nb	20 18 20	7.043			
528	32E22	Nb	26 24 14	7.093			
529	32E22	Nb	20 19 12	7.118			

A区 ビット観察表(3)

通称 No.	位置	検出単位	間隔 (cm)			直上 深度 (m)	直上土物	切り合い	備考	通称 No.	位置	検出単位	間隔 (cm)			直上 深度 (m)	直上土物	切り合い	備考
			上層 起層	上層 起層	深度								上層 起層	上層 起層	深度				
530	32P2	N/b	20	18	9	7.094			610	30GG3-8	N/b	18	17	9	7.085				
531	32P23	N/b	21	19	7	6.910			611	30GG3	N/b	22	21	9	7.074				
532	32P13	N/b	16	14	4	7.131			612	30GG7	N/b	26	20	10	7.050				
534	32P28	N/b	12	8	16	7.072			613	30GG8	N/b	29	28	23	7.083				
535	32P17	N/b	14	12	4	7.110			614	30P25	N/b	15	13	6	7.049				
536	32P17	N/b	16	15	4	7.101			615	30P25	N/b	16	10	8	7.030				
537	32P22	N/b	20	17	4	7.084			616	30P25	N/b	26	38	7	6.988				
538	32P22	N/b	20	17	7	6.986			617	31P21	N/b	22	16	11	7.058				
539	32P11	N/b	17	16	48	7.103			618	31GG24	N/b	17	14	6	7.005				
540	32P9	N/b	14	10	5	7.076			619	31GG25	N/b	13	12	4	7.148				
541	32P2	N/b	14	13	6	7.073			620	31GG25	N/b	20	17	14	7.137				
542	32P16	N/b	21	15	6	7.012			621	32GG1	N/b	12	10	3	7.086				
543	32GG19	N/b	23	17	11	7.098			622	32GG16	N/b	17	14	4	7.117				
544	32GG17-18	N/b	20	25	44	7.128			623	32GG16	N/b	14	12	4	7.095				
545	32GG17-22	N/b	25	22	21	7.024			624	32GG17	N/b	20	17	6	7.063				
546	31HH3	N/b	27	25	9	7.165			625	32GG17	N/b	16	15	6	6.969				
547	32GG3	N/b	25	20	8	7.146			626	32GG12	N/b	12	11	12	6.782				
548	32P21	N/b	17	16	6	7.137		>SD101	627	32GG12	N/b	13	10	4	6.745				
549	32P21	N/b	14	11	3	7.118			628	32GG22	N/b	57	37	18	6.762				
551	32P21	N/b	16	13	4	7.042			629	32GG21	N/b	22	21	16	6.798				
552	32P21	N/b	15	13	6	7.126			630	32GG12	N/b	17	14	8	6.831				
553	32P21	N/b	15	10	5	6.977			631	32GG12	N/b	15	14	6	6.882				
554	32GG1	N/b	28	27	9	6.994			632	32GG6	N/b	18	17	4	6.845				
555	32GG1	N/b	20	16	3	7.070			633	32GG3	N/b	15	13	4	6.743				
556	31GG5	N/b	12	11	3	7.106			634	32GG9	N/b	13	12	5	6.541				
557	31GG5	N/b	24	21	18	7.108			635	32GG9	N/b	20	16	10	7.005				
558	31GG5-10	N/b	19	14	10	7.126			636	32GG9	N/b	17	13	5	6.927				
559	31GG4	N/b	27	29	13	7.107			637	32GG6	N/b	16	14	4	6.801				
560	31GG4	N/b	20	23	10	7.035			638	32GG6	N/b	13	12	3	6.844				
561	31GG4	N/b	22	26	15	7.097			639	32GG6	N/b	16	15	4	6.907				
562	31P25- 31GG5	N/b	27	25	11	7.099			640	32GG6	N/b	16	14	3	6.943				
563	31GG3-4	N/b	18	12	11	7.118			641	32GG6	N/b	15	14	3	7.009				
564	31GG3	N/b	15	13	7	7.119			642	31GG20	N/b	21	20	8	6.895				
565	31GG3	N/b	14	14	8	7.118			643	30GG7	N/b	24	21	18	6.967	調査資料			
566	31GG3	N/b	14	11	7	7.132			644	30GG1-6	N/b	28	17	5	6.854				
567	31GG3-4	N/b	23	22	18	7.105			645	30GG2	N/b	28	27	23	7.043				
568	31P23	N/b	20	15	7	7.002			646	30P22	N/b	19	17	14	7.035				
569	31P23	N/b	19	14	5	6.940			647	30P22	N/b	19	15	7	7.052				
570	31P22	N/b	14	12	3	6.983			648	30P22	N/b	20	18	17	6.963				
571	31GG19	N/b	17	14	4	7.033			649	30P22	N/b	26	20	23	6.829	土壌調査			
572	31GG14	N/b	16	15	4	7.098			650	30P22	N/b	32	17	37	6.489				
573	31GG13-14	N/b	23	12	6	6.996			651	30P17-22	N/b	20	29	29	6.973				
574	31GG8	N/b	26	24	17	6.970			652	30P22	N/b	20	14	7	6.918				
575	31GG24	N/b	22	20	9	6.818			653	30P17-22	N/b	22	31	12	7.041				
576	31GG2	N/b	25	23	16	6.882			654	30P23	N/b	24	20	22	7.076				
577	31P22	N/b	22	20	9	7.002			655	30P23	N/b	20	17	23	6.759				
578	31HH4	N/b	22	20	9	7.002			656	30P23	N/b	27	26	15	6.984				
579	31HH4	N/b	20	17	10	7.014			657	30P17	N/b	19	18	9	7.096				
580	31HH2	N/b	16	12	6	6.919			658	30P11	N/b	22	17	10	7.046				
580	31HH1	N/b	20	17	19	6.922			659	30P16-21	N/b	26	22	38	7.052				
581	31GG19	N/b	20	17	41	6.994			660	30P16	N/b	24	22	28	7.026				
582	31GG18	N/b	19	18	4	7.072			661	30P21	N/b	21	30	44	6.835				
583	31GG19	N/b	23	12	5	6.996			662	30P21	N/b	22	20	10	7.026		<P64		
584	31GG7	N/b	20	16	4	6.740			663	30P21	N/b	24	22	12	6.976				
585	31GG3-3	N/b	14	18	6	6.855			664	30P21	N/b	34	33	11	7.095	調査資料	>P62		
586	31P16	N/b	26	18	12	6.723			665	30P21	N/b	19	18	6	7.020				
587	31P21	N/b	28	26	11	7.055			666	29GG5, 30GG1	N/b	26	22	36	6.889				
588	30P20	N/b	19	18	4	7.033			667	30GG1	N/b	27	28	15	6.967				
589	30P20	N/b	18	13	6	7.044			668	29P25	N/b	20	18	9	6.871				
590	30P20	N/b	29	26	15	7.072			669	29P25	N/b	24	20	14	7.035				
591	30GG19-20	N/b	20	27	16	6.803			670	30P15	N/b	14	13	16	7.096				
592	30GG19	N/b	18	16	13	7.050			671	30P11	N/b	23	20	9	7.143				
593	31GG4	N/b	20	13	3	7.046			672	30P14	N/b	21	18	16	7.068				
594	30GG14	N/b	19	18	10	6.996			673	29P19	N/b	40	32	14	6.944				
595	30GG19	N/b	20	25	19	6.976			674	29P19	N/b	24	22	15	7.047				
596	30GG18	N/b	20	18	9	7.044			675	30P19	N/b	20	19	18	6.758				
597	30GG14	N/b	25	20	7	6.982			676	29P14	N/b	26	24	33	6.965				
598	30GG13	N/b	19	14	12	6.934			677	30GG1	N/b	23	19	13	7.113				
599	30GG13	N/b	19	16	23	6.975			678	29P27	N/b	24	28	9	6.940				
600	30GG12	N/b	48	34	21	6.868			679	29P11	N/b	15	14	5	6.931				
601	30GG13	N/b	28	24	35	6.745			680	29P25	N/b	26	26	6	7.101				
602	30GG9	N/b	26	25	14	7.002			681	29P22	N/b	18	17	5	7.123				
603	30GG15	N/b	21	19	9	7.053			682	29P21	N/b	26	23	26	7.113				
604	30GG14	N/b	22	21	7	7.108			683	29P21	N/b	18	16	10	7.079				
605	30GG8-13	N/b	21	15	5	7.079			684	29P21	N/b	18	17	5	7.054				
606	30GG13	N/b	28	27	28	7.084			685	29P21	N/b	15	14	3	6.983				
607	30GG8	N/b	24	23	16	6.859			686	29P21	N/b	17	12	6	6.988				
608	30GG5	N/b	14	13	6	7.042			687	29P21	N/b	14	12	5	7.149				
609	30GG3	N/b	24	13	11	7.081													

観 察 表

A区 ビット観察表(4)

測線 No.	位置	検出方位	埋設 (cm)			直上 深度 (m)	出土遺物	切り合い	備考	測線 No.	位置	検出方位	埋設 (cm)			直上 深度 (m)	出土遺物	切り合い	備考
			上端 初層	上端 終層	深さ								上端 初層	上端 終層	深さ				
688	30GG3	N/b	27	18	9	7.173	土層連続 遺物/否 直上埋付 跡/概形	P021		809	31EE31	N/b	39	32	16	7.086			
689	30GG2	N/b	13	12	7	7.119			812	32DD16	N/b	21	16	8	6.678				
690	30PF22	N/b	20	16	10	7.090			813	32DD16	N/b	18	16	5	6.854				
691	29PF25, 30PF21	N/b	35	34	16	6.931			814	32DD21-22	N/b	27	23	8	6.970				
692	29PF25	N/b	34	22	10	6.822			816	31DD10	N/b	18	17	11	6.903				
693	30GG1	N/b	19	16	12	7.188			817	31DD10, 32DD16	N/b	18	18	29	7.042				
694	31GG16	N/b	15	11	3	7.099			818	31DD5	N/b	36	31	35	6.780				
695	31GG16	N/b	18	15	4	6.893			819	31DD24-25	N/b	29	22	5	6.947				
696	31GG17	N/b	22	20	8	7.168			823	31DD22	N/b	18	17	6	6.990				
697	31GG5	N/b	16	12	4	7.098			824	30DD15, 31DD11	N/b	32	30	22	6.960	<SK70			
698	31GG5	N/b	20	19	7	7.077			825	31DD06	N/b	12	7	4	6.848				
699	31GG10	N/b	24	20	11	6.875			826	30DD9	N/b	18	14	5	6.888				
700	29Z21	N/a	35	27	28	6.904			827	30DD17-18	N/b	66	50	12	6.265				
701	29Z16	N/a	27	22	11	6.968			828	30DD13	N/b	40	38	27	6.864				
702	29Z17	N/a	33	26	16	6.905			829	30DD13	N/b	14	13	20	7.081				
703	29Z17	N/a	19	19	13	6.902			830	30DD19	N/b	32	28	21	6.895				
705	29Z22	N/a	31	23	11	6.853			831	30DD20	N/b	20	19	27	6.900				
706	29AA6-7	N/a	25	22	14	7.144			833	30DD25	N/b	72	54	19	6.982				
707	29AA7	N/a	26	21	13	7.113			836	30DD23	N/b	45	40	28	6.830				
708	29AA7-12	N/a	22	20	17	7.003			837	31EE4	N/b	24	24	7	7.024				
709	29AA11- 12-16-17	N/a	39	32	31	6.971			838	31EE4	N/b	42	30	8	6.997				
720	29B82	N/a	34	30	21	7.056		<SK415	846	31EE12	N/b	31	26	16	6.794	土層連続 遺物			
727	29B88	N/a	30	28	11	7.031			847	31EE33	N/b	22	15	7	7.130	土層連続 遺物			
729	29B82	N/a	31	24	16	6.983			849	30EE35, 31EE11	N/b	17	16	12	7.123				
730	29B82-3	N/a	29	27	13	7.043			850	30EE35	N/b	32	34	13	6.901				
731	29AA23	N/a	48	38	30	7.094	埋設種類		851	31EE31	N/b	22	28	10	6.824				
733	29AA13	N/a	37	30	20	7.070		>SD943	853	31EE38	N/b	22	18	9	6.669				
734	29AA14	N/a	27	25	17	7.069			854	30PF19	N/b	19	14	13	6.945				
735	29AA13	N/a	26	24	12	7.099			855	30PF19	N/b	17	13	11	6.852				
736	29AA13	N/a	29	23	21	7.076			857	31EE16	N/b	34	16	8	6.793	>PB61			
738	29AA19	N/a	25	20	12	7.068			859	31EE16	N/b	21	19	7	6.804				
739	30AA14	N/b	29	29	22	6.971			860	31EE16	N/b	22	22	11	6.861				
740	30AA6	N/b	23	23	12	6.654			861	31EE21	N/b	30	22	8	6.818	<PB57			
741	30AA11	N/b	20	17	13	7.162			862	31EE16-21	N/b	37	35	15	6.693				
742	30AA12-17	N/a	22	21	14	7.195			863	31EE21	N/b	20	15	5	6.971				
743	29AA24	N/a	29	26	20	7.068			864	31EE22	N/b	16	15	8	6.961				
745	29AA21	N/a	31	26	26	7.056			865	31EE22	N/b	20	16	11	7.088				
747	30AA21	N/b	20	18	14	7.088			866	31EE22	N/b	19	17	8	7.000				
748	30B81	N/a	30	29	10	7.088			867	31EE22	N/b	25	17	9	6.786				
749	29B810	N/a	25	22	20	6.982			868	30EE25, 31EE21	N/b	28	19	7	6.724				
750	29B810	N/a	30	25	14	7.010			869	30EE25	N/b	34	29	12	7.148				
751	29B810	N/a	23	19	11	7.005			870	30EE25	N/b	26	20	7	6.863				
753	29B810	N/a	29	25	44	7.035			872	31EE21-22	N/b	63	46	14	7.015				
754	29B810	N/a	29	25	18	7.108			873	31PF2	N/b	26	21	5	7.123				
755	29B89-10	N/a	20	15	7	6.743			874	31PF2	N/b	21	19	4	7.042				
756	30B86	N/b	25	21	10	6.677			875	31PF2	N/b	30	20	6	6.977				
757	29B815	N/a	22	20	14	7.128			876	31PF1	N/b	50	35	5	6.884				
758	29B815	N/a	30	21	15	7.179			877	31PF1	N/b	15	14	6	6.755				
761	30B82	N/b	25	24	30	7.143			878	31PF1	N/b	43	27	7	6.695				
762	30B82	N/b	29	25	13	7.097			879	31PF1	N/b	21	20	8	6.920	土層連続 遺物/否又 埋付161			
763	30AA23	N/b	46	39	18	6.819			880	31EE8	N/b	30	20	14	7.072				
764	30AA23	N/b	27	23	7	7.006			882	31CC23	N/b	34	30	44	6.754				
766	30B84	N/b	29	28	15	6.832			885	31DD10	N/b	20	15	4	6.895				
774	30B813	N/b	26	21	25	7.138			886	31DD10	N/b	18	16	2	6.810				
775	30B813	N/b	33	24	15	6.960			887	31DD8	N/b	25	17	9	6.904				
776	30B823	N/b	25	23	45	7.136			888	31DD9	N/b	25	24	12	6.393	>SK1073 >SD899			
777	30B823	N/b	34	28	19	6.916			890	31PF2	N/b	23	21	5	6.763				
784	30B812-12	N/b	31	28	7	7.027		>PB60	891	31PF1-2	N/b	20	15	5	6.700				
786	30B817	N/b	18	13	4	7.055		<PB84	892	31PF1	N/b	15	12	4	6.724				
790	30B819	N/b	22	20	9	6.988			893	31PF2	N/b	18	15	5	6.653				
791	30B814	N/b	25	24	23	7.045			897	30GG7-12	N/b	28	26	24	6.558				
792	30B820	N/b	27	25	13	7.253			898	30PF19 敷土	N/b	44	40	26	7.068	>SD101			
795	30B826, 31B810	N/b	30	29	44	6.932			904	30B817	N/b	66	30	13	6.994				
798	30B818	N/b	70	37	23	6.956			905	30CC2	N/a	26	23	32	6.832				
800	31GG10	N/b	28	19	6	7.075			906	30B823	N/b	24	19	16	7.021				
801	31PF24	N/b	25	21	22	6.714	<SK1008		907	30B821	N/b	25	20	8	7.001				
802	31PF25	N/b	38	35	20	7.056	>SK1008		910	29AA24	N/a	29	28	40	6.975	溝掘り付 跡104			
803	31PF9	N/b	35	25	7	7.096			911	30AA2	N/b	22	19	41	6.950				
804	31CC8	N/b	17	16	4	6.842			912	30B822-23	N/b	29	27	9	7.130	<SD780			
805	30PF18	N/b	16	13	2	7.088			914	30CC10	N/a	22	19	11	6.992				
806	30PF18	N/b	21	18	9	7.120			915	31CC15	N/a	58	51	15	6.839	土層連続 遺物			
807	31EE13	N/b	18	17	4	7.021	土層連続 遺物		916	31CC15	N/b	25	24	24	6.765				
808	31EE6	N/b	34	32	16	6.986			920	31B810	N/b	32	26	7	6.892				

A区 ビット観察表(5)

通称 No.	位置	検出部位	間隔 (cm)			直上 高さ (m)	出土遺物	切り合い	備考
			上層 長	上層 短	深さ				
921	31CC3	Nv	21	19	19	6.881			
923	31B017	Nv	84	62	41	6.856	土師器類		
927	31B019	Nv	27	26	23	6.820	土師器類		
929	31CC1-2	Nv	29	26	23	6.844			
933	30CC20	Nv	28	27	19	6.825	須賀器類 <SK934		
938	31B016-21	Nv	36	28	17	6.595			
939	31CC9	Nv	40	38	44	6.781	<SD017		
942	31CC6	Nv	25	24	11	6.568			
946	30CC17	Nv	23	22	9	6.826			
947	31CC7	Nv	23	21	13	6.854			
949	31B022	Nv	27	25	46	6.707			
950	31CC1	Nv	28	25	13	6.724			
951	28D03-4, 28CC23-24	Nv	56	50	51	6.745			
952	28D03	Nv	16	10	33	6.757	>SK956		
953	28CC25	Nv	26	24	24	7.134			
954	28CC28	Nv	35	29	21	6.971			
955	28CC28	Nv	28	26	14	7.019			
957	28CC19	Nv	34	29	33	7.023			
959	31CC2	Nv	22	21	22	6.792	>SD983		
963	31CC3	Nv	28	24	23	6.900	>SK973		
966	28E04	Nv	23	18	16	6.837			
967	28CC18	Nv	22	19	18	6.980			
969	28CC15	Nv	25	20	18	6.896			
970	30CC4	Nv	28	26	24	6.903			
971	30CC3-4	Nv	26	21	31	6.864			
972	31CC6	Nv	28	22	13	6.825			
974	31B021	Nv	22	20	20	6.735	須賀器類 <SK968		
979	31CC14	Nv	25	24	24	6.906			
980	31CC14-19	Nv	33	32	26	6.923			
981	30D016-21	Nv	65	61	12	6.934	>P965		
986	31CC13	Nv	26	24	23	6.925			
987	31CC13	Nv	28	24	24	6.971			
990	31CC8	Nv	24	14	21	6.918	<SK973		
991	31CC8	Nv	35	32	36	6.843	>SK973		
993	28E09	Nv	13	13	9	6.787			
994	28E04	Nv	25	24	9	6.848			
995	28E03	Nv	36	31	27	6.805	土師器類		
996	28D022	Nv	19	15	9	6.945			
997	28D021	Nv	23	21	9	7.062			
998	28D025	Nv	21	18	7	6.961			
999	28D023	Nv	22	18	19	6.956	土師器類		
1000	28D023-24	Nv	21	14	9	6.907			
1002	30E09-10	Nv	26	18	43	6.872	<P1002		
1003	30E09-10	Nv	26	18	35	6.825	>P1003		
1004	30D014	Nv	45	44	32	6.915	須賀器類		
1005	31E017	Nv	44	(40)	12	6.634	<SK1885		
1010	28E024	Nv	56	47	18	7.028			
1014	33P010	Nv	38	37	12	6.894			
1015	33P013-14	Nv	30	28	36	6.858			
1016	33D021-22	Nv	35	23	22	6.947			
1025	32P15, 33E11	Nv	62	52	21	7.024			
1030	28E030	Nv	43	38	21	6.977	土師器類 土師器 105		
1031	28E14-19	Nv	53	52	16	6.929			
1033	31P011-14	Nv	56	50	12	7.081	須賀器類 <SD101		
1046	30E08	Nv	41	40	15	6.793			
1047	32CC11	Nv	40	39	29	6.977	>SK1007		
1049	28B01-2	Nv	30	28	16	6.917	>SK1327		
1050	30E09	Nv	24	23	25	6.803			
1051	28E01	Nv	19	18	8	6.941			
1052	28D019	Nv	42	40	29	6.903			
1053	28D018	Nv	39	38	18	6.853			
1054	28D019	Nv	24	20	14	6.957			
1055	28D013-14	Nv	35	32	19	7.148			
1057	28E02	Nv	18	16	12	6.854			
1058	31CC8	Nv	50	44	21	6.903	<SD078		
1059	32B014- 17, 21-22	Nv	58	51	34	6.782	<SD1257		
1062	28D014-15	Nv	27	26	15	6.855	土師器類		
1064	28D09	Nv	41	29	16	6.951			
1065	28D02	Nv	23	22	19	6.608			
1066	28D02-3	Nv	28	27	34	6.785			
1067	28D09	Nv	27	21	26	6.712	>P1113		
1068	28D07-8	Nv	31	29	6	6.909			
1069	28D07	Nv	27	26	43	6.620			
1071	28D012	Nv	19	18	8	6.605			
1074	28D012	Nv	40	30	23	6.821			
1075	28D017	Nv	25	25	38	6.928			
1076	28D021	Nv	19	15	5	6.561			
1077	28D021	Nv	21	20	7	6.385			
1078	28E03	Nv	34	28	51	6.613			
1079	31E03	Nv	35	32	13	6.805	>SD1110		
1082	27D015	Nv	23	20	22	6.404			
1083	27D015	Nv	36	34	38	6.628			
1084	27D015	Nv	26	23	9	6.608			
1085	28CC23	Nv	47	26	31	6.805			
1086	28CC18-23	Nv	20	18	31	7.119			
1087	28CC18	Nv	34	33	31	6.709			
1088	28CC18	Nv	26	23	23	6.644			
1089	28CC19	Nv	25	19	27	6.403			
1090	28CC14	Nv	23	21	43	6.767			
1091	28CC12	Nv	29	25	14	6.464			
1092	29D01	Nv	25	22	21	6.950			
1093	29D022	Nv	22	21	10	6.866			
1094	30B012	Nv	22	20	14	6.855			
1097	27D014	Nv	46	40	22	7.118			
1098	28D07	Nv	32	30	34	6.967			
1100	31CC8-11	Nv	28	28	12	6.977			
1101	30CC13	Nv	30	29	18	6.959			
1102	30CC9	Nv	26	25	27	6.440			
1103	31CC6	Nv	28	15	6	7.009			
1104	31CC6	Nv	27	27	22	7.066			
1105	28CC7-12	Nv	47	47	12	7.164			
1107	28CC13	Nv	45	40	35	6.879			
1109	27D013	Nv	39	36	15	7.007			
1111	28CC14	Nv	24	22	17	7.129			
1112	28CC14	Nv	22	20	19	6.956			
1113	28D03	Nv	20	(13)	8	7.043	<SK1095, P1067		
1114	28D012	Nv	28	25	30	7.088			
1115	28D012	Nv	31	25	37	7.035			
1116	27D09	Nv	27	25	28	6.796	>SD1096, <SD1320		
1117	28CC23	Nv	61	45	18	6.803	<SD1320		
1118	28CC23, 28D03	Nv	25	21	22	6.778			
1119	28CC23, 28D03	Nv	20	18	26	6.888			
1120	28CC23	Nv	26	24	16	7.108			
1122	28D02	Nv	27	25	69	6.816			
1123	28CC22	Nv	29	26	29	6.843	>SD1121		
1124	28CC22	Nv	29	26	21	6.879	>SD1121		
1126	28CC13-18	Nv	30	25	27	7.057	>SD1121		
1127	28CC18	Nv	32	28	35	7.092	<SD1320		
1128	28CC22	Nv	32	31	25	6.852	>SD1121		
1129	28CC22	Nv	28	24	23	7.000	<SD1320		
1130	28CC22, 28D02	Nv	30	30	45	6.931	<SD1320		
1131	28D017	Nv	(20)	(16)	8	7.054	<SD1066		
1132	28D07	Nv	17	13	8	7.106			
1133	28B07-8	Nv	60	51	12	7.044			
1135	30B012	Nv	20	16	7	6.832			
1136	28B014	Nv	32	25	21	6.682			
1138	30B013-14	Nv	19	18	14	6.852			
1139	30B01	Nv	31	25	30	6.859			
1140	28B05	Nv	29	25	13	6.861			
1141	30B04	Nv	19	18	14	6.808			
1142	30B04	Nv	35	29	20	6.893	削付丸石 106		
1144	30B010	Nv	20	18	26	6.747			
1145	28B010	Nv	24	19	6	7.001			
1149	30B06	Nv	17	16	16	6.650			
1151	28AA25	Nv	18	15	4	6.752			
1152	28AA25	Nv	28	25	23	6.650			
1153	28AA25	Nv	33	30	22	6.962			
1154	28AA25	Nv	29	20	8	6.654			
1156	28B04-25	Nv	33	30	2	7.115			
1159	28B019	Nv	23	22	22	6.893			
1160	28B019	Nv	21	20	13	7.021			
1161	28B019	Nv	30	25	37	7.137			
1162	28B019	Nv	38	34	24	6.965	須賀器類 須賀器 108		
1163	28B018	Nv	39	29	18	7.082			
1164	28B018	Nv	34	25	15	7.060			
1166	28B013	Nv	40	20	10	7.153			
1169	28B010	Nv	38	(37)	44	7.135	<P1314		
1171	28B08	Nv	33	24	16	7.133	<SD415		
1172	28B02-7	Nv	33	28	29	7.056			
1175	28B04-9	Nv	22	19	31	7.100	<SD415		
1176	28B02-3	Nv	31	26	17	7.112	<SD415		

観 察 表

A区 ビット観察表(6)

通称 No.	位置	検出方位	距離 (cm)		直上 距離 (m)	直上土建物 切り合い	備考	通称 No.	位置	検出方位	距離 (cm)		直上 距離 (m)	直上土建物 切り合い	備考
			上層 鉛直	深達							上層 鉛直	深達			
1177	28AA25	N/A	19	18	23	6,915		1301	29AA6	N/A	31	26	21	6,796	
1178	28AA24	N/A	20	27	26	6,949		1302	29AA6	N/A	30	28	33	6,869	
1180	28AA24	N/A	24	20	13	6,919		1304	29AA13	N/A	26	21	18	6,844	
1182	28AA25- 28B03	N/A	33	32	29	7,017		1305	29AA17	N/A	19	17	8	6,765	
1183	28AA23	N/A	29	27	26	6,811		1307	29AA11	N/A	26	24	32	6,856	
1188	28AA14	N/A	28	21	11	7,043		1308	29AA11	N/A	30	28	19	6,706	
1189	28AA10	N/A	25	21	11	6,941		1309	29AA7	N/A	27	33	30	6,713	
1190	28AA10	N/A	32	28	17	7,000		1312	28B03	N/A	30	36	44	6,643	
1191	28AA5-10	N/A	23	29	16	7,002		1313	28B03-8	N/A	22	20	14	6,563	<SD415
1192	29AA1	N/A	27	15	18	6,894		1314	28B010	N/A	26	25	23	6,533	>P1169
1193	29AA2-3	N/A	42	38	24	6,903		1315	28B03	N/A	27	31	37	6,705	土建物壁
1194	29AA2-3	N/A	25	21	24	7,077	土建物壁	1317	28AA11-16	N/A	40	32	9	6,674	
1198	29AA8	N/A	38	33	22	7,000		1323	29AA22	N/A	35	32	21	6,455	
1200	31D018	N/A	40	25	7	7,035		1324	29AA18	N/A	34	33	17	6,663	
1201	32D01	N/A	30	28	19	7,043		1325	28B013	N/A	27	26	9	6,620	
1203	32D02	N/A	24	18	14	7,007		1326	28AA13	N/A	23	21	21	6,625	<SD406
1204	32D02	N/A	58	24	14	6,980	土建物壁 壁								
1206	31CC19-20	N/A	24	(20)	39	7,138	<P1544	1330	28B06-7- 11-12	N/A	49	46	20	6,640	緊急避難 /覆工土 建物上 部壁 /高層
1216	31B012-13	N/A	33	32	38	6,923		1331	28B011	N/A	52	38	16	6,687	
1217	31B09	N/A	34	30	24	6,875		1333	27B02	N/A	36	32	27	6,676	
1218	31B08	N/A	32	30	12	7,050		1336	29AA11	N/A	25	22	53	6,639	
1219	31B08	N/A	27	26	17	7,004		1341	28AA2	N/A	36	26	13	6,807	
1221	31B08	N/A	23	22	17	7,107		1345	27AA3	N/A	24	17	9	6,866	
1224	31B05	N/A	21	20	4	6,828		1346	29AA8	N/A	24	19	25	6,821	
1225	31B07	N/A	42	32	15	7,008		1349	29AA17-22	N/A	25	21	36	6,892	
1227	31B012	N/A	32	31	33	7,075	土建物壁	1351	28C13	N/A	32	28	20	7,059	<SD1320
1229	31B011	N/A	34	29	16	6,947		1352	28C13	N/A	36	32	43	7,211	<SD1121
1230	30B010	N/A	37	35	26	6,929		1353	28C13	N/A	22	21	16	6,806	<SD1121
1233	31B06-11	N/A	31	29	29	7,122		1354	28C13	N/A	25	24	45	6,922	<SD1121
1234	31B011	N/A	24	24	26	7,106	緊急避難	1355	31B011-22	N/A	40	34	30	7,002	
1235	31B07	N/A	38	35	34	7,116		1358	29AA18	N/A	22	20	18	6,747	<SD713
1238	31B01	N/A	27	21	40	7,057		1359	31CC12	N/A	20	18	31	6,921	
1240	31AA24-5	N/A	36	26	21	6,903	土建物壁	1360	31CC7	N/A	26	24	14	7,024	
1241	31AA24- 31B04	N/A	29	24	26	7,082	土建物壁	1361	31CC11	N/A	22	15	12	7,017	
1244	31AA21-22	N/A	37	29	23	6,690		1362	28E16-21	N/A	24	21	12	6,556	>SR1327
1247	31AA21	N/A	30	33	26	7,094		1367	30B011	N/A	22	20	10	6,966	
1248	31AA23	N/A	24	24	23	6,951		1369	30CC9	N/A	(44)	(19)	24	6,920	
1250	31AA12-17	N/A	29	24	18	6,905	土建物壁	1371	30B019	N/A	44	36	17	6,698	
1252	31AA23	N/A	01	31	61	6,916		1372	29B02	N/A	52	50	61	7,018	
1255	31AA18	N/A	46	30	32	6,991		1373	30FF4	N/A	19	(10)	14	7,055	=R3071
1258	31AA12	N/A	36	26	33	7,016		1400	31AA23	N/A	26	24	9	7,000	土建物壁
1259	31AA16	N/A	40	39	34	6,990		1401	31AA23-24	N/A	14	14	10	6,980	
1260	31AA22	N/A	29	27	36	7,096		1402	31AA23-24	N/A	48	41	31	6,967	
1265	31AA18	N/A	34	31	32	6,909		1403	31AA24	N/A	31	26	17	7,002	
1267	32B02	N/A	43	32	29	6,817		1404	31AA24	N/A	16	13	5	6,977	
1269	31B04	N/A	34	30	22	6,847		1405	31AA14	N/A	46	44	23	6,549	土建物壁
1270	31B05	N/A	23	20	11	6,912		1406	31AA13	N/A	18	17	13	6,544	
1271	31AA25	N/A	27	22	14	6,323		1407	31AA12-13	N/A	16	16	13	6,516	
1272	31AA24	N/A	29	29	22	6,647		1408	31AA12	N/A	26	24	15	7,136	
1273	31B010	N/A	38	35	29	6,454		1409	31AA7-12	N/A	33	30	40	7,134	
1274	31B03	N/A	42	29	27	6,480		1410	31AA1-6	N/A	32	24	18	7,080	<SK1B03
1275	31B09	N/A	23	20	31	6,548		1411	31AA6	N/A	18	17	20	7,092	<SK1B03
1276	32B011	N/A	30	28	29	6,317		1412	31AA6	N/A	17	15	14	7,078	<SK1B03
1278	32B02	N/A	35	26	52	6,858	>SR1007	1416	30E18	N/A	28	16	25	7,025	
1279	31B03	N/A	28	26	13	6,825		1418	30E12	N/A	32	29	27	7,124	
1280	31B03	N/A	28	25	21	6,833		1422	30AA18	N/A	26	23	35	6,851	
1281	31B02	N/A	41	30	28	6,769		1423	30A18	N/A	26	25	32	6,916	
1282	31B02	N/A	36	25	24	6,823		1424	30AA18	N/A	24	22	26	6,854	
1283	31B07	N/A	24	18	14	6,524		1426	32B016	N/A	24	15	17	6,733	
1284	31B01	N/A	33	28	18	6,601	>P1862	1428	32B012	N/A	31	29	14	6,620	
1285	31B01	N/A	25	23	21	6,859		1429	30AA15, 31AA11	N/A	30	28	30	6,852	
1286	31B01	N/A	22	18	9	6,860		1430	30AA15, 31AA16	N/A	29	27	14	7,030	
1287	31B01	N/A	32	31	38	6,570		1432	31B04	N/A	29	(19)	(13)	6,911	<P1220
1288	31B06	N/A	25	19	21	6,763		1434	31B015	N/A	35	32	16	7,054	土建物上 部壁
1289	31B06	N/A	19	14	12	6,750		1435	32B06	N/A	27	25	9	7,108	
1290	31B01	N/A	24	21	21	6,329		1436	31B014	N/A	31	31	15	7,044	珠海境 92ノ工 土建物壁 /引
1291	30B010	N/A	27	23	20	6,459		1437	31B014-15	N/A	38	33	47	6,765	>P1601
1292	30AA25, 31AA21	N/A	35	32	20	6,425		1440	32E05, 32E025	N/A	31	24	35	6,832	
1293	30AA25	N/A	19	18	29	6,481		1450	29AA8-9	N/A	29	25	32	6,822	
1294	30AA25	N/A	19	18	20	6,411		1500	26V25	N/A	27	26	5	6,880	
1295	31AA21- 31B01	N/A	24	22	18	6,440		1501	28X8	N/A	24	19	5	6,832	
1296	31AA21	N/A	16	14	5	6,428									
1297	31AA12	N/A	16	16	10	6,929									
1298	31AA18	N/A	24	23	38	6,888	<SK1881								
1299	31AA18	N/A	30	28	31	6,903	<SK1881								
1300	29AA6	N/A	24	22	15	6,909									

A区 ビット観察表(7)

通称 No.	位置	検出単位	幅幅 (mm)		直上 標高 (m)	直上建物	切り合い	備考	通称 No.	位置	検出単位	幅幅 (mm)		直上 標高 (m)	直上建物	切り合い	備考
			上端 距離	下端 距離								上端 距離	下端 距離				
1502	28X15	N/a	16	12	8	6.859		1588	30GG15	N/b	18	15	6	7.107			
1503	28X15	N/a	36	27	6	6.861		1589	30GG13-18	N/b	20	16	37	6.658			
1504	28X20	N/a	35	21	13	6.859		1590	30GG19-20	N/b	30	20	36	6.702			
1505	28X24	N/a	53	48	11	6.803		1591	30GG14-19	N/b	15	16	11	7.058			
1506	28X17	N/a	33	26	7	6.853		1592	30GG25	N/b	25	22	11	7.075			
1507	29V3	N/a	30	29	11	6.747		1593	31BH7-12	N/b	26	25	13	7.056			
1508	30Z19	N/a	23	20	8	7.001		1594	33P97-8	N/b	26	24	17	6.947			
1509	31AA13	N/b	20	14	7	7.081		1595	33P91-6	N/b	20	17	25	6.929			
1510	31AA23	N/b	23	16	19	6.897		1596	33P94	N/b	27	25	6	7.094			
1511	31AA25	N/b	36	33	36	6.813		1597	33P96	N/b	18	17	4	7.122			
1512	28Y24	N/a	25	22	7	6.850		1598	33P99	N/b	23	22	3	7.106			
1513	28Y25	N/a	25	20	7	6.671		1599	33P99-14	N/b	21	20	3	7.116			
1514	28Y21	N/a	29	20	10	6.752		1600	34P91	NK1884 直上	21	14	7	6.928		<SK1884	
1517	27AA4-9	N/a	14	12	4	6.400		1602	31BH14	N/b	15	13	12	7.057		<P1436	
1520	28Z21	N/a	7(6)	62	21	6.562		1604	31BH14-19	N/b	22	20	14	6.993			
1521	28AA1	N/a	24	17	8	6.654		1606	30AA1	N/b	23	17	9	7.062			
1526	28C20	N/a	49	32	48	6.652		1610	30AA3-8	N/b	18	13	22	6.852			
1527	28F99	N/a	21	19	8	7.115		1611	31AA2	N/b	28	28	46	6.600			
1528	32C14	N/b	30	28	33	6.893		1612	31AA8	N/b	48	38	18	7.004			
1529	32C25	N/b	30	27	9	7.021		1614	30Z12-13	N/a	51	31	9	6.961		<SD1616	
1530	32C22	N/b	30	18	6	7.137		1615	30Z17	N/a	72	31	12	6.905		<SD1616	
1531	32D09	N/b	23	22	17	6.995		1617	31AA18	N/b	21	19	14	6.916		<SK1881	
1532	32D014	N/b	21	19	8	7.082		1621	30AA19	N/b	29	27	36	6.796			
1533	32D10	N/b	53	46	5	7.080		1622	29BH14	N/a	19	18	16	6.961			
1534	32D06	N/b	24	14	5	7.124		1624	29BH13	N/a	20	19	13	7.018			
1535	32D025	N/b	22	17	2	7.153		1625	29BH14	N/a	23	21	18	6.995			
1536	32D024	N/b	23	19	10	7.072		1626	29BH15	N/a	15	13	8	7.090			
1537	32E05	N/b	20	17	5	7.135		1627	29BH15, 30BH11	N/a	32	30	16	6.978			
1538	32F04	N/b	28	25	8	7.011		1628	31B02	N/b	26	24	21	6.907		上層階	
1541	33E17	N/b	30	27	5	7.133		1629	31AA2	N/b	18	16	14	6.807			
1542	33F16	N/b	30	18	10	7.056		1630	29AA10	N/a	31	30	32	6.761			
1543	31C20	SD1021 直上1層	16	15	23	6.898		1631	31AA17	N/b	22	17	20	6.924			
1544	31C19-20	N/b	36	21	9	6.994		1632	31AA22	N/b	25	21	31	6.817			
1545	32C24	N/b	30	18	9	7.100		1633	31B08	N/b	29	28	12	7.017			
1546	31C15	SD1044 直上	38	22	15	7.112		1635	30Z18	N/a	27	19	27	6.847		<P1634	
1547	31D04	SD1082 直上	34	22	18	6.915		1636	31AA24, 31B04	N/a	33	18	32	6.912			
1548	31D03	SD1082 直上	26	24	8	6.949		1640	28Z22	N/a	23	23	39	6.823			
1549	31D02	SD1082 直上	32	21	12	6.859		1647	28AA1	N/a	23	21	11	6.647			
1550	31D00	SD1082 直上	44	41	10	6.919		1649	28Z6	N/a	18	15	13	6.654		>SR1327	
1551	31D02	N/b	17	15	18	6.945		1650	28AA1	N/a	61	46	8	6.646			
1552	31D02-3	N/b	38	36	14	7.017		1652	28AA1	N/a	33	27	18	6.968			
1553	30E01	N/b	48	38	37	6.811		1654	27Z10	N/a	29	22	31	6.317		>P1655, SK1327	
1555	30E03	N/b	27	27	17	6.923		1656	28Z6	N/a	22	20	14	6.497		>SR1327	
1556	30E08	N/b	28	24	9	7.027		1659	28X24	N/a	24	17	4	6.858			
1557	30E08	N/b	38	34	55	6.879		1664	28X22-23	N/a	69	40	11	6.825			
1558	30E04	N/b	19	16	7	7.092		1666	28X13-18	N/a	27	26	11	6.833			
1559	30E09	N/b	17	16	16	7.043		1667	28X8	N/a	42	35	10	6.769			
1560	30E08-9	N/b	14	13	15	6.941		1668	28X13	N/a	18	16	4	6.883			
1561	30E15	N/b	28	28	10	7.000		1670	28Y2	N/a	27	23	34	6.524			
1562	30E14	N/b	44	40	10	7.002		1671	27X25	N/a	40	35	28	6.601			
1563	30E12-17	N/b	32	29	25	6.894		1672	28X4	N/a	21	18	4	6.859			
1564	30E11	N/b	23	19	25	6.903		1673	27Y9-14	N/a	29	27	8	6.860			
1565	30E12	N/b	26	18	4	7.077		1675	28Y2	N/a	25	24	30	6.570			
1566	30E11	N/b	19	17	16	6.967		1676	27X19	N/a	28	24	14	6.763			
1567	30E11	N/b	27	16	8	7.067		1677	27Y9	N/a	19	18	15	6.750			
1568	30E12	N/b	18	18	12	7.023		1681	31BH23-9	N/b	28	23	52	6.742			
1569	30E17-22-25	N/b	44	38	15	7.000		1697	27Z23-24	N/a	35	34	38	6.329		>SR1327	
1570	30E21	N/b	30	16	13	6.993		1699	27Z25	N/a	24	21	27	6.450			
1571	30E21	N/b	16	13	10	7.035		1700	27Z25	N/a	32	27	29	6.425			
1572	30E22	N/b	25	21	6	7.043		1701	27AA4	N/a	35	27	13	6.488		>SR1327	
1573	30E22	N/b	22	14	8	7.048		1702	27AA4-9	N/a	21	18	7	6.411		>SR1327	
1574	30E22	N/b	16	12	9	7.007		1704	27Z25	N/a	47	34	20	6.460		>SR1327	
1575	30E22	N/b	22	17	12	6.980		1707	27AA14	N/a	22	19	9	6.428		>SR1327	
1577	29E10	N/b	14	13	3	7.138		1713	31CC19	N/a	28	25	9	6.929		<P1714	
1578	28B05	N/b	14	13	23	6.839		1714	31CC19	N/a	28	26	17	6.886		>P1713	
1579	29E04	N/b	21	16	10	7.093		1715	31CC19	N/b	25	24	20	6.903			
1580	30P94	N/b	30	17	4	7.113		1716	31CC20	N/b	30	30	25	6.909			
1581	30P99	N/b	22	21	21	6.905		1717	31CG3	N/b	35	30	33	6.796		上層階	
1582	30P98	N/b	24	24	6.885		1721	26W5	N/a	18	17	10	6.869		<SD1320		
1583	30P11-12	N/b	30	17	17	6.933		1722	28CC24-25	N/a	19	16	4	6.712		>SD3066	
1584	30P12	N/b	22	21	22	6.873		1726	27V13	N/a	30	27	31	6.544			
1585	30P20	N/b	21	20	8	7.050		1731	27V16	N/a	26	25	21	6.763			
1586	31P17	N/b	26	23	8	7.054		1732	27V16	N/a	51	47	8	6.879			
1587	29P24	N/b	28	26	22	6.894		1733	27V16	N/a	27	23	12	6.856			
								1734	27V13, 26V25	N/a	30	27	24	6.706			
								1735	26V25, 27V21	N/a	20	16	28	6.713			

観 察 表

A区 ビット観察表(8)

通称 No.	位置	検出単位	層厚 (cm)		底面 深さ (m)	出土遺物	切り合い	備考	通称 No.	位置	検出単位	層厚 (cm)		底面 深さ (m)	出土遺物	切り合い	備考
			上層 厚	下層 厚								上層 厚	下層 厚				
1756	27V21	N/a	27	22	16	6,820			1813	33E323	N/b	21	16	8	7,120		
1757	27V22	N/a	22	22	23	6,713			1814	33E321	N/b	20	14	7	7,127		
1758	27V22	N/a	27	27	41	6,645			1815	33E321	N/b	22	17	7	7,127		
1759	27V7	N/a	20	27	45,643				1816	32E325	N/b	16	11	11	7,043		
1760	27V24	N/a	22	20	36	6,533			1817	32E325	N/b	20	18	5	7,123		
1761	27W1	N/a	37	31	24	6,706			1819	31E08	N/b	28	25	21	6,966		
1762	27W1	N/a	26	30	10	6,848			1820	31OG19	N/b	22	20	7	7,121		
1763	27W1	N/a	29	28	28	6,674			1821	29FF4	N/b	42	36	22	6,920		
1764	27W1-6	N/a	31	26	29	6,637			1822	29FF9	N/b	21	17	22	6,905		
1766	26W5	N/a	(31)	22	7	6,883		>P1766	1823	29FF20-25	N/b	24	22	56	6,598		>SK166
1766	26W5	N/a	30	25	33	6,603		<P1765	1824	30GG2	N/b	16	14	14	7,018		
1767	27W1	N/a	37	34	50	6,655			1825	30GG1	N/b	12	11	9	7,055		
1768	27W3	N/a	31	29	29	6,653			1826	32GG22	N/b	24	21	14	7,026		
1769	26V25	N/a	19	18	32	6,630			1827	29E38-13	N/b	29	25	25	6,639		>SK071
1771	26W5	N/a	27	24	31	6,625			1828	28E34	N/b	25	18	8	6,672		>SD101
1772	26W10	N/a	19	19	30	6,640		>P1773	1829	31E31	N/b	27	20	16	7,000		
1773	26W10	N/a	30	(26)	25	6,687		<P1772	1830	31E31	N/b	29	25	13	6,980		
1774	26W10	N/a	33	27	36	6,575			1831	31E99-7'	N/b	22	21	15	6,997		
1775	26W16	N/a	25	24	19	6,751			1832	31E32	N/b	26	16	12	7,002		
1778	26W15	N/a	24	23	30	6,629			1833	31E32	N/b	23	16	15	6,977		
1777	26W10-16, 27W6-11	N/a	30	27	36	6,582			1834	28AA22-23	N/a	35	33	24	6,549		
1778	27W17	N/a	21	18	7	6,878			1836	28AA2-2	N/a	39	33	20	6,544		
1779	27W13	N/a	15	14	7	6,845		<SK1687	1837	28AA2-3	N/a	39	37	23	6,516		
1780	21C15	N/b	20	20	6	7,045			1838	29E25	N/b	16	14	5	7,136		
1782	30E03	N/b	25	29	34	6,807		土層露出	1839	30E31	N/b	17	16	4	7,134		
1783	32E017	N/b	25	23	12	7,070			1842	30E36	N/b	23	21	9	7,080		
1784	32E017	N/b	20	17	6	7,109			1843	30E36	N/b	15	14	6	7,092		
1787	32E21	N/b	28	26	18	6,899			1844	29E025, 30E021	N/a	10	15	10	7,078		<P388
1791	32E23-22	N/b	22	21	25	6,866			1845	31E04	N/b	22	21	13	7,047		
1792	31E1, 30E35	N/b	(60)	50	36	6,831		露出層林 <P276	1846	28E20	N/a	27	22	28	6,280		>SK1327
1793	31E31-6	N/b	45	(33)	33	6,850		土層露出層 <P278	1849	32E32	N/b	19	17	20	6,957		白磁 >SK029
1794	31E016-21	N/b	80	68	26	6,928			1851	30E32	N/b	34	30	14	7,025		
1795	31E324	N/b	24	20	16	6,892			1852	33E32	N/b	21	19	6	7,112		
1795	31F95	N/b	41	38	9	7,051			1854	33E38	N/b	19	16	3	7,124		
1799	30E015	N/b	29	26	11	7,059			1855	31E04	N/b	29	28	20	6,961		
1801	30E018	N/b	55	52	45	6,721		土層露出層 <P289	1856	30E32	N/b	33	30	9	7,061		
1802	30E020	N/b	66	64	40	6,806			1858	30E018	N/b	25	22	9	6,993		
1803	29E020	N/a	27	23	24	6,922		露出層林 <SK780	1859	30E018	N/b	20	18	6	6,851		
1804	29A10	N/a	25	23	9	7,002			1860	30E018	N/b	30	29	10	6,916		
1807	31E014	N/b	21	20	11	7,016			1861	30E05	N/b	26	24	13	6,854		
1808	32E03	N/b	13	18	13	7,024			1862	31E01-2	N/b	(33)	26	31	6,872		<P1284
1810	34F91	SK1884 底面	16	15	11	6,921		<SK1884	1863	30E02	N/b	28	27	31	6,723		
1811	34F91-6	SK1884 底面	26	23	6	7,024		<SK1884	1866	29AA19-20	N/b	29	26	20	6,703		
1812	34F91	SK1884 底面	13	11	6	7,017		<SK1884	1870	29AA12	N/b	27	24	17	6,689		
									1871	29AA12-13	N/b	26	27	28	6,620		

A区 土器観察表(1)

胎土の略称: 藍母-1藍, 赤母母-1赤, 黒母母-1黒, 石黒-1黒, 灰石-1灰, 角型G-1角, 海母母-1海母, 白色粉子-1白

検出 No.	出土位置	通称/層位	種類	形状/口縁	口径	高さ	底径	外面色調	内面色調	胎土 分類	胎土 方向	刷毛 痕跡	調整・文様	使用経路	備考
1	29AA2	SE401-7	古瓶	瓶口				7.5YR焼	7.5YR焼	金・赤・黒					黒白磁
2	27E015	SE22 P1099-2	磁器類	瓶内片1	12.0	3.7	9.8	5YR	5YR	A	白多しい・赤・黒				磁器類
3	27E015	SR23 P1099-2	磁器類	有台片1			7.0	NR	NR	A					
4	28AA21	SR1327B1	磁器類	瓶内片1	12.0					N	赤・黒				磁器類
5	28AA16	SR1327B1	磁器類	瓶内片2				7.0YR焼	7.5YR焼	A	長多しい・赤				磁器類
6	28AA16	SR1327B1 2a	磁器類	有台片1	10.8	3.8	7.2	NR	NR	C	赤・黒				磁器類
7	27E019	SD13341	磁器類	鉢蓋1	14.0	1.7		NR	NR白	C	黒・白				磁器類
8		SD3713c	磁器類	瓶内片1			7.8	NR	NR	A	黒・白				磁器類
9	32E08	SK1007-22	磁器類	瓶内片1			7.4	2.5YR白	2.5YR白	A	赤・黒				磁器類
10	AK	不明	磁器類	折縁片	12.4			NR	7.5YR	A	黒・白				磁器類
11	30E36	SD371	磁器類	有台片1	13.0			5YR	5YR	A	黒・白				磁器類
12	32E021	SD239-6	磁器類	有台片1			9.8	NR	NR	A	黒・白				磁器類
13	29E18, 29E22	N・Y/a	磁器類	有台片1			5.8	NR白	NR白	A	赤・黒・白				磁器類
14	30E010	SE165-7	磁器類	有台片2			7.6	NR	NR	A	黒・白				磁器類
15	28AA14	SK1321-4	磁器類	有台片2			8.2	NR	NR	A	黒・白				磁器類
16	28E021, 27AA25-24	SK1325-1	磁器類	有台片2			6.4	NR	NR	A	黒・白				磁器類
17	27E015	SD11681	磁器類	中蓋	23.6			NR	NR	A	黒・白				黒白磁

A区 土器観察表(2)

観号	出土位置	遺物/部位	種類	形状・寸法	口径	底径	底径	外面色調	内面色調	胎土 分厚	胎土	胎紋 方向	底面調	遺物・文様	使用目的	備考	
18	31FF19	SD1013a-7a	磁器類	小壺	2.6			N赤	N赤	A	灰・白			特殊平行タタキ			
20	30GG13	SE1647	土器類	無台碗A	11.8	3.8	5.6	7.5Y赤灰 緑	7.5Y赤灰 緑		灰				ロクロナデ		
20	27W23	SE	土器類	小壺			6.5	10Y赤灰 白	10Y赤灰 白		灰			大粒の長多 い・雲	静止赤	ロクロナデ	
21	31HR20	SK1872-1	土器類	小壺	9.0			10Y赤黄 灰	10Y赤黄 灰		灰・白					内装灰化跡	
22	31HR4	SD943-1	土器類	長瓶	19.6			10Y赤黄 緑	10Y赤黄 緑		灰多・金・雲					内口ロコナデ, 外口半打ロコナ デ	
23	31CC5	SN16 F1433-2	土器類土器	皿C1			8.0	10Y赤黄 灰	10Y赤黄 灰		金・雲多・白	左	回転ヘウ	ロクロナデ平縁ヘ ラウタリ			
24	31HR14	SH16 F1031-1	青磁	碗B-1	14.8			7.5Y赤オ リーブ	7.5Y赤オ リーブ		黒					特殊縁部付文	
25	31FF12	SR895-8	土器類土器	小皿	16.0			10Y赤に赤 い底面	10Y赤に赤 い底面		金・雲					ロクロナデ	
26	31FF	SR895-1	青磁	碗D-1				5GYオリ ーブ	5GYオリ ーブ		金・黒					底面赤面調, 底面	
27	31FF12	SR895-1	古瀬戸	青磁縁部・ 中皿か	9.40			5Yオリー ーブ	5Yオリー ーブ		黒					内口ウロ、内赤 面調	縁部赤
28	31FF	SR895-1	土器類土器	柱状高台B			10.2	10Y赤黒	10Y赤黒		金・且・右	回転赤	ロクロナデ			内装灰化跡	
29	30CC7	SE1007-7	土器類土器	皿C1			8.2	10Y赤黒	10Y赤黒		金多い・雲・ 灰	左	回転ヘウ	ロクロナデ		内装灰化跡	
30	30CC7	SE1007-不明	土器類土器	小皿C1	7.2	1.2	6.4	10Y赤灰 白	10Y赤灰 白		金・左	回転ヘウ	ロクロナデ			内装灰化跡	
31	30CC7	SE1007-14	土器類土器	小皿C1			1.2	6.6	7.5Y赤灰 白	7.5Y赤灰 白	金・且・左	回転ヘウ	ロクロナデ				
32	30CC7	SE1007-14	土器類土器	小皿C2			1.4	6.0	10Y赤灰 白	10Y赤灰 白	金・且・左	回転ヘウ	ロクロナデ				
33	30GG13	SE1645	土器類土器	皿	11.0			10Y赤に赤 い底面	10Y赤黒		金・雲・長					ロクロナデ	
34	30GG13	SE1641	土器類土器	皿B			7.0	10Y赤黒	10Y赤黒		金・雲・長・ 砂粒多い	右	回転赤	ロクロナデ			
35	30GG13	SE1641	土器類土器	小皿C2			6.2	10Y赤灰 白	10Y赤灰 白		金・雲・長・ 左	回転ヘウ	ロクロナデ				
36	30CC14	SE3673	土器類土器	小皿C2	8.6	1.6	7.4	10Y赤黒	10Y赤黒		金・金・雲・ 白	左	回転ヘウ ラウナデ			内装灰化跡	
37	30CC15	SE3673	土器類土器	皿	12.8			2.5Y赤白	2.5Y赤白		金、砂粒少 ない					ロクロナデ	
38	30FF17	SI109-1	陶洲	片口鉢・B -雲				2.5Y赤白	2.5Y赤白		海面・白					ロクロナデ	
39	30RE22	SD371-1- 1b, SE222-7	陶洲	片口鉢・B -7	30.0	12.2	13.0	2.5Y赤白	2.5Y赤白		海面・雲・大 粒の緑土粒		静止赤			ロクロナデ、部 上目11日	
40	30RE13	SE233-2	陶洲	片口鉢・B -7				2.5Y赤白	2.5Y赤白		海面・白		静止赤			ロクロナデ、部 上目11日	
41	30EE	SE233-1	青磁	碗B-5a			5.6	10GY明緑 灰	10GY明緑 灰		雲・黒					内装灰化跡	
42	30RE16, 30RE17, 30RE18	SD371, SE233-6, 30RE18	白磁	碗C群	17.6	6.5	5.6	10Y赤白	7.5Y赤白				回転ヘウ			内底・体面調, 内底見込面調	
43	30RE17	SE233-2	陶洲	帯土碗・B				7.5Y赤オ リーブ	N赤		海面・雲・粘 土粒					特殊平行タタ キ、内装灰化文 付	
44	29AA2	SE401-7	中環天目	天目土碗V -7	11.6			N黒	N黒		雲・白・灰色					ロクロナデ、内 体面調と底面付	
45	29AA2	SE401-6	陶洲	片口鉢・B -5-1	29.2			5GYオリ ーブ	7.5Y赤		海面・雲・長					ロクロナデ	
46	29RB6	SE1212-3	陶洲	片口鉢・B	31.0			2.5赤	5Y赤		海面・雲					ロクロナデ	
47	27AA18	SE1329-4	土器類土器	皿	12.0			7.5Y赤白	7.5Y赤白		雲・且、砂 粒少ない					ロクロナデ	
48	27AA18	SE1329-1	土器類土器	皿C2			8.8	7.5Y赤白	7.5Y赤白		雲、砂粒少 ない	左	回転ヘ ウ・ナデ			ロクロナデ	
49	27AA18	SE1329-9	土器類土器	小皿C2			7.4	7.5Y赤に赤 い底	10Y赤灰 白		雲、砂粒少 ない	左	回転ヘウ			ロクロナデ	
50	27AA18	SE1329-9	青磁	碗B-1			5.2	7.5GY明緑 灰	7.5GY明緑 灰		白					内装灰化跡	
51	27AA23	SE1329-1	陶洲	片口鉢・B				N赤	N赤		海面・雲		静止赤			ロクロナデ	
52	31DD1	SK298-2-3	陶洲	片口鉢・雲				N赤	5Y赤		海面・雲・粘 土粒					ロクロナデ、部 上目15日	
53	29RE2, 29RE10	SD410-1, SK417-3	青磁	碗B-1	16.0			5GYオリ ーブ	5GYオリ ーブ		黒					特殊縁部付文	
54	29DD3	SK1095-2	青磁	碗D-1	15.0			7.5Y赤オ リーブ	7.5Y赤オ リーブ		黒						
55	31HR8	SK1222-2	土器類土器	柱状高台			8.0	10Y赤黄 灰	10Y赤黄 灰		雲・且・右	回転赤	ロクロナデ			内装灰化跡	
56	30DD4	SK307-1	古瀬戸	陶瓶・中皿 か				N赤白	2.5Y赤白		雲・且					ロクロナデ、平 行縁文、全体 灰化、内体面調 付	
57	28AA13	SK1321-1	陶洲	帯土碗				N赤	N赤		海面・雲					ロクロナデ	
58	31DD15	SK314-2	陶洲	帯土碗・B -雲				N赤	2.5Y赤白		海面・雲・粘 土粒					特殊平行タタ キ、内装灰化文 付	
59	27AA23-24	SK1328-1	白磁	碗D群			4.2	5Y赤白	5Y赤白		黒					内装灰化、高白 縁り込み	
60	27AA23-24	SK1328-1	青磁	碗B-2				5GYオリ ーブ	5GYオリ ーブ		黒					特殊縁部付文、内 体面調	
61	27AA23-24	SK1328-1	古瀬戸	平縁・縁1 -5	16.0			5Y赤白	5Y赤白		雲・且					内装灰化	
62	27AA23-24	SK1328-1	古瀬戸	高縁大皿 か・縁1- B			13.0	2.5Y赤白	5Y黄灰		雲・且・左	回転赤				ロクロナデ、内 底灰化	

観 察 表

A区 土器観察表(3)

発見No.	出土位置	遺物/部位	種類	形状・寸法	口径	器高	底径	外底色調	内底色調	器土 分厚	胎土	胎色	底注露露	遺物・文様	使用目的	備考		
63	27AA23-24	SK1328-1	陶器	片口鉢・皿 -並	25.0			N赤	N赤					白磁陶器・ロフ ロフナデ				
64	27AA23-24	SK1328-1	陶器	片口鉢・皿 -並	32.0			7.5YR赤白	10YR赤白					黒ロフナデ				
65	27AA23-24	SK1328-1	漆器系陶器	横・笠形 SD345カ				N赤白	5YR赤灰					長多しい・並		猪神古灰産		
66	29224, 29225, 27AA23-24	SK1613-1, SK1328-1	漆器系陶器	横			15.4	5Y赤	5Y赤					赤・且		内ヨコナデ、赤 タテヘナデ	猪神古灰産	
67	27AA23-24	SK1328-1	陶器	片口鉢・IV カ				N赤	N赤					黒ロフナデ				
68	27AA23- 24, 29E20	SK1328-1, SD1613-9	陶器	片口鉢・V			13.0	N赤	7.5YR赤灰					黒ロフナデ、黒 しじり目				
69	31RH15	SK1872-1	土器土器	皿C2	14.2	3.5	8.1	2.5Y赤白	2.5Y赤白					赤・且・白	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
70	30FF14	SD101-1	土器土器	皿C2	13.4	4.0	9.2	2.5Y赤白	2.5Y赤白					長多しい・並	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
71	29E031	SD101-6F	土器土器	皿C3	11.6	2.8		2.5Y赤白	2.5Y赤白					縁彩少ない	左	同輪ヘウ	ロフナデ平縁ヘ ラケテ	
72	32G07	SD101-10	土器土器	皿B	8.0			7.5Y赤	7.5Y赤					赤・且	右	同輪赤	ロフナデ	
73	29E136	SD101-7b	土器土器	小皿C1	7.0			7.5Y赤	7.5Y赤					赤・並	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
74	31FF18	SD101-5a	磁石	底形合子				10GYオリー ブ赤	2.5GYオリー ブ赤					黒			赤縁片割による 文様	
75	30FF2	SD101-8b	陶器	片口鉢・IV カ	27.6			2.5Y赤灰	2.5Y赤灰					黒ロフナデ				
76	31FF11	SD101-7c	陶器	片口鉢・IV 2	38.2			7.5Y赤	7.5Y赤					黒ロフナデ				
77	29E315	SD101-1b	漆器系陶器	片口鉢・皿 カ	16.2	7.1	10.2	2.5Y赤 赤	2.5Y赤 赤					赤・且		ナデ	ロフナデ	
78	29E316	SD101-1b	漆器系陶器	横				7.5Y赤	7.5Y赤					赤・且			黒ロフナデ、赤 ヘナデ、黒出	
79	31K315	SD239-2	陶器	片口鉢・V	34.0			5B暗青灰	5B赤灰					黒ロフナデ				
80	31FF4	SD239-6	陶器	片口鉢・IV 2	28.8			2.5Y赤灰	2.5Y赤灰					黒ロフナデ、黒 しじり目			焼成品	
81	32DD17	SD239-7	土器土器	皿B	11.2	3.0	8.0	2.5Y赤	2.5Y赤					長多しい・並	右	同輪赤	ロフナデ	
82	30CC12	SD362-1	古銅戸	入子・中輪			4.0	2.5Y赤白	2.5Y赤白					赤・且	右	同輪赤	ロフナデ、赤 底露出、内底一 部赤染	
83	29B012	SD366-3	土器土器	皿B2	8.0			7.5Y赤	7.5Y赤					赤・並	左	同輪赤	ロフナデ	
84	29B012	SD366-2	土器土器	皿C3	10.2			10YR赤黒	10YR赤黒					赤・並	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
85	29B012, 17, 29A49	SD366-2	陶器	片口鉢・IV カ	30.4			10YR赤 赤	10YR赤 赤					黒ロフナデ、黒 しじり目				
86	29B021	SD366-2	陶器	片口鉢・IV			13.0	10B暗青 灰	10B暗青 灰					黒ロフナデ				
87	29E06	SD371-1c	土器土器	小皿	6.6			10YR赤	10YR赤					赤・並		ナデ	ロフナデ	
88	29E37	SD371-7b	陶器	片口鉢・V				N赤	N赤					黒ロフナデ				
89	30E322	SD371	陶器	片口鉢・IV			14.8	2.5Y赤白	2.5Y赤白					黒ロフナデ、黒 しじり目			内底露出	
90	30FF	SD371-1	古銅戸	巻・中輪				5Yオリー ブ赤	5Y赤白					赤・且			ロフナデ、平 行文様文様、赤 縁露出、内底一 部赤染	
91	29E07	SD371-1b	陶器	片口鉢・IV	34.0			5Y赤	5Y赤					黒ロフナデ			縁露出	
92	29E06, 31RH14	SD371-1a, P1436-2	陶器	巻下輪			19.0	N赤	N赤白					赤・並		ナデ	赤縁平行タタ キ、内底文様	
93	29AA13	SD405-1	土器土器	小皿C3	8.0			10YR赤白	10YR赤白					赤・並	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
94	30CC5	SD778-1	古銅戸	巻				5Yオリー ブ赤	5Yオリー ブ赤					赤・且			ロフナデ、内 赤露出、巻下輪 露出	
95	27BH15	SD1168-1	土器土器	小皿C2	7.4			2.5Y赤白	2.5Y赤白					赤・且、縁 彩少ない	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
96	27BH15	SD1168-5	漆器系陶器	横	12.8			N赤灰	7.5Y赤オ リーブ					赤・且			内ヨコナデ、赤 タテヘナデ、内 底白赤染	
97	27BH15	SD1168-1	陶器	片口鉢・IV				7.5Y赤	7.5Y赤					黒ロフナデ				
98	29B021	SD1168-1	陶器	片口鉢・II	32.0			2.5Y赤灰	2.5Y赤灰					黒ロフナデ				
99	27BH24	SD1168-1	陶器	片口鉢・IV 1	32.8			5Y赤	10YR赤灰					黒ロフナデ、黒 しじり目				
100	27CC	SD1320-7	土器土器	皿C2	13.0	3.1	9.4	2.5Y赤白	2.5Y赤白					赤・且	左	同輪ヘウ	ロフナデ	
101	28CC2-4, 8-9-13-14	SD1320-7	土器土器	小皿C2	7.4			10YR赤灰	10YR赤灰					赤・並		ナデ	ロフナデ	
102	28CC2-4, 8-9-13-14	SD1320-7	漆器系陶器	横	19.8			7.5Y赤 赤	7.5Y赤 赤					赤・且		ナデ	内ヨコナデ、赤 タテヘナデ	焼成品
103	27BH25	SD1334-3	古銅戸	巻・後輪			7.2	10YR赤白	10YR赤白					赤・且	右	同輪赤	ロフナデ、内 赤露出	
104	29AA34	P910-3	陶器	片口鉢・IV 1	33.8			2.5Y赤灰	2.5Y赤灰					黒ロフナデ				
105	29E020	P1030-1	土器土器	皿C1	8.4			5Y赤白	5Y赤白					赤・並	左	同輪ヘ ウ・ナデ	ロフナデ	
106	30BH4	P1142-1	古銅戸	天目赤銅・ 巻1輪	11.6	6.4	5.4	2.5Y赤赤	2.5Y赤赤					ロフナデ、内 赤露出、赤内 底露出、輪高凸				
107	27BH15	SD1334-3	漆器系陶器	横				5Yオリー ブ赤	10YR赤灰					赤・且			ロフナデ、赤 縁露出	
108	30Z2	SD1613-1	土器土器	小皿C1	9.0	1.3	7.8	10YR赤	10YR赤白					赤・並		ナデ	ロフナデ	

A区 土器観察表 (4)

報告No.	出土位置	遺種/層位	種類	器種・形状	口径	器高	底径	外面色調	内面色調	器土質	胎土	形成方法	底面形状	肩部・文様	使用目的	備考
109	29AA5	SD1613-1	青磁	陶・山本I 4ホ	17.0			2.5GYオリーブ	2.5GYオリーブ	黒					内面に片取文、輪半透肌	
110	29Z25	SD1613-7	青磁	碗鉢 I	13.0			7.5Y灰オリーブ	7.5Y灰オリーブ	黒					外底縁透皮文	
111	29AA5	SD1613-1	青磁	碗鉢 I	15.8			5Y灰オリーブ	5Y灰オリーブ	黒					外底縁透皮文	
112	29Z25	SD1613-7	青磁	碗鉢 I		5.2		7.5Y灰オリーブ	7.5Y灰オリーブ	黒	黒・黒				外底縁、外底縁透皮文	
113	29Z25	SD1613-1 2	青磁	陶・山本I 3ホ		6.0		5Y灰オリーブ	5Y灰オリーブ	黒					外底縁、内底底文	
114	29AA10	SD1613-12	黒河洲	片口鉢・器 ~IV		14.2		2.5Y灰白	2.5Y灰黒	褐色・黒			静止赤		口ロロナデ、即し11月1日	
115	30Z2、30Z7	SD1613-4	黒河洲	片口鉢・器 ~IV		13.8		2.5Y灰白	2.5Y灰黒	褐色・黒			静止赤		口ロロナデ、即し11月1日	
116	29Z20、29AA5	SD1613-8、SD1613-12	黒河洲	片口鉢・器 ~IV				2.5Y灰白	10Y灰黒	褐色・黒			静止赤		口ロロナデ、即し11月1日	
117	29Z25	SD1613-7	黒河洲	鍔下鉢				N灰	N灰	灰・黒					外底平行タテ文、内底底文にて貫	
118 a	29Z25	SD1613-7	変態系陶器	鍋				2.5Y灰黒	10Y灰	灰・黒					ココナデ、押印	橋爪陶器類
118 b	30Z7	SD1613-11	変態系陶器	鍋				5Y灰	5BG灰黒	灰・黒・黄陶器					内ヨコナデ、外タテヘラナデ、押印	橋爪陶器類
118 c	29Z25	SD1613-1	変態系陶器	鍋				10Y灰黒	10Y灰	灰・黒					内ヨコナデ、外タテヘラナデ、押印	橋爪陶器類
118 d	30Z2	SD1613-8	変態系陶器	鍋				5Y灰	7.5Y灰	灰・黒					ココナデ、押印	橋爪陶器類
118 e	29Z25	SD1613-6	変態系陶器	鍋				5Y灰	2.5GYオリーブ	灰・黒					内ヨコナデ、外タテヘラナデ、押印	橋爪陶器類
119	30Z7	SD1613-4	変態系陶器	鍋		16.2		7.5YHに赤い灰	10YHに赤い灰	灰・黒					内ヨコナデ、外タテヘラナデ、押印	
120	30Z7	SD1613-4	変態系陶器	器				N灰白	5Y灰黒	灰・黒					ココナデ、押印	
121	T2D15	不明	1層貫土器	有首皿		3.4		7.5YH浅黄緑	7.5YH浅黄緑	金・黄				ナデ	口ロロナデ	
122	27AA12	Ⅱa	1層貫土器	皿鉢		7.0		7.5YH浅黄緑	7.5YH灰白	灰・黒	右	回転			口ロロナデ	
123	30CC1	I	1層貫土器	皿鉢		8.2		10YH浅黄緑	10YH浅黄緑	金・黄、砂粒少ない		回転	へウ		口ロロナデ	
124	30CC15	Ⅱ	1層貫土器	皿鉢		7.0		10YH灰白	10YH浅黄緑	金・黄、砂粒少ない	右	回転			口ロロナデ透肌	
125	AJ4	Ⅱ	青磁	鉢・山本3ホ	18.0			10GY緑灰	10GY緑灰	黒					内底底文部	透肌
126	27Z15	Ⅱa	青磁	皿鉢		7.4		7.5Y灰オリーブ	7.5Y灰オリーブ	灰・黒					前付きも磁土で糊付されるが、底は陶胎、内底縁透皮文、外底縁透皮文、外底縁動	陶器9組
127	29BH21	カクラン	青磁	碗鉢 I		5.4		2.5Y灰黒	2.5Y灰黒	黒						
128	28E38	Ⅱ	黒河洲	片口鉢・器 ~IV	26.0			7.5Y灰	5B暗黄灰	褐色・黒					口ロロナデ	
129	29BH15	I	黒河洲	片口鉢・器 ~IV	30.0			10YHに赤い灰	10YH灰白	褐色・黒					口ロロナデ	
130	30Z	Ⅱ	黒河洲	片口鉢・器 ~IV		14.2		5Y灰	2.5Y灰黒	褐色・黒			静止赤		口ロロナデ、即し11月1日	
131	29Z	Ⅱ	変態系陶器	鍋				7.5YH灰黒	7.5YH灰黒	灰・黒					ココナデ	
132	29AA9	Ⅱ	変態系陶器	鍋				2.5Y灰黒	10Y灰	灰・黒					内ヨコナデ、外タテヘラナデ、押印	橋爪陶器類
133	29Z	Ⅱ	変態系陶器	鍋				5Y灰	10Y灰	灰・黒					内ヨコナデ、外タテヘラナデ、押印	橋爪陶器類
134	30AA12	I	黒河洲	中鍔下鉢	43.2			5Y灰	N灰	褐色・黒					外平行タテ文、スタンプ文	
266	30FF7	SN129-I	陶文	深鉢		10.0		7.5YHに赤い	10YH灰白	黄・金・灰・黒					内面ナデ、陶文	外底底文部
267	27D125	SK1157-4	陶文	深鉢				10YH灰白	10YH灰黒	黄・金・灰・黒					内面ナデ、陶文	内底

A区 石器・石製品観察表

報告No.	出土位置	遺種/層位	遺種No.	器種/種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考
135	30E3	SE	232	15 磁石	砂岩	9.2	4.8	4.3	243.0	両端欠損	焼物
136	27AA15-18	SE	1329	4-6 磁石	砂岩	9.4	3.6	3.1	83.5	両端欠損	焼物、割れ、磁面に線状痕有、6割以上磁石と混合
137	27AA23	SK	1329	7 磁石	砂岩	7.6	3.6	1.2	77.5	完整	磁面に線状痕有
138	23D113	SD	239	6 磁石	砂岩	11.2	4.2	1.1	68.0	両側面、片端欠損	磁面・磁面に透皮文
139	23D116	SD	1168	3 磁石	磁灰岩	6.5	3.6	0.6	36.5	片端欠損	磁面平直、透肌痕有
140	27Z16	SD	1613	11 磁石	磁灰岩	7.3	4.4	2.0	72.0	両端欠損	磁面に線状痕有
141	28Z25	SD	1613	3 磁石	磁灰岩	6.0	3.2	3.2	160.0	片端欠損	磁面に線状痕有
142	28BH21	SD	791	短石	磁石	6.7	10.9	3.7	204.3	片端・側面	13C、片径 20.6cm
268	30B86	SS	1864-51	Ⅱa	磁灰岩	12.0	6.5	4.8	463.1		陶文付片断
269	30B86	SS	1864-52	Ⅱa	磁灰岩	19.6	12.5	6.0	1200.0		陶文付片断
270	30B86	SS	1864-53	Ⅱa	磁灰岩	24.8	15.6	10.9	3900.0		陶文付片断
観察No.1	21F20	SD	101	9 磁石	砂岩	7.0	3.2	1.8	56.5	両端・側面、両端欠損	磁面に線状痕有
観察No.2	23F20-25	SK	198	1 磁石	磁灰岩	5.0	4.2	1.8	40.0	片端欠損	磁面に線状痕有
観察No.3	30E2	SE	232	10 磁石	磁灰岩	8.8	4.0	3.1	135.5	側面、両端欠損	磁面に線状痕有
観察No.4	29AA22	F	1306	1 磁石	砂岩	6.8	4.5	1.4	56.0	両端欠損	磁面に線状痕有

観 察 表

A区 金属製品観察表

報告No.	出上位置	通報種類	通報No.	階位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考
143	30CC9	SE	367	3	釘	2	0.7	0.5	3.0		
144	32CC7	SE	1007	2	釘	10.1	0.9	0.7	22		
145	30DD24	SK	314	2	釘	3.6	0.8	0.6	5.0		
146	32CC13	SK	963	1	釘	3.2	0.7	0.7	7.5		
147	29AA9	SD	1613	2	釘	9.4	1.1	1	27.5		
148	32DD1	SD	1037	3	釘	3.6	0.6	0.7	2.5		
149	32DD1	SD	1037	3	釘	3.6	1.5	0.4	4.5		
150	30GG1	F	226	1	釘	2.4	0.7	0.6	2.0		
151	30DD19			IV	釘	6.3	1.4	0.5	15.5		
152	28DD13	SD	1110	1	鋼製品	6.0	1.3	0.6	28.0		
153	29AA5	SD	1613	12	鋼製品	2.6	3.4	0.5	22.0		
154	29AA5	SD	1613	1	鋼製品	7.5	1.2	0.6	36.5		
155	29CC7			階段	鋼製品	3.9	2.5	0.1	7.5		
156	調査区一棟				鋼製品	7.3	2.6	2.5	120.5		
157	30E318-23-24	SE	232	13	線	片長:12.6、網長:43.5	片幅:2.8、網幅:3.0	片厚:0.25、網厚:2.1	261.5		網部:心臓部なし
整理No.5a	32E36	SD	239	3	釘	3.0	0.4	0.5	4.0		
整理No.5b	32E36	SD	239	3	釘	3.6	1.1	0.3	2.5		
整理No.6	32E31	SD	239	6	釘	1.7	0.4	(0.5)	3.0		
整理No.1b	30DD24	SK	314	2	釘	2.0	1.1	0.4	2.0		
整理No.1c	30DD24	SK	314	2	釘	0.9	0.4	0.1	0.5		
整理No.1d	30DD24	SK	314	2	釘	1.5	0.7	0.4	0.5		
整理No.1e	30DD24	SK	314	2	釘	1.4	0.4	0.2	0.2		
整理No.22b	30CC9	SE	367	3	釘	1.8	1.4	0.2	3.0		
整理No.7	29AA4	SD	410	1	釘	1.7	0.4	(0.4)	2.0		
整理No.3b	32CC7	SE	1007	2	釘	1.6	0.9	0.5	1.6		
整理No.24	33DD23	SK	1018	1	釘	1.7	0.6	0.2	1.5		
整理No.65	31BB14-15	F	1437	1	釘	3.4	1.1	0.2	3.0		
整理No.27	29AA5	SD	1613	1	釘	2.6	0.6	(0.4)	4.5		

A区 製紙・鍛冶関連遺物観察表

報告No.	出上位置	通報種類	通報No.	階位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考	
158	27BB18	SD	1334	1	埋物	口径:3.1	網高:5.1		55.0			
159	30CC17	SE	1041	1	釘	4.8	4.7	2.5	45.0		特殊:長3cm、内径:1.4cm	
160	30FF9	SD	101	9	鍛冶物	2.4	1.6	1.2	1.5			
161	31FF1	P	879	1	若うス鋼滓	3.9	2.7	2.1	12.0			
162	27AA23-4	SK	1328	1	鋼滓	7.9	5.1	2.9	135.5			
163	28BB16	SD	1168	1	鋼滓	9.4	7.2	4.2	237.5			
164	29Z25	SD	1613	7	鋼滓	8.3	6.4	3.9	207.5			
整理No.71	30GG12	SE	166	4	鋼滓	4.0	3.3	1.2	13.0			
整理No.76	32FF11	F	688	1	鋼滓	2.7	2.1	1.2	8.5			
整理No.77	30CC18	SE	1043	1	鋼滓	8.1	3.3	2.1	40.5			
整理No.79	28BB2	SD	1168	2	鋼滓	8.0	5.2	3.3	169.0			
整理No.73	27AA23-6	SK	1328	1	鋼滓	6.0	3.9	1.5	46.5			
整理No.74	27AA23-4	SK	1328	1	鋼滓	8.0	4.8	2.1	111.0			
整理No.75	27AA23-24	SK	1328	1	鋼滓	4.3	3.3	1.8	34.5			
整理No.80	31E36			IV	鋼滓	3.3	2.6	1.3	10.5			
整理No.87	28BB8	F	420	1	鍛冶物	2.4	2.1	1.6	8.5			
整理No.88	30GG24			IV	鋼滓	2.9	2.8	2.2	16.0			
整理No.90	30FF12	F	121	1	若うス鋼滓	1.9	1.5	0.8	0.5			
整理No.89	30GG12	SE	166	4	若うス鋼滓	2.0	1.5	1.3	1.5			
整理No.91	32BB22			IV	若うス鋼滓	2.1	1.5	1.1	1.0			
整理No.84	30GG12	SE	166	7	鋼滓	2.7	1.4	1.4	4.0			
整理No.83	30DD24	SK	314	2	鋼滓	1.7	0.8	0.6	0.5			
整理No.13	31GG25			IV	鋼滓	2.5	1.4	0.7	1.0			
整理No.109	31FF17	SD	101	1	釘	2.3	1.9	1.2	3.0			
整理No.93	30GG13	SE	164	5	釘	3.4	2.1	1.7	6.5			
整理No.84	30GG12	SE	166	11	釘	2.3	1.9	1.8	3.0			
整理No.96a	31E324	F	281	1	釘	3.2	2.3	1.4	4.5			
整理No.96a	31E324	F	281	1	釘	1.6	1.4	0.7	0.5			
整理No.95	31DD7	SE	317	1	半	釘	4.3	2.6	1.0	8.0		
整理No.97	32CC6	SE	1007	2	釘	2.4	1.4	1.3	2.5			
整理No.98	28DD11	SD	1110	1	釘	2.0	1.7	1.3	3.5			
整理No.99	31GG6			IV	釘	2.8	2.2	0.8	4.5			

A区 木製品観察表 (1)

報告No.	グッド	通報番号	階位	出上位置	分類	遺物	細分名	本取り	残存長さ	直径 (mm)	厚さ	面積	形状	加工・特徴等
157	31FF	SE232	13		遺物	線	心臓部切り出し		43.5	3	2.1	5.4		表面面取り、両端部切り込み、目打ち1本あり。
165	31FF	SE232	10		加工材	不明木製品	板片		20.7	5	2.1	5.4		中央に穿孔。表面面取り。
166	29AA2	SE401	16		食事具	漆物或紙か	紙板	板片	20	8.7	0.3	7.4×12		木釘。紙板の留め跡あり。
167	29AA2	SE401	16		容器	漆物或紙か	紙板	板片	21.5	0.9	5.4			表面面取り。
168	29AA	SE402	16		容器	漆物或紙か	紙板	板片	21.4	1.2	5.4			表面面取り。
169	28BB	SE1212	9		調理加工具	輸入物	割りさき		11.0	10.2	0.15	5.4		材料径1.5cm・縦材径1cm・厚さ0.1cmの5本板をこぎ目編み込み中心。
170	27AA18	SK1329	9		食事具	箸	心臓部切り出し		6	0.5	0.4	5.4		面取り。
171	27AA18	SK1329	9		食事具	箸	心臓部切り出し		15	0.7	0.5	5.4		面取り。

A区 木製品観察表(2)

報告No	グッド	通称番号	部位	出上位置	分類	用途	観分名	木取り	取付長 (mm)	取付厚 (mm)	厚さ	縦横	組立	加工・特徴等
172	27AA23-24	SR1329	8		装身具	箸	心取り出し	心取り出し	21.8	0.8	0.5	3.4		面取り。
173	27AA	SR1329			施設材	木部	欄板	材目		34	20	3.4		
174	27AA	SR1329	9		容器	惣物	漆塗り	継木取り	1.7	14	0.4	7.4		内外面漆塗り。
175	31FF	SR095	20	北西縦板2段目 4段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	188	38.5	3.7	3.4		表面面取り後、左右面打り張り前、木口上端部を削り落し、新削5cm。
176	31FF	SR095			施設材	井戸欄	欄板	板目	204.8	34.7	3	3.4		3点接合。表面、左右面打り張り後、裏面打り張り。木口打り張り前、新削5.5cm、幅削1.5cm。
176-1	31FF	SR095	20	北西縦板2段目 2段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	116.5	19	2.5	3.4		
176-2	31FF	SR095	20	北西縦板2段目 2段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	197.9	34.7	2.7	3.4		
176-3	31FF	SR095	20	北東縦板3段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	199.4	33.8	3.1	3.4		
177	31FF	SR095	21	南西縦板4段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	37.7	8.3	1	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
178	31FF	SR095	21	南西縦板4段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	32.6	7.8	0.4	3.4		表面面、左右面打り張り。
179	31FF	SR095	21	南西縦板4段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	41.5	7.3	1.6	3.4		表面面、左右面打り張り。
180	31FF	SR095	21	南西縦板4段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	45.6	8.7	0.4	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
181	31FF	SR095	20	南東縦板17段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	42.8	8.9	1.8	3.4		表面面、左右面打り張り。
182	31FF	SR095	17		施設材	井戸欄	欄板	板目	56	12.2	1.7	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
183	31FF	SR095	20	南東面	施設材	井戸欄	欄板	板目	50.8	13.8	1.8	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削り後削。
184	31FF	SR095	2	井戸枠内	施設材	井戸欄?	欄板?	板目	53.5	7.1	1.5	3.4		表面面、左右面打り張り。
185	31FF	SR095	21	南東縦板1段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	64.1	7	1	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端部を削り落しによる先加工。
186	31FF	SR095	21		施設材	井戸欄	欄板	材目	47	7	0.8	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
187	31FF	SR095	21	北東縦板の外側 に付す	施設材	井戸欄?	欄板?	材目	24.8	6.2	1.8	3.4		表面面打り張り後削。左右面打り張り。木口上端削。
188	31FF	SR095	23	北東面	施設材	井戸欄?	欄板?	板目	35.2	7	0.8	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
189	31FF	SR095			施設材	井戸欄	欄板	板目	163.1	33.5	0.9	3.4		3点接合。表面、心取板打り張り。左側面打り張り後削。木口上端部削で削る加工。幅削5.5cm。
189-1	31FF	SR095	20	北東縦板2段目 2段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	161.6	20.2	3.8	3.4		
189-2	31FF	SR095	20	南東縦板2段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	125.5	11.5	1.5	3.4		
189-3	31FF	SR095	20	南東縦板2段目	施設材	井戸欄	欄板	板目	75.2	14	2.7	3.4		
190	31FF	SR095	20	北西縦板2段目 1段目	施設材	井戸欄	欄板	心取り カガシ	200	10.7	3.4	3.4		両面打り張り後削。裏面打り張り後削。左右面打り張り後削。木口打。表面、裏面の加工はほぼ同時に行われる加工と見られる。左右面の前後は分断線に平行にするためのもの。新削5cm。
191	31FF	SR095	20	南東面	施設材	井戸欄	欄板	板目	37.6	10.2	1.5	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
192	31FF	SR095	21	井戸枠内	施設材	井戸欄?	欄板?	板目	43.5	10.8	3.2	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端部を削り落しによる先加工。
193	31FF	SR095	21	西面柱	施設材	井戸欄	欄柱	板目	38.3	5.9	6.3	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。表面面削。
194	31FF	SR095	20	北西柱	施設材	井戸欄	欄柱	板目	37.8	3.6	2.1	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。
195	31FF	SR095		南西縦板3段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	95.5	10.9	12.1	3.4		3点接合。表面面、上下面打り張り後削。接合面打り張り後削。左右面打り張り。接合面に処理なし。
195-A	31FF	SR095	21	南西縦板3段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	91.2	5.1	9.7	3.4		
195-B	31FF	SR095	21	南東縦板	施設材	井戸欄	枕木	材目	94.3	6.5	11.1	3.4		
196	31FF	SR095	20	北西縦板2段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	91.6	7.8	4.2	3.4		表面打り張り後削。欄板(幅4cm)あり。表面打り張り後削。上面打り張り。下面打り張り後削。左右面打り。
197	31FF	SR095	20	北東縦板	施設材	井戸欄	枕木	材目	92.8	9.3	6.2	3.4		表面、上下面打り張り後削。裏面打り張り。左右面打り。新削5cm。
198	31FF	SR095	20	南東縦板	施設材	井戸欄	枕木	材目	92.2	9.4	6.4	3.4		表面面打り張り後削。上下面打り張り後削。左右面打り。新削5cm。
199	31FF	SR095	21	北西縦板2段目 2段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	93.3	6	7.8	3.4		表面面打り張り後削。上下面打り張り後削。左右面打り。新削5cm。
200	31FF	SR095	21	北西縦板(漆板) 4段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	82	7.1	2	3.4		表面打り張り。C字状の留印あり。裏面、上下面打り張り。左右面削。
201	31FF	SR095	21	南東縦板(漆板)	施設材	井戸欄	枕木	材目	78.8	7	1.5	3.4		○ 表面面打り張り後削。表面、上下面打り張り。左右面削。
202	31FF	SR095	21	南西縦板1段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	84.2	7.4	1.7	3.4		表面打り張り後削。裏面、上下面打り張り。左右面削。幅削。
203	31FF	SR095	21	南西縦板(漆板) 4段目	施設材	井戸欄	枕木	材目	80.2	7	1.6	3.4		○ 表面面、表面、上面打り張り。下面打り張り後削。
204	31FF	SR095	21	北東縦板2段目 (漆板)	施設材	井戸欄	枕木	材目	78.9	9.7	1.8	3.4		表面面、上下面打り張り。左右面削。厚削。
205	31FF	SR095	20	欄柱	施設材	井戸欄	枕木	材目	42.1	4.6	4.7	3.4		表面面、上下面打り張り。左右面削。厚削。欄柱の可動部あり。
206	31FF	SR095	20	北西縦板2段目 4段目	施設材	井戸欄?	欄板?	板目	162.2	21.4	3.8	3.4		表面打り張り後削。裏面打り張り後削。右側面打り張り。左側面打り張り後削。木口打。新削5cm。
207	31FF	SR095	18	北東縦板2段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	96.4	15	2.3	3.4		○ 表面面打り張り後削。他部材と接した部分あり。表面、左右面打り張り。木口打。下面に嵌め。
208	31FF	SR095	18	北西縦板	施設材	井戸欄	欄板	材目	84.3	8.4	1.6	3.4		表面面、左右面打り張り。木口打。
209	31FF	SR095	20	北東縦板2段目 2段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	79.8	7	2	3.4		○ 表面面。表面、左右面打り張り。木口打。
210	31FF	SR095	21	南東縦板1段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	77.4	10.1	1.8	3.4		○ 両面打り張り後削。右、右側面打り張り。両面打り張り後削。壁と接した部分あり。壁と接した部分あり。表面面、上下面打り張り。木口上端削。
211	31FF	SR095	18	北東面	施設材	井戸欄	欄板	材目	82.4	11	2	3.4		○ 両面打り張り後削。他部材と接した部分あり。木口打。×印状の留印あり。
212	31FF	SR095	21	南東縦板2段目	施設材	井戸欄	欄板	材目	78	8.9	2.1	3.4		○ 両面打り張り後削。他部材と接した部分あり。木口上端削。厚削。幅削4.5cm。
213	31FF	SR095	21	南東縦板	施設材	井戸欄	欄板	材目	77.7	6	0.8	3.4		表面面、左右面打り張り。木口上端削。

観 察 表

A区 木製品観察表(3)

観号No	グランド	通称番号	番付	出上位置	分類	用途	観分名	木取り	取付長	取付幅	厚さ	樹種	樹皮	加工・特徴等
214	31FF12	SR095	7		加工材	床梁材板		板目	18.6	8	0.2	スギ		表面節理溝入り。上下両面に穿孔小孔入り込みあり。
215	31FF	SR095	18+21	井戸側内	食卓材	架		心板割り出し	16.5	0.5	0.4	スギ		面取り。
216	31FF13	SR095	5	バルコニー横出	加工材	枠材木製品		板目	17	3	2.2	スギ		面取り。
217	31FF	SR095			造作材	木製	縦板	板目・板目	55.8	55.6		スギ		本節の上部。節間内側は1枚の板目厚板。節間外側は上下2枚の板目厚板。内側の節間内面にケビキ。1枚目5枚目。本釘の跡が5本あり。
218	31FF	SR095			造作材	木製	縦板	板目・板目	56.1	56.5		スギ		本節の下部。節間内側は1枚の板目厚板。節間外側は上下2枚の板目厚板。内側の節間内面にケビキ。1枚目5枚目。
219	32CC	SR1007		A南西縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	199	28.5	13.6	スギ	○	10点結合。表面打ち張り前部。裏面打ち張り。現状の節間あり。右側面打ち張り。一部削。左側面打ち張り。現状の節間あり。上端打ち張り。右側面に節間あり。下端打ち張り。節間面に釘。新釘6本。
219-1	32CC	SR1007		A南西縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	197.6	27.6	1.7	スギ	○	
219-2	32CC	SR1007		A南西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	198.2	28.5	1.2	スギ		
219-3	32CC	SR1007		C北東縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	198.3	28.1	1	スギ		
219-4	32CC	SR1007		B北西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.6	27.6	0.7	スギ		
219-5	32CC	SR1007		A南西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	198.6	27.2	1	スギ		
219-6	32CC	SR1007		A南西縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	198.7	26.8	1	スギ		
219-7	32CC	SR1007		B北西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	198.9	26.3	1.4	スギ		
219-8	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	199	25.9	1.6	スギ		
219-9	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	199	25.7	2.3	スギ		
219-10	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	199	24.8	2.1	スギ		
220	32CC	SR1007			造作材	井戸側	縦板	板目	197.9	21.6	13.7	スギ		14点結合。表面打ち張り前部。平面的節間あり。裏面・左・右側面打ち張り。上端打ち張り前部。下端打ち張り前部。新釘7本。
220-1	32CC	SR1007		A南西縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	195.2	19.8	1.7	スギ		
220-2	32CC	SR1007		A南西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	195.4	21	0.8	スギ		
220-3	32CC	SR1007		B北西縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	195.3	20.8	0.8	スギ		
220-4	32CC	SR1007		D南東縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	195.5	20.7	1.3	スギ		
220-5	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	195.8	20.6	0.9	スギ		
220-6 左	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196	8.4	1.2	スギ		
220-6 右	32CC	SR1007		B北西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196	12.6	1	スギ		
220-7	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196	20.3	1.3	スギ		
220-8	32CC	SR1007		A南西縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.2	20.4	1.3	スギ		
220-9	32CC	SR1007		C北東縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.1	20	1.8	スギ		
220-10	32CC	SR1007		C北東縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.4	20.1	1.6	スギ		
220-11	32CC	SR1007		A南西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.3	20	0.9	スギ		
220-12 左	32CC	SR1007		C北東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.7	8	1.7	スギ		
220-12 右	32CC	SR1007		D南東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	196.3	12	1.8	スギ		
221	32CC	SR1007		南西縦板4枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	199	21.9	16.8	スギ		8点結合。表面打ち張り前部。平面的節間あり。裏面・左・右側面打ち張り。上端打ち張り前部。下端打ち張り前部。
221-1	32CC	SR1007		南西縦板4枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	139.8	21.9	2.6	スギ		
221-2	32CC	SR1007		南西縦板1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	133.8	21.8	1.7	スギ		
221-3	32CC	SR1007		南西縦板1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	189.5	21.3	3.1	スギ		
221-4	32CC	SR1007		北西縦板4枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	188	21	2.3	スギ		
221-5	32CC	SR1007		南西縦板1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	197.5	20.2	2.3	スギ		
221-6	32CC	SR1007		南西縦板4枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	193	19.8	2	スギ		
221-7	32CC	SR1007		南西縦板1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	188.6	19.3	2	スギ		
221-8	32CC	SR1007		北東縦板2段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	186.2	18.5	2.2	スギ		
222	32CC	SR1007		D南東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	177.8	22.6	11.6	スギ		8点結合。表面打ち張り前部。平面的節間あり。裏面・左・右側面打ち張り。上端打ち張り前部。
222-1	32CC	SR1007		D南東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	175.8	19.5	2.6	スギ		
222-2	32CC	SR1007		D南東縦板3段目1枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	176.2	21.8	1.8	スギ		
222-3	32CC	SR1007		D南東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	176.2	21.8	1.3	スギ		
222-4	32CC	SR1007		D南東縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	176.5	21	2.3	スギ		
222-5	32CC	SR1007		A南西縦板3段目2枚目	造作材	井戸側	縦板	板目	177	20.3	1.8	スギ		

A区 木製品観察表(4)

番号No	グッド	通称番号	品目	出上位置	分類	用途	組立名	木取り	取付長	取付幅	厚さ	留付	留付	加工・特徴等
222-6	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	176.5	20.2	1.9	5/8"		
223	32CC	SR1007	北西観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	188.8	24.7	12.6	5/8"		8点接合。裏面打ち張り全面。左側打ち張り全面一部削。下層打ち張り全面。新板5cm。
223-1	32CC	SR1007	北西観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	185.3	24.7	1.7	5/8"		
223-2	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	176.3	24.2	1.8	5/8"		
223-3	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	167.6	23.5	1.8	5/8"		
223-4	32CC	SR1007	北西観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	187.8	23	1.8	5/8"		
223-5	32CC	SR1007	北西観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	185.6	21.4	1.1	5/8"		
223-6	32CC	SR1007	北西観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	187	20.8	2.3	5/8"		
223-7	32CC	SR1007	北西観板2段目3枚目		施設材	井戸側	観板	板目	167	20	1	5/8"		
223-8	32CC	SR1007	北西観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	183.3	19.8	1.8	5/8"		
224	32CC	SR1007	商業観板4枚目		施設材	井戸側	観板	板目	190.2	26.1	12.5	5/8"	○	8点接合。裏面打ち張り全面一部削。裏面打ち張り。左右側面打ち張り全面一部削。下層打ち張り全面。
224-1	32CC	SR1007	商業観板4枚目		施設材	井戸側	観板	板目	187.3	24.6	2.3	5/8"		
224-2	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	185.9	25.2	1.9	5/8"		
224-3	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	179.8	24.6	1.9	5/8"		
224-4	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	190.2	24.6	1.5	5/8"		
224-5	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	169.8	23.5	1	5/8"		
224-6	32CC	SR1007	北西観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	188.9	24	3	5/8"		
224-7	32CC	SR1007	商業観板1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	184.4	16.6	1.8	5/8"		
224-8	32CC	SR1007	商業観板4枚目		施設材	井戸側	観板	板目	184.5	23.5	1.5	5/8"		
225	32CC	SR1007	商業観板2段目3枚目		施設材	井戸側	観板	板目	188.2	24.7	5.2	5/8"		2点接合。裏面打ち張り。裏面打ち張り+留付の接合あり。左右側面打ち張り全面一部削。下層打ち張り全面。
225-1	32CC	SR1007	商業観板2段目3枚目		施設材	井戸側	観板	板目	184.7	24.7	2.8	5/8"		
225-2	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	板目	188.2	23.7	3.2	5/8"		
226	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	197.6	18.5	6.9	5/8"	○	4点接合。両側面打ち張り全面。裏面+右側面打ち張り。下層打ち張り全面。
226-1	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	196.8	18.5	1.5	5/8"	○	
226-2	32CC	SR1007	北西観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	板目	197.6	18.2	1.3	5/8"	○	
226-3	32CC	SR1007	北西観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	175.1	18	1.5	5/8"	○	
226-4	32CC	SR1007	北西観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	192.5	18.2	3.2	5/8"	○	
227	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	171.5	17.6	4.1			3点接合。裏面+左右側面打ち張り。下層打ち張り全面。
227-1	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	149.4	17.6	2			
227-2	32CC	SR1007	商業観板2段目1枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	171.5	17.1	1.8			
227-3	32CC	SR1007	商業観板2段目2枚目		施設材	井戸側	観板	柱目	166.5	16.9	1.5			
228	32CC	SR1007	12 動物内%127より出上		加工材	板状木製品		板目	15	1.1	0.3	5/8"		面取り。
229	32CC	SR1007	観板内動物南向の4枚目5枚目		加工材	板状木製品		板目	14.4	1.1	0.4	5/8"		面取り。
230	32CC	SR1007	商業%59に付着		食事具	箸		心照り出し	8.7	0.4	0.3	5/16"		面取り。
231	32CC	SR1007	観板内中心部		食事具	箸		心照り出し	8.6	0.4	0.3	5/8"		面取り。
232	32CC	SR1007	11 北西4枚目と横板の側		食事具	箸		心照り出し	10.3	0.4	0.3	5/8"		面取り。
233	32CC	SR1007	10 観板内		食事具	箸		心照り出し	4.7	0.6	0.3	5/8"		面取り。
234	32CC	SR1007	観板内中心部		食事具	箸		心照り出し	6.6	0.3	0.2	5/8"		面取り。
235	32CC	SR1007	12 観板内		食事具	箸?		心照り出し	14.6	0.5	0.3	5/8"		面取り。
236	32CC	SR1007	観板内		加工材	板状木製品		板目	17.7	1.7	0.6	5/8"		裏面打ち張り。下層入り加工。
237	32CC	SR1007	12 観板内		加工材	板状木製品		板目	17.8	1.7	0.8	5/8"		裏面打ち張り。下層入り加工。
238	32CC	SR1007	10		加工材	板状木製品		板目	11.2	2.2	1.7	5/8"		左右側面取り。上下階。
239	32CC	SR1007	観板内動物南向の4枚目5枚目		食事具	箸		柱目	12.7	2.4	0.3	5/8"		
240	32CC	SR1007	出上位置不明		留付	留付?	底板	柱目	13.8	2.2	0.8	5/8"		穿孔2か所。
241	32CC	SR1007	C北東観板3段目3枚目		施設材	井戸側	枕木	柱目	96.3	12.8	10.2	5/8"	○	2点接合。裏面打ち張り全面。裏面打ち張り。上下面打ち張り全面一部削。裏面+打ち張り全面の削。左右側面+裏。新板6cm。
241-A	32CC	SR1007	C北東観板3段目3枚目		施設材	井戸側	枕木	柱目	96.3	7.8	10.2	5/8"	○	
241-B	32CC	SR1007	A南西観板3段目1枚目		施設材	井戸側	枕木	柱目	96.2	6.3	9.4	5/8"	○	

観 察 表

A区 木製品観察表(5)

製品名	ブランド	通称番号	品目	加工位置	分類	仕様	組立名	木取り	取付長	取付幅	厚さ	留付	留付	加工・特徴等
242	32CC	SR1007	北東戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横木	材目	96.5	12	9.6	3.5		2点接合、裏面打ち張り前部、裏面打ち張り、上下面打ち張り時の処理、後面打ち張り、左右端部・縦
242-A	32CC	SR1007	北東戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横木	材目	96	6.2	6.3	3.5		
242-B	32CC	SR1007	北東戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横木	材目	96.5	6	6.4	3.5		
243	32CC	SR1007	A南東棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横木	材目	97.3	9.9	7.4	3.5	○	裏面打ち張り前一部部、裏面打ち張り、上前面打ち張り前部、下面打ち張り、左右端部・縦
244	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横木	材目	104.3	10.2	7			裏面加工なし、裏面打ち張り前部、上下面打ち張り時の処理、打ち張り後部、左右端部
245	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横木	材目	95	9.8	5.8	3.5		裏面打ち張り前一部部、裏面打ち張り、下面打ち張り時の処理、打ち張り後部、上面打ち張り時の処理、左右端部
246	32CC	SR1007	A南東棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横木	材目	97.1	8	6.6	3.5	○	裏面打ち張り前部、裏面打ち張り、下面打ち張り時の処理、上面打ち張り、左右端部
247	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横木	材目	94.4	6.8	9.1	3.5	○	裏面打ち張り前部、裏面打ち張り、下面打ち張り時の処理、上面打ち張り、左右端部
248	32CC	SR1007	北西戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横木	材目	96.8	9.1	6			裏面打ち張り前一部部、裏面打ち張り、上下面打ち張り時の処理、左右端部
249	32CC	SR1007	C北東棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横木	板目	102.9	9.4	4.2			裏面打ち張り前部、打ち張り後部、裏面打ち張り時の処理、左右端部
250	32CC	SR1007	東側材C面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	82.7	7.6	10.2	3.5		裏面打ち張り前部、裏面打ち張り、上下端部
250-A	32CC	SR1007	東側材C面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	82.7	7.6	5.8	3.5		裏面打ち張り前部、裏面打ち張り、上下端部
250-B	32CC	SR1007	東側材3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	80.8	7.8	5.7	3.5		裏面打ち張り前部、裏面打ち張り、上下端部
251	32CC	SR1007	西側材A面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	87.5	10.7	7.7	3.5		2点接合、裏面・右側面打ち張り前部、裏面打ち張り、後面A面打ち張り時の処理、後面打ち張り、上下端部
251-A	32CC	SR1007	西側材A面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	87.5	5.9	7.7	3.5		
251-B	32CC	SR1007	西側材A面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	85	5.2	7.5	3.5		
252	32CC	SR1007	西戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横柱	板目	91.6	6.9	5.5			裏面右側面打ち張り、左側面打ち張り前部、上下端部
253	32CC	SR1007	北東棚板	加工材	加工材		板目	22	5.8	1.2	3.5			面取り
254	32CC	SR1007	縦柵内	縦柵	取付品	下駄	下駄板	板目	7.8	15.2	1.7	3.5		上端部を加工・塗装、本工組
255	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	195.2	17.4	25.1	3.5		1点接合、裏面打ち張り前部・1点状の処理、左右端部を加工、裏面打ち張り前一部部、1点状の処理あり、上下端部
255-1	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194.2	16.7	1	3.5		
255-2	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	2枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194.1	16.7	2.5	3.5		
255-3	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	2枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194.1	16.5	1.3	3.5		
255-4	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	3枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194	16	1.5	3.5		
255-5	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	2枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	193.5	15.8	1.6	3.5		
255-6	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194.1	15.5	1.5	3.5		
255-7	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	3枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194.3	16	1.4	3.5		
255-8	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	190.5	15.7	1.8	3.5		
255-9	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	2枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	194.3	15.2	2.1	3.5		
255-10	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	193.1	15	1.6	3.5		
255-11	32CC	SR1007	北東棚板2段目	2枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	169	16.7	1.7	3.5		
255-12	32CC	SR1007	南東棚板2段目	2枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	180.1	14.8	1.7	3.5		
255-13	32CC	SR1007	北東棚板2段目	3枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	191.2	14.9	1.8	3.5		
255-14	32CC	SR1007	A南東棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	191.6	15	1.9	3.5		
255-15	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	1枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	191.5	15	2.9	3.5		
255-16	32CC	SR1007	B北西棚板3段目	3枚目	施設材	戸棚	縦板	板目	191.5	12.8	1.6	3.5		
256	32CC	SR1007	東側材C面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	82.1	13	7.4	3.5		2点接合、裏面・右側面打ち張り前部、裏面・右側面打ち張り、後面打ち張り、上下端部
256-A	32CC	SR1007	東側材C面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	82.1	6.1	7.4	3.5		
256-B	32CC	SR1007	北側材B面3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	81	6.8	7	3.5		
257	32CC	SR1007	北戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横柱	板目	86.1	12.5	8	3.5		2点接合、裏面打ち張り、裏面打ち張り前部、右側面打ち張り時の処理、左側面打ち張り前一部部、後面打ち張り時の処理、上下端部
257-A	32CC	SR1007	北戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横柱	板目	81	5.1	8	3.5		
257-B	32CC	SR1007	D南東棚板3段目	目立	施設材	戸棚	横柱	板目	86.1	6.7	8.1	3.5		
258	32CC	SR1007	西戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横柱	板目	82.3	7.4	5.3	3.5		裏面打ち張り、右側面打ち張り前部、左側面打ち張り、上下端部
259	32CC	SR1007	西戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横柱	板目	68.6	8.3	7.2	3.5		裏面・左右側面打ち張り、上下端部
260	32CC	SR1007	西戸棚・櫛	横棧	施設材	戸棚	横柱	板目	68.7	7.1	4.8	3.5		裏面・左右側面打ち張り、上下端部

観 察 表

D区 掘立柱建物の柱穴 (2)

SB33

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
2023	1413	—	—	(56)	6.290	縄文373	<P2440
2027	14H23、 14I1	45	40	30	6.588		
2029	14I6	28	30	27	6.449		
2027	14I3-4	52	44	32	6.555	土壌質土層面	
2039	14I12	55	55	34	6.203	土壌質土層面	>SD3009
2040	14H22	41	35	39	6.382		<SD2014
2062	14I1	45	38	66	6.162		
2421	14I9	(44)	(40)	43	6.400		<P2019、 SD2019

SB34

遺構 No.	位置	規模			掘立柱高	出土遺物	切り合い
		上端径	下端径	深さ			
2024	14I19	39	36	38	6.526		
2026	14I3	45	38	42	6.440		
2026	14I15	39	27	38	6.008		
2062	14H21-22	36	33	15	6.646		
2075	14I6	—	—	43	6.084		
2440	14I13	64	57	46	6.400		>P2022

D区 井戸観察表

遺構 No.	位置	掘出 時期	掘出 回数	形態			規模 (cm)				掘立柱高 (m)	掘 立柱 状況	土層方向	出土遺物	切り合い	備考	
				平面	縦断面	立ち上がり	上端径	上端短径	下端径	下端短径							深さ
3005	13K15、13K6-11	古a	Ⅱ	円形	台形状	急傾度	92	88	44	37	99	5.988	A	N40°E	磁石354	>P2363	
2238	12K20、13K16	古a	Ⅱ	円形	台形状	急傾度	90	76	32	27	(73)	6.249	A	N51°W			

D区 土坑観察表

遺構 No.	位置	掘出 時期	掘出 回数	形態			規模 (cm)				掘立柱高 (m)	掘 立柱 状況	土層方向	出土遺物	切り合い	備考		
				平面	縦断面	立ち上がり	上端径	上端短径	下端径	下端短径							深さ	
2038	14E21-22	古a	Ⅲ	長方形	台形状	緩やか	240	61	224	47	10	6.817	D	N50°W		>SD3020、 P2105		
2040	14I21	古a	中世	楕円形	台形状	急傾度・ 段段	96	60	65	34	26	6.579	A	N33°W				
2041	14E22、14E2	古a	中世	楕円形	台形状	緩やか	68	40	54	27	10	6.726	A	N43°W				
2042	14I1-2	古a	中世	円形	袋状	緩やか	76	73	51	50	12	6.761	A	N57°W	土壌質土層面			
2043	14I1	古a	Ⅱ-1 ~ Ⅱ	円形	台形状	急傾度	116	102	72	66	32	6.703	A				<P2044、 P2138	
2045	13I15-19、 14I1-5	古a	Ⅱ-2 ~ Ⅲ	(楕円形)	台形状	急傾度	(90)	(75)	(77)	(60)	18	6.790	A		土壌質土層面		>SD2017	
2046	14I11-12	古a	中世	楕円形	台形状	急傾度	186	92	160	62	14	6.789	A	N58°W	土壌質土層面/直線 傾度			
2067	14I11-12	古a	Ⅱ-1 ~ Ⅱ	円形	筒状	(垂直)	(76)	(70)	(56)	(50)	(30)	6.460	D				<SD2012	
2093	12H7-9、12- 13	3a	中世	方形	階段状	緩傾度	112	94	88	76	39	6.600	C	N44°E				
2113	13K1-2	古a	Ⅲ 3b	楕円形	台形状	急傾度	162	95	114	50	42	6.545	A	N37°E	土壌質土層面270° 277		>SD2114	
2138	12H12	3a	中世	方形	階段状	急傾度	118	88	86	68	33	6.710	C	N40°E				
2248	12I9-10	古a	Ⅱ	楕円形	台形状	急傾度	103	76	82	51	15	6.853	A	N58°E			>P2210	
2254	13I25	古a	Ⅱ	楕円形	台形状	急傾度	97	68	90	45	9	6.915	A	N47°W			>SD2255	
2312	10I19-20、 24-25	SD32295 層上	Ⅱ	楕円形	台形状	急傾度	152	78	68	30	44	6.574	A	N60°W			>SD2296	
2317	10I2-7	古a	中世	円形	台形状	急傾度・ 緩やか	140	139	106	104	20	6.768	B	N54°W				
2336	9K6-7	6a'	中世	円形	袋状	急傾度	180	162	70	64	48	6.541	A	N36°W	土壌質土層面270° /直線傾度			
2346	9K10、10K6	6a'	中世	楕円形	筒状	垂直	130	56	86	30	21	6.839	A	N63°W				
2359	10I17-21-22	6a'	中世	長方形	台形状	急傾度	144	96	72	38	32	6.712	A	N55°E				
2376	9K10-15-20、 10K6-11	6a'	I	(楕円形)	(台形状)	緩やか	(258)	(191)	(238)	(146)	11	6.980	A		直線傾度		<SD2334、 2344	
2378	10K3-4-9	SD3000A 底面	Ⅱ	楕円形	台形状	急傾度	164	84	120	60	(42)	6.213	F	N45°E	青銅278		*SD3000A	
2420	11K5、12K1	古a	Ⅱ	楕円形	台形状	急傾度	140	70	104	44	16	6.839	C	N36°E			P2393	
2425	12H16	3a	中世	方形	筒状	垂直・急 傾度	122	110	96	84	46	6.833	C	N47°E				
2432	14I24-25	古a	Ⅱ-1 ~ Ⅲ	(楕円形)	(台形状)	急傾度	(162)	(82)	(135)	(57)	(10)	6.744	D				<SD2012	
2433	12H14	3a	Ⅲ	楕円形	台形状	急傾度	94	62	72	46	10	6.909	D	N38°E	土壌質土層面		>SD3000A	
2434	13I22、13K2	古a	Ⅱ	楕円形	台形状	緩やか	96	62	73	40	16	6.819	A	N54°W	輪郭跡			
2435	14I12	古a	Ⅱ-2 ~ Ⅲ	円形	台形状	緩やか	84	80	60	54	11	6.743	D				>9K2436	
2436	14I6-7-11- 12	古a	Ⅱ-2 ~ Ⅲ	楕円形	(台形状)	緩やか	(102)	(84)	(70)	(64)	16	6.720	A	N29°W			<9K2435	
2437	13I25	古a	Ⅱ-2 ~ Ⅲ	円形	台形状	垂直・急 傾度	68	58	42	28	20	6.713	D				>SD3030	
2438	12K9	古a	Ⅱ-3	円形	袋状	緩やか	60	64	54	52	8	6.899	D				>SD2132、 P2259	
2439	11K10-15	古a	中世	楕円形	台形状	緩やか	84	62	58	36	9	6.874	A	N46°E				

D区 溝観察表

通称 No.	位置	検出 部位	変遷 向き	幅幅 (cm)				直道 標高 (m)	主軸方向	出土遺物	取り出し	備考
				上端 長径	上端 短径	下端 長径	下端 短径					
2002	12C-16, 12H	3a	Ⅲ	894	62	792	36	40	6,704	南北N32°E 東西N52°W	縄文379-380 / 土葬 土葬墓	>SD0000A
2006	12J25, 12K5	Ⅳa	Ⅱ- 2	(248)	36	(216)	36	9	6,892	N52°W		<P2214-2215-2426
2009	13J25, 13K4- 5, 1408-12- 13-16-21	Ⅳa	Ⅱ-1	(680)	(86)	(632)	(40)	7	6,796	N40°E	環状溝葬・土葬土葬墓	<SD0017-2020, P2039- 2066-2071
2010	1409	Ⅳa	Ⅱ-3 Ⅲ	(138)	47	(138)	20	26	6,587	N33°E		>P2019-2421
2011	14-15A	Ⅳa	Ⅲ	(490)	38~ 52	(476)	30	16	6,734	N56°W		
2012	13-144	Ⅳa	Ⅱ- 2b	1496	102	1462	62	20	6,758	N51°W	土葬土葬墓325 / 土 葬土葬墓325 / 土葬 土葬墓	>SD0080, SK2087-2432, P2069-2086-2096-2126
2014	14H16-17- 21-22	Ⅳa	Ⅲ	(308)	(86)	(266)	(78)	4	6,596	N65°W	土葬土葬墓328 / 土 葬土葬墓	>P2060
2017	13I-2, 14J	Ⅳa	Ⅱ-1	(1332)	78	(1240)	57	14	6,843	N67°W	環状溝葬334 / 土葬土 葬墓	>SD0009-2088, P2390, <SD0030, SK2045, P2057
2020	13I, 14I-2	Ⅳa	Ⅱ- 2b	(1484)	(84)	(1346)	(64)	23	6,703	N54°W	環状溝葬口縁316 / 土 葬土葬墓	>SD0009-2021-2030-2088- 2089, P2068-2072-2074-2084- 2085-2105-2106-2107, <SD1022-2080, SK2038
2021	13I, 14I-2	Ⅳa	Ⅱ-2 -3	860	50	820	21	14	6,728	N52°W	土葬土葬墓	>SD0030, P2051, <SD2020
2022	14J2-3-4-8-9	Ⅳa	Ⅲ	400	114	360	90	23	6,704	N60°W	土葬土葬墓329-330 / 環状溝葬	>SD0020
2030	13-14E, 13J	Ⅳa	Ⅱ-2	(1040)	46	(986)	28	28	6,601	南北N20°E 東西N52°W	土葬土葬墓332 / 音 縁333	>SD0017, P2070-2101, <SD1020-2021, SK2437
2031	13I	Ⅳa	Ⅱ- 2b Ⅲ	(724)	86	(651)	54	41	6,695	南北N37°E 東西N55°W		>SD2088-2089, P2097- 2098
2080	14A-9	Ⅳa	Ⅲ	(182)	46	(178)	20	21	6,601	N37°E	土葬土葬墓331 / 環 状溝葬	>SD2020
2088	13I	Ⅳa	Ⅱ-1	(438)	(90)	(285)	(20)	18	6,380	N37°E		<SD0017-2020-2031, *P2108
2089	13I	Ⅳa	Ⅱ-1 -2	(514)	82	(510)	54	19	6,843	N39°E	土葬土葬墓	>P2109, <SD0012-2020- 2031
2110	13J18-23-24	Ⅳa	Ⅲ	368	82	290	52	42	6,448	N42°W	環状溝葬口縁315 / 環 状溝葬335 / 土葬土葬墓	>SD2111-2935
2111	13J18-19- 23-24	Ⅳa	Ⅱ-2	208	46	168	27	11	6,748	N41°W		>SD2130, P2258, <SD2110
2114	12-13K	Ⅳa	Ⅱ- 3a	793	42~ 72	704	18~ 62	35	6,596	N37°E	環状溝葬272 / 音縁 336 / 土葬土葬墓 / 口縁367	>SD2132, P2197-2240, <SK2113
2122	12-13J	Ⅳa	Ⅱ-2	806	32~ 60	780	12~ 34	17	6,880	N56°W		>SD2130, P2116-2125- 2202-2244-2245-2246, <SD2259
2132	12-13K	Ⅳa	Ⅱ-2	(792)	38~ 62	(760)	48	20	6,776	N49°W	環状溝葬口縁315 / 土 葬土葬墓	>P2193-2270-2290-2405- 2406, <SD2114, P2196, SK2428, *P2330
2135	13J19-24-25	Ⅳa	Ⅱ-2	(692)	63	(656)	48	10	6,823	N55°W	土葬土葬墓	<SD2110-2111-2122
2171	12K4	Ⅳa	Ⅱ	96	34	84	24	9	6,898	N40°E		>P2172
2249	12J4-5	Ⅳa	Ⅱ	150	42	106	19	27	6,613	N48°W	土葬土葬墓 / 環状溝 葬	>P2252
2253	12J5	Ⅳa	Ⅲ	118	22	100	14	6	6,898	N49°W		
2255	12J5	Ⅳa	Ⅱ	(78)	37	(78)	21	9	6,888	N46°W		<SD001C, SK2254
2259	12J10-14-15	Ⅳa	Ⅱ-3	352	46	320	32	9	6,923	N37°E		>SD2122, P2243
2295	10-11L	Ⅳa	Ⅰ	(1194)	116 ~ 156	(1133)	52~ 103	32	6,699	N8°W	環状溝葬 / 土葬土葬墓	>SD2296, <SD0001C, SK2312, *P2247-2248-2249- 2250-2261-2266-2267- 2268-2269-2274
2296	11K-L	Ⅳa	Ⅰ	(1236)	70	(1120)	39	16	6,840	N5°E		>P2227-2228-2245, <SD001C-2295
2311	10-11M	Ⅳa	Ⅰ	(818)	43	(792)	28	23	6,794	南北N42°E 東西N52°W		
2314	10K13-14- 19-20	Ⅳa	Ⅰ	(532)	44	(532)	24	25	6,909	N61°W	土葬土葬墓 / 環状溝 葬	<SD0000A-2001A, P2337
2319	10K9-14-15, 11K11-16	Ⅳa	Ⅱ-1 -2	(502)	148	(490)	112	33	6,650	N49°W	環状溝葬337 / 土 葬土葬墓	<SD0000A-2001A, P2323
2342	9-10K	6a	Ⅰ	(814)	48	(790)	28	11	6,909	N64°W	土葬環状溝葬 / 環状溝 葬	<SD0000B, SK2352
2344	10K6-11-12	6a	Ⅱ-1 -2	266	26	252	14	11	6,918	N57°W	土葬土葬墓	>SK2376
2384	10I-2	6a	Ⅰ	(1122)	84	(1122)	60	16	6,911	N46°W	土葬土葬墓	<SD0000A
2375	11-12H, 1	3a	Ⅲ	628	100	612	72	11	6,888	N56°E		>P2401

D区 ビット観察表(2)

通称 No.	位置	市街 方位	距離 (cm) 上端 上端 加算 加算	高さ 深さ	底面 標高 (m)	出土遺物	切り取り	備考
2150	13K8	南	34	18	8.672		>P2151	
2151	13K7-8	南	51	26	8.641		>P2150	
2152	13I22-23, 13K2-3	南	32	28	8.715		>P2153	
2153	13K2	南	48	30	8.696		<P2152	
2154	13I17	南	22	20	11.696			
2155	13I21	南	22	20	13.681		>P2181	
2157	13I25, 13I21	南	29	26	8.762			
2159	13K2	南	(16)	20	15.679		<P2160	
2161	13K3	南	30	26	8.722			
2162	13K3-4	南	50	36	8.621	土師貫土 群層341	>P2424	
2163	13K3-4	南	36	28	19.676			
2165	13I21	南	24	23	8.683			
2166	13K1	南	36	27	13.620		>P2331, <P2320	
2167	13K1	南	28	23	16.623			
2169	13I24	南	18	15	4.697			
2172	12K4	南	35	25	17.6815		<SD2171	
2175	13I22	南	44	34	8.601		<P2176	
2176	13I22	南	(12)	16	7.6918		>P2175	
2177	13K8	南	30	27	17.674			
2178	13K3-8	南	36	28	32.631		>P2179	
2179	13K3	南	(16)	18	10.676		<P2178	
2180	13I21	南	37	35	17.629		>P2179, <P2181	
2181	13I21	南	36	17	16.656		>P2186, <P2155	
2183	12I14-19	南	52	30	14.637			
2184	12I19	南	66	34	16.675			
2186	12I24, 12K4	南	47	45	25.678		<P2242	
2188	12K4	南	29	26	18.609			
2191	13K2	南	40	22	13.659		<P2192	
2192	13K2	南	44	23	11.634		>P2191	
2193	12K9	南	34	26	28.687	土師貫土 群層342	<SD2122	
2194	12K14	南	25	24	29.608			
2195	12K5	南	31	18	10.623			
2197	12K15	南	74	73	44.611		<SD2114	
2198	12I20	南	52	42	23.675		<P2199	
2199	12I20	南	35	(23)	20.670		>P2198	
2200	13I25	南	(34)	48	16.676			
2202	13I18	南	27	24	29.659		<SD2122	
2204	12K6	南	33	30	42.6507			
2206	13K5	南	47	36	9.622			
2207	13K5	南	19	18	7.684			
2208	13K6	南	30	23	32.678			
2209	13K6	南	35	30	45.6507			
2210	12K10	南	35	20	11.638	土師貫土 群層		
2211	12K5	南	28	22	26.6716		<P2212	
2212	12K5	南	25	19	11.658		>P2211	
2213	12K5	南	43	32	14.625			
2216	12I14	南	25	24	10.692			
2217	12I14	南	31	17	10.697			
2218	12I13-14	南	30	34	15.6835			
2223	12K1	南	30	22	10.696			
2224	12K6	南	21	18	25.678			
2225	12K1-6	南	45	39	48.6554			
2226	12K7	南	22	11	6.683			
2227	12K8	南	39	28	21.676			
2228	12K13	南	36	34	37.6628			
2229	12K13	南	36	32	22.6776			
2230	12K19	南	25	24	21.6745			
2231	12K19	南	21	19	12.685			
2232	12K24	南	45	36	31.6682	白磁343		
2233	12K25	南	31	28	25.678			
2234	12K18	南	34	28	14.638			
2235	12K18	南	23	17	8.6579			
2236	12K17	南	18	17	8.694			
2237	12I20	南	33	28	11.690			
2241	12I24, 12K4	南	36	23	6.909		>P2242	
2242	12I24, 12K4	南	35	(15)	8.879		>P2186, <P2241	
2243	12I15	南	23	19	5.678		<SB2259	
2245	13I18	南	32	19	9.6742		<SD2122	
2246	13I18	南	20	16	11.6782		<SD2122	
2247	12I9	南	67	64	14.686			
2250	12I5	南	45	34	8.883			
2251	12I5	南	69	54	19.6779			
2252	12I5	南	28	25	10.6863		<SD2249	
2256	12I25	南	62	48	14.6552			
2257	13I14	南	48	41	13.6870			
2258	13I18- 19-24	南	34	26	22.6591		<SD2119- 2111	
2260	12K17	南	31	31	21.6745			
2261	12K16	南	19	14	7.6923			
2262	12K16	南	26	24	19.6791	土師貫土 群層		
2263	12K10, 12K9	南	(25)	26	12.6820		<SK2005	
2265	11K20	南	25	20	15.6527			
2266	11K25	南	22	17	4.6954			
2267	11K25	南	29	25	20.6782			
2268	11K25	南	34	29	11.6879			
2269	11K25, 12K1, 12I1	南	32	30	5.914			
2270	12K21	南	44	40	11.6856			
2271	12I1	南	30	28	8.899			
2272	12K22	南	22	18	13.6834			
2273	12I1	南	30	27	15.6844			
2274	12I1	南	15	13	14.6854			
2275	11I1A, 12I1	南	30	28	9.6996			
2276	12I6-7	南	23	20	4.953			
2277	12I1	南	20	19	8.928			
2278	12I6	南	21	18	19.678			
2279	12K15	南	(19)	32	11.6824		<SD2132	
2280	13I11	南	22	21	14.6853			
2281	13I16	南	30	24	17.6822			
2282	12I20	南	26	17	12.6860			
2283	13I17	南	24	16	17.6829			
2284	11I5	南	37	28	17.8005		>P2286	南東壁面
2285	12I6	南	21	17	9.699			南東壁面
2286	11I5, 12I1	南	(15)	25	18.8007		<P2284	南東壁面
2287	11I10	南	28	26	10.693			南東壁面
2288	13K11	南	29	28	17.6783			南東壁面
2289	13K3	南	24	20	17.6744			
2290	13K3	南	23	20	18.6742			
2291	12K9	南	(20)	21	16.8177		<SD2122	
2292	13K12	南	(20)	40	22.6747			
2299	11I5	南	27	22	13.6843			
2300	11I1A	南	27	21	20.6796			
2301	11I1A	南	29	23	11.6865			
2302	11I15	南	16	13	8.8913			
2303	11M1-6	南	25	20	12.6879			
2304	11M1-6	南	25	20	19.6879			
2305	11M1	南	16	15	8.919			
2306	10M10	南	25	25	15.6837			
2307	10M19	南	25	23	10.6880			
2308	10M19	南	31	23	11.6847			
2309	10M18-19	南	20	19	10.6873			
2310	12I10	南	(56)	36	9.901		<SK2248	
2321	12K14-19	南	39	29	10.6881			
2322	12K6	南	33	30	19.6792	黒磁器類		
2323	10K15	南	35	28	24.6757		>SD2319	
2326	12K3	南	21	19	7.900			
2327	11I3	南	20	14	11.6894		<SD2296	
2328	11I3	南	16	14	9.914		<SD2296	
2329	11I7	南	41	32	10.6892			
2331	13K1	南	50	32	18.6781		<P2190- 2330	
2337	10K16 I-B	南	26	24	29.6810		>SD2314	
2338	10K15, 11K11	南	23	19	8.908			
2339	9K25	南	21	20	10.938			
2340	10K5	南	49	31	14.6875			
2341	11I24	南	20	25	11.6885			
2342	11I19	南	16	15	21.6802			
2343	11I22-23	南	19	14	24.6813			
2345	11I18	南	20	14	15.6834		<SD2296	
2347	11I24-25	南	13	12	12.6775		*SD2295	
2348	11I24	南	11	11	4.6840		*SD2295	
2349	11I24	南	15	12	5.8812		*SD2295	
2350	11I24	南	15	10	6.6849		*SD2295	
2351	11I23-24	南	12	11	8.6813		*SD2295	
2356	11I24	南	15	12	8.6796		*SD2295	

D区 土器観察表(2)

報告 No.	出土位置	通称/標記	種類	器種 分類	口径	高さ	底径	外面色調	内面色調	胎土 分類	胎土	胎土 方向	底径調整	調整・文様	使用 段階	備考		
309	1332	SD0201A-2	古瀬戸	入子・中瀬戸			3.8	2.5Y灰白	2.5Y灰白				黒	右	同転糸	ロコロナデ	身体 底面	
310	13H14	SD0201A-2b	青磁	柳舟 1			5.7	2.5GYオリー ブ灰	2.5GYオリー ブ灰				黒		同転糸	青磁 底面	身体 底面 文様	
311	10L18	SD0201A-1	白磁	柳舟				2.5GY灰白	2.5GY明オリ ブ灰				黒		同転糸	青磁 底面	身体 下部～底面動 なし。高低差付 付文	
312	12I16	SD0201A-2b	青磁	柳舟 1	20.2			2.5GY明オリ ブ灰	2.5GY明オリ ブ灰				黒		同転糸	青磁 底面	身体 底面調整付文	
313	12I24	SD0201A-4b	黒洲	片口器 Ⅳ～Ⅴ	24.8			N灰	N灰				灰・白		同転糸	ロコロナデ	跡し日 9日	
314	12I21	SD0201A-1	黒洲	片口器 Ⅳ			14.0	10Y灰	5Y灰				海岸・灰・白		同転糸	ロコロナデ	跡し日 12日	
315	12I, 12I16, 13I29	SD2132-1, SD0201A-1, SD2110-1	黒洲	片口器 Ⅳ～Ⅴ			32.4	13I, 15I	N灰				海岸・灰・白 (人)		同転糸	ロコロナデ	跡し日 20日	
316	12I2, 14I16	SD0201A-1, SD0202-1	黒洲	片口器 Ⅳ			13.4	2.5Y灰黄	2.5Y灰黄				灰・白		同転糸	跡し日7日		
317	12I21	SD0201A-1	黒洲	片口器 Ⅳ～Ⅴ			13.4	2.5Y灰白	2.5Y灰黄				海岸・灰・白		同転糸	ロコロナデ	跡し日 13日	
318	11I24, 10L8, 11K4	SD0200A-2a, SD0201C-1a, SD0201A-1	黒洲	片口器 Ⅳ	32.2	12.1	11.0	5M暗黄灰	N灰				海岸・灰・人 灰の白点粘 土		同転糸	ロコロナデ	跡し日 12日	内面に 小孔多 数あり
319	11K	SD0201A-3a	黒洲	片口器 Ⅳ			16.4	N灰	N灰白				海岸・灰・白		同転糸	ロコロナデ	跡し日 10日	
320	13I6	SD0201A-1	黒洲	片口器 Ⅳ				2.5Y灰黄	2.5Y灰黄				灰・長		同転糸	ロコロナデ		
321	12I7	SD0201A-1	黒洲	片口器 Ⅳ				N灰	N灰				灰・長・緑 彩		同転糸	ロコロナデ	跡し日 11日	
322	13I6	SD0201A-1	黒洲	片口器 Ⅳ				2.5Y灰黄	N灰				灰・長		同転糸	ロコロナデ		
323	13H14	SD0201A-2c	波羅島陶器	壺				7.5Y灰黄	10Y灰黄陶				灰・長・花 彩		同転糸	内面コナデ。底面 へみずみ。底面 変色		
324	10L8	SD0201B-1	青磁	柳舟 Ⅱ～Ⅲ	21.0			7.5GY緑灰	7.5GY緑灰				黒		同転糸	ロコロナデ		
325	14I11	SD0201-1	土師器土器	小皿	4.4			7.5Y黄	7.5Y黄				灰・長		同転糸	ロコロナデ		
326	14I18	SD0201-1	土師器土器	皿C1			7.2	7.5Y灰白	7.5Y灰白				灰・長	左	同転糸	ロコロナデ		
327	14I11	SD0201-1	土師器土器	皿C1	13.0	3.1	8.3	7.5Y灰白	7.5Y灰白				金・灰・長	左	同転糸	ロコロナデ	内面 底面	
328	13I6	SD0201A-1	土師器土器	皿C3	12.2	2.8	9.0	2.5Y灰色	2.5Y灰色				金・灰	左	同転糸	ロコロナデ	内面 底面	
329	14I3	SD0202-1	土師器土器	小皿A			5.6	10Y黄灰黄	10Y黄灰黄				金・黄	左	同転糸	ロコロナデ		
330	14I3	SD0202-1	土師器土器	皿C2			8.4	5Y灰白	10Y灰黄陶				灰・長		同転糸	ロコロナデ		
331	14K4-5	SD0206-1	土師器土器	小皿C1			5.1	7.0Y 5YRに 近い黄	5YRに 近い黄				灰・長	左	同転糸	ロコロナデ		
332	13I24	SD0203-2	土師器土器	小皿A			7.8	7.5Y黄灰黄	7.5Y黄				灰・長		同転糸	ロコロナデ		
333	13I25	SD0203-1	青磁	柳舟 1	16.4			5G明緑灰	5GYオリー ブ灰				黒		同転糸	身体 底面調整付文		
334	14I6	SD0201-1	黒洲	壺下腹 Ⅲ				N灰	2.5GYオリー ブ灰				灰・白		同転糸	身体 平行タタキ。内 面無文当て丸		
335	13I24	SD2110-2	黒洲	鉢 Ⅱ	21.0	8.5	10.0	5M暗黄	N灰				灰・白		同転糸	ロコロナデ		
336	13K15	SD2114-1	青磁	柳舟 1	18.4			7.5Yオリー ブ灰	7.5Yオリー ブ灰				黒		同転糸	身体 底面調整付文		
337	10K9	SD2319-1	黒洲	片口器 Ⅳ～Ⅴ	29.0			2.5Y灰白	2.5Y灰白				金・灰・白		同転糸	ロコロナデ		
338	9K9	SD2324-1	土師器土器	小皿A			7.0	10Y黄	10Y黄				灰・ナデ		同転糸	ナデ	ナデ つくぬ	
339	9I25	SD2332-1	黒洲	片口器 Ⅳ～Ⅴ	26.0			10Y黄陶	10Y黄陶				灰・長・緑 彩		同転糸	ロコロナデ		
340	13K3	P2162-ツキ土	土師器土器	小皿A			6.0	7.5Y黄	7.5Y黄				灰		同転糸	ナデ	ナデ つくぬ	
341	13K3	P2162-ツキ土	土師器土器	皿A			10.0	7.5Y黄	7.5Y黄				灰		同転糸	ナデ	ナデ つくぬ	
342	12K9	P2193-1	土師器土器	皿C2			7.8	7.5Y灰白	7.5Y灰白				灰・人 彩の 長	左	同転糸	ロコロナデ		
343	12L4	P2232-1	白磁	皿A	8.0			7.5Y灰白	7.5Y灰白				灰		同転糸	内面調整 付文		
344	D区海側 壺		土師器土器	皿A			8.0	7.5Y黄	7.5Y黄				灰		同転糸	ナデ	ナデ つくぬ	
345	9K4	SK2352-1	土師器土器	皿R2	14.0	4.1	7.8	2.5Y灰白	2.5Y灰白				金・灰・長		同転糸	ロコロナデ		
346	12K 1		土師器土器	皿R2	12.5	3.9	7.8	7.5Y黄	7.5Y黄				灰・長	右	同転糸	ロコロナデ		
347	9K14	SD0206A-1	磁器器	柳舟				N灰	2.5Y灰黄	A					同転糸	土師 片口 器		
348	10I24	SD0200A-4a	黒洲	片口器 Ⅳ			4.0	11.4							同転糸	ロコロナデ	跡し日 6日	
349	12H10	SD0206A-3b	黒洲	片口器 Ⅳ			4.8	13.0	5Y灰	7.5Y灰陶			海岸・灰・白		同転糸	ロコロナデ	跡し日 8日	
350	12I3	SD0201A-1	黒洲	壺			11.6	5Y灰	5Y灰				海岸・灰		同転糸	身体 平行タタキ。内 面無文当て丸	磁石 底面	
351	12I24	SD0201A-4a	黒洲	壺			9.8	2.5Y灰白	2.5Y灰黄				海岸・白		同転糸	身体 平行タタキ。内 面無文当て丸	磁石 底面	
352	9K15	SD2324-1	黒洲	壺			11.7	2.5Y灰黄	2.5Y灰白				海岸・白		同転糸	身体 平行タタキ。内 面無文当て丸	磁石 底面	
353	12G	SD2002-1	縄文	深鉢				10Y黄陶	10YRに 近い 黄				灰・白		同転糸	身体 底面文様	身体 底面 底面	
380	12G15	SD2002-1	縄文	深鉢				10YRに 近い 黄	10YRに 近い 黄				灰・長・白		同転糸	身体 底面文様	身体 底面 底面	
381	12G15	SK2444-3a	縄文	深鉢				10YRに 近い 黄	10YRに 近い 黄				灰・長・白		同転糸	身体 底面文様+経線 文様	身体 底面 底面	
382	12G18	SK2444-3a	縄文	深鉢			8.0	10Y黄灰黄	10YRに 近い 黄				灰・長・白		同転糸	平行 文様	縄文 文様	身体 底面 底面
383	11H23	SK2444-3a	縄文	深鉢				10YRに 近い 黄	10YRに 近い 黄				灰・長・白		同転糸	平行 文様	縄文 文様	身体 底面 底面
384	12H12	SK2444-3a	縄文	付付深鉢			10.0	10Y黄陶	10YR黄灰陶				灰・長・白		同転糸	身体 底面文様	身体 底面 底面	

観 察 表

D区 土器観察表 (3)

報告No.	出土位置	通称/標記	種類	数量/目録	口径	高さ	底径	外径	内径	胎土	胎色	面化粧	内面化粧	胎土分類	胎土	胎色	胎文	底面形状	調査・文種	使用段階	備考	
385	13H22	片	陶文	残片				10YR7-10L ¹ 黄緑	10YR7黄緑													
386	12I6	SR2444-3a	陶文	残片				10YR7-10L ¹ 黄緑	10YR7黄緑													外面土厚手
387	D区武庫 49T11L	陶文	片				10.6	10YR7-10L ¹ 黄緑	10YR7-10L ¹ 黄緑													外面赤灰文+陶文 内面赤 色物
388	8225 9L12	SR2444-8b	陶文	片	37.2			7.5YR7-10L ¹ 黄緑	7.5YR7-10L ¹ 黄緑													外面赤灰文+陶文 内面赤 色物

D区 石器・石製品観察表

報告No.	出土位置	遺物種別	遺物No.	標記	種類	石種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考
353	13H18	SD	2001A	1	瓦輪石(本輪)	花崗岩	22.6	28.1	27.4	2490.0	完整	
354	13K11	SE	2005	1	砥石	凝灰岩	6.3	4.7	0.8	25.5	片断欠損	砥石に砥状片有
355	12J11	SD	2001A	1	砥石	砂岩	8.4	3.7	2.6	79.5	両端欠損	砥石に砥状片有
356	12H19	SD	2000A	3	砥石	凝灰岩	14.8	11.1	4.9	114.0	完整	両端部、上下端部に磨滅跡。正面に磨痕
377	12G18	SI	IV a	1	磨石	凝灰岩	3.9	4.2	1.0	9.5	完整	砥石に砥状片有
378	12H4	SC	2371-84	1	磨石	凝灰岩	6.3	6.0	2.2	47.0	完整	磨文が代換。下縁の一部に磨痕跡
整理No.5	13J19・20・24・25				磨石	凝灰岩	4.8	3.6	1.8	49.0	片断欠損	砥石に砥状片有
整理No.6	調査区一帯		調査区一帯		砥石	凝灰岩	7.2	5.4	3.4	126.0	両端・側面欠損	外面赤灰文+磨滅跡 砥石に砥状片有
整理No.7	12H4	SC	2371-83	1	磨石	凝灰岩	3.0	3.6	0.7	6.0		磨文付代換

D区 金属製品観察表

報告No.	出土位置	遺物種別	遺物No.	標記	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考
357	13H15	SD	2001A	1	釘	5.2	0.9	0.8	8.5		
358	12H14	SD	2001A	2	釘	5.5	1.2	1.3	12.5		
359	13H14	SD	2001A	3	釘	5.3	1.0	0.8	9.3		
360	12H14	SD	2001A	2	釘	5.2	0.6	0.9	10.0		
361	13H14	SD	2001A	2	釘	6.5	0.9	0.9	11.0		
362	13H14	SD	2001A	2	釘	4.7	0.8	0.7	6.5		
363	13H5	SD	2001A	3	釘	5.8	0.6	0.4	7.0		
364	11K4	SD	2001A	1	釘	5.6	1.3	0.3	4.0		
365	11J24	SD	2001A	1	釘	2.9	0.4	0.3	2.0		
366	12H14	SD	2001A	磨上	釘	3.8	1.8	0.4	4.5		
367	12K14	SD	2114	1	釘	3.7	0.5	0.5	4.0		
368	8122	SK	2352	1	釘	5.6	1.0	1.3	21.0		
369	13H14	SK	2115	1	釘	4.9	1.0	1	9.0		
370	12J16	SD	2001B	1	鎌	7.1	3.6	0.2	14.0		
371	13J22	SD	2000A	1	鉄製品	4.7	2.3	2.6	82.5		
372	14J				鉄	10.2	5.6	2.8	277.5		
373	14H3・18	P	2023	5	鉄釘	約径:2.4					製元不詳。北条・建永年:1094年
整理No.28	13H1	SD	2000A	1	釘	3.1	0.7	0.2	6.5		
整理No.29	13H1	SD	2000A	1	釘	1.5	0.3	0.4	1.0		
整理No.55	13H15	SD	2001A	1	釘	3.8	0.7	0.7	5.0		
整理No.56	13H15	SD	2001A	1	釘	4.1	1.1	1.2	11.0		
整理No.32	13H14	SD	2001A	2	釘	3.4	0.7	0.6	6.5		
整理No.33	13H14	SD	2001A	2	釘	1.9	0.3	0.6	1.5		
整理No.34	13H14	SD	2001A	2	釘	2.8	1.0	0.4	3.0		
整理No.35	13H14	SD	2001A	2	釘	4.0	0.7	0.6	8.0		
整理No.36	13H14	SD	2001A	2	釘	3.8	0.8	(0.6)	6.5		
整理No.37	13H14	SD	2001A	2	釘	2.4	0.2	2.5	12.5		
整理No.38	13H14	SD	2001A	2	釘	3.1	0.8	0.8	5.5		
整理No.40	13H14	SD	2001A	2	釘	3.4	0.7	0.4	5.5		
整理No.42	13H14	SD	2001A	2	釘	2.5	0.3	0.3	2.0		
整理No.43	13H14	SD	2001A	2	釘	1.3	0.4	0.8	1.0		
整理No.44	13H14	SD	2001A	2	釘	2.1	0.2	0.3	1.5		
整理No.45	13H14	SD	2001A	2	釘	1.4	0.4	(1.0)	2.0		
整理No.46	13H14	SD	2001A	3	釘	4.6	0.9	0.6	7.0		
整理No.47	13H14	SD	2001A	3	釘	2.2	2.2	(0.7)	2.0		
整理No.48	13H14	SD	2001A	3	釘	3.9	3.9	(0.5)	4.5		
整理No.49	13H14	SD	2001A	3	釘	2.1	2.2	0.7	3.0		
整理No.50	13H14	SD	2001A	3	釘	4.9	3.8	0.7	6.5		
整理No.52	13H14	SD	2001A	4	釘	3.2	0.8	(0.9)	4.0		
整理No.53	13H14	SD	2001A	4	釘	3.3	0.6	0.9	4.5		
整理No.63	13H14	SK	2115	1	釘	4.0	0.7	0.4	7.5		
整理No.68	13J22			1	釘	6.3	1.5	0.8	14.5		
整理No.69	調査区一帯				釘	4.4	1.7	0.5	7.5		
整理No.70	調査区一帯				釘	2.1	1.4	0.7	3.5		

D区 製鉄・鍛冶関連通物観察表

番号No.	炉上位置	通物種類	通物No.	炉位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考
374	13H15	SD	2001A	1	輥形圧	6.9	6.6	2.9	105.0		
375	13H23	SD	2001A	1	輥形圧	9.3	7.6	4.5	263		
376	11K5	SD	2001B	1	輥形圧	10.1	8.0	3.9	300.0		
整理No.115	12I10	SD	2000A	2	輥形圧	3.0	2.4	1.9	19.5		
整理No.119a	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	3.7	3.2	1.8	21.0		
整理No.119b	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	3.0	2.4	3.0	9.0		
整理No.119c	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	2.6	1.9	6.5	8.2		
整理No.119d	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	1.9	1.5	3.0	3.0		
整理No.119e	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	1.3	1.3	1.0	1.0		
整理No.119f	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	1.4	1.0	0.5	0.5		
整理No.119g	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	2.4	1.9	3.0	3.0		
整理No.119h	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	2.0	1.5	1.5	1.5		
整理No.119i	12I24	SD	2001A	1	輥形圧	1.0	0.8	0.8	0.5		
整理No.117	12T7	SD	2001A	2	輥形圧	9.2	7.8	4.3	265.0		
整理No.113	13I14	SD	2001A	3	輥形圧	5.7	4.0	2.1	60.0		
整理No.118a	13I22	SK	2434	1	輥形圧	3.0	2.8	1.8	17.5		
整理No.118b	13I22	SK	2434	1	輥形圧	2.2	1.5	0.7	2.5		

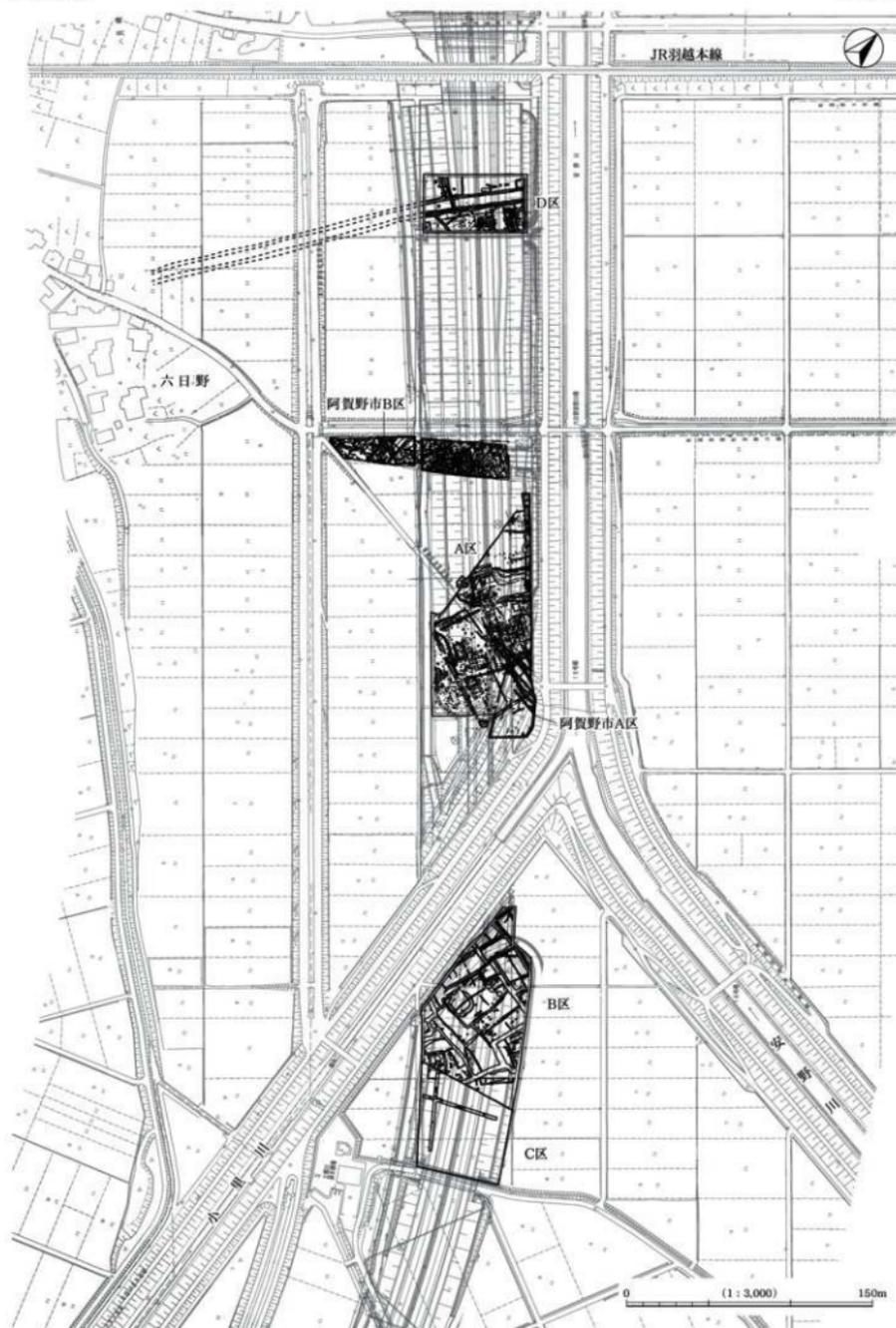
B・C区 土器観察表

番号No.	炉上位置	産地/炉位	種類	器種・器名	口径	器高	器径	外面色調	内面色調	胎土分類	胎土	施釉方法	底面調整	調整・文様	使用時期	備考
380	49T714	IV	灰志郎	無台杯	11.2			N灰	N灰	A	灰・黒・白				ワケロナ子	
390	49Q15	SD6-2b	灰志郎	無台杯	11.6	3.1	7.8	N灰	N灰	B	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
391	44Q24	SD2-2	灰志郎	無台杯	1.4			N灰	N灰	B	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
392	49Q15	SD10-2	灰志郎	無台杯			7.4	N灰	N灰	B	白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
393	43R13	SD6-2	灰志郎	無台杯			5.2	N灰	N灰	A	灰・黒・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
394	43R13	SD6-2	灰志郎	無台杯			7.8	N灰	N灰	A	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
395	43R13	SD6-2	灰志郎	無台杯	13.0			N灰	N灰	A	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
396	43R13	SD6-2	灰志郎	有縁杯	14.0			N灰	N灰	A	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
397	43Q13	SD3-2	灰志郎	無台杯			9.0	N灰	N灰	A	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
398	44Q17	SD6-2b	灰志郎	無台杯			7.8	2.0Y灰白	2.5Y灰白	A	灰・白	左	傾斜ヘラ		ワケロナ子	
399	43Q13	I	灰志郎	無台杯			9.0	N灰	N灰	A	灰・白	傾斜ヘラ			ワケロナ子	
400	43R13	SD6-2	灰志郎	無台杯	2.6			N灰	N灰	A	灰・白	傾斜ヘラ			ワケロナ子	
401	49R1	II	灰志郎	神蓋			7.0Y灰オリーブ	5Y灰白	A	灰					ワケロナ子	
402	44SS22	II	灰志郎	有台杯			5.8	2.5Y灰白	2.5Y灰白	A	灰				ワケロナ子	
403	44Q11	II	灰志郎	有台杯			6.2	N灰	N灰	A	灰・白	傾斜ヘラ	ナシ		ワケロナ子	
404	43Q68	SD8-1	灰志郎	有台杯			7.6	N灰	N灰	A	灰・白	傾斜ヘラ			ワケロナ子	
405	43R13	SD6-1	灰志郎	有台杯			8.4	5Y灰	10N灰	A	灰・白	傾斜ヘラ	ナシ		ワケロナ子	
406	43R13	SD6-2	灰志郎	有台杯			8.4	2.0Y灰	2.5Y灰	A	灰・白				ワケロナ子	
407	44Q13	SD20-10	灰志郎	長頸瓶			11.0	N灰	N灰	A	灰・黒・白				ワケロナ子	
408	46VV16	IV	灰志郎	長頸瓶			8.6	N灰	N灰	A	灰・白				ワケロナ子	
409	49T715	SD21-1	灰志郎	中徳				N灰	N灰	A	灰・白				ワケロナ子	
410	43Q125	SD3-6	灰志郎	徳				N灰	N灰	A	灰・白				内面心付にて具、赤ナシ	
411	43R13	SD6-2	土俵郎	長徳	22.2			10YR灰白	10YR灰白	灰	灰				内面ワケロナ子赤白、外面ワケロナ子	器面調整
412	43Q12	SD8-1	土俵郎	長徳	25.0			2.5Y灰	2.5Y灰	灰	灰				ワケロナ子	
413	43NV18	SD33C	焼洲	徳ナ徳				N灰	N灰	灰	灰				赤体平打ナシ、内ナシ	
414	IR1	不明	青磁	観音						黒						
415	49T719	SD21-1	青磁	観音						白					赤体赤文	
416	44Q15	SD10-1	白磁	観音						白					赤体ナシ	
417	44PP25	SD7-2b	青磁	観音						白					赤体調整	調整ナシ
418	44Q19	SD6-1	白磁	徳						白						
419	44PP25	SD7-3	伊瓦焼	瓶	13.2	4.1	8.0	7.5GY灰白	7.5GY灰白	黒					底面外面共に調整ナシ	

図 版

凡 例

	集石範圍
	炭化物範圍
	炭化物
	漆
	樹皮
	磨痕
	節理面





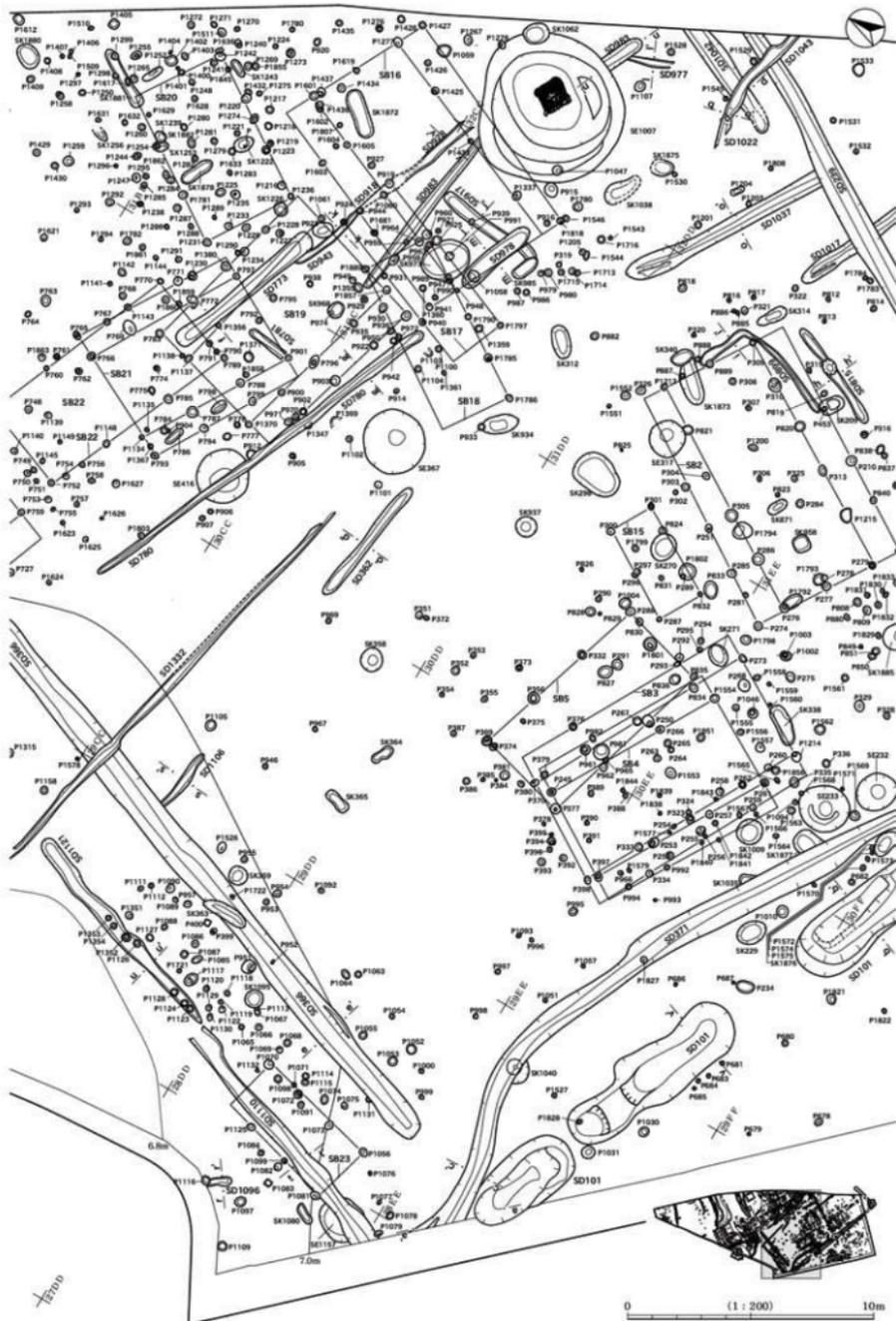
(阿賀野市調査A区〔古澤ほか2001〕を台帳)

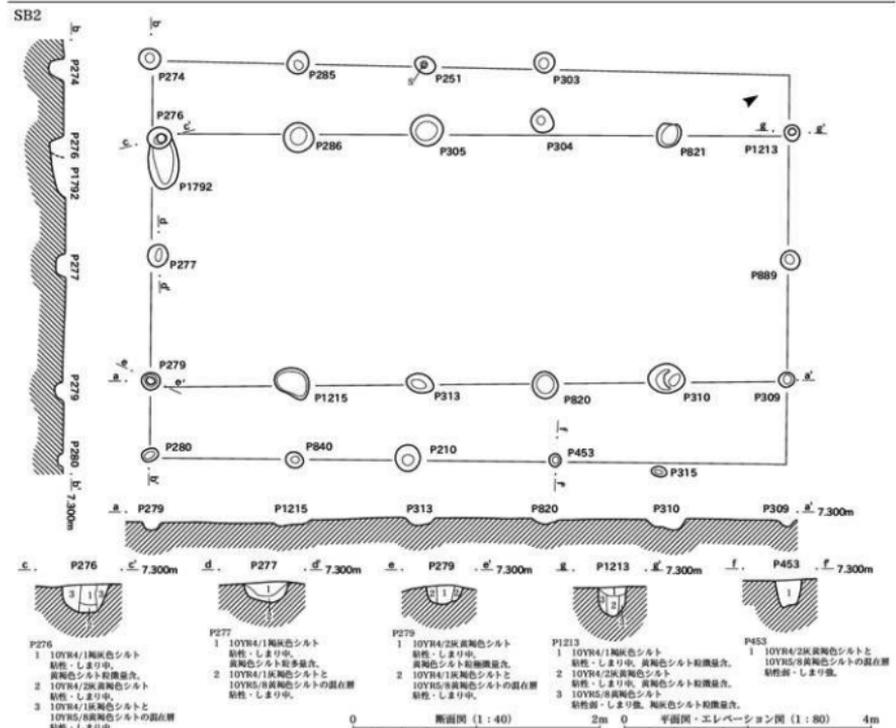
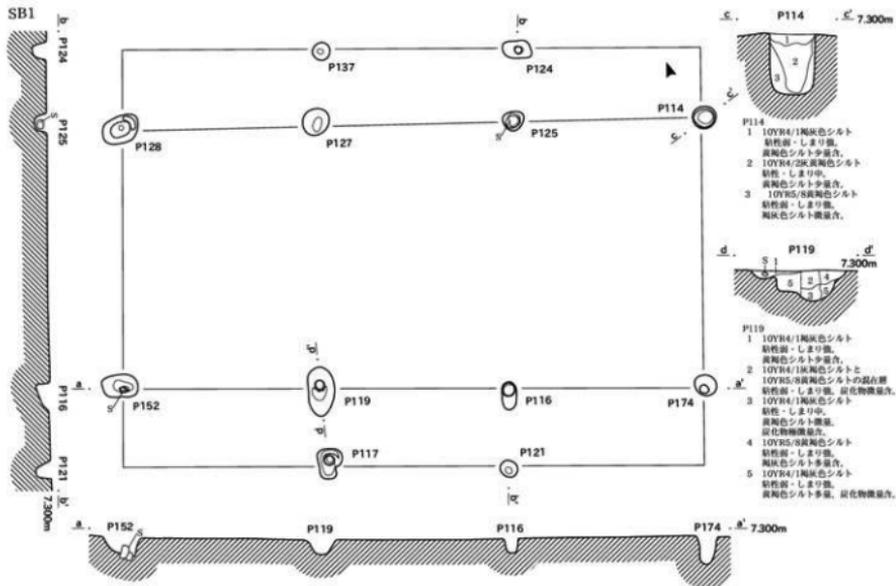
0 (1:400) 20m



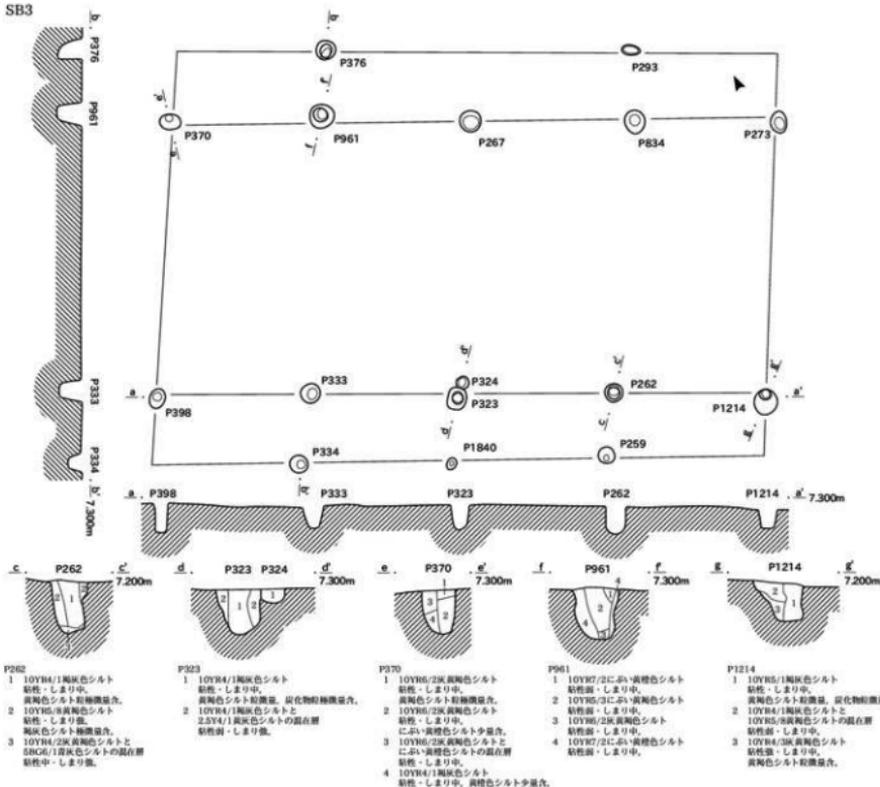




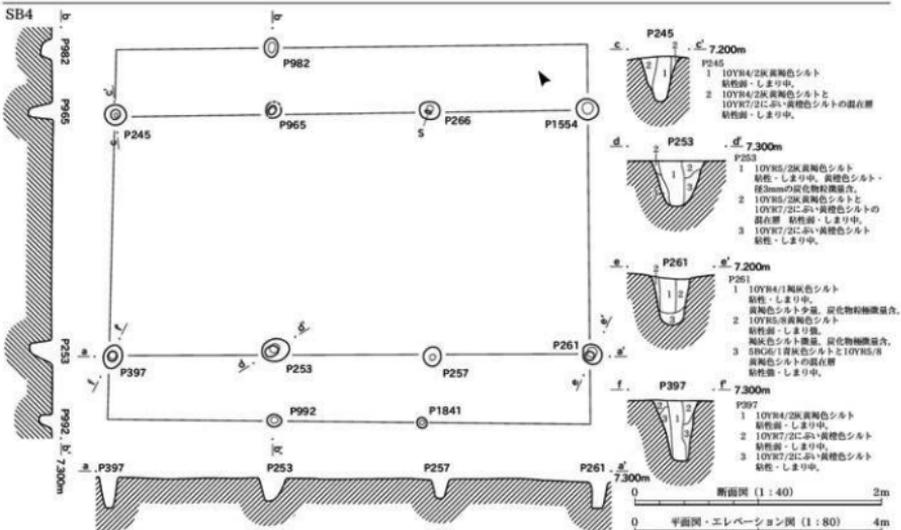


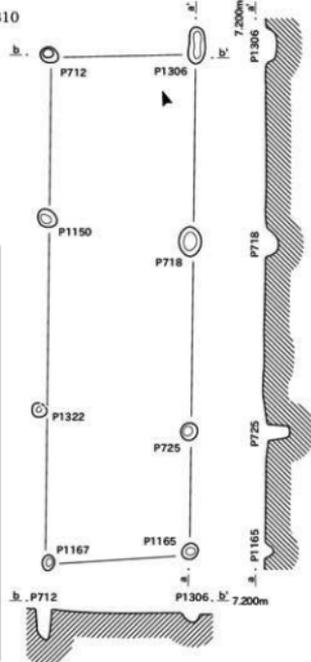
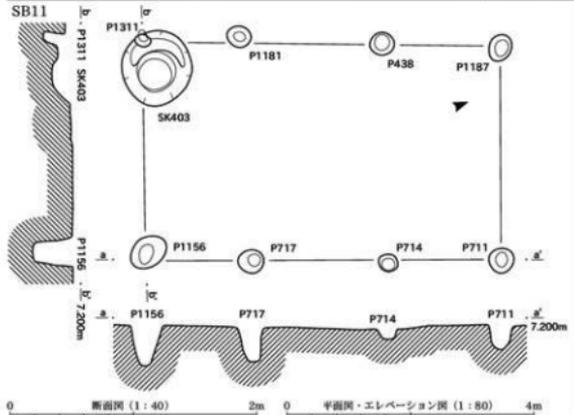
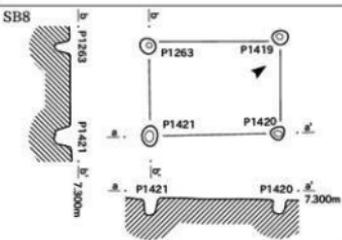
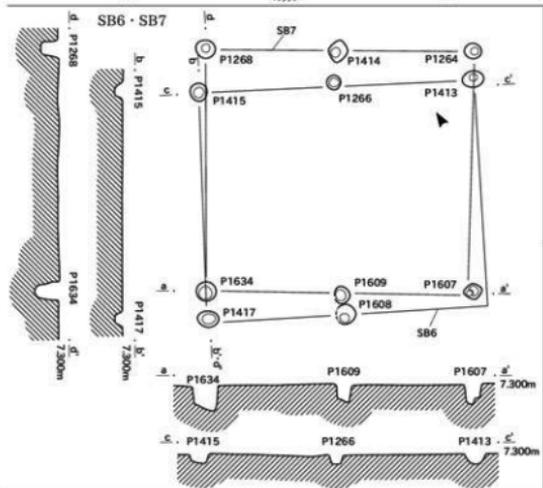
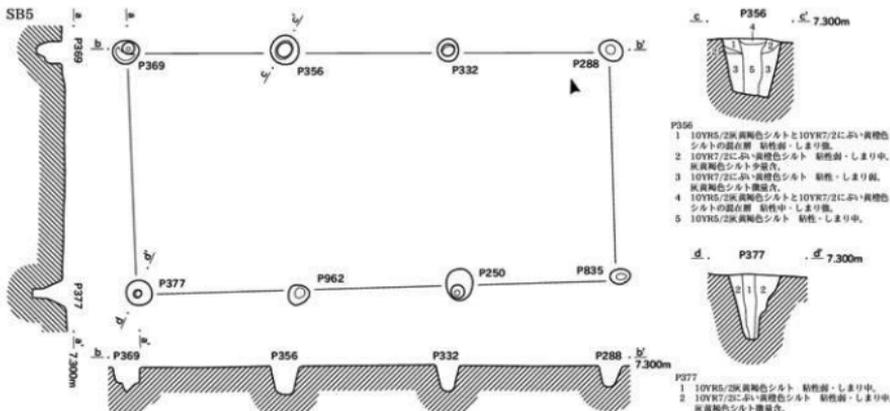


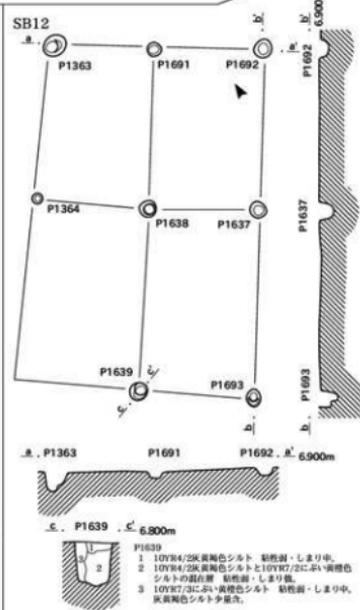
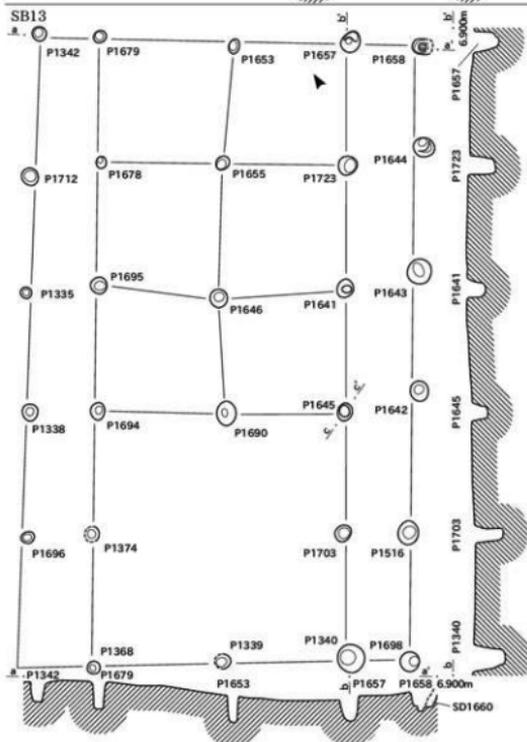
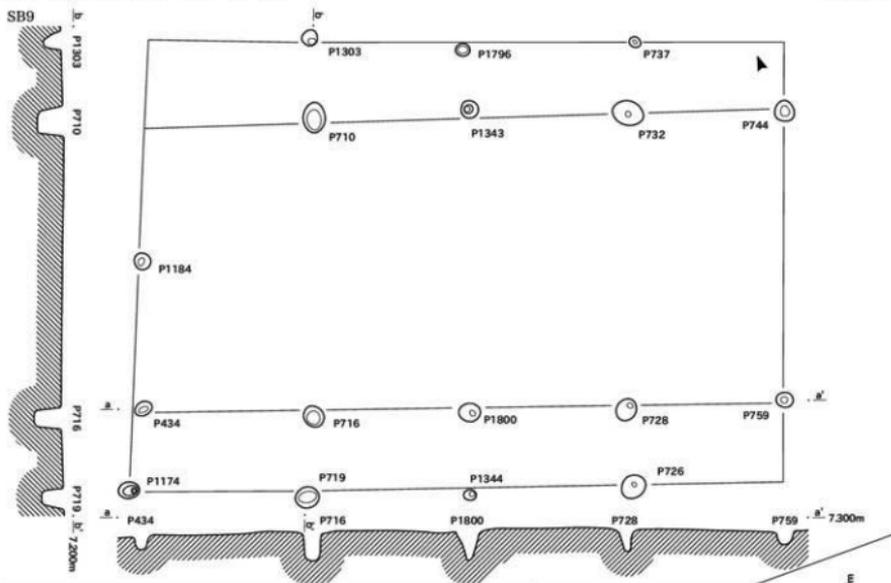
SB3



SB4



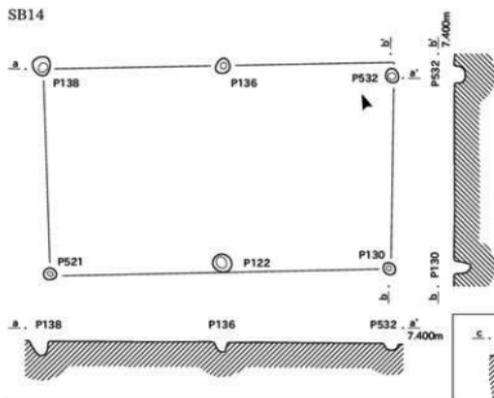




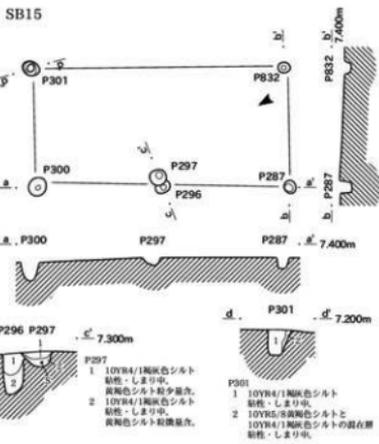
- P1639
- 1 10YR4/2R黄褐色シルト 軟性面・しまり中、
 - 2 10YR4/2R黄褐色シルトと10YR7/2に多い黄褐色シルトの混在層 粘性强・しまり強、
 - 3 10YR7/2に多い黄褐色シルト 粘性强・しまり中、灰黄褐色シルト少混在。

- P1645
- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘性强・しまり中、微分中混在、
 - 2 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘性强・しまり中、
 - 3 10YR5/2に多い黄褐色シルト・微分少混在、
 - 4 10YR7/2に多い黄褐色シルト 粘性强・しまり中、灰黄褐色シルト少混在。

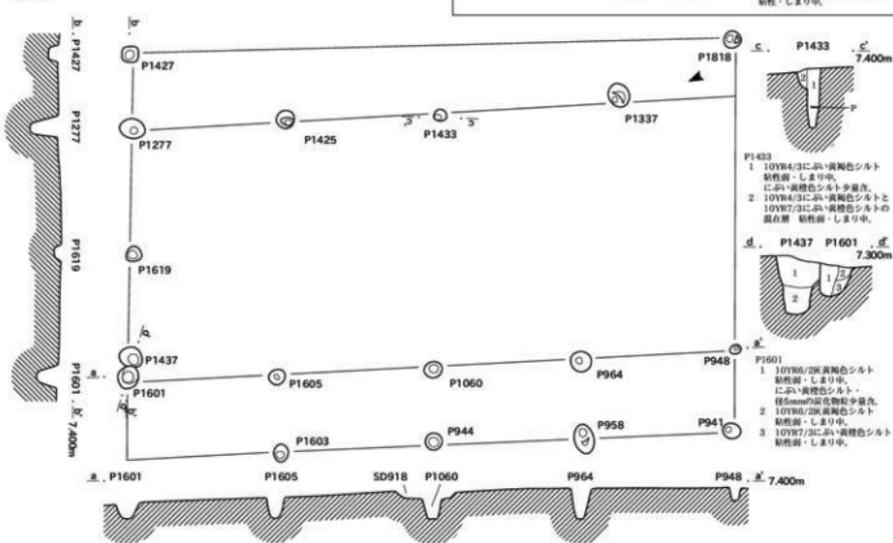
SB14



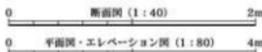
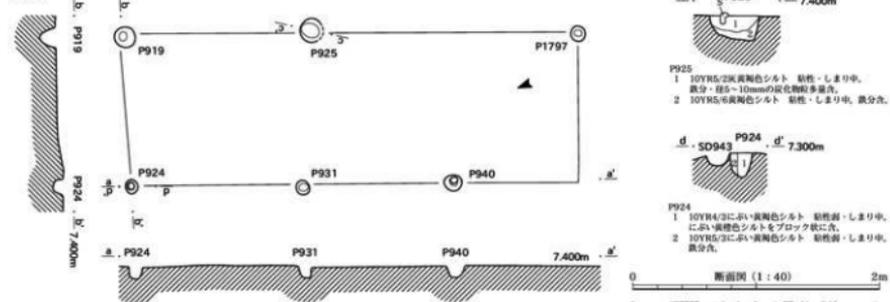
SB15



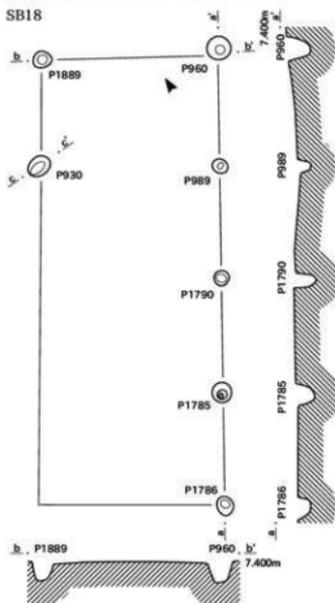
SB16



SB17

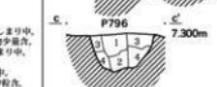
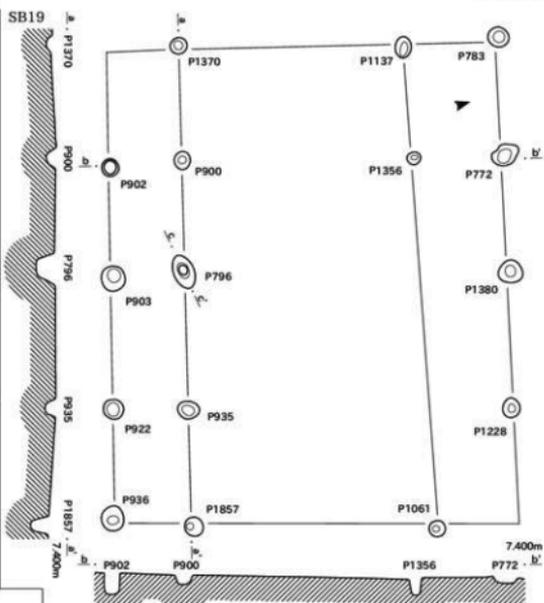


SB18



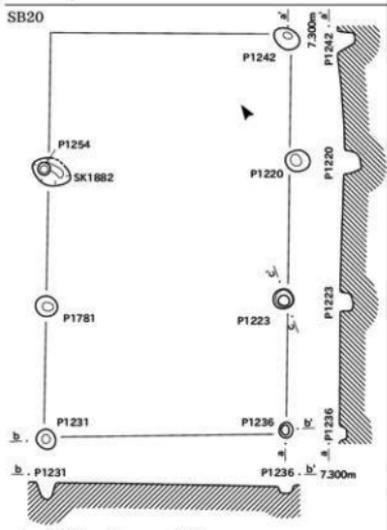
- P930
- 1 10YR4/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
赤黄褐色シルト・径2~3mmの炭化物少量。
 - 2 10YR5/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。
 - 3 10YR5/6黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。

SB19



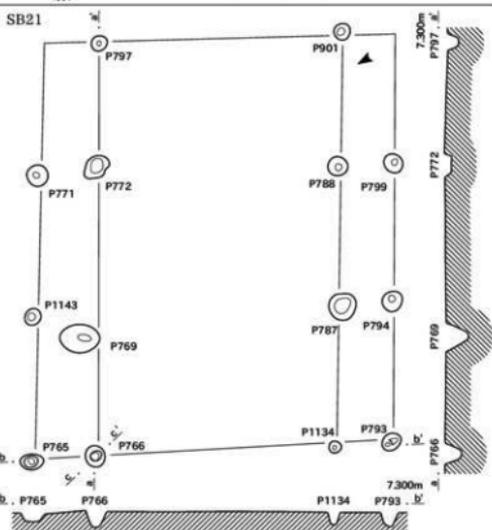
- P796
- 1 10YR4/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。
 - 2 10YR4/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。
 - 3 10YR4/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。
 - 4 10YR4/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。

SB20

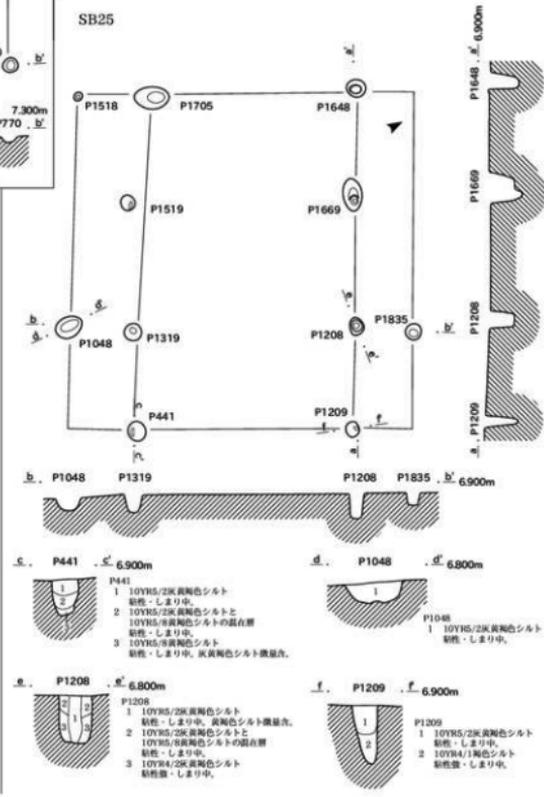
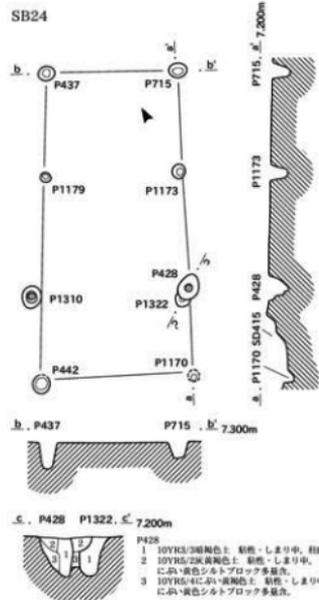
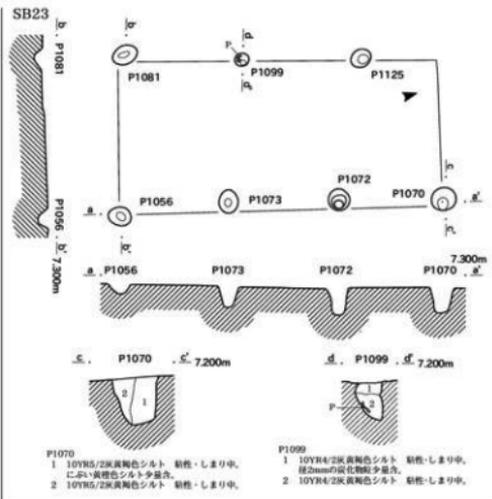
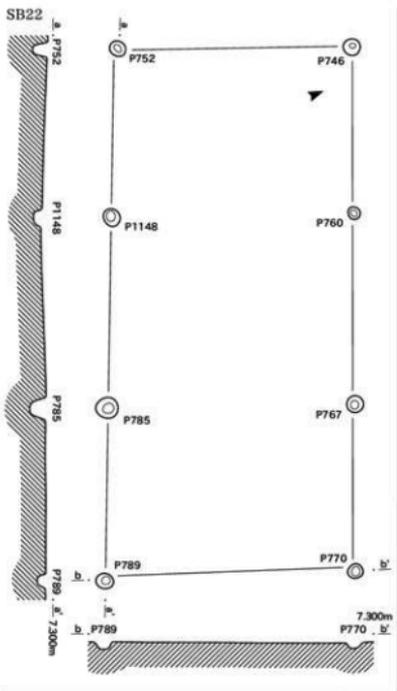


- P1223
- 1 10YR5/2赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
黄褐色シルト・炭化物少量。
 - 2 10YR5/2赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
黄褐色シルト・炭化物少量。
 - 3 10YR5/2赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
黄褐色シルト・炭化物少量。

SB21



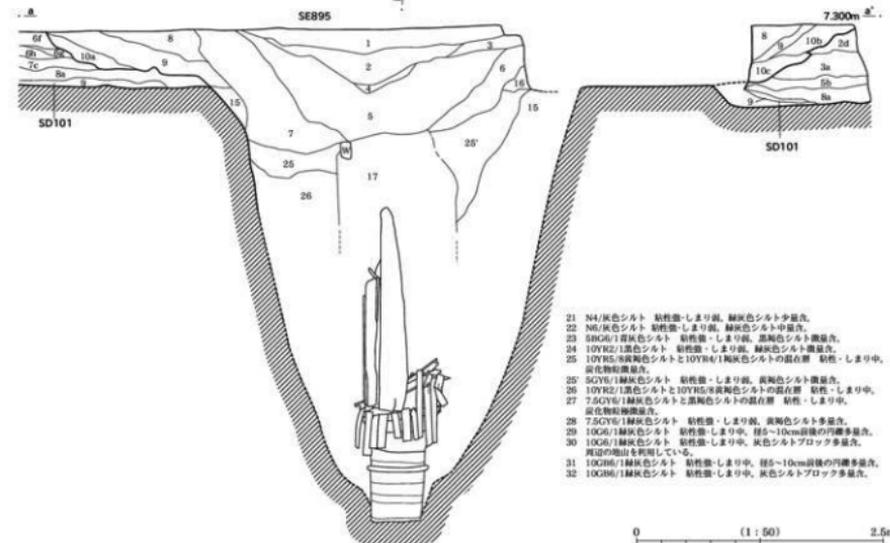
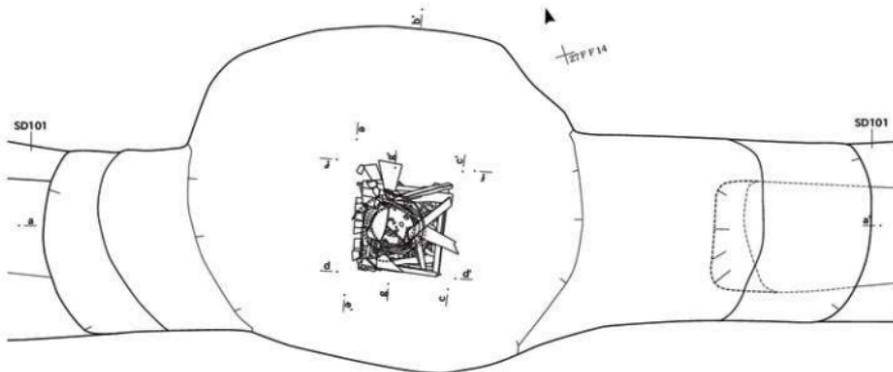
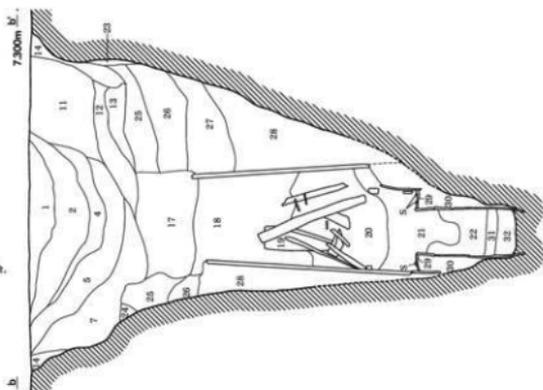
- P766
- 1 10YR5/2赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
炭化物少量。
 - 2 10YR5/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。
 - 3 10YR5/3に赤黄褐色シルト 粘粒質・しまり中、
径2~3mmの炭化物少量。



SE895

SE895

- 1 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘重層状。灰化物粘重層状。
- 2 10YR2/2黒褐色シルト 粘性・しまり中。灰化物多量状。緑色シルト。黄褐色シルト少量状。
- 3 10YR4/1黄褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。灰化物粘重層状。
- 4 10YR4/2に2灰黄褐色シルト 粘性・しまり中。灰化物多量状。
- 5 10YR4/4褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性弱・しまり強。
- 6 10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/5黄褐色シルトの混在層 粘性弱・しまり強。
- 7 10YR4/2黄褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性弱・しまり強。灰化物粘重層状。
- 8 10YR5/1暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性弱・しまり強。灰化物粘重層状。
- 9 10YR5/8暗黄褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。灰化物粘重層状。
- 10a 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘性弱・しまり中。
- 10b 10YR4/1黄褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。灰化物粘重層状。
- 10c 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性・しまり中。灰化物粘重層状。
- 11 10YR5/6黄褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘ブロック多量状。
- 12 10YR4/4褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。
- 13 10YR4/4褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性弱・しまり強。
- 14 10YR4/1黄褐色シルト 粘性弱・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。
- 15 10YR4/4褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性・しまり中。
- 16 10YR2/2黒褐色シルト 粘性・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。
- 17 50G6/1黄褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混在層 粘性弱・しまり強。
- 18 50G6/1黄褐色シルト 粘性強・しまり強。黄褐色シルト多量状。
- 19 50G6/1黄褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混在層 粘性・しまり中。
- 20 10G6/1暗褐色シルト 粘性強・しまり強。緑色シルト粘ブロック多量状。



- 21 N4/灰色シルト 粘性強・しまり弱。緑褐色シルト少量状。
- 22 N6/灰色シルト 粘性強・しまり弱。緑褐色シルト中量状。
- 23 50G6/1黄褐色シルト 粘性強・しまり強。黄褐色シルト粘重層状。
- 24 10YR2/1黒色シルト 粘性強・しまり強。緑褐色シルト粘重層状。
- 25 10YR5/8黄褐色シルトと10YR4/1黄褐色シルトの混在層 粘性・しまり中。灰化物粘重層状。
- 26 50Y6/1緑灰色シルト 粘性強・しまり強。黄褐色シルト粘重層状。
- 27 10YR2/1黒色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混在層 粘性・しまり中。
- 28 7.5GY6/1緑灰色シルト 粘性強・しまり強。黄褐色シルト粘多量状。
- 29 10G6/1緑灰色シルト 粘性強・しまり中。径5~10cm前後の円礫多量状。
- 30 10G6/1緑灰色シルト 粘性強・しまり中。灰色シルト粘ブロック多量状。周辺の地層を利用している。
- 31 10G6/1緑灰色シルト 粘性強・しまり中。径5~10cm前後の円礫多量状。
- 32 10G6/1緑灰色シルト 粘性強・しまり中。灰色シルト粘ブロック多量状。

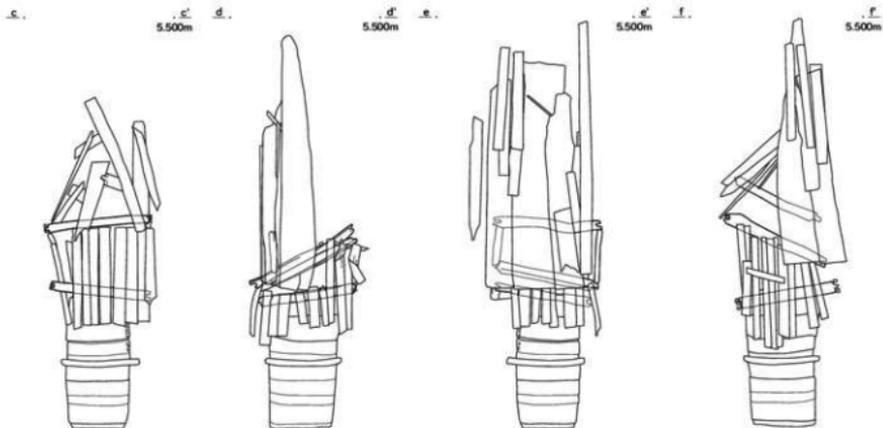
井戸側面図

南東面

南西面

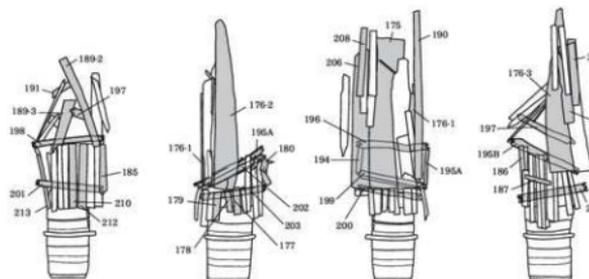
北西面

北東面

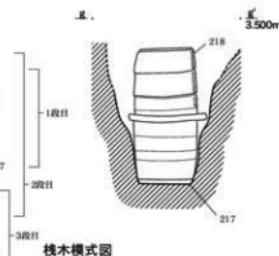


井戸側面材出土位置

(番号は図版38~40の遺物番号に対応)



水溜側面図



桧木横式図

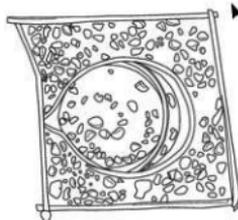
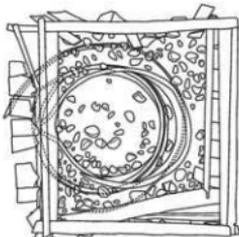
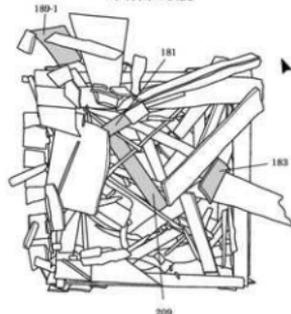


井戸側平面図

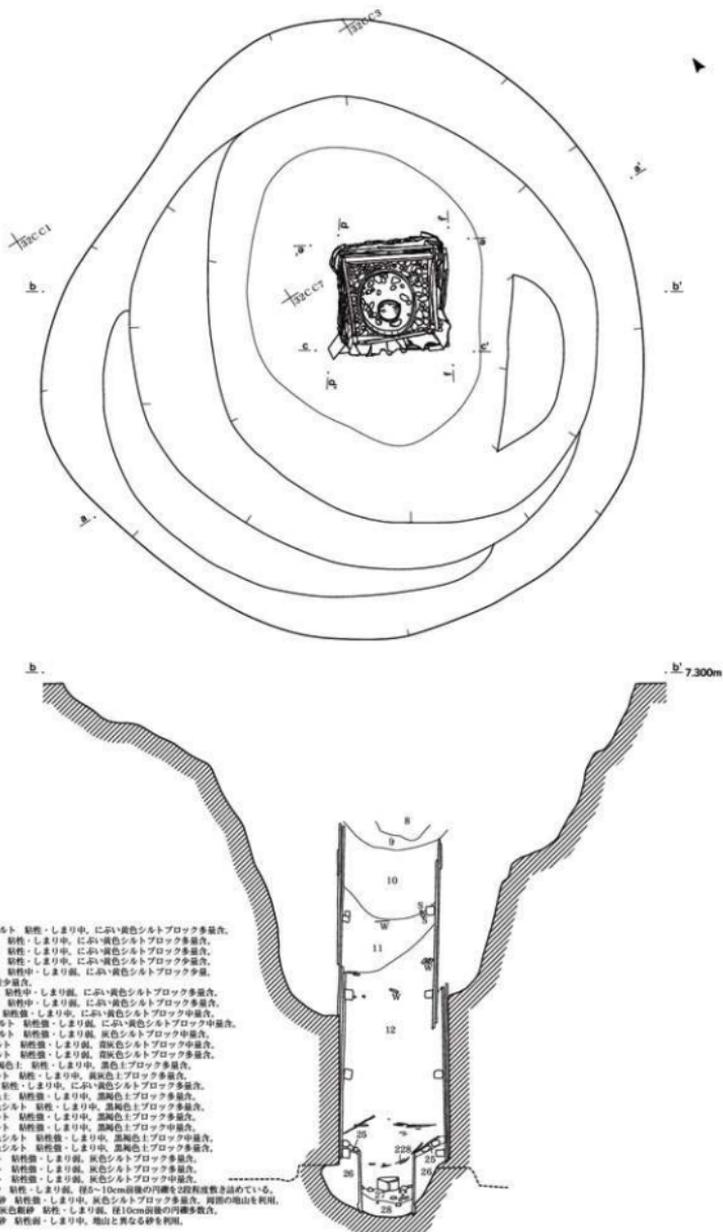
木材出土状況

井戸側平面

井戸側底面・水溜

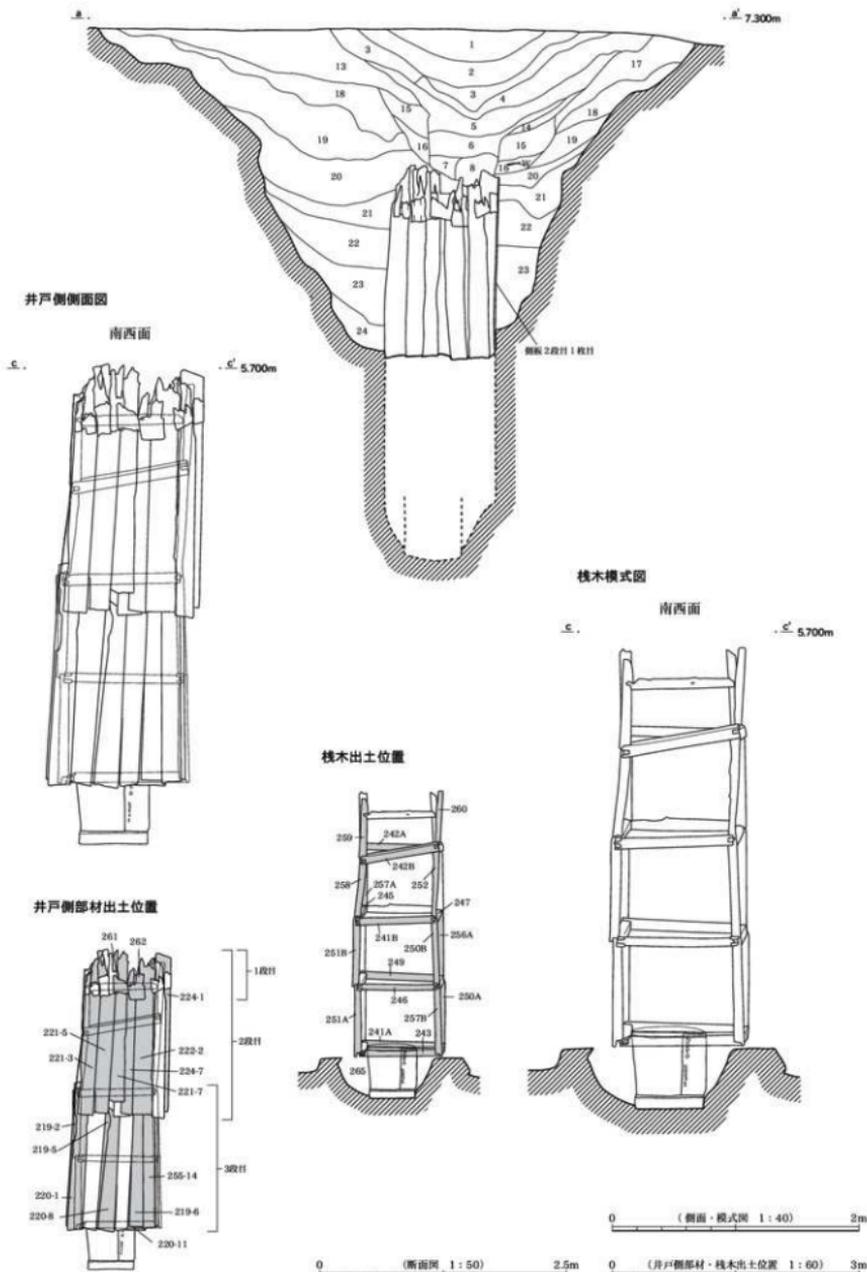


SE1007

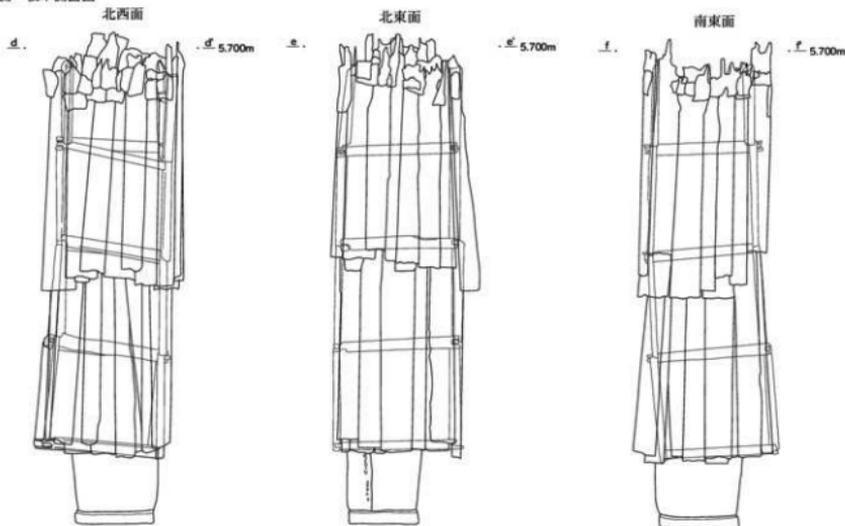


SE1007

- 1 7.5YR2/3黒褐色シルト 粘粒・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 2 7.5YR3/2黒褐色土 粘粒・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 3 7.5YR3/2黒褐色土 粘粒・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 4 7.5YR4/2黒褐色土 粘粒・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 5 7.5YR4/1黒褐色土 粘粒中・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
径20mmの炭化植物少量産。
- 6 10YR5/1黒褐色土 粘粒中・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 7 7.5YR5/1黒褐色土 粘粒中・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 8 5Y5/1黒色シルト 粘粒強・しまり中、にがい褐色シルトブロック中量産。
- 9 10R5/1黒灰色シルト 粘粒強・しまり中、にがい褐色シルトブロック中量産。
- 10 10R5/1黒灰色シルト 粘粒強・しまり中、灰色シルトブロック中量産。
- 11 5R3/1暗褐色シルト 粘粒強・しまり中、褐色シルトブロック中量産。
- 12 5R3/1暗褐色シルト 粘粒強・しまり中、褐色シルトブロック多量産。
- 13 10YR5/4にがい褐色土 粘粒・しまり中、黒色土ブロック多量産。
- 14 2.5Y7/4灰褐色シルト 粘粒・しまり中、黒褐色土ブロック多量産。
- 15 2.5Y6/1黄灰色土 粘粒・しまり中、にがい褐色シルトブロック多量産。
- 16 2.5Y6/3にがい褐色土 粘粒強・しまり中、黒褐色土ブロック多量産。
- 17 2.5Y6/4にがい褐色シルト 粘粒強・しまり中、黒褐色土ブロック多量産。
- 18 2.5Y7/4灰褐色シルト 粘粒強・しまり中、黒褐色土ブロック多量産。
- 19 2.5Y6/3にがい褐色シルト 粘粒強・しまり中、黒褐色土ブロック中量産。
- 20 2.5Y6/3にがい褐色シルト 粘粒強・しまり中、黒褐色土ブロック中量産。
- 21 2.5Y6/3にがい褐色シルト 粘粒強・しまり中、黒褐色土ブロック多量産。
- 22 5R5/1黄灰色シルト 粘粒強・しまり中、灰色シルトブロック多量産。
- 23 5R5/1黄灰色シルト 粘粒強・しまり中、灰色シルトブロック多量産。
- 24 5R5/1黄灰色シルト 粘粒強・しまり中、灰色シルトブロック中量産。
- 25 5C6R/1黄灰色細砂 粘粒・しまり中、径5~10cm前後の円礫を2層程度連続している。
- 26 10C6R/1黄灰色細砂 粘粒強・しまり中、灰色シルトブロック多量産、周囲の堆山を判別。
- 27 2.5C7/1マーンア灰黄色細砂 粘粒・しまり中、径10cm前後の円礫多量産。
- 28 10C6R/1黄灰色細砂 粘粒強・しまり中、堆山と異なる砂を判別。

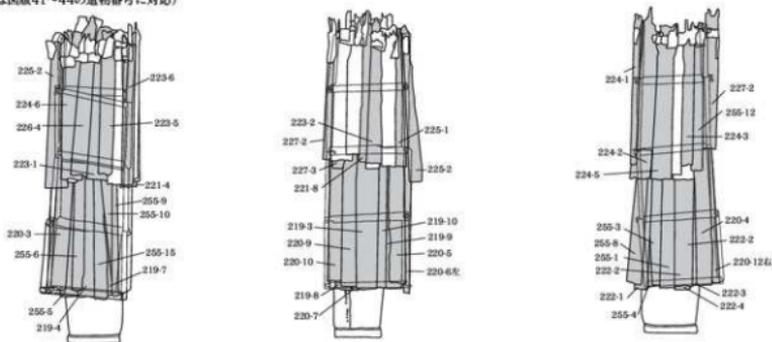


井戸側・枕木側面図



井戸側材出土位置

(番号は図版41~44の遺物番号に対応)

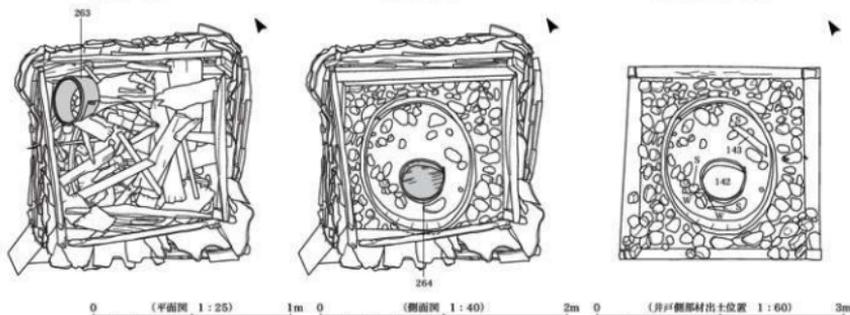


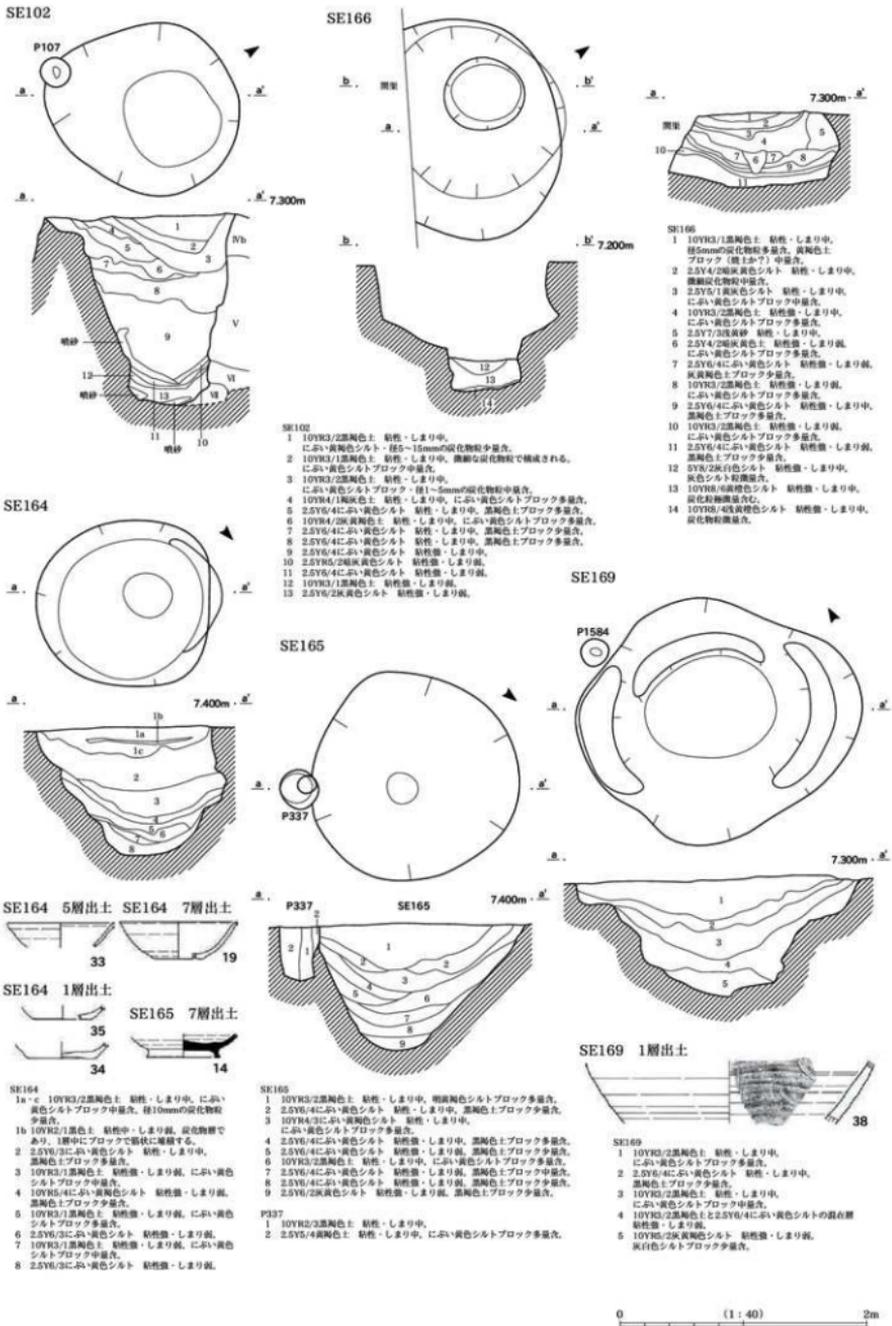
井戸側平面図

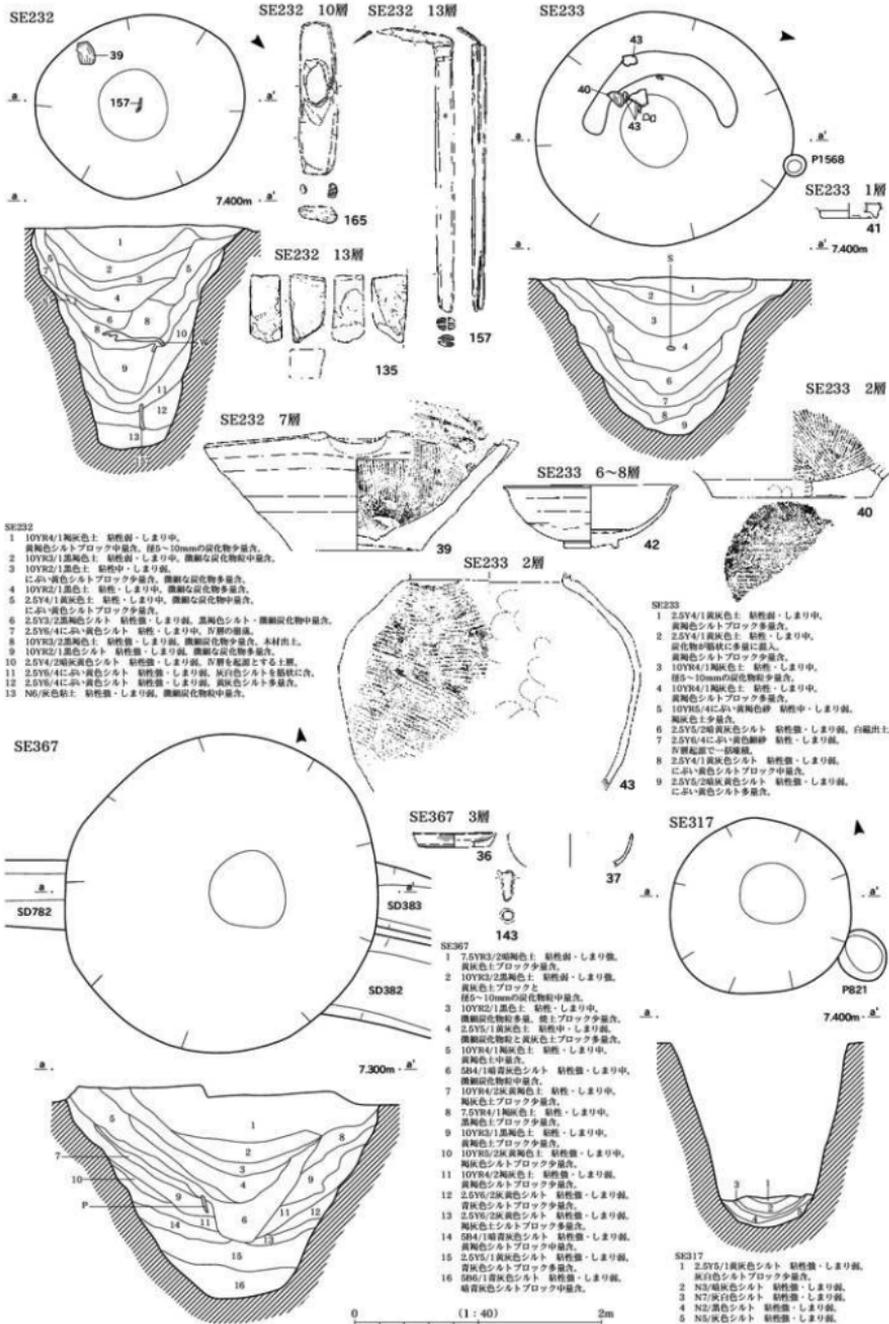
木材出土状況

井戸側平面

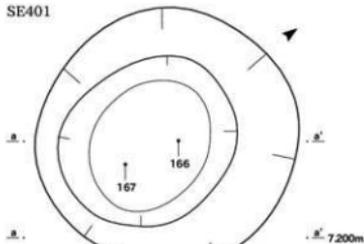
井戸側底面・水溜





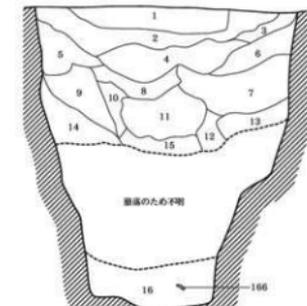


SE401



SE401

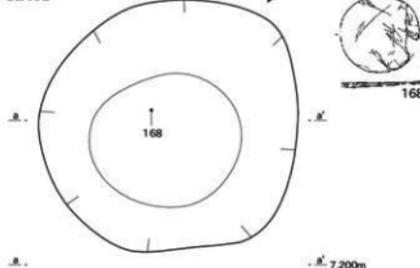
- 1 10YR4/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、灰色シルトをブロック状に含む。赤褐色の鉄分多量産。
- 2 10YR4/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、灰色シルトをブロック状に含む。赤褐色の鉄分少量産。
- 3 10YR4/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、灰色シルトをブロック状に含む。赤褐色の鉄分少量産。
- 4 10YR4/1褐色シルト 粘粒・しまり中、オリーブ灰色粘土をブロック状に含む。径2~3mmの炭化物少量産。赤褐色の鉄分中量産。
- 5 2.5Y5/3暗褐色シルト(塊状)を主体とし、灰黒褐色シルトをブロック状に含む。粘粒・しまり中。
- 6 2.5Y5/3暗褐色シルト(塊状)を主体とし、灰黒褐色シルトをブロック状に含む。粘粒・しまり中。
- 7 10YR5/4に灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、径1~2mmの暗褐色粒子多量産。
- 8 10YR3/3暗褐色シルトを主体とし、に灰黒褐色シルトをブロック状に含む。粘粒・しまり中、径2~3mmの炭化物少量産。径1~2mmの暗褐色粒子少量産。
- 9 10YR4/4褐色シルト 粘粒・しまり中、径1~2mmの暗褐色粒子多量産。赤褐色の鉄分中量産。
- 10 赤褐色の鉄分、に灰黒褐色シルトをブロック状に含む。粘粒・しまり中。
- 11 10YR5/6赤褐色シルト 粘粒・しまり中、暗褐色土を部分的に含む。赤褐色の鉄分少量。
- 12 10YR5/4に灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、径1~2mmの暗褐色粒子多量産。径1~2mmの炭化物少量産。
- 13 2.5Y5/3暗褐色シルト 粘粒・しまり中、赤褐色の鉄分少量産。
- 14 2.5Y5/3暗褐色シルト 粘粒・しまり中、赤褐色の鉄分少量産。
- 15 10YR5/6赤褐色シルト 粘粒・しまり中、赤褐色土をブロック状に含む。赤褐色の鉄分中量産。
- 16 10YR6/1黄灰色シルト 粘粒・しまり中、灰黒土とシルト層が塊状に混在。縦穴出土。



SE401 16層



SE402



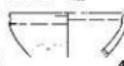
SE402 16層



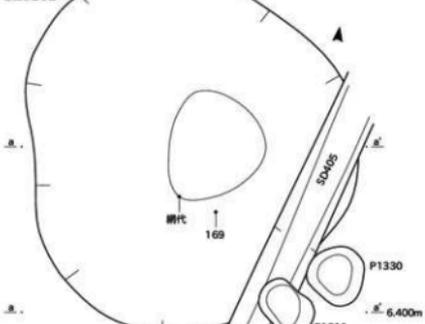
SE401 6層



SE401 7層

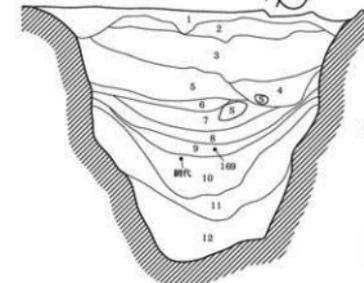


SE1212



SE1212

- 1 10YR4/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトをブロック状に含む。赤褐色の鉄分多量産。
- 2 10YR2/2黒褐色シルト(炭化物)を主体とした10YR4/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色土をブロック状に含む。赤褐色の鉄分少量。
- 3 10YR5/4に灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、赤褐色の鉄分少量。
- 4 10YR6/1黄灰色シルト 粘粒・しまり中、赤褐色の鉄分少量産。
- 5 10YR4/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、に灰黒褐色シルトをブロック状に含む。径3~5mmの炭化物少量産。黄褐色土をブロック状に含む。
- 6 10YR6/1黄灰色シルト(縦穴) 粘粒・しまり中、に灰黒褐色シルトを部分的に含む。
- 7 10YR6/1黄灰色シルト(縦穴) 粘粒・しまり中、に灰黒褐色シルトを部分的に含む。
- 8 10YR6/1黄灰色シルト 粘粒・しまり中、赤褐色の鉄分少量。径1~2mmの暗褐色粒子。
- 9 10YR3/3暗褐色シルトを主体とし、10YR5/2白色シルト、10YR5/6赤褐色シルトをブロック状に含む。粘粒・しまり中。
- 10 10YR6/1黄灰色シルト 粘粒・しまり中、白色粘土、径1~2mmの暗褐色粒子少量。
- 11 10YR8/2白色シルトを主体とし、10YR6/1黄灰色シルトを混入する。部分的に黒褐色シルトを含む。粘粒・しまり中。
- 12 10YR3/3暗褐色シルトを主体とし、部分的に10YR5/2白色シルトを含む。粘粒・しまり中。
- 13 10YR6/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色土と砂質多量産。
- 14 10YR5/6赤褐色シルト 粘粒・しまり中、砂質多量産。
- 15 10YR6/2灰黒褐色シルト 粘粒・しまり中、砂質多量産。黒褐色土を部分的に含む。
- 16 10YR7/1白色シルト 粘粒・しまり中、砂質多量産。部分的に黒褐色、黄褐色土を含む。



SE1212 9層



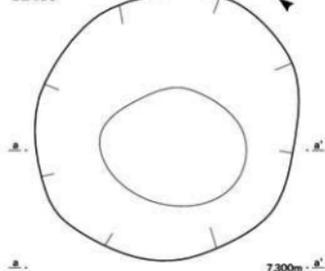
SE1212 3層



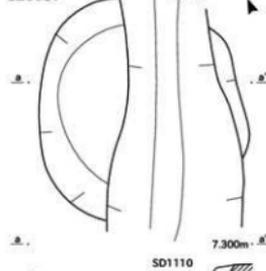
SE1212

- 1 7.5YR4/1黄褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトをブロック状に含む。径1~3mmの炭化物少量多量産。
- 2 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒・しまり中、オリーブ灰色シルトをブロック状に含む。炭化物少量多量産。
- 3 2.5Y5/1黒褐色シルト 2 10YR5/2オリーブ灰色シルトをブロック状に含む。粘粒・しまり中、径5~15mmの炭化物中量産。
- 4 7.5Y4/1灰色シルト 粘粒・しまり中、径5~15mmの炭化物中量産。縦穴出土。
- 5 2.5Y5/1オリーブ灰色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトをブロック状に含む。
- 6 7.5Y4/1灰色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトをブロック状に含む。
- 7 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトが塊状に混在する。
- 8 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトをブロック状に含む。
- 9 2.5Y5/1黄褐色シルト 粘粒・しまり中、縦穴、網代、自然木出土。
- 10 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色シルトをブロック状に含む。網代出土。
- 11 10Y7/1灰白色シルト 粘粒・しまり中、黄褐色土中量産。
- 12 10YR6/1灰色シルト 粘粒・しまり中。

SE416



SE1157



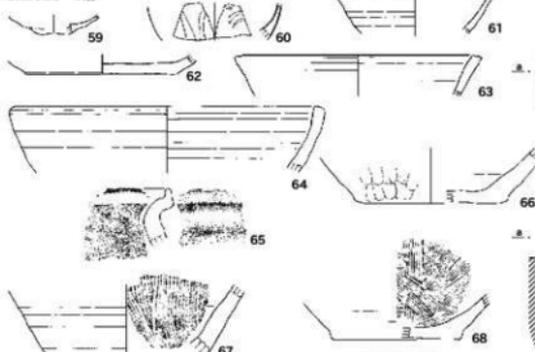
SE1329

- SE1157
 1 10YR4/3に赤い炭褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 2 赤い黄褐色シルトをブロック状に多量含。
 3 10YR6/2に赤い炭褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 4 赤褐色の炭分・砂粒多量含。
 5 10YR4/2に炭褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 6 赤褐色の炭分・に赤い黄褐色シルトをブロック状に多量含。
 7 10YR5/2に炭褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 8 赤褐色の炭分・オリーブ灰色シルトを多量含。
 9 10YR5/7に炭褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 10 赤褐色の炭分多量。オリーブ灰色シルト中量含。
 11 10YR4/6に褐色シルト 粘粒・しまり中。赤褐色の炭分・赤い黄褐色シルトに赤い炭褐色シルトを少量含。
 12 10YR5/5に炭褐色シルト 粘粒・しまり中。
 13 赤褐色の炭分中量含。
 14 10YR4/2に炭褐色シルト 粘粒・しまり中。
 15 炭褐色シルト・に赤い黄褐色シルトをマーズ状に含。

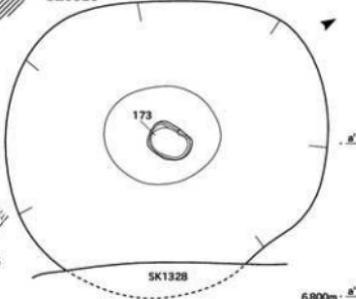
SE1329

- SE1329
 1 10YR5/2に炭褐色シルト 粘粒・しまり中。
 2 10G5/1に赤褐色シルト 粘粒・しまり中。
 3 7.5GY6/1に赤褐色シルト 粘粒・しまり中。
 4 N4灰色シルト 粘粒・しまり肌。
 5 10G5/1に赤褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 6 N2濃色シルト 粘粒・しまり肌。炭化物多量含。
 7 N2濃色シルト 粘粒・しまり肌。炭化物多量含。
 8 N2濃色シルト 粘粒・しまり肌。炭化物多量含。
 9 N4灰色シルト 粘粒・しまり肌。灰白色シルト多量含。
 10 7.5GY6/1に赤褐色シルト 粘粒・しまり肌。砂粒中量含。
 11 7.5GY6/2にオリーブ褐色シルト 粘粒・しまり中。
 12 7.5GY6/1に赤褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 13 7.5GY6/1に赤褐色シルト 粘粒・しまり中。
 14 7.5GY4/1に赤褐色砂 粘粒中・しまり肌。

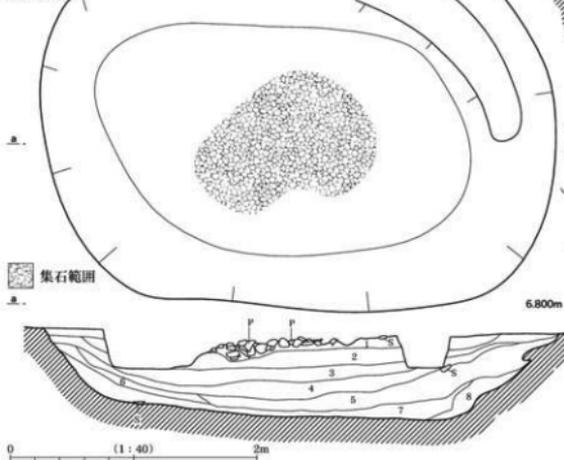
SK1328 1層



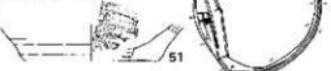
SE1329



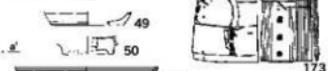
SK1328



SE1329 1層



SE1329 9層

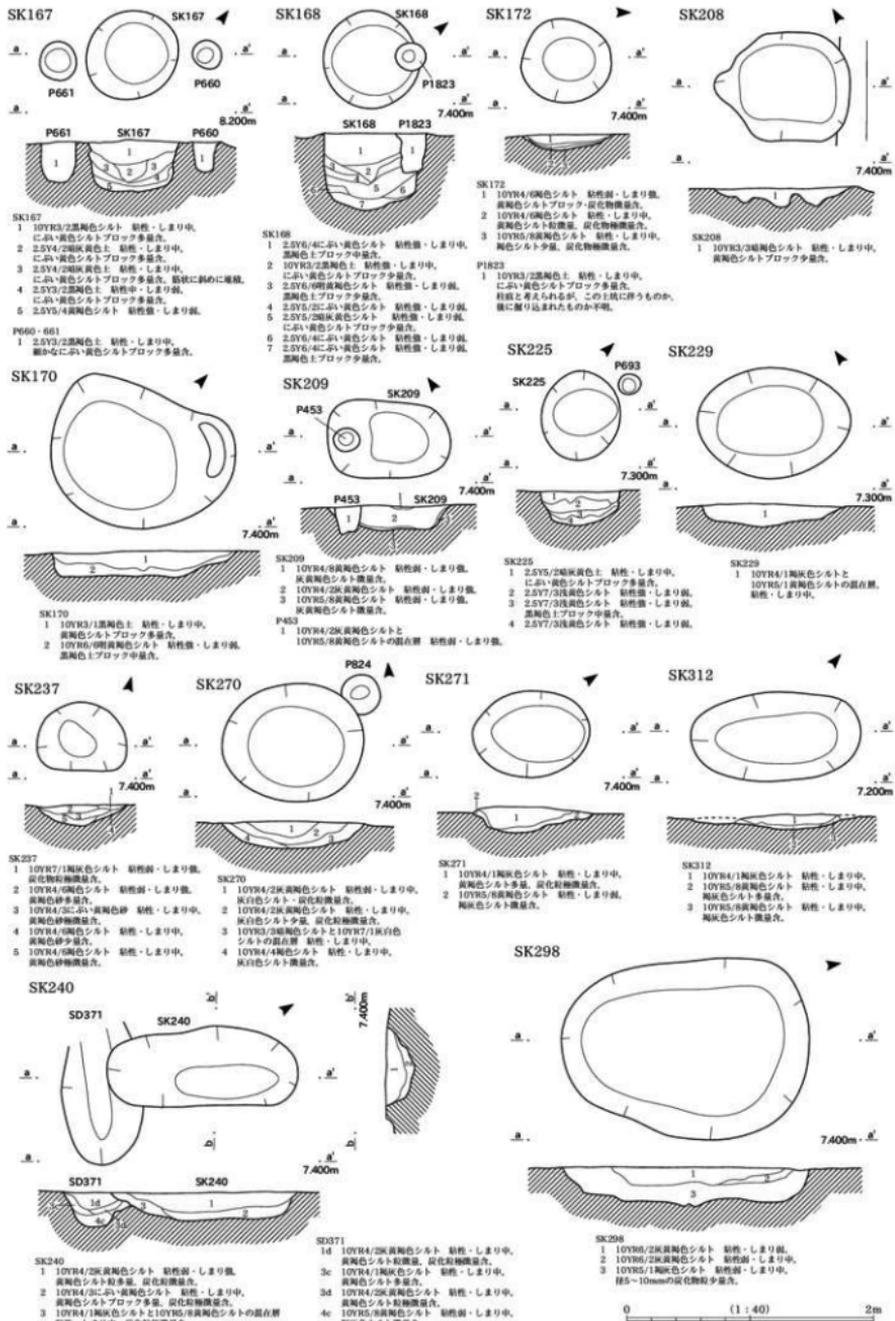


SE1329 4層

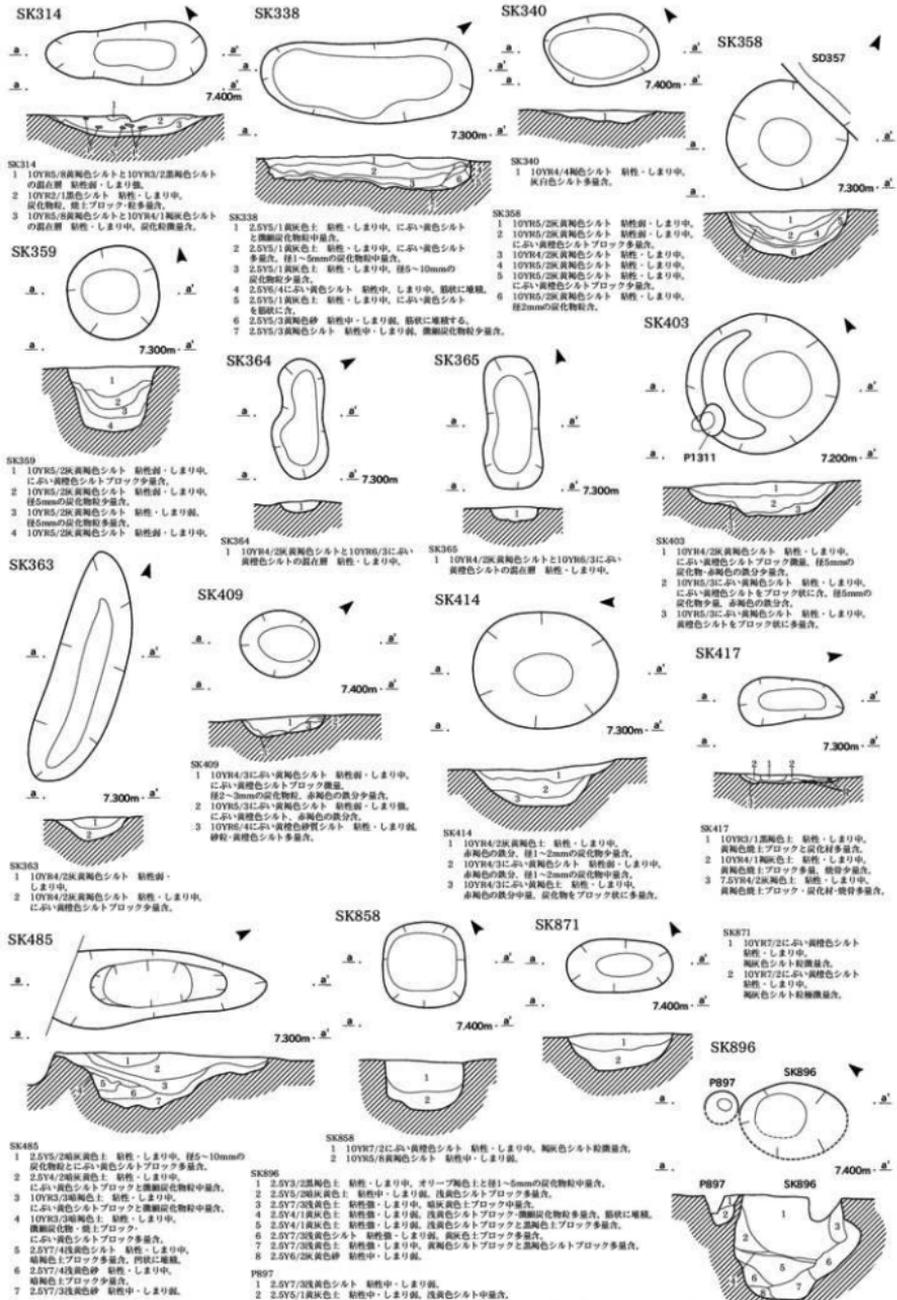


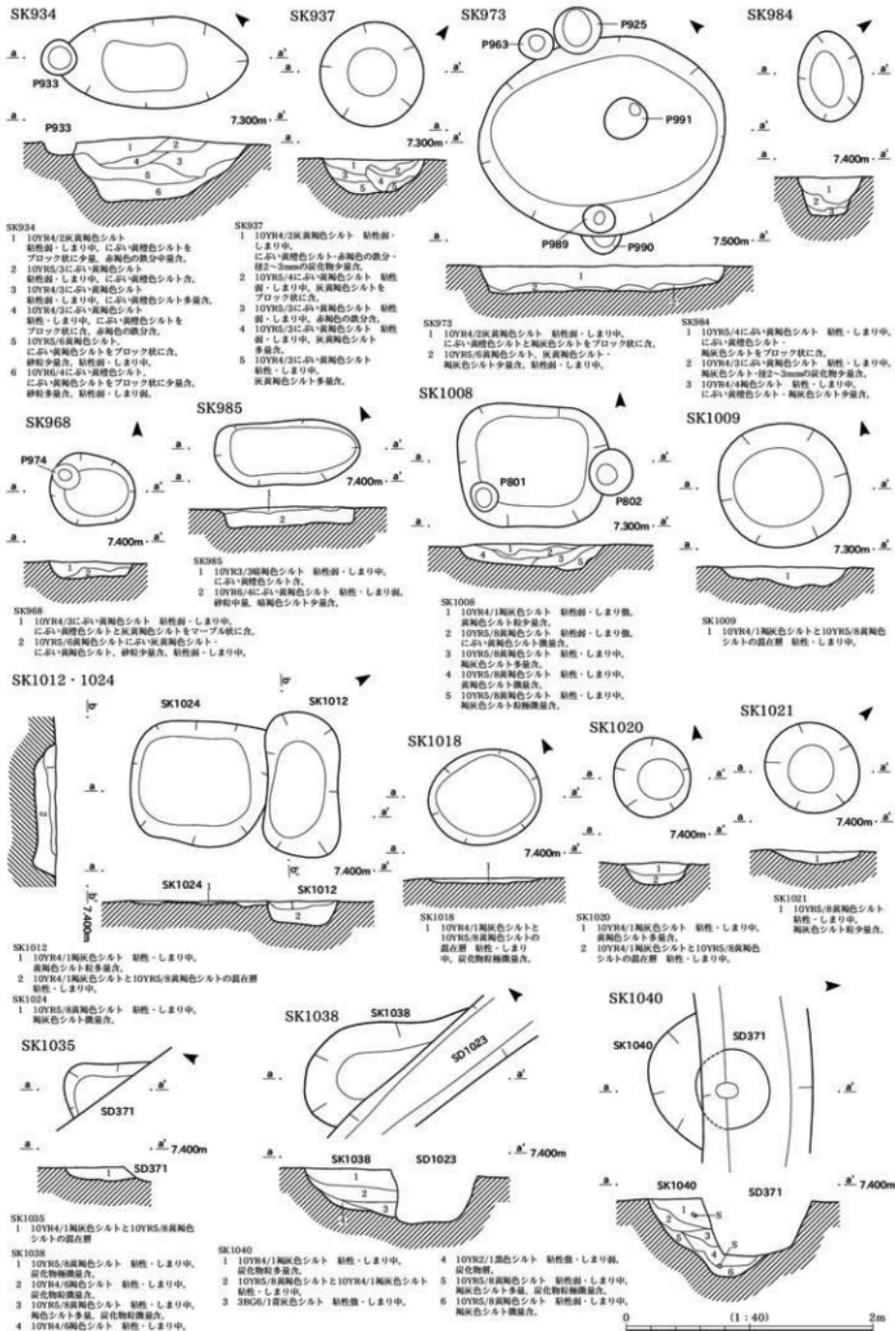
SK1328

- SK1328
 1 10YR3/3に炭褐色シルト 粘粒・しまり中。土器・径5~10cmの磚多量出土。
 2 10R6/4に暗青灰色シルト 粘粒・しまり肌。
 3 10R6/3に暗青灰色シルト 粘粒・しまり肌。
 4 10G2/1に緑褐色シルト 粘粒・しまり肌。炭質・炭化物多量含。
 5 10G2/1に暗褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 6 10G3/1に暗褐色シルト 粘粒・しまり肌。青灰色シルトをブロック状に多量含。
 7 10G2/1に暗褐色シルト 粘粒・しまり肌。
 8 10G4/1に暗褐色シルト 粘粒・しまり肌。青灰色シルトをブロック状に多量含。



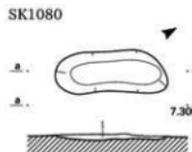
0 (1:40) 2m



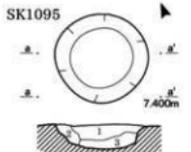




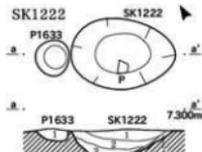
SK1062
1 10YR4/4褐色シルト 軟性・しまり中、
におい黄褐色シルト・
黄褐色シルトをブツブツ状に多量含。
2 10YR4/3に赤い黄褐色シルト・
鉄質・しまり中、におい黄褐色シルト・
黄褐色シルト・径10~15mmの炭化物散。



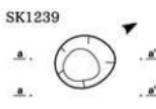
SK1080
1 10YR4/2灰褐色シルト 軟性・しまり中、



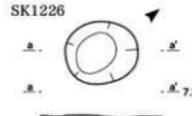
SK1095
1 10YR3/3淡褐色シルト 軟性・しまり中、
径3mmの炭化物中量、炭分少量含。
2 10YR4/1褐色シルト 軟性・しまり中、
径3mmの炭化物中量、におい黄褐色シルト
ブツブツ多量含。
3 10YR4/2灰褐色シルト 軟性・しまり中、
径3mmの炭化物中量、におい黄褐色シルト
ブツブツ多量含。



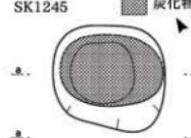
SK1222
1 10YR4/1褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト・炭化物散量含。
2 10YR4/1褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト少量多量含。
3 10YR5/8黄褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト少量含。
4 10YR5/8黄褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト少量含。
P1633
1 10YR5/2灰褐色シルト 軟性弱・しまり中、
径10mmの炭化物粒少量含。



SK1239
1 10YR4/4褐色シルトと10YR5/8黄褐色
シルトの混在層 軟性・しまり中、
炭化物散少量含。
2 10YR4/6褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト少量含。



SK1226
1 10YR8/1灰白色シルト 軟性弱・しまり中、
黄褐色シルト少量含、炭化物散少量含。
2 10YR8/1灰白色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト・炭化物散少量含。



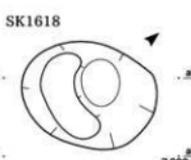
SK1245
1 10YR4/1褐色シルト 軟性弱・しまり中、
炭化物散少量含。
2 10YR2/2黒色シルト 軟性弱・しまり中、
炭化物散、黄褐色シルトブツブツ少量含。
3 10YR4/2灰褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルト少量、炭化物散少量含。



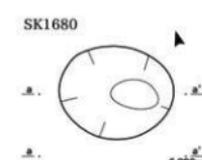
SK1249
1 5Y4/1灰色シルト 軟性弱・しまり中、
2 5Y4/1灰色シルトと10YR5/1黄褐色シルト
の混在層 軟性・しまり中。



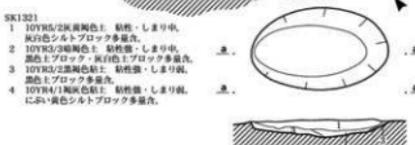
SK1321
1 10YR4/4褐色シルト 軟性弱・しまり中、
黄褐色シルト少量含。
2 10YR4/4褐色シルトと10YR5/8黄褐色
シルトの混在層 軟性弱・しまり中。



SK1618
1 10YR5/8黄褐色シルト 軟性弱・しまり中、
灰褐色シルト少量含。
2 10YR5/8黄褐色シルト 軟性弱・しまり中、
におい黄褐色シルト・2mmの炭化物粒少量含。
3 10YR5/8黄褐色シルト 軟性弱・しまり中、
灰褐色シルト少量含。



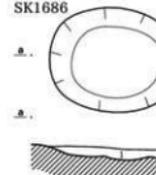
SK1680
1 10YR5/2灰褐色シルト 軟性弱・しまり中、
におい黄褐色シルト少量含。
2 10YR5/2灰褐色シルト 軟性弱・しまり中、
におい黄褐色シルト・2mmの炭化物粒少量含。
3 10YR5/2灰褐色シルト 軟性弱・しまり中、
におい黄褐色シルト少量含。



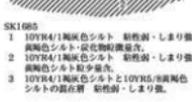
SK1321
1 10YR5/8黄褐色シルト 軟性・しまり中、
黄褐色シルトブツブツ多量含。
2 10YR3/3淡褐色シルト 軟性弱・しまり中、
炭分ブツブツ・灰白色ブツブツ多量含。
3 10YR3/3淡褐色シルト 軟性弱・しまり中、
炭分ブツブツ多量含。
4 10YR4/1褐色色土 軟性弱・しまり中、
におい黄褐色シルトブツブツ多量含。



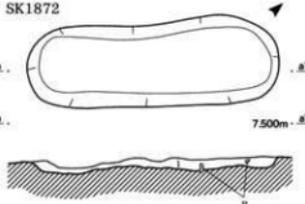
SK1685
1 10YR4/1褐色シルト 軟性弱・しまり中、
炭褐色シルト少量含。
2 10YR4/1褐色シルト 軟性弱・しまり中、
炭褐色シルト少量含。
3 10YR4/1褐色シルトと10YR5/8黄褐色
シルトの混在層 軟性弱・しまり中。



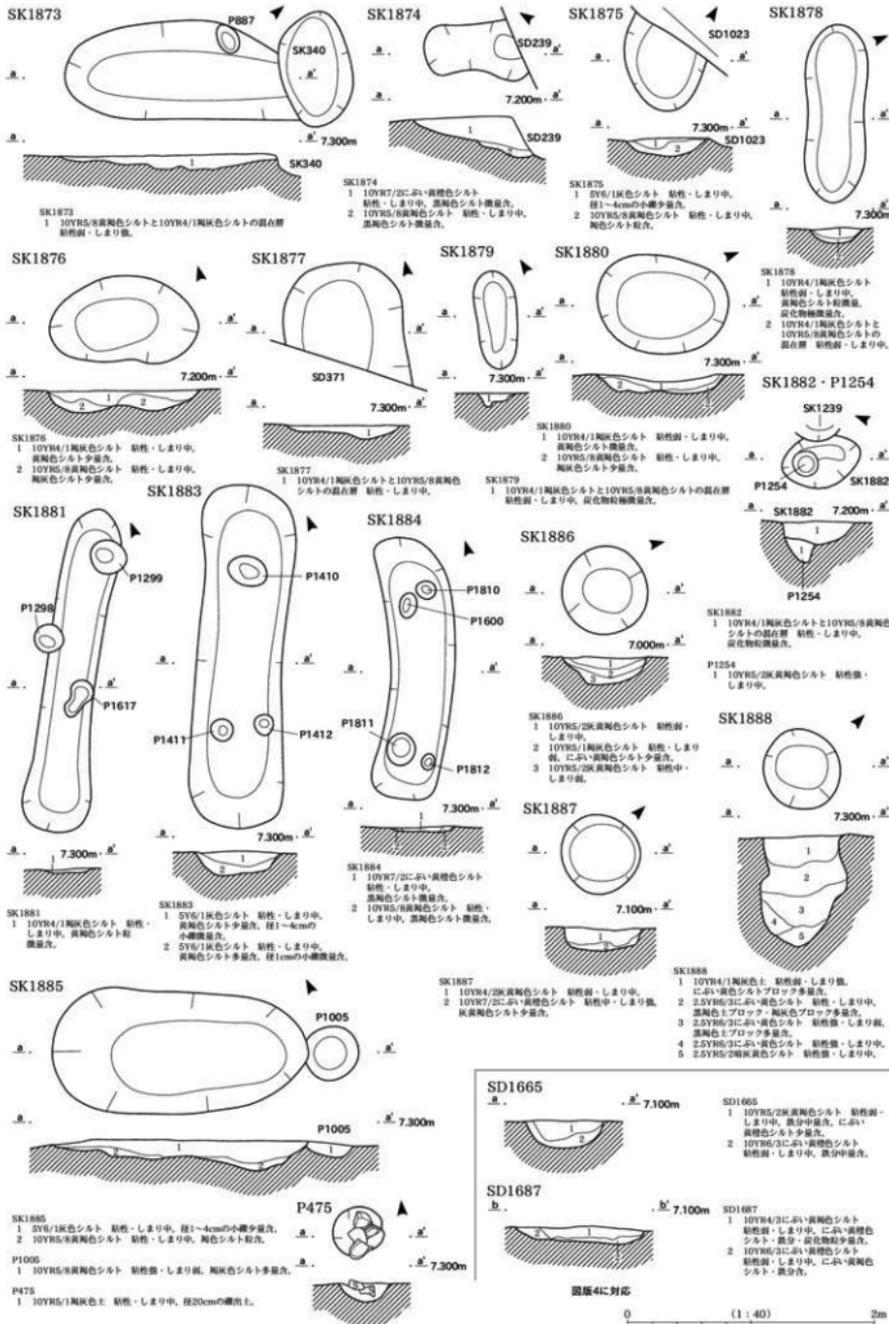
SK1686
1 10YR4/1褐色シルトと10YR5/8黄褐色
シルトの混在層 軟性弱・しまり中。



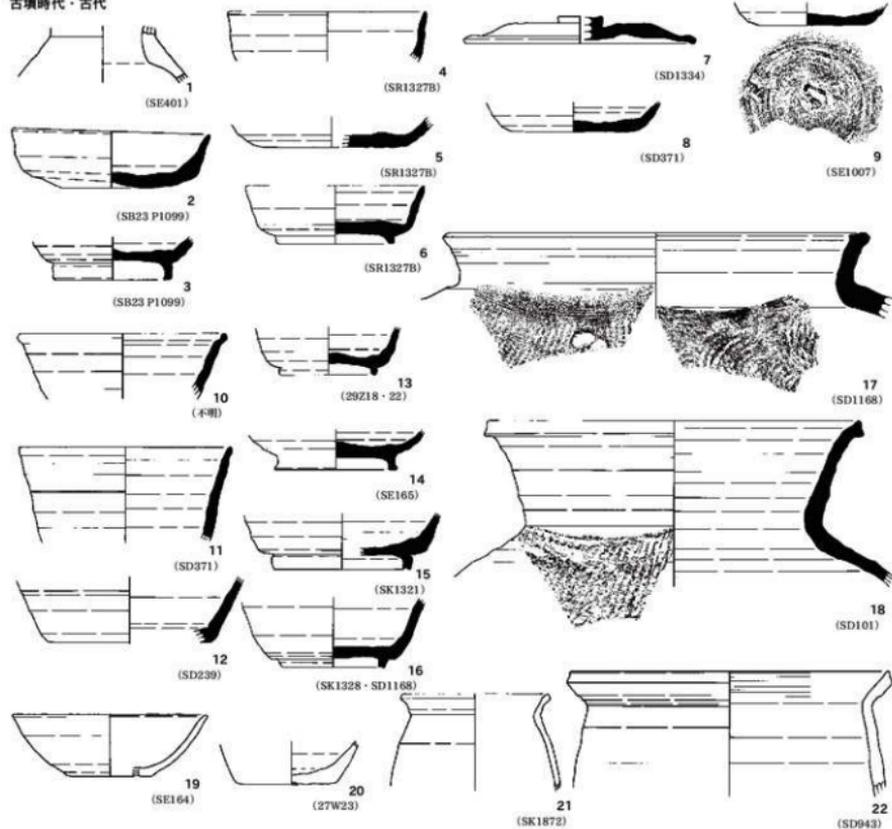
SK1805
1 10YR4/2灰褐色シルト 軟性弱・しまり中、
炭分少量含、におい黄褐色シルト・10mmの炭化物粒少量含。



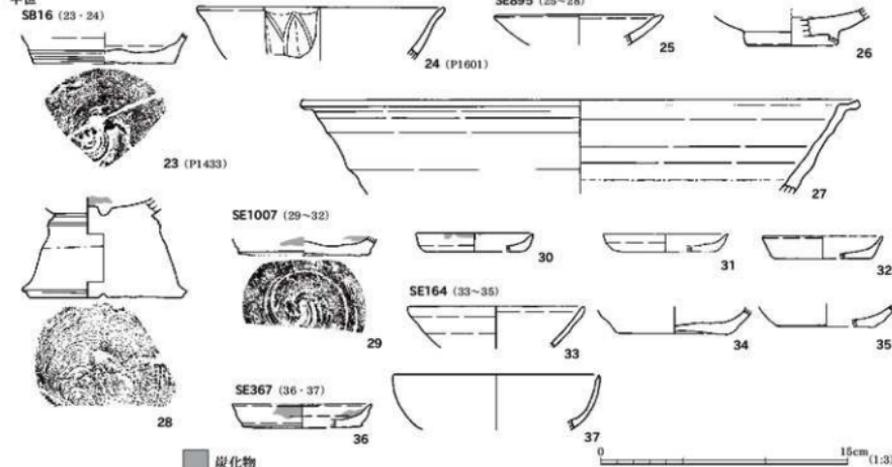
SK1872
1 10YR5/3に赤い黄褐色シルト 軟性弱・しまり中、
径10mmの炭化物粒多量含。



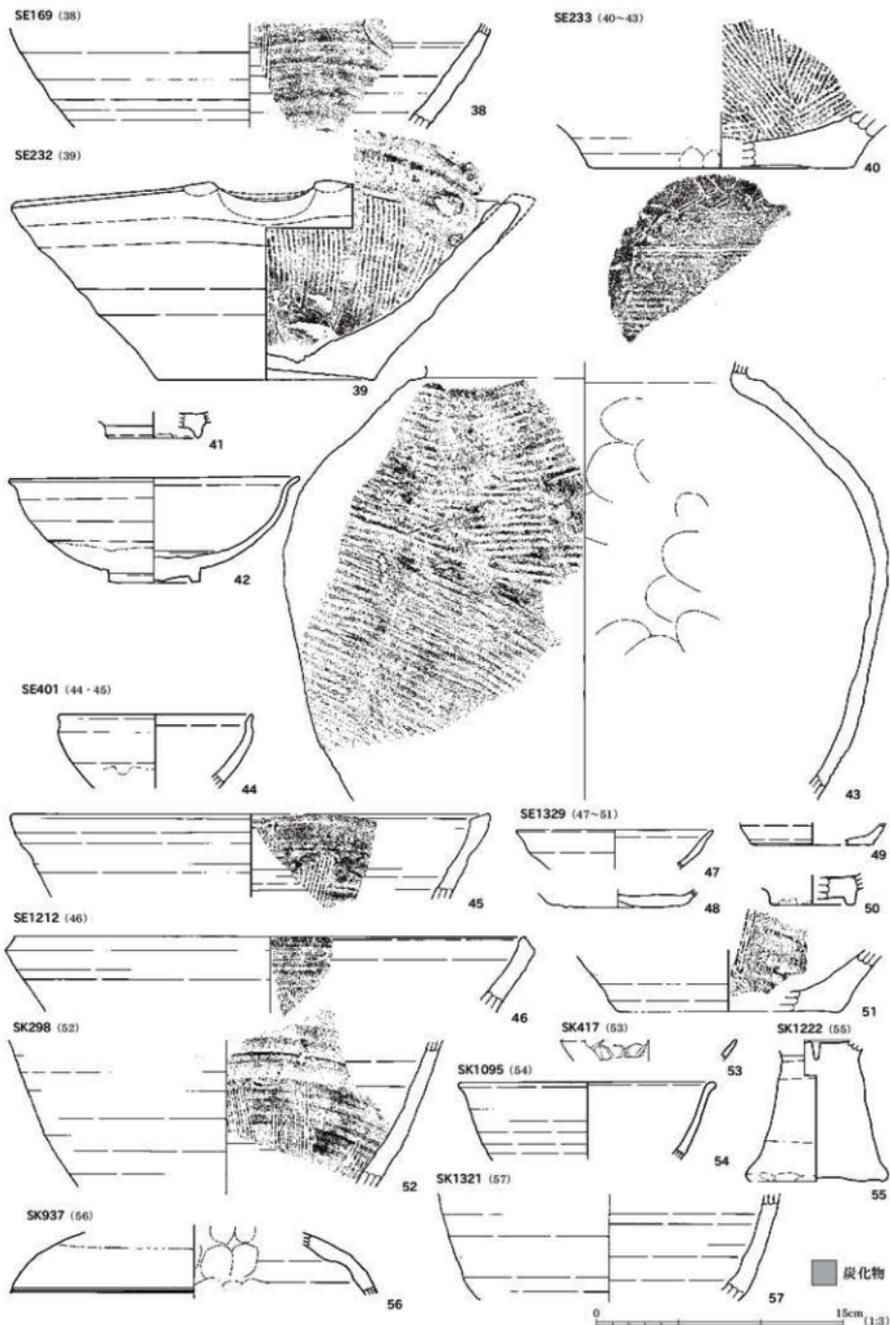
古墳時代・古代



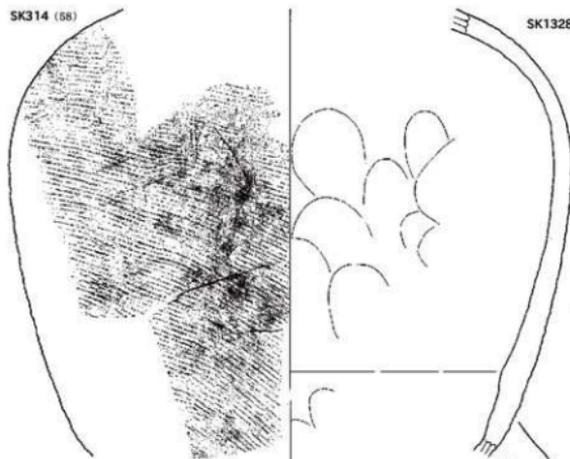
中世



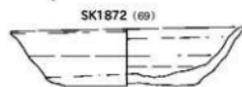
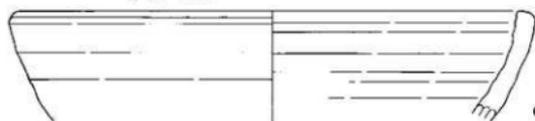
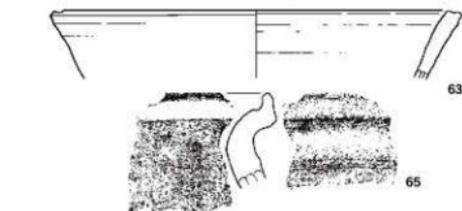
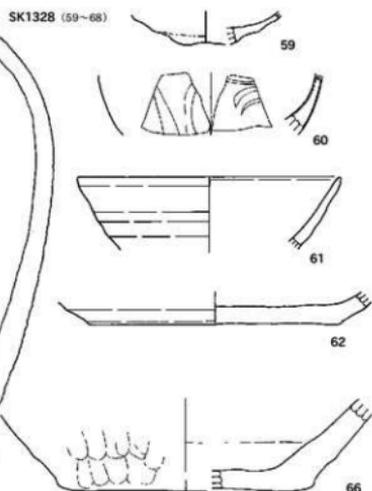
■ 炭化物



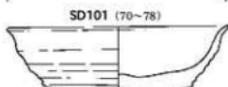
SK314 (68)



SK1328 (59~68)



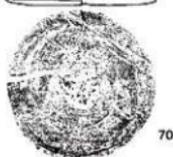
SK1872 (69)



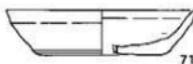
SD101 (70~78)



69



70



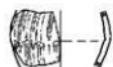
71



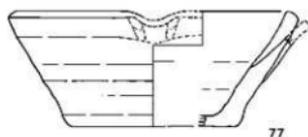
73



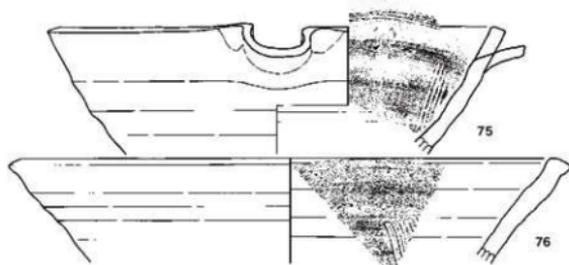
72



74



77



75

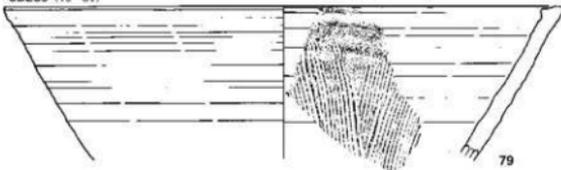
76



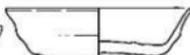
78

0 15cm (1:3)

SD239 (79~81)



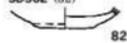
79



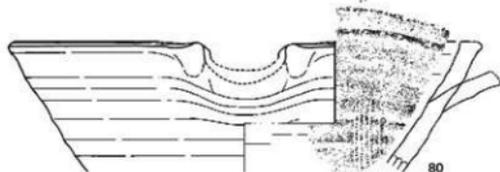
SD362 (82)



81

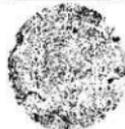


82



80

SD366 (83~86)

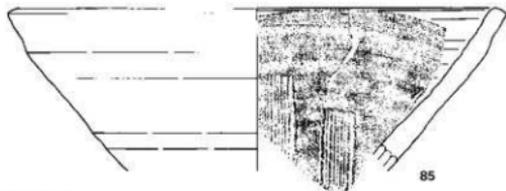


83

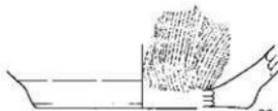
炭化物



84

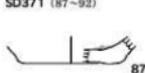


85



86

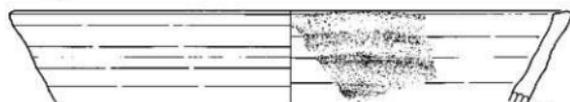
SD371 (87~92)



87



88



89



90



91



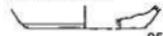
92

SD405 (93)



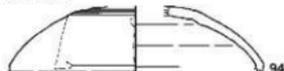
93

SD1168 (95~99)

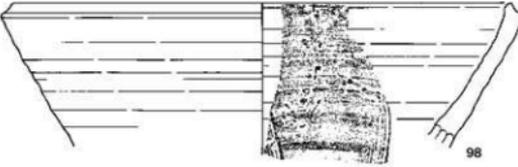


95

SD778 (94)



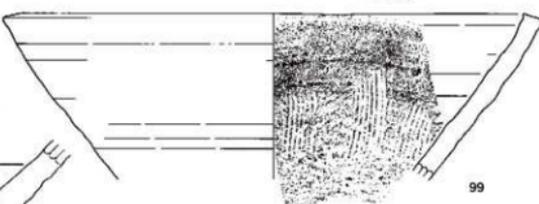
94



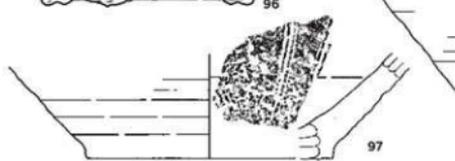
96



97



98



99

0 15cm (1:3)

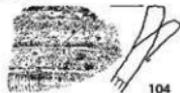
SD1320 (100~102)



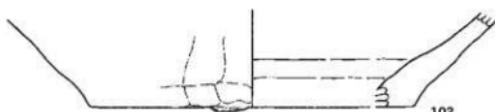
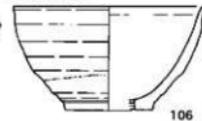
P1030 (105)



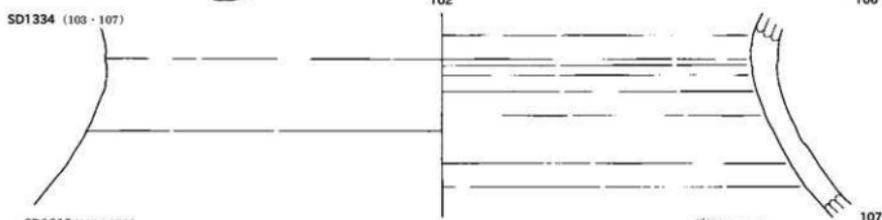
P910 (104)



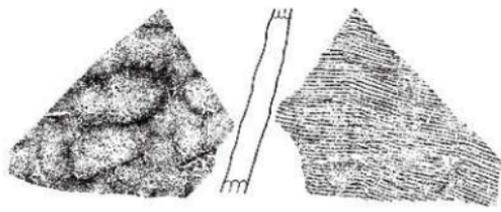
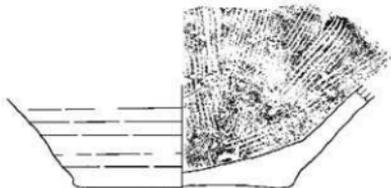
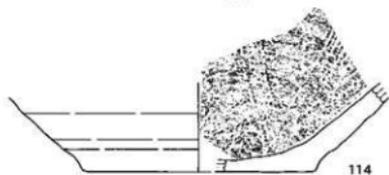
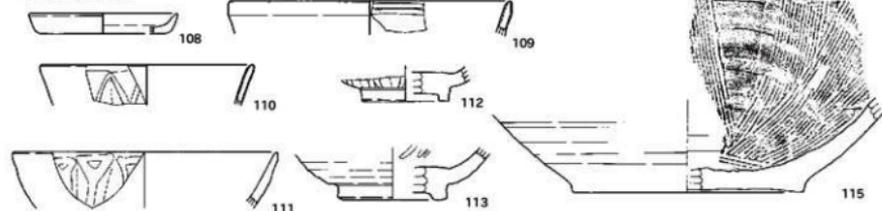
P1142 (106)



SD1334 (103~107)



SD1613 (108~120)



118-a



118-b



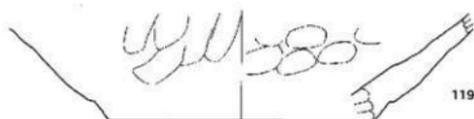
118-c



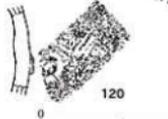
118-d



118-e

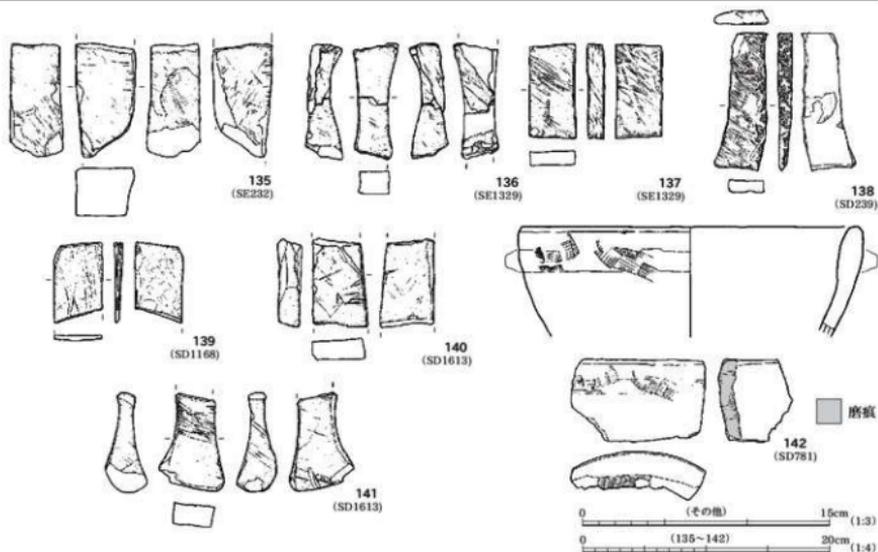
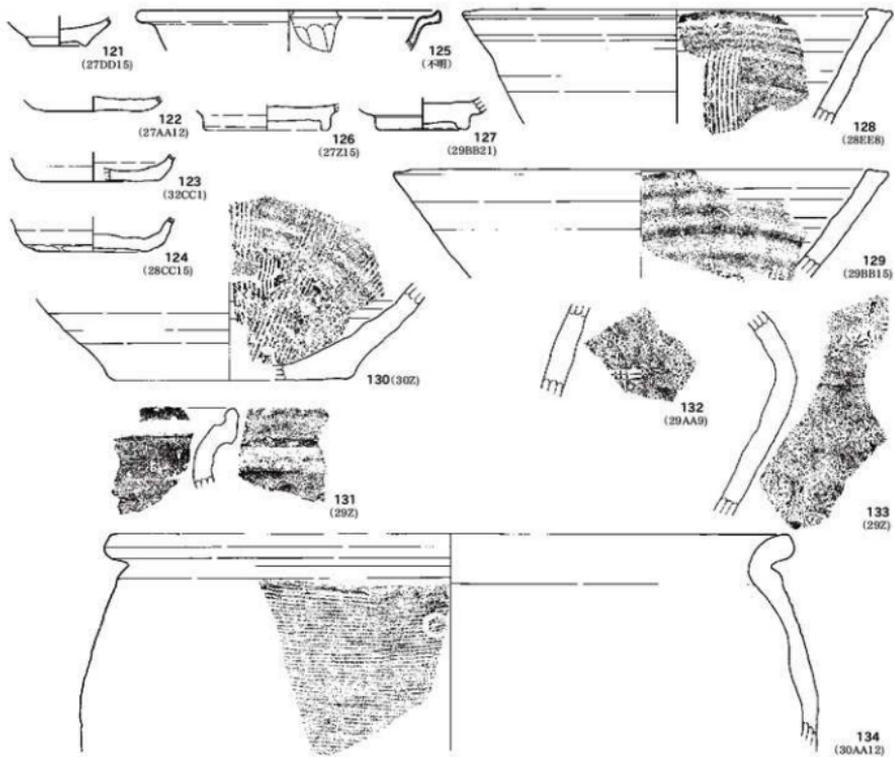


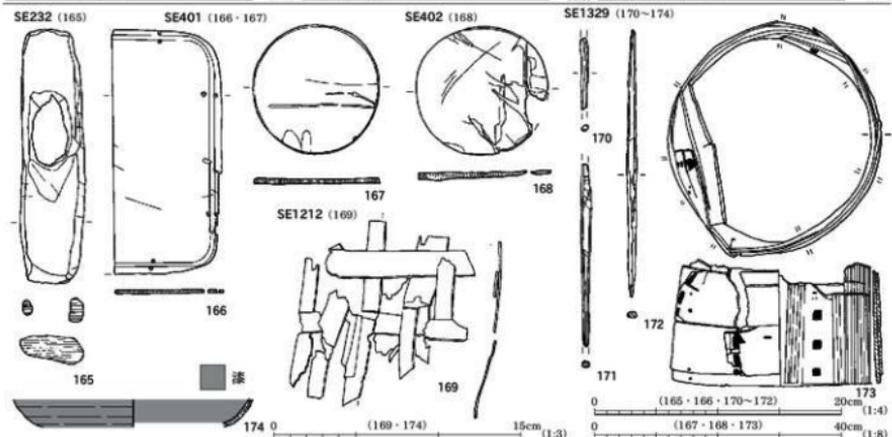
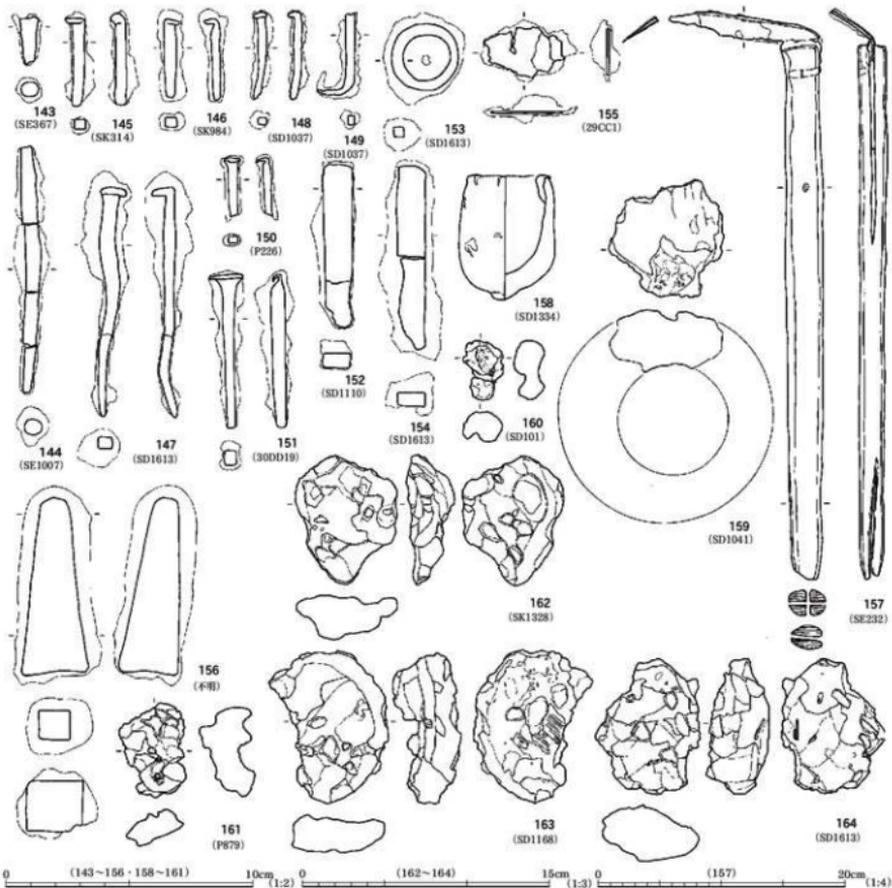
119



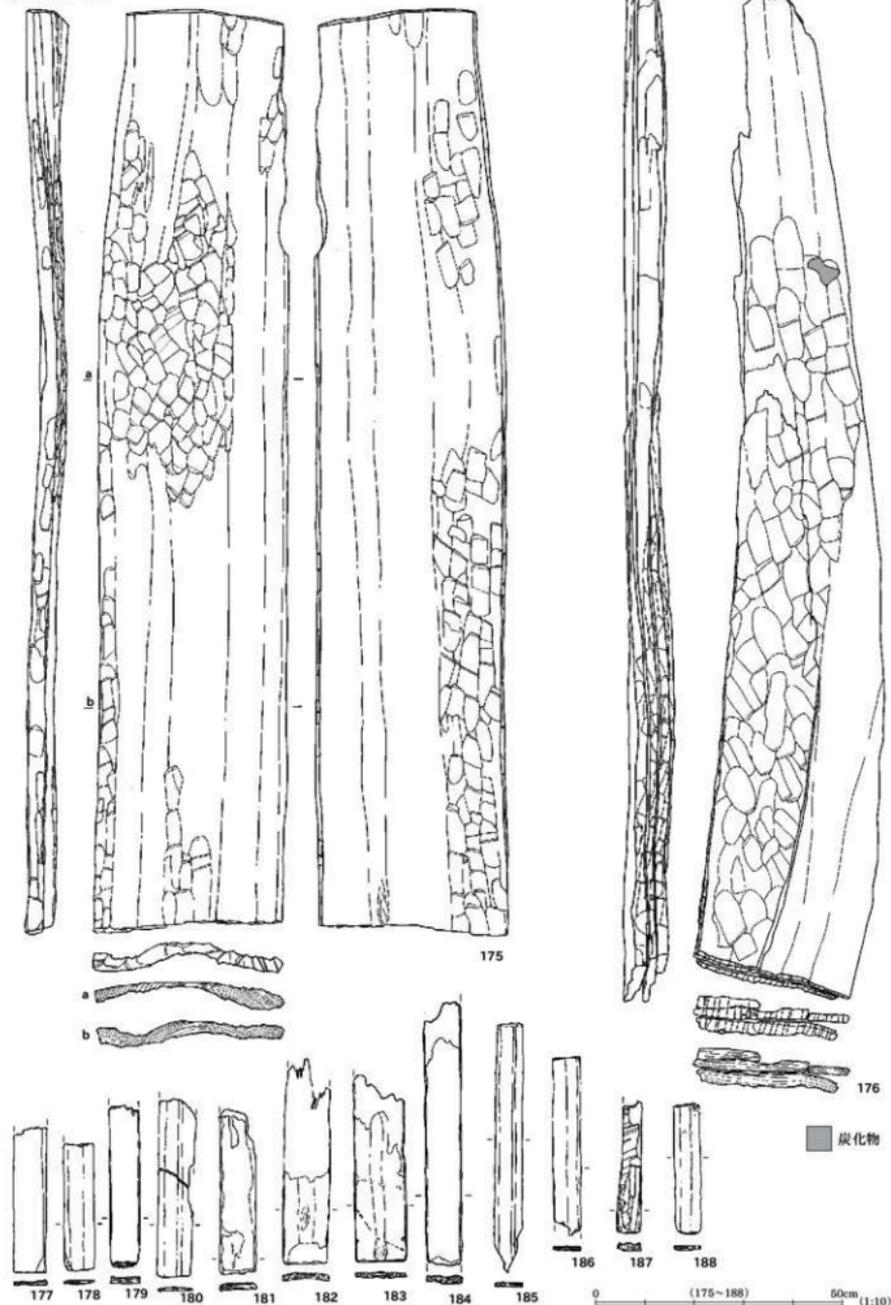
120

0 15cm (1:3)

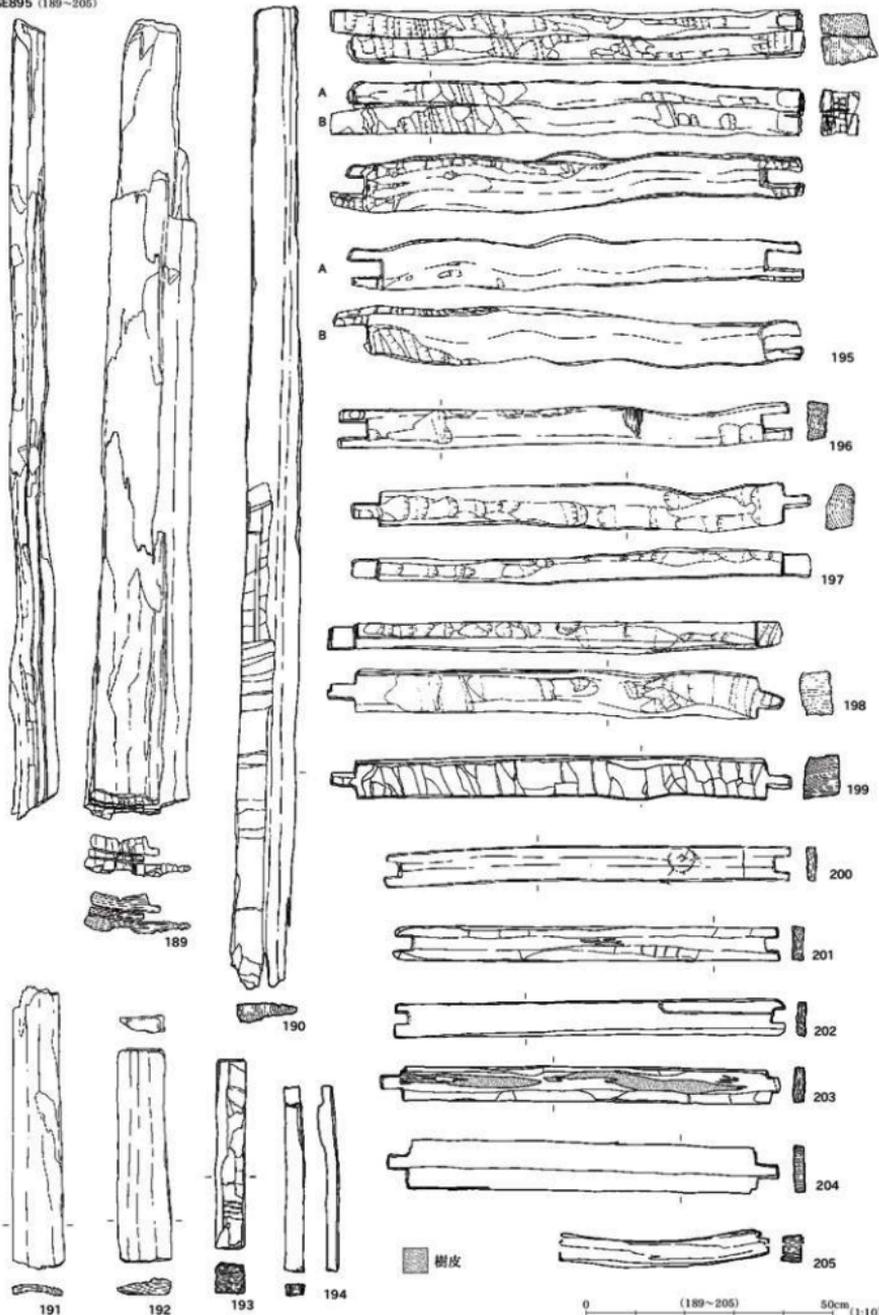




SE895 (175-188)

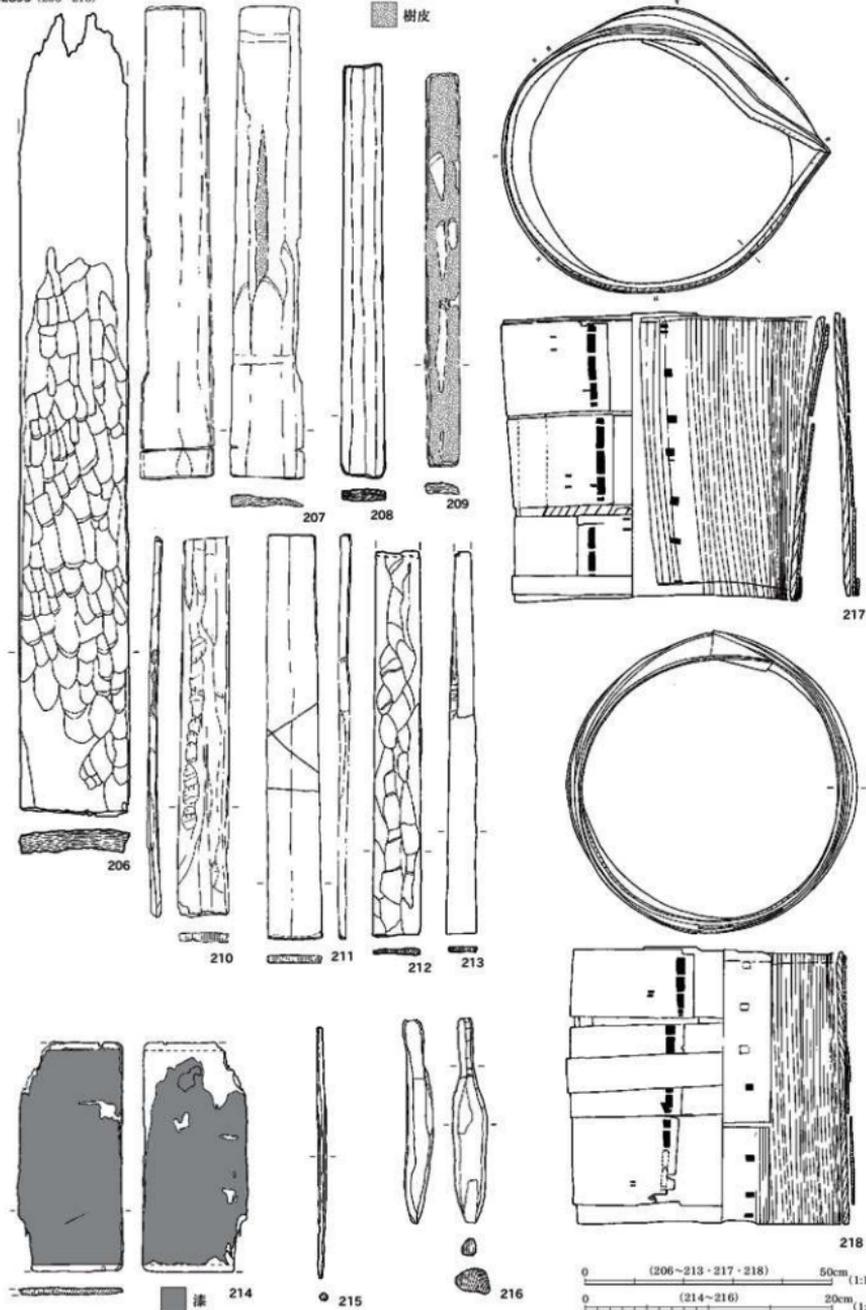


SE895 (189~205)



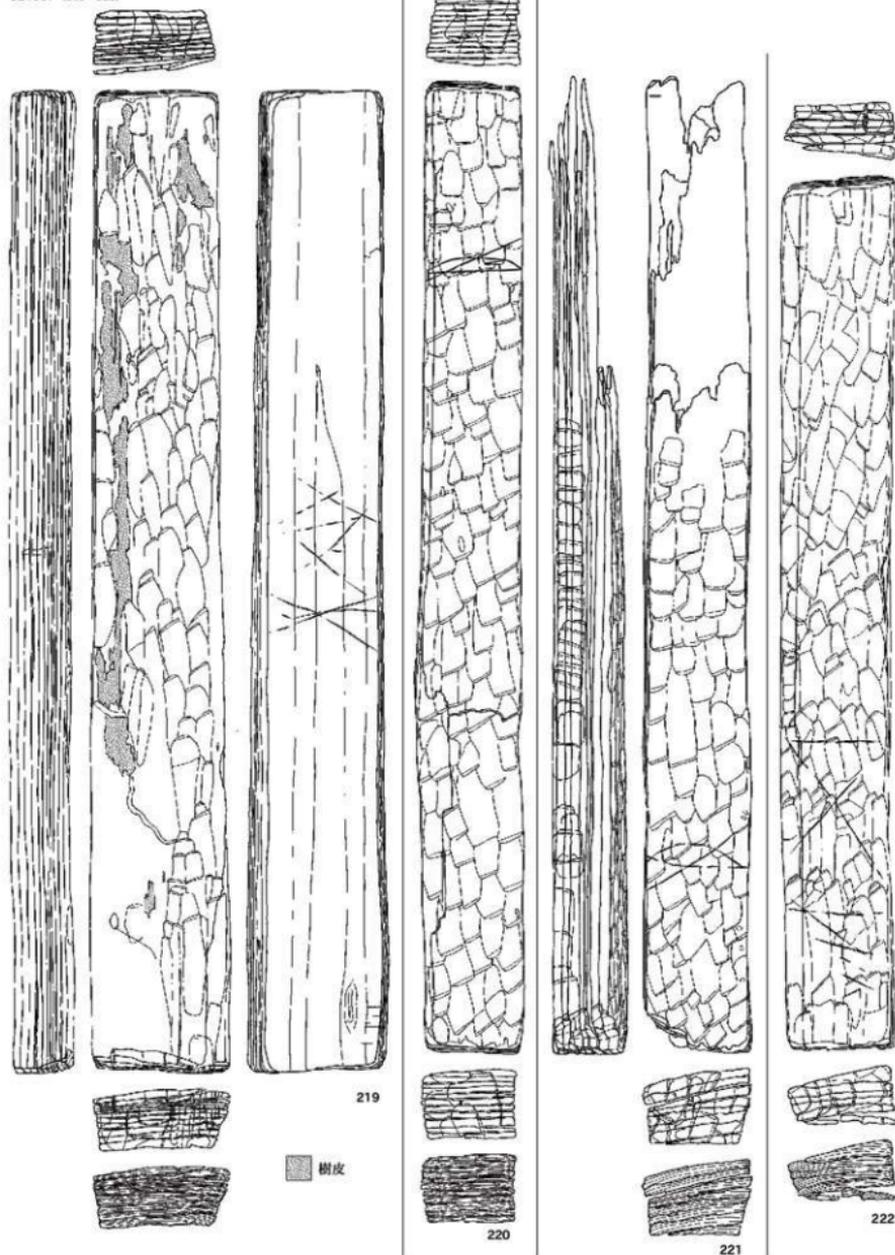
SE895 (206~218)

■ 樹皮

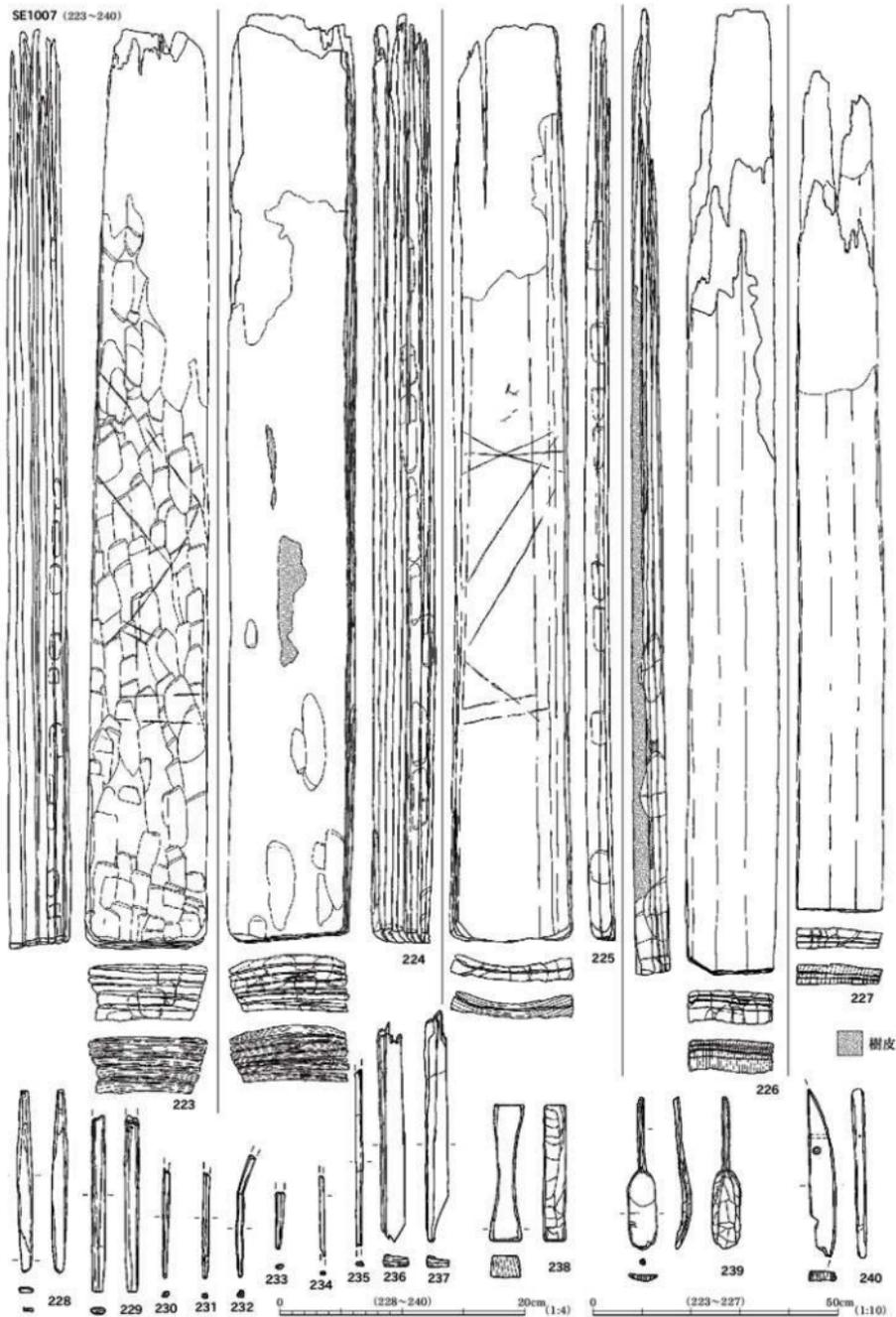


0 (206~213・217・218) 50cm (1:10)
 0 (214~216) 20cm (1:4)

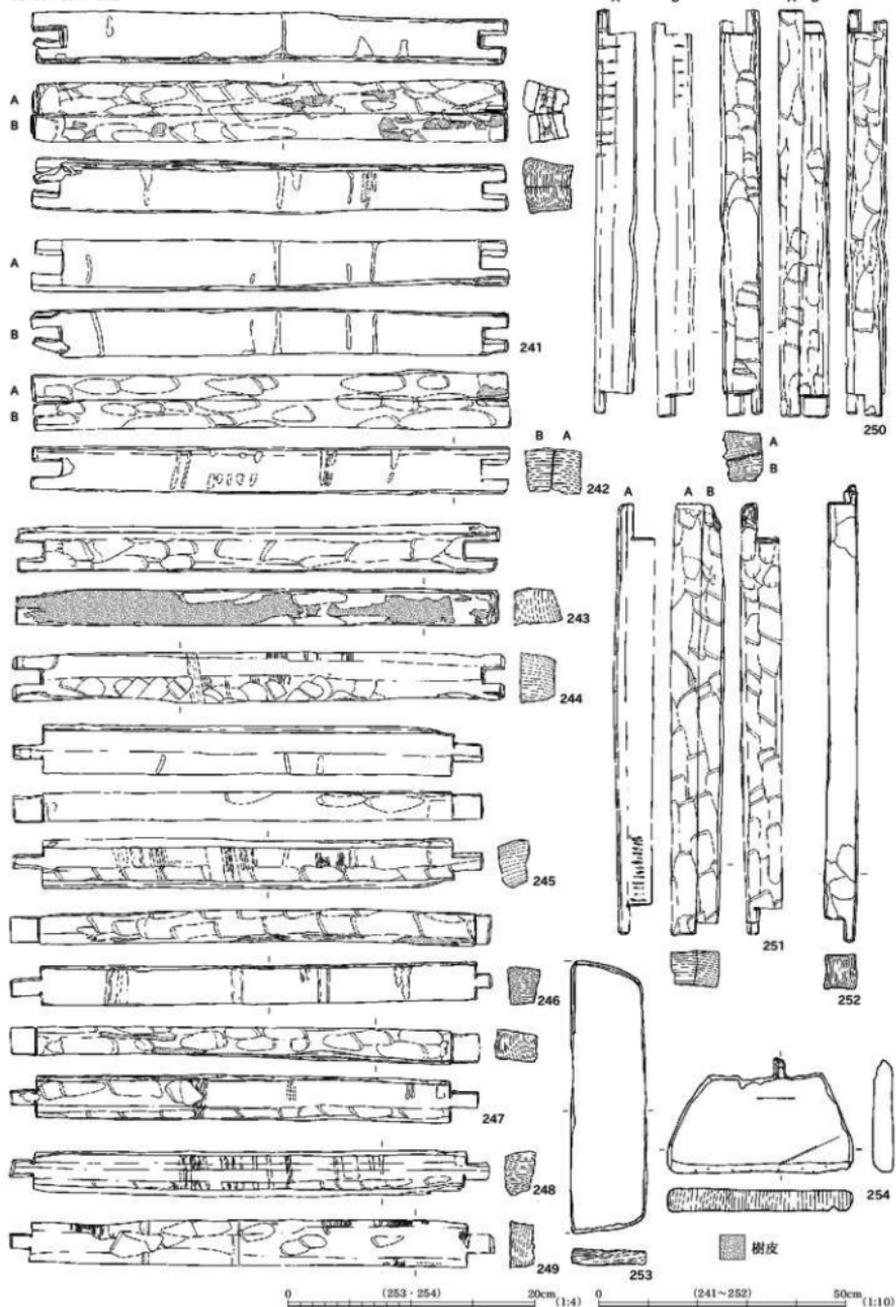
SE1007 (219~222)



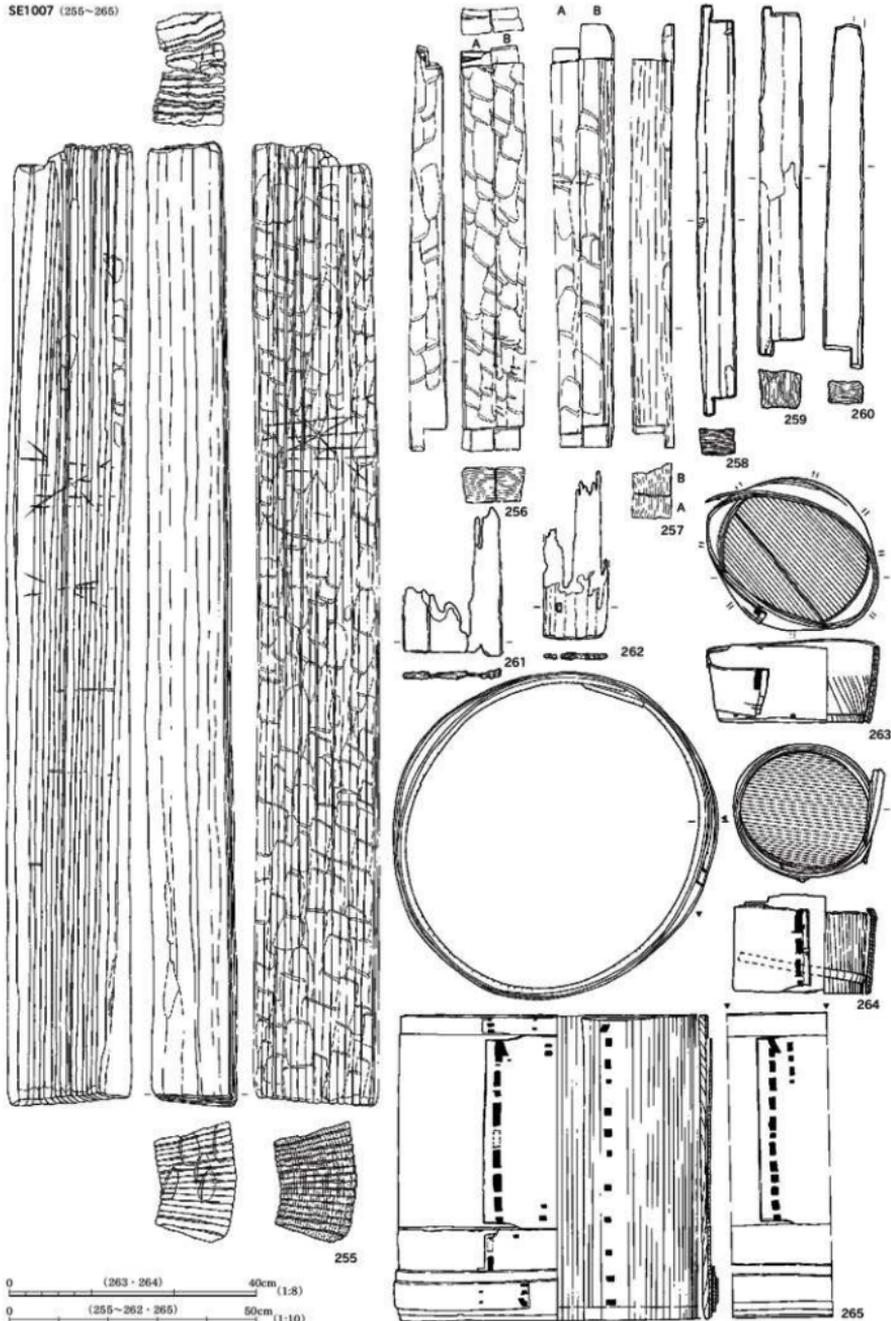
SE1007 (223~240)

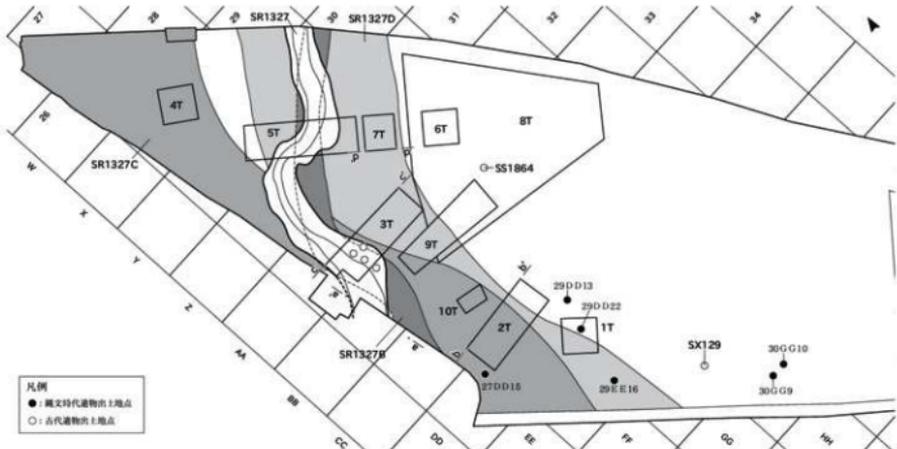


SE1007 (241~254)



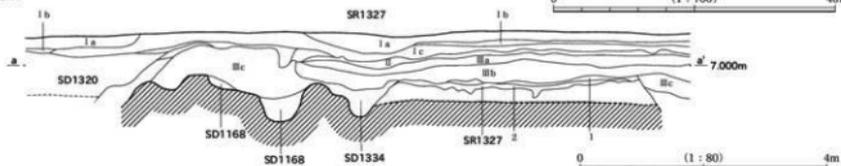
SE1007 (255~265)



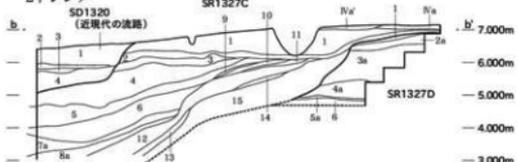


凡例
●: 現代遺物の出土点
○: 古代遺物の出土点

SR1327



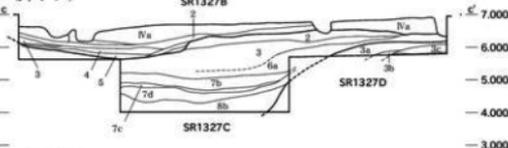
2トレンチ



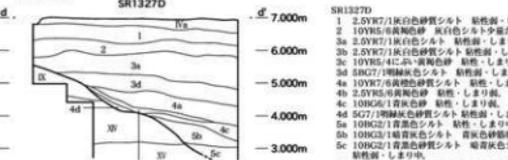
SR1327C

- 1 10YR4/6褐色シルト 粘粒・しまり中。
- 2 10YR7/1灰白色砂質シルト 3Rの褐色泥。粘粒面・しまり中。
- 3 10YR7/1灰白色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
- 4 10YR8/6黄褐色砂 粘粒・しまり中。
- 5 10YR8/6黄褐色砂シルト 粘粒面・しまり中。
- 6 10YR8/6黄褐色砂 部分にC10BG6/1青灰色砂壳。粘粒・しまり中。
- 7a 10BG6/1青灰色砂 粘粒・しまり中。
- 7b 10BG6/1青灰色砂シルト 粘粒面・しまり中。
- 7d 10BG6/1青灰色砂 粘粒・しまり中。
- 8a 10YR3/2深褐色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
- 8b 5YR3/2ネーティブ褐色シルトと10BG6/1青灰色砂との互層。粘粒面・しまり中。
- 9 10YR7/6黄褐色砂質シルト 灰白色シルト多量混。粘粒面・しまり中。
- 10 10YR7/1灰白色シルト 粘粒面・しまり中。
- 11 10YR7/6黄褐色砂 灰白色シルト多量混。粘粒・しまり中。
- 12 10BG6/1青灰色砂シルト 粘粒面・しまり中。
- 13 10YR3/2深褐色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
- 14 10YR7/1灰白色砂 粘粒・しまり中。
- 15 10BG7/1暗褐色シルト 粘粒面・しまり中。褐色砂多量混。泥未出土。

3トレンチ



7トレンチ



SR1327D

- 1 2.5YR7/1灰白色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
- 2 10YR5/6黄褐色砂 灰白色シルト少量混。粘粒・しまり中。
- 3a 2.5YR7/1灰白色シルト 粘粒面・しまり中。
- 3b 2.5YR7/1灰白色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
- 3c 10YR5/6黄褐色砂 粘粒・しまり中。
- 3d SRK7/1暗褐色シルト 粘粒面・しまり中。炭分多量混。
- 4a 10YR7/6黄褐色砂質シルト 粘粒・しまり中。
- 4b 2.5YR5/6黄褐色砂 粘粒・しまり中。
- 4c 10BG6/1青灰色砂 粘粒・しまり中。
- 4d SC7/1暗褐色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
- 5a 10BG2/1青灰色シルト 粘粒・しまり中。
- 5b 10BG2/1暗褐色シルト 黄褐色粘粒に混。粘粒面・しまり中。
- 5c 10BG6/1青灰色砂質シルト 灰白色シルト多量混。粘粒面・しまり中。
- 6 10BG6/1青灰色シルト 粘粒・しまり中。

II 10YR7/1灰白色シルト 粘粒面・しまり中。
 III 10BG6/1青灰色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
 IV 10BG6/1青灰色砂質シルト 粘粒面・しまり中。
 暗褐色シルト層状に、黄褐色砂質シルト多量混。

SD1320

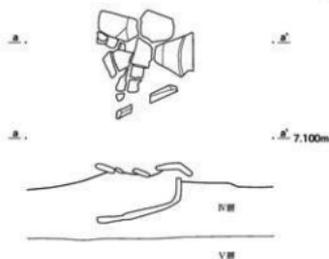
- 1 10YR4/6褐色シルト・10YR3/2深褐色シルト・
- 2 10YR3/2深褐色シルトの混層。粘粒・しまり中。
- 3 10YR3/2深褐色シルト 粘粒・しまり中。
- 4 10BG6/1青灰色シルト 粘粒・しまり中。

SR1327B

- 1 2.5YR7/1灰白色砂 灰白色シルト多量混。粘粒・しまり中。
- 2 灰白色シルト 灰白色シルト多量混。粘粒・しまり中。
- 3 灰白色シルト 粘粒・しまり中。
- 4 10BG6/1青灰色シルト 粘粒・しまり中。
- 5 10BG6/1暗褐色シルト 粘粒・しまり中。

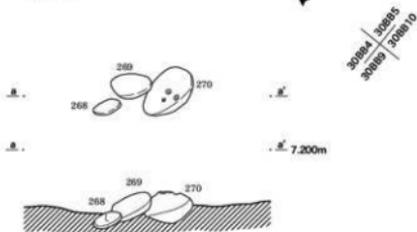


SX129



深 7.100m

SS1864

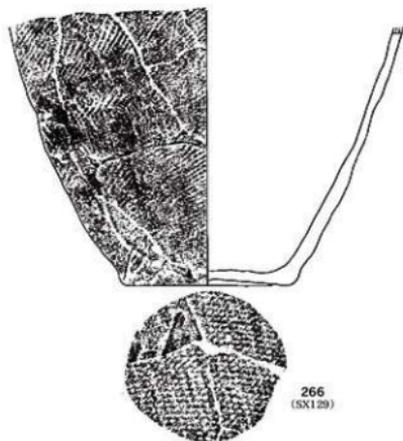


深 7.200m

30000 / 30000
30000 / 30000

0 (SX129 1:10) 50cm

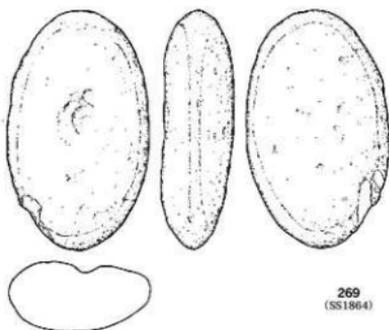
0 (SS1864 1:20) 1m



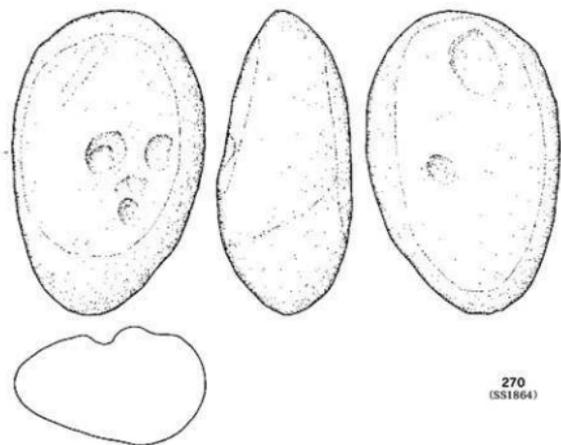
266
(SX129)



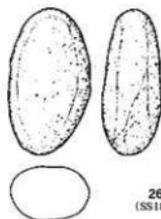
267
(SE1157)



269
(SS1864)



270
(SS1864)

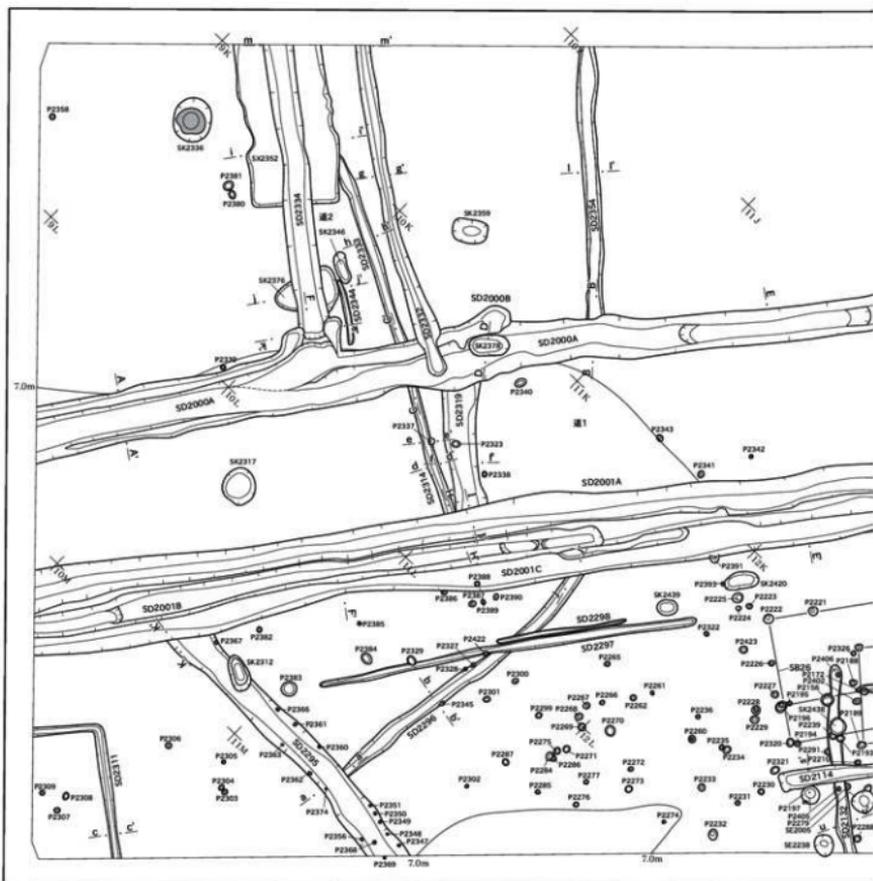


268
(SS1864)

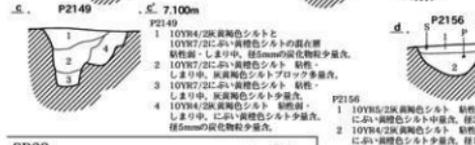
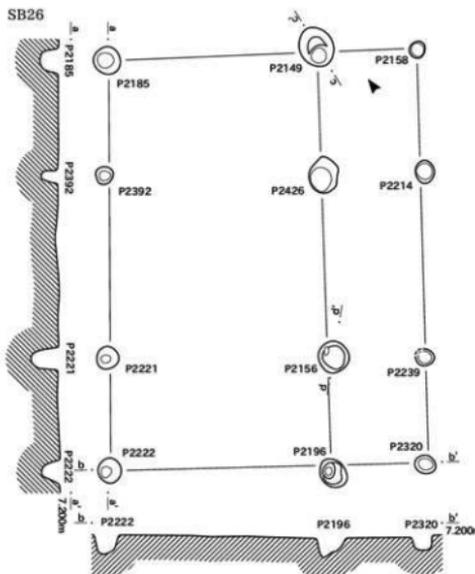
0 (266-267) 15cm (1:3)

0 (268-270) 20cm (1:4)

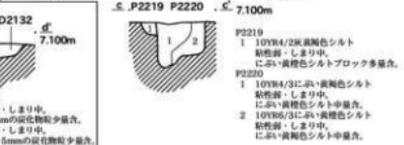
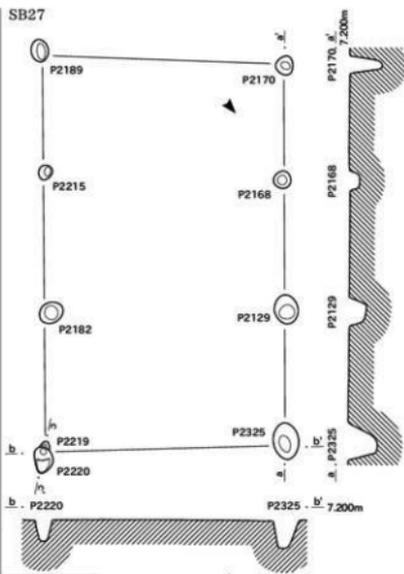




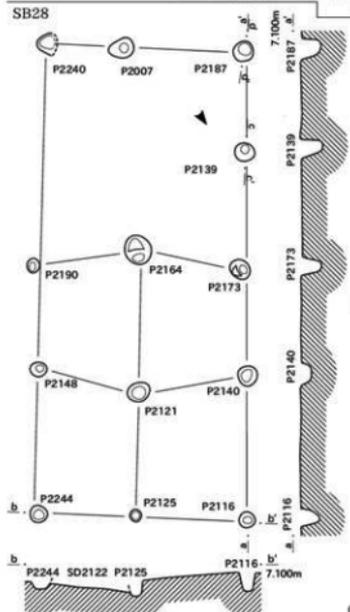
SB26



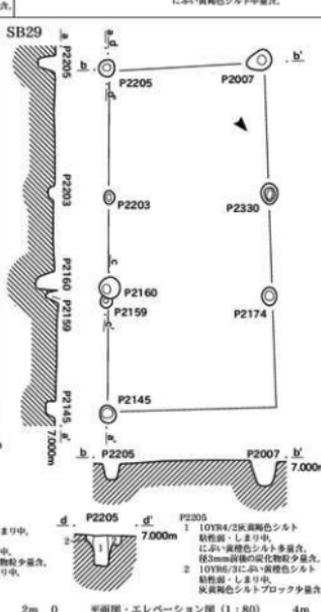
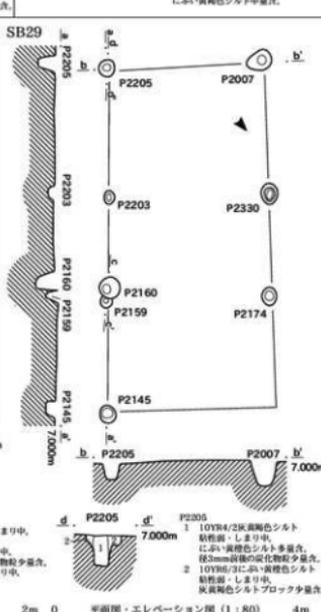
SB27

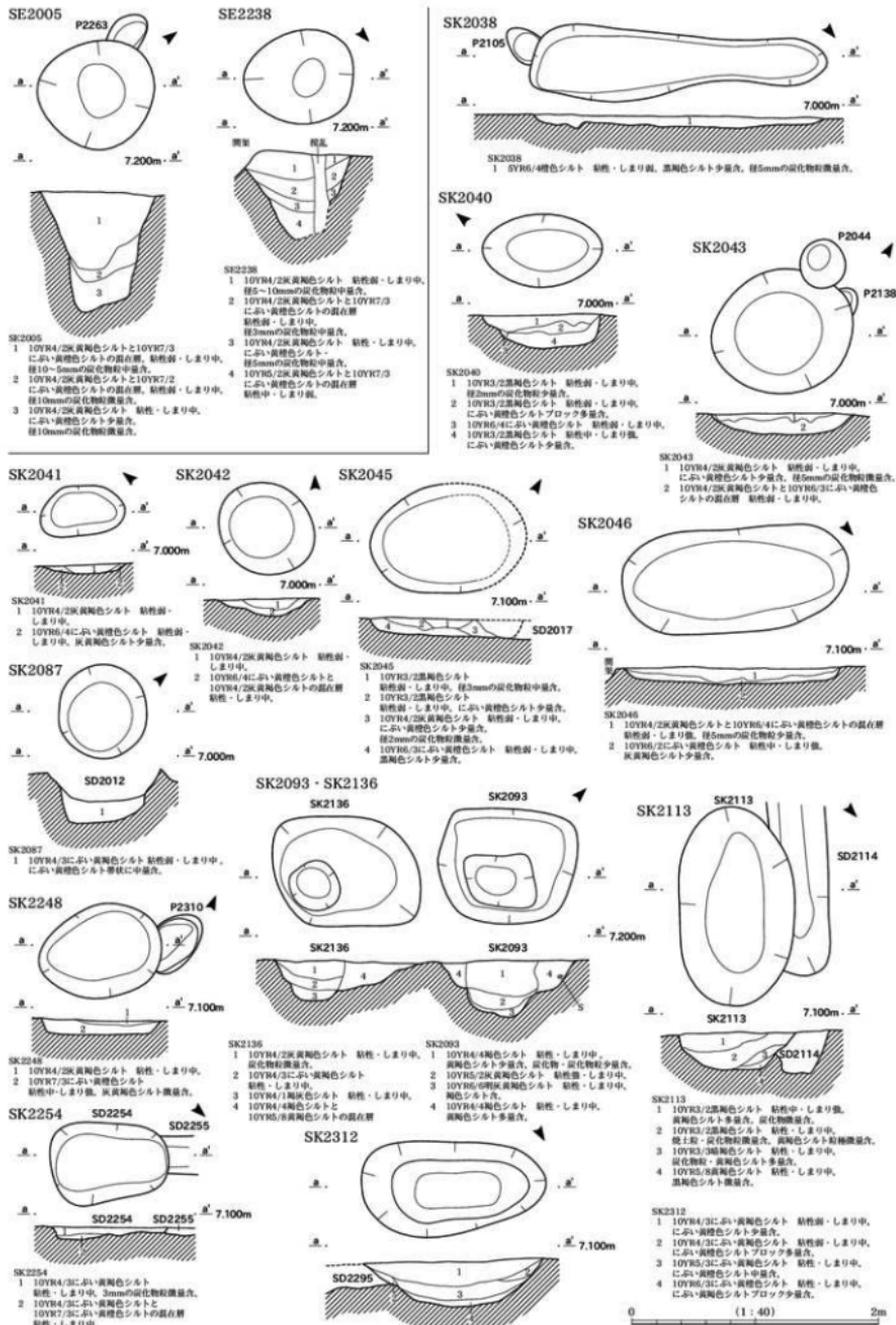


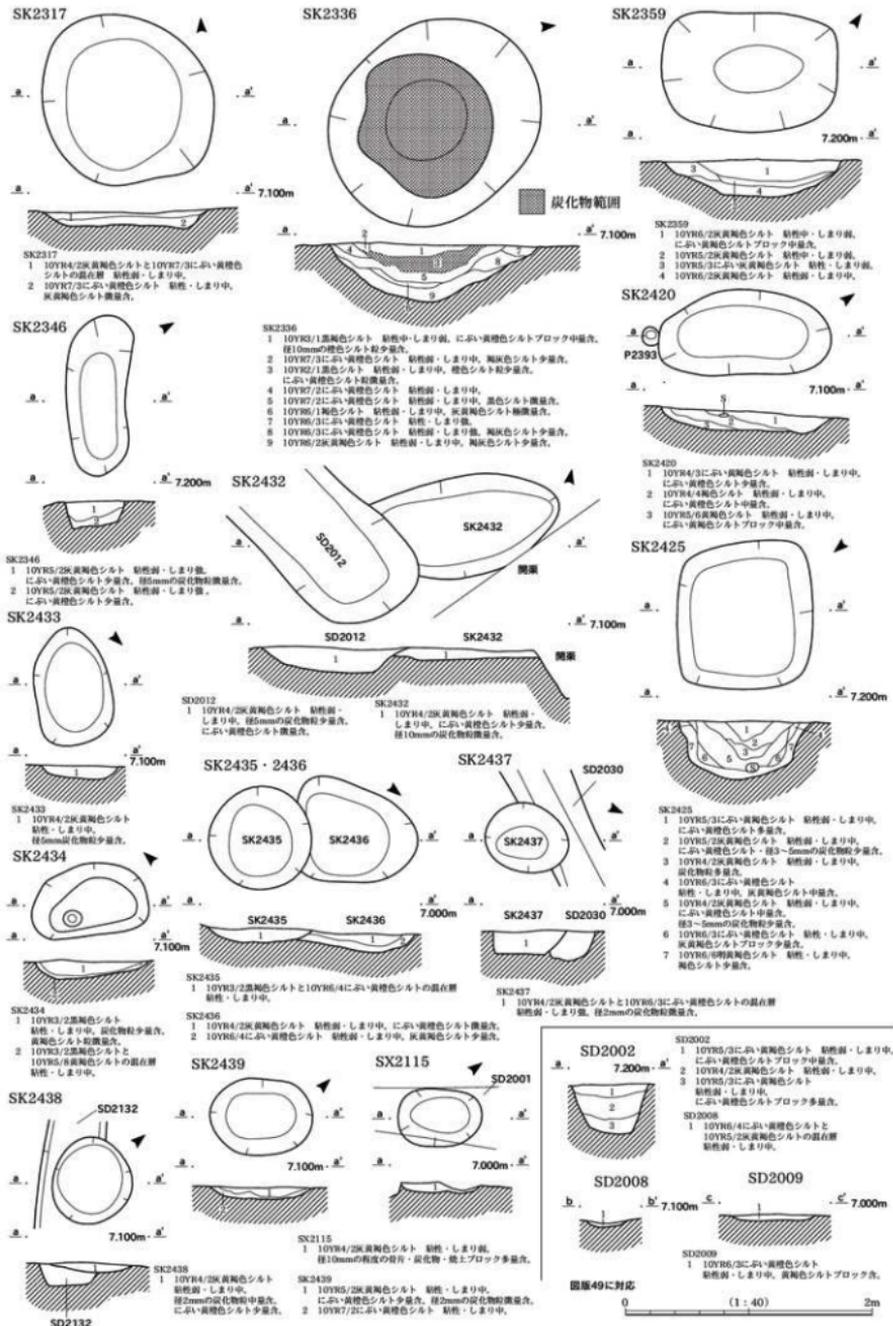
SB28

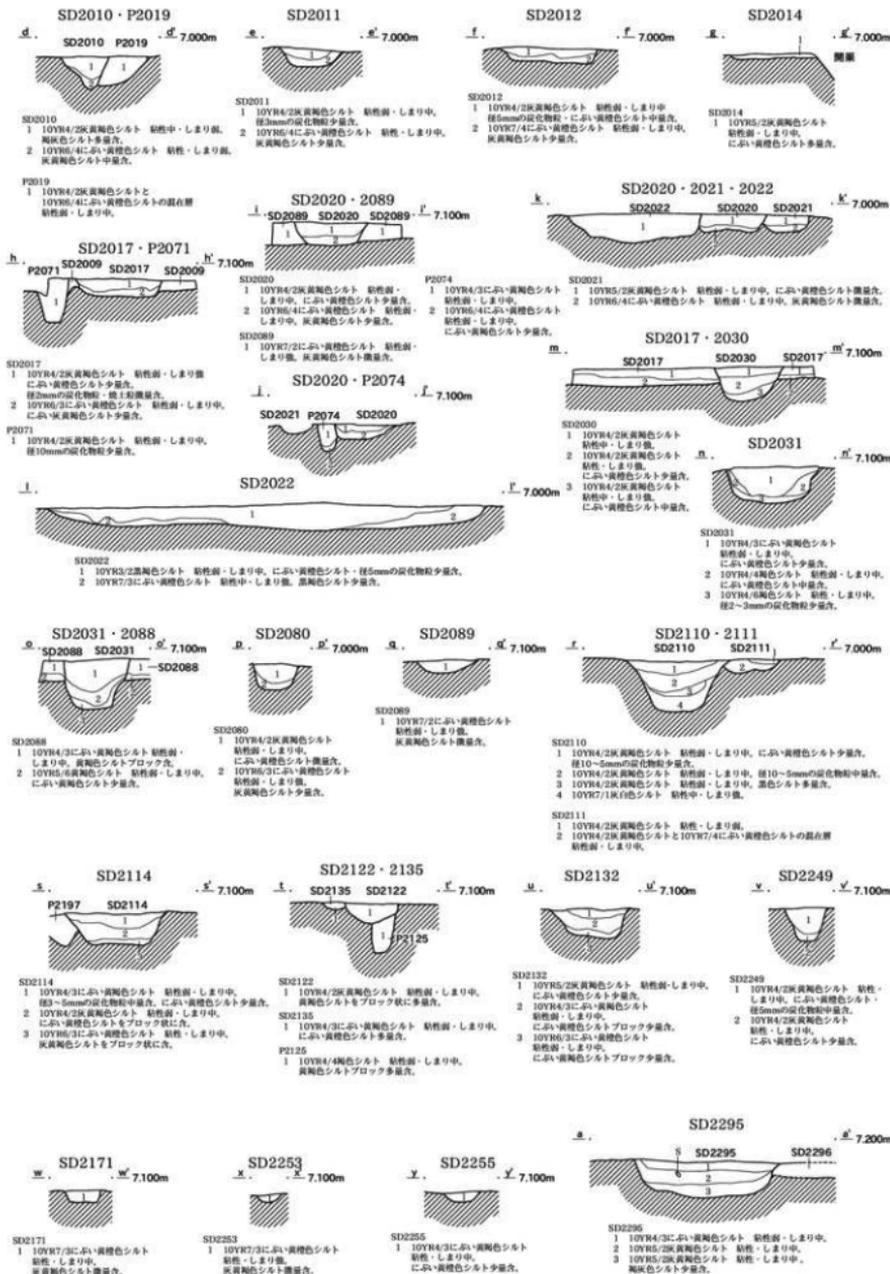


SB29



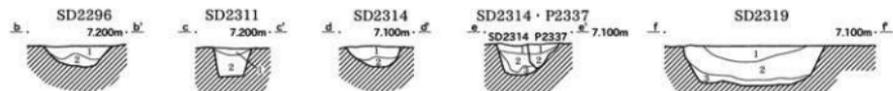






図版48に対応

0 (1:40) 2m



SD2296

- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、褐色シルト少量混入。暗褐色シルト少量混入。
2 10YR6/6暗褐色シルト 粘状・しまり中、灰黄褐色シルト少量混入。

SD2311

- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、赤褐色の炭化物少量混入。
2 10YR6/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、赤褐色の炭化物少量混入。
3 10YR7/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰黄褐色シルト少量混入。

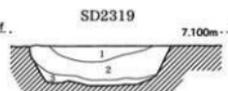
SD2314

- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中。
2 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR7/3に赤い黄褐色シルトの混在層 粘状・しまり中。
3 10YR7/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中。



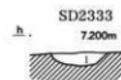
P2337

- 1 10YR6/1褐色シルト 粘状・しまり中。
2 10YR3/3暗褐色シルトと10YR7/3に赤い黄褐色シルトの混在層 粘状・しまり中。

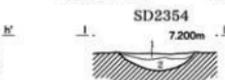


SD2319

- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中。径2mmの炭化物粒少量混入。に赤い黄褐色シルト少量混入。
2 10YR6/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中。
3 10YR7/4に赤い黄褐色シルト 灰黄褐色シルト少量混入。



SD2233



SD2354

- SD2233
1 10YR4/1褐色シルト 粘状・しまり中、黄褐色シルト少量混入。
SD2354
1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
2 10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/3に赤い黄褐色シルトの混在層 粘状・しまり中。

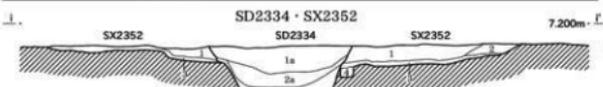
道2 SD2332・2334

道2 SD2332

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
2 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
3 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰褐色シルト少量混入。

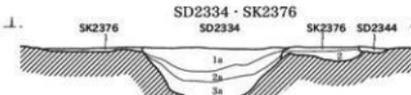
道2 SD2334

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 粘状・しまり中。
2a 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰褐色シルト少量混入。
3a 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰褐色シルト少量混入。



SX2352

- 1 10YR5/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
2 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、に赤い黄褐色シルト少量混入。径3mmの炭化物粒少量混入。
3 10YR7/4に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰黄褐色シルト少量混入。
4 10YR7/4に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰黄褐色シルト少量混入。



SD2334・SK2376

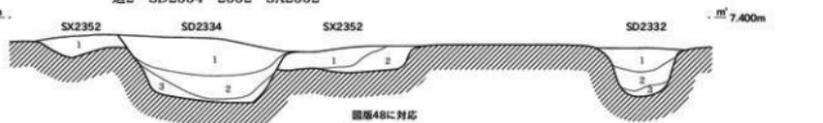
SD2344

- 1 10YR5/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、に赤い黄褐色シルト少量混入。径3mmの炭化物粒少量混入。

SK2376

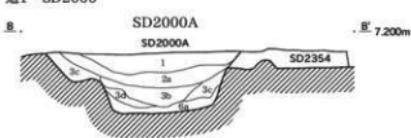
- 1 10YR4/3に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、黄褐色シルト少量混入。
2 10YR5/6暗褐色シルト 粘状・しまり中、に赤い黄褐色シルト少量混入。

道2 SD2334・2332・SX2352

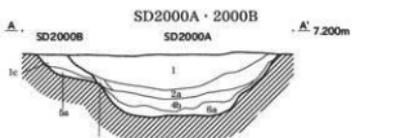


図版4Bに対応

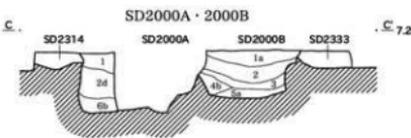
道1 SD2000



SD2000A

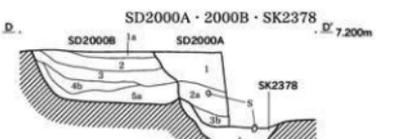


SD2000A・2000B



SD2000A・2000B

SD2000B



SD2000A・2000B・SK2378

道1・SD2000A

- 1 10YR4/3暗褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。炭化物粒少量混入。
2a 10YR6/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、褐色シルト少量混入。
2b 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、に赤い黄褐色シルト少量混入。
2c 10YR4/4暗褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。炭化物粒少量混入。
3b 10YR4/1褐色シルト 粘状・しまり中、黄褐色シルト少量混入。
3c 10YR5/6暗褐色シルト 粘状・しまり中、褐色シルト少量混入。
3d 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、径5mmの炭化物粒少量混入。
4a 10YR4/1褐色シルト 粘状・しまり中、黄褐色シルト少量混入。
4b 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、に赤い黄褐色シルト少量混入。
4c 10YR5/6暗褐色シルト 粘状・しまり中、褐色シルト少量混入。
5 10YR6/6暗褐色シルト 粘状・しまり中、褐色シルト少量混入。
6 10YR6/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中。

道1・SD2000B

- 1a 10YR6/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰黄褐色シルト少量混入。
1c 10YR7/4に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
2 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
3 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。径3mmの炭化物粒少量混入。
4b 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。
4c 10YR7/4に赤い黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰黄褐色シルト少量混入。
5 10YR5/6暗褐色シルト 粘状・しまり中、褐色シルト少量混入。

SK2378

- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト 粘状・しまり中、灰白色シルト少量混入。径5mmの炭化物粒少量混入。

図版4Bに対応



古代



中世

SK2336 (275)



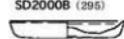
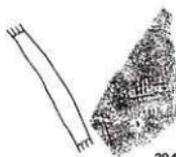
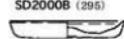
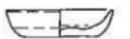
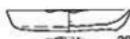
SD2001A (274)



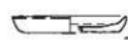
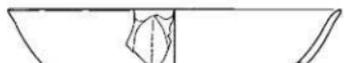
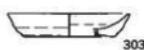
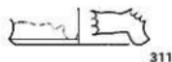
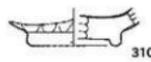
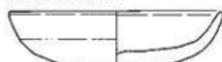
SK2113 (276・277)



SD2000A (279~294)

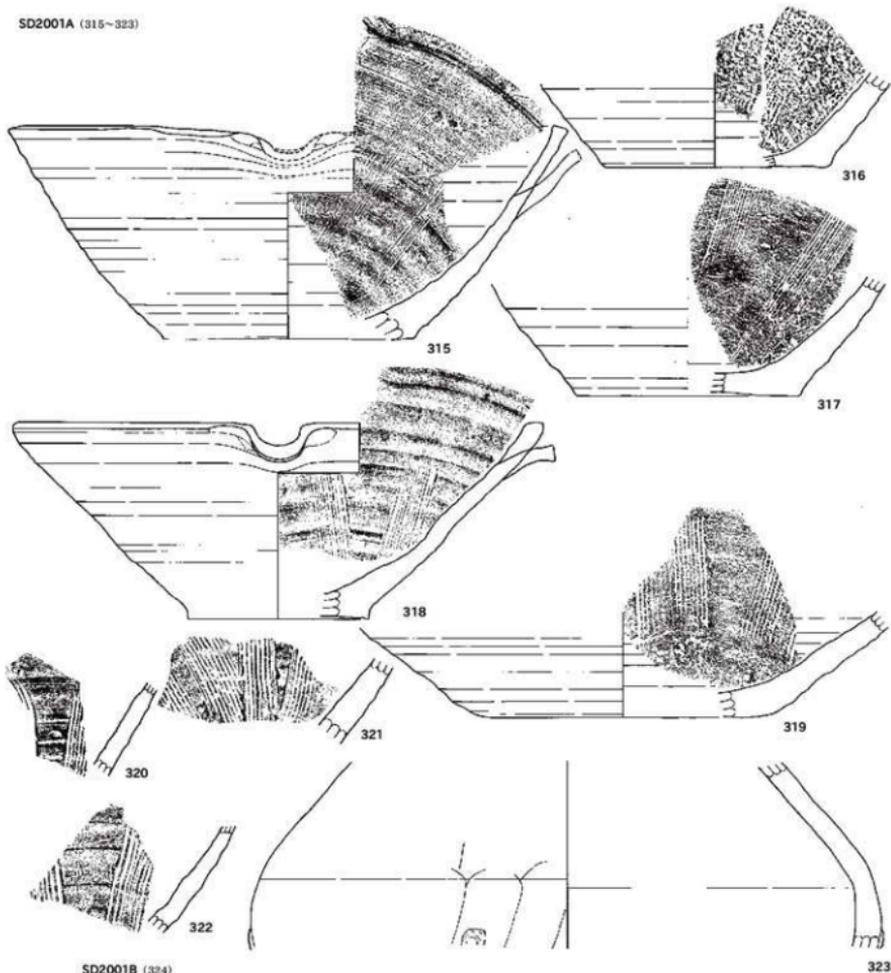


SD2001A (296~314)



0 15cm (1:3)

SD2001A (315~323)

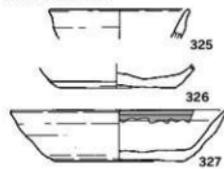


SD2001B (324)



324

SD2012 (325~327)

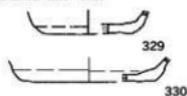


325

326

327

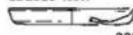
SD2022 (329~330)



329

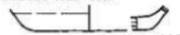
330

SD2080 (331)



331

SD2030 (332~333)



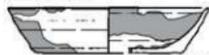
332

SD2017 (334)



334

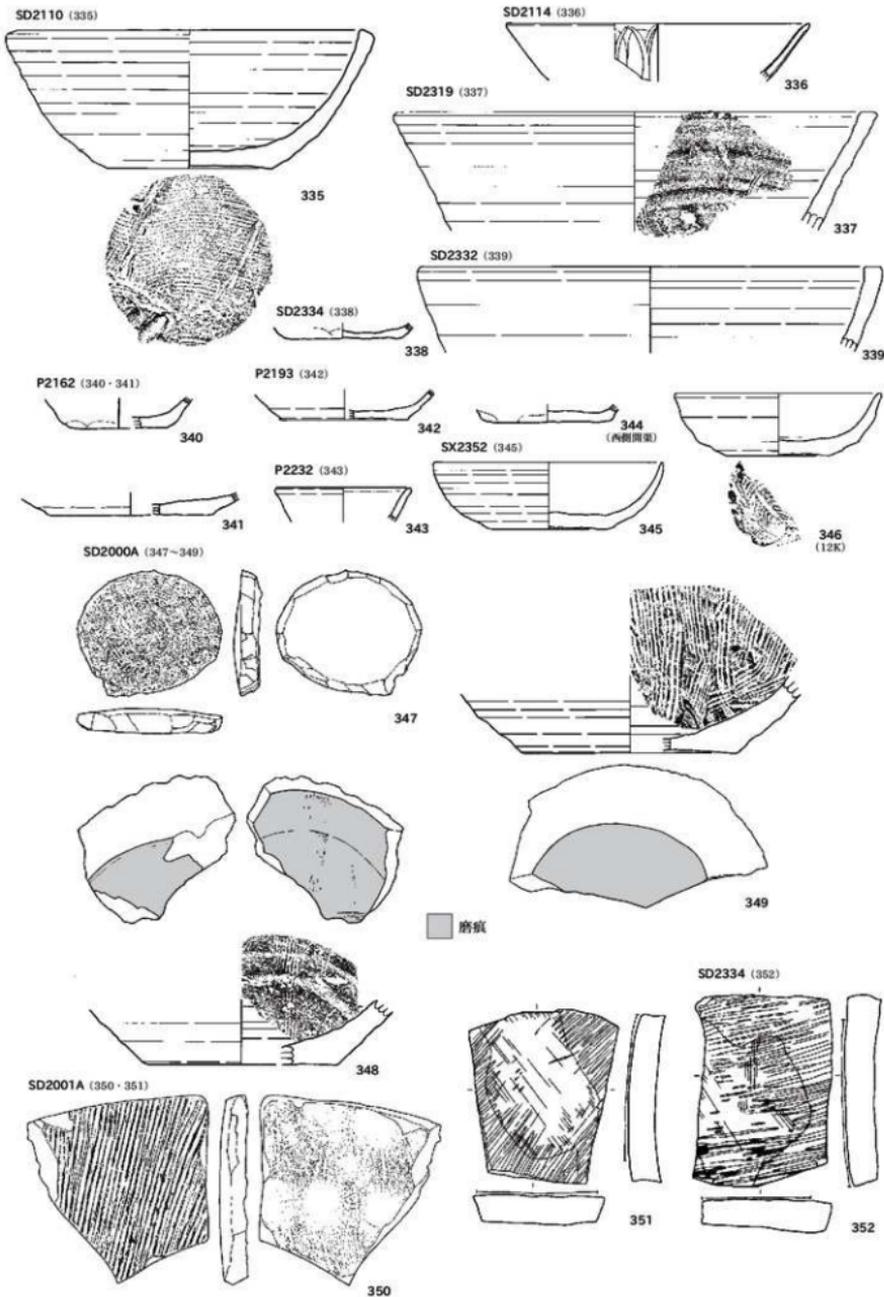
SD2014 (328)

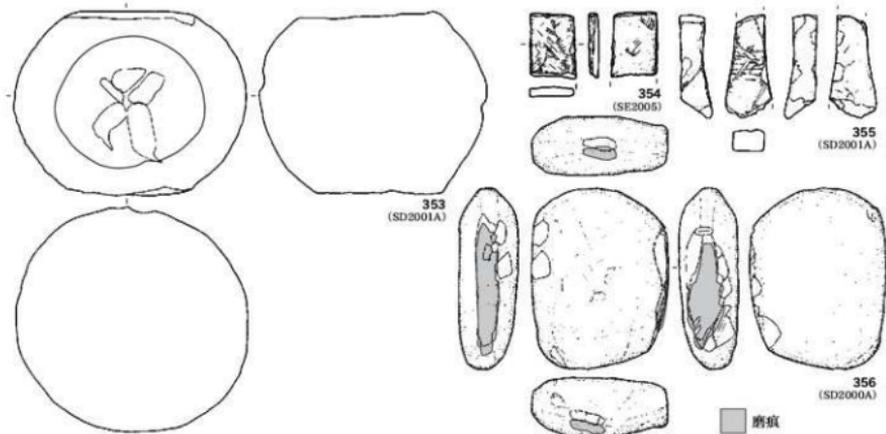


328

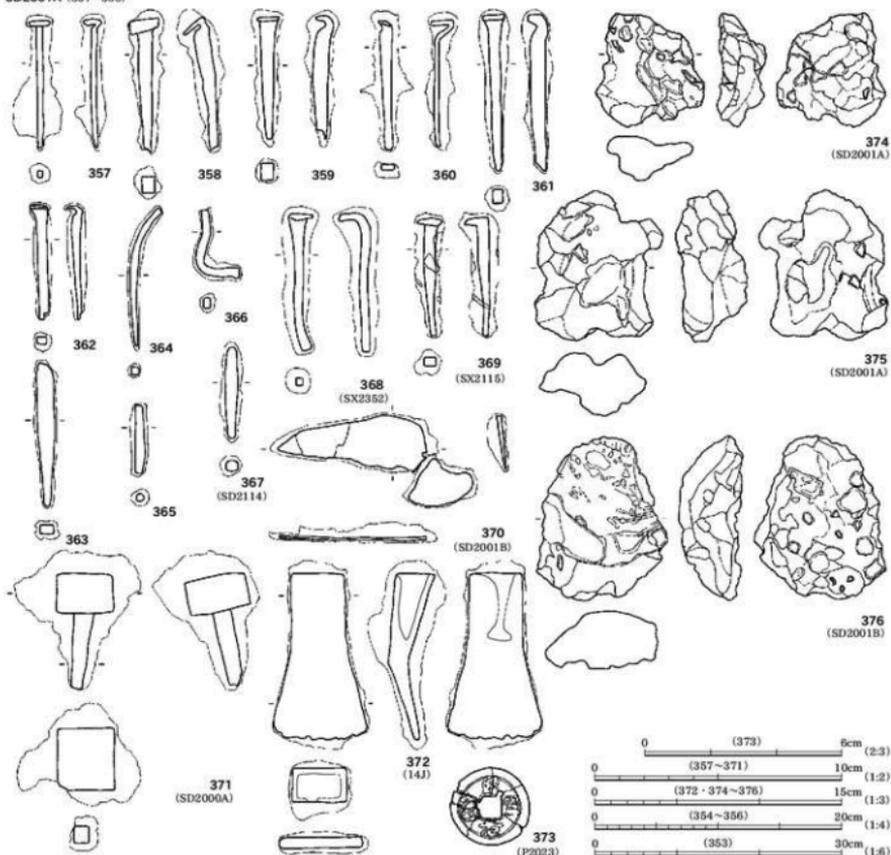
■ 炭化物

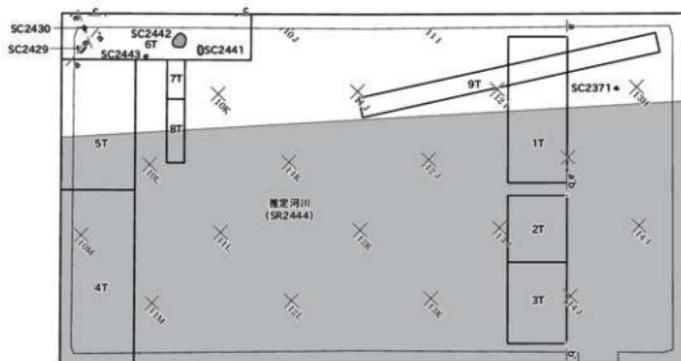
0 15cm (1:3)





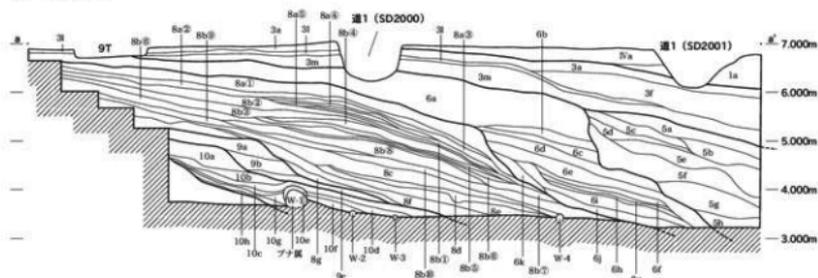
SD2001A (357~366)



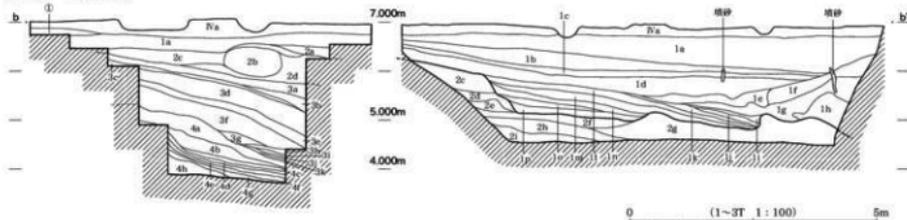


1T 土層断面図

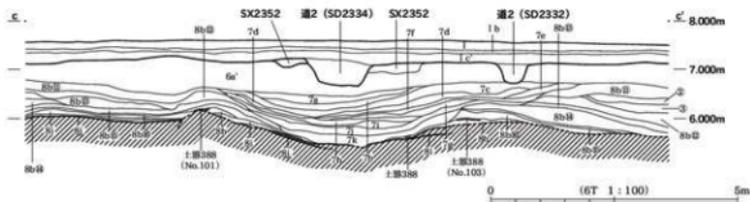
0 (1:500) 25m

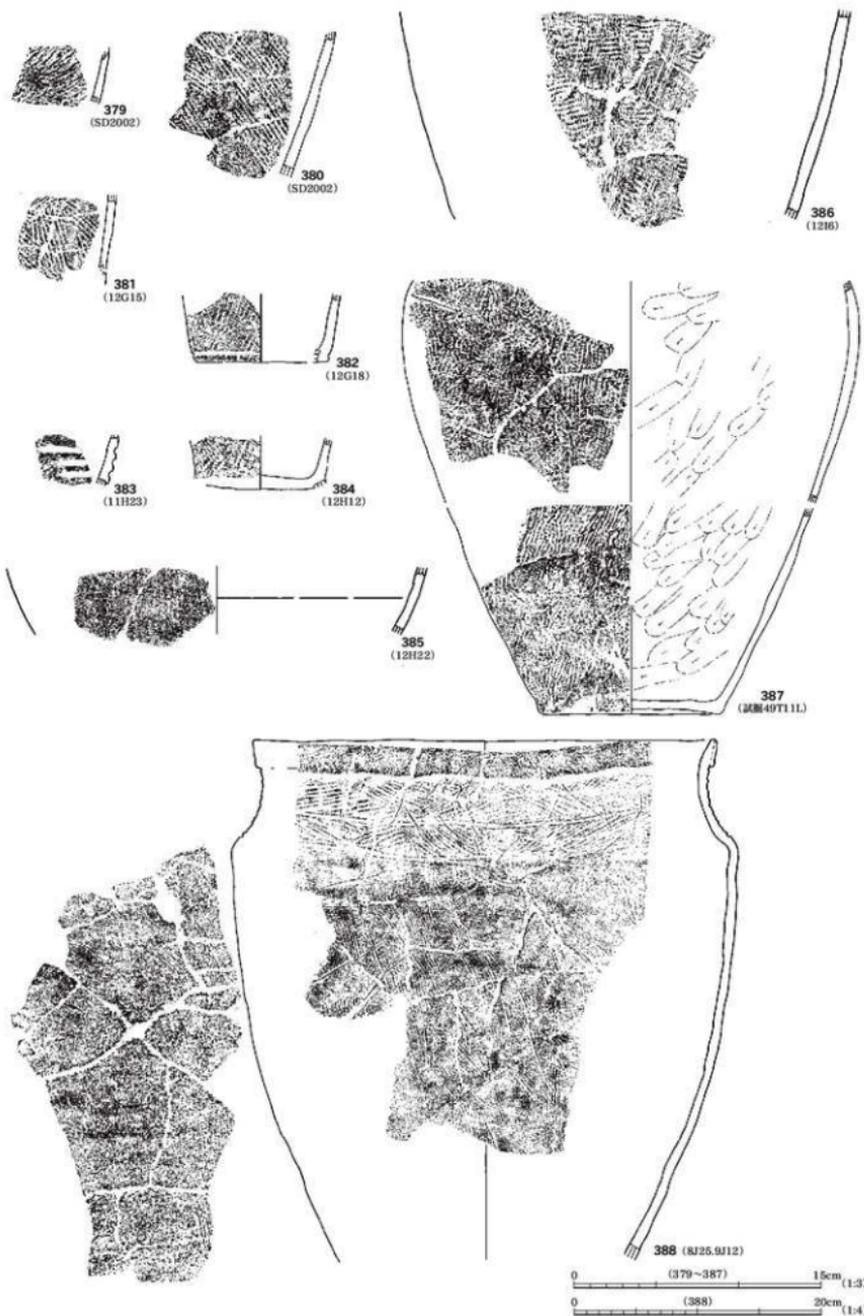


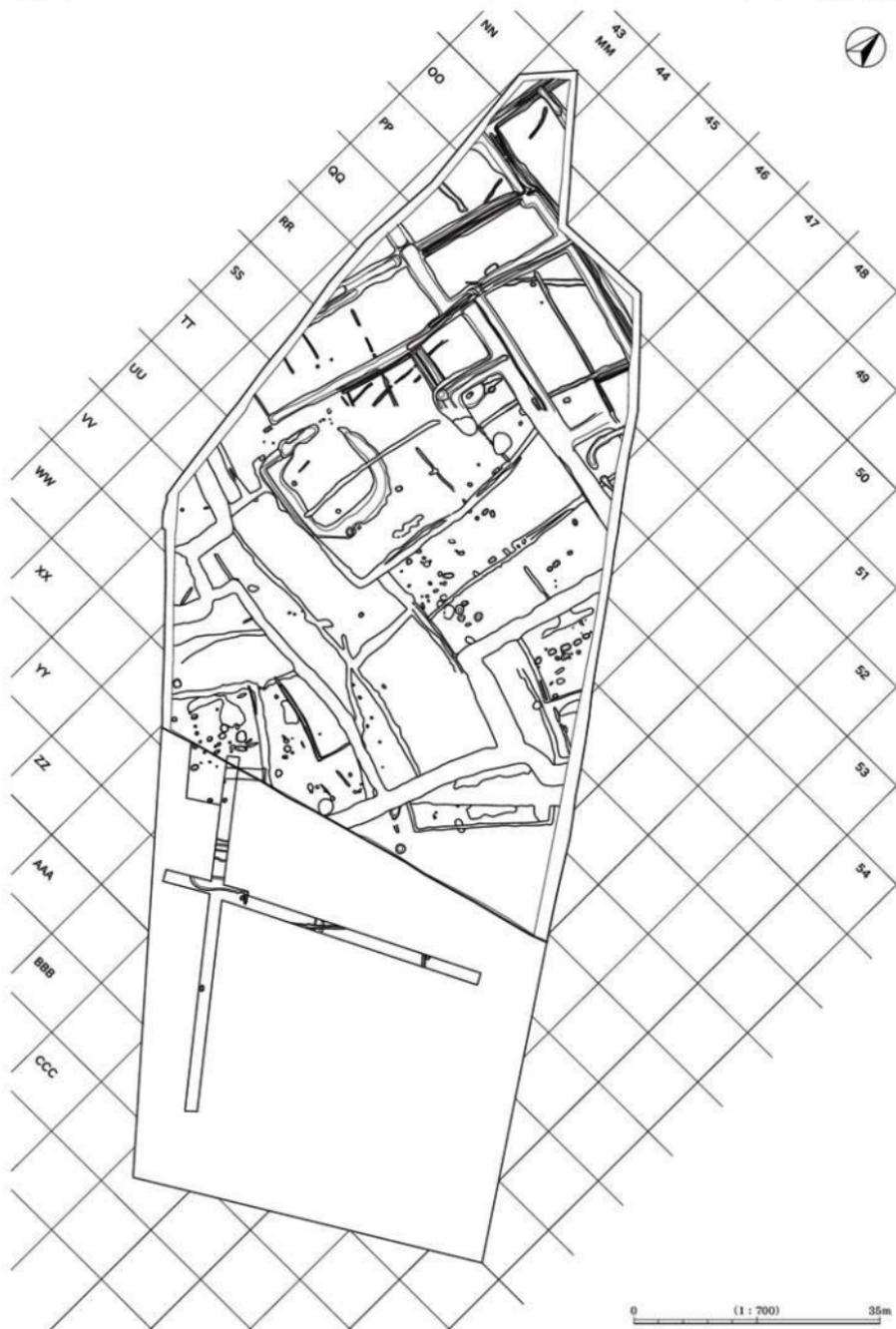
2・3T 土層断面図

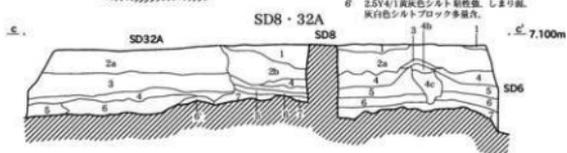
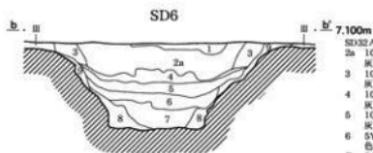
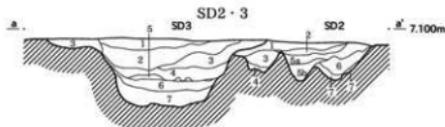
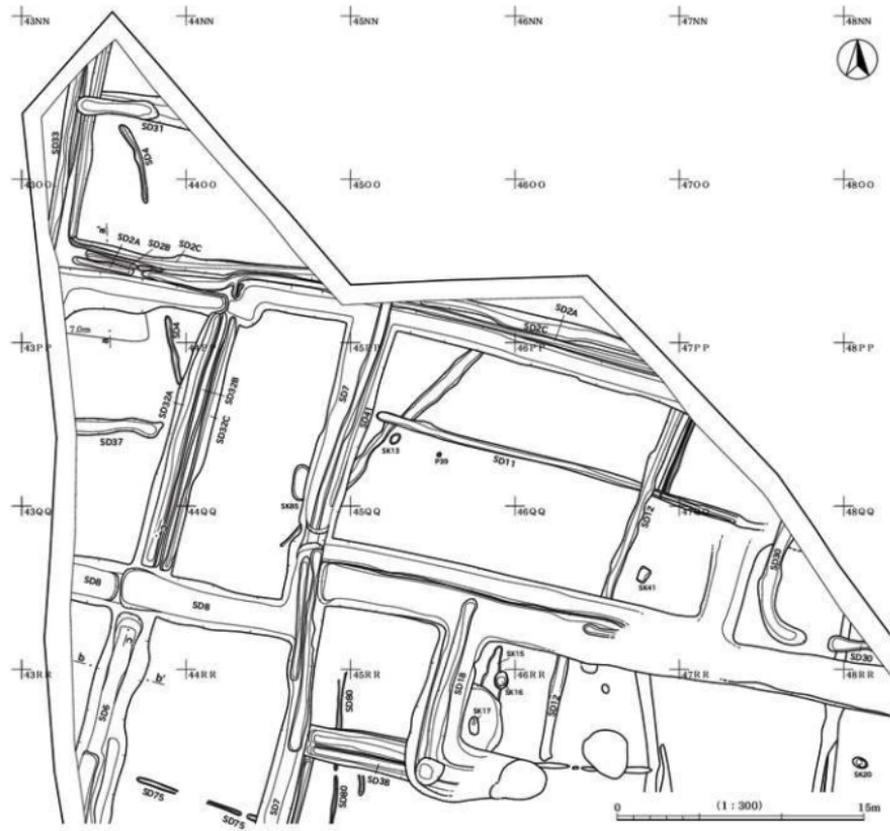


6T 土層堆積断面図







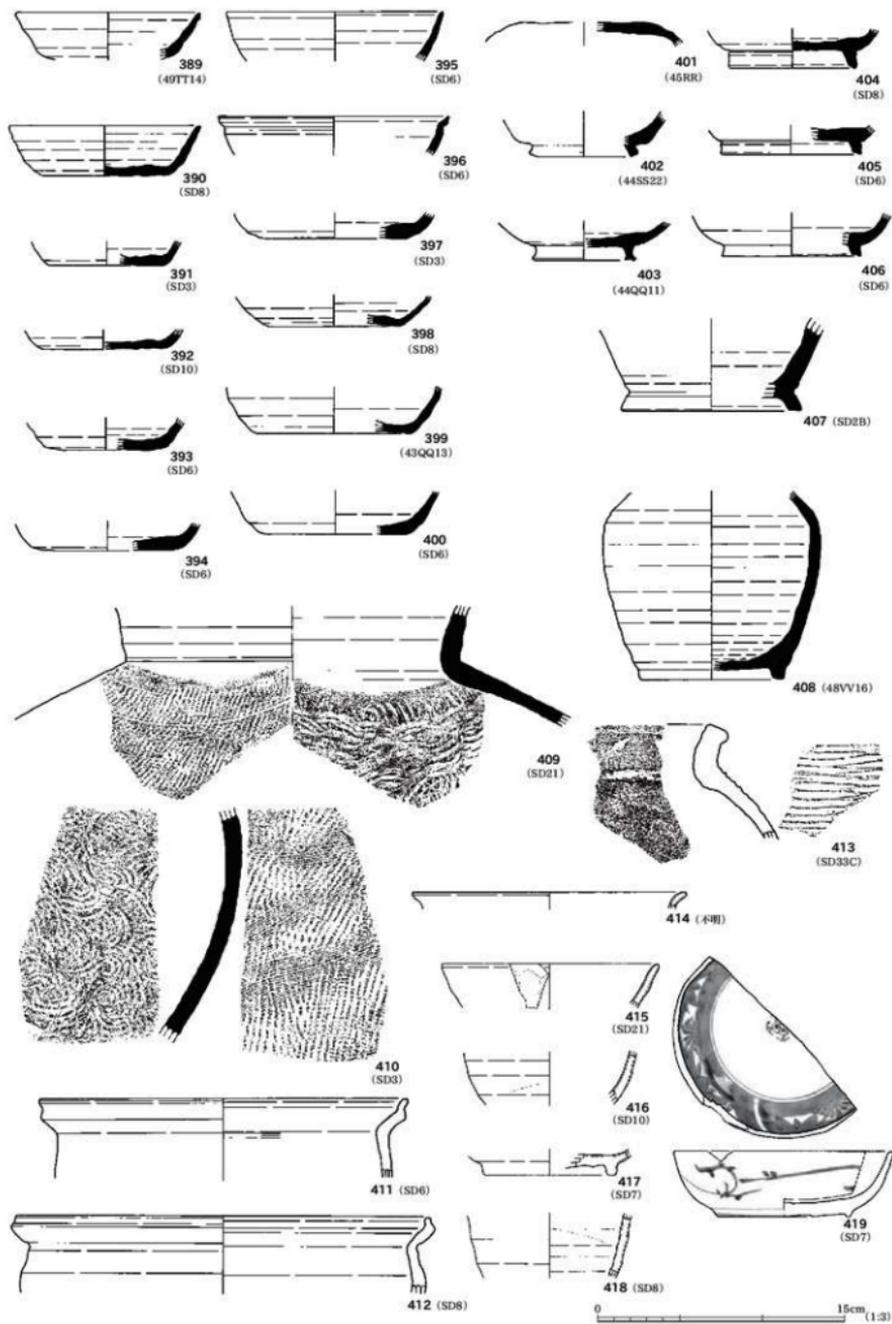


- SD2**
- 1 10YR7/1 灰色シルト 粘り面・しり面。
 - 2 10YR6/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。
 - 3 10YR4/1 褐色シルト 粘り面・しり面。
 - 4 10YR7/1 灰白色シルトと10YR6/1 灰黄色シルトの混在層 粘り面・しり面。
 - 5a 10YR6/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。にかい・黄褐色シルト多量層。
 - 5b 10YR6/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルト多量層。
 - 6 10YR6/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。
 - 7 10YR7/1 灰白色シルトと10YR6/1 灰黄色シルトの混在層 粘り面・しり面。

- SD3**
- 1 2.5Y7/2 浅褐色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルトブロック多量層。
 - 2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルトブロック多量層。
 - 3 2.5Y4/1 黄褐色シルト 粘り面・しり面。
 - 4 5Y4/1 灰色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルトブロック多量層。
 - 5 7.5Y4/1 灰白色シルト 粘り面・しり面。
 - 6 5Y4/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。
 - 7 7.5Y4/1 灰白色シルト 粘り面・しり面。

- SD6・8**
- 1 2.5Y7/2 浅褐色シルト 粘り面・しり面。黒褐色シルトブロック多量層。
 - 2a 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 粘り面・しり面。
 - 2b 10YR6/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルト少量層。
 - 3 2.5Y4/1 黄褐色シルト 粘り面・しり面。灰黄色シルト多量層。
 - 4 5Y4/1 灰色シルト 粘り面・しり面。下面に灰色シルト約2cm程度層がある。4層はしり面。全層しり面。
 - 5 7.5Y4/1 灰白色シルト 粘り面・しり面。下面に灰色シルト多量層。
 - 6 5Y4/1 灰黄色シルト 粘り面・しり面。小粒の灰色シルトブロック多量層。
 - 7 7.5Y4/1 灰白色シルト 粘り面・しり面。大粒の灰色シルトブロック多量層。
 - 8 5Y4/1 灰色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルトブロック多量層に多量層。
 - 9 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 粘り面・しり面。灰白色シルトブロック多量層。

0 (1:60) 3m





A区遠景（南西から）



A区遠景（北東から）



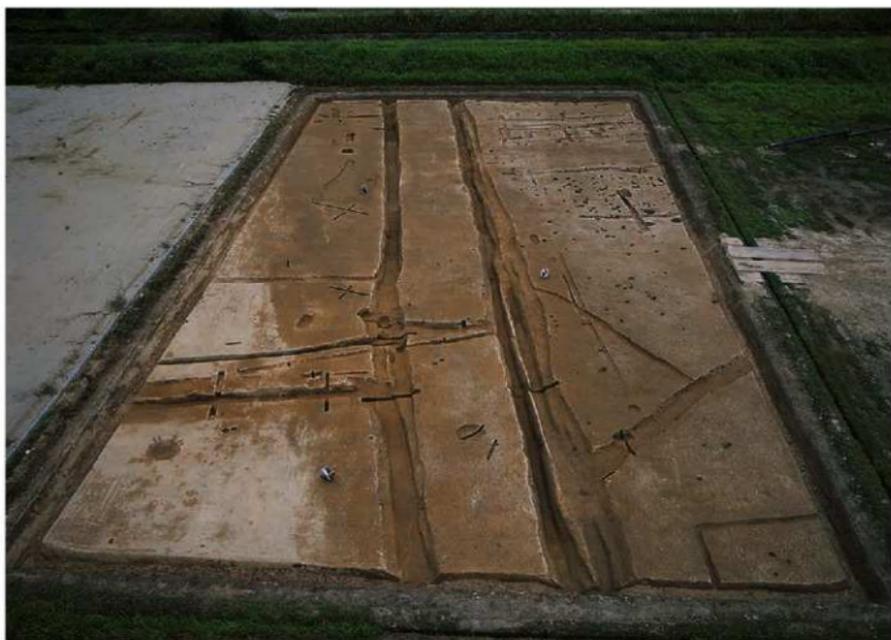
A区 SB1 ~ 5・14・15 完掘 (南東から)



A区 SB2 ~ 5・15 完掘 (南東から)



D区遠景（北西から）



D区全景（南西から）



SE1007 井戸側出土状況 (32CC 南西から)



SE1007 井戸側・曲物出土状況 (32CC 南西から)





SE895 No.200 刻印



SE1007 No.219 刻印



SE1007 No.221 新痕と刻印



SE1007 No.255 刻印



SE895 No.176 新痕



SE895 No.195 加工痕(鉋か)



SE1007 No.241 新痕



SE1007 No.247 新痕



A区 遠景 (南東から)



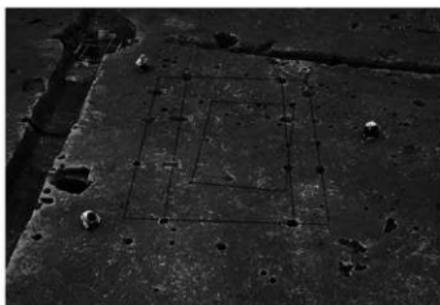
A区 全景 (真上から)



SB1・2・14・15 完掘 (北東から)



SB16～20 完掘 (北東から)



SB1・14 完掘 (南東から)



SB2・15 完掘 (北から)



SB3～5 完掘 (北から)



SB2-P276 セクション (30EE5 東から)



SB6 ~ 11・16 ~ 22・24 発掘 (南西から)



SB8 ~ 12・24・25 発掘 (北西から)



SB9～11・24・25 完掘（南から）



SB12・13・25 完掘（北西から）



SB16～21 完掘（西から）



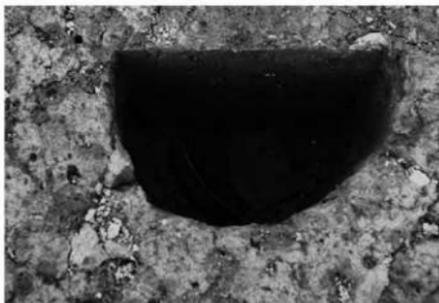
SB19・21 完掘（南西から）



SB16-P1601 セクション（31BB14・15 北東から）



SB23 完掘（南東から）



SB23-P1099 土器出土状況（27DD15 南から）



SE895 セクション (31FF 南から)



SE895 セクション (31FF 東から)



SE895 井戸側出土状況 (31FF 南東から)



SE895-21 層 桧木・隅柱出土状況 (31FF 南西から)



SE895 側板・桧木 (2 段目) 出土状況 (31FF 南東から)



SE895 側板 (2 段目) 出土状況 (31FF 南西から)



SE895 枠木出土状況 (31FF 北西から)



SE895 側板出土状況 (31FF 北東から)



SE895 曲物・鏝出土状況 (31FF 北西から)



SE895 曲物出土状況 (31FF 南東から)



SE1007 セクション (32CC 南から)



SE1007 側板 (3段目) 出土状況 (32CC 西から)



SE1007 桝木・隅柱 (3段目) 出土状況 (32CC 南から)



SE1007 側板 (3段目) 出土状況 (32CC 南西から)



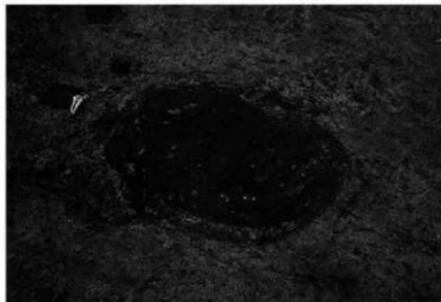
SE1007 桝木出土状況 (32CC 北から)



SE1007 曲物・礎出土状況 (32CC 南西から)



SE1007 曲物出土状況 (32CC 南西から)



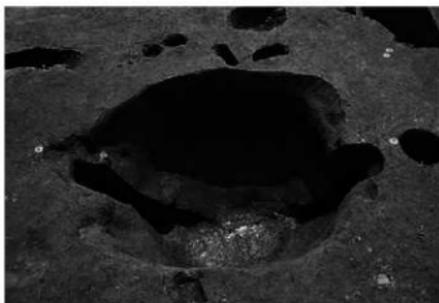
SE102 検出 (32FF 南東から)



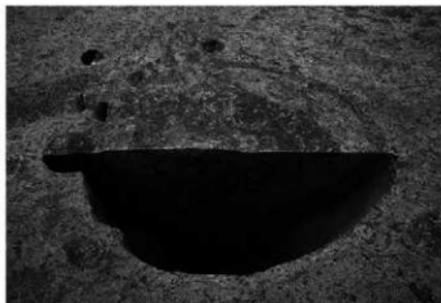
SE102 セクション (32FF 南東から)



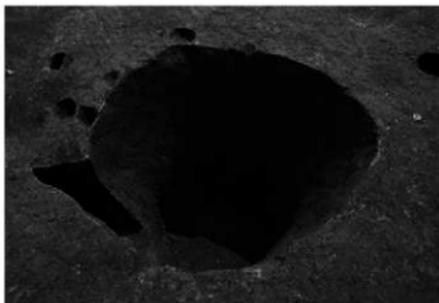
SE164 セクション (30GG 北東から)



SE164 発掘 (30GG 北東から)



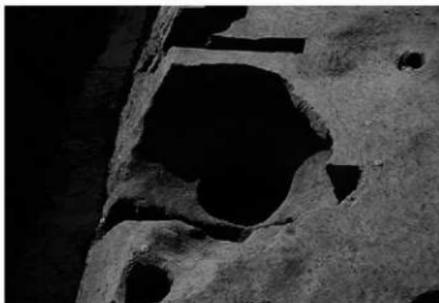
SE165・P337 セクション (30GG 北東から)



SE165 発掘 (30GG 北東から)



SE166 セクション (30GG 南東から)



SE166 発掘 (30GG 南東から)



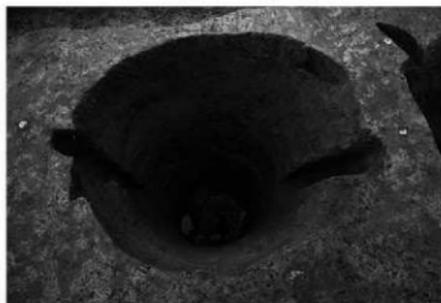
SE169 セクション (30FF 南西から)



SE169 完掘 (30FF 南西から)



SE232 セクション (30EE 北東から)



SE232 鑿出土状況 (30EE 北東から)



SE232 鑿出土状況 (30EE 南から)



SE233 セクション (30EE 東から)



SE233 土器出土状況 (30EE 東から)



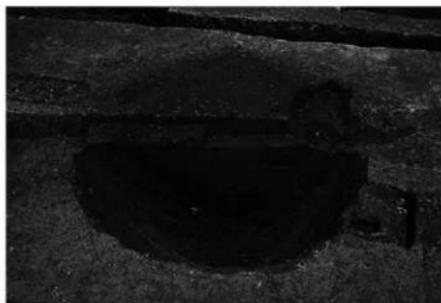
SE233 完掘 (30EE 東から)



SE317 セクション (31DD 南から)



SE317 完掘 (31DD 南西から)



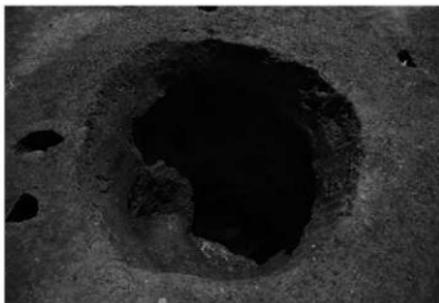
SE367 セクション (30CC 南から)



SE367 完掘 (30CC 南から)



SE401 セクション (29AA・29Z 南東から)



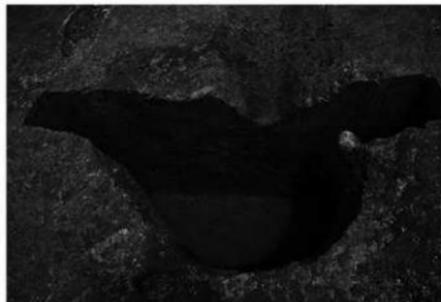
SE401 円形板出土状況 (29AA 北から)



SE402 セクション (28・29AA 東から)



SE402 円形板出土状況 (28・29AA 東から)



SE1157 セクション (27DD 南西から)



SE1212 セクション (27・28BB 南から)



SE1212 セクション (27・28BB 南から)



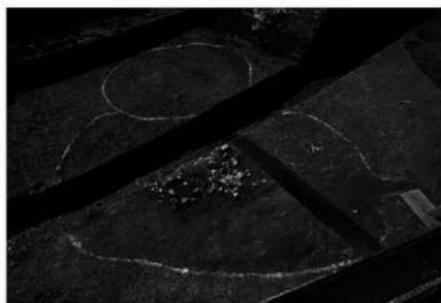
SE1212 概況出土状況 (27・28BB 南から)



SE1329 セクション (27AA 南東から)



SE1329 曲物出土状況 (27AA 南東から)



SK1328 検出状況 (27AA・BB 南東から)



SK1328 セクション (27AA・BB 南東から)



30～31FF～GG グリッド 完掘 (東から)



SK167 セクション (30FF 南東から)



SK168 (左)・P1823 (右) セクション (29FF 南東から)



SK172 セクション (32EE 東から)



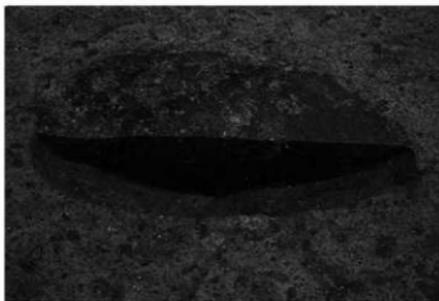
SK208 セクション (31・32EE 南西から)



SK209 (右)・P453 (左) セクション (31DD 南西から)



SK229 セクション (29EE 南西から)



SK237 セクション (32DD 南から)



SK240 (右)・SD371 (左) セクション (31FF 南東から)



SK270 セクション (30DD 南から)



SK298 セクション (30・31DD 南東から)



SK298 出土状況 (30・31DD 南東から)



SK314 セクション (31・32DD 南西から)



SK314 土器出土状況 (31・32DD 南西から)



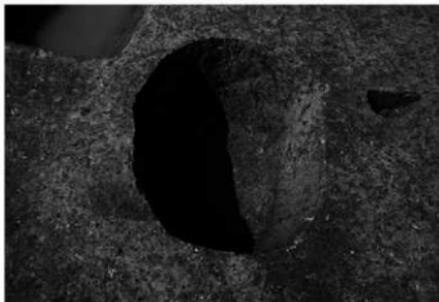
SK338 セクション (30EE 南東から)



SK358 セクション (29CC 南から)



SK359 セクション (28CC 南から)



SK359 発掘 (28CC 南西から)



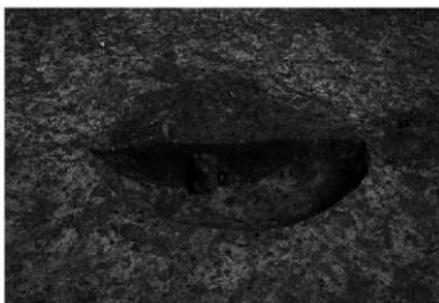
SK363 セクション (28CC 南から)



SK363 発掘 (28CC 南から)



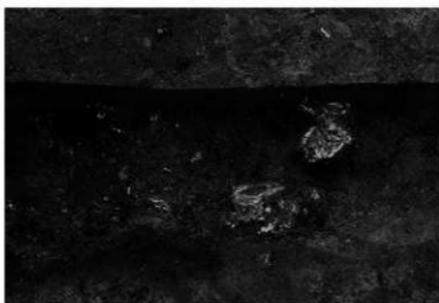
SK403 セクション (28BB 西から)



SK409 セクション (29・30AA 南東から)



SK417 セクション (28BB 東から)



SK417 骨片出土状況 (東から)



SK896 セクション (30GG 南西から)



SK973 セクション (31CC 南西から)



SK1222 セクション (31BB 南西から)



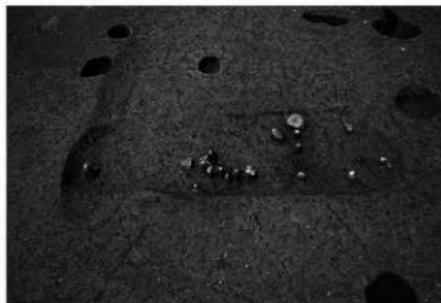
SK1245 セクション (30Z 南西から)



SK1321 セクション (28AA 南から)



SK1685 セクション (27Y 南西から)



SK1872 出土状況 (31BB 南東から)



SK1888 セクション (30GG 南東から)



SD101・239・371 完掘 (東から)



SD101・371 完掘 (北東から)



SD101 テラス部分 (29・30EE・FF 南東から)



SD101 屈曲部検出状況 (34FF・GG 南から)



SD101 遺物出土状況 (29・30EE・FF 東から)



SD239 遺物出土状況 (北から)



SD1613 完掘 (北東から)



SD1613 テラス部分 (30Z 南西から)



SD101 セクション (32FF 東から)



SD101 セクション (30EE・FF 東から)



SD101 セクション (29EE 東から)



SD239 セクション (31EE 南から)



SD362 セクション (30CC 東から)



SD366 セクション (28DD 南から)



SD371 セクション (28EE 東から)



SD773 セクション (308B 東から)



SD780 セクション (30CC 東から)



SD978 セクション (31CC 東から)



SD1037 セクション (32DD 南東から)



SD1042 セクション (32CC・DD 北から)



SD1110 セクション (28DD 南から)



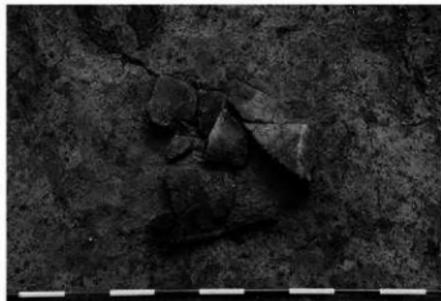
SD1207 セクション (28AA 南東から)



SD1613 セクション (29Z・AA 南西から)



SD1665 セクション (28X 南西から)



SX129 縄文土器出土状況 (30FF 東から)



SS1864 雑出土状況 (30BB 北東から)



SD1320 セクション (27CC 北から)



SR1327 セクション (27BB 東から)



SR1327 セクション (29Y 南西から)



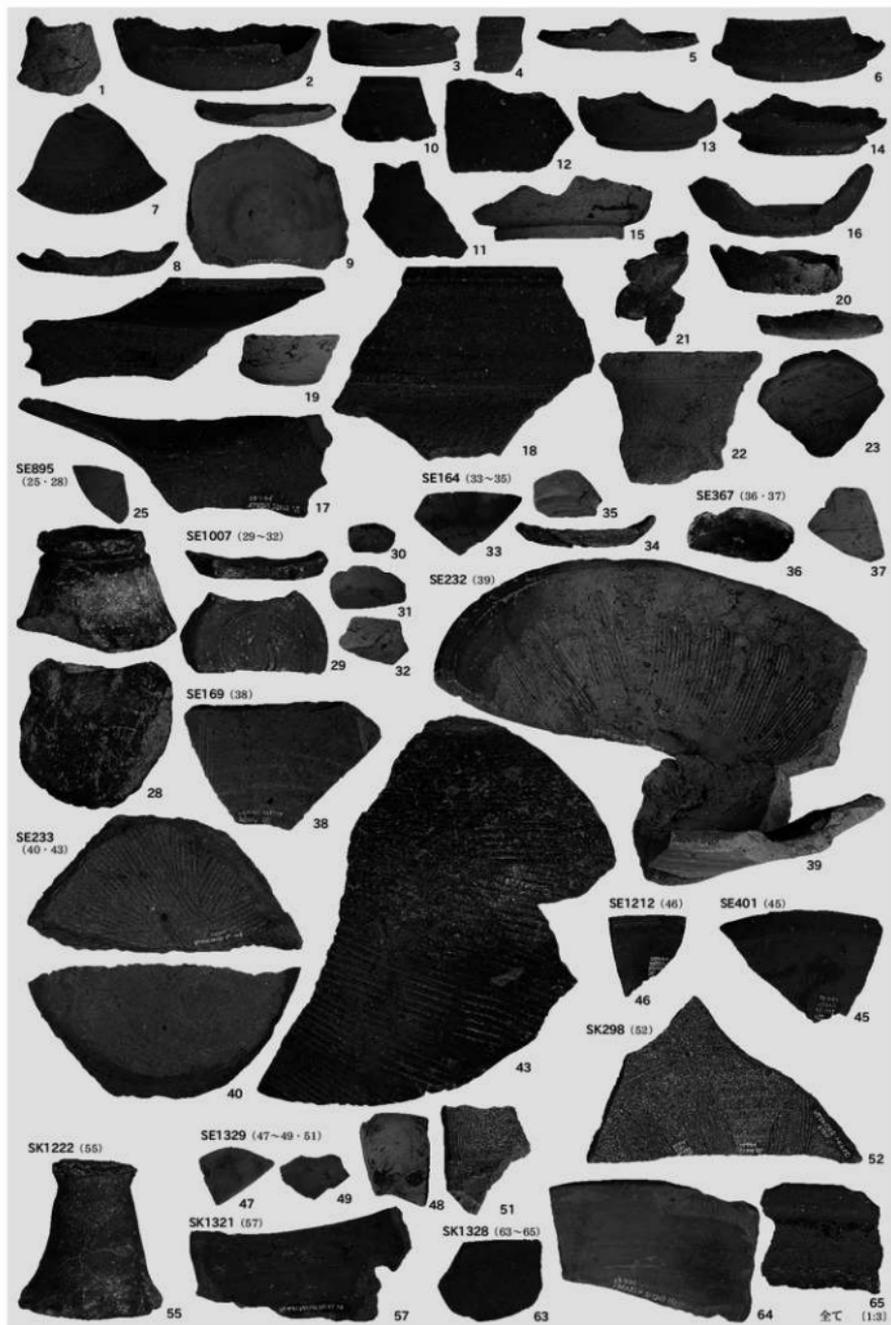
SR1327B セクション (3T 南から)

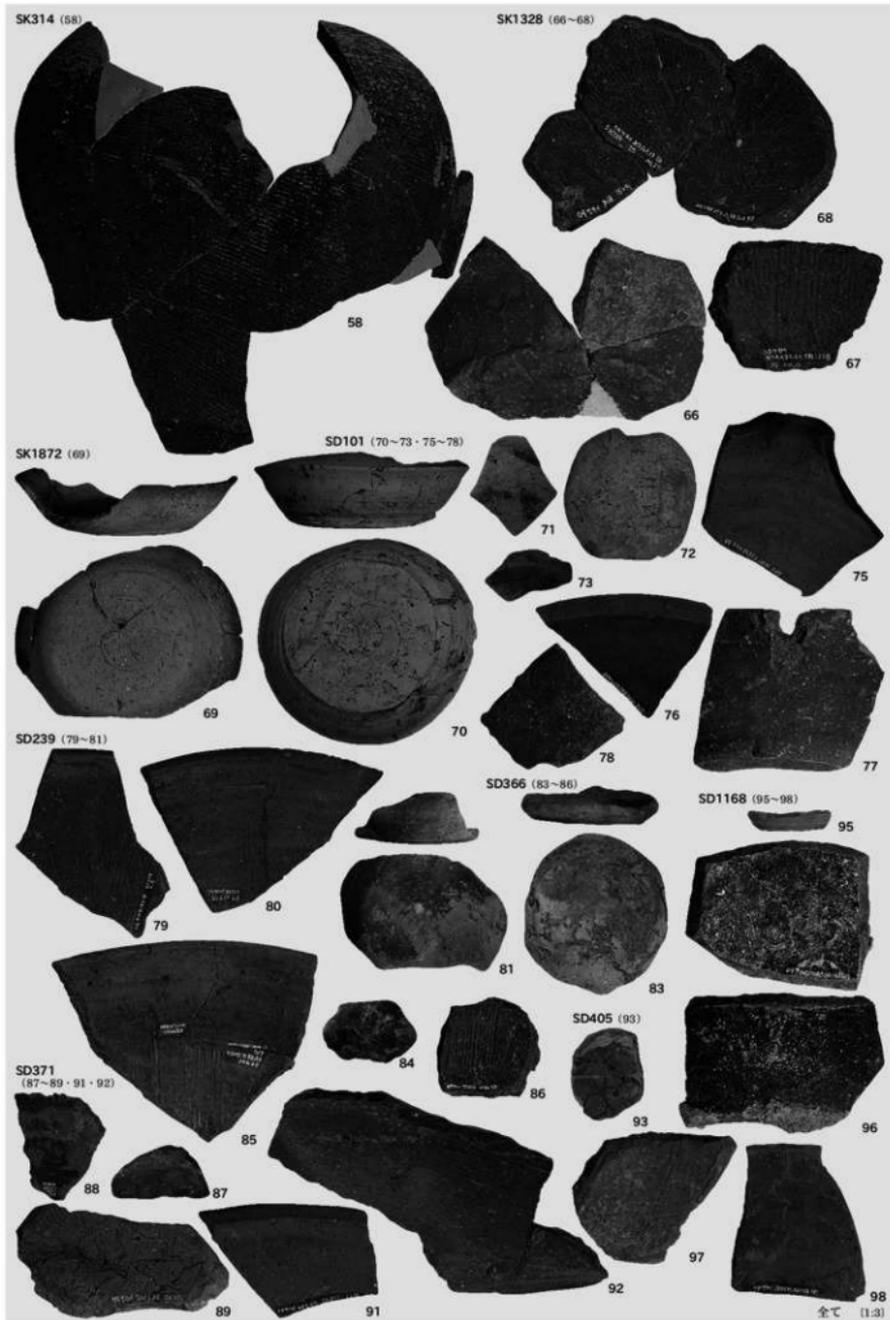


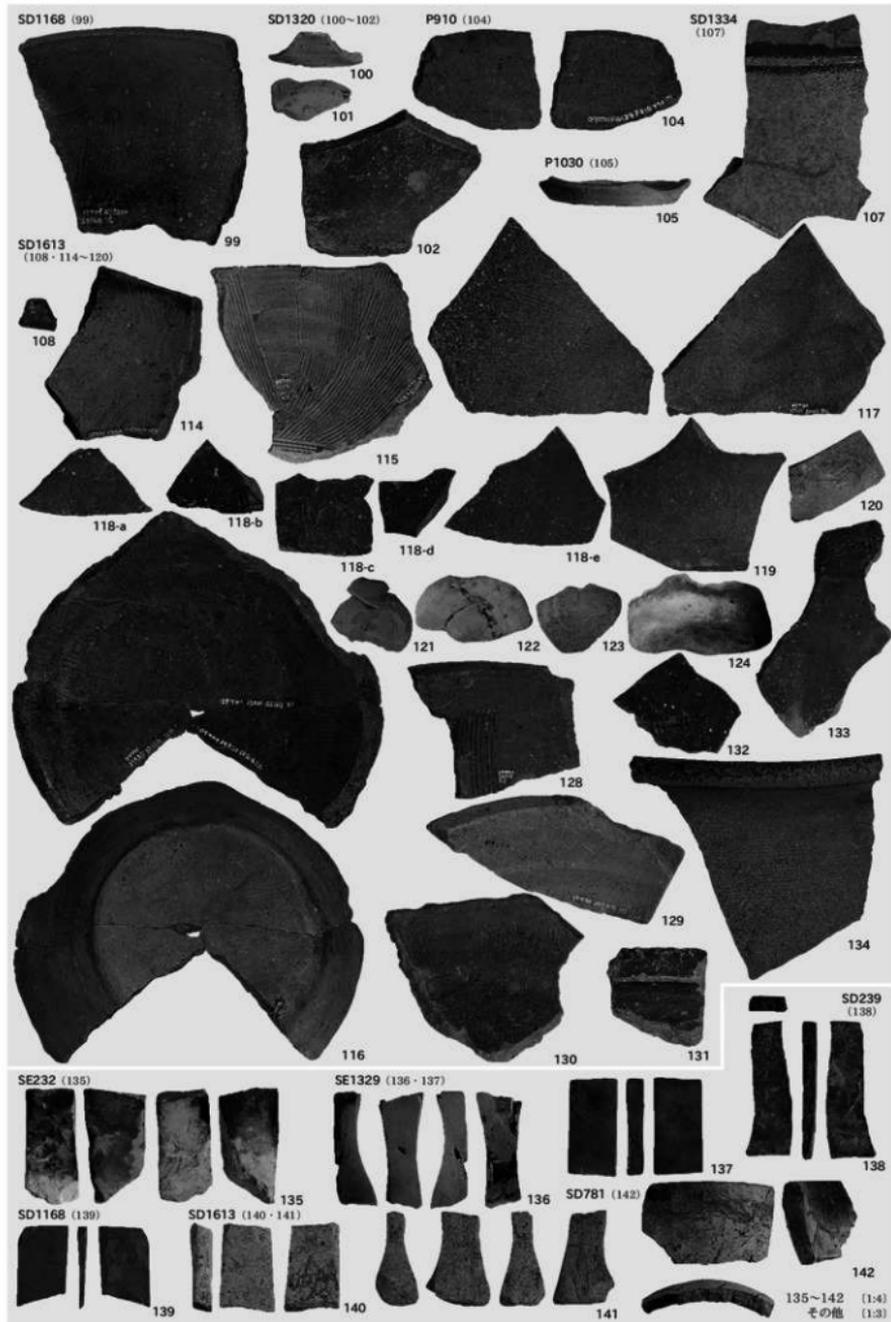
SR1327C セクション (2T 南から)

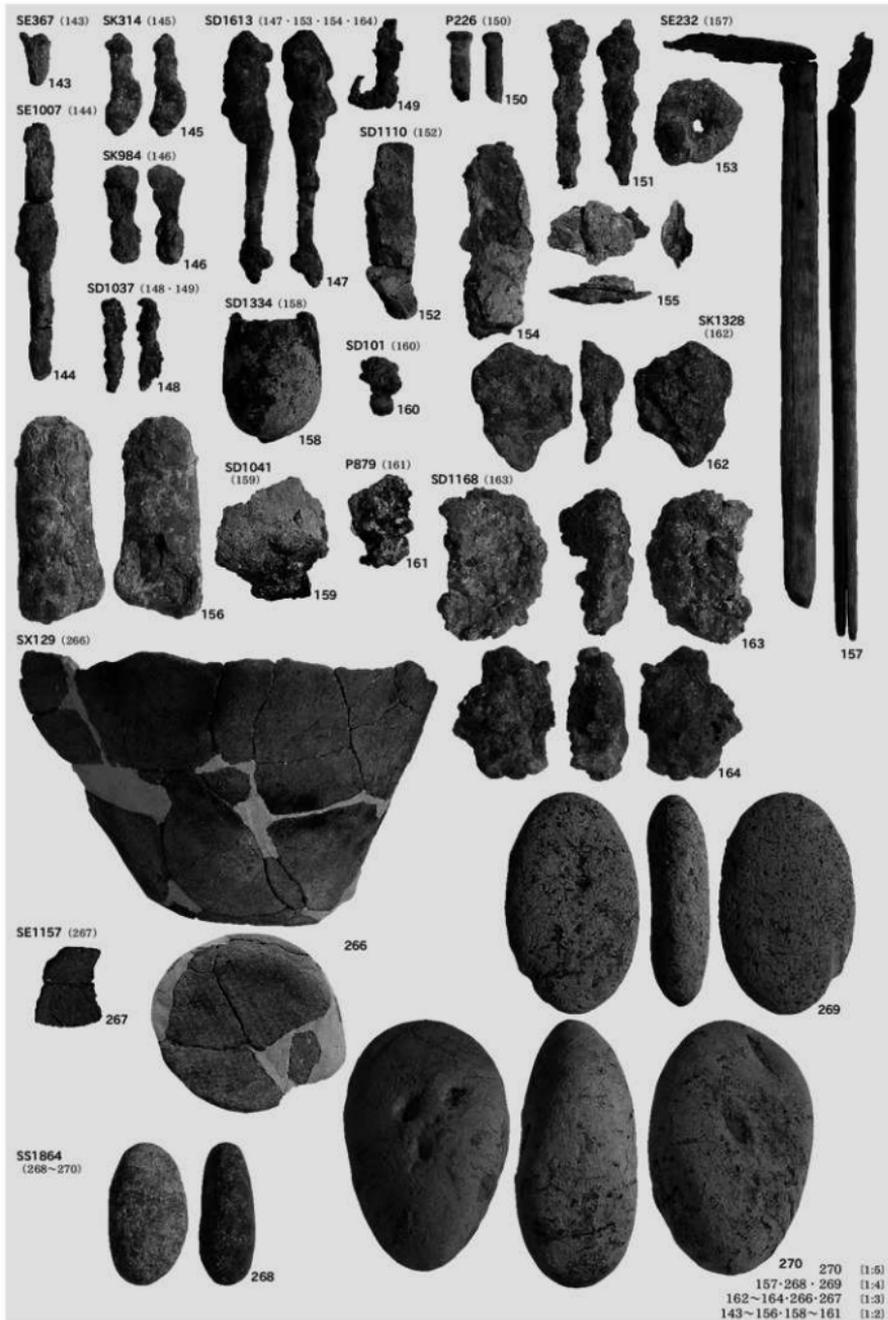


SR1327D セクション (7T 北東から)

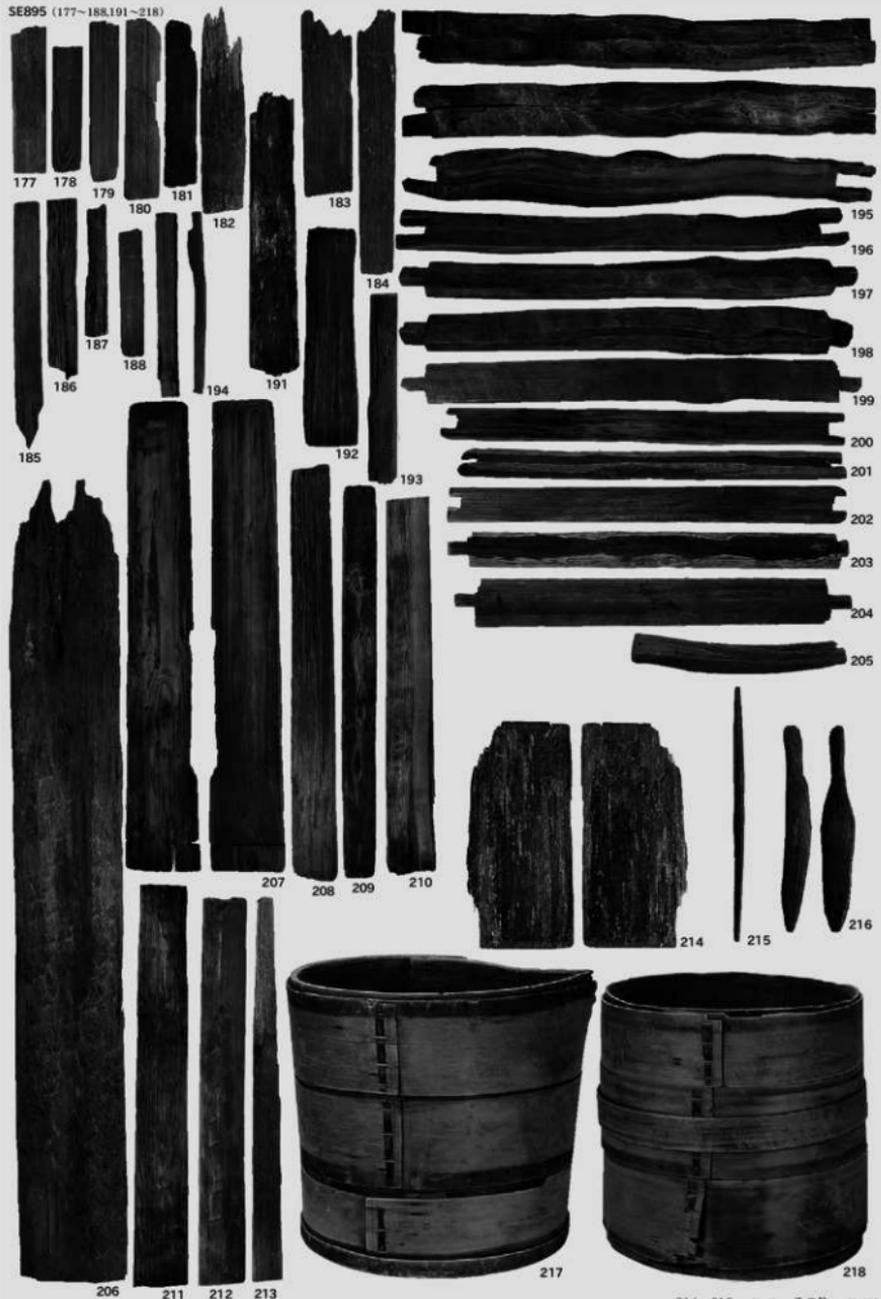




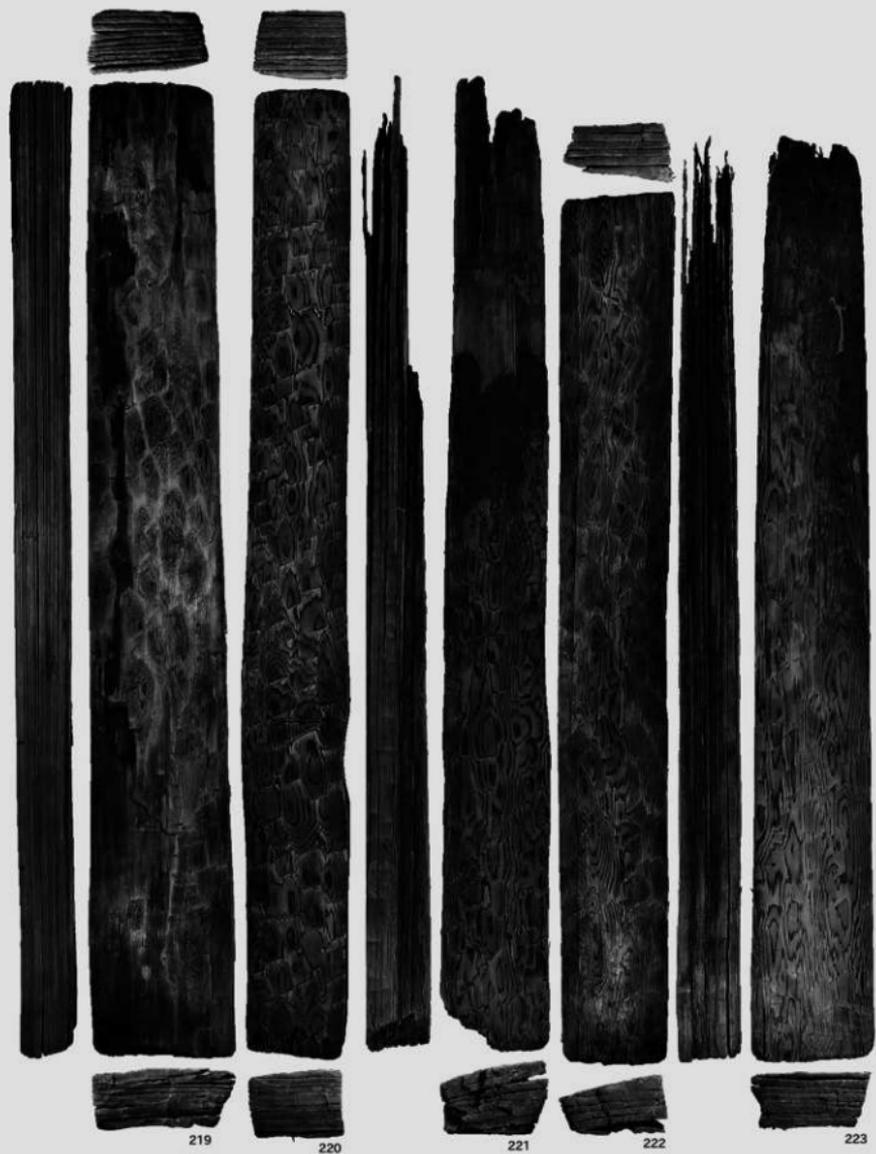




SE895 (177~188,191~218)



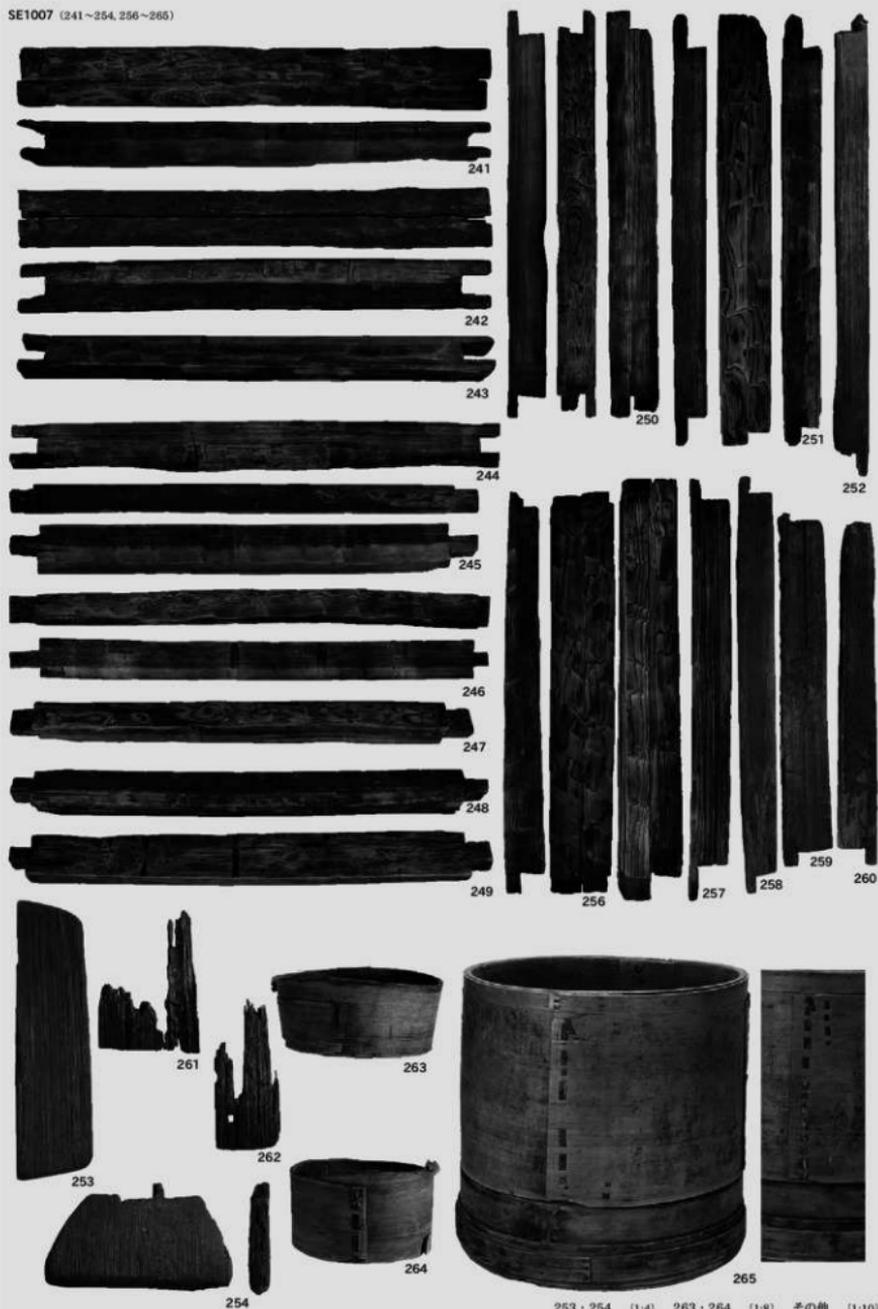
SE1007 (219~223)



SE1007 (224~239,255) 出土位置不明 (240)



SE1007 (241~254, 256~265)



253・254 (1:4) 263・264 (1:8) その他 (1:10)



D区 全景 (南東から)



D区 全景 (南西から)



SB26～29 完掘 (北西から)



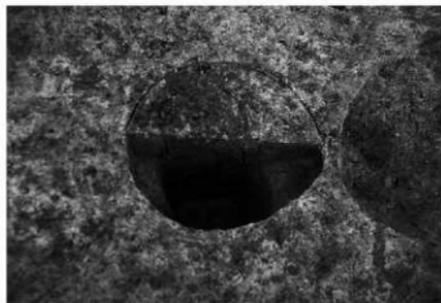
SB26～29 完掘 (南東から)



SB26-P2156 (左)・SD2132 (右) セクション (12K9 南東から)



SB28-P2139 セクション (12J25 南東から)



SB29-P2205 セクション (13K6 南東から)



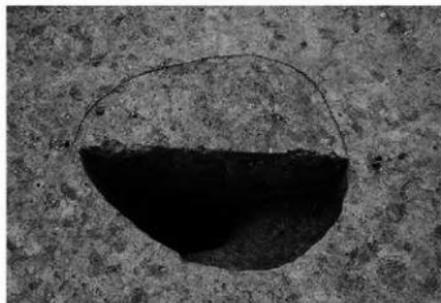
SB30～34 完圖 (北西から)



SB30～32 完圖 (南東から)



SB31-P2074 (左)・SD2020 (右) セクション (13116 北西から)



SB34-P2026 セクション (1413 東から)



SB33・34-P2023 (右)・P2440 (左) セクション (14113 南から)



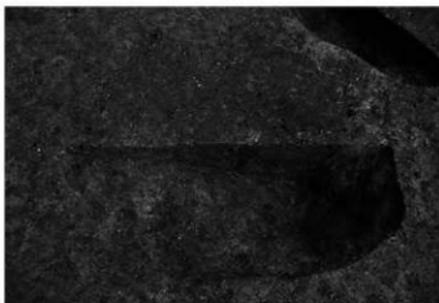
SE2005 セクション (12・13K 南東から)



SE2238 セクション (12・13K 北東から)



SK2038 横出状況 (14I 南東から)



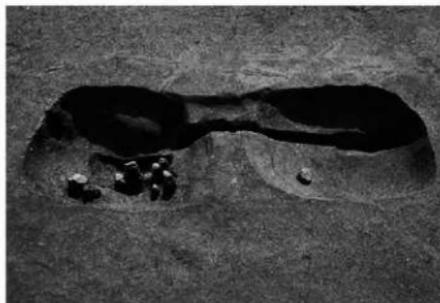
SK2042 セクション (14J 南から)



SK2043 セクション (14J 南から)



SK2046 セクション (14J 北東から)



SK2136 (右)・2093 (左) セクション (12H 北西から)



SK2093 骨片出土状況 (中央付近・北西から)



SK2113 (左)・SD2114 (右) セクション (13K 北東から)



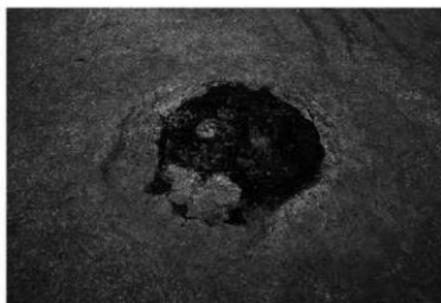
SK2113 完掘 (13K 北東から)



SK2312 (左)・SD2295 (右) セクション (10L 北西から)



SK2312 完掘 (10L 北から)



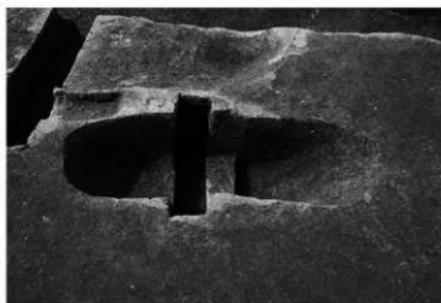
SK2336 検出状況 (9K 東から)



SK2336 セクション (9K 東から)



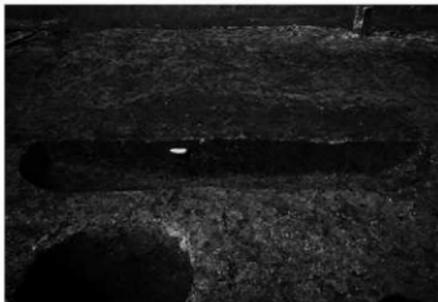
SK2346 セクション (9・10K 南東から)



SK2346 完掘 (9・10K 北東から)



SK2359 セクション (10J 南東から)



SK2420 セクション (11・12K 南東から)



SK2425 セクション (12H 北西から)



SK2432 (右)・SD2012 (左) セクション (14I 南から)



SK2434 セクション (13J・K 南西から)



SK2435 (左)・2436 (右) セクション (14I 北東から)



SK2437 (左)・SD2030 (右) セクション (13I 北東から)



SK2438 完掘 (12K 北西から)



13・14I・Jグリッド 完掘 (南から)



12・13Kグリッド 完掘 (南東から)



13Jグリッド 完掘 (南東から)



SD2295 完掘 (10・11L 東から)



SD2002 セクション (12H 南東から)



SD2010 セクション・検出土状況 (14I 南西から)



SD2012 セクション (14I 南東から)



SD2031 セクション (13I 南西から)



SD2110 出土状況 (13J 北東から)



SD2110 (左)・2111 (右) セクション (13J 南東から)



SD2295 セクション (11L 東から)



SD2319 セクション (12J 南東から)



道1 遺構 (北東から)



道2 完照 (南東から)



道1 礎出土状況 (南西から)



SX2115 骨片出土状況 (13H 南東から)



道1(右)・道2(左) セクション(9・10K 南西から)



道2(SD2334) セクション(9J・K 南東から)



道1(SD2000A) セクション(11J 南東から)



道1(SD2000A・2000B) セクション(9L 南西から)



道1 セクション・五輪塔出土状況(13H 北東から)



道1 セクション(11・12J 南西から)



道1 セクション(10・11L 南西から)



道1 推定延長(調査範囲の南西側水田 北から)



1T セクション (西から)



2T セクション (南西から)



3T セクション (南西から)



下層調査 作業風景



6T セクション (南東から)



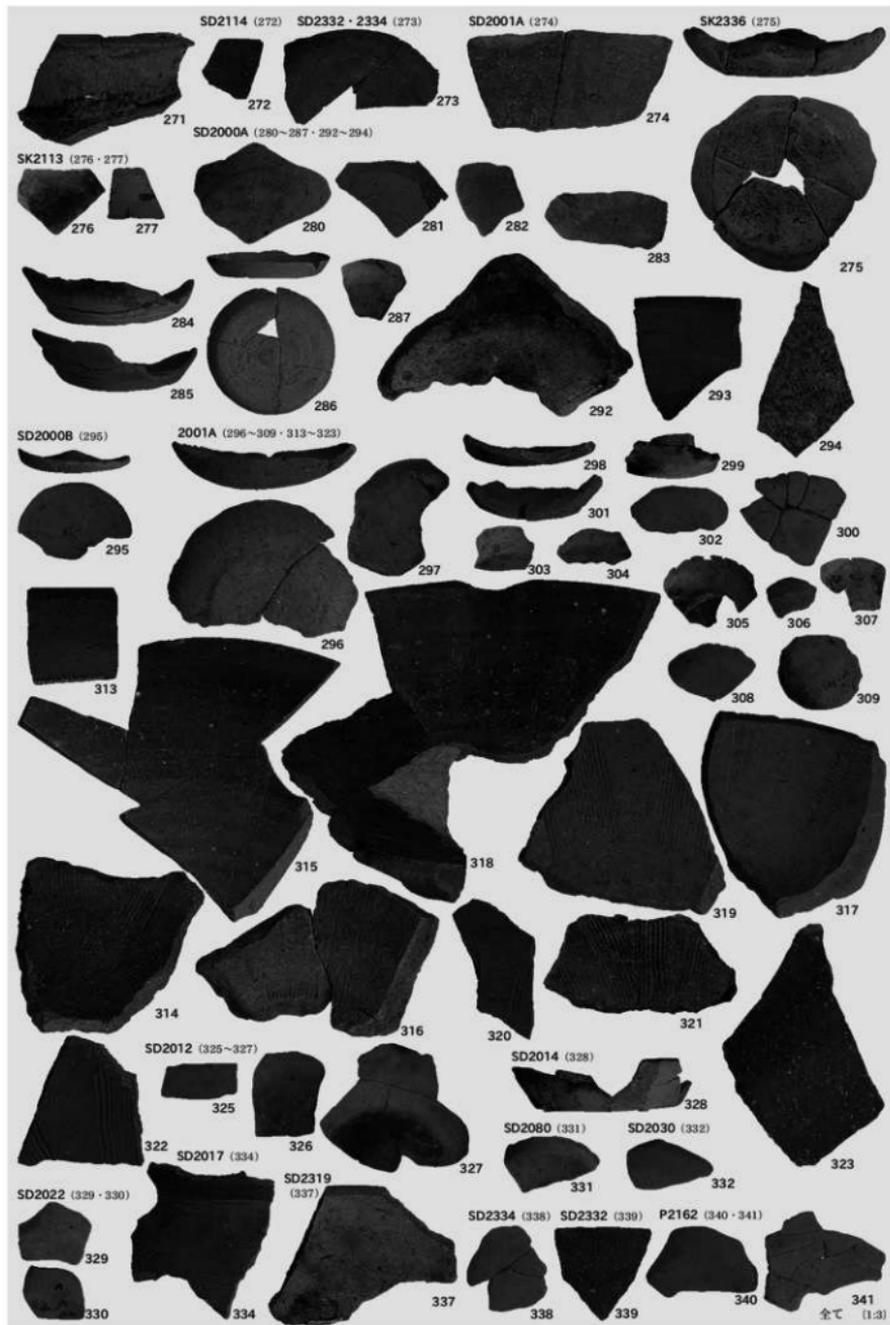
6T 純文土器出土状況 (南から)

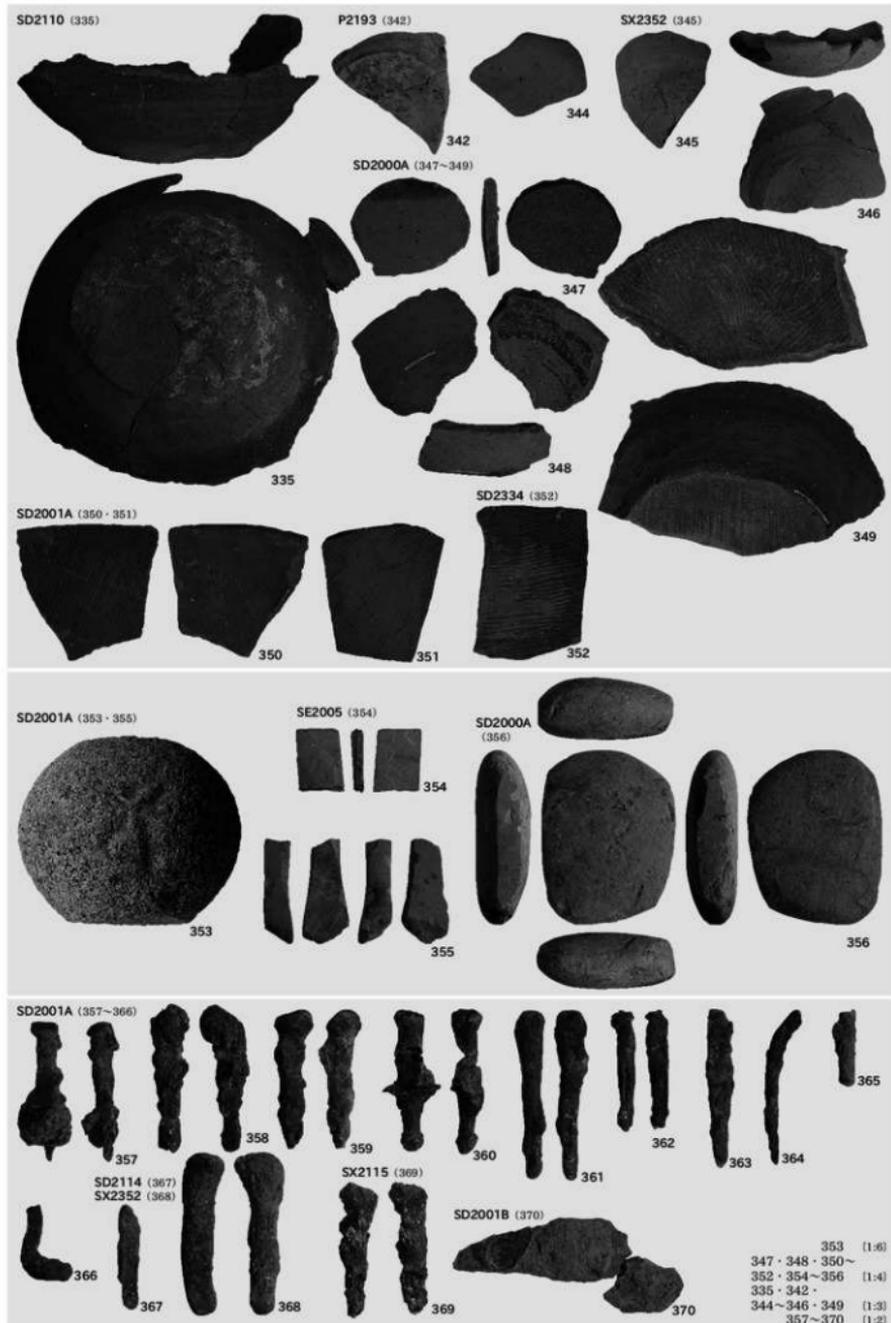


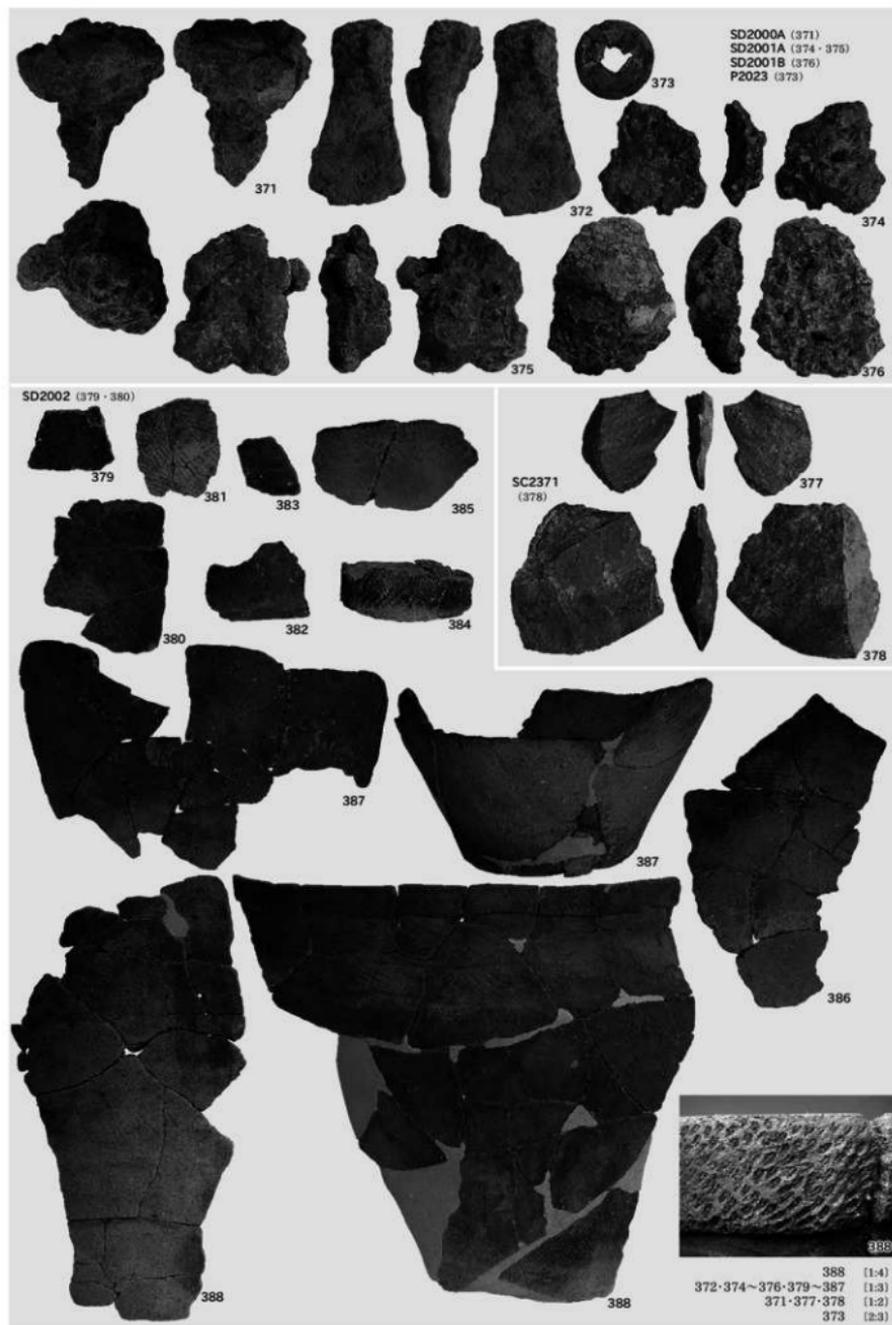
6T セクション・純文土器出土状況 (南東から)



SC2371 検出状況 (12H 南東から)









B区 全景 (北から)



B区 完掘 (43~47QQ 西から)



SD6 セクション (43QQ・RR 南西から)



SD6・32 セクション (43QQ 西から)



SD2・3 完掘 (43~46OO 西から)



作業風景



SD7 陶磁器出土状況 (44PP 南西から)



須恵器出土状況 (48VV Va層 南から)



B区 下層確認調査 2Tセクション (東から)



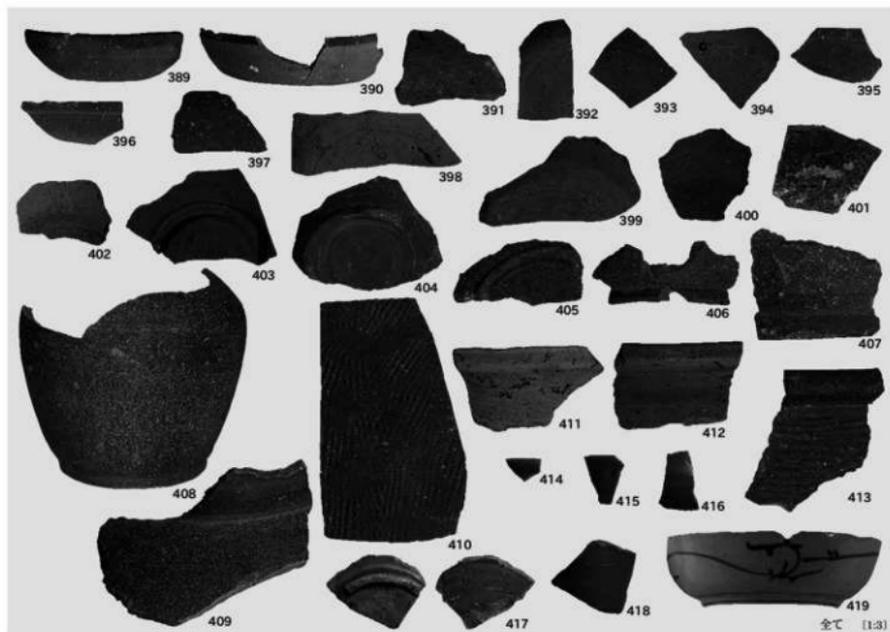
B区 下層確認調査 8Tセクション (南から)



C区 確認調査 10T作業風景 (東から)



C区 確認調査 10T清検出状況 (東から)



全て 1:3

報告書抄録

ふりがな	さかいづかいせき						
書名	境塚遺跡						
副書名	一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書						
巻次	V						
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第232集						
編者名	荒川隆史(埋文事業団)、村上章久・安西雅希・高橋 均(以上、株式会社帆苜組)、小林克也・藤根久・中村賢太郎・伊藤 茂・尾崎大真・丹生越子・廣田正史・小林紘一・ZaurLomtadize・InezaJorjollani(以上、株式会社ハレオ・ラボ)、光谷拓実(総合地球環境学研究所 奈良文化財研究所)、木村勝彦・荒木里葉(福島大学共生システム理工学類)						
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1 TEL. 0250(25)3981						
発行機関	新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団						
発行年月日	西暦2012(平成24)年3月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
境塚遺跡	新潟県阿賀野市 大字百津字境塚 16番地1ほか	152234 401	37°49'31" ? 37°49'48"	139°12'30" ? 139°12'49"	20090413 20091108	18,176m ²	一般国道49号 阿賀野バイパス 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
境塚遺跡 集落跡	集落跡	縄文時代(晩期)		焼土・炭化物集積範囲6か所		縄文土器・石器	川辺の集落。
		平安時代		掘立柱建物1棟		土師器・須恵器	
		鎌倉・室町時代		掘立柱建物33棟、井戸19基、土坑108基、溝81条、道2条、性格不明遺構5基、ビット1,336基		土師質土器・中世陶器・金属製品・石製品・木製品	堀と深さ約5mの大形井戸を持つ区画。幅約6mの道を検出。

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集			
一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書V			
境 塚 遺 跡			
2012(平成24)年3月29日印刷	編集・発行	新潟県教育委員会	
2012(平成24)年3月30日発行		〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 電話 025(285)5511	
		財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団	
		〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 電話 0250(25)3981 FAX 0250(25)3986	
	印刷・製本	新高速印刷株式会社	
		〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1番25号 電話 025(285)3311	

新潟県埋蔵文化財調査報告書第232集 境塚遺跡正訳表

ページ	範囲	訳	正																																																		
5	15行目	43m×0.21m	0.43m×0.22m																																																		
7	13行目	平成22年度	2010年度																																																		
7	14行目	平成23年度	2011年度																																																		
14	3行目 (第6回)		(第7回)																																																		
14	9行目	〔古沢2005〕	〔古澤2005〕																																																		
15	4行目	〔小田2000〕	〔小田2001〕																																																		
16	14行目	北西隅を1, 南西隅を25	北西隅を1, 南東隅を25																																																		
16	第9回 ホグリッドの呼称	<table border="1"> <tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>6</td></tr> <tr><td>15</td><td>13</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td></tr> <tr><td>20</td><td>19</td><td>18</td><td>17</td><td>16</td></tr> <tr><td>25</td><td>24</td><td>23</td><td>22</td><td>21</td></tr> </table>	5	4	3	2	1	10	9	8	7	6	15	13	13	12	11	20	19	18	17	16	25	24	23	22	21	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
5	4	3	2	1																																																	
10	9	8	7	6																																																	
15	13	13	12	11																																																	
20	19	18	17	16																																																	
25	24	23	22	21																																																	
1	2	3	4	5																																																	
6	7	8	9	10																																																	
11	12	13	14	15																																																	
16	17	18	19	20																																																	
21	22	23	24	25																																																	
19	31行目	「by」	「φ」																																																		
19	33行目	「by」	「φ」																																																		
22	第11回断面形態の分類	風状	塚状																																																		
24	13行目	SB278	SB371																																																		
24	17行目	SB278	SB371																																																		
24	21行目	SB278	SB371																																																		
25	4行目	3.54	3.54m																																																		
25	24行目	SB16・18	SB16・17																																																		
25	28行目	SB19・22	SB19・21																																																		
26	25行目	1～33層	1～29層																																																		
26	29行目	32・33層	29・30層																																																		
26	29行目	32層には	29層には																																																		
26	30行目	30・31層	31・32層																																																		
26	30行目	30層にも	31層にも																																																		
27～28	37行目～4行目	覆土は、1～3層が…起こったことを示している。	(文章削除)																																																		
29	8行目	4～15層	5～15層																																																		
30	5行目	(図版24～28・83～87)	(図版24～28・83～87)																																																		
32	27行目	上層主軸長	上層主軸長																																																		
33	8行目	集中にせず	集中せず																																																		
33	12行目	上層主軸長	上層主軸長																																																		
43	35行目	珠洲焼片口鉢 (40)	珠洲焼片口鉢 (46)																																																		
51	19行目	加工と凸加工。	加工と凸加工。																																																		
55	5行目	(図版27)	(図版47)																																																		
57	15行目	上層主軸長	上層主軸長																																																		
59	7行目	(図版53～55・107～108)	(図版53～55・106～108)																																																		
62	8行目	青磁杯	青磁盤																																																		
62	10行目	青磁椀・杯	青磁椀・杯・盤																																																		
66	20行目	青磁杯	青磁盤																																																		
73	2行目	(図版64～66)	(図版64・65)																																																		
78	第10表	報告No. 254 板材	報告No. 254 下駄																																																		
78	第10表	報告No. 257 朽木	報告No. 257 陶柱																																																		
78	第10表	報告No. 251 朽木	報告No. 251 陶柱																																																		
92	第18表	報告No. 259 角柱	報告No. 259 陶柱																																																		
92	第18表	報告No. 250 朽木	報告No. 250 陶柱																																																		
92	第18表	報告No. 204 板目割板	報告No. 204 朽木																																																		
90	7行目	No. 688	No. 685																																																		
90	27行目	表1	第18表																																																		
102	4行目	縦板組支柱横棧留型	縦板組陶柱横棧留型																																																		
108	24行目	佐久間1953.	佐久間1985																																																		
113	29行目	村前東A・B遺跡	村前東A遺跡																																																		
118	35行目	「新発田郷土史」	「新発田郷土誌」																																																		
139	観察表	報告No. 197 板目	報告No. 197 板目																																																		
146	炭化物集中範囲観察表	遺構No. 2429・2430の検出層位 \$b\phi\$	遺構No. 2429・2430の検出層位 \$b\phi\$																																																		
図版15		SE895平面図のグリッド表記 27FF14	SE895平面図のグリッド表記 27FF14																																																		
115	29行目	村前東A・B遺跡	村前東A遺跡																																																		